4・6・8!! まがいものはどれだ!?

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

紙のプロレス RADICAL

68
2003

PRIDE火山、大噴火!!
11・9から大晦日スペシャル決戦へ——!!
ド肝を抜くインタビュー連発ッ!!

桜庭和志
アントニオ・R・ノゲイラ
ヴァンダレイ・シウバ
髙田延彦 統括本部長
エメリヤーエンコ・ヒョードル

堀辺正史・骨法創始師範が『PRIDE・GP』を青春の大総括!!

曙とは何者か!?
瞬間最高視聴率はこの男に軍配!?

アントン総帥の秘策は何か?
『猪木祭り』の動向を極秘キャッチ&大追跡!!

オブリガード!!

人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!!

白黒ハッキリ決めようやーッ!!

王者・ノゲイラの、ミルコ戦で着用したスパッツを『紙プロ』読者にプレゼント!!

1・4、史上最大の"松の内興行戦争"ボッ発!!
『W-0』(仮称)はプロレス界を変えるか!?

12・14両国、そして1・4に向け爆走!!
独占スクープ対談、実現!!
橋本真也×哀川翔

紙のプロレス RADICAL NO. 68
まがいものはどれだ——!!
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

“携帯サイト”の中の“携帯サイト”

MMA & PRO-WRESTLING SITE

紙のプロレス Hand

に

決めようや!!

大晦日の“三つ巴格闘技戦”最新情報他、ニュース&メルマガ&コラムを毎日配信!!
この超強力メニューに加え、ショッピングコーナーもOPENしてさらにパワーアップ!!
大人気のヒョードルTシャツ他、『紙プロ』グッズが携帯から買えちゃう!!
その上注目大会のチケットも予約できる!!
もちろん待画&着メロも好評配信中!!　ズバリ言って“お得感”この上なしの携帯サイトです!!

月額 300円（税別）

12月1日更新の着メロ他、『紙プロHand』の詳細は117ページの『RADICAL情報局』をチェック!!

アクセス方法

お待たせしました、待画505対応スタート!!

DoCoMo　iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶

au/TU-KA　トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

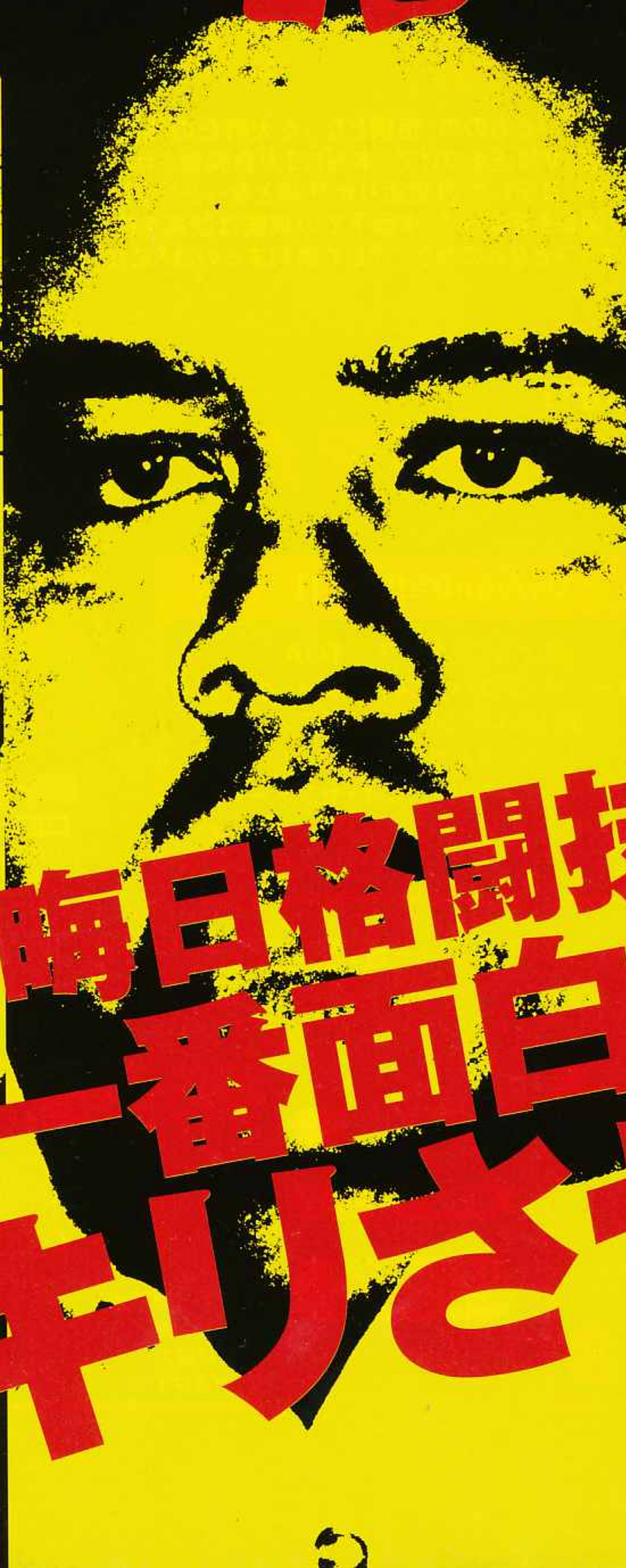
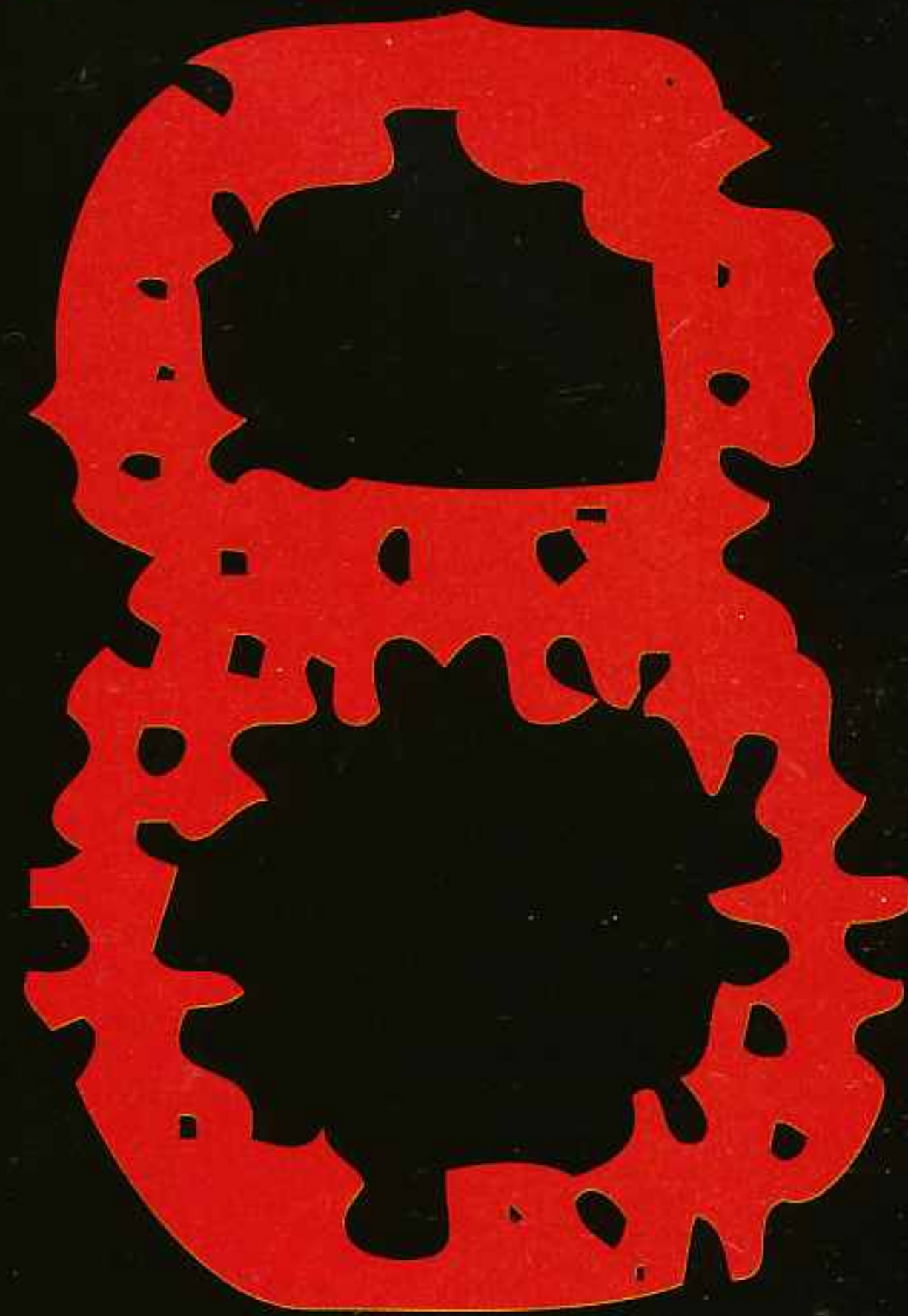
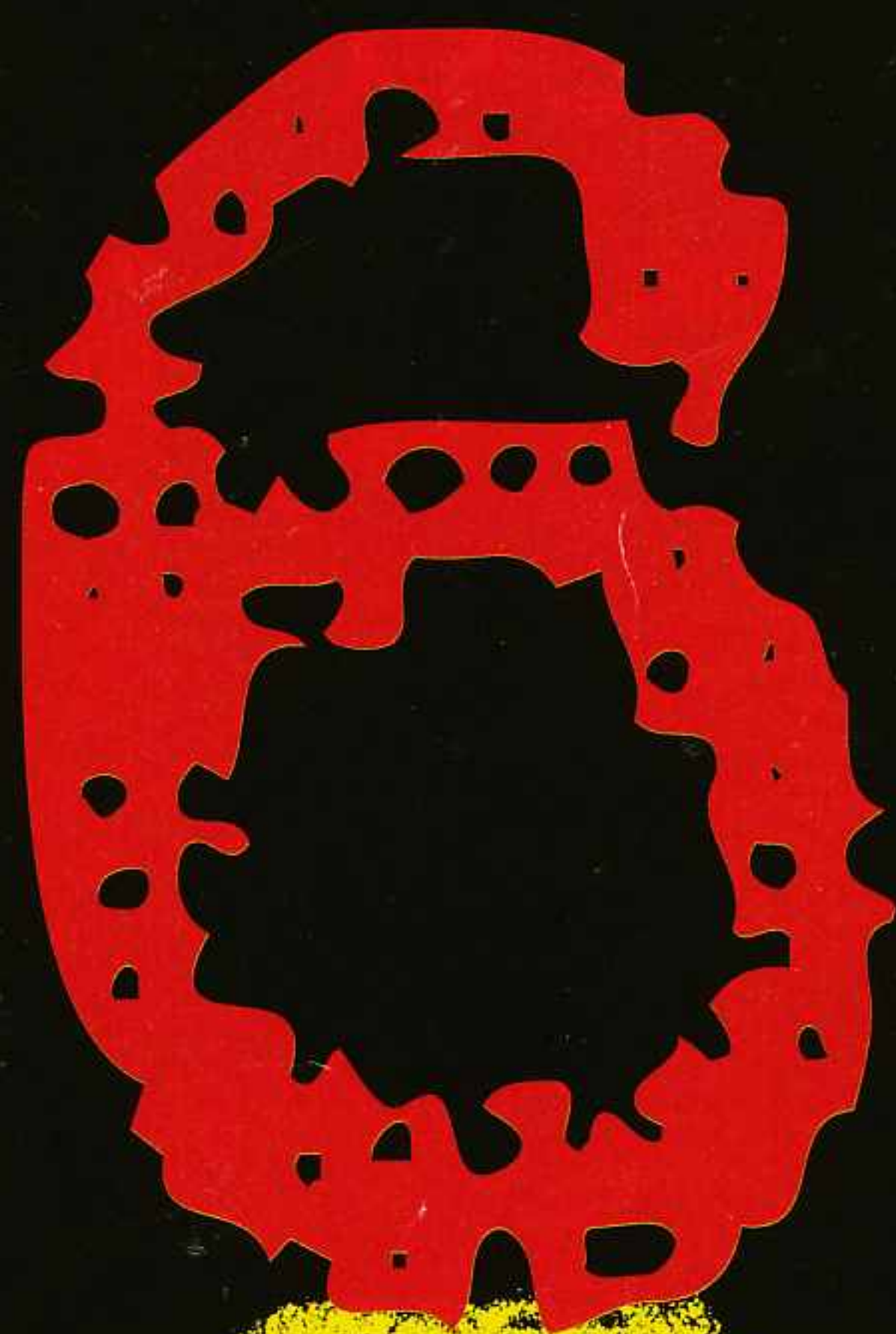
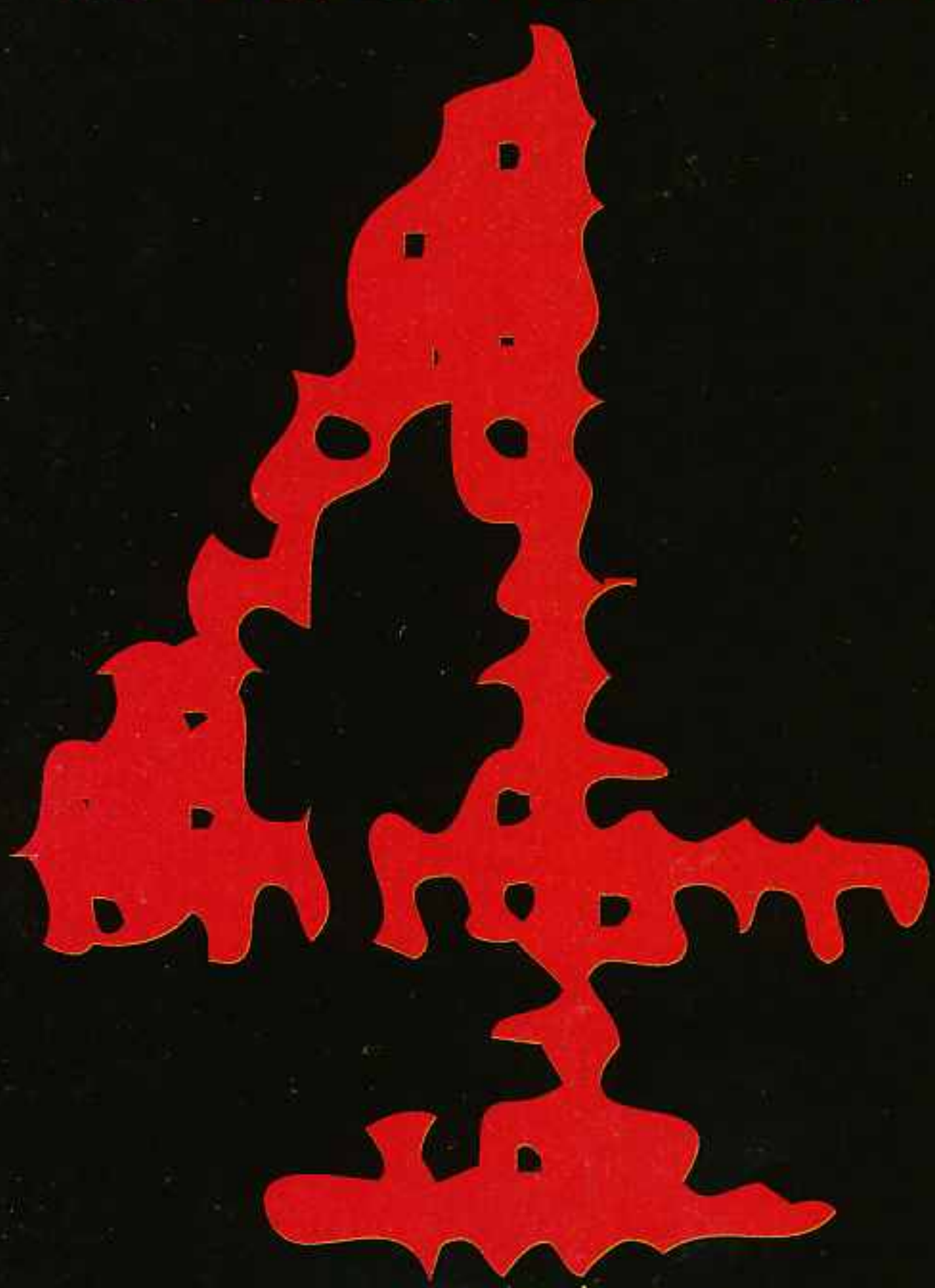
vodafone　ボーダフォンメニュー ▶ ボーダフォン・ライブ ▶ スポーツ・レジャー ▶ その他スポーツ ▶

ユーザーとプロレスする携帯サイト

紙のプロレス Hand

[お問い合わせ]（株）ダブルクロス 03-3403-5188

NEW YEAR EVE WARS

468

空前の大晦日格闘技大戦争
どこが一番面白いんだ
ハッキリさせろ!

一寸先はハプニング

先取り見どころスーパーガイド

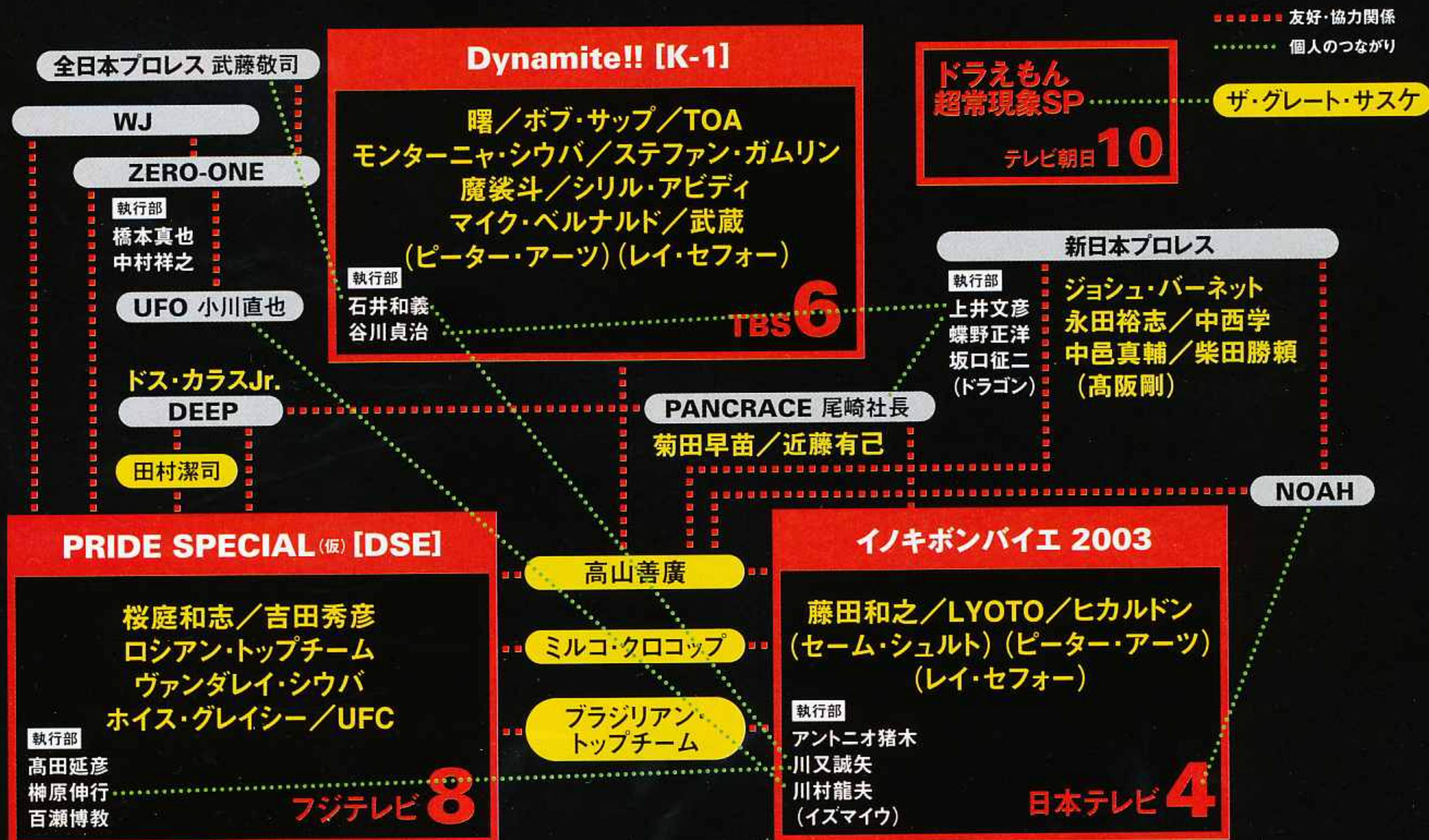
大晦日格闘戦争はたぶんこうなる!

かねてから噂はされていたものの、恒例となった大晦日の格闘技イベントが、今年はそれぞれがバックに地上波TV放送をつけて、本当に3大会開催されることとなってしまった! そもそも、アントン総帥の日テレへの寝返りが発端となった今回の分裂劇。ここに『PRIDE』vsK-1のライバル関係も相まって、水面下での攻防は壮絶を極めている。はたして各イベントはどんなラインナップとなるのか? そして勝利するのはどこなのか? う〜ん、大晦日!

どこで切れるか、こんがらがるか!?

これが格闘技界相関図だ!!

まさに一寸先はハプニング。いつ何時崩れてもおかしくない、危ういバランスの上に成り立っている格闘技界の相関図がこれだ! 12・31当日まで、はたしてこの関係性は保っていられるのか? それともさらなる混沌が待っているのか?

17:00 START!

神戸ウイングスタジアム
イノキボンバイエ 2003
馬鹿になれ夢を持て

［日本テレビ］

キーワードは〝カオス〟の『猪木祭り』!!
メインはミルコvs高山に決定!

ミルコ・クロコップの相手は、高山善廣に決定!

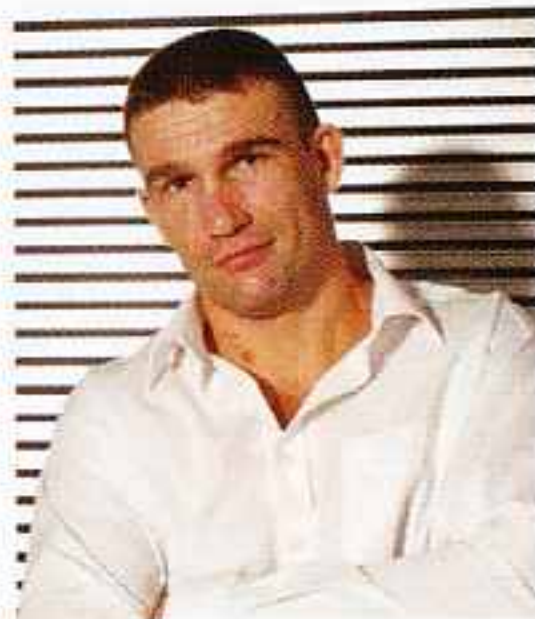
締切ドドド直前（11月）20日の時点では発表されていなかったが、翌21日に行われる記者会見にて、高山vsミルコを発表するという情報を本誌はキャッチ（発表しなかったら正直スマン）。記者会見の模様は残念ながらお届けできないが、今年の『イノキ・ボンバイエ』（以下『猪木祭り』）のメインカードは早くも陽の目えお見ることになった。

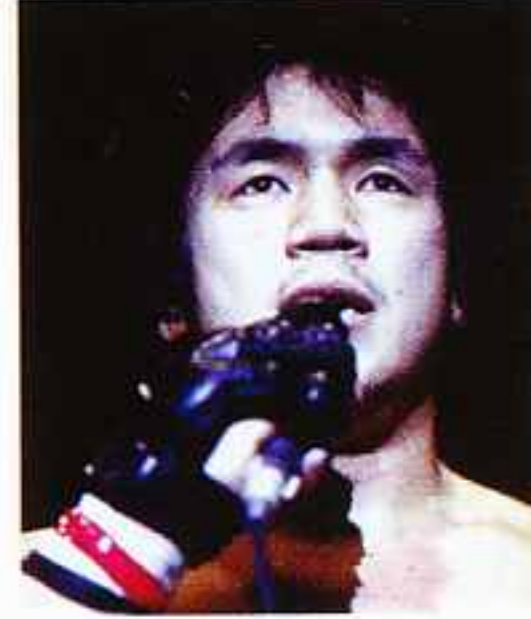
ところが、だ。11・9『PRIDE GP』でノゲイラに敗れたミルコは、クロアチアに帰国後、11月18日付の現地のスポーツ新聞にて「12・31は『PRIDE』のイベントに出たい。『猪木祭り』には出ない」とコメントしているだけに、まだまだ予断を許さない状況ではある。『猪木祭り』のキーワードはやはり〝カオス〟なのだ。もうひとつの目玉として、藤田和之vsピーター・アーツが候補に挙がっている。ジョシュ・バーネットvsセーム・シュルトの〝新旧パンクラス王者対決〟も有力視されている。藤田とジョシュ、アーツとシュルトの構図は、〝猪木軍vsK―1〟という見方もできる。他にも新日本、K―1、パンクラス、イズマイウ軍からの選手派遣が確実となっているが、仰天情報として、あの田村潔司にオファーをかける準備もあるという噂ものぼっているが……。何が起こるかわからないのが『猪木祭り』である。一寸先は本当に闇なのだ。

次回の帰国から本格的に行われる『猪木祭り』の宣伝を含めた、アントン・パフォーマンスも注目だ。かつては全国を行脚をしたり、新宿公園でホームレスと焼き肉パーティー、渋谷・ハチ公前では、拡声器を使って「銭ゲバーッ!」と絶叫するなど、出場をゴネた小川に嫌みたっぷりだった。昨年の『LEGEND』でも、「タイソンが来ます!」「ホエア〜、ヒクソンッ!」「俺は触ってねえですから!」と、シビれる爆言を連発! その『LEGEND』のゴールデンタイム中継を実現させた実力者、UFO川村龍夫社長も、今回の『猪木祭り』でそのラツ腕を振るう。ファンの心をガッチリ鷲掴みにした〝ガチンコ〟発言は、再び爆発するのだろうか? また、格闘技界のニューリーダーとして目され、K―1や『PRIDE』に太いパイプを持つKコンフィデンス社長、川又誠矢氏の存在も見逃せない。ブラジルからは、バックステージの帝王こと我らがイズマイウもやってくる。そんな各人の、大会前日までの動向が本当に気になるし、たしかに話題性では曙に軍配は上がるが、会見などの面白さ&目の離せなさは、『猪木祭り』の圧勝に決まっている。何しろ大会当日に永久電機の公開もまたしても計画するんだから、勝負する土俵がまったく違うのだ。そんなハラハラドキドキ『猪木祭り』。壮絶な人間力が絡み合って巻き起こるカオスを、今年も体感せずにはいられないのだ!

修斗出身の4代目タイガーマスクも新日本からの派遣候補の1人。虎戦士はこの下半期に某格闘技プロモーションの参戦も噂されていた

エルヴィス・シノシ

11・30近藤有己戦をクリアすれば菊田の参戦もほぼ決定的。ホームリング外の闘いでは、アレク、ノゲイラ戦と悪夢が続いているが……

ノゲイラらと練習に励むアーツのVTデビューは『猪木祭り』の公算が高い。ミルコのVTデビュー相手だった藤田との対戦を希望してるとか

元パンクラシストで、リングス、K-1のリングでも活躍した柳澤龍志。新日本勢の中では総合経験値は豊富なだけに出陣は濃厚だろう

10・12成田会見にてアントン総帥に大晦日出場を直訴。じつはVTは未経験だったりする成瀬だが、リングス、そして前田イズムを見せてくれ

参戦が確実視される藤田。一昨年の『猪木祭り』は大会直前にアキレス腱を断裂、昨年はミルコに判定負けといまだ未勝利。今年はどうなる?

名古屋ドーム

K-1 Dynamite!!

［TBS系列］

曙vsサップに続き、魔裟斗、元気、村浜らも出場

世間一般的には大晦日の格闘技戦争と言ってもピンと来ないだろう。『猪木祭り』が日テレの番宣で盛んに煽られようが、『PRIDE・GP』が異常な盛り上がりを見せようが、やはり話題は『Dynamite!!』の曙vsサップに軍配が上がる。大晦日を前にして、すでに瞬間最高視聴率は曙vsサップで決定との声も上がっているほどだ。

大晦日の3大会の中で一足早いカード発表となった『Dynamite!!』だが、その後、追加カードは締切大幅オーバーの11月21日現在、いまだ発表されていないが、今号の発売時には、他の大会も併せ何試合かは発表されているはずだ。

そこで、曙に続く『Dynamite!!』の目玉と言えば、やはり魔裟斗しかいないだろう。知名度では曙にはかなわないが、女性・子供の興味を惹くためには魔裟斗の存在は曙級にデカいはず。

その魔裟斗の対戦候補として、K―1サイドでは、なんとボクシングの畑山隆則や薬師寺保栄といった元世界王者クラスのビッグネームに仰天オファーをかけていたらしいが、どうやら断られたという話だ。

魔裟斗と同じくK―1中量級からは、須藤元気と村浜武洋の出場が濃厚だという。立ち技も総合もこなせ、試合内容もハズレのない2人だけに正式発表が待たれるところだ。

さらに谷川×上井ラインから、新日本の選手の登場も十分あり得るだろう。11・3横アリで天田からダウンを奪った柴田勝頼が再度、K―1ルールにチャレンジすることはあるか？ それとも柴田は『猪木祭り』？

そして、『紙プロ』読者というか、ZERO―ONEファンには、トップ外人のザ・プレデターやトム・ハワードの『Dynamite!!』参戦の噂は気になるだろう。一部では引き抜き云々といったキナ臭い話も聞こえてきたが、どうやら2人に関しては引き抜きではないようだ。ただ、互いのキャラと実力に見合った相手がいるかどうかが問題。ベタなところでプレデターvsノルキヤといったところか。参戦した際はMMA（総合）ルールになるという。

先日の会見で、今夏、ヒクソン・グレイシー側とコンタクトを取っていたことをあかした谷川プロデューサー。しかし、ヒクソンサイドは「試合をするなら半年の準備期間が必要」との、いつもの理由で話は終わってしまったという。んあ～。

まあ、なんやかんや言っても、曙vsサップ一本で『Dynamite!!』の成功は約束されたようなもの。「こんな凄い試合は何十年に一回やれるかどうか。みなさんに歴史の証人になって頂けたら」

と、谷川プロデューサーも自信満々&ご満悦の曙vsサップ！

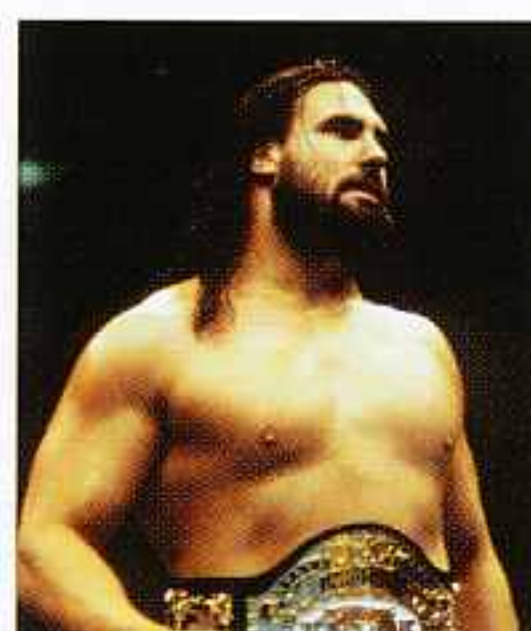
何はともあれ、この試合が大晦日結びの一番となるのは間違いない!!

さあ、みなさ～ん、いきますかぁ～？ せぇ～の、ダイナマイッ!!

8月に新日本の両国大会を観戦したヒクソン。その知名度から大晦日の三大会でも狙っているところはあるだろうが、準備期間が足りないか？

K-1GPが控えているため『Dynamite!!』への出場は流動的な武蔵。一説には総合の練習も取り組んでいるという噂もあるためVTへ挑戦も？

かねてから総合進出が囁かれていたレイ・セフォー。その身体能力と抜群のセンスさえあれば立ち技以外の舞台での活躍も十分期待できるだろう

2年前は『猪木祭り』で、現『PRIDE』統括本部長の髙田延彦と対戦したベルナルド。今年は目立った活躍がなかったが最後の最後で爆発なる

レスリング出身で学生時代は、あのカート・アングルとも決勝戦で闘うほどのポテンシャルの持ち主。格闘技戦で、その凶暴性を発揮できる

元グリーン・ベレーにして、コールマン、ランデルマン等格闘家とも親交のあるハワード。特殊部隊仕込みの裏技が格闘技戦で炸裂するか？

開始時間未定

8

さいたまスーパーアリーナ

PRIDE SPECIAL（仮）

［フジテレビ系列］

シウバvs日本人、吉田vsホイス浮上 さらに超ド級の大物が参戦か？

「純度100%、混じりっ気ナシの『PRIDE』をお見せします！」（髙田統括本部長）

大晦日イベント戦争にしんがりで参戦表明した『PRIDE』は、他の二つが、とにかく「総合格闘技を本職としていない人たち」をかき集めて、〃非日常〃を演出することに躍起になっているのに対し、冒頭の本部長発言通り、〃日常〃で勝負することとなった。これは裏を返せば、すでに〃日常〃の『PRIDE』が、〃非日常〃のパワーを持った、スーパーイベントである証拠。対戦カードも『PRIDE』ならではの、シビアで、ハイレベルなカードがズラリと並ぶことが予想される。

まず、真っ先に参戦を表明したのが、ヴァンダレイ・シウバ。対戦相手は今回も、日本人トップファイターを中心に複数の大物が候補に挙げられているようだ。その中には桜庭、吉田、田村ら〃リベンジ組〃と共に、ブラジル修行中の美濃輪育久にビッグチャンスを与えることも検討されているという。また参戦が期待された〃2人のヘビー級王者〃ヒョードルとノゲイラは、共にケガと2・1決戦に万全を期すため発展的な出場辞退。その代わり、ノゲイラの所属するBTTから、1〜2名の参戦が決定しているという。そして参戦が確実視される、桜庭、吉田、田村の日本人ビッグ3の動向だが、桜庭、吉田は共に11・9ドームで負ったケガが癒えておらず、田村もまた自らが納得のいくマッチメイクでないとテコでも動かないため、現時点での出場はに確定マークは点灯していない模様だ。それでもDSEは3選手揃っての出場を目指し、粘り強く交渉を続ける腹づもりのようだ。その中で、吉田の対戦相手にプロデビュー戦の相手であり、その結果を巡りいまだ因縁が続くホイス・グレイシーが浮上。ホイスは2000年の桜庭戦以来、VTから遠ざかっているが、「吉田ならばVTで闘いたい」という意向を持っているらしく、この対戦が実現するなら、総合ルールによる決着戦となることが濃厚だ。

最後に、奇をてらうような隠し球なしで勝負する『PRIDE』だが、ひとつだけ巨大な隠し球を用意しているという仰天情報が入ってきた。なんでもその隠し球は、あのマイク・タイソン以上の実績を誇る掛け値なしの超大物で、〃特別ルール〃でなら、すでに参戦合意に達しているという。準備期間の問題もあり、もし今回出場しなくても、来年以降、『PRIDE』の国内外での活動で、切り札的な存在になりそうだ。そういった意味でもやはり、12・31『PRIDEスペシャル』は、今年度の『PRIDE』総括であると同時に、来年へと繋がる大会となるのは間違いない。これを見なければ、来年の『PRIDE』は語れないということだ。

あなたは、単発のバラエティ特番と、超人気連続ドラマ、どちらを選びますか？

8月の吉田戦で敗れたとは言え、さらに存在感が増した田村。『PRIDE』に上がりたがらない田村だが、意味がある闘いなら出てくる可能性大。

彼女が『PRIDE』コメンテーターを努める坂田が満を持して『PRIDE』初参戦か？実現すれば“ケンカマッチ”を行いたい意向とか。

いまグレイシー一族で一番勢いがあると言ってもいいハイアン。吉田狩りを執拗にアピールしているが、ホイスとの争奪戦となるのか？

今号で本人が語っているとおり、フライにはすでにオファーが行っている様子。名勝負製造機の参戦は“内容勝負”の『PRIDE』には不可欠か。

ミルコに敗れ本格的にVTに取り組む決意をしたドスJr.も出場候補選手のひとり。もしかしたら、マスクを脱いで素顔で登場するかも知れない

日本人初の打倒シウバが期待される、ブラジル修行中の美濃輪。日テレ『猪木祭り』からもオファーが行ったとの噂も出ている。

統括本部長 髙田延彦 出撃宣言!!

踊る大本部長!! 4チャン、6チャンを封鎖せよ! 編

聞き手／山口日昇
撮影／森“モーリー鷹博”
designed by hisa (Two Three)

大噴火した『PRIDE・GP』を大総括!!
出版前から話題騒然!!自叙伝的書『泣き虫』の衝撃!!
「去る者は追わず!!」——アントン総帥への〝決別〟宣言!!
大みそか〝世紀の格闘技三つ巴大戦〟に、最後発ながら堂々の名乗り!!

この男の発言に業界、絶賛震撼中!!

——本部長、聞きたいことは山ほどあるんですが、やっぱりまずは桜庭選手の約1年ぶりの勝利の話からですかね。

髙田　おめでとうございます!

——は!?　なんでボクに〝おめでとう〟なんですか?

髙田　いや、マスコミという立場にも関わらず、山ちゃんが渾身のガッツポーズをしたという噂があるから。

——あ、確かにサクちゃんが勝った瞬間に両手を挙げて大喜びしてしまいました（笑）。でも正直、嬉しかったですねぇ。

髙田　ズッシリとした重みと、厚みのある勝利だよ。〝バンザーイ〟っていう喜びじゃなく、胸に染みわたるような、噛みしめたくなるような喜び。こういう喜びもあるのかなと思ったね。あれだけ勝利を経験しているサク自身も、将来、彼の中で過去を振り返ったときに、今回の勝利はひと味違うものを感じるんじゃないかと思う。

——サクちゃん自身も勝った瞬間、思いっきり拍手してましたよね、自分自身に向けて（笑）。

髙田　待ち望んだ瞬間だよ。試合の流れも決してサクにとっていい流れではなかったしね。あの流れで最後までいってたら、判定では取られてただろうね。

——確かにあのままいったらマズイっていうのはありましたね。いつもの〝サクラバ・ワールド〟が炸裂しないまま、試合も膠着気味に見えた。ただ、それが逆に、最後に極めた瞬間を際だたせましたね。

髙田　キレイに極めたね。極められたほうも、ある意味脱帽の一瞬だったんじゃないかな。

——サクちゃん本人は、（ケビン・）ランデルマンがケタはずれの力があるし、反応が早いんで、途中で〝極めるのは無理かな〟と思ったらしいですね。

髙田　あの日、サクは一本もタックルを取りにいけなかった。珍しいよ。入れなかった。相手がアマレス

ベースだからというのではなくて、あの反応の素早さでね。寝ても、あのパワーだからね。

——なにせ、リアル・ドンキーコングですからね。これは演出チームの勝利でもあったと思うんだけど、入場時のスーパーマリオのビジョンと音楽はピタッとハマりましたね。

高田　あの音楽、知らない人はいないからね。

——あれには海外からきた報道陣・関係者も大喜びでした。

高田　サクのこれまでの道のりや、あの試合での結末、それがあるからこそ、あれが活きるっていうことだよ。

——やっぱりサクちゃんにいま声をかけてあげるとしたら、「お前は男の中の男だ！」っていうことになりますか？（笑）。

高田　いや、至極ありきたりな言葉しか出ないね。「おめでとう」「ごくろうさん」「お疲れさん」「ゆっくり休め」と、それしか出ない。どれだけ重いものを背負いながら、苦しんできたのか。その深層心理の部分は本人にしかわからない。でも、よくもキレイに自分自身のための試合をしたと思う。もの凄く切ない試合だよ。

——哀愁というのとは違う、キリキリするような切なさが漂ってましたね。

高田　染みわたる切なさがあった。試合に行くまでに自分をつくりあげる時間。スーパーマリオから始まって、最後に極める一瞬、そして勝利の笑顔まで。よくぞ自分のために頑張った、我慢したと思う。

——ウキウキするいつもの〝サクラバ・ワールド〟はなかったけど、勝ちにこだわる、あれだけの相手からキッチリ一本取るという〝真のサクラバ・ワールド〟が受け入れられたことも、『PRIDE』が進化してるひとつの証でしょうね。

高田　うん。客観的に見ても、彼の置かれている状況から見ても、この勝利の価値は、ファンにとっても、関係者にとっても、家族にとっても、想像以上だろうね。自分のために闘ったことが、ファンや関係者に直接ハネ返ってきたよ。

——そのサクちゃんの勝利とは別に、ノゲイラの勝利もビッグ・サプライズを呼びました。本部長も、実況席でこれ以上ないくらい興奮してましたね（笑）。

高田　あ、そう？　そっちの興奮は、ポジティブな〝バンザーイ〟っていう喜びの表現だろうね。

——ものの見事な一本勝ちに対する興奮？

高田　そういうこと。やっぱり、あの試合にいくまでのプロセスに、あまりにも運命的なものを感じるんだよ。3月のノゲイラvsヒョードル戦までは、この先5～6年はノゲイラの天下だろうと思われてた。そう思わせるものを彼は見せてくれてたしね。でも彼はヒョードル戦で完膚なきまでに落とされた。『PRIDE』のチャンピオンベルトを持っているのはこれだけ価値があるものなんだっていうのを、彼は自分がベルトを落としてから気が付いた。そ

本部長! おまえ、男だ!!

11・9“高田劇場”怒濤の完全再録!!

休憩明け。オーロラビジョンに髙田引退試合のVTRが流れ「一年前」「同じ場所」の文字がデカデカと映し出された。「そして一年後、やつがここに帰ってきた」「超パワーアップして」と続き、「統」と「括」の文字が順にアップ。〝田村、おまえ男だ!!〟〝男の中の男だ!!〟〝お前たちも男だ!!〟と髙田劇場の名場面が流れる。〝おまえ男だ〟ポーズの親指どアップに続き、「引退してからパワーアップ」の文字、『PRIDE　GP　開幕戦』の〝いきますよ！（のけぞり手を広げて）男の中の男たちよ、出てこいやーっ!!〟の場面がフューチャー。。最後に「髙田延彦統括本部長　今夜重大発表」の文字が映し出され、髙田本部長の名がコールされた。

『PRIDEのテーマ』が鳴り響く中、大歓声に迎え入れられ、髙田本部長が花道を入場した。

【リングインした本部長は四方に深々と礼】

髙田　今日は本当にたくさんの御来場、ありがとうございました（再び深々と礼）。

【場内拍手】

髙田　みなさんも私たちも一緒です。もう既にこの段階で、全身全霊試合に集中してますんで、心地よい疲れですでにいっぱいです。これまで出てきた選手に心から敬意を表します。**そして吉田秀彦、ありがとう!!**　心からそう思います。

【場内大歓声】

髙田　ちょっとだけ時間をください。いま選手が準備してますんで。まだトイレに行きたい人は、ご自由に。私がしゃべってる間、行ってきてください（微笑）。

【場内笑】

髙田　えーっとですね、一つ二つあるんです。みなさんもご存じかもしれませんが、今日、この会場には、私の師匠である猪木さんが来てません!!（四方を見回す）。

【場内騒然】

髙田（声を大にして）**なぜですか？　なぜこの世界格闘技史上に残る歴史的な一日に、この瞬間、この空間に、あの人は来てないんですか？**

【観客から「『猪木祭り』の準備！」との声】

髙田　猪木さんは、もう『PRIDE』に背を向けてしまったんでしょうか？……（ひと呼吸置いて）私はここで敢えてひとつだけ言います！　**去る者は追わず!!**（自信に満ちた表情で）それだけです!!

【場内、その言葉を噛みしめながら拍手】

髙田　えー、それに連動して、もう一つ言わせてください。**来たる大晦日、日本テレビが『猪木祭り』、TBSが『K—1』、それぞれイベント戦争が始まろうとしています!!**（人差し指を立てて）みなさんに一つ問いかけをしたいんです。まだ最終的に、我がドリームステージ、『PRIDE』は何もない、何もアクションを起こしてませんけど、（三本指を立てて）やはりここで三つ巴の戦争に入って行くには、みなさんの後押しが一番のパワーになります。みなさん！　（手を広げて）私たち『PRIDE』は、大晦日、このイベント戦争に行くべきですか？

【場内大拍手】

髙田　ありがとうございます。一番の動機はみなさんの後押しなんです。ただ、ここでみなさんの後押しはいただいたんですけど、（人差し指を立てて）もう一つ重要なポイントがあります。（『K—1』は）TBSと（『猪木祭り』は）日本テレビ……（我々の）テレビ局！　**フジテレビがもうひとつウジウジ言ってるんですよ！**　フジテレビが！　ここでちょっと唐突ですけど、フジテレビの責任者！　プロデューサーの清原さ〜ん！（リングサイドの清原Pにリポーター調で呼びかける）

【場内爆笑】

髙田　清原！　立たんかい!!（リングサイドの清原Pをリング上から指差し）**清原、お前、このイベント戦争に打って出る気持ちはあるのかないのか、どっちだ!?**

サクは、よくもキレイに自分の試合をした。もの凄く切ない試合だよ。

統括本部長 髙田延彦 出撃宣言!!

して彼はまた立ち上がってきた。本来であれば、8月に（榊原信行・DSE）代表もミルコvsノゲイラを組む意志はあった。それが流れた。逆にミルコの8月のあまりにも衝撃的なイゴール（・ボブチャンチン）戦。あれでミルコはノゲイラを飛び超えて、ヒョードル戦の切符を自分の力で勝ち取った。ところがそのヒョードル戦がひっくり返っちゃった。

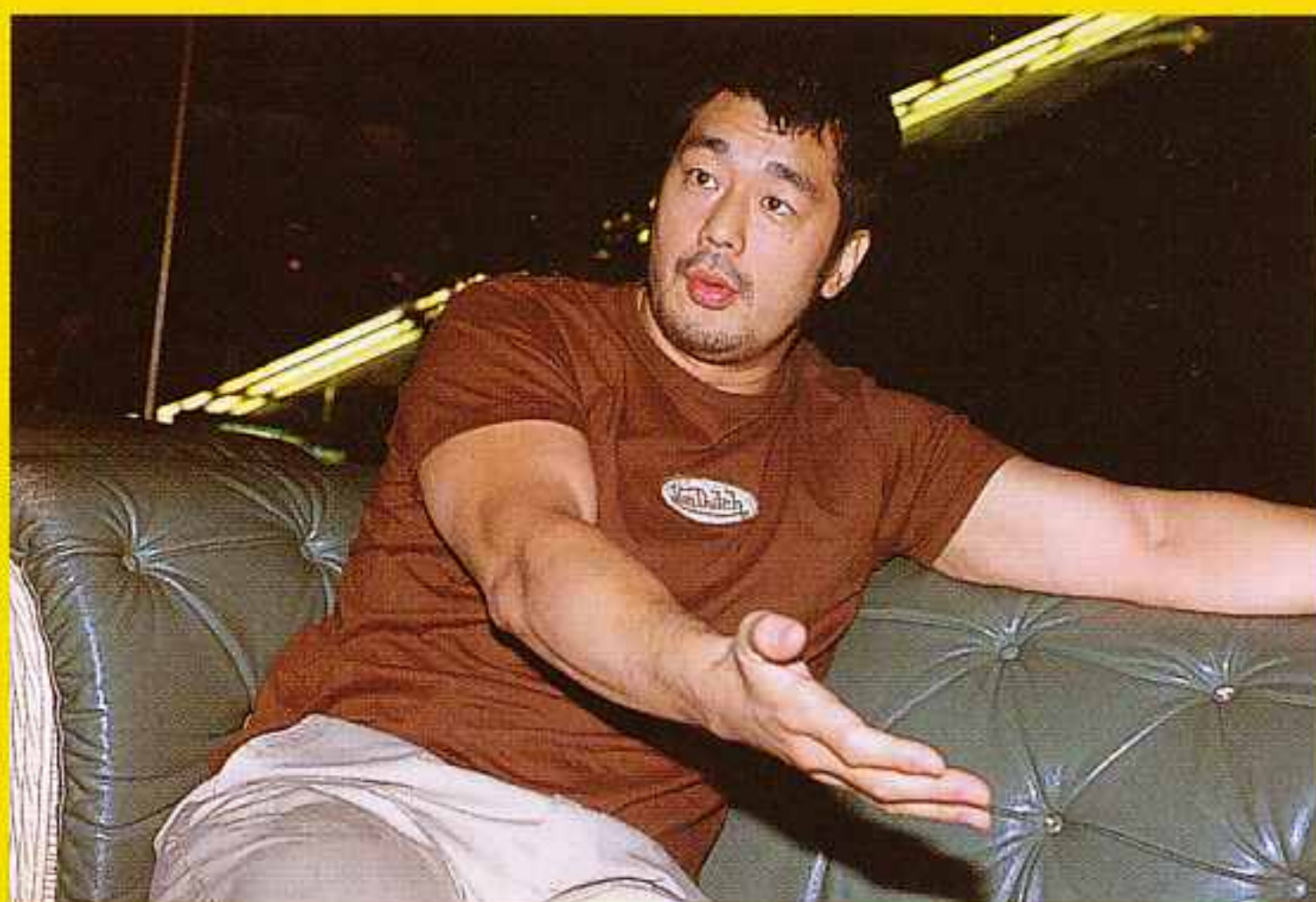
――ヒョードルの怪我はファンにとっても無念ですよね。

髙田　それによってミルコとノゲイラの試合は運命的、瞬間的に組まれた。ひとつの奇跡だね。それに対して、ファンに落胆はない。ただノゲイラは、8月のリコ（・ロドリゲス）戦で少し株を落としているところがあったから、ヒョードルvsミルコに比べると一枚落ちるという空気感はあっただろうけどね。

――ノゲイラも脱落気味かなっていうイメージもありましたよね。

髙田　ただ、その反面、大きな期待感もあった。

――ノゲイラvsミルコは、もともと誰もが見たかった極上のカードですからね。

髙田　そう。ヒョードルに負ける前のノゲイラの鮮烈なイメージが残ってるから、今回カードが決まったときの周囲の反応は、想像以上にポジティブだったね。さらに『暫定王者決定戦』という大きな付加価値が付いたこともあるしね。そういったプロセスに運命的なものを感じるのと同時に、あのコンマ1秒か2秒の勝負の際。これは興奮するよ。

――むしろ興奮しないほうがおかしい（笑）。あのギリギリするような緊張感といい、1R終了間際のミルコのハイキックといい。

髙田　あれだけ大きな意味のあるハイレベルな試合の中で、あんな出来事がね。

――ドラマティックにもほどがありますね（笑）。

髙田　劣勢でゴングに救われたノゲイラが、2Rに鮮やかに一本取るんだから。ドラマでもつくれない。

――神がかり的ですよね。

髙田　〝あまりにも強すぎる〟という印象のミルコがいて、その強い者を認めつつも、「いいの？　ミルコがこのまま行っちゃって？」という思いもファンの中にはあった。だからこそ、あの瞬間、ドームが爆発したね。

――逆に〝ミルコには最強神話を継続してほしい〟という思いを持つファンも多くいただろうし、〝どっちが勝つんだ？〟という思いが客席でもギリギリせめぎ合って、場内も異様な雰囲気でしたよね。

髙田　最後、ノゲイラが逆十字を取った瞬間、放送席もみんな立ち上がった。私も立ち上がった、マウント取った瞬間に。

――ノゲイラがテイクダウンしてサイドからマウントを取った瞬間ですね。

髙田　それまでの試合の流れを見ると99％あの体勢になることはありえないなっていう空気感があったけど、やっぱりハートだよ。ヒョードル戦でノゲイラの心は折れてなかった。精神力だね。

――試合前、ノゲイラのマネジャーは「ノゲイラはすでにミルコじゃ

【リングサイドで立ち上がった清原Pは地声で「髙田さん、行きます！」】

髙田　（間髪入れず）行きますと言いました！　（ひと呼吸置いてゆっくりと）**清原、フジテレビ、お前ら男だな!!**（親指を立てて、〝おまえ男だ〟ポーズ）

【場内大歓声。清原Pも親指を立てて、〝おまえ男だ〟ポーズ】

髙田　みなさん、ここで新たに一つ発表させていただきます!!（手を広げて）**世界最高峰のリングで、世界一過酷な闘いで、素晴らしいファイターが命と魂を注ぎ込んだこの闘いを、ファンの人たちの後押しとフジテレビの後押しで、12月31日、さいたまスーパーアリーナで開催します!!**【場内大拍手】

髙田　よろしくお願いします（礼）。やる以上は！　やる以上は、みなさん負けないようにやりましょう。負けないようにやりましょう。（手を広げて）**そして！　純度100％ピュアな、混じりっけのない『PRIDE』の闘いを大晦日に見せますんで、楽しみにしてください。**ありがとうございました。【場内大拍手】

場内アナウンス　みなさん、いま髙田統括本部長から力強い格闘興行戦争勝利宣言がありました。これはみなさんの応援なくしては、とうてい実現できるものではありません。というわけで、先程発表しました大晦日の『PRIDEスペシャル』開催を、大々的にみなさまと一緒に盛り上げたいと思います。何をするのか？　何をするのかといいますと、大晦日の『PRIDEスペシャル』のCM！　これを今日、この場で、使う使わないかはわかりませんが……。【場内笑】公開収録させて頂きます!!　みなさま、ご協力お願いします。【大歓声】それではルールディレクターの島田さん、お願いします。

【髙田本部長がコーナーに寄りかかって見守る中、島田ルールディレクターがリングの中央に登場し、カン高い声でしゃべり出す】

島田　えー、ではですね、みなさん立ってください。髙田統括本部長が言っている言葉を連呼したいと思います。僕が「おまえらぁ！」と言ったら、みなさん親指を立てて「男だ!!」と言ってください。（髙田に憮然とした表情で見つめられながら）いきますよ。「おまえらぁ！」

観客　（ちょっと戸惑いながらも一斉に、〝おまえ男だ〟ポーズで）「男だぁ！」

島田　もう一回いきますか？　「おまえらぁ！」

観客　（ちょっとズレつつも、〝おまえ男だ〟ポーズで）「男だぁ！」

髙田　（ジャケットを脱ぎつつ、リング中央の島田に歩み寄りながら）**島田、おまえしょっぱいよ!!**【場内大爆笑】

髙田　（ジャケットを脱ぎ、〝男の中の男Tシャツ〟姿で）じゃあ、本番いきます！　CM録りですよ。よろしくお願いします。いきます！　（両手でマイクを握り、のけぞって）「お前らぁ！」

観客　（一斉に〝おまえ男だ〟ポーズで）「男だぁーっ！」

髙田　ちょっとズレてるね。【場内笑】　スタンドだけでいきましょう。スタンドだけで。（スタンドを指さして）あっちの声が少し小さいんですね。いきます!!　（手を広げて）「お前らぁ！」

観客　（一斉に〝おまえ男だ〟ポーズで）「男だぁーっ！」

髙田　いいねぇ（微笑）。最後にもう1回だけいきましょう、全員で!!　（四方を見回して）よろしくお願いします。これ本番です。いきますよ!!　（前かがみの状態から片手を挙げつつ）「お前らぁ！」

観客　（一斉に〝おまえ男だ〟ポーズで）「男だぁーっ！」

髙田　（満足げに）ベストです。ありがとうございました。

【場内大拍手】

髙田　最後に、私のわがままを一つだけ言わせてください。このリングをとっとと降りますんで。いきます……。（マイクを両手で握りしめ）**俺が!!**（これ以上ないくらいのけぞりつつ）**『PRIDE』統括本部長だーーッ!!**

【『PRIDEのテーマ』が鳴り響き、リング暗転】

なくて、ヒョードルしか見てない」って言ってましたよ。

高田 それが事実だとしたら、ノゲイラはとてつもないファイターだよね。

―まぁ、ヒョードル、ノゲイラ、ミルコ。まさにBIG3ですよ。いずれ正月にBIG3ゴルフでもやってもらいたいですよ（笑）。

高田 彼らの普段思っていること、考えていること、突き詰めていることの成果、何を目指しているのか、そういったことも含めたすべての生き様が出た。それが負けたミルコからも恐ろしいくらいに見えた。もちろん勝ったノゲイラの生き様も見えた。それはサクにしても、吉田選手にしても、シウバにしても、そうだよ。彼らがひとつひとつクッキリと凄絶に生き様を見せてくれた。

―ノゲイラが「ヒョードルに負けてから目が覚めた」っていう言い方をしてましたけど、まさしく〝REBORN〟ですね。

高田 だけどね、ノゲイラにしたって、とっくに目が覚めてるはずなのに、まだ眠ってたんかいって（笑）。

―おいおい、それで目が覚めてなかったのかって（笑）。

高田 冗談じゃない（笑）。レベルがケタはずれだよ。

―レベルといえば、今回のイベント自体も近年まれに見るレベルだと思いますよ。

高田 今年に入ってから『PRIDE』は、ほぼパーフェクトに近い。それだけでも奇跡的だよ。もうこれ以上のものはないだろうと思いながらも、毎回それ以上のものを感じられる。今回もパーフェクトじゃないかもしれないけど、限りなくそれに近い。

―純度100%に近い（笑）。

高田 混じりっけのないね（笑）。イベントが終わってからも、国内・海外問わず、マスコミや関係者のイベントに対しての評価が「信じられないくらい完璧な形だ」っていう声が多い。それは試合以外の、例えばさっきのスーパーマリオの演出をはじめとしたエンターテインメントの部分も含めてね。

―驚くべきイベントの質と、客席の熱の質ですよ。

高田 そこで外せないのが、ファンだよね。ファンの心構えというか、ファンの熱のレベルが高い。

―最近痛切に感じるのは、そのイベントの持つ〝場力（ばぢから）〟というのが非常に重要だということですね。人気のあるタレントをただ引っ張ってきても、その舞台に〝場力〟がなかったら、タレントも光らせられない。やっぱりファンは一番輝いている舞台で輝く選手を見たいんですよ。

高田 もはやタレントパワーだけじゃ無理なんだよ。

―極論すると、見たい試合をポンと組んだだけでもダメでしょうね。例えばミルコvsノゲイラなんかは、どこでやっても当然興味を引くでしょうけど、それでも別のイベントでいきなり行われたら、客席の熱の質は全然違ってくるでしょうからね。

高田 まったく違うだろうね。『PRIDE』のリングでのこれまでのストーリーや歴史、その他のいろいろな積み重ねがあったからこそ、あの試合がキラキラ輝いて見えるんだ。

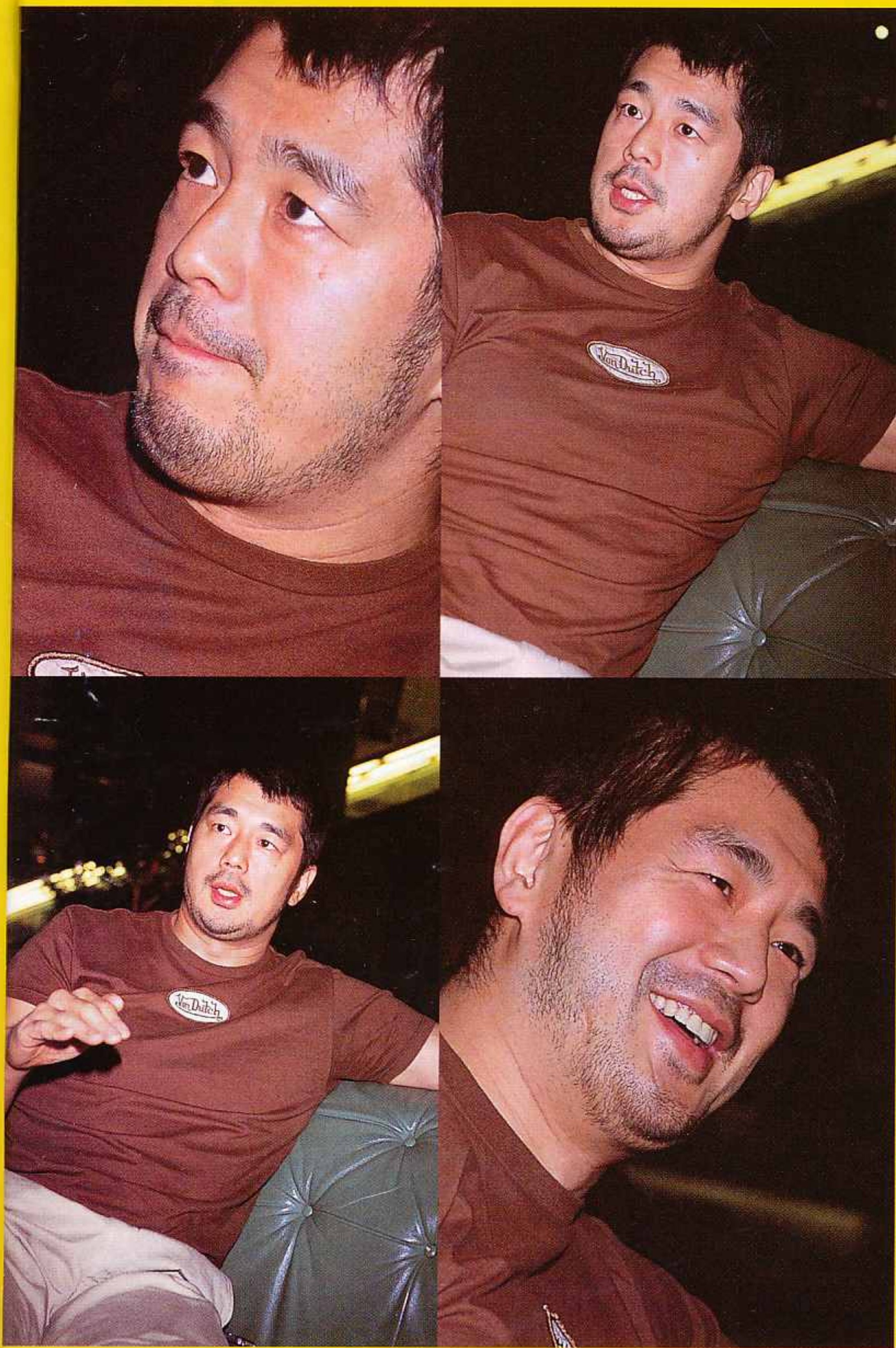
猪木さんへの決別宣言？ どう取ってもらっても構わないということだよ

―その〝いろいろ〟が〝場力〟に繋がっていくんでしょうね。で、本部長に『PRIDE』を語ってもらう上で重要なのが、なぜ本部長がそこまで『PRIDE』という舞台に愛着を感じているのかということですね。

高田 答えは簡単。自分にとっても『PRIDE』というのは夢舞台なんだよ。

―まさしくドリームステージ（笑）。

高田 そういうこと。41歳のおっさんが夢を見れる舞台。私が少年のころ、夢に対して何の疑いも持たずに、真正面から向き合っていた、あのピュアな時代を思い出すよ。それと連動して言えることだけど、イベントの内側にいるボクらがつくって提供してあげてるっていう意識はまったくない。常にファンと共に一緒に夢を見ようよ、と。まったく同じラインでね。そういうことを感じられるものなんてそうそうあるもんじゃないよ。ファン、ファイター、イベンターがつくりあげた夢舞台なんだ。この三者どれかひとつでも欠けたら成立しない舞台なんだよ。この前のドームも、試合は5時開始だけど、『スカパー！』の事前放送が4時半から場内に向

統括本部長 高田延彦 出撃宣言!!

けて放送が始まったんだよね。そのときも、曲がりなりにも私は『PRIDE』のリングで闘わせてもらってきたし、その空気には慣れているはずなんだけど、異様な高揚感を感じた。横を見ると、アナウンサーの女の子も震えて興奮してる。私たちも震える。格闘技をやったこともない、見ているだけの人たちも震える。同じレベルで熱を持てるんだよ。理屈じゃなく、そういう思いにしてくれる舞台が『PRIDE』なんだ。ホントに感謝してるし、絶対になくしちゃいけない舞台だよ。

——そういった『PRIDE』に対する選手やファンや関係者の熱が〝場力〟となって現れてるんでしょうけど、その場の牽引車が本部長ですよ。6月の大会から始まった〝髙田劇場〟が重要な役割を果たしてますね。

髙田　あのね、さっきの〝場力〟ということでいえば、代表をはじめとしたスタッフが、試合をする選手に負けないレベルのモチベーションや思いを持っているんだよね。そしてそういった選手やスタッフと温度差がない思いをファンも持ってくれてる。ここから出てくるエネルギーというのが〝場力〟をつくり出してる。他にも日本人、外国人選手のチームの意識。マスコミの思いもそう。この間も試合の前に、ふだんしゃべったこともないリングサイドのカメラマン数人に「サクの勝ちが見たい」って言われたんだよ。そういう人間までもが、〝成功してくれ、勝ってくれ〟っていう心の塊みたいなものを入れれば悪いものになるわけがない。それが〝場力〟なんだと思う。

——そのスタッフの心の塊みたいなものが一番象徴的に、わかりやすく現れているのが〝髙田劇場〟だと思うんですよね。やっぱり『統括本部長』というポジションに立ってからの髙田さんの気持ちの中での変化は大きい？

髙田　当然そうなるね。最初にその役割をもらったときに私が言った「何でもやりまっせ！」っていうのは嘘じゃない。やれること、やらなければいけないことはすべてやる。前向きに、ファンとの温度差がないようにね。

——単純に、去年までの髙田さんだったら、これはやらないだろなっていうこともやってるわけですよ、本部長自身が気がつかないうちに（笑）。それも〝場力〟がやらせてるんだろうっていう気がしますね。

髙田　そうだね。そういうエネルギーが渦巻いている。

——ドームでの〝髙田劇場〟も、あそこまで言うとは思わなかったですからね！

髙田　何か言った？

——また！

髙田　〝あそこまで〟っていうのはどの部分？

——もちろん「去るものは追わず」ですよ。あらためて聞きますけど、あれはアントニオ猪木への決別宣言なんですか？

髙田　そういう風に捉えられても結構ですよっていう意味がある。どう取ってもらっても構わない。もっとキツイ表現をすることもできたんだけど、あの日、オレにとってのベストな表現があれだったということだよ。

——日本テレビやTBSの名前も出したし、あそこまで具体的に言うとは周囲も予想してなかったと思うんですよ。しかもCM収録というおまけまでついて（笑）。エンターテインメントとしても完璧ですよね。

髙田　具体的に表現をしないと、清原氏（フジテレビ・プロデューサー）に噛みつけないだろ（笑）。

——〝髙田劇場〟の勢いが『PRIDE』の勢いを象徴してると思うんですけど、いまの本部長の「出てこいやー！」って叫ぶときののけぞり方なら、ミルコの左ハイも軽くかわせると思いますよ（笑）。

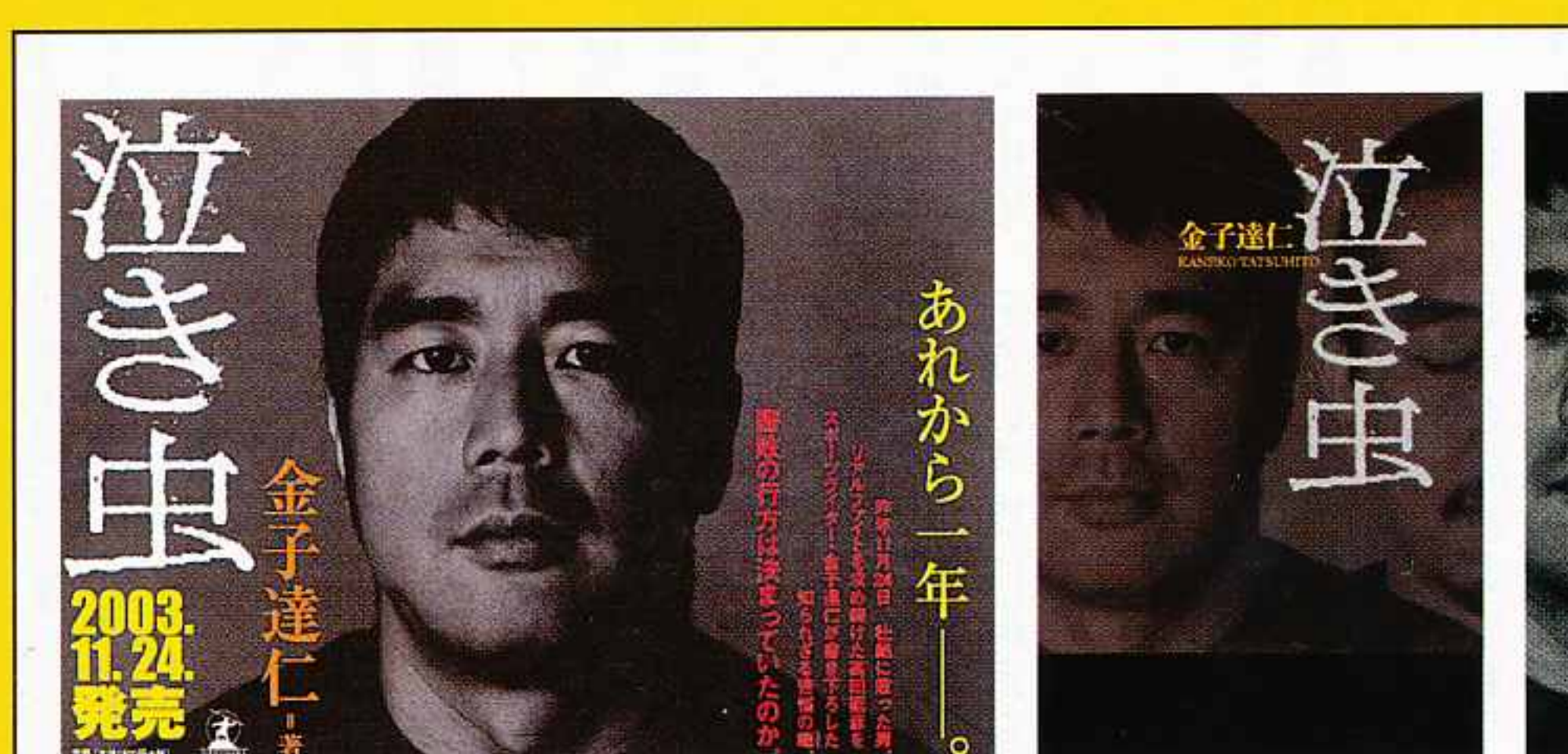
髙田　そういうことをこの男は言うと思ってたよ。あの硬い背中を見ての通り、俺はブリッジは苦手だからね（笑）。

——でもキレイなジャーマンを決めてたじゃないですか。

髙田　若いときはね。いまは全くダメだね。

——『PRIDE』が、日テレの『イノキ・ボンバイエ』、TBSの『Dynamite!』との大晦日格闘技大戦に討って出るということを、本部長がリング上から明言したわけですけど、これに関しては、率直なところどういう思いですか？

髙田　それに関しての最終ジャッジは当然、代表だからね。代表にボクの考えを言った中で、代表の考えも聞かせてもらった。その中で「やる」「いくぞ」と代表が言ったら、私は乗るしかない。

——「何でもやりまっせ！」（笑）。

髙田　それも全力でね。

——一方は、いままでDSEが運営してきた『イノキ・ボンバイエ』。一方はK—1『Dynamite!』の曙vsボブ・サップ。この強力な布陣に『PRIDE』はどうやって対抗していくんですか？

髙田　リングの上からも言ったけど、混じりっけのない純度100％のピュアな格闘技イベントだよ。古臭い言葉だけど、『PRIDE』の本道のド真ん……これはやめよう。

——ガハハハハ！　やめますか！

髙田　ついポロッと出ちゃったよ。本道の真ん中を歩く。

——〝ド〟は付かない（笑）。

髙田　付かない。真ん中あたりを歩く姿を見せられるイベントで勝負しようということだね。

——他のイベントがどうっていうよりも、今年の『PRIDE』の過去のイベントが敵になると思うんですよ、いい意味で。3、6、8月、そしてこの間の11・9。『武士道』は飛ばして（笑）、回を重ねるごとにベストイベント記録を更新していってる。だからこそ、ハードルが高いですよね、大晦日は。

髙田　だから志を高く、いままで以上にやる側、見せる側が気持ちを引き締めてつくっていかなければ

統括本部長 髙田延彦 出撃宣言!!

逃げるのは嫌だからね。そこを避けて通るのであれば、この本は出してない

いけない。いま言ったように、敢えて他を気にする必要はないと思う。確かに興行戦争、イベント戦争ではあるし、テレビ的にも楽なことではない。選手もイベントをつくる側もそれだけのハードルをクリアするスキルが必要だろうしね。とにかくDSEがつくってきた過去のイベントに負けないものをつくっていくよ。劣らないようなものをつくっていく。それこそ本道を走っていけば、間違いないよ。

――しかし、民放3局で格闘技を大晦日にやるっていうのは、とてつもないことですよね。

髙田　3局。ありえないよね。

――しかも3局すべてに総合格闘技が絡んでくるわけですからね。

髙田　時代は変わったよ。

――でも格闘技バブルがこれによって弾けるという声もあります。

髙田　マイナス面は結果が出てから、マイナスだったってわかることだし、勉強すればいいことだ。いまの段階でマイナス面は一切考えてないね。考えてないっていうか、発想できない。とにかく、ファンにジャッジしてもらうってことだよ。

――いろんな政治的な動きとかも背景にあるんでしょうけど、そういうことは抜きにして、「とにかく行くぜ」という気持ちですか？

髙田　そうだよ。

――凄いなぁ。ということは、本部長としては自信あり？

髙田　全力でやる。とにかくジャッジするのはファンの皆さんだよ。一点の曇りもなし！

――話題の曙参戦についてはどう思いますか？

髙田　1年前くらいにウチの道場に練習に来たいって、総合に向けてのアクションがあったわけ。そういう可能性があるんだろうなとインプットされていたから、特別な驚きはないね。

――もうひとつ、猪木さんが『PRIDE』と対峙して『イノキ・ボンバイエ』を開催するっていうことに関しては、どういう気持ちですか？

髙田　以前からそういう話や情報はないことはなかった。だから、これも驚きではないよね。

――その猪木さんが今日（11月12日）会見をやって、髙田さんのドームでのリング上での発言に対してこう言ってますね。「俺はスキャンダルに慣れてるし、俺への悪口が最近少なかったから、ちょうどいいや」ということです。

髙田　なるほど。私は悪口なんてひと言も言ってないよ。

――「髙田も名プロデューサーになれよ」「怒る気にもならない！髙田君も頑張れ」「みんなが幸せになってくれればいい」ともコメントしてます。

髙田　（深々と頭を下げて）ありがとうございます。真摯に受け止めさせていただきます。

――でも本部長、これはある意味、世代闘争でもありますよ。イベントを組み上げていく側の。猪木さんや川村社長や石井元館長にしてみれば、ドリームステージの榊原代表なんて、年端もいかない若僧でしょうから（笑）。

髙田　我々の業界も健康的な代謝が始まったのかもしれないね。代表のように、40代になったばかりで先頭に立って、この業界をバリバリ引っ張っていく。そういう人材がいないことのほうが不自然だし、悲しいよね。この現況はごくごく自然な流れだよ。

――今回のドームでも、休憩後はいつものように猪木さんが出てくるのを期待していたファンも数多くいたと思うんですよね。でも、あの日の〝髙田劇場〟は、〝猪木さんがいなくてもOK〟という雰囲気をあの場につくってしまった。

髙田　なるほど。それは良しとしよう。

――だから世代交代を表現するという意味ではベストなタイミングだし、実に象徴的な出来事だと思いましたね。〝髙田劇場〟は島田裕二ルール・ディレクターもうまくサポートしてましたけど（笑）。

髙田　大きいね、彼の力は。

――しょっぱいですけどね（笑）。で、タイミングといえば、11月24日、引退した日からちょうど1年後に、髙田さんは本を出すんですよね。『泣き虫』というタイトルですけど、これは髙田さんの口から言うと、どんな本ということになりますか？

髙田　引退した11月24日からちょうど1年後に敢えて出すというのも含めて、これは私のひとつの区切り。金子達仁という人間に私を描いてもらった本だね。

――金子さんはいま、ナンバーワンのスポーツライターと言ってもいい人ですね。

髙田　そうだね。彼という強烈なフィルターを通して、私のやってきたこと、思ってきたこと、人生の中で考えてきたことを伝えたいという思いからつくり上げた本ということになるね。

――宣伝チラシを見ると、「勝敗の行方は決まっていたのか」という衝撃的なコピーも踊ってますね。

髙田　衝撃なの？

――それは衝撃ですよ！　微力ながら編集面で仕事をさせていただいたので、ボクもゲラを読んだんですよね。

髙田　その節はありがとうございます（笑）。

――いえ、こちらこそ（笑）。でも、プロレスの根っこに触れたカミングアウト的なことも含まれてますよね。ここでは敢えて何が書かれているかは言いませんけど。

髙田　私の人生を語る中で、金子さんの視線から見た必要な部分だけを1冊の本で表現しなければならない。語る上で必要なことを伝えるために言った部分はある。でも、カミングアウト的なことを中心に据えた本ではない。自分自身を語る中で、そういう風に捉えられる部分もあるだろうね。

――プロレスの仕組みを暴露する類の本ではないですからね。

髙田　そんな本じゃない。

――プロレスから『PRIDE』に上がった意味を語る上でも、プロレスの根っこを語らなければならなかったわけですよね。

髙田　私にとってプロレスとはどういうものなのか、ということだよ。プロレスをケナすとか落とすとかいう気持ちはサラサラない。私にとって人生や、格闘技以外で生きてきた髙田延彦はなんだったのかなというのを振り返ったときに、こういうものも語らなければならない。

――やっぱりタイミングだと思うんですよ。プロレス界でもトップファイターであった髙田さんが言うタイミングが来てるんだなってゲラを読んだときには感じましたけどね。

髙田　逃げるのは嫌だからね。そこを避けて通るのであれば、この本は出してないよ。私は最後までなにひとつ置き去りにしないで正面

からいった。自分を語るときに、そこを素通りしちゃうと、自分の人生を否定することになっちゃう。

——逆に言わないことが否定することになっちゃう？

髙田　そういうこと。自分に嘘をつくことになる。「どうなの？」って聞かれたときに「こうだよ」ってストレートに伝える。そういうことだよ。その部分を変に強調するための作品ではない。必要なことを語っただけだよ。

——チラシにも「知られざる苦悩の轍（わだち）」という一文がありますけど、そういう風に思えるまでは、髙田さんのなかに幾重もの苦悩があったと思う。言うべきか、言わざるべきかという葛藤も一時期はあったと思うし。そういう部分の重みや歳月っていうのを、ボクは読んでみて感じましたよね。これを7年前に言えたかっていったら、言えなかったと思うんですよ。7年前に本部長が休憩明けに出てきて、親指を立てられるかっていったら無理だと思うし（笑）。すべてはタイミングなんだと思いますね。

髙田　そうだね。すべてがそういう方向に進行していると思う。そういう意味ではぜひ多くの人に読んでもらって感想を聞きたいね。

——金子さんは「なぜ、髙田さんはここまでボクにしゃべったんだろう？」っていう言い方をしてました。なぜですか？

髙田　う〜ん……（熟考）。金子達仁という才能のある人間に私の人生を書いてもらう以上は、自分自身が裸にならなければ何も始まらないし、ごくごく素直な発想だ。

——任せた以上はっていうことですか。

髙田　そう。

——でもこの本をやると決めてから金子さんとは初めて対面したんですよね。そのインスピレーションっていうのは、どこからきたんですか？

髙田　彼に対して私が持ってるイメージ。これも理屈じゃないよ。試合の相手を決めるときの直感みたいなもんだね。理屈じゃない。これは金子達仁著になってるけど、私にとっては自叙伝みたいなものなんだよ。一生ものだね。だから納得のいくものを出したいという思いが強かった。

——じゃあ今回のこの本は髙田さんは納得してるんですね。

髙田　私を見ていた人間がひとりでもいるとすれば、見えなかった部分というのがたくさんあると思う。曲がりなりにも轍があるとしたら、その轍の核になる部分についてストレートに話してる。その核になっているところがしっかり伝われば、金子さん、そして私の言いたいことが、より感じ取ってもらえると思う。

——でも、これを出版することによってプロレス界から大反発を食らいますよ（笑）。

髙田　もうとっくに食らってるよ。

——プロレス業界にとってはヒール・髙田延彦（笑）。特に新日本からは反発を食らうだろうなぁ。その新日本が例年ドーム大会をやっている1・4にドリームステージがZERO—ONEと組んで、プロレスの新イベントをやるということですが。

髙田　代表がジャッジすることだからね。ただプロレスに足を踏み入れるということは、生半可なことじゃないよ。いま、『PRIDE』という最上級のイベントが現実として存在している。これと伯仲できるものをどうやってつくっていくの？　と。それができるのであればトライする価値があると思うし、ビジョンがないんであれば、私はやめたほうがいいと思う。

——いま、プロレスにも〝場力〟が必要ですよね。その〝場力〟をつくれるかどうかにかかってると思いますね。

髙田　テーマというか、何を柱にするのか。例えば、お手本をWWEにするのか、そうするにはどうしたらいいのか。プロレスというブランドイメージも落ちてるし、〝場力〟も薄れてる。そこからどういうビジョンでやっていくのか。ぼんやりとタレントを何人か集めたりするんであれば、失敗する（キッパリ）。

——『WRESTLE—1』の二の舞になると（笑）。榊原代表からプロレスに関して相談はないんですか？

髙田　そういう話はした。

——髙田さんにプロレス復帰の要請は？

髙田　ない。「なんでもやりまっせ！」に、それは入ってない（キッパリ）。

——さすがに（笑）。プロレスはプロレスで、『PRIDE』とは全く違った夢舞台を作っていくべきだと思いますね。ZERO—ONEにはプロレス界で唯一〝場力〟を感じるし、うまく転がればその可能性は大きいと思うんですよ。

『W-0』？過去の日本のプロレスの概念をすべてブッ壊して、ゼロから構築していけば可能性はあるよ

髙田　大きな覚悟と、しっかりした柱になるものを準備しないと、プロレスという夢舞台を構築していくのは難しいと思う。大きな意識改革をすればできないわけではないし、その可能性はあるとは思うけどね。

――WWEという成功例があるわけですからね。いわゆるテレビコンテンツとしてやっていけるというのが、アメリカでは証明されているわけですよね。すべてをWWEにならう必要はないけど、プロレスのパワーを戻すことが日本でできないことはないと思うんですよね。

髙田　仮にDSEがやるんであれば、まずは明確な定義づけをするべきだろうね。『PRIDE』とは何なの？　K－1とは何なの？　プロレスとは何なの？　どんなビジネスであれ、これから何かをつくりあげていくのであれば、これは逃げてはいけない重要な作業だよ。あるいは定義づけを確立してこそ、初めてそのイベントのコンセプトが構築できるんだよ。そこから逃げていると、例えDSEとZERO－ONEが組もうが、人気タレントをいくら集めようが、いいものはできあがらないよ。

――奇しくも、ドームで本部長が、マスコミが報道するところの「猪木追放宣言」を行って、今度DSEが1・4にプロレスのイベントを行う。これは完全に新日本にケンカを売っていると思われますね（笑）。

髙田　近年、イベントがぶつかるなんて珍しくないでしょ。

――プロレスのほうも、さっき言った意味での世代交代というか新陳代謝は必要でしょうからね。そういえば、新日本は髙田さんが言ったことに対して、過剰に反応するところがありますよね？

髙田　最近ではミルコへの挑戦者募集の件でだね。つくづく触られたくないんだろうな。本意じゃないけど、あれはただのサービストークだよ。心から求めてないから。周りが望んでいるようなリアクションがくるとは思ってない。

――永田選手がしきりに「プロレスの試合で髙田さんとやりたい」って言っているみたいですね。

髙田　向いている方向が違うだろ、彼の。いまとなっては、しっかり内側を向いて全身全霊、没頭するときだろ。いまの新日本っていうのはプロレスにプライドを持っていない人間の集まりだから。団体をあげてそれを証明し続けているからね。

――バーリ・トゥードに出て行くにしても、エンターテインメント方向に針を振るにしても、いわゆる宙ぶらりんな状態ですからね。

髙田　誇りが感じられない。

――さっき本部長が奇しくも言った、「プロレスをやるのは生半可じゃないよ」という、その「生半可じゃない」部分が見えないですよね。

髙田　「プロレスはそんなに簡単なものじゃねえんだ」「俺らの誇りを見ろ」という最も軸になる部分を彼らは捨てちゃったんだよ。そう考えると、この軸をしっかりと再認識した上で、過去の日本のプロレスの概念をすべてブッ壊して、それこそゼロから構築していけば、死にかけていたプロレスが持っている本来の凄み、面白さがメジャー・エンターテインメントとして甦る可能性はあるかもね。確固たる定義づけ、コンセプト、鉄のビジョンが完成すれば、ドリームステージが1・4にプロレスの新イベントを立ち上げるのは意味があることになるかもしれないね。

――プロレスにも“場力”が必要だし、その“場力”が必要なことを如実に示したのが10・5の『武士道』だと思うんですよ。『武士道』には『PRIDE』という冠が付きましたけど、初回だから当たり前にしても、“場力”というのは全くついていない。ドームを見てた『武士道』の自称・ADの佐伯さんが「これ、同じ『PRIDE』でもえらい違いだなぁ」って言ってましたね（笑）。

髙田　そうなんだよ。見るほうも『PRIDE』と付いてはいるけど、違うじゃないかと。騙されないよと。そういう見る力も付いてきているからね。でも始めた以上は、『武士道』をひとつのブランドにするまで正面から取り組んでいくよ。ひとつの重要な先行投資だからね。

――すぐに“場力”が付くわけではないですからね。

髙田　『武士道』って何なの？っていう部分。『PRIDE』のレギュラーイベントとは違う色合い、輝きを見せられるものを出さなければ意味がない。それをこれから構築していく最中だね。この間の『武士道』は、ハッキリ言うと、イベント的には面白くなかった。ミルコがいなかったらどうなっちゃったんだ？っていうのは、我々DSEも含めて誰もが感じているところだよ。あれだけのスキルとハートを持っている若い選手のラインナップだからね。足りないのは、プロとしての考え方。それを持たないと、いくらドリームステージがいい場を提供

統括本部長 髙田延彦 出撃宣言!!

してお客さんを集めても、ファイター自身が何のためにこのリングに上がるのか、なぜ『武士道』なのか。『武士道』に出ている選手こそが、そこを深く考えて意識した自分たちの世界をつくり上げていかなければ、『武士道』に〝場力〟は付かない。発言や入場の仕方も含てね。

――入場シーンは「あれじゃコスプレ大会だ」っていう厳しい声もありますからね。

髙田 だから何にも着飾らず、Tシャツ1枚で出てきたミルコが、一番光ってた。サクがマスクを被ったから俺も被ろうとか、それでお客さんも喜んでくれるだろうっていう考えは、大きな間違い。サクの場合は、これまでのファイトスタイルと実績というものがあるから入場と合致するんだよ。ブレている人間は、そこばっかりが残っちゃう。マイナスに滑稽に見られたりね。サクがスーパーマリオの格好で出てきたら、背筋がゾクゾクする。これは理屈じゃない。そういうことを『武士道』に出ている選手は自分で感じていかなきゃいけないと思う。それができ上がってきたら、次の『武士道』はガラッと変わると思う。

――次は変わるかもしれませんね。

髙田 〝場力〟が付く可能性はいくらでもある舞台だよ。

――そういえば、その『武士道』でハイアン（・グレイシー）に敗れた浜中選手が、髙田道場を退団したんですよね？

髙田 らしいね。

――らしいね（笑）。

髙田 世の中、回転が早いから。

――ズバリ言って、何が原因なんですか？

髙田 簡単な話、自信喪失だね。

――ハイアン戦で？

髙田 あれが決定打だったんだろうね。最後のスイッチを入れる材料になった。彼は向いてないよ、格闘競技に。あれだけの武器があっても、それを使いこなすコンピュータの中枢部が弱い。

――これからどうするんですか、浜中君は？

髙田 わからないよ。自分の人生を悔いのないように、しっかりと生きていけよと、それだけだよ。

――某プロレス団体に移籍という話もありますよね。

髙田 それは許さんぞ。私の唯一の主張はそれだけだ。

――じゃあ、その話は決まりの話ではない？

髙田 消滅だろ。

――なるほど。『武士道』といえばもうひとつ、『武士道』に出る予定だった山本（宜久）選手がドームでヒース（・ヒーリング）に敗れてしまったわけですが、この試合はどう見ましたか？

髙田 勝機はあった。それに背を向けてしまったのは山本で、実にもったいない。常に主導権を握っていたのは山本。突然落とし穴に落ちてしまったような負けだった。最後は、彼の〝場力〟が弱かったんだろうな。

――他の試合が凄すぎたのか、山本vsヒースは、決してつまんない試合でもない。でも会場の空気としては、一歩引いたようなものがありましたね。

髙田 山本が試合にラインナップされたときに、「山本が出るから行こう」ってなることが彼の存在価値だから。それを感じさせてくれたか、くれなかったかっていうのは、ファンのジャッジ。ただ勝ちを逃してしまったというのは明らかなわけだ。ヒース相手に優勢だったわけだし、最後は勝ちで締めれば、次の来たるべきチャンスを自分で勝ち取れた。それを逃してしまったのは、もったいない。

――リングス時代から、期待感を持たせる力は人一倍あったんですよね。ずっと練習に打ち込んできたのもわかったけど、何なんでしょうね、『PRIDE』っていう場が進化しすぎてるんですかね。

髙田 あの日のラインナップを見てもわかるけど、抜けちゃっているヤツらの集団だからね。ヒースは1～2年前まではトップ集団だった。それがああいう風にかすんで見えてしまうっていうのは、いまの『PRIDE』のレベルは恐ろしいよ。ハッキリ見えてしまう怖さがある。

――実に恐ろしいですね。でも、そういう恐ろしい場から、大晦日に新たな〝男の中の男〟が現れることを期待しますよ！

髙田 また夢を見ようよ、お互いに！（親指を立てて、〝おまえ男だ〟ポーズ）

【11月12日／ラフォーレ東京にて収録】

12・31大晦日大戦争！ "胸さわぎ"の根源を探れ!!

PRIDE K-1 NHK

みんな猪木の

ターザン山本
狂気の大炎上!!

格闘技が紅白から"分母"を奪う!!
これは猪木の60年戦争ですよぉぉぉ!!

罠にハマッた!!

——さぁ、山本さん！　大晦日に3つの格闘技イベントが行われることになり、もうマット界はグチャグチャですけど、面白いことになってきましたね！

ターザン　面白いね〜、オレはさぁメチャクチャ興奮してきたよォ！

——というわけで今日は、山本さんにこの「12・31大晦日決戦」が我々を興奮させる、その根源とはなにか？というテーマで伺っていきたいんですけど。

ターザン　それを話すために最初に言わなきゃいけないのは、「初めに猪木ありき」ということですよ！

——猪木ありき！

ターザン　そもそも、この『イノキ・ボンバイエ』を今年は日本テレビをやるというのは、遠大な仕掛けなんですよ。みんな物事をミクロで捉えるから、猪木さんが『PRIDE』から逃げて日本テレビに行ったとしか思わないんだけど、これを一歩引いて見てみると、初めから猪木さんがある意図を持って仕掛けた、大きな大きな罠だということに気付くんですよォォォ！

——その「ある意図」っていうのは、ズバリ何なんですか？

ターザン　簡単ですよ！　格闘技イベント

聞き手／堀江ガンツ
designed by hisa（Two Three）

曙とは平成の密林王!!

グレート・アントニオ

を3つにすることで、紅白を本気で潰しにきたんですよォ！

――紅白潰しの罠！

ターザン　今まで2年連続、紅白の裏で『猪木祭り』をやってきて、視聴率も健闘はしているけど、16％ぐらいがやっとで数字的に限界が来てるわけでしょ？　要するに一つの格闘技イベントでは紅白を潰せないと気付いたんですよ。だったら、その牙城を崩すために、もう一つや二つタマが必要になるじゃない。

――一本の矢では折れるので、三本の矢を使うということですね（笑）。

ターザン　そう！　イベントを3つにするために、まず自分が『PRIDE』から出ていって日本テレビに行く。そうすれば裏切られたDSEは本気になるし、怒るし、モチベーションは上がるし、コイツらは絶対にやるだろうと。そうすると今度は『タイソン・ボンバイエ』をやろうとしていたK-1も、ライバル心から『PRIDE』に対抗してやろうとするから、初めから3つできると読んでいてわざと抜けたんですよ！　全部、猪木さんの思い描いた筋書き通りですよォォォ！

――じゃあ、『PRIDE』はまんまと策にハマったわけですね（笑）。

ターザン　見事なほどハマりましたよ。猪木さんが掌に乗せるということはこういうことですよォ！　3つになったことで世間では完璧に「格闘技連合軍vs紅白歌合戦」という構造ができたので、これは無茶苦茶揺さぶりになるわけよ。3つの視聴率を足したもので紅白に対抗すればいいんだから。ハッキリ言ったら衆議院選挙と一緒ですよ。自民党と民主党の二大政党でしょ？　猪木さんは二大政党時代を作っちゃったわけですよ。

――紅白と格闘技の二大政党ですか（笑）。じゃあ、下手するとNHKに代わって、連立与党になる可能性すらあると。

ターザン　ある！　連立して過半数取ればいいんだから！

――でも、連立政権が全部格闘技ってどんな国なんでしょうね（笑）。

ターザン　違うんだよ！　日本は今、もの凄いショッパイ時代に突入してるんだよ。ドショッパイ時代に！

――日本国2000年の歴史上、最もドショッパイ時代ですか（笑）。

ターザン　何をしていいかわからない、ドショッパイ時代ですよォ！　家族の価値観とか教育、文化、宗教、政治、経済、倫理観とか哲学とかぜ～んぶが何も新しいことを生み出してないわけよ。もうゼロになってるわけですよ。その中でテレビなんか見たって、くっっっだらないバカの上塗りみたいなものをやってるわけでしょ？　それに比べたら格闘技はシュートでありセメントでありガチンコですよ！　この国に微かに残された首の皮一枚のガチンコですよ。だからもう、藁をも掴む思いで格闘技を放送してるわけよ！

――周りがみんなドショッパイから、相対的に格闘技が浮き上がってきちゃったわけですね（笑）。

ターザン　そう！　だからこれは、あんまり好きな言葉じゃないけど、猪木さんがずっと訴え続けてきた「市民権」を得る唯一で最大のチャンスが来たんだよね。

――プロレス市民権運動！　随分、長い時間をかけたアングルですねぇ！（笑）。

ターザン　超ロングスタンスで生きて行かないとダメなわけよ！　世間と世の中に対してコンプレックスを持ってた猪木さんが、そのコンプレックスを60歳にして果たすときが、いまやっと訪れたんですよォォォ！

――猪木vs世間の60年戦争決着の時なわけですか（笑）。

ターザン　だから、これだけ話題を独占した猪木さんは生まれて初めて史上最高の勝利者になってるわけですよ！　大晦日っていうのは日本人にとっての唯一の共通分母なんだよね。これまでは共通分母＝紅白歌合戦だったわけ。その共通分母に一枚加わって来たわけですよ。

――猪木による分母乗っ取り（笑）。

ターザン　もう分子は細分化されすぎて、分母は形骸化してしまったわけですよ。その形骸化した分母の一番いい例が紅白歌合戦でしょ？　猪木さんはその紅白が形骸化した隙をついて、3つの格闘技イベントで分母を奪いに来たわけですよ。

――分母を奪うために3つに分かれたと。

ターザン　だから、大晦日のイベントが何で3つに別れたかって言ったら分裂したからじゃないんだよ。要するに別れながら大きくなってるんですよ。だって猪木さんがやったことを考えてみたら前田、佐山、藤原、高田、長州とみんな新日本プロレスという太い幹から枝葉が分かれていってるんですよ。一見、喧嘩したり、離脱とか、分裂とか非常にネガティブなことが起こってるけど、それによって世界が広がってるんですよ。大晦日も同じことですよォ！

――猪木イズムが細胞分裂を起こして、どんどん世間を浸食しちゃってるわけですね（笑）。ということは、僕なんかはK-1が曙と契約したことで猪木さんは悔しがってるだろうなと思ってたんですけど、そんなことないんですね？

ターザン　全然悔しいと思ってませんよ！「ああ、これは俺の良く使った手の一つだ

な」「これはマクガイヤー兄弟、もしくはグレート・アントニオだな」ぐらいに思ってますよ！

——曙は密林王グレート・アントニオですか！（笑）。

ターザン　そうですよ！　グレート・アントニオが出てきたとき世間は大騒ぎしたんだから。猪木さんから見たら「何だこんなもん、力道山もやったし俺だってやった」ってなもんですよ。曙のK-1参戦は、グレート・アントニオのバス引っ張り事件ですよォォォ！

——平成のバス引っ張り事件（笑）。それはジェラシーを抱きようがないですよね。

ターザン　ジェラシーどころかせせら笑ってますよ！　あいつらは鬼の首を取ったようにやってるけど、俺が持ってた遺伝子が刷り込まれただけじゃないかって、鼻で笑ってますよ！　逆に一番「やられた！」と思ってるのは『PRIDE』ですよ。ホントは『PRIDE』も、ああいうキワモノが欲しいんですよ。世間に対してあれが一番強いのはみんなわかってるから。でも、それができなかったでしょ？　そうしたら猪木さんが馬場さんにやったように、「我こそはストロングスタイル」って言うしかないじゃない！

——なるほど！　11・9の「純度100%混じりっ気なしの『PRIDE』」という発言は、高田本部長のストロング・スタイル宣言なわけですね（笑）。

ターザン　そう！　黒いタイツとかルー・テーズとかゴッチイズムとか、昔、猪木さんがやったあの路線ですよ！　だからあっちではバス引っ張って、こっちでは黒タイツ履いて、どっちも猪木さんが作ったものを継承してるんだから、しめしめと思ってますよォォォ！

——K-1も『PRIDE』も猪木さんのリバイバルでしたか（笑）。

ターザン　もう明確にハッキリとそう言える！　オリジナルが衝撃的だったから、形を変えてやると新しい物に見えるんですよ。でも、結局はグレート・アントニオもああいうスキャンダルのハッタリでしょ？　そりゃ曙だってハッタリですよ！　だって曙はK-1の技はできないんですよ？　グレート・アントニオはプロレスの技はできないんですよ？　一緒じゃないの！　同じキワモノじゃないかそんなもん！

——確かにそうですね（笑）。

ターザン　試合にならないのに、そういう化け物的風景に対して期待してるんですよ。ただ、横綱という前歴があるから騙されるだけで、根っこは一緒ですよ！

——言い方は悪いですけど見世物としての興味は凄いものがありますもんね。

ターザン　見世物があれだけのスケールになったら「是」なんですよ。スケール感によって是か非かが決まるんですよ。

——じゃあ、今回の一件は、猪木イズムのスケールの大きい細胞分裂が世間を乗っ取ったってことですね。

ターザン　完璧に乗っ取った！

——これからはおそらく3団体がガンガンやりあって、その効果としても紅白の対抗馬としての格闘技が3つともドンドン盛り上がるから、ますます猪木さんの思うつぼなわけですね。

ターザン　だってこれは格闘技同士で戦争しながら紅白とも闘ってるでしょ？　これはダブルスタンダードなんで凄い面白いわけですよ。猪木さんからしたら右を向こうが左を向こうが面白いわけ。だから『猪木祭り』っていうのは、大晦日に日テレがやるイベントのことじゃないんだよ。あれは『イノキ・ボンバイエ』という"祭りの一部"であって、ホントはいま現在から大晦日までに起こることすべてが『猪木祭り』なんだよォォォ！

——紅白も含めて日本全体が『猪木祭り』であると（笑）。

ターザン　そういうことですよ！　飽きないよこの好奇心は。だって何一つ確定してないんだから。これは当日まで引っ張られますよ。だからオレたちはもの凄い長いこと楽しめますよ。何も決まってないってことは凄いことなんだから。こうなったら逆に決まったらいけないんだよ。

——じゃあ『猪木祭り』の最大の楽しみ方っていうのは、今から日々、一喜一憂するっていうことですね。

髙田の言う「ピュアなPRIDE」とは、苦しまぎれのストロング・スタイル!!

高田は美しい大馬鹿 谷川は小賢しい馬鹿 そして一番馬鹿を見るのが日テレですよぉぉぉ!!

アントニオ猪木プロデュース
大晦日スーパー総合格闘技イベント

ターザン　その不確定要素だらけの中で、ひとつだけわかってることがあるんだよ。

――なんですか？

ターザン　それは、3つのイベントの中で、猪木さんの日本テレビが一番、ドショッパくなるということですよォォォ！（笑）。

――ガハハハハ！　やっぱり（笑）。

ターザン　猪木さんは、そんな細かいことに興味持ってないし、細かいことは苦手なんだから。自分の足下なんてどうでもいいんですよ。

――散々かきまわしといて、いつものように「俺は触ってねぇですから」となるわけですね（笑）。

ターザン　だから猪木さんのそばにいる人が一番迷惑を被るわけですよ。猪木さんの目的は日本テレビを成功させることじゃなくて全体を成功させることだから。我関せず、無責任ですよ！　責任があると言うと格好いいけど、逆に責任というプレッシャーで人は保守的になるから構造改革できないでしょ？　その点、猪木さんは無責任だからこそ構造改革ができるんですよォォォ！

――なるほど。で、ちなみに山本さんが一番注目してるのは、3つの内どれですか？

ターザン　それはもちろん『PRIDE』ですよォー　だって猪木さんに対して「去る者は追わず」って言ってるんですよ。これは本来、格上の者が言う言葉なんですよ。それを格下の人間が猪木さんに向かって言ったら、それ自体がバランスを欠いていて日本語が変なんですよ。つまり、猪木さんに磁場を完全に狂わされてるんだよな。逆に言うと、『PRIDE』は磁場が狂いながら本気になってるから一番怖いわけですよ。

――何をしでかすかわからない（笑）。

ターザン　もう窮鼠猫を噛む論法ですよ。『PRIDE』には『猪木祭り』という看板がない、曙というタマもない、何もないんですよ。だから窮鼠猫を噛むしかないんですよ。笑える話だよこれは！　そして、その3つの中で一番頭がないのはK－1ですよォォ！

――ガハハハハ！　K－1は頭がないですか（笑）。

ターザン　だってそうじゃない。グレート・アントニオにパクって喰いついちゃったんだから一番頭がないよォ！　世間的にはそれが一番成功するんだけどね。なぜ成功するかと言うと、大晦日なんて日は誰も何も考えてないから曙が成功するんですよ。思考ゼロの空間だもん。

――ソバ食いながら、ひたすら新年を待ってるだけですもんね。

ターザン　大晦日なんて、1年の最後ということで、人々はちょっとだけ感傷に浸っているけど、所詮、正月のための噛ませ犬なんですよ！

――大晦日は正月の噛ませ犬！（笑）。

ターザン　思考がストップして1億総白雉化してる日なんだから、曙でいいんですよ。そんな日にストロングスタイルをやろうとしてるんだから、『PRIDE』は美しいよな。21世紀最初のドンキホーテだよ。高田は風車に向かって突進してますよ。「行けーッ」って（笑）。こんな美しい高田は見たことないよ。本気で「打倒・猪木」、「打倒『猪木祭り』」を考えてるんだから。でも、猪木さんはそんな事はどうだっていいんだよな。

――「触ってねぇんです」ですからね（笑）。

ターザン　だからホントは何の意味もないんですよ。それでも、この日にストロング・スタイルでやろうとしてる『PRIDE』は美しいよ。これこそ猪木さんの言ってる「馬鹿になれ」ってことですよォォ！

――今年の日テレ版『猪木祭り』のテーマは「馬鹿になれ」ですけど、裏番組の『PRIDE』が真っ先に馬鹿になっちゃいましたか（笑）。

ターザン　美しい大馬鹿ですよ！　そして曙を連れて来たK－1は小賢しい馬鹿なわけですよ。その代表がまさに谷川だよな！

――小賢しい馬鹿の代表（笑）。でも、高田延彦は美しい大馬鹿なんですね。

ターザン　細かい求心力が積もり積もってるね。だから美しいんですよ。そこが谷川みたいにどうでもいい遠心力だけで生きてる男、人生を舐めきってる男との違いですよ！

――美しい馬鹿だからこそ、高田さんもヒクソン戦をやっちゃうと。

ターザン　そう！　あれは20世紀最大の大馬鹿ですよ！　馬鹿が時代の扉を開いた

俺だったら曙vsサップの前座に 大仁田 サスケ 長州 を出して "ハレンチの懸け橋"にする!!

んですよ。逆にそこで馬鹿になれなかったのが佐山サトルと前田日明ですよ。なまじ頭があったから。本来、『PRIDE』のリングには佐山と前田がいないとおかしいわけよ。

――そうですよね。

ターザン ところが、佐山と前田は自分のアイデンティティがしっかりしてるから、自分の物差しを捨てられなかったんだよな。その点、高田は物差しがないから！

――高田には物差しがない！（笑）。

ターザン 物差しがないという才能ですよ。だからヒクソン戦に「イエス」と言えるんですよ。前田とか佐山はイエスと言わないもん。だから高田が統括プロデューサーになって当たり前ですよ。勲章ですよ。

――ちなみに、今年"馬鹿になった"中西学選手はどうなんでしょう？

ターザン あれは馬鹿の周回遅れですよ！

――ガハハハ！ 遅すぎた馬鹿（笑）。

ターザン 馬鹿もあそこまで遅れたらどうしようもないですよ。しかも負けたのはTOAだよ？ 負けても何の意味もないじゃない！ 馬鹿になったら馬鹿になった分だけの見返りがないといけないんだから。ヒクソンに負けた高田はもの凄い見返りがあったわけですよ。その差は決定的ですよ。

――しかも高田さんは引退してから本部長として、ますます馬鹿になりきってますから、パワーアップして当然なんですね（笑）。

ターザン もうこの間のドームなんて、無限大の馬鹿ですよォォォ！

――11・9は「馬鹿無限大記念日」（笑）。

ターザン 一番馬鹿になって、一番やる気満々だから、俺は『PRIDE』が一番興味あるわけよ。K-1の場合は、もう曙で出来あがっちゃってるから。

――今さら真面目なカードを組んでも遅いですよね。

ターザン あとはオマケですよ。だから俺だったら『Dynamite!!』で、『猪木祭り』のエッセンスを全部やる。6チャンネルを見ればこの10年間のマット界の状況がすべて見れますよという形で、全部寄せ集めますよ！

――一番ハレンチにすると（笑）。

ターザン とことんハレンチにしますよォ！ だからK-1からプロレスから女子プロまで全部やる！ もうここまで来たら、サスケも大仁田も馳も議員レスラー全部出して、世間というものはこういうものだって見せつけますよ！ ついでに落選したポーゴもアンダーカードで出すから！

――第0試合で（笑）。

ターザン 「この男が落選した男です」「世間に敗れた男です」ってやりますよ！ そしてもちろん長州力も「2003年ド真ん中男！」として出すんですよォォォ！

――ガハハハ！ 休憩前ぐらいの、「ド真ん中」の位置で（笑）。

ターザン そうそう！（笑）。もう、とにかくみちのくから女子からすべて集めて、ハレンチな『夢の懸け橋』にしますよ。『ハレンチの懸け橋』ですよォォ！

――ガハハハ！ それは見たい！

ターザン どうせくっだらない大晦日なんだから、K-1ファイターとか出しててもしょうがないですよ。曙vsボブ・サップの下にはサスケと大仁田ですよ！ 違うか？

――ピッタリです！（笑）。

ターザン これ以上のタマはないですよ。

――いやぁ、今からでも山本さんに『Dynamite!!』のプロデュースやってもらいたいなぁ（笑）。

ターザン 俺がやれば成功しますよ（キッパリ）。ところが実際は、谷川と柳沢でしょ？ 石井館長も人を見る目がないよな！ 俺こそマット界の竹中半兵衛、黒田官兵衛ですよ！

――俺こそが軍師だと（笑）。

ターザン （小声で）でも、俺がやるとすべて乗っ取ってしまうんだよね。（さらに小声で）そうすると、館長も立場がないでしょ？ みんな挫折感を感じるわけですよ。だから、もうやる前から俺の勝ちなんですよ！

――ガハハハハ！ 大晦日の勝者は俺だと（笑）。

ターザン 完全に俺の勝ちですよォ！ 大晦日は俺のモノだァァ！ 1、2、3、ダァァァァァ！（声が裏返りながら）

――ありがとうございました（笑）。

【03年11月14日／代々木『土風炉』にて収録】

スキャンダルという船に乗って『猪木祭り』出航!!

『イノキボンバイエ2003～馬鹿になれ 夢を持て～』

他局に移って超パワーUP!?
今年は日本テレビで放映!!

構成／ジャン斉藤
designed by matsu (Two Three)

ミルコ・クロコップ参戦!
相手は高山が有力!?

今年は日本テレビでやりますかーッ!! 毎年恒例となった『猪木祭り』は、今年は『PRIDE』と『Dynamite!!』と対峙する未曾有の興行戦争となるが、アントン総帥は自信満々ンムフフフ! 開催発表会見、成田会見でも放談三昧ダーッ!!

「〝スキャンダル〟という船に乗って、『イノキボンバイエ』が今日、出航します!! ンムフフフ!」

11月11日、日本テレビの新社屋。アントン総帥は時節柄、日テレ関係者がキモを冷やしかねない冒頭の言葉を発して、『イノキボンバイエ2003 馬鹿になれ 夢をもて』の開催を宣言！ 二年連続TBSにて放映され、脅威の視聴率で紅白歌合戦を脅かした『猪木祭り』は、今年は日本テレビから放映されることになった。

会見に出席したのは、アントン総帥、ケイ・コンフィデンス代表取締役の川又誠矢氏、ミルコの代理人ミロ・ミヤトビッチ氏、日本テレビ編成局次長の進藤卓氏、日本テレビ編成局スポーツ担当の宮本修二プロデューサー。司会は、大会当日の実況もつとめる福澤〝ジャストミート〟朗。かつての全日本プロレス中継名物アナだ。

会見では、ミヤトビッチ氏の口から、ミルコ・クロコップの参戦が正式アナウンス！ ノゲイラ戦の「ケガもなく、パワーとスピード、そして危険度もバージョンアップした姿を見せる」と、再起を懸けるミルコ本人からのメッセージが伝えられた。ミルコの相手は高山善廣が有力視されているが、アントン総帥は「格闘ボーダレス、目いっぱい欲をかいて仕組んでいきたい。閉塞状態の世の中、馬鹿をやってみたいけど、テレがあってできない人がたくさんいる。オレがみんなの代わりに馬鹿をやってやろう」と言うだけに、「NHKから届いた（?）」という箱をあけると、中には紅白まんじゅう！ そんな馬鹿馬鹿しいにもほどがあるパフォーマンスも披露したのだ！「オレは糖尿なのになぁ」と苦笑いしながらも、文字通り〝紅白〟にかぶりついたアントン総帥は、「紅白にも呼ばれれば行きます！」と裏番組出演もブチ上げる。

こうして魔性のアクセル踏みっぱなしのまま、13日に行われた恒例の成田空港会見でも、報道陣が恐れおののく戦慄放談！ それでは、ゴーゴー成田会見！

猪木 はい！ どうぞ！ ンムフフフ。

――今回はどちらに行かれるんですか？

猪木 どちらって……ねえ（笑）。ニューヨークに帰りますよ。大晦日に向けて流動的に動いてますから、とりあえずニューヨークに戻りまして、遠くから眺めるのもいいかなと。

――ニューヨークに戻って、一番考えることはなんでしょうか？

猪木 えぇ？ みんなで考えてよって、もう。ンムフフフ。まあ、せっかくこういうこと（大晦日に3大会開催）になりましたからね。私の基本的な考えは、みんなで仲良くできたらいいなと。でも、現実というのはなかなかそのとおりにいかなかったりしますから。これから4（チャンネル＝日本テレビ）、6（チャンネル＝TBS）、8（チャンネル＝フジテレビ）ということでね。格闘イベントが出揃ったのは面白いなあって考えてます。格闘技が年末の行事として注目される時代はすごく嬉しいなと。皆さんはどうしても、今回は格闘技戦争として捉えてしまうかもしれないですけど。それはそれでいいじゃないですか、対立構造として。みんながある意味でそれぞれの個性を出せばね。

みんなと仲良くできたらいいけど 現実はそのとおりにいかなかったりしますから

日本テレビの会見でも、「対抗意識がないと言ったら嘘になるけど、理想を言えばみんな仲良く」と語った〝平和が一番〟アントン総帥。しかし、曙の『Dynamite!!』参戦に関しては、「出ること自体は否定できないし、仕掛けた石井（元・館長）さんは大したもの」と前置きしつつも、「プロレスでも、ゲテモノを出した結果ツケが来てしまったことがある」と、暗に批判するような発言をチクリ。それにしても、ゲテモノって……。

猪木 今回のイベントというのは、それぞれの個性が出てくると思うんですけど。ボンバイエ（『猪木祭り』）は3年終わって今回4年目ということで、ボンバイエ自体の転機というか、こういう自体（放送局が変わったこと）も転機だろうしね。番組のつくりかたも変わってくると思います。みなさんでつくってもらうと言うとアレかもしれないけど。基本的に俺たちが基礎はつくりますけど、どれだけ人を巻き込めるかって考えれば、たとえば、「みんなで世の中、ボヤててもしょうがないよ。汗を掻こうよ」って一歩踏み出す勇気っていうかな。こういうイベントをきっかけに、一歩踏み出してほしいというか。たとえばの話、全国から（会場の）神戸（ウイングスタジアム）まで歩いて集合しようよと。北は北海道から南は沖縄まで、俺が出したメッセージのお返しにくるとかね。そういうことをやったら盛り上がるんじゃないかと。もうひとつは、世相を反映させたような（イベントにしたい）。『ジャングル・ファイト』とかね、森林保護と格闘技（のテーマ）を最初に俺が投げかけたときは「馬鹿げてる」とか言われましたけど。アマゾン川にステージを組んでやること自体、誰もが非常識だと思うんだけども、結果的には非常に大きい反響が出てね。森林保護に興味がなかった人たちが興味を持ってくれる。逆に（今回の『猪木祭り』は）格闘技を見てない人が興味を持ってくれればいいと思います。そういう意味では、俺は前から「この世界から自立するときがきますよ」って言ってきましたけど。いよいよおかげさまで、完全に俺の手の中で手応えがガチっとね。そ

会見場に設置されたリングで開催発表＆質疑応答。左から宮本・日本テレビプロデューサー、進藤・日本テレビ編成局次長、アントン総帥、川又誠矢・Kコンフィデンス社長、ミルコの代理人・ミヤトビッチ氏。司会を務めた福沢アナはじつに7年振りの実況席復帰となる。なお、他の写真に見られるバックの殴り書きタイトルは、この質疑応答後にアントン総帥自ら腕を振るって書いたものだ。かくのは恥だけじゃねえんです。な〜んつってな。ンムフフフ!

の発表のほうが世界がひっくり返る話なんで。前にも言ったように俺の夢は発電機ですから。こないだ「世界に明かりを灯す」と言いましたけど、いよいよ動き出したというか、ここ一年を費やして、現実にここまで来たんでね。だから、そういう意味で、今回のイベントで猪木色を出すとなると、単なる格闘技イベントだけってわけにはいかない。社会現象であり、あるいは環境問題であり、全体のかたちとしては多少ね。そういうモノもできたらいいんじゃないかと思います。

社会現象に環境問題！　もはや常人には考えも付かない方向に話は転がり、計画頓挫の噂もあった永久電機まで飛び出した！　すっかり『猪木祭り』から180度話題が変わってしまったわけだが、大晦日での御披露目を匂わすなど、グルリと一周して無事着地！　招聘しなくても駆けつけるイズマイウの動向を含めて、『猪木祭り』は〝リング外〟にも注目するように！

――去年の『猪木祭り』のように全国行脚することもありえるんですか？

猪木　それも考えてますけど。いつもいつも同じようなことはやりたくないですから。ある意味では違う発想で熱いモノができたらいいかなと。

――……（質問が止まる報道陣）。

猪木　なんでも聞いてよって。何を聞いたっていいんですよ、俺には。（報道陣を指差し）「髙田選手は？」なんて聞きたそうな顔してるじゃん。ンムフフフ！

――いや、別に（笑）。

猪木　まあ、髙田なんかどうでもいいんだけどね、俺は。ダーッハッハッ！

11月9日、『PRIDE』のリングで飛び出し大反響を呼んだ、髙田本部長の〝去る者は追わず〟発言。日本テレビの会見では「俺が『ジャングル・ファイト』で猿を持って出て来たのに引っ掛けたのかな？」と、トボけた発言で受け流した。わずか数十人単位にしか届かないボケではあるが、面白いから問題なしだ！　そして「俺もスキャンダルには慣れてるからさ、最近悪口がなくて寂しいなって思ってた矢先だしね。普通は怒ったほうが面白いかもしれないけど、怒る気もならない」と大人の態度を取り続けたアントン総帥だったが、『アントニオ猪木の謎』著者である加治氏の言葉を借りれば、「どうでもいいものこそ、どうでもよくない」アントン総帥である。「俺は『PRIDE』から一銭も貰ってはない。ということで、髙田君も頑張れ！」と、なにやら含みを持たせながら強引に締めたのであった。

猪木　まあ、名前が消えちゃった選手、飯が食えない選手たちが（大晦日決戦で）とりあえずメシが喰えればいいなって思いますよ。ムフ！

『猪木祭り』より、世界がひっくり返る話があります！ おかげさまで、いよいよ電機が動き出すというか

――出たい選手はすべてウエルカム？

猪木　まあ、今日はあっちにずいぶんと来てるみたいなんで。

ドラゴンと新日本32匹、成田空港を大行進！　空港警備員は大迷惑！

この日、藤波社長を筆頭とする新日本プロレスの所属選手＆スタッフ一団がアントン総帥を見送りに訪れていた。

猪木　新日本をみんなに任せてたんですけど。何回かメッセージを送ったけど、受け取れなかったというかね。俺の個性というか閃いたモノは他人には見えないし、「ホラ、どうだ！」って言ったところで、俺が見えてるんだけどなかなか伝わりにくい。今回、格闘技戦争が年末に行われるんですけど、新日本の独自性が問われると思うんですよね。ハルク・ホーガンを連れてきて、どれだけバリューが上がったかといえば、終始のとおりだし。俺たちの時代は独自の選手を育ててきましたからね。だから、言葉は悪いけど、新日本は一度、全部棚卸ししろと。全員出せと。

「ケガをしてる選手は1月4日に向けて全力で治せ！」と、藤波社長がムチャクチャな命令を出してしまうほど、新日本プロレスが文字通り全勢力をぶち込む「1月4日東京ドーム・所属全選手参戦計画」。どうやら「選手が一致団結して新日本の原点へ回帰」「リストラ査定マッチ」の狙いもあるらしいが、どうにもヤケクソとしか思えないこの仰天プラン。得体の知れない興行（『LEGEND』、『X－1』とか）を体感したいのはプロレス者の性だけに、ホントに興味が沸いてしょうがない！　前回のドームが見事にコケているだけに期待

早くも動乱巻き起こる！ 『猪木祭り』劇場開幕！

Naoya Ogawa

「年末に関しては、知らねえというしかない」
小川、出場をやっぱり否定！

『猪木祭り』開催発表会見にて、ミルコの代理人が「ミルコの対戦相手は藤田か小川と聞いている」と発言したことで、小川の参戦が急浮上！　しかし、小川は「選手は人間で物じゃない。思ったものを思ったようにやるのが選手ですから」「知らねえというしかない」と、他のプロモーションを含めて、大晦日決戦は頭にないことをすぐさま明言した。一昨年の『猪木祭り』、『LEG-END』と、2年連続ボッ発していた小川出場騒動は、今回は早くも終幕となった。

Yoshihoro Takayama

「『興味がない』と言ったらウソになる」
高山、ミルコ戦に意欲！

「あれだけ勝ち続けている選手だし、ゆかりのある人間も負けている。『興味がない』と言ったらウソになる」と、vsミルコ戦で『猪木祭り』参戦意欲があることを明言した高山。『Dynamite!!』、『PRIDE』からも触手が伸びるだろう高山は「ヘリコプターをチャーターすれば、1日3大会に出たら稼げる」と、和泉元彌ばりの仰天行動を示唆。いずれにせよ、二年連続大晦日参戦は確実だ。

はしたいが……。アントン総帥は、その10・13ドーム大会についても言及した。

猪木「興行はうまくいってます。客は入ってます。4万人5万人入りました」って、そんな嘘っぱちの数字聞きたくないって！　世間は誤魔化せないんだから。そういうことで幹部会で怒ったんですけどね。

その後もアントン総帥は「こないだ藤波がわざわざパラオに来たんでね、『お前、裏で何て言われてるか教えようか？　閃かない藤波って言われてるんだよ』」と、わざわざ南の島でドラゴン風評を告げたことを告白。「え？　そんなことは……」といまさらながら驚いたらしいドラゴンもドラゴンだが、「藤波にアドバイスはしたけど、俺の言ったことは何分の一も伝わってないだろう」ともアントン総帥はズバリ言うから、自分がどう思われてるかなんて一生閃かないでしょう（ペールワン戦後のアントン風）。外で待機していた新日本一団は会見終了後、アントン総帥と面会。蝶野が「大晦日協力しますんで1・4（新日本の東京ドームに）来てください！」と頭を下げ、上井氏も『Dynamite!!』、『猪木祭り』に選手派遣を宣言した。この姿勢には、「俺を敵に回すなら、新日本なんか一発で潰してやる！」と吠えて止まないアントン総帥も……。

猪木　やっと新日本も面白くなってきたというか。やっぱり馬鹿になんないとできないじゃん。ホントに馬鹿になったらマズイけど、大衆が喜んでくれることに対して、何を表現していけばいいかっていうのがプロだと思うしね。俺はプロという言葉に誇りを持っているんで。かつて10年、20年前はかならずお金の問題が出ると、「俺たちはプロじゃない！」ってアマチュアの人は啖呵を切っていたけどさ。冗談じゃねえやって。裏では金もらってやっていて、表向きはそんな看板を掲げてさ。いまは時代が変わってますからいいですけど。俺はずっとそういう歴史を歩いてきたわけだから。「嘘と真」「表と裏」というかさ。だから、いまちょっと考えたのは、「裏も見せ、表も見せて、格闘イベントかな」って……。

――……（固まる報道陣）。

猪木「裏も見せ、表も見せて、紅葉かな」っていうのがホントの文なんだけどね。

ホントのホントは「裏も見せ、表も見せて、散る紅葉かな」と良寛は歌ったわけだが、散ってはいけない格闘技界だからこそ、アントン総帥はわざと省いたに違いない！　それにしても、裏ってなんだ？　ここから、報道陣絶句のアントン・スパート！

猪木　でもよぉ、裏を見せたくないとこいっぱいあるだろ。俺より、裏話知ってるんじゃないの？（報道陣に向かって本当に本当に嬉しそうに）。

――いやいや（笑）。

猪木　えぇ〜!?　汚ねえなあ！　知らない顔して、ホントにもう。ンムフフフ。ダーッハッハッハッ！

――は、はあ。

猪木　今回はテレビ局の争いになったわけですけど、番組上で裏を見てもらってもいいかなって思いますよ。他のところとは言わないよ。でも、裏が汚すぎるじゃんかよ。俺らは青少年の夢を追ってきて、そういうモノとできるだけ触らないようにね。俺は唯一誇りを持って言える。芸能界とかこことか、みんな色目で見られているモノとはできるだけ交わらないようにやってきましたからね。そこだけは、そういうイベントをやる人たちは心してもらいたいですね。俺はそういう意味では嘘はつかないですね。時々嘘をつくけどな、女の子に。いや、女房にか。ダーッハッハッハ！

もはやどうにも止まらないアントン総帥は、ミルコの母国クロアチアを訪問するプランも明かした。選手の「隠し玉はない」けど「夏でもないのにオバケが出ます」とうそぶくなど、「アッ！と驚かせる」ことが信条なだけに、『PRIDE』スペシャル、『Dynamite!!』、そして世間に向けて、何を発射するのか期待大！　今年は「日本人プロレスラーvs世界の格闘家」がテーマというが、『猪木祭り』の常設コンセプトが「カオス」であることは、賢明なる『紙プロ』読者なら御存知だろう。いつ何時、何が起こるのかわからないのが『猪木祭り』。アントン総帥を軸に、ド肝を抜かれる展開が年末を襲うことは確実なのだ。それでは皆さん、スキャンダラスの船に乗り込みますかーッ！　ンムフフフ！

神戸にいこうべ！
な〜んつってな、ンムフフフ！

『イノキボンバイエ2003〜馬鹿になれ　夢をもて〜』

【日時】
12月31日　17:00〜（開始予定）

【会場】
兵庫・神戸ウイングスタジアム

【出場予定選手】
ミルコ・クロコップ

【放送】
日本テレビ系全国ネットにて
12月31日放送（時間未定）

【チケット】
11月30日より全国プレイガイドにて一般発売

New Japan Pro-Wrestling

「協力するからドームに来てくれ」

ブレーキが壊れた新日本、迷走要求

アントン総帥を見送りに成田空港に訪れた新日本一団は、『猪木祭り』参戦＝1・4ドームアントン来場という、物々交換に近いかたちで協力することに。これにより成瀬や長井が送り込まれることが濃厚となるなど、違った意味でハラハラドキドキする大晦日になることは必至だ。新日本は『Dynamite!!』にも選手を派遣。『PRIDE』をのぞいたトライアングル関係で興行戦争に関わることになる

Noah

「話があっても100%ない」

仲田龍、絶対に許さん!!

「秋山ってのは（格闘技が）できるんじゃねえか」と、アントン総帥が興味をのぞかせたり、宮本プロデューサーも「小橋選手とかが出場したら面白くなる」と発言。ノアTV中継をしている日本テレビのパイプもあることで、ノア勢の参戦が浮上したが、ノアのドラゴンこと仲田龍氏は「日本テレビには申し訳ないと思うが、仮に話があっても可能性は0％」と、門前払い以前の問題と切り捨てた。

2003.11.18

K-1 WORLD MAX

魔裟斗、K-1にダメ出し!!

「最近のK-1のエンターテインメント化は嫌だ!!」

構成／スモーノブ　撮影／乾晋也
designed by matsu (Two Three)

ハイで意識を散らしながら、右ローが炸裂！対戦相手のビンス・フィリップスは「手のスピードが凄かった」（魔裟斗）と意地は見せたが、魔裟斗の予告通り腕を折られた。

「**最**近、K—1がエンターテイメント化していて、その部分は嫌なのでMAXだけは強さを追求していく」

ボクシング元・世界王者に完勝した試合直後、魔裟斗はK—1の現状を斬り捨てた。

いまK—1はヤバい。今年のワールドGP開幕戦はビッグ・ネームを怪我で欠き、ボブ・サップとフランソワ・ボタに蹂躙された。ジャパン勢は角田信朗K—1競技統括プロデューサーに「賞味期限切れ」と断罪され、谷川貞治K—1イベントプロデューサーには「キミ達だけじゃチケットが売れないんだよ」と檄を飛ばされる有様で「K—1のKはキャラクターのK」（ホントの綴りはC）と言わんばかりの大暴走を繰り返している。

たとえば、K—1 JAPAN GPで行われたバタービーンvsマイク・ベルナルド。ワールドGP出場権が懸かったこの試合で、ベルナルドはローキックを連打してバタービーンに何もさせないまま完勝した。しかし、谷川氏は「あの勝ち方はない」と、打ち合わなかったベルナルドのプロとしての姿勢を批判。一気に谷川氏の評価が下がったベルは、ワールドGPの一回戦で優勝候補筆頭のアレクセイ・イグナショフとの〝制裁マッチ〟を課せられ、案の定KO負けを喫している。

試合だけ見ると今回の魔裟斗の試合は、バタービーンvsベルナルドと同じくボクサー相手にローキックという定石通りの勝ち方だった。試合

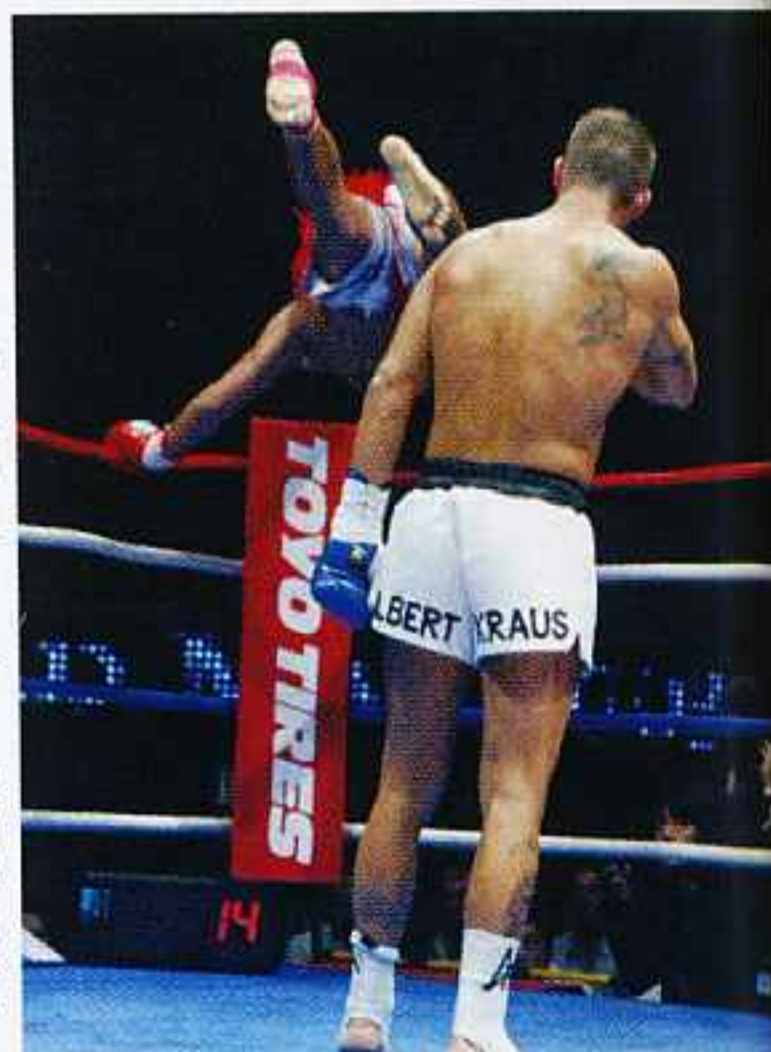
2003.11.19
今日の横綱
～公開練習編～

18日のK-1 WORLD MAX日本武道館大会にタキシード姿で登場した曙は、翌19日にも都内のジムで公開練習を行い、驚異のパンチ力を初披露した。大々的に行う公開練習は初めてとあって、リングの周囲を大勢のカメラマンと記者が取り囲んだ。トレーナーのスティーブ・カラコダ氏とともに練習を開始した曙は、まずストレッチで身体をほぐす。そして、バンテージを拳に巻いてからミット打ちを開始すると集まった報道陣からはどよめきの声が挙がる。「ハッ!!」という掛け声とともに、210キロの体重を乗せた重いパンチが炸裂する。左ジャブを重点的に打ち込んだ他、左フック、右アッパーなど、横綱級の破壊力でカラコダ氏の持つミットを打ち抜いた。以前の会見で「ジョージ・フォアマンを目指す」と言っていたとおり、曙の構えは片腕を下ろして、片腕で顔をガードするフォアマン・スタイルだ。これは「（対戦する）サップはワイド・パンチャーで大振りのフックやアッパーが多い。オーソドックスな構えだと視界が狭くなるから」とカラコダ氏から勧められたもの。曙は、ミットを持つカラコダ氏のパンチをブロックしながら、コンビネーションでパンチを繰り出した。

ストレッチの最中に股割りを披露。この柔軟性があれば腹の肉さえなければ相当いいハイキックが蹴れそうだ。カラコダ氏がミットを持ちながら腹にパンチを入れてもダメージは一切なさそうだった。

ミット打ちの練習になると優しい表情が消え、鬼の形相でミットにパンチを打ち込む曙。「たまに相撲の癖が抜けなくて、ここ（掌底）でパンチを打っちゃう」とツッパリ・パンチも繰り出している模様。

須藤元気vsアルバート・クラウスの好カードでは、元気らしさが爆発！　大車輪キックまで飛び出した。しかし、おなじみ角田レフェリーの声はマイクを通じて場内に聞こえるため、注意のたびに笑いが起こる。結果的にレフェリーのイエローカードで敗れたが、「バックハンド・ブローはクリンチの間合いになるから仕方ない。レフェリーの癖とかも勉強して、試合の総合的なものを見ていきたい」と謙虚な元気だった。

1R終盤にはロープを掴んでコーナー2段目から後ろ向きにキックを放つ！　会場は大いに沸いたが、2R開始前に角田レフェリーから注意を受ける。

元気が繰り出す裏拳をクラウスは密着して防御。クリンチになるが、レフェリー・角田は再三の注意。最後は元気にだけイエローが出て判定負け。

伝説のベニー・ユキーデ氏も観戦、メインでは花束贈呈も行った。今後、MAXに弟子が参戦予定だ。

元SBの村浜武洋と現SBのアンディ・サワーが因縁の激突！　2R、村浜はダウンを奪うが、3Rの終了間際にダウンを喫して判定2-0で逆転負け。この日は全試合3Rだったため、アグレッシブな攻防が多く見られた。

髪型はジム・ケリー、コスチュームはブルース・リー（『死亡遊戯』のトラックスーツ）のドファンキー男トニー・バレントは今後、人気爆発の予感。小比類巻にKO負けを喫するが再来日に期待！

後、谷川氏は「つまんない試合になる可能性があった中で、あれだけ魅せるのは凄い」と高く評価した。これではベルナルドは浮かばれないだろうが、魔裟斗は谷川氏的な価値観に真っ向から勝負を挑み、見事に勝った。日本武道館に集まった大観衆は酔いしれ、黄色い声援も途切れることはなかった。技術、スピード、そしてファイティング・スピリットで魅了した。試合で魅せて、勝負で勝つという理想的な結果だった。

魔裟斗は谷川氏的な価値観に初めて牙を剥いたK―1ファイターだ。サップの次に有名なK―1ファイターとなったいまでも、魔裟斗は勝つことでしか評価されないことを知っている。強さを見せることでしか観客が満足しないことも知っている。いくら大口を叩いても、試合で勝たなければ全て自分に返ってくることも知っている。

「一戦ごとにプレッシャーがきつくなってる」という魔裟斗の言葉に嘘はない。今年一年、破壊し尽くされたK―1という名の荒野で、魔裟斗は「MAXだけは昔のK―1のギラギラした部分を守りたい」と誓った。魔裟斗、お前も男の中の男だよ!!

この大会は同日21時よりTBSで放送され、平均視聴率15.2%（占拠率19.0%）、魔裟斗がKO勝ちした直後には瞬間最高視聴率22.6%（占拠率31%）を記録した。

大晦日、結びの一番

ボブ・サップ戦へ出陣!

K-1 PREMIUM STAGE

Dynamite!!

THE FIGHTING FESTIVAL ON NEW YEAR'S EVE

2003.12.31 [WED]

名古屋ドーム

曙とは何者か!?

世間を巻き込んで話題沸騰中の12・31『Dynamite!!』での曙vsサップ。外国出身力士史上初の横綱に昇進した曙は身長203cm、体重210kgで、サップも遙かに上回る超巨漢ファイターである。そんな曙を、よく知る人から、ただのファンまで様々な角度から徹底検証! これを読めばサップ戦が2倍楽しくなります! 2倍2ば〜い!!

構成/スモーノブ&松澤チョロ

designed by matsu (Two Three)

K-1のKは国技のK!　元横綱・曙がK-1参戦
地に堕ちた相撲最強伝説が大晦日に蘇る!!

「K―1のKは国技のK」（by吉田豪）というわけで、遂にK―1が究極の切り札を切ってきた。第64代横綱・曙太郎がK―1に参戦決定！　大晦日の『Dynamite!!』でボブ・サップと闘うことが発表された。すでに、あらゆるメディアで報じられているように、曙は11月5日に日本相撲協会へ辞表を提出、翌6日に受理されて、K―1ファイターへと転身した。北尾光司以来の元・横綱の格闘技参戦とあって、記者会見には300名の報道陣が詰めかけ、テレビカメラは23台も回される大フィーバー、夜のニュースで生中継されたほどだ。

一般メディアでの大晦日の格闘技興行戦争は話題に上がっているが、谷川貞治K―1イベントプロデューサーも「視聴率には自信あります」と語っている通り、世間一般の注目を集めるのは間違いない。石井和義前館長の脱税事件も、「K―1 JAPAN」の凋落も、「K―1 WORLD GP」が話題にならないことも、タイソンを招聘出来なかったことも、すべてのマイナス要素は曙参戦の呼び水だったのではないかと思えるほど。

その曙も参戦発表会見の時はガチガチに緊張しているのが見て取れたが、16日に渋谷の街頭で行われた公開記者会見では、茶髪にダイヤのピアスをでっかい耳たぶに輝かせるというハングリー精神のかけらも感じさせないスタイルに変身！　さらに「これは決して相撲を辞めたからやってるわけじゃない。決意の表れだと思ってください」という謎かけ発言まで飛び出した。元・横綱が親方の地位を捨ててまでK―1に挑む、確かにその決意は常人に計り知れるものではない。6日の会見でも「年寄株があれば状況は変わってましたか？」の問いに「それも、また微妙です……」と答えていたが、曙の心の根っこに相撲があることは間違いない。内なる迷いを吹っ切るには、まず外見から！　それがダイヤのピアスであろうと温かく見守りたい。

実際に、曙はつい先日まで相撲協会で働いていた。通常、力士は引退すると親方株を億単位の高額で取得して親方となり、定年退職まで相撲協会に残る。ただ、親方株の取得には資金が必要な上に、親方株も数には限りがあるため、入手が非常に困難とされている。曙は横綱の特権として現役名のまま曙親方として相撲協会に残っていた。しかし、くすぶっていた曙の闘争心に火をつけたのが、フランシスコ・フィリョとレイ・セフォーだった。K―1を観戦するうち、彼らと意気投合、触発されて次第にK―1への気持ちが芽生えていく。そんな曙親方に谷川氏と石井前館長が接触、11月3日に電撃的に契約が結ばれた。

「私には3人の子供がいます。彼らは私が相撲をとっている姿は記憶にないと思うから、もう一度、闘っている姿を見せたかった」という曙のモチベーションも泣かせる。一昨年の『INOKI BOM―BA―YE』で安田父娘の物語を感動的に演出したTBSが、今年もきっと泣かせてくれるに違いない。

舞台は整った。あとは、曙自身がどこまで闘えるかにかかっているが、「勝負勘がなくなって引退したわけじゃない」と闘争心が燃えさかる曙は、現在、週5日のハードトレーニングに取り組み、恐るべき格闘センスを徐々に発揮し始めている（P32参照）。負けが込んで人気にかげりが見え始めたとはいえ、知名度でサップを圧倒できる格闘家は曙しかいない。右ページのポスターを見ても分かるように、大晦日の主役は誰が何と言おうと曙なのだ！

曙のことなら、この男に聞け！

声に出して読みたい 谷川語録

『格闘技通信』編集長からK-1イベントプロデューサー、そしてFEG代表取締役へと華麗な転身を続けるサダハルンバ谷川こと谷川貞治氏。『SRS・DX』（扶桑社）休刊後、その語りが楽しめる媒体はなくなってしまったわけだが、本誌はK-1会見でこぼれ落ちた谷川氏の珠玉の発言を拾い集めてみました。「谷川には騙されるな!」とターザン山本氏がいくら噛み付いても、どこ吹く風!　呑気なだけかと思いきや、不意に飛び出すノー・リスペクトなキラー発言が凄まじい切れ味！　思わず声に出して読みたくなるはず!

「占いで11月には新しい出会いがあると言われてたんですよ」
（11月6日、曙参戦会見後の囲み取材にて）

●世紀の記者会見の後に占いの話。そのダイナミックな緩急がジェットコースターのようで気持ちいいです。

「下交渉は全くないです 下心はもちろんありました（笑）」
（11月6日、曙参戦会見後の囲み取材にて）

●正直なところも、好感を持たれる理由です。

「その場で身体がうずいてました」
（11月6日、曙参戦会見後の囲み取材にて）

●字面だけ読むと官能小説のようにも読めますが、サップとの対戦を打診した際の曙のリアクションを谷川氏が描写しました。

「スティーブさんに棒で叩かれながらしごかれてます」
（11月12日、都内ホテルでの会見にて）

●曙の壮絶トレーニングも、どこかユーモラスに聞こえるのは谷川氏の人徳でしょうか？

「すごい試合になると思います!」
（11月12日、都内ホテルでの会見にて）

●谷川氏が言うんだから間違いありません!

「ミット打ちを初めて見ましたけど、ホントに化け物ですね!」
（11月19日、公開練習後の会見にて）

●元・横綱を化け物呼ばわりするノーリスペクトなコメントも、プリミティブな感動が表現されているため嫌味がありません。

「（サップは）ああいう性格だから上の人とビシッとやった方がいい」
（11月19日、公開練習後の会見にて）

●伊原ジムの伊原会長にビッシビシしごかれるサップについて。「ああいう性格」とは、一体どんな性格なのでしょうか?　冷たく突き放すような言い方が、サップとの距離感を物語ってます。んあ〜。

「横綱はホントに真面目に取り組んでますよ。一日も遅刻をしたことがないですから」
（11月19日、公開練習後の会見にて）

●社会人として「遅刻をしない」は最低条件のはずですが……。谷川氏はどんな色眼鏡で曙を見ていたのか気になるところです。

元運転手から、ただのファン(?)まで

語ろう、曙!!

いやぁ、どうなんだろうね。普通に考えたらムチャだろう⁉(笑)。彼は練習してるのかな? 引退してからずっと身体は動かしてたっていっても、ありゃ太り過ぎだろ。しかもヒザを怪我して引退してるんだから厳しいよ。相撲時代に対戦したこと? ないよ! 彼があっという間に通り過ぎて横綱になっちゃったから。稽古ならやったことあるよ、やりたくなかったんだけど(笑)。ホントに強かったねぇ(しみじみ)。俺が一突き半で土俵の外まで押し出されちゃったんだから。相手はサップ? K—1ルールでしょ? いくら押し相撲が得意といっても、やっぱりグーと平手は違うから、よっぽど練習をしないと。俺だって、『PRIDE』に出てた頃にキックの伊原ジムで練習したことあるけど、ホントにシンドかったもんね。とにかく1Rの3分間が長いんだよ。死ぬかと思ったもん! でも、彼は親方株を買ってなかったんだね? 一時は『親方を辞めて芸能人になる』って言ってたんだよ。若乃花(=花田勝)みたいになるつもりだったのかもしれないけど、人当たりがイマイチだからねぇ……。

ほら、彼は割りと人見知りするから。そりゃ彼の方が立場は上だったけど、いまは向こうが新弟子だろ? 俺の方に挨拶に来ないと!(笑)。まあ、それは冗談だけど、やるからにはキッチリ稽古して頑張ってほしいね。何なら大晦日は太刀持ちをやってもいいよ。俺? もう、アカンわ!『SAEKI祭り』で身長150センチのタイ人とやるけど、ギャラが安いんだよ! 年末は忙しいのに。バーリ・トゥードでも、K—1でも、話が来ればいつでもやるよ。不死身さだけが取柄だからね! ガッハッハッハッ!

魔裟斗

1分以内に終わるんじゃないですか。終わらなければ泥試合になると思う

大刀光

いまは向こうが新弟子だろ? 俺の方に挨拶に来ないと!(笑)

辻結花

千代の富士が引退してからは、すんごい曙のファンやったから

私、曙さんと10年前ぐらいに接点があるんですよ。ウチの近所に枚方パークって遊園地があるんですけど、そこの餅つき大会に曙さんが来てて。かなり前だけど、もうその時は曙が一番有名な相撲取りだったから。私が高校一年の時で。私ね、千代の富士の追っかけもやってたけど（笑）、千代の富士が引退してからは、すんごい曙のファンやったから。あの頃って、曙と若貴って感じの時やったから、もう近くで見れてドキドキワクワク（笑）。ほんで、曙と無理矢理写真も撮りましたよ。一緒に撮ったというか、曙をバックにして撮ったというか（笑）。でもホント、曙vsサップが決まったって聞いた時はホントにビックリした。最初聞いた時はビックリしただけやったけど、いまはちょっと楽しみかな。曙のつっぱりとボブ・サップのアメフト。相撲vsアメフト。どっちのパワーが強いかなって。サップも好きなんやけど、どっちを応援するかっていったら……曙かな（笑）。やっぱり子供の頃から知ってるから。エ～ッ、もし曙と闘ったらどうするかって？　う～ん、やっぱマウントパンチかな。あ、でも横綱やから倒すの難しいなぁ（笑）。まあ、パンチで倒してマウントパンチで！

大晦日、結びの一番！曙vsサップ戦はどうなる？

（勝つのは）サップじゃないですかね。（曙は）パンチをもらったことがないと思うんで、パンチが見えないと思う。……まぁ、お互い見えてないとは思うんですけど（笑）、見えない状態でパンチをもらうと効きますから。1分以内に終わるんじゃないですか。終わらなければ泥試合になると思う。

ドン荒川

曙だったら、ミルコが来ても話にならないと思う

曙vsサップですか？　もう、ぐわぁ～んっと一発付き押しで曙の勝ちですよ！　付き押しをずっとやってきたわけですよ。200キロの腕力でバーって出てきたら誰も受け止めることはできないですね。いくらサップがタックルかましてもですね、ぶつかり稽古やってますから。それにサップが大きいといってもですね、曙はケタ違いですから。要するにサップはフライ級で、曙はヘビー級という感じですね。もうね、一方的に勝つと思います。サップだけじゃなくてね、ミルコが来ても話にならないと思います。寝たら逆にお終いですけど（笑）。まあでも、寝る以前に立ちの状態で決まっちゃうでしょう、恐らく。ああいう方はドンドン出し惜しみなくプロレスでもK―1でも何でもいいからやった方がいいですよ。もったいないです。それに曙が成功するとドンドン、大相撲界から出てくるんじゃないですか？　パワーもあるし基礎もできてますからね。私は相撲が一番強いと思いますから。寝たらプロレスですけど、寝る前に突っ張られると、かすっただけでも凄いからね。モハメッド・アリと猪木さんが闘ったときだって、パンチがかすっただけでコブができたんですから。それに、いくらアリが強いと言われたって、曙の方が遥かに強いと思いますよ、私は。実際、お相撲さんとプロレスラーのパワーを知ってますから。誰にもこの件に関しては文句言わせません！（笑）。

Let's talk AKEBONO!!

一宮章

下手するとサップより凶暴性を発揮するかもしれないですよ（笑）

知らない人も多いと思うんですけど、ボクは曙さんの横綱時代のマネージメントをやらせてもらってたんですよ。まあ運転手って感じですね（笑）。その辺の時期に、ちょっと免許偽造とかでいろいろあって（苦笑）。闘うチャンスがあったらですか？　曙さんが希望するルールでやりたいですね。まあボクの方は『DEEP』でも結果出してないですけど（苦笑）。でも逆に曙のノド輪落としってどの位の高さから落とされるんだろうとか興味があるし、曙のプロレスっていうのも見てみたいですね。張り手一発にしても受け甲斐あると思いますよ（笑）。サップ戦ですか？　パワーのみでいえば曙さんはズバ抜けてますけど、デビュー戦ですからね。そういうのを差し引くとサップの方が有利かなと。闘い方もサップの方が知ってますし。でも、今度の試合は相撲協会の後ろ盾もないし、完全に孤独な闘いになるんで、精神面とかは関係ないと思います。やらなきゃ食べていけないところまで追い詰められてますからね。相撲という独特のルールに基づいた神聖な競技をやってた部分では、いろいろ苦労してきたと思うんですけど、それでも横綱までいきましたからね。上から押さえつけられた状態で首に鎖つけられていた横綱ですから。今回は自分で、その鎖を引きちぎってK―1にいったんですから、そういう部分では下手するとサップより凶暴性を発揮するかもしれないですよ（笑）。

衝撃のK-1参戦発表から曙を徹底追跡

今日の横綱

11月6日の参戦発表以来、毎日のように曙のニュースがメディアを賑わせている。一般誌とも専門誌とも違う『紙プロ』独自の切り口で曙情報をお届けします！　曙ファンの皆さんの「こたい（＝期待）にきたえる（＝応える）よう頑張ります！」（18日、K-1 WORLD MAXのリング上にて）

11月6日(木)曙、K―1参戦会見
@都内ホテル

「身体が壊れるまで稽古したい」

この日の朝、「曙、K―1参戦」のビッグニュースがスポーツ新聞の一面を飾った。さっそくリリースが流れてきて、夕方の記者会見が発表される。緊張ともの凄い数のスポットライトを浴びた曙は額から滝のように汗を拭きながら参戦の決意を語る。引退の引き金となったヒザの状態に質問が集中！「100％でなければ今のところは大丈夫。自信がなかったら、記者会見は開かない」とアピールした。ちなみに、そのヒザが支えるのは体重210キロの超巨体！「時間はないが出来る限り絞りたい」と言うが、果たして何キロまで落ちるのか？　練習は「身体が壊れるまで稽古したい」と言うが、曙が壊れたら大一番が台無しになってしまう。サップとは「歴史に残るような試合にしたい。逃げることなくリングの真ん中で勝負したい」と意気込みを語った。

11月12日(水)曙、練習報告会見
@都内ホテル

「パンチとつっぱりは同じ」

すでに7日からトレーニングを開始している曙が、練習内容を語った。気になる体重は「計ってないから分らない」とのことで、曙クラスになると両国まで行かないと体重を計れないらしい。あまりのハード・トレーニングに「いまは食事があまりノドを通らない。ごはん系、パスタ系はなし。脂肪を燃やすため、炭水化物は摂ってないです。野菜、肉、果物、プロテインシェイクが多いです」と食事にも細心の注意を払っている。「これだけ身体を動かすとお腹が減らないです。眠くなるだけ」と笑顔を見せた。練習についての質問でも、グローブを着けての練習は「嘘に聞こえるかもしれないけど、本当に楽しい」とまた笑顔。「相撲とK―1の違いは、あまり感じない」という衝撃発言まで飛び出した。曰く「パンチとつっぱりの基本は一緒。手の角度が違うだけで、出し方は同じ」とのこと。さすが押し相撲を極めた男は言うことが違う。曙は現午前中に走りこみと筋力トレーニング、午後にミット打ちとスパーリングを行なっている。午後のトレーニングは、トレーナーのスティーブ・カラコダ氏が付きっ切りで指導を行っているが、あまりの破壊力に肩を痛めた模様。「とにかく凄いパンチ力だ」と太鼓判を押す。しかし、キックへの対応はまだまだのようで「ローを蹴られると痛い。試合で自分から蹴りを使うつもりはない」と上体の破壊力のみでサップを粉砕するつもりであることを明かした。そのスタイルは「ジョージ・フォアマンみたいな闘い方をしてほしい」とカラコダ氏から指導されており、後日の公開スパーリングでも片腕で顔をガードして、片腕でパンチを打つスタイルを披露した。

11月16日(日)公開記者会見
@渋谷街頭

「血の味ってうまいっスね」

谷川氏と共に公開記者会見に臨んだ曙は、スパーリングでの流血エピソードを公開した。グレート草津やタケルらと共にチーム・ヨコヅナを結成してトレーニングをしているが、スパーリングの際に流血！　だが、心配する周囲をよそに「血の味ってうまいっスね」と舌なめずりしたという。

11月18日(火)K―1リング初登場
@日本武道館

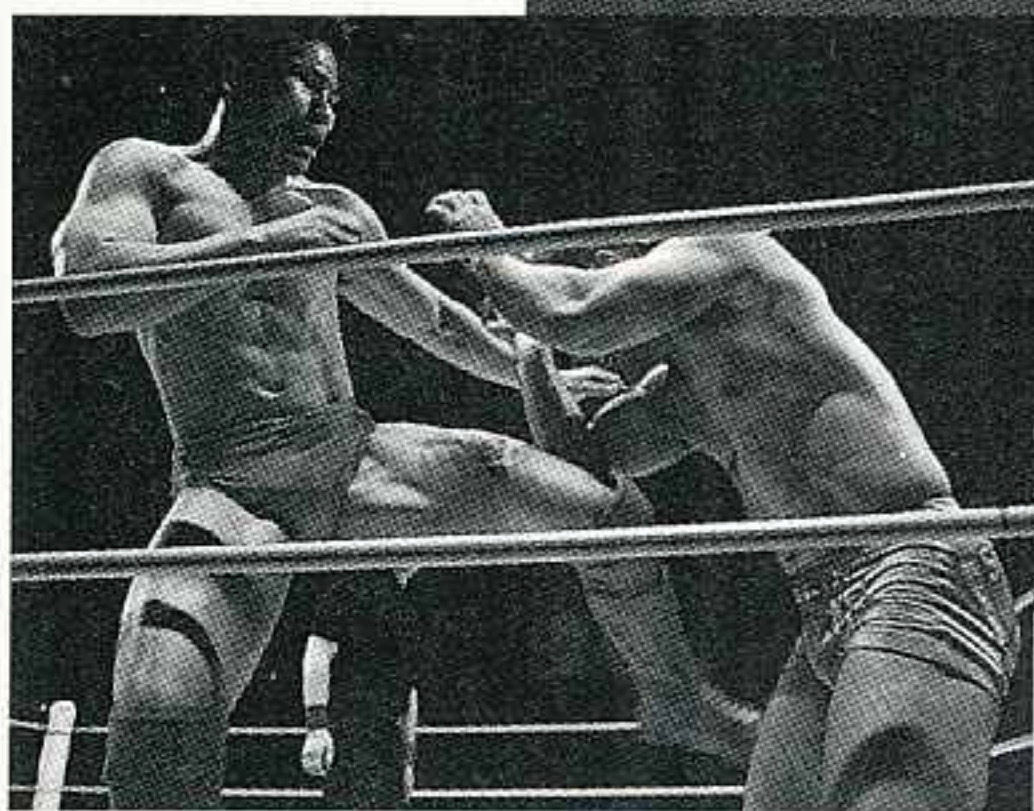
「皆さん、お疲れ様です」

曙、初めてリングに立つ！　休憩時間明けにゴンドラに乗り、タキシード姿で登場した曙、表情は明らかに緊張している。そして、開口一番「ただいまご紹介頂き……皆さん、お疲れ様です！」と結婚式のスピーチのようなズッコケ・マイク。リードにも書いたように、噛みまくりの挨拶を終え、バックステージに戻ると「緊張しました」と一言。いくら横綱といえども、こればっかりは慣れるしかない。

11月19日(水)初の公開練習
@都内ジム

「蹴りの練習は？　企業秘密(笑)」

曙、初の公開練習！　しかし、公開したのはストレッチとミット打ちのみというもったいぶった公開練習となったが、パンチの破壊力は横綱級だった。「左フックは手ごたえがあった」と言うように凄まじい音を立ててミットにパンチを打ち込んだ。「デリケートだから、あんまりケンカは好きじゃない」などとジョークを織り交ぜながら、「顔面パンチも勝負だから遠慮はしない」と全力宣言！　ちなみに、前日の噛み噛みマイクは「緊張しすぎて日本語を忘れてしまった。家に帰ってビデオを見て、ダサいなと思った」と素直に反省。だが、「グローブを着けて試合になれば変わる」と勝負強さをアピールすることも忘れなかった。

文／nobotan
撮影／平工幸雄
designed by matsu（Two Three）

今年２月に旗揚げし、数々の名勝負、名場面を生んできた『U-STYLE』。前回の10・６後楽園大会は田村潔司が出場しなかったためか観客はお世辞にも多いとはいえなかったが、非常に熱のある大会となった。12・９は爆発するか!?

U-STYLEとは“孤高の場”だ!!

12・9後楽園に注目せよ!!

『U―STYLE』は、旗揚げ記者会見では『UWF JAPAN』と名乗っていた。しかし、ある人物の介入により、旗揚げ戦前に名称を『U―STYLE』に変えた。

“STYLE”というのは、もともとはラテン語で「鉄筆（stylus）」という意味だ。

「鉄筆」とは『謄写版用の原紙に書くときに使うとがった鉄の鉛筆』『はんこをほる小刀。印刀』のことである。

その「鉄筆」が語源となって、“STYLE”は次のような意味を持つ言葉となった。

1. 表現の仕方、文体
2. 様式、型、（なになに）風
3. やり方、方式
4. （衣服などの）流行、型
5. 優雅さ、品位、豪華さ、華麗さ

名は体を表すではないが、田村潔司に“STYLE”の意味を繋げてみると実に興味深い。

田村潔司の表現の仕方、田村潔司の文体。田村潔司の様式、田村潔司の型、田村潔司風。田村潔司のやり方、田村潔司の方式。田村潔司の流行、田村潔司の優雅さ、田村潔司の品位――。

これでU―STYLEとは、T―STYLEだったことがわかる。『U―STYLE』とは以前のUWFではなく、田村潔司が新たにつくった“孤高の場”なのである。

田村潔司はいったいなにを表現したいのか？ それは“闘い”であり“強さ”である。

男の子がある年代になると憧れる、いや、男なら一生の間持ち続けるといってもいい“闘い”や“強さ”への憧憬。しかし、その“闘い”や“強さ”への普遍的なニーズは、近年『PRIDE』や『K―1』が台頭してくると同時にごっそり持っていかれてしまったのも事実だ。

そんな難しい時代に、田村潔司は“闘い”や“強さ”を「プロレスリング」、しかも「Uスタイル」として立ち昇らせることを選んだ。それが“孤高の天才”、あるいは一部関係者の間では“孤高の天災”とも言われている田村潔司の表現の仕方だ。

それに加えて、“技術の攻防を見せる”“ファンに夢と感動を与える”という高いハードルまで設けている。実に田村潔司らしい。

12月9日・後楽園ホールは、この田村潔司がつくった“孤高の場”に賛同した者が集まる『U―STYLE』のオールスター的大会になるという。

いまはまだ田村潔司の家庭菜園的な場ではあるが、今後どういう芽を吹き、どんな花を開かせるのか？ それを占う意味でも非常に重要な大会となるだろう。

語るアホウに無視するアホウ。同じアホなら語らにゃソンソンである。

——今回、藤井さんは『紙プロ』初登場ということで、UFOに入団する前までバウンサーをしていたというヴェルファーレ前で撮影をさせてもらったんですけど、ここへ来るのは久々なんじゃないですか?

藤井　そうですね。でもバウンサーって言うほど大袈裟なもんじゃなかったですけどね(笑)。セキュリティーって感じで。

——まあ、その話はあとで聞かせてもらいますが、ようやくというかU―STYLEでの田村潔司戦をゲットしましたね。

藤井　そうですね。長かったような気もするし、短かったような気もしますけど(笑)。

——会見では、いい試合にするつもりはないと言ってましたよね。

藤井　ないですね。まあ、ベストは試合に勝って結果的にいい試合だったと言われることですけど、ハナからいい試合にしようとは思ってないですね。汚い試合っていうか壊し合いのような試合になるかもしれないけど、どんなことしてでも勝ちたいんで。

——勝つためなら手段は問わない?(笑)。

藤井　っていうか、負けると後が怖いから、とにかく勝たないと(笑)。

——それは小川さんのことですね(笑)。

藤井　そうです(笑)。負けて小川さんにしばかれるんだったら、リング上で田村をやっつけた方がいいかなと。

——それほど怖いと(笑)。たとえ勝ったとしても、試合内容が悪いと、やっぱり怒られたりするんですか?

藤井　いや、いままで試合に関して凄い怒られたっていうのはないんですけど、今回の試合に関しては「分かってんだろうな?」みたいな感じで言われたんで(笑)。

——それは負けられないですね(笑)。

藤井　いつも練習とかでは結構ボコボコにされてるんですけど、負けたらそれよりヒドいのかと思うとゾッとするんで(苦笑)。

——ある意味、対戦相手の田村さん以上のプレッシャーがあるわけですね(笑)。

藤井　そうですね(苦笑)。

——田村さんに対しては、どういった印象を持ってるんですか?　小川さんとは質の違う怖さを持ってると思うんですけど。

藤井　怖さっていうのはない!　ただ、キャリアも長いんで試合数も自分と比べると全然違うし、気をつけなきゃいけないのは試合運びですかね。でも、それ以外の技術とかスタミナとかパワーでは劣ってるとは思ってないです。

——田村さんはU―STYLEの象徴みたいな部分がありますけど、藤井さん的には田村ワールドには入らず、あくまでも自分のスタイルに引きずり込んで勝つと?

藤井　そうですね。やっぱり田村選手は旧UWF系では飛び抜けてるし、自分が言うのも何ですけど天才だと思うんで、ハナからそんな闘い方はしないですね。まあ、向こうがU―STYLEなら、こっちはUFOスタイルでガンガン攻めて最後はスープレックスで叩きつけてKOかギブアップで勝負をつけたいですね。

——かなり自信があるみたいですね。田村戦が決まる前には「田村戦が組まれないなら、もうU―STYLEには上がらない」って発言もしてましたけど、もし田村さんに勝ったらU―STYLEは最後になる可能性もあるんですか?

藤井　いまの自分は田村戦しか見えてないですけど、この前の会見で伊藤(博之)がボクと闘いたいとか言ってたんで。伊藤とは昔、正道会館で一緒に練習してたこともあって、どれぐらい成長してるのかやってみたいですね。だから、田村選手を倒したらU―STYLEを去るとかじゃなくて、逆にオレに挑戦してこいって感じですね。

——『藤井克久挑戦権争奪トーナメント』を開催するぐらいの感じで(笑)。

藤井　それもいいですね(笑)。……でも客入んのかなぁ(苦笑)。

——急に弱気にならないでくださいよ(笑)。

今年7月の『OH祭り』では破壊王の欠場により、急遽、小川とのUFOタッグで出陣となった藤井。一癖も二癖もあるタッグチーム相手に苦戦を強いられた藤井だったが、日増しに成長を遂げ、見事優勝! 翌日には、これまた急遽、全日本武道館大会へ出場、川田利明とも対戦している。そして12・9では、U系の大物、田村潔司と一騎打ち!

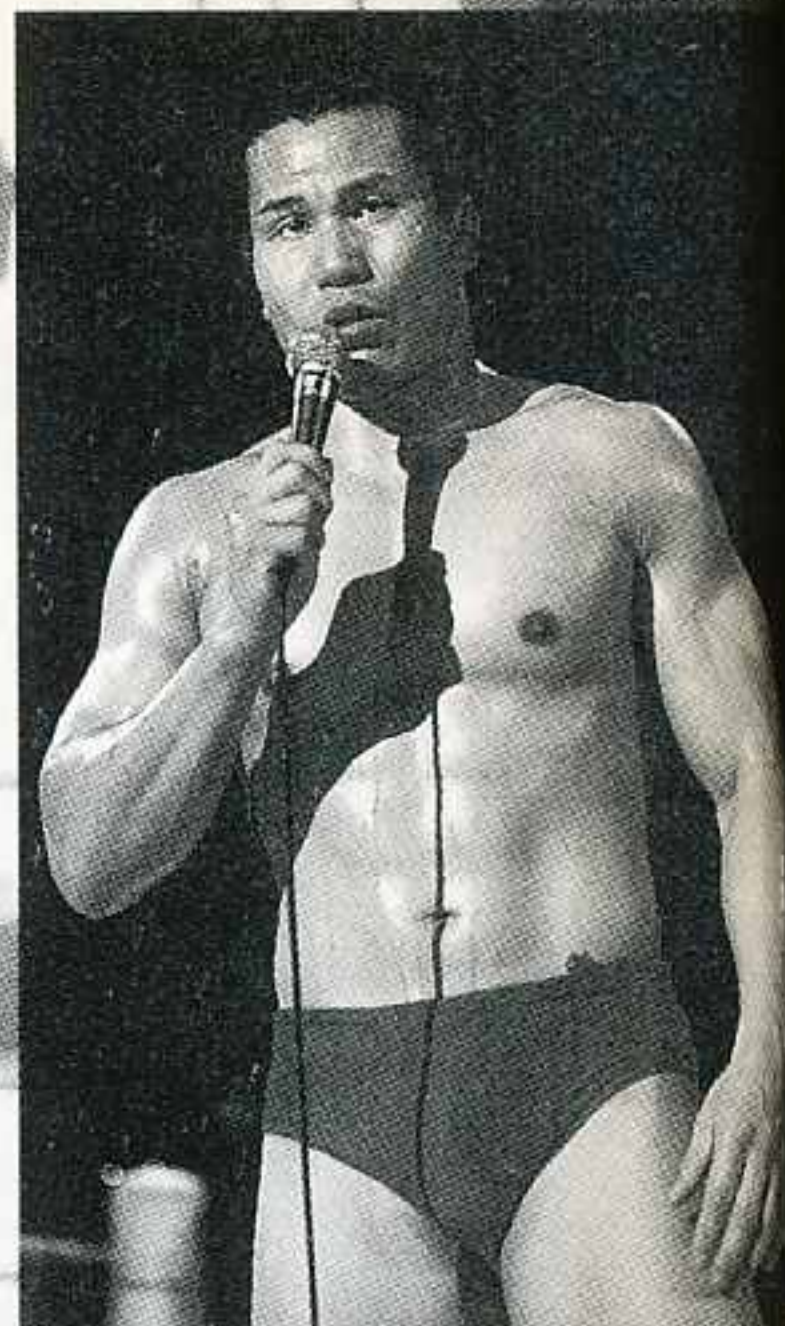
久

修斗のリングでプロデビューをはたし、その後はUFC-Jやリングスパンクラス、さらには『DEEP』にも参戦、総合ファイターとして、知る人ぞ知る存在だった藤井克久。所属ジムは何度も変わり、マット界をさまよい歩いてきた藤井が小川直也率いるUFOに所属し約1年。『OH祭り』優勝に続き、田村潔司への挑戦権を強奪した藤井に、間近に迫った田村戦への意気込みを聞いてみた。

聞き手／松澤チョロ　撮影／福島勝儀

designed by matsu (Two Three)

UFOのバウンサーが
田村潔司を殺戮予告!!
12.9 U-STYLE

藤井克

「負けたら小川さんが怖いんで、必ず田村をやっつけます!!」

で、話は変わりますけど、藤井さんといえば今年はＯＨ祭りで優勝したりと、ＺＥＲＯ－ＯＮＥを中心に、いわゆる純プロレスの方でも活躍してますよね。

藤井　やっぱりプロレスは難しいですね。ボクはＵＦＯに入って、ちょうど1年ぐらいなんですけど、いままで生きてきた中で一番濃い1年かもしれないですね（笑）。

――たしかに。キャリア1年でタッグリーグ戦優勝っていうのも凄いですけど、他にも全日本のメインで川田さんと闘ったり、そうかと思えばガファリ兄弟に押し潰されたりと、かなり濃い1年ですよね。

藤井　ですね（苦笑）。でも、まだほとんどが小川さんの力で助けられてる試合ばっかりなんで。最初の頃よりは多少自信は付きましたけど、全然余裕ないですから（苦笑）。

――ＯＨ祭りで優勝はしたけど、プロレスラーとしては、まだまだだと？

藤井　まだまだですね。やっぱり、プロレスって凄く深いじゃないですか。答えはないのかもしれないけど、それが何かを自分で悩みながら一試合一試合必死で頑張ってるって感じですね。

――小川さんのパートナーということで、必然的に対戦相手も大物ばっかりになってしまいますからね（笑）。

藤井　自分なんか相手から見たら「誰だ、お前は？」って感じですよね（笑）。

――小川さんじゃないんですから（笑）。

藤井　でも小川さんと組ませてもらうことによって、いい経験させてもらってると思うし、自分自身も成長できたというのが凄いあるんでホント感謝してますね。ＯＨ祭りではドス・カラスJr.とかルチャ系の選手と闘ったかと思えば、ランデルマンとか『ＰＲＩＤＥ』の選手と闘ったり、普通の選手は何年かで経験することをボクは1週間か10日で経験したみたいな感じでしたね。

小川さんと総合で試合して、いい勝負できるヤツっているのかな

――そんな感じですよね。お客さんの入りは芳しくなかったですけど、プロレスラーとして、もの凄い勉強になったでしょうね。

藤井　はい、自分にとっては。自分だけ得したのかなっていう感じがしますね。

――何度もガファリプレスで押し潰された甲斐がありましたね（笑）。

藤井　そうですね（笑）。実績はガファリには全然かないませんけど、ボクもレスリング出身なんで。それにランデルマンもボクが『ＵＦＣ－Ｊ』に出た時にメインに出てた人ですからね。あの時は、まさか何年後に闘うとは思ってなかったし（笑）。

――しかもプロレスルールで（笑）。そのＯＨ祭りでは橋本さんのケガがあって、急遽、小川さんとのタッグになったわけですけど、藤井さんにとって橋本真也という存在はどういったものなんですか？

藤井　橋本さんはブラウン管でいつも観てた選手だったんで、初めて会った時は凄く不思議な感じがしましたね（笑）。

――「あ、破壊王だ」って感じですか（笑）。

藤井　そうですね（笑）。それに、いままでいろんな選手と会った中でも特別なオーラみたいな何か太陽みたいなものを感じましたね。ＺＥＲＯ－ＯＮＥで闘ってる時も適切なアドバイスをしてもらってますし、小川さんと同じぐらい尊敬している人ですね。

――橋本さんとは闘ってましたっけ？

藤井　この前の博多（10・13博多スターレーン。橋本＆小川＆藤原 vs 耕平＆横井＆藤井戦。14分28秒、レフェリーストップで小川が藤井に勝利）で初めて橋本さんと試合させてもらったんですけど、小川さんとはまた違う圧力を感じましたね。

――単純に体重も違いますからね（笑）。

藤井　あぁ、それもあるでしょうね（笑）。あとボクのＺＥＲＯ－ＯＮＥでのデビュー戦が同じ博多スターレーンだったんですけど、橋本さんとはリングで向かい合うのが初めてだったんで試合前はデビュー戦か、それ以上に緊張しましたね。

――橋本さんも、まだ本調子ではなかったとはいえボコられてしまったと？

藤井　そうですね。悔しいけど何もできなかったですからね。

――ボクは、その博多大会には行けなかったんですけど、最後は小川さんにボコボコにされて負けちゃったんですよね？

藤井　はい（苦笑）。

――それは田村戦が決まった直後だったんで、藤井さんに対する叱咤激励の意味もあるのかなって思ったんですけど。

藤井　単純に小川さんを怒らせたからじゃないですか（笑）。激励なら嬉しいですけど、試合中にかなり失礼なことをしたんで。

――どんな失礼なことをしたんですか？

藤井　お客さんには、あまり伝わってなかったですけど「オイオイオイ、ど～した！　かかって来い、オラッ!!」って飛行機ポーズで小川さんのマネしたんで（笑）。

――アハハハ！　そりゃ怒りますよ（笑）。

藤井　そしたら小川さんが「何だよ、オイ！」って感じで。こんなチャンスはないと思って、やっちゃおうかなと（笑）。

――その結果、ボコボコにされてしまったと（笑）。試合後はそのことについて何か言われなかったんですか？

藤井　それについては言われなかったですけど、逆に「遠慮しないで、来りゃいいじゃねーか」って言われましたね。遠慮なんてしてないんですけどね～。

――ボコボコにした張本人が気遣ってくれたと（笑）。藤井さんにとって小川さんっていうのは、どういう存在なんですか？

藤井　小川さんは練習中は怖い先輩でもあるし、監督でもあるし、コーチでもあるし。普段はアニキみたいな感じで一緒に遊ぶ時もありますし。

――ちなみに、一緒に遊ぶ時っていうのは、どんなことをしてるんですか？

藤井　たまにカラオケに行って一緒に歌ったりもしますからね（笑）。

――小川さんは上手いですからね。破壊王とデュエットでテレビで歌ったりもしてますし。藤井さんも歌は得意なんですか？

藤井　ボクは小川さんみたいに上手くないんで、頑張って練習してる最中です（苦笑）。

――リング外でも差を付けられていると（笑）。リング内というか練習でも小川さんには全くかなわないって感じなんですか？

藤井　そうですね。ボクはＵＦＯに入る前とか出稽古とかで、いろんな選手と練習してたんですけど、その中でも小川さんは飛び抜けてますからね。

――やっぱり。藤井さんは最初はＰＵＲＥＢＲＥＤ大宮に所属してましたし、グラバカジムができる前の菊田軍団とも一緒

藤井克久
田村戦までの軌跡

03年2月15日（土）東京・ディファ有明
○藤井克久vs越後隆●
（1分33秒　ダブルリストロック）
記念すべきU－STYLEのオープニングマッチに登場した藤井は、田村の弟子の越後相手にヒザ蹴りの連打でダウンを奪い、最後は得意の殺人ジャーマンからの腕絡みで秒殺！

03年4月6日（日）東京・ディファ有明
○藤井克久vs木村直生●
（2分10秒　KO）
2度目のU－STYLE出場の藤井は得意のジャーマンから掌底の連打で勝、またもや秒殺！　試合後は「1人1人倒して、逃げ場のない形で田村さんとやりたい」とアピール

03年6月29日（日）大阪・梅田ステラホール
○藤井克久vs吉田智彦●
（2分53秒　KO）
U－FILEの若手の吉田をドラゴンスープレックスで一蹴した藤井は「あと何人倒せばいいんだ？　このリングで田村と闘いたい。実現しないなら2度と上がらない」とコメント

03年10月6日（月）東京・後楽園ホール
○藤井克久vs越後隆●
（3分31秒　ジャーマンスープレックス→KO）
旗揚げ以来の対戦となった越後をフロントスープレックスからジャーマンでレフェリーストップ勝ち！

03年10月6日（月）東京・後楽園ホール
○藤井克久vs大久保一樹●
（4分19秒　TKO）
1回戦で延長までもつれ込んだ大久保に対し余力十分で準決勝へ上がってきた藤井。フィニッシュは、やはりジャーマン2連発！　藤井はロストポイント0で決勝戦へ進出！

03年10月6日（月）東京・後楽園ホール
○藤井克久vs佐々木恭介●
（9分47秒　フェイスロック）
決勝では〝ちっちゃい田村〟佐々木と対戦した藤井。初のロストポイントを奪われた藤井だったが、最後はフェースロックでキッチリ勝利し、田村への挑戦権をゲッツ!!

【ふじい・かつひさ】1972年8月15日、広島県福山市出身。高校・大学時代はレスリングで活躍。卒業後に始めた修斗では95年全日本アマ修斗ヘビー級準優勝。翌年の同大会では優勝。プロデビューは97年4月、修斗後楽園大会でダニエル・コニアン相手に秒殺デビュー。2戦目は現在ZERO-ONEの佐藤耕平に敗戦。その後、UFC-J、リングス、パンクラスなどで活躍し、昨年12月、UFOに入団。ちなみに現在もパンクラスのヘビー級2位にランキングされている。183cm、98kg

に練習してたんですよね。

藤井　そうですね。あとは高田道場でも練習させてもらったことがあるし、ホントいろんな人と練習してるんですけど、小川さんと初めてスパーリングした時、「なんだ、これ～っ」って感じました。

――初めての体験だったと（笑）。

藤井　あまりにも差を感じたんで、少しでもその差を縮めるために小川さん以上に練習するようにしてるんですけど。

――同じペースで練習してたんじゃ、いつまで経っても追い抜けないですからね。

藤井　そうなんですけど、ただ如何せん小川さんの身体能力は異常なんで。まあ、そういう意味ではやり甲斐が凄くありますね。

――いつかは越えなきゃいけない壁ですからね。藤井さん的には何年後ぐらいに小川さんを越える予定なんですか？（笑）

藤井　いま小川さんが35歳ですよね。できれば、40歳になる前には（笑）。

――ここ3～4年が勝負ですね（笑）。

藤井　そうですね。頑張ります！（笑）

――頑張ってください（笑）。でもホント、小川さんと一緒に練習したことのある総合系の人に話を聞くと、誰もがみんな「小川さんは別格だ」って言いますからね。

藤井　小川さんと総合で試合して、いい勝負できるヤツっているのかなって思いますから。だから「小川さんが総合で闘うなら誰との試合が見たい」って聞かれても思いつかないですよ。

――いま一番身近にいる藤井さんから、そういった発言が出ると、ますます小川幻想が高まるでしょうね。では最後に、弟分として負けられない大一番の田村戦への意気込みを改めて聞かせてください。

藤井　さっきも言った通り、田村ワールドには付き合わないようにUFOスタイルで潰そうと思ってます。そういう意味では面白くない試合になると思うんですけど。

――いかに田村さんを本気にさせるかが勝負ですね。まあ、ちょっとやそっとでは田村さんは壊れないと思うんで、遠慮せずにガンガンいっちゃってください！

藤井　そうですね。それに、この前の記者会見でムカつくこと言われてるんで。

――何て言われたんですか？

藤井　「1年後の藤井選手は怖いかもしれないけど、いまは怖くない」って。だから、1年といわず、1ヶ月後には本番で怖い思いをしてもらおうかなと。

――俄然楽しみになってきましたね。期待してますので頑張ってください！

【11月12日／六本木『ボディプラント』にて収録】

真の勝者は天田か柴田か!?
予想外の“熱戦”vs柴田戦を振り返る

天田ヒロミ

「いや〜、試合後『何倒されてんの?』って大爆笑されちゃいました(笑)」

11・3横浜での柴田勝頼vs天田ヒロミ戦は、柴田が熱望したことで実現した一戦ながら、K-1ルールということもあり、当初はミスマッチとの声も多く聞かれた。しかし、いざ蓋を開けてみると、柴田が天田からダウンを奪う大奮闘。結果は天田のTKO勝ちながら、柴田は大きく評価を上げることとなった。さて、プロレスラー相手に「いい試合」をしてしまった天田は、この一戦をどう考えているのか? とやかく言われがちなK-1JAPANを現状と共に、柴田戦を語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄　designed by matsu (Two Three)

——昨日の柴田勝頼戦はK—1ルールとはいえ、新日本プロレスのリングに初めて上がったわけですけど、いかがでしたか?

天田　やっぱり会場の雰囲気が全然違いましたね。自分が入場したらなんか反応悪くて、逆に柴田君が入場したとき「ワーッ」ってなったんで、「あぁ、向こうが主役だったんだ」って(笑)。

——そこで気付きましたか(笑)。

天田　でも、試合が始まっちゃえば関係ないですけどね。しかも“いい試合”しちゃったもんだから、会場も盛り上がってやりやすかったですよ(笑)。

——思いがけずベストマッチが生まれてしまいましたからね(笑)。

天田　だから翌日のスポーツ新聞を楽しみにしてたんですけど、扱いが小さくてガックリ来ましたね。

——確かに写真なしのベタ記事でしたよね(笑)。この試合は、そもそも6月の『K—1JAPAN』で柴田選手がリング上でアピールして実現した形ですが、天田さんは当初、「やるかやらないかはギャラ次第」って素っ気なかったですよね。それはやっぱり、ギャラぐらいしか、この試合に意味を見いだせなかったってことですか?

天田　いや、別にやるなら誰でもいいやと思ったんですけど、自分は挑戦を受ける立場だったんで、それなら何か条件をつけたいなと。まぁ、ぶっちゃけ、言ってはみたものの、たいして貰えなかったんですけどね(笑)。

——プロレスラーが相手で、“おいしい”っていう意識はありました?

天田　それはありましたね。もっとできないだろうと思ってましたから。それが結構できたんでビックリしましたけどね。

——闘う前は当然、パンチは当たらないだろうと思っていたと。

天田　そうですね。パンチは見えるだろうし、蹴りも対処できたんで。ローキックをカットできた時点で、これは恐いモンないわって。

——ところが、いきなりダウンを奪われてしまいましたよね。あれはどうしたんですか?

天田　いやぁ、効いちゃいましたね。見えなかったんですよ。ダウンした瞬間は覚えてないですから。やっぱり舐めてた部分があったんで、天罰が下ったんですかね。

——天田さん的には、「俺がパンチで倒されちゃヤバイだろ」って意識はあります?

天田　まあ、一応ボクサーなんでね、もちろんありますけど。あのパンチは鋭かったんでしょうがないかなって感じですね。ボク、K—1でもパンチでは倒されてないんですけどねぇ。

——それなのにプロレスラーにパンチで倒されちゃったっていうのは、やっぱり汚点ですか?

天田　恥ずかしいですね(苦笑)。「何倒されてんの?」って。控え室帰ったら大爆笑されました(笑)。武蔵とかに「ナイスパンチをもらったねぇ」って(笑)。「何、ヒザなんか使ってるの?」とか。

11.3 Yokohama Arena
新日vsK-1 大戦争勃発!?
〜不思議興業〜
Puti Review

I編集長から絶大な支持を受けるモンターニャが吉江とプロレスルールで対戦。さすがが本職がプロレスラーだけあって、なんとコーナー最上段からのローリングセントーンで勝利!

“賞金首”村上和成vs金本浩二の4400万円争奪賞金マッチは、期待通りボコボコに殴り合うケンカマッチとなり、村上がホントに落ちそうになるも、最後は5分41秒で逆転TKO。

—それはヒザ蹴りを使わざるを得なかったわけですか？

天田 どうなんですかねえ。僕は本能で闘ってるんで、多分パンチよりヒザの方が効いてたんで、そうなったと思うんですけど。初めての相手だったんで何が効くか分からないし、僕のパンチを警戒してガードガッチリ固めてたから、そうなるとパンチを打ってヒザというパターンになってきますよね。

—でも、脳を揺らすパンチではなくヒザでダウンを奪ったことで、柴田選手に根性で立ち上がる見せ場をたっぷりと作らせちゃいましたよね（笑）。

天田 いやあ、いい試合しちゃったなぁ（笑）。

—今回、柴田選手は完敗でしたけど、試合で気迫と生き様を見せて、それが客席にも届いたことで評価を上げましたよね。いまK—1 JAPAN勢に必要なのは、ああいった闘う姿勢なんじゃないかという意見もあるんですけれど、天田選手はどう思いますか？

天田 僕はいらないと思いますけどねえ。何でJAPAN勢が叩かれるかっていうと、外人に勝てないからですよ。いい試合してる奴はいるんですけど、それじゃ駄目なんで難しいところですよね。

—では、例えば天田選手が外人のトップ選手と闘う場合、今回の柴田選手と同じように挑戦者になるわけじゃないですか。そういう試合でも、玉砕覚悟で気迫と根性を全面に出すことは意味がないと。

天田 あんまないですね。どんな負け方しても負けは負けでギャラは一緒なんですよ、要は（笑）。僕もベルナルドと闘って4回倒されても立ち上がって、5回目でKOされたことあるんですけど、評価されませんでしたからね。「よく立った。ようやった」って言われても、何も残らなくてそれで終わりですから。それから半年ぐらい試合がなかったし、その後、マーク・ハントと試合して腰の骨折られて1年間休業するハメになったんですよ。そういう世界ですからね。

—じゃあ気迫とか根性とか、そういったものは超越した世界だと。

天田 もちろんそういったものを見せるのも必要なんですけどね。『JAPAN』がなくなったら、食いっぱぐれちゃいますから（笑）。

—そういう危機感の中で、「俺が何とかしてやる」みたいな気持ちってあります？

天田 「何とかしてやる」とは言わないですけど、「俺に何かできたらいいな」って感じですかね（笑）。

—実際、来年以降の『K—1 JAPAN』の興行予定は決まってないんですか？

天田 いや、僕は知らないんですよ。僕は他の連中とは全然違う場所で練習やってるんで。試合の話がきたら携帯で受け答えして。「大会あるけど試合やるか？」「はい、やります」って感じで（笑）。

何がショックだったって、翌日の新聞の扱いですよ！

新日本プロレス所属選手が初めてK—1ルールでK—1と闘うということで注目されたこの一戦。下馬評では、本職である天田が短時間でKOという声が大半を占めたが、1R早々、柴田がファーストダウンを奪う意外な展開。その後は、さすがに天田がダウンを奪い返し、一方的な展開となるが、何度も立ち上がる柴田の姿は賞賛された。

—そんな状況なんですか（笑）。じゃあ、K—1から一歩引いた目で見て、今後『JAPAN』勢がもう一つ突き抜けるにはどうしたらいいと思いますか？

天田 う〜ん、っていうか、強い外人連れて来すぎ！

—ガハハハ、相手が悪い（笑）。

天田 俺が入った頃なんかアンディ・フグが優勝してるときだから、ピーター・アーツとかアーネスト・ホーストには勝てないまでも、ベスト4ぐらいはなんとか行けるかもって感じだったのに、最近どんどん隙がなくなってますからね。

—確かにそうですね（笑）。

天田 どっからそんなの連れて来るんだって。マーク・ハントとメルボルンでやったときなんて、向こうはまだ全然無名だったんですよ。僕はさっき言ったベルナルド戦のあとで「休暇みたいなもんだから取りあえず行って来いよ」って言われて行ってみたら、1ラウンドで失神KOされましたからね（苦笑）。

—あんなゴツいヤツだなんて聞いてない、と（笑）。

天田 ビビりましたよ。そしたらその年、世界チャンピオンになっちゃいましたからね（笑）。それで失神して倒れたら骨盤が折れちゃって、1ヶ月ぐらいこっちの足が伸びッ放しですよ。恐いでしょう？

—オーストラリアくんだりまで行って、そんな目に遭ったんですか。

すっかり新日本の風景に溶け込み始めているTOAがなんと、唐突にU-30王座に挑戦。ジャーマンを出したりとK-1戦士の原形をとどめない攻めを見せるも、棚橋のドラゴン殺法にタップ。

“モンゴルのアンディ・フグ”ナラントンガラグと武蔵の弟・TOMOがなぜか新日本のリングで闘う不思議な一戦は、TOMOが2R、左ハイキックでKO勝ち。

なぜ「猪木の刺客」なのか不明なクロアチアのルーデンが、ノルキア相手に日本デビュー。しかし、この日はやたらアグレッシブだったノルキアのラッシュでアッサリ秒殺負け！

プロレスって生で見るとメチャクチャ面白いですね!

天田　だから、日本人もみんな結構辛い思いしてるんですけど、相手が相手ですから結果が出ないんですよね。楽してる奴なんかは一人もいないですよ。日本人のレベルも上がってるけど、世界のレベルも上がっちゃってるから勝てないんですよ。僕なんかも欲張っていろんな練習しても勝てませんから。

——やっぱり海外のヘビー級というのは、ナチュラルに100キロクラスの選手が揃ってますからね。日本人は最初からハンデがありますよね。

天田　元々僕がボクシングをやってたとき、ミドル級で71キロだったんですよ。それを無理矢理に筋肉つけて100キロにしてるわけですからね。それはありますね。

——じゃあ、最近よく比較される『K—1 WORLD MAX』とは同じモノサシで語ってほしくないって気持ちありますか?

天田　いや、そうは思わないです。やっぱり強いですもんね。スピードもあるし。ただ、『MAX』も段々相手が強くなっていくんじゃないですか? 興行をやっていく度、より強い相手を探すでしょうから。始めだから、まだ楽っスよね。佐竹(雅昭)先輩もK—1初期は、グランプリで準優勝とかしてたじゃないですか? 時間が経てば経つほど苦しくなりますよ。

——じゃあ、これから『MAX』もJAPAN勢と同じ苦しみを味わうわけですね(笑)。ところで、天田さんは、今後もまた新日本プロレスに出るつもりはありますか?

天田　呼ばれればいいんですけど。柴田君が、またやりたいと言ってるみたいなんで、そのときは頑張ります(笑)。それから、関係ないですけどプロレスってテレビで見るより生で見る方が全然面白いですね。

天上天下唯我独尊

あまだひろみ■1973年5月10日、群馬県出身。185cm、102kg。全日本アマチュアボクシング選手権優勝の実績を引っさげ、K-1に参戦。JAPAN勢屈指のパンチを武器にK-1 JAPAN・GP2003で準優勝、1999、2003では第3位に入賞している。

——ああ、そうですか。

天田　この前のドーム(10・13)では柴田くんの試合ぐらいしか、ちゃんと観なかったんですけど、今回ずっと試合観てたらメチャクチャ面白いなと思って。だって、いきなり倒立するんですよ?

——西村選手ですね(笑)。

天田　サップまで倒立に挑戦してましたからね、失敗したけど(笑)。

——天田さんにプロレスのオファーとか来たらどうします?

天田　いやいや、できないですよ! あんな、サップ持ち上げなきゃいけないのに、上がらないでしょう。あれ見たらできないなあって思いますよ。

——でも、K—1(FEG)はこれからバーリ・トゥードやプロレスもやっていくみたいですから、そういう機会もあるんじゃないですか。

天田　少なくとも僕はK—1以外できないですよ。プロレスやるとやったら大変ですよ。だって、村上選手なんてパンチ喰らって落ちてるのに、カウント9でレフェリーに起こされてましたからね(笑)。「うわー、落ちてる人、立たせたよ!」と思って(笑)。あそこでもう一発いいのもらったりしたら、ホントに危ないですよ! いいんですか!?

——あの状態からまだ試合を続行しなくちゃいけないプロレスっていうのは恐ろしい、と(笑)。

天田　信じられない。ビビりました! それから、あと永田さんと鈴木さんが(張り手で)思いっ切りしばき合ってたじゃないですか。あれ絶対に鼓膜やぶれますよ。

——そうかもしれないですね。

天田　いいんですか、あれ。鼓膜破れるの当たり前なんですか?

——まぁ、よく聞く話ですよね。

天田　あれ絶対破れてますよ。離れて見てたけどバッチーンって凄い音聞こえるんですよ!

——ちょっと考えられない世界でしたか(笑)。

天田　だから自分ではやりたくないですけど、結構ハマりましたね。新日本プロレスが全盛期のころ、よく兄貴が小学1年生の僕を実験台にしてサソリ固めとかコブラツイストとか掛けてきて、それ以来プロレスってダメだったんですよ。

——そんなトラウマが(笑)。

天田　でも今回、生でプロレス観て、兄貴が夢中になったのも理解できましたね。凄え楽しかった!

——天田選手がプロレスファンになるというのは意外な展開ですね(笑)。では、また新日本のリングに上がる機会があることを期待してます!

【03年11月4日/都内・某ホテルにて収録】

G1に優勝はしたものの、ドームでの王座挑戦が流れるなど、やっぱり不遇を味わった天山が、ついにIWGP奪取。しかし、試合とマイクがしょっぱかったため、嫁にダメ出しされたという。

高校レスリング時代から未だに続いている本物の因縁があるため、プロレスの試合ながら、感情見えまくりで実に面白い永田vs鈴木。この日も張り手を本気で入れ合うなどした後、ドームで負けた永田がやっぱりリベンジ。

ボブ・サップが無我と初遭遇した、西村&中西vsサップ&中邑の一戦。サップはこの前日のみちプロ同様、郷に入っては郷に従えで、倒立、ドリー式ブレイク等、無我ムーブを披露した。

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2003 NO.68

MMA Main-Event

Year End Special

MMA

Naw Year Wars

Radical Spcial

Pro-wrestling Special

Columns

Another

※吉田豪の『書評の星座』、原タコヤキ君の大阪プロレスは都合により休載します。

仕掛けても地獄、仕掛けなくても地獄！　大晦日格闘技戦争!!

イヤーエンドフィーバーinマット界 新旧世代闘争 やりますかーっ!!

みんなと仲良くしたいなぁ〜♥

山口日昇＆吉田 豪のマット界震撼トーク

月刊Y²談 VOL.10

構成／ジャン斎藤

designed by gutty (Two three)

山口　いやあ、今月はマット界の歴史に残る激動の1ヶ月だったね！　11・9『PRIDE・GP』はもの凄い盛り上がりだったし、大晦日には格闘技イベントが4！　6！　8！と、テレビに揃い踏みすることが決まったし。

吉田　会長、そのフレーズを表紙にも打っておいていまさらアレですけど、ウチは全国誌だから数字で言うと暗号だとしか思わない地方の人も多いですよ。日テレ、TBS、フジって言わないと。

山口　あ！（笑）。まぁそんな細かいことはどうだっていいんだよ！　大晦日には曙もK－1で闘うご時世なんだから（笑）。

吉田　K－1のKは国技のKだったっていう（笑）。あと、曙参戦発表会見の日の深夜、麻布十番の高級中華料理屋で石井館長と曙が密会しているところを『FRIDAY』がスクープしてて、シャツの胸元をはだけた石井館長と怪しい相撲関係者が密談してる写真が載ってたのも衝撃的でしたね。

山口　ガハハハ！　そういうマニアックな前フリ！　あれはどこからどう見ても角界関係者に見えるけど、柳沢忠之（『SRS・DX』元・発行人）だよ。

吉田　あれだけ誌面に出るのを拒み続けた社長（柳沢のあだ名）が後ろ姿とはいえ誌面に載るのは奇跡じゃないですか（笑）。

山口　あのとき、なぜか俺に『FRIDAY』から「どういう肩書きで書いたらいいか」って問い合わせがあったから、冗談で「林真須美の実弟とでも書いておけば」って言ったんだけど、それはさすがに掲載されなかったね（笑）。

吉田　あ、だから「業界では〝デブ太郎〟の異名で呼ばれるY氏」なんて失礼極まりないことが書かれてたわけですね。どうせ会長が犯人なんだとは思ってましたけど（笑）。

山口　いや、その電話で〝デブ太郎〟なんてひと言も言ってないよ、俺は。その〝デブ太郎〟っていう異名は島田裕二が名付け親らしいから、島田裕二じゃないの？　犯人は（笑）。まぁそれも冗談だけど、そういうふうに書けってプッシュした犯人は、俺には薄々わかるけどね。でも、あれは仙波久幸（『FRIDAY』デスク）の復讐ですよ。ほら、昔ウチで作った『猪木とは何か？』で俺と社長で散々遊んだでしょ、仙波久幸を使って（笑）。

吉田　「俺はあの本でひどい目に遭った！　突然呼び出されて食事してたら、勝手に会話をテープに取られてそのまま載せられたんだ」って怒ってましたからね。しかも、その後も仙波さんと付き合い続けてフォローしてる会長と違って、社長はあのとき遊んだままだったし。

山口　俺も気をつけようっと。だけど社長もそうだけど、なんか最近は俺の知り合いがプロレス雑誌以外にちょくちょく載ってるんだよね。

吉田　ボクもジャニーズの山下智久君なんかと並んで『anan』の恋愛特集に出てたし（笑）。

山口　嘘ぉ!?　あと、佐藤大編集長（『週プロ』）も『SPA！』にデカデカと載ってたりしてさ。

吉田　ああ、武藤がプロレスのビジネスについて語る『全日本プロレス代表取締役社長 武藤敬司』ですよね。連載が始まった頃には景気のいい話が大半を占めていたけど、『W－1』失敗と当時にしみったれた話が多くなっていったことで有名な（笑）。

山口　さっき、ちょうど佐藤大編集長から電話かかってきたから「佐藤大編集長すごいね、『SPA！』にこ～んな大きく写真載ってるよ！」って言ったら、「でも、ひとつだけ不満があるんだよなぁ。モノクロなんですよォオォ！」だって。ホント、ターザンの劣勢遺伝子を受け継いでるね、佐藤大編集長は（笑）。

吉田　ああ、「俺をVIP扱いしろ！」ってやつですね（笑）。そういえば、前号でターザンのK－1絶縁宣言を載せたら「なんで俺の原稿が一番最後なんだ！　もう『紙プロ』とも絶縁する！」って言ってるみたいですけど。

今回の大晦日騒動は、それぞれのテレビ局の思惑も余計に話を複雑にしてるんだよね［山口］

山口　それは大・大・大歓迎だね！

吉田　ターザンは「『紙プロ』がインタビュー雑誌に成り下がった」とも言ってたんですけど、そもそも『RADICAL』創刊号なんてインタビューしか載ってなかったじゃないですか（笑）。

山口　失礼な！　それ以外に試合レポートも載ってたよ！

吉田　一部、白紙でしたけどね（笑）。それと最近、ターザンは「山口はいい服着るようになったなぁ」とか、やけに意味深なこと言い出してますよ。

山口　どこが意味深なんだよ。いま着てる服だって、3年前から変わってねぇですよ！　ターザンに言えることは、これだけだな。いきます！「なぜ、この世界の格闘技史上に残る、歴史的な雑誌に出ないのですか？　山本さんはもう『紙プロ』に背を向けてしまったのでしょうか。敢えてひと言だけ言います。去る者は追わず！　それだけです」。

吉田　そんなターザンは、今月号にもちゃっかり出てるんですけど（笑）。

山口　だったら、どこが絶縁なんだよ！　あんなキモいオヤジのことより、豪ちゃんは超熱風が吹いた『PRIDE・GP』はどうだった？

吉田　最高に面白かったですよ。なぜか、ターザンと一緒に見てたんですけどね。

山口　またターザン話だ！　豪ちゃん、さては惚れてるな？（笑）。

吉田　別にボクだって一緒に見たくて見たわけじゃないですよ！　締め切りを過ぎた原稿を抱えてたんで、ノートパソコンで原稿書きながら観戦しようと思って記者席に行ったらターザンがいて、隣の席を用意されたんです。ターザンは試合中でもボクの目を見ながらずっと話しかけてきたりするから、原稿なんかまったく書けませんでしたよ（笑）。

山口　何をしに会場に来てるんだよ、あのオヤジ（笑）。

吉田　いや、「今日の『PRIDE』は面白かった！」って、すっかり興奮してましたよ。「最終的に勝ったのは俺たちですよぉぉぉお！」って恒例の自画自賛に走ってましたけどね。

山口　……はっ？　勝ったのは俺たち？　どういう意味？

吉田　「俺たちが一番楽しんでた！　だから、俺たちの勝ちだぁぁあ！」ってことで、どうやらボクも『PRIDE・GP』に勝ったらしいですよ（笑）。

山口　おめでとうございます（笑）。

Y² 談出席者

↑吉田 豪

目黒祐樹宅。本誌スーパーバイザーは、目黒の実兄・松方弘樹を意識しつつ遠山桜Tシャツをわざわざ着込む芸の細かさ。目黒さんは「代表作は？」との問いに、自身が主役を演じた「ルパン三世！（実写版）」と、迷わず即答。

↑山口日昇

ロシアン・トップチームと本誌鬼畜編集長。「山口編集長はいつも編集部で何をやってるんですか？」と『紙プロHand』に投稿がありましたが、たったいま、長州×橋本の"コラ！コラ！劇場"テープを聴いてバカ笑いしてます。

月刊Y^2談

吉田　ヤマヨシvsヒーリングが会場を凍りつかせた以外は、ここ数年で一番の完成度でしたからね。

山口　あ、そう？　その試合はモニターで見てたけど、ヤマヨシは善戦してたし、俺はつまんなくなかったな。

吉田　たしかにモニター組の評判はいいみたいですけど、あのレベルで善戦って表現しちゃ絶対に駄目ですよ！　ヒクソン戦はたしかに善戦でしたけど、あれから10年経ってるのにヤマヨシは極めきれないフロントチョークやロープ掴みを繰り返すばかりで、最後はあっさりチョークを極められるっていう10年前からまったく進歩の感じられない展開だったし、スピード感や緊張感が一切感じらなかったしで、あれだけ盛り上がっていた会場がみるみるうちにクールダウンしていきましたからね。

山口　それはヤマヨシに対する期待感がないせいでもあるとは思うんだけど、他の試合がえらく盛り上がった影響もあるんじゃない？　試合前から会場の出来上がり方が尋常じゃなかったしさ。

吉田　なにしろ、レフェリーやドクターを紹介するときの声援が、新日本の10・13ドームで一番沸いたホーガンの入場と同じくらいでしたからね（笑）。

山口　とくに吉田vsシウバなんかずっと沸きっぱなしだったじゃない。

吉田　ボクも生まれて初めて吉田を応援できましたよ！　負けん気の強さが全面に出た試合内容もよかったし、試合後の悔しそうな顔もよかったしで、いままでは淡泊な試合ぶりで会場人気が皆無だった吉田が、ようやくエースとして認知されたと思いますよ。

山口　いい意味で吉田の人間性が見えてきたよね。それと、サクとノゲイラにも脱帽だよ！　ランデルマンって試合はつまんないんだけど、あいつから一本極めるのは至難のわざだって選手の間ではもっぱらの評判なんだよね。力がハンパじゃなく強いし、相手の技に対する反応力もズバ抜けてる。そのランデルマンから一本極めるんだから、サクはやっぱり日本の匠ですよ。俺、関節技の攻防、大好きなもんだからさ。

吉田　海外ではあんまり綺麗に極めすぎたから、八百長説まで流れてましたけどね。あんな地味な試合展開のワークなんか、一体誰が組むんだっていう（笑）。

山口　そういう類の話は毎度毎度おなじみのってことでいいでしょ（笑）。サクがニュートンとやったときだって、あまりにも試合が噛み合うから「あれほど見事な試合はワークでしかありえない」って海外のマスコミも喜んでたし。それくらいサクの「術」が「芸」に昇華してるって話でしょ。しかしノゲイラもそうだけど、この打撃全盛の時代に関節でキレイに一本取る彼らには、本物の底力と骨太の意地が見えたよね。一度はどん底まで落ちた2人がビッグカムバックを果たすっていう物語も凄いけどさ。

吉田　サップ戦もそうでしたけど、ノゲイラはギリギリまで追いつめられてから一本取るっていう〝風車の理論〟なシチュエーションがホントにハマりますよね。もう闘魂伝承してもいいっていうぐらいに（笑）。

山口　サクとノゲイラが一本極めたときなんか、俺は年がいもなく万歳しちゃうぐらい興奮したもんなぁ（笑）。

吉田　実況席の高田本部長の喜びようも凄かったですよ！　ノゲイラが極めたときなんて「取った！　腕取ったよぉぉぉお！」って、馬券を取ったターザンばりに大炎上してましたからね（笑）。あれは、大晦日の興行戦争でミルコが日テレの『イノキ・ボンバイエ』を選んだから、「よくライバル興行のメインを潰してくれた！」って喜びだったんですかね？

山口　ちなみに「見事な一本勝ちを見た興奮」からだって本人は言ってました。

吉田　いや、あっさりと『PRIDE』を捨てて日テレに走った猪木さんに「去る者は追わず！」って言い放ったぐらいだから、そんな思いは絶対あったはずですよ（笑）。

山口　（無視して）しかし、あの高田劇場は最高だったね！　さすが、ビジョンに「引退してから超パワーアップ！」って出ただけのことはあるよ。「日本テレビは『猪木祭り』」「TBSは『K-1（Dynamite!!）』」って他局や他のイベントの名前も出すし、本部長があそこまでやるとは思わなかったなあ、俺も（笑）。

吉田　「フジテレビの清原、大晦日、やるのかやらないのか、ハッキリしろ！」って言ってましたけど、一般客は誰のことだかわかるわけないですよ。巨人の清原が遂に格闘家デビューするんじゃないかと思っちゃいますよね（笑）。

山口　説明すると、K-1や『PRIDE』などを手掛ける、フジテレビ格闘技委員会のプロデューサーですね。

吉田　もっと詳しく説明すると、かつて「リングスは八百長」発言で前田日明と大揉めした人ですね（笑）。

山口　余計な過去まで引っ張り出さないでいいよ（笑）。しかし、高田本部長は過去に苦しい思いをして選挙演説をやった経験がようやく活きてきたよなあ。地獄の思いをして出馬した経験値が、こんなところで活きてくるとは（笑）。

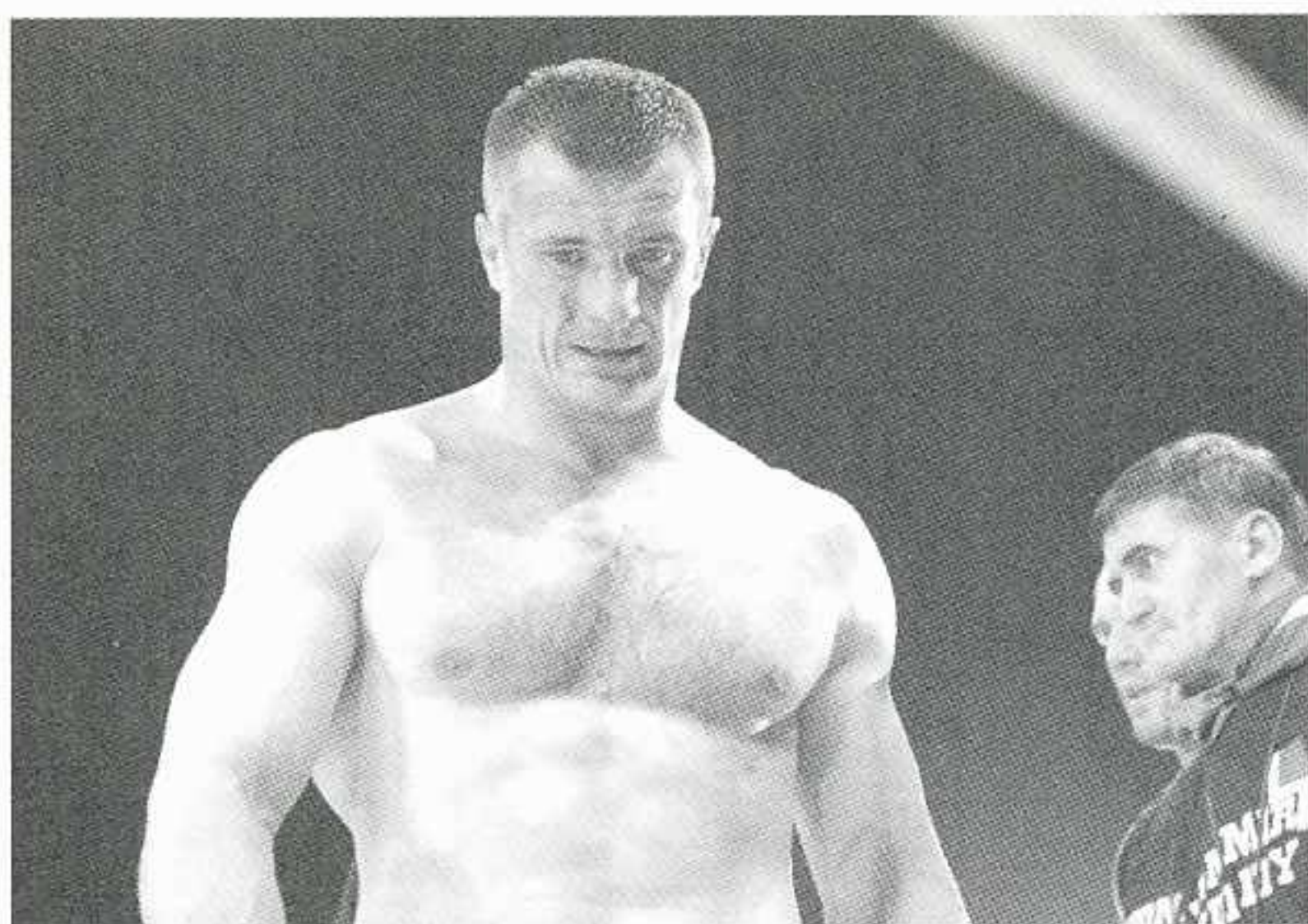
吉田　いま噂の『泣き虫』情報で言うと、「必死になって考えた」「唯一の公約」が「校庭を芝生にする」だったことで、一部では笑いのネタになったりの経験が活きましたね（笑）。

山口　いま選挙に出たら、確実に受かる勢いとエネルギーがあるね。

吉田　選挙カーの上でのけぞってくれたら、それでOKですよ（笑）。

山口　『泣き虫』も面白かったしなぁ。これから読む人がつまんなくなっちゃうから具体的な内容は言わないけど、プロレス村からは大反発食らうと思うね。

吉田　とりあえず新日本とUインターの対抗戦での星を返す、返さないの話にまで言及してたりで、最近すっかり確執が起きてる新日本との溝がさらに広がるのは間違いないんじゃないですか？　実際、すでに新間（寿）さんが『ファイト』の一面や『ゴング』の「三者三様」を使って、「高田は許せない。だから12月4日に新宿ロフト・ワン（正確にはロフト・プラスワン）で俺のトークショー（正確には『ターザン山本と吉田豪の格闘2人祭』があるから、そこで

〝妖刀〟遂に折れ曲がる！　ノゲイラの腕十字の前に屈したミルコは試合後、モノ欲しそうな目つきでノゲイラのベルトを眺めつづけた。この屈辱がさらなる進化の起爆剤となるかもしれない。ミルコは『猪木祭り』高山戦が再起戦となる

新日プロのレスラーに高田道場へ挑戦表明をさせる！」ってアピールし始めてますからね（笑）。

山口　ガハハハ。でも、高田本部長が言ってることは、「そろそろプロレスの定義をしなさい」ってことだから、別に暴露本ってわけじゃないんだけどね。「もういい加減に格闘技とかなんだとか、あやふやなことは言わないで、プロレスの定義をハッキリすれば？」っていうことで、自分がプロレスラーとしてやってきて、その定義をハッキリする時期にきてるってことを言ってるだけなんだよ。

吉田　それが「すべて結果が決まっている」っていう定義だとしたら、新日本だけじゃなくて猪木さんも絶対反発しますよね。

山口　もしかしたら、『W－0』（仮称）に参戦する破壊王やオーちゃんたちも反発するかもしれない。そういったことを含めて、どんな反響があるのか楽しみだね。

吉田　『週プロ』や『ゴング』みたいな専門誌はどう反応するんですかね？　どうせなら高田道場への逆取材拒否ぐらいやってほしいんですけど（笑）。

山口　少なくともいまの週刊誌に、そこまでのエネルギーはないね（キッパリ）。『PRIDE』やK－1に押されてる時代だからこそ、プロレスマスコミがどう扱うか興味はあるけど、まず黙殺じゃない？

吉田　『格通』なんかは「高田こそ真のノーフェイクだ！」って、掌を返して大喜びするかもしれないですけどね（笑）。

山口　これを出したのも、高田劇場での猪木さんに対する宣戦布告にしても、いろんなことが時代性の中でタイミングとして重なってるんだと思うよ。

吉田　とにかく、いま大晦日問題で一番気になってるのは谷川さんが「せ〜のっ、ダイナマイッ！」ってやってくれるのかどうかなんですよ（笑）。

山口　ガハハハ！　あのトボけた口調で（笑）。

吉田　で、会長的には曙のK—1参戦ってどうなんですか？

山口　インパクトは十分すぎるくらい十分でしょう！　話題性だけでいったら、他の2つをグンと大きく突き放したよね。

吉田　まさに話題性とインパクトだけって気もしますけどね（笑）。ボクも『AERA』からコメント求められたりで、一般マスコミの食いつき方は尋常じゃないですよ。

山口　ただ、曙はヒザが悪くてもはや走れもしないっていう話もあるじゃない。ヒドイ試合、ブサイクな試合になることは容易に想像できるよね。その想像を超えた凄ェ試合になるのかどうかが楽しみだね。

吉田　まあ、曙は茶髪にしたらアジャ・コング激似になっちゃったし、練習を見る限りでは動きもエマニュエル・ヤーブロー級だしで、試合には一切期待できないわけですけど。

いい意味で吉田の人間性が見えてきた ビックカムバックしたサクとノゲイラには脱帽!!［山口］

大熱戦となったシウバvs吉田は、ファンの歓声が途切れることなく沸きっぱなし！　とくに吉田の負けん気の強さ、底力には、シウバに敗れはしたが評価を大きくあげた

山口　「瞬間芸」「見世物」「本当の格闘技ファンは喜ばない」と言ったところで、話題を持っていくんだから大したもんだよ。猪木さんは「プロレスとは興行である」じゃないけど、「格闘技とは興行である」というモノサシに照らし合わせればね。

吉田　これで魔裟斗が出ることになれば視聴率的には圧勝ですよね。いかんせん魔裟斗は出場拒否をアピールしてるみたいですけど（笑）。

山口　魔裟斗の相手として、畑山（隆則）とか薬師寺（保栄）に声をかけたって話も出てる。し、ZERO－ONEファンにはおなじみのトム・ハワードとプレデターにも声をかけてるね。

吉田　谷川さんに言わせると、畑山の参戦は「よく言われるけど、ボクは当たってもいないですよぉ」。ZERO－ONE外国人勢も「あっちから売り込んできたんだし、引き抜きとか言われるんだったら使わないよぉ〜」ってことみたいですよ（笑）。

山口　ZERO－ONEの中村部長にも「引き抜きじゃありませ〜ん」って言ってたみたいだね。

吉田　谷川さんは事情説明のためZERO－ONEの事務所に電話しようとして、間違って破壊王の携帯にかけちゃったらしいですよ（笑）。

山口　ダハハハ。いまのタイミングで間違い電話をかけたら、余計話がこじれるよ。

吉田　さすがは谷川さんって感じなんですけど、曙vsサップは格闘技ファンの興味云々とは別にして、紅白から視聴者を奪うためには最高のカードだと思いますよね。

山口　瞬間最高視聴率は曙に軍配でしょ。猪木さんも「打倒・紅白」を掲げるんだったら、『イノキ・ボンバイエ』でこそ曙vsボブ・サップとかやらなきゃいけないはずなんだけど。逆にそのミルコがK—1に出なきゃダメなんだよ、普通なら（笑）。

吉田　ミルコは試合タイツが紅白なだけで、「打倒・紅白」からは大幅にズレてますからね（笑）。日テレだけに視聴率は買収してでも取りにいくでしょうけどね。

山口　おまえも嫌みだねぇ。日テレが視聴率を買収してたのは事実だけどさ（笑）。
吉田　『イノキ・ボンバイエ』にはスマックの篠社長が関わっているだけあって、本当にどう転ぶかわからないですからね。篠社長は「引退前に藤波さんにもガチンコをやってもらいたい」とか言ってるみたいだし（笑）。
山口　ガハハハ！　ガチンコで三本指を立てて「みっつ入ったのか？」ってやってほしいね。
吉田　猪木さんも言ってましたけど、どうやら『イノキ・ボンバイエ』は年に3～4回やっていく予定らしいですね
山口　俺は『イノキ・ボンバイエ』を3年連続でやるっていうふうに聞いてるけど。
吉田　てっきり新日本が『アルティメット・クラッシュ』をプロレスとは別枠の興行にするって言ってたから、それを『イノキ・ボンバイエ』なり『ジャングル・ファイト』なりの名称で日テレが放送していくことになるのかなと思ってたんですけど。
山口　でも、どうなるかわからないよ。なにしろ猪木さんが関わるんだから。去年なんかは「『イノキ・ボンバイエ』を毎月やっていきたい」って言ってた人だしね（笑）。
吉田　そういう意味では『イノキ・ボンバイエ』は、『LEGEND』的な期待感だけはありますよね。お馴染みの川村さんと猪木さんに、ミルコの代理人で『マハラジャ』のオーナーであり、ヘアヌード仕掛人の高須基仁氏から「今後の格闘技界は彼が中心になっていく」と言われた川又（誠矢）さん。そこに篠社長まで加わるんですからね（笑）。
山口　イズマイウもいるよ（笑）。川又さんは格闘技界のニューリーダーと言ってもいい人物だけど、総合の他にも立ち技やボクシングのイベントも仕掛けていく腹づもりらしいね。
吉田　でも、イメージとしては、『LEGEND』に『ジャングルファイト』が混ざった興行に、ミルコが迷い込んじゃったような感じなんですよね。最強のイメージを消されちゃった以上、もはや日本プロレスラーをぶつけるしかないんでしょうけど。
山口　この号が発売されるころにはミルコの相手は高山と発表されてると思うよ。ミルコは「ノゲイラやヒョードルと闘って、『PRIDE』のベルトを巻きたい」というモチベーションをまだ持ってるし、ノゲイラ戦で来日早々の第一声が「俺のベルトはできたのか？」だったし、負けたあとも羨ましそうにノゲイラのベルトを見てたから、本当にベルトが欲しいんだろうね。オマケにミルコはクロアチアの国会議員の座も欲しがってる。今度来日する時は本当に議員になってるかもよ。
吉田　だったら、『イノキ・ボンバイエ』にはパンクラスが協力するみたいだから、無差別級王者のジョシュ（・バーネット）とでも闘えばいいんじゃないですか？　まあ、ミルコが王者になったらギャラが高すぎてパンクラスに呼べるわけもないんですけど（笑）。
山口　ガハハハ！　ミルコの相手には噂としてオーちゃんも挙がってたね。オーちゃんは単発で格闘技に出てもプロレス界にはフィードバックできないのはわかってるから出ないよ。あれだけの経験値とクレバーさだから、出て行く以上は継続してやらなきゃいけないことはわかってる。継続してやってくためにはプロレスを犠牲にしなきゃいけなくなるけど、いまオーちゃんのモチベーションは『W-0』で新しいプロレスを構築することに向いてるから。
吉田　だったら、また藤田でもいいじゃないですか。「今年も藤田vsミルコの季節がやってきました」ってことで、年末の風物詩にすれば一切問題なしですよ（笑）。
山口　猪木さんも『レコード大賞』の会場から『紅白歌合戦』の会場に向かうように、

月刊Y²談

3局を股にかけて動けばいいんだよ（笑）。
吉田　神戸、名古屋、東京とヘリコプターなんかで移動して、去年の『Dynamite!!』みたいにダイブしてくればいいんですよ。もちろんノーギャラで（笑）。
山口　ガハハハ！　これだけ揉めたあと、猪木さんが『PRIDE』やってるさいたまスーパーアリーナに向かって空から降ってきたら、それだけで驚きだよ。
吉田　ターザンとも話したんですけど、大晦日決戦はやる前から猪木さんがMVPに決定ですよね。フジテレビとTBSを本気にさせたのは猪木さんだし、2年連続放映していたTBSから離れて、「今年は日本で一番高い山からやる」ってフジへの移籍をほのめかしておきながら、結局は自分だけ日テレに行っちゃったんだから、フジだってTBSだって局のメンツに懸けても負けられないはずですよ。
山口　「日本一高い山とは言いましたけど、フジテレビなんてひと言も言ってねえです！」っていう猪木流ロジックは使いそうだね（笑）。
吉田　あ、猪木さんのやり口がわかりましたよ！　ミルコの相手に高山を選んで、「ほら、一番高い山でしょ？」ってネタにしただけですよ、絶対（笑）。
山口　ガハハハ。でもそれを言うなら、去年もサップの相手は「一番高い山」だった気がするけど（笑）。
吉田　とにかく、「一番高い山」が高山を指していることと、今回の大晦日興行戦争で一番貧乏くじを引くのも猪木さんなのは確実だと思いますよ（笑）。
山口　この号が出る頃には、すでに「俺はなんにも触ってねえですから」っていう切り札を出してるかもしれない（笑）。
吉田　いいですよね、このどこかで見たような光景（笑）。猪木さんは「ノアに頼るな！」って新日本に何度も噛みついてるのに、「小橋対ミルコ浮上」とかノアに頼りきった情報が流れてたのもなんとも言えないし。
山口　それを飛ばした東スポの記者がノアの仲田龍から出入り禁止を言い渡されたっていう話もあるけどね（笑）。でもね、猪木さんの感性はいまでも鋭いよ。御輿に乗って得意になってるわけじゃなく、「人生はS字カーブのようなものだ。いま俺の人気は正直言ってピークから曲がり角に差し掛かってきてる」って自分のポジションを冷静に分析してる。
吉田　そのへんは自分でもわかってるんで

すね。
山口　今回、TBSを蹴ったり、『PRIDE』から離れたことにしても、でも、そのそれに続く言葉が凄いんだよ。「こういうときこそ、次のブームに向かってどう仕掛けるかが重要だ」って。おいおい、まだ次のブーム起こすつもりかよって（笑）。
吉田　今後も自分のパチスロとかを作っていくためには、人気を持続させなきゃいけないですからね（笑）。
山口　今回TBSや『PRIDE』から離れて日テレに乗ったのが、次のアントンブームを新日本の中継を日テレに移すのが猪木さんの真の目的っていう噂もあるし。
吉田　それなりの条件さえ提示されれば、ここ数年文句を言い続けているテレ朝から離れる可能性はかなり高いですよね。
山口　今回の大みそか騒動は、それぞれのテレビ局の思惑も余計に話を複雑にしてるんだよね。
吉田　格闘技大戦争ですねえ……。
山口　K-1と『PRIDE』は対立してるけど、『PRIDE』と『イノキ・ボンバイエ』は正面きってケンカしてるわけじゃない。それはそれで余計に複雑な局面もあるけど、ファンが損しないような戦争になってほしいよね。
吉田　それぞれのテレビ局とイベントが一体となって対立構造になっていればまだわかりやすいのに、そうでもないんですね。
山口　ミルコが『PRIDE』から『イノキ・ボンバイエ』に戦場を移すけど、それで（DSE）榊原代表と川又さんがケンカしてるわけでもないからね。お互いが抱えてる事情や立場から今回はこうなっちゃったっていうことでしょ。
吉田　榊原代表と川又さんは『サイゾー』で対談もしてますしね。『PRIDE』の大晦日もドタバタしてるんですか？
山口　日テレの『イノキ・ボンバイエ』も、TBSの『Dynamite!!』もあくまで単発、年一回のイベントだけど、『PRIDE』だけは継続していくでしょ。通常のシリーズのスペシャル枠で来年に繋がるものを見せなきゃいけない。お祭り騒ぎだけでは繋がらないから、そういう部分で、つくる側はハードルの高さを感じてるんじゃないかな。今年の『PRIDE』はハズレがないけど、逆にそれ以上のものを提示しなきゃならないこともプレッシャーだろうしね。

『BOMB』増刊の『ZABADA』（12月9日発売）にて、谷川×上井対談の司会をつとめた吉田豪。対談場所は新日本の社長室で行われたが、ドラゴンの失言を防ぐために噂通り、「取材禁止」の貼り紙が社長室扉に張られていたのだ！すかさず激写！

大晦日はやる前から猪木さんがMVP 一番貧乏くじを引くのも猪木さん［吉田］

吉田　『格闘紅白』みたいな感じで、紅組と白組に分かれて試合すれば大晦日っぽくないですか？　応援シートも完全に分けちゃって（笑）。
山口　いいねえ、『かくし芸大会』みたいにしちゃったり（笑）。
吉田　全選手が揃ってるリングマットを、マチャアキが引き抜いたりして（笑）。あと、高田が言っていた「純度100％、混じりっけなし」は、無理に『PRIDE』の本道から外れることはないという意味だけじゃなくて、「よその興行には混ざりっけがある」っていう嫌味のように聞こえたんですけど。
山口　面白いものが勝ちですよ。でも、「面白い」にも一流から五流があるからね。何号か前の『紙プロ』にも書いたけど、K-1対『PRIDE』は、遠心力対求心力の闘いだから。会場の熱、試合のクオリティでは、勝算はいくらでもあると思うんだよ、『PRIDE』にも。視聴率では曙には勝てないけど、感動率では勝つっていうか。でも、フジも視聴率では負けたくないだろうから、難しいよね、大みそかは。
吉田　たしかに、会場に行くんだったら『PRIDE』。テレビで見るんなら『Dynamite!!』。試合前の会見や裏話だけで満足なのが『イノキ・ボンバイエ』って感じですよね。
山口　しかし、新日本がTBS、日テレに選手を派遣する裏で、テレ朝が『ドラえもんスペシャル』をやるっていうのはどういうこと？　新間寿が「なぜプロレス特番で立ち向かわない！」って怒った気持ちもわかるよなあ（笑）。
吉田　いや、こんだけ格闘技番組が並んだら『ドラえもん』の視聴率が逆に上がると思いますよ。『イノキ・ボンバイエ』も目玉カードがないんだったら、猪木さんがドラえもんと闘えばいいだろうし（笑）。
山口　実際、猪木さんは紅白仮面だけじゃなくてピカチュウとも闘おうとした人だからね。一昨年のボンバイエで「俺がピカチュウと闘うっていうのはどうだい？」って、真顔で言い出したらしいから（笑）。
吉田　そういう話を聞くと、猪木さんは『W-0』向きの人材だなって思っちゃうんですけど（笑）。
山口　その『W-0』も1・4開催が正式決定したね。こないだのZERO-ONEの後楽園ホール大会（11・7）で、破壊王も「もう一回喧嘩仕掛けるぞ！」ってマイクアピールしたでしょ。「どこと喧嘩するんですか？」って訊ねた記者陣に「楽しみにしとけ！　憶測で書いておけ！」って言ってたから、もうそのころには正式決定してたはずだよ。
吉田　最後にマイクを握って、唐突に「カッちゃん、結婚おめでとう！」って勝俣（州和）の結婚をリング上で祝ったのも凄かったみたいですね。（笑）。
山口　こないだの後楽園はOH砲が久々に同じ大会に揃ったから面白かった！　やっぱZERO-ONEはああでなくちゃいけないね。
吉田　破壊王がいるだけでムードが違うんでしょうね。破壊王は長州との絡みも最高だったみたいですね。
山口　ああ、ZERO-ONEの道場に長州がたった1人で乗り込んできたんでしょ？
吉田　その模様をテープを聞いたら、ホントに長州は何を言ってるか全くわからないですけど、緊張感と怒気だけはビンビン伝わってくるんですよ！
山口　長州が「吐いた言葉を呑み込むなよ、

コラァ！」と叫んだら、「何がコラだ、コラァ！」って叫び返した、俗名「コラコラ問答」があった日ね（笑）。でもそれ、褒めてるのケナしてるの？

吉田 いや、本当に最高ですよ！ あの破壊王ですら長州には言い負けますもんね。強がりみたいなこと言ってるときは説得力なくてイマイチですけど、人をこき下ろす長州は本当に言葉がキレるというか。

山口 『東スポ』で舌戦繰り広げてたのは、破壊王が「長州は死んだ」って言ったことから始まったんだよね。

吉田 それで長州が噛みつき返したんですけど、「橋本のとこはそんなに困ってるのか。苦しくなってきたからウチに触ったのか。ウチは置屋の女郎じゃねえんだ。苦しいときはお得意の三銃士がいるんだろうが。蝶野に噛みつけばいいだろ、お得意の友情物語でな」ってフレーズは完璧すぎますよ（笑）。

山口 でもさ、こういう舌戦とかも新聞紙上でやってるだけじゃプロレスはますます閉塞感が増していくだけの気もするんだよね。

吉田 『東スポ』を何人が読んでるんだって話だし。

山口 会場で事件が起こらないとダメでしょ。いまのプロレスに、ライブでのインパクトがなさすぎるのが問題だと思うんだよね。本来のプロレスの良さってライブでのインパクトじゃない。

吉田 だけど、いまは会場に行って体感したいって気にさせないんですよ。

山口 まったく体感イベントになってないからね。会場がデカくなればなるほど、試合映像の煽りや入場は湧くけど、試合が始まるとシーンとなっちゃう。ZERO-ONEの地方興行みたいに、OH砲が出てきてワーッとなるお祭り感覚は別として、都内のプロレス興行で吉田vsシウバみたいにひっきりなしに声援が飛ぶなんてことないでしょ。とくに新日本の興行なんかはさ。

吉田 東京ドームをあれだけ数こなしてきてるのに、演出がなんであんなに駄目なんですかね。『PRIDE』が下手に同じ会場でやっちゃったから、比較するのも酷なぐらいの差がありましたよ。

山口 こないだの新日本11・3横浜アリーナも凄かったしね。新日本vsK-1三番勝負の第1試合にモンゴル人と武蔵の弟・TOMOが出てきたんだけど、煽り映像すらないから会場はまったく誰だかわからない（笑）。で、メインの高山vs天山の煽り映像はでは、8月の桜庭vsシウバの煽り映像をパクッて「（天山に）3度目はない！」「今度こそ！今度こそ！」とかやってんだよ。ストレートに言うけど、バッカじゃないかと思って！

吉田 プロレスでそういう煽りにリアリティや悲壮感を感じさせるのは難しいですからね。もしかしたら『ファイト』によると高山が契約切れらしいんで、「ホントに3度目はないよ」ってことを伝えたかったのかもしれないですけど（笑）。

山口 ガハハハハ！ でも、それを伝えたいんだったらもっと面白くつくれよ（笑）。それでいまさら「1・4はプロレス宣言」とか言ってるんでしょ？ K-1との抗争も11・3で一区切りらしいけど、11・3から新日本vsK-1が始まったんじゃないの？

吉田 いや、古くは佐竹がリングに上がったり、角田vs猪木もやってるから、長い抗争に終止符を打ったんじゃないですかねえ。

山口 佐竹は演舞だけだし、角田師範はエキシビションだよ（笑）。

吉田 ところで、小川は『W-0』に出るんですか？ マネージャーのS氏がUFOを辞めたから、川村社長の影響力が強くなって1・4は新日本に出るって話もありますけど。

山口 S氏は辞めるというアナウンスはされてるけど、1・4までは業務を続けるみたいだよ。それにオーちゃんは新日本に出る気はないと思うよ。クレバーな人だから、新日本に"場力"がないっていうのはわかってるでしょ。

人をこき下ろす長州は本当に言葉がキレる。あの破壊王ですら言い負ける［吉田］

月刊Y²談

吉田 でも、「闘いたい」って願って止まないホーガン戦とか用意されたら？

山口 そのマッチメイクができるなら、出場はあり得るかもしれないね。

吉田 小川はZERO-ONEで大森と絡みましたけど、こんなアックスボンバー違いはないですからね（笑）。新日本は1・4で所属全選手を参戦させてストロングスタイル査定試合をやりたいってブチ上げたんですけど、猪木さんが最後まで試合を見てられると思います？

山口 無理（笑）。新日本は1・4ドームで20試合組むとか言ってたけど、ホントなの？

吉田 それも衝撃的なんですけど、もっと驚いたのは1・4にターザン山本応援シートが設置されるって話が進んでることですよ！

山口 ……は？ 何それ？

吉田 『ターザン山本との1・4ドーム観戦ツアー』が行われて、ターザンシートができるらしいんですよね（笑）。

山口 …………。

吉田 ターザンも、普段は「俺をVIP待遇しろ！」って騒ぐくせに、いざここまでVIP待遇されると「そんなことしたってお客さん来るわけないよぉ」ってビビッてましたけどね（笑）。上井さんが「会見する」とか言い出したら「いや、そんな会見なんかしたって、人は来ないからぁ」って。

山口 しかし、新日本も『紙プロ』が7年前にやった『ターザン山本追悼興行』のレベルになってきたなぁ（笑）。

吉田 「長州力様」席を用意したようなレベルですか（笑）。

山口 こっちはギャグでやってたけどね（笑）。新日本は内部も結構ゴタゴタしてるみたいだったけど、『W-0』が1・4にあることで、いまは一致団結してるみたいだね。

吉田 でも、大晦日は1・4を前にした選手たちが有無も言わさず『イノキ・ボンバイエ』に駆り出される以上、またゴタゴタしそうですよね。

山口 猪木さんと新日本の関係もややこしいからね。でも1・4も含めた年末年始の興行大戦争の裏テーマは、イベントを組みあげる側の世代闘争だよ。『PRIDE』なら高田統括本部長や榊原代表、新日本なら上井さんから蝶野たちの世代、K-1ならサダハルンバ、柳沢忠之。ボンバイエなら川又さん。ZERO-ONEなら破壊王やオーちゃん。40歳前後の世代がホントに責任と覚悟を持ってやっていけるのかっていう闘いだよね。イベントを仕掛ける側も、猪木さんや川村さんや百瀬さんや石井元館長の世代のせいにできてた時代も終わって、その世代が鉄のビジョンと意思を持たなきゃいけない時代にきてるよ。そういった機運がドームでの高田劇場に如実に現れてるんじゃないのかなぁと思うしね。

吉田 ニューリーダー対ナウリーダーですね。そのニューリーダーに、谷川さんは入るんですか？

山口 若き日の武藤みたいに、いつの間にかナウリーダー側にいるタイプだね、サダハルンバは（笑）。

吉田 会長は？

山口 俺はまったく関係ない（笑）。

吉田 それ、谷川さんと同じですよ！ 結局、猪木イズムというか、旧世代イズムを受け継いでますよね（笑）。最後に一つだけ聞いておきたいんですけど、『W-0』でデビューすると言われるゼブラーマンの正体は、もしかして高野拳磁ですか？

山口 それはグレート・ゼブラ！

【03年11月某日／編集部にて収録】

ただいまお騒がせしとります！

山口日昇と柳沢忠之のふたりが、プロレス、格闘技について力をヌキにヌキまくって徹底的に語り合った。サップ、クロコップ、ノゲイラ、橋本、猪木、金正日、フセイン、ブッシュなどなど。「あーもーわかんない」なラインナップのもと、ふたりが縦横無尽、支離滅裂のトークを展開！　ただいま話題騒然。紙プロファンならば必読の一冊である。

●ウーパー・ルーパーとエリマキトカゲについて、しつこく語るプロレス本はコレだけだ
（東京都は北千住にお住まいのプロレスキッドさん）

●なつかしいおふたりの名前を見て、すぐ買いました。ところで山口さんの名前には、いつの間にか「日」がついていたんですね。
（神奈川県は川崎市にお住まいの水落日陽子さん）

●対談の名手ふたりに最大級のあきれと賛辞を
（静岡県は沼津市にお住まいの切通良乃さん）

●この対談本はもはや「海馬」を越えたにちがいない
（糸井重里大好きっコさんより）

●グレートムダな本があってもいい。
（福岡県は北九州市にお住まいの永井美馬さん）

●この本を読むと、プロレス会場で見かけた山口編集長のキュートなロバ顔を思い出します。ロバちゃん、ファイト!
（横浜市は南区にお住まいの「紙プロファン」永井タミコさんより）

●エリマキトカゲ、猪木、サップ、金正日。近くて遠い本である
（鳥取は鳥取市にお住まいの亀ちゃんより）

●「ヨンダ、コノヤロウ」——猪木のモノマネで
（ブラジルはサンパウロ州にお住まいで、消印は足立区郵便局のアントンくんより）

●家族に隠れて読んでいます。先生にも隠れて読んでいます。友だちに教えようか迷っています
（兵庫県は伊丹市にお住まいの近藤くん高校三年より）

●本当に素晴らしい本と出会うことができました。まだ1ページも読んでないが
（静岡県は磐田郡にお住まいの目が覚メタロウさん）

●大人ってフザけてんなぁー。そう思いました。でも面白い。
（群馬県は高崎市にお住まいの高校三年橋本ファンのMくんより）

●出来れば避けて通りたかったが、思わず購入してしまった。そんな自分にウンザリした
（兵庫県芦屋市にお住まいの竹内英人さん）

●くだらない、たしかにくだらない。しかし私はそこにある種の深さを感じてしまうのだ
（愛知県は豊田市にお住まいの高校教師49歳さんより）

●「ガハハハハハハハ」と「ダハハハハハハハ」。こればっかじゃねーか
（東京都は狛江市にお住まいの木村キムキムさん）

●ホント、読んでいて頭イタくなってきた。
（神戸にお住まいのおさむくんより）

●ホント、オマエらだけには語ってほしくなかった
（東京都は杉並区にお住まいの豊原未知子さん）

●1,2,3,ダーッと読みました
（四国は丸亀市の岡沢展達さん）

●「なーんちゃって」っていう山口さん、素敵です
（奈良は北葛城群にお住まいの日昇クン命さんより）

●なめてんのか、ふざけんな、いいかげんにしろ。でも面白かった。
（福岡は久留米市にお住まいの古賀さん）

●極悪人ふたりの極悪本。
（栃木県は下都賀群にお住まいのガンバレ桜庭さんより）

●柳沢忠之とはなにか？　山口日昇とはなにか？　それは孤独=ソリチュードさんたちである。
（千葉県は佐倉市にお住まいの阿部章三さんより）

●ふたりは、ソリチュードなんですね。ホントかわいそうです。
（青森県は八戸市にお住まいのりんごちゃんより）

●山口日昇、インドでブレイクしろ
（東京都は新宿区にお住まいのフリーターくんより）

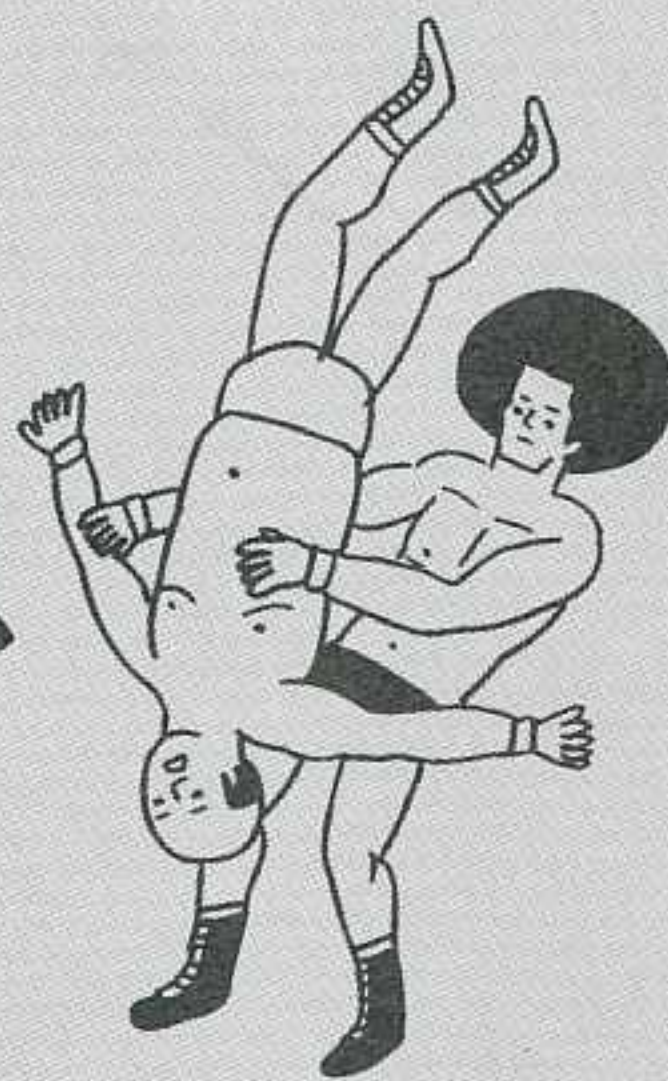
●山口・柳沢へ「あなたたちねぇ、ディズニーランドくらい行けよぉ!」
（埼玉県は入間市にお住まいの馬場より猪木さんより）

●フセインは、この本で自分がこんなに語られていることは知るまい。もしこの本が彼の手元にあれば癒されたろーな。
（東京都は葛飾区にお住まいのハンさんより）

●一度一緒にディズニーランドに行きたい。
（大阪府は泉州にお住まいのカナちゃんより）

紙でプロレス ソリチュード

柳沢忠之
山口日昇

オマエらが語るな！

ボブ・サップ／橋本真也／エリマキトカゲ／K-1
アントニオ猪木／PRIDE／ZERO-ONE
小川直也／桜庭和志／WWE／ピーター・アーツ
エメリヤーエンコ・ヒョードル／バーリ・トゥード
吉田秀彦／アーネスト・ホースト／高田延彦
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ／折り鶴兄弟
ジャイアント馬場／力道山／グレイシー一族
ヴァンダレイ・シウバ／田村潔司
マンモス鈴木／ジェロム・レバンナ
梶原一騎／フセインとブッシュと
金正日／大谷晋二郎／藤原喜明
マイク・タイソン／タイガーマスク／前田日明
ヴォルク・ハン／TAKAみちのく／小笠原和彦
モンスターマン／コマンド・サンボ／TAJIRI
カール・ミルテンバーガー／ウーパー・ルーパー
フルコンタクト／ショー・フナキ／金村キンタロー
アンドレイ・コピィロフ／小林邦昭／冬木弘道
武藤敬司／SWS／新日本プロレス／ガチンコ

ぴあ

定価1,600円（税別）　320P／四六判

●あなた方はプロレスより、ウーパー・ルーパーに関心があるようだ。
（東京都は大田区にお住まいの木村和臣さんより）

●いやー、無意味。いやーでも笑った。あっコレプロレスの本か
（宮城県は石巻市ちゃくちゃくルチャッコさんより）

●チミたちは、ニュー日本人、ニュー日本人だよ。
（京都は駅前のグラビアホテルにお泊まりの大和魂さんより）

●金正日とボブ・サップをまとめて語れるのはオマエらだけだ。
（北朝鮮は平壌にお住まいのダハハハハ1号さんより）

●これはプロレスの本ではない、格闘技の本でもない。しかしやっぱりプロレスの本である、格闘技の本である。
（東京都にお住まいのチョーノさんより）

●オフザケが過ぎますよ!　ペシペシ
（東京都は台東区にお住まいの金村さんより）

●懐かしい!　久々に「んぁー」っと叫びたくなった。
（奈良県にお住まいの鹿さんより）

●もはや説明はいらない。読めばわかるさ、迷わず読めよ。そんな一冊だ。
（東京都は世田谷区にお住まいの闘魂男27歳より）

●えっらそーに……
（神奈川県は厚木市にお住まいの良識者さんより）

●プロレスはソリチュードである。人生もまたソリチュードである。そして山口、柳沢もソリチュードである。
（鹿児島県は谷山にお住まいの自営業を営む34歳男性さん）

●肩は凝らずに読める本であることは間違いない。しかし、頭になにひとつとして残らない本であることも間違いない。
（東京都は世田谷区にお住まいの江田浩太郎）

●チミたちの世の中に対する舐めっぷりは、ほとほと呆れた。
（東京都は大田区にお住まいの吉田真次より）

●サハフ情報相最高!　サハフにはこの本を贈りたい。
（東京都は足立区にお住まいのフリーター31歳さんより）

●小泉ではダメだ。拉致問題は、キミたちに任せるしかない!
（大阪府は岸和田市にお住まいの中込清一さんより）

●金正日が読んだら、怒る本だなあ、これ。
（埼玉県は川口市にお住まいの内藤路さんより）

●これは私のバイブルです。そー考える私って間違ってます?　間違ってないですよね。
（広島県は呉市にお住まいの後藤国吾さん）

●買っちゃったんだよなぁ。買っちゃったんだよぉ。読まなきゃ
（埼玉県は川口市にお住まいのベンさんより）

紙でプロレス ソリチュード

山口日昇 × 柳沢忠之

ぴあの本

発売・発行元＝ぴあ　問い合わせ＝ぴあ販売部／tel.03-3265-1424

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝I編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク

I noue mode

―さて、井上さん。今日は大晦日と正月の興行戦争についてお伺いしたいんですけど。

井上　そんなの、いまの時点でいろんなこと喋ったところで意味がありませんよ。まだ何にも決まってないんだからね。

―3大会を通じて、サップvs曙が決まってるだけですからね（笑）。

井上　だからしっかり「11月15日現在」と書いてもらわないと困る。

―わかりました（笑）。

井上　まぁ、今日はパート1ということで喋りますけど、たったいまプロレス者と曙vsサップの話をしてきたんだけれども、プロレス者は「編集長、曙とボブ・サップ、K-1であんなモノやっていいんでっかいな」って言うてましたよ。たしかにあの2人がK-1ルールでやったら大笑いなんだよな！

―2人ともK-1ファイターじゃないですからね（笑）。

井上　でも、石井（元・館長）さんは頭が良くてズル賢くて人情があるからね。豊臣秀吉みたいに何でもわかってる人だから、曙とサップにK-1ルールをやらせるはずがないと思うんだよ、俺は！　もし石井さんが「純然たるK-1ルールでやります！」って言うんなら、俺はあの男を見放すな。

―曙vsサップはK-1ルールに拘る必要はないわけですか？

井上　今日の雑誌にもサバ折りがどうのとか出てたけど、K-1のルールにサバ折りとかあんのかよ？

―思い切り禁止です（笑）。

井上　そんなことは曙はもちろん、一緒に練習している道場の連中や、グレート佐竹にしたってみんな知ってるはずだよな。

―井上さん、佐竹じゃなくてグレート草津です（笑）。

井上　（無視して）だったら曙の良さが出ないでしょうが。曙が純然たるK-1ルールやっても試合になりませんよ！　曙の力を発揮できるルールを変えるべきであってね。『Dynamite!!』っていうのはK-1大会じゃないんだから、どんなルールでもいいんですよ。谷川の旦那はガタガタ言っとるみたいだけど、石井さんもそこんとこをジーッと考えてるだろうな。

―バードルールだろうと、プロレスルールでもいいわけですね。

井上　ただプロレスをやってしまうと、サップはまだサマになるけども、曙はできないからね。そうすると、なおさら茶番になってしまって大笑いされてしまうと。だから総合ルールにプロレスのルールを取り入れたような試合にするべきであってね。たとえば、時間稼ぎのために場外に出ても構わないとか、マウントポジションからポンポン殴るのは禁止とか。橋本真也とゲーリー・グッドリッジがやったようなもんですよ。

―1回目の『猪木祭り』破壊王vsグッドリッジのようにですか！

井上　つまり、プロ格ルールにすべきなんですよ！（ドン）。

―曙vsサップはプロ格ルール！

井上　サップvs曙は、プロ格にしないと力量は見られんと思うよ、俺は。ルールも場外に2回出ても許されるとか、60分3本勝負にするとかな。

―さ、3本勝負!?

井上　そりゃそうですよ。曙vsサップは絶対にプロ格！　こないだの11・3新日本（横浜アリーナ大会）にもプロ格がありましたけどね。

―11・3はボクも見に行きましたけど、プロ格があったとは気づきませんでした（笑）。

井上　プロレスの匂いがする格闘技がプロ格に入るとすれば、柴田（勝頼）と天田（ヒロミ）は純然たるK-1ルールで闘ったわけだけども、プロレスラーがドーンとぶつかったんだから、あれはプロ格マッチ。吉江（豊）と（モンターニャ・）シウバにしても立派なプロ格ですよ！

―吉江と大巨人の試合もプロ格マッチでしたか！

井上　そうですよ、アンタ！　天田とホーストがやったらそれはプロ格じゃないけどな。

―それは単なるK-1の試合になりますね（笑）。

井上　TOA、大巨人はプロレスの試合やったけども、あの辺はプロ格の選手ですよ。プロレス者にしたって、「柴田！」「ノルキヤ！」「シウバ！」がどうのとか、そんな話ばっかしてるぜ！　高山vs天山なんかは印象に残ってないですよ！

―まだ永田vs鈴木が良かったぐらいですよね。

井上　まだプロ格めいた匂いがしたからね。あれはプロ格でいうと、ギリギリ一番下の試合。相手が鈴木じゃなかったら「永田プロレス」になってるでしょうけど。

―「永田プロレス」ですか（笑）。

井上　あれが橋本であってごらんなさいよ。橋本vs永田って……考えただけでも愚かである！

―やる前からプロ格失格なわけですね（笑）。

井上　ただ、プロ格も下手にやると、どうしてもエンタメになっちゃうんだよな。

―たしかに、その辺のさじ加減は難しいですよね。

井上　『W-1』のホーストとサップみたいになるからね。プロ格だけに限らず、どんな試合にしても、『週刊ファイト』でもキミのところでもいいけども、ルールを全文載っけてファンに伝えるべきですよ。

―どういう試合形式かしっかり説明するわけですね。

井上　載っけるだけじゃなくて、ルールの解説もやるわけだよ。『ファイト』に「2ページ潰してくれ」、『週プロ』に「5ページ潰してください」と。嫌そうだったら謝礼として「10万円だしましょう！」と。ハッキリ言ってそのぐらいしないとダメですよ！

―すべてにおいて、ファンに届かせる環境を整えるわけですね。

井上　試合のたびにアルバイト学生がルールを書いた垂れ幕を掛けるとか、場

今月のお題

年末年始の興行戦争大成功に導く策とは?

〝井上プロレス〟今月も爆発! 前代未聞の興行戦争と化す年末年始のマット界に、我らがI編集長が想像力を駆使してフル回転! またまた大提言が飛び出した! 時代の一歩先を歩むどころか住んでる次元が違う、そんなI編集長の言霊をいまこそ聞きなさい!!

聞き手/堀江ガンツ　構成/ジャン斎藤

内アナウンスで「これは反則ではありません!」とか、客にわからせながら試合を進めていく配慮が必要ですよ。パンフレットに書いてあるだけじゃダメだわな。

――パンフを買わない人はわからないでしょうしね。

井上　あとになっていろいろわかってても仕方がないですよ! ましてやルールが全部違うなんてことになったら、キチッと伝えることが面白い試合につながっていきますからね。高田のところ(『PRIDE』スペシャル)はともかく、『Dynamite!!』であり『猪木祭り』はどんなルールでやってもいいし、ホントの意味での楽しさもつくれと。ハッキリ言って、ミルコ(・クロコップ)と小川(直也)がプロレスマッチをやってもいいわけだよ。

――ミルコが小川とプロレスマッチですか!

井上　ただ「プロレスやれ!」と言われても、ミルコはやらんでしょうな。やったところでサマにならんし、ミルコがトットコとロープに走るわけいかんから。坂口(征二)みたいに1回や2回は面白いけど何回も見たいと思わんしな。

――ロープワークするミルコは見たいですけど、すぐ飽きられるでしょうね(笑)。

井上　小川は大晦日出ないって言ってるんでしょ?

――ミルコの相手に名前が挙がってますけど、出場は難しいでしょうね。

井上　言うちゃ悪いけど、小川が勝つ可能性は非常に少ないしな。ハッキリ言って小橋(健太)とミルコの試合も反対ですよ。ミルコには勝てませんよ、小橋も!

――鉄人vs鉄仮面の試合は見たいですけどね(笑)。

井上　たとえミルコとプロレスルールでやっても恥をかくわけですよ。ダ~メなプロレスマッチを全国に晒け出されてしまったらね、もうプロレスなんて馬鹿馬鹿しくて誰も見ないですよ! ミルコとかヒョードルとか、あのあたりをプロレスに持って来ちゃダメだと。あの辺にはバードでとことんやらせるべきであってね。ミルコ本人が「プロレスやる!」って言っても、俺が殴ってでも止めますよ(ドン!)。

――それほど大反対、と(笑)。

井上　それぞれ持ち味があるわけだよ。たとえば、この前(ヤン・ザ・ジャイアント・)ノルキヤにアッという間にやられた奴がおったろ?

――11・3新日本で行われた、ノルキヤvsイワン・ルーデンのK-1マッチですね。

井上　イワンの奴にしたってやね、猪木が惚れ込んでおったというほどのチャンピオンだからね。相当凄いんだけども、ノルキヤにガーンとやられて呆気ないことになったじゃない。サップvs曙にしても普通にK-1やらせたら「金返せー!」ってことになりかねんわけだよ。ダビッシュにしたって、グッドリッジ相手にああいう試合展開になったしな。

――井上さん、ダン・ボビッシュの縮めかたが変です(笑)。

井上　(無視して)だから本領とか地力っていうものを十二分に発揮させてやるようなルールにして下さいと。吉田にしても、2R制だからシウバとあれだけできたんだよ。

――通常のルールとは違って、グランプリ特別ルールでしたね。

井上　もう1ラウンドあればシウバがバーンと殴ってドーンと蹴って決着が付いとったろうな。シウバも疲れとったというけども、もう一試合やってんだぜ、アレ! 次の日にはケロっとした顔で「大晦日に出る」とも言ってるんだぜ。試合を観てなくても、試合を終わって引き上げていく様子を見れば、シウバが勝ったってことは小学生でもわかるわ!

――小学生でもわかりますか(笑)。

井上　だからルールというのは非常に大切。そういった新しい格闘技を石井さんも示すだろうけども、猪木もどこまで示すかと。それが『猪木祭り』の大きな焦点だわな。

――いまのところ『猪木祭り』には、ミルコ・クロコップの参戦しか発表されてないですけど。ミルコは誰と闘わせたらいいですか?

井上　それはモンターニャに決まってますよ!

――大巨人とですか! しかし、井上さんは世界で一番、シウバを評価してますね(笑)。

井上　シウバに「お前殺されるかもしれないし、ギャラは500万しか出せないけどいいな」って頼んでね。それで『猪木祭り』は完成ですよ。もう、この一戦だけでみんなチャンネル回すもんな!

――大晦日はミルコvsモンターニャに釘付けですか!

井上　俺だってテレビにかぶりつきですよ! 『猪木祭り』は1・4の新日本とリンクしてるから、まだどうなるかわからんけども。

――新日本の1・4ドームは、所属選

言うちゃ悪いけど今日の結論

曙vsサップは3本勝負のプロ格マッチ、ミルコは大巨人とやらせるしかない!!

手が全員出るって話ですよね（笑）。

井上　猪木がリストラ査定マッチとか言ってるんだろ？　そんなことやっても何の意味もない！　その日だけ頑張ればいいんだから、そんなもん期末試験の一夜漬けと一緒ですよ！

――一夜漬けのプロレス大会になりますか（笑）。

井上　俺も学生の頃はそうだったからね。もうずーっと全然勉強しない。中学校の英語や国語の先公たちが「このクラスには日頃は全然ダメだけれど、試験になるとトップになる生徒がおる」って、俺の方をジロッと見るんだよ。俺は一夜漬けの天才だったから、ホンマに！

――なるほど（笑）。

井上　ま、1・4だけ頑張るのはいいけれども、やるんだったらバッチバチにやるしかないでしょう。普通のプロレスやっとったらね、ダメですよ！　コーナーポストに上ってデッドリードライブで投げられてごらんよ。その瞬間に「リストラ！」って言われるよ、アンタ！

――ガハハハ！　ベタなプロレス技禁止ですか（笑）。

井上　そういうことは一切やらない。もうみんな殴って蹴って口から血を吐いて、この前の柴田以上のことをみんなやるしかない。だけども、それがず～っと続くかといわれたら続かない。

――プロレスは毎日やるものですからね（笑）。

井上　だから、猪木の言わんとしていることは「もうプロレスをやってる時代とは違うぞ。お前ら気が付いてるか？」と言ってるんだよ。気が付いている奴は残すけども、「プロレスはプロレスだ！」なんて言う奴はもう辞めてくれと。俺はそういうメッセージと受け取ってるからね。もうプロレスそのものがもうダメなんだから、プロレスなんかやるなと。だから、来年から「プロレス！」と言った奴からは罰金10万円取るべきですよ！

――ガハハハ！　「プロレス」はNGワードですか（笑）。

井上　「新日本プロレス」っていう団体名もね、ただの「新日本」にするとかね。

――団体名も変更ですか（笑）。

井上　武藤の全日本とかOH砲はいいけど、ジュニアとタッグもなしですよ！

――ジュニアとタッグも廃止！　バード導入に続く大改革ですね（笑）。

井上　それと、純然たる格闘技で育った連中を新日本のリングで構成すると。それを第一グループにして、純然たる格闘技の試合をやる。歳を取った連中は第2グループで、エンタメでもなんでもいいからプロレスやりなさいと。この前のK-1とやったようなプロレスでもいいからね。その他に軍団があるとすれば、第3グループとして別におく。とにかく3つか4つにわけて、独自に興行して回るんですよ。

――完全に分類するわけですね。

井上　時には合同興行で第1グループがエンタメプロレス、第2グループが柴田vs天田のK-1みたいな格闘技マッチをやってもいいですけど。俺が言いたいのは、基本的にはプロレスとかプロ格とか格闘技を混ぜちゃダメってことですよ。俺は新日本の10・13ドームをプロ格者とPPVで見とったけどもね。ジョシュ（・バーネット）vs高橋（義生）以外はほとんど見てないんだよね。言うちゃ悪いけど、ホーガンの試合なんかほとんど観ないでモチを喰うてましたよ！

――ホーガンよりモチですか（笑）。

井上　おう！　もうね、プロ格者Aさんの部屋にはテレビが3つか4つ置いてあって、他のテレビとか見てたからね。

――ちょっと待ってください（笑）。そのプロ格者の部屋にはそんなにテレビが置いてあるんですか？

井上　そりゃありますよ！　野球中継を観とる奴もいたし、プロ格者のBさんはカチャカチャとノートパソコンいじってね。「編集長、見てみなはれ。井上義啓のコラムありまっせ」って、俺の本の値段とか内容とか紹介してるHPを見せるんだよ。

――そんなHPがあるんですか（笑）。

井上　そんなとこやってたから試合なんか観てないけど。あの大会は「バードはダメ」とか言ってる奴がおるんだろ？

――「バードが浮いてる」って批判する声が多いですね。

井上　そんなもん、アホかって話ですよ！（ドン！ドン！）。あれはプロレスの中にバードを入れたのが失敗しただけであってね。だから、俺は口うるさく「バードはバードの興行をやれ！」って言ってたわけですよ。それをうまくプロ格として拡大した11・3が成功して、大きな教科書ができたわけだからね。それをそのまま今度の1・4に持って行けと！　プロレスごっこをやってたらダメですよ。1・4は11・3のリメイクにしないと！（ドン）。

――11・3を発展させた内容にしないといけないわけですね。

井上　暮れに出なかったK-1戦士をバンバン出すとか、11・3でやったように柴田がK-1ルールでぶつかっていくとか、そうやったら1・4はハッキリ言って成功だろうな。それを考えてんのか考えてないのかわからんけども、K-1は石井さんとの兼ね合いもあるからね。石井さんにも知恵を借りたらいいんですよ。「K-1の選手を貸してくれるとしたらどういうマッチメイクになりますねん」ってな。

――よ～くわかりました！　大晦日&正月決戦ついては、来月号でもたっぷり伺わせていただきます！

いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。「週刊ファイト」の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK、ケンファー佐藤等、プロレスマスコミで編集長に影響を受けた人間は数知れない。

何時男、叙似井&派乱暴のF.B.I.Presents
ネタバレ通信 Vol.9

何時男　ようやくＷＷＥの日本大会が正式に発表されましたね！

叙似位　2月5日、6日、7日で広島、大阪、埼玉の3連戦ですけど、来日するのが『ＲＡＷ』ブランドなんですよね。

何時男　フジテレビ「ＷＷＥスマックダウン」の織田さんは「『ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！』が来ないと来年4月以降の継続は難しい」と『紙プロ』で言ってたわけなんですが（笑）。

叙似位　どうなるんでしょうね？

派乱暴　でも、『ＲＡＷ』大会の中に『ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！』の提供試合は組み込めないのか？とか、いろいろ動いてるって噂は聞きました。

叙似位　ホントですか!?　それは反対だなぁ。ＷＷＥの世界観を壊してますよ。ロウの興行にスマックが同居するなんておかしくないですか？　まったくファンのニーズを考えてませんね。自社のメリットしか考えてないというか…。最小限の演出で行ったハウスショーを少しでもＴＶショーに近づけるとか、そういう努力をした方がいいと思いますよ。

ビンスがＷＷＥのアジア戦略を強化!?

派乱暴　10月の半ばにＷＷＥのライセンシー会議というのがＮＹであったんですよ。そこにはビンス以下、ＪＲとか幹部社員が勢揃いしてて、ＷＷＥのライセンシーの人たちが集められたんです。日本からも参加した会社があったんですけど……。

何時男　『紙プロ』にも出てたトータル・スポーツ・アジアのリャンさんですか？

派乱暴　いえ、違います。その席でビンスは「今後はアジア戦略が重要になってくるから、組織を改変してプロモーションをキッチリやっていきたい」って壇上で発言したそうです。

何時男　おおっ！　ホントですか!?

叙似位　それは、いままでがキッチリしてなかったってことですか？

派乱暴　僕も人から聞いた話なんで詳細は分からないですが、ＷＷＥがアジア戦略を練り直してることは間違いなさそうですね。実際に『ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！』がやる12月のアジア・ツアーも、かなり苦戦してるみたいですよ。マレーシア大会はキャンセルになっちゃいましたからね。シンガポールは全席種のチケットが余ってるらしいし。そういう部分から考えて、「日本にも力を入れていかないとやばい」って考えてるんでしょうね。

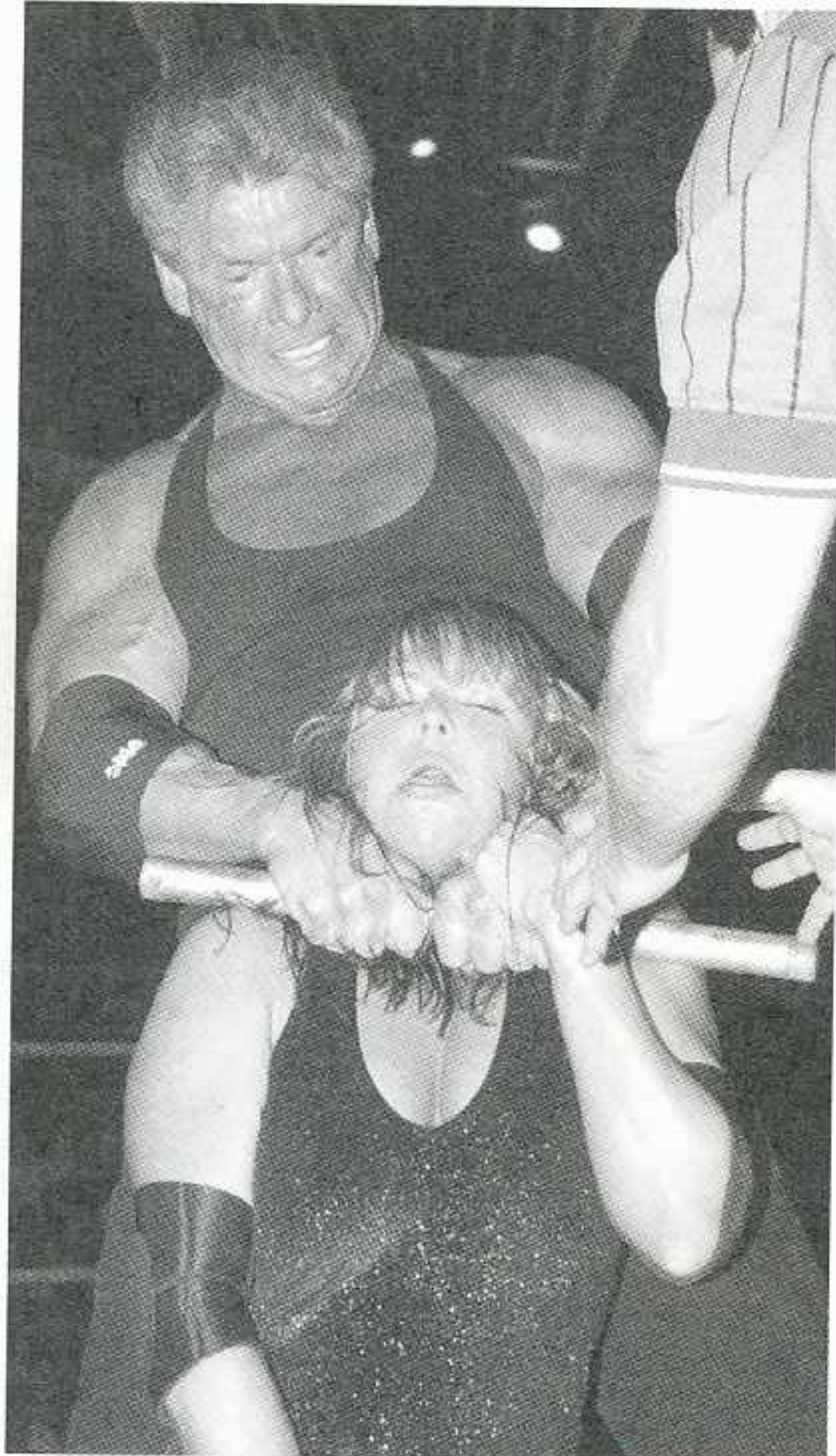
何時男　ちなみに、トータル・スポーツ・アジアは今回、ツアー・プロモーターから外れていました。それがアジア戦略の一環かどうか分からないですけど、2月の大会も、最初はＳＳ席が3万円と発表されたのに、その後に2万円に値下げされました（笑）。1万円も値下げって、通常じゃ考えられないですよね？

派乱暴　ファンには嬉しいですけどね。タダ事じゃなさそうな印象は受けました。

叙似位　値段が下がったってことは、来日する選手のレベルも下げられそうで怖いですよ。トリプルＨとＨＢＫはすでに発表されてますね。フレアー、ランディ・オートンも発表されてるし、多分バティスタも来るでしょうからエボリューションは揃い踏みでしょうね。これは楽しみです。

何時男　対するベビーがＨＢＫだけじゃ弱いですよねぇ。ブッカーＴは今度こそ来れるんでしょうか？（笑）。期待したいですけど。

叙似位　2月のＰＰＶ『ＮＯ　ＷＡＹ　ＯＵＴ』は『ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！』単独開催ですからね。アメリカ国内で『ＲＡＷ』のプロモーションが大々的に展開できない以上、日本ツアーに力を入れるんじゃないかと思いますよ。ただ、『ＲＡＷ』でベビーフェイスのトッ

PHOTO/George Napolitano

10月PPV『Unforgiven』で実娘ステファニー・マクマホンを相手に極悪非道の限りを尽くして勝利し、GMから追放したDV男ビンス。日本でもその勇姿が見たい。

12／7までにＷＷＥ FCに入会すれば、チケットの最優先受付に間に合うぞ！

12月7日（日）までにＷＷＥファンクラブに新規入会した方（※）に対し、来年2月の〝ROAD TO WRESTLEMANIA〟公演チケット優先受付が行われる（これはチケット取得を保証するものではありません）。ただし申し込み多数の場合、抽選となるので要注意。「SS席・S席はお申し込みが集中するため、ご希望に添えない場合もございます」とのこと。今回も激戦が予想されるチケット争奪戦で一歩リードしたいなら、迷わず入会だ！

※）クレジットカード決済で入会の場合。銀行振込決済は12月3日までの入会手続きで12月4日までに振込を完了。

またファンクラブは年6回、会報（ＷＷＥマニアの必読書『ＲＡＷマガジン』日本語版）を発行する他、ＷＷＥスーパースターの来日時にはファンクラブ限定イベントにも参加できるなど嬉しい特典がいっぱい！　ちなみに、7月の日本大会時にはカート・アングルとウルティモ・ドラゴン（横浜）、〝ワールド・グレーテスト・タッグ〟ことチャーリー・ハース&シェルトン・ベンジャミンとウルティモ・ドラゴン（神戸）がサイン&握手会を行っている。ＷＷＥスーパースターと生で触れ合うチャンスを逃す手はない！

入会・詳しい情報はコチラをご覧ください。
http://www.wwefanclub.ne.jp（PC）
http://www.wwefanclub.ne.jp/mb（携帯）

来年2月にプロレス界の頂点に立つスーパースターズが大挙来襲!!「あっ！」と驚く大物が毎回サイン会を行っているが、今回は誰だ!?

プを張ってるゴールドバーグは、本国でもハウスショーには出てないですからね。日本大会にも来ないんじゃないかなぁ。

何時男　1月4日の『W—0』（仮称）にゴールドバーグは来るんで、そっちで我慢するしかないですね。

叙似位　本国でもハウスショーで苦戦する地域には、ストーンコールドやエリック・ビショフがテコ入れで出てるんですよ。

何時男　むしろ僕はゴーバーよりストーンコールドを見たいですねぇ！　あわよくばビンスにも出てきてほしいですけど。

派乱暴　今回の『ROAD TO WRESTLE MANIA』っていう日本ツアーのタイトルはビンスが考えたらしいんですよ。

叙似位　マジですか!?

派乱暴　ええ。最初はいくつか候補があって、「TORA！ TORA！ TORA！」っていうのもあったらしいんですけど（笑）。

叙似位　ハハハハ、真珠湾攻撃ですか？（笑）。

派乱暴　でも、そんなタイトルで広島に行ったら大変なことになりますよ！

何時男　会場に街宣車が集結しちゃいそうですね（笑）。

派乱暴　それをビンスが「ダメだ。もう一回俺が考える」ってストップかけて、『ROAD TO WRESTLE MANIA』に決まったらしいですけど。

目には目を歯には歯をDVにはDVを！

何時男　さあ、『RAW』の来日決定でいよいよ窮地に立たされた感のあるフジテレビですが、「WWEスマックダウン」はガレッジセールが降板してからガラリと雰囲気が変わりましたね。

叙似位　ナビゲーターみたいな感じで、保阪尚輝とシルビアが出てますよね。僕は最初、ロス・インディオス&シルビアのシルビアかと思いましたけど（笑）。

何時男　でも、あまりにも唐突な人選でしたよね。ちなみに、『紙プロ』には保阪&シルビアが新ナビゲーターになった時の発表記者会見のプレス・リリースは流れて来なかったらしいです（笑）。

派乱暴　芸能マスコミにしかリリースしなかったんでしょう。

何時男　プロレスマスコミは相手にしないんでしょうかね。

叙似位　保阪尚輝を起用する意図も分からないです。ガレッジセールよりも見えないですよね。

何時男　でも、保阪尚輝は一部女性週刊誌でDV（ドメスティック・ヴァイオレンス）疑惑が報じられてるじゃないですか？　DVの側面からでビンスを語ってもらおうという意図なんじゃないか、と吉田豪が言ってましたよ（笑）。

叙似位　なるほど！（笑）。ゴリは子供が生まれたばっかりで、子煩悩なパパ・キャラをやってましたけど、その点で保阪尚輝ならビンスの側に立って語れますもんね。

派乱暴　ここ最近は、ずっとビンスvsステフっていう父が娘に暴行するプロモばっかりだったし（笑）。

叙似位　おそろしいなぁ、フジテレビの考えてることは（笑）。いまは大人しいですけど、いきなりチノパンを張り倒すぐらいの凶暴な保阪尚輝に期待したいですね！

【03年11月某日、都内某所にて収録】

先月号では本物のスーパースターRIKISHIの降臨によって（前号で語ってくれた通り、RIKISHI関はスコッティ・2・ホッティと共に復活）、一回お休みとなったネタバレ通信。今月はモノクロページにも関わらず、毒素をアップして戻ってきました！　遂に来年2月の日本大会も発表され、水面下では様々な動きが活性化。そんなわけで、今月はプロモ上よりも舞台裏のネタバレを中心にお届けします！

F.B.I.とは？■「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。『SMACKDOWN!』のマフィア系3人組「F.B.I.」（フル・ブラッド・イタリアンズ）にあやかって命名。プロレス業界に潜伏する何時男（なんじお）、桁違いのパワーで情報をかき集める叙似井（じょにー）、裏方さんの派乱暴（ぱらんぼ）の3人組だ。

ユー・タップ・アウト！ WWEの最新DVDを各1名にプレゼント！

今月のWWE新作DVDは〝真夏の祭典〟『サマースラム2003』と〝UK特番〟『インサレクション2003』の二本立て！　サマースラムはアングルvsレズナーの遺恨マッチやゴーバー大爆発のエリミネーション・チェンバー戦など収録。インサレクションは『RAW』軍団がイギリスに上陸、大暴れした模様を収録！　どっちも絶賛発売中！

『サマースラム2003』（DVD¥3800／VHS¥5800・本編159分）DVDには特典映像収録予定。

『インサレクション』（DVD¥3800／VHS¥5800・本編153分）DVDには特典映像を18分収録。

※応募方法はP159を参照!!

噂FILE

●オースチンが赤裸々な私生活を語る

11月頭に全米で発売されたスティーブ・オースチンの自伝「Stonecold truth」発売キャンペーンとしてオースチン本人がハワード・スターン・ショーというラジオ番組に出演。このコーナーでも再三とりあげているこの番組。今回ももちろんハワード氏の巧みな話術に乗せられ私生活を披露した。ハワード「現在、恋人はいる?」オースチン「いるって。当たり前めぇだよ」。ハワード「前妻（デブラ）とは会ってる?」オースチン「連絡はあるぜ。この間はデート中にデブラから何度も電話がかかってきて、いちいち出てたら、彼女にひっぱたかぜ!」ハワード「彼女の職業は?」オースチン「彼女は仕事してねぇんだよ。実は資産家のお嬢様でな。一緒に住んでるから俺の身の回りを世話するのが彼女の仕事だ。基本的に俺はワガママだからな。俺の性格についていけねぇ女達は今までもいたんだ。それに比べたらよくやってくれてる方だな……、今のところは」とコメントしていた。

●レッスルマニア20でのミック・フォーリーの相手は?

アラバマ州立大学発行の新聞紙「クリムゾン・ホワイト」紙でミック・フォーリーのインタビューが掲載された。インタビュー中にミック・フォーリーはレッスルマニア20で予定されている自身の対戦カードはトリプルH戦であると発言。

●アンダーテイカーが暗黒大魔王キャラに逆戻り!?

サバイバーシリーズのアンダーテイカーvsビンス戦でケインが乱入。ケインはビンスをアシストし、アンダーテイカーを生き埋めに。このプロモから、3月のレッスルマニア20での一騎打ちは必至。さらにアンダーテイカーは、暗黒大魔王としてマイナーチェンジをするという。

Road to WRESTLE MANIA

2003年
2月5日（木）
広島・広島サンプラザ（19:00）
2月6日（金）
大阪・大阪城ホール（19:00）
2月7日（土）
埼玉・さいたまスーパーアリーナ（18:00）
※カッコ内は試合開始予定時刻

【主　催】
WWE／フジテレビジョン
（東京大会のみ、他地区未定）

【企画制作】WWE／キョードー東京

【協　力】
さいたまスーパーアリーナ　（東京大会のみ）
キョードー大阪　（大阪大会のみ）
キャンディープロモーション　（広島大会）

【料　金】
SS ¥20000／S ¥15000／A ¥10000
B ¥5000／C ¥2000（全席指定・税込）
※広島大会はSS、S、AのみでB、Cはありません。

【発 売 日】12月13日（土）

【発売場所】
キョードー東京　TEL.03-5720-9922
イープラス（東京大会のみ）eee.eplus.co.jp
チケットぴあ　TEL.0570-02-9994（特電）
ローソンチケット TEL.0570-06-3033（特電）
CNプレイガイド　TEL.0570-08-9999（特電）

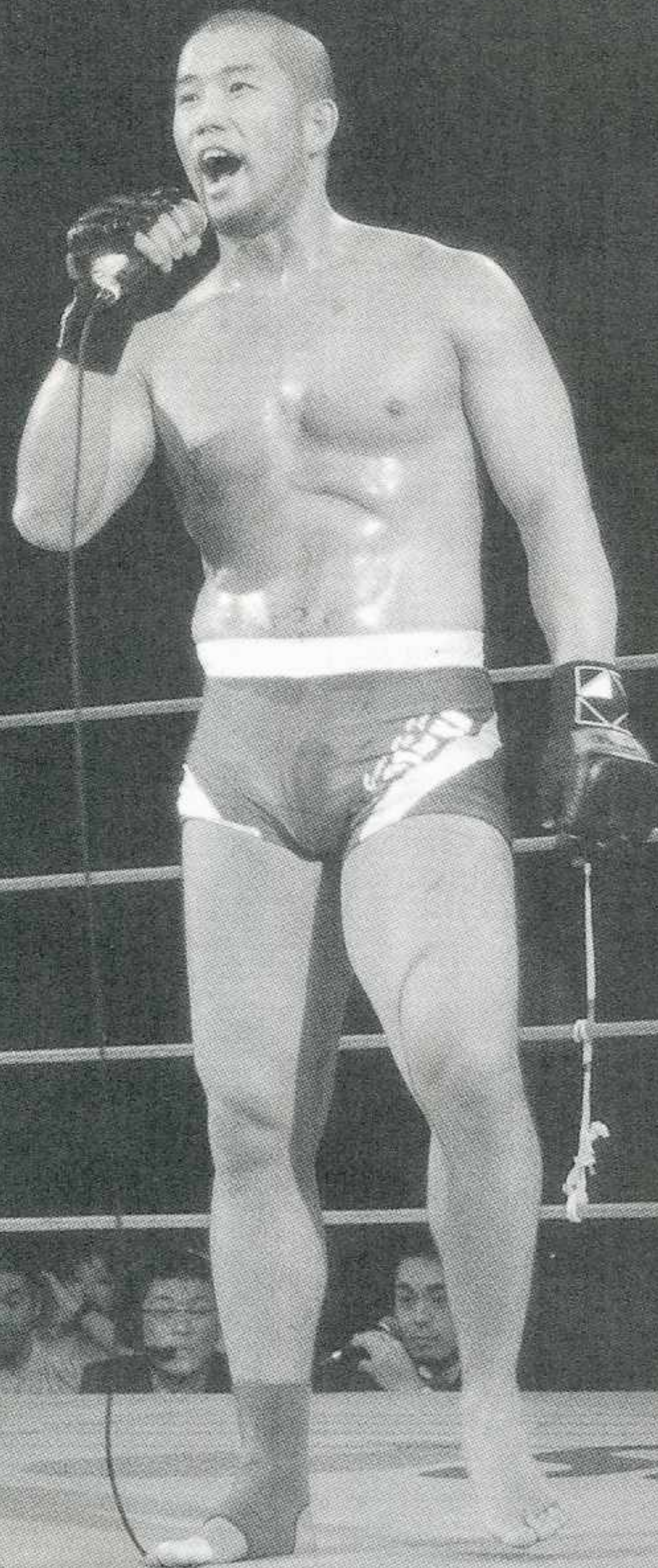
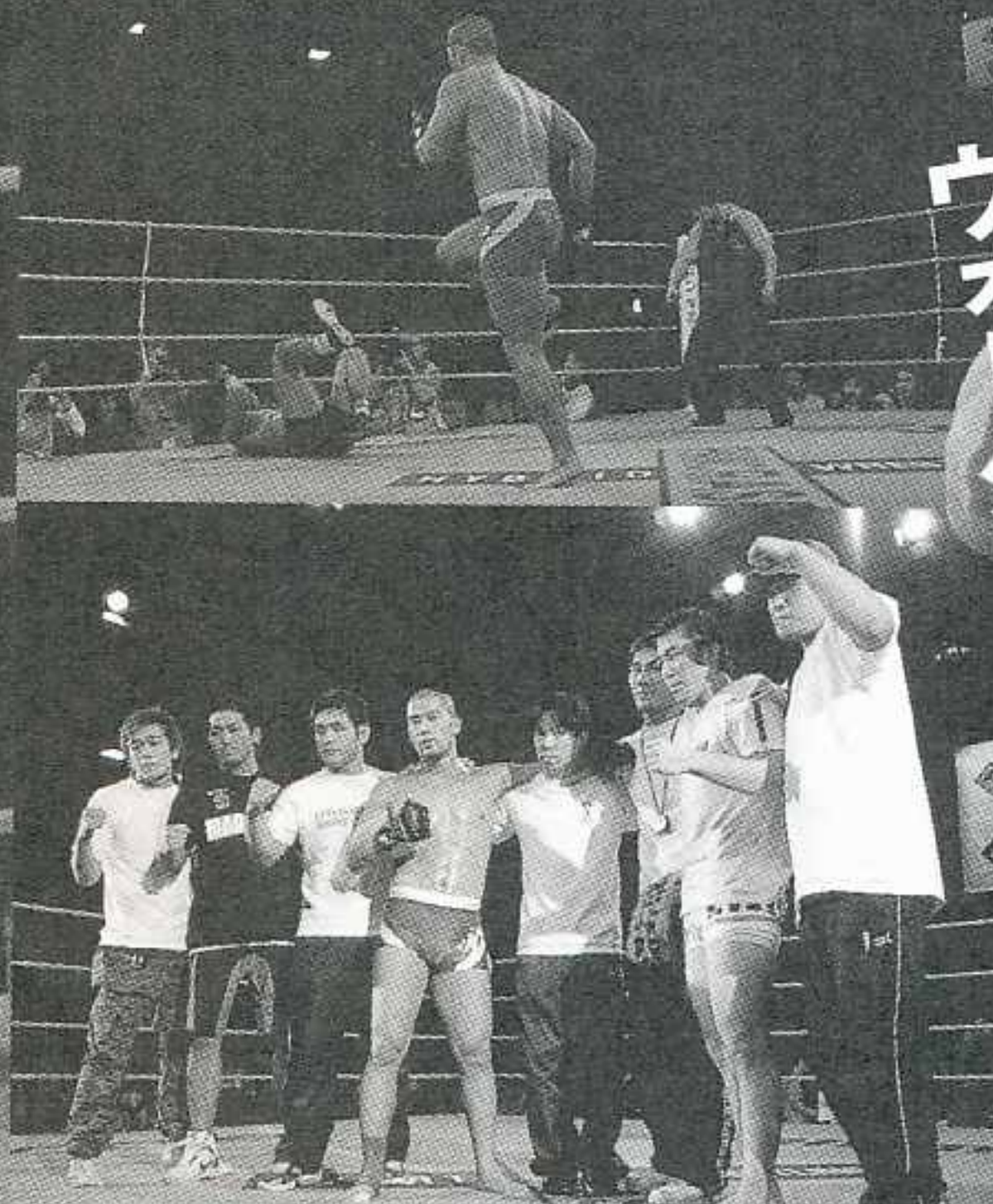
【来日予定スーパースター】
トリプルH、“HBK”ショーン・マイケルズ、リック・フレアー、ランディ・オートン、クリス・ジェリコ、ケイン、RVD、リタ、トリッシュ・ストラータス、ダッドリー・ボーイズ、マーク・ヘンリー、他

●クラッシュ・ホーリーが死去

元WWEスーパースターのクラッシュ・ホーリーが11月8日に亡くなった。前日、旧友のスティーブン・リチャーズと飲みに出かけた際、泥酔したクラッシュがそのままリチャーズ宅に宿泊。明朝、リチャーズ宅のベッドの上ですでに亡くなったクラッシュが発見されたという。死因は嘔吐物を喉に詰まらせての窒息死。日本の来日も予定さえていただけに残念でならない。ご冥福をお祈りいたします。

11.30 両国へ向け 完全無欠の

郷野劇場復活!!

10.31 パンクラス
後楽園ホール

パンクラス最強!? ウォーターマンも吠えた!!

パンチでダウンを奪った郷野はリング上で余裕の小走りパフォーマンスを披露するなど、終始、渡辺をおちょくりまくった。2R、郷野は右フック一発で渡辺をKOすると、雄叫びをあげ「プランどおり。（両国は）カストロとやってやる。特注のファールカップは無理らしいけど（笑）。11月、タイトルマッチがあるけど、そのどれよりも俺の方が質が高いから」と久々の毒舌マイクをブッ放した

いつものように百人以上の応援団からの大歓声を受け入場してきた石井ちゃん。しかし、いざ試合が始まるとウォーターマンのネッククランチで秒殺負け。ウォーターマンは11・30両国で新日の刺客（?）アンブリッツと対戦!

メガトン・高森、ヒョードル戦の夢遠のく

"柔道界の喧嘩番長"高森啓吾がパンクラス初参戦! 総合デビュー戦では西田操一を、わずか17秒でKO。この日も豪快な勝利が期待されたが、韓国のハー・スー・ジンの強烈な打撃の前に、わずか18秒でKO負けを喫した

勝った北岡「新日本のジュニアと闘いたい!」

関を下した北岡は「誰が一番強いのかわからないっていうヤツがいるけど、一番強いのはパンクラスism。メインは門番の渡辺さんがグラバカのうるさいハエを叩き潰してくれると思う」と暴言!?

ブタの着ぐるみには負けたくないよね。ブヒッ

ここ最近、コスプレ入場が増えているパンクラス。この日も中西裕一が豚の着ぐるみで登場し身内以外の観客を大いに戸惑わせた。しかし、試合では窪田をマウントパンチの連打で下した豚……中西

11・30両国大会の直前ということで、対戦カード的にちょっと厳しいかとも思われたパンクラスの10・30後楽園大会だが、終わってみれば大成功（石井ちゃん効果？）となった。中でも強烈なインパクトを残したのが、両国でニルソン・デ・カストロとのリマッチが決定している郷野聡寛。

6月の大阪大会で郷野の同門グラバカの佐々木有生をKOして波に乗る渡辺大介が相手だったが、郷野は完璧なまでに翻弄してみせた。タイツに名前を入れるほどリスペクトするボクサーのロイ・ジョーンズJr.ばりの巧みなボディワーク&ステップで渡辺のパンチをスカしまくると、カウンターでスピーディなパンチ、ミドルキックを叩き込む。次第に身動きが取れなくなっていった渡辺に対し、郷野は1Rからダウンを奪う。ほとんどKO状態で郷野も観客にアピールしたのだが、これは続行。その後も郷野が完全に試合をコントロール、最後は強烈な左フックで渡辺に何もさせないままKO勝利となった。

試合後の郷野は、コメントブースでも絶好調。両国大会出場を志願していた渡辺を「出る資格なし」と切って捨てるとism攻撃を開始！　この日は北岡悟に「うるさいハエ」呼ばわりされたのだが「セコンドの指示を見ていても分かる通り、ismでは素質のある選手も強くなれない」とバッサリ。さらには「ボクシングもできるレスリングもできる山宮恵一郎をグラバカに引き抜きたい」と言ってのけた。もちろん郷野が"アングル"など仕掛けるはずもなく、大マジ発言である。

前回の両国ではカストロの金的攻撃で続行不能となった郷野だが、この試合を見る限り試合っぷりもコメントも完全復活。カストロとの再戦に向け「ま、3つあるタイトルマッチのどれかよりは面白い試合をする自信がありますから」と、またも不敵な笑みを浮かべたのだった。

（橋本）

スマック、DEEPに『肉力強女』。
さらに全女、JD、『アイドルファイト』まで
右も左も"女子格"だらけ

"女子格(ジョシカク)"はどうなるの!?

構成/松澤チョロ　designed by Tani-Yan (Two three)

11.30 両国へ向け 完全無欠の

石原美和子

12・19全女駒沢大会で前川久美子と対戦する石原美和子。とんねるずの番組や『肉力強女』など"女サップ"石原は、なにげに地上波でも活躍している

辻　結花

8月の『DEEP』大阪大会以来、試合から遠ざかっている辻結花だが12・7『club DEEP』ではエキシビジョンながら三島と対戦。本格復帰が待たれるところだ

しなしさとこ

12・28『佐伯祭り』と1・22『DEEP』への出場が決定している、しなしさとこ。さらに、しなしはテレ東の『肉力強女』にも出演するなど多方面で活躍中だ

握るのはお前らだ!!

S　最近、女子格ってどうなの？　あれだけプッシュしてたターザンが「ジョシカクは終わった」って言ってから、あまり話題を耳にしなくなったけど。

M　たしかに、ちょっと元気ないよね。

S　でも、何が原因でこうなったの？　ちょっと前まで結構勢いあったのに。

M　まあ、初期スマックから見てる人からすれば「またかよ」って感じなんだけど、スポンサー撤退とか諸問題が重なってスマックが延期になったのが大きいだろうね。それは篠さんがスマックの代表をやってる限り半永久的に続くことかもしれない（笑）。

S　やっぱり原因はそれか。いつまで経ってもキーラ・グレイシーは来日しないし（笑）。

M　キーラTシャツまで売り出されてるのにね（笑）。でも「もうこれまでか」って状態から何度も立て直してきたのも篠さんだったりするからね。篠さんが「もう女子格はや〜めた」って言ってたら、いまみたいな状況にはなってないからね。

S　いまみたいな状況ってどういうこと？

M　「ジョシカクは終わった」ってターザンに言われながらも、ここ最近はスマック以外にもテレビ東京の深夜枠で『肉力強女』っていう女子格闘技番組も始まったし、この本が発売される頃には終わってるけど、JDスターで篠原光とアストレスの石川美津穂の総合ルールの試合も組まれたりしてるからね。

S　アストレスって芸能活動もやってるけど、やっぱり仕事に支障が出てくるから顔面パンチはナシなのかな？

M　石川は公開間近の『ワイルド・フラワーズ』って映画で主演してるんだけど、もう撮影も終わってるから大丈夫なんじゃない？（笑）。まあ相手が相手だけに、久々に篠原らしいケンカファイトが見られるんじゃないかな。それと全女が遂にバーリ・トゥード（以下・VT）に本格進出するんだよ。12・19駒沢大会は格闘技戦5試合にプロレス3試合の2本立て。あと新人のデビュー戦も2試合あるんだけど、それもVT（笑）。

S　どっかの団体みたいだね（笑）。

M　どっかの団体っていうか、格闘技戦の試合タイトルは『アルティメット・クラッシュギャルズ』って案も実際出てたみたいだよ（笑）。

S　バカバカしくていいな（笑）。

M　最終的には『Ｓｔｒｏｎｇ Ｗｏｍａｎ』になっちゃったけどね。格闘技戦のメインはスマックや『肉力強女』の四天王としても活躍してる石原美和子と、前川久美子の寝技30秒ルール。

S　前川ってテコンドーの大会とか出てた人だよね。でも、そのカードがメインって、ちょっと地味じゃない？

M　いや、かなり地味（笑）。しかも、前川は「総合をやらされるとは思ってなかった」って素直に答えてるし（笑）。

S　嫌々かよ！（笑）。それを強引にやらせちゃうのが全女イズムっていうか、松永イズムなんだろうね。

M　でも前川は会見の時に「いままで闘った選手の中で本当に強いと思った選手はいなかったんで恐れることはない。蹴りで決めたい」って言ってるし、かなり自信はあるみたいなんだ。まあ今回の格闘技戦が集客に結びつくかって言ったら厳しいとは思うけどね。

S　どうせなら『アルティメット・クラッシュギャルズ』ってことで、長与と飛

「明るい未来はどこにある!?」

11・10スマックガール・ヴェルファーレ大会で2003年のミドル＆ライト級の王者が、それぞれ菊川夏子、吉住絹代に決定。2人には昨年の覇者、辻結花、しなしさとこ級の活躍を期待したい。もちろん、篠代表も頑張って！

“女子格”のカギを

鳥のVTでもやってくれるんだったら、ちょっとは興味も沸くけどね。

M　まあ2人がやるわけないし、たとえ、やる気があったとしても全女でやる意味がない（笑）。

S　じゃあ、5月の横アリで魔界魔女総裁として登場したっきりになってる小畑千代のVTとかは無理なのかなぁ。小畑千代vs能見佳容とかだったら見たいでしょ。実際、いまやっても小畑千代が勝ちそうだし（笑）。

M　たしかに、それは見たい！（笑）。

S　そうそう、格闘技戦やるんだったら、それこそ5月の横アリにも出たエリカ・モントーヤとか呼べばいいじゃん。

M　エリカは全女、『AX』、修斗と日本では無敗だし、ルックスも悪くないんで、そりゃ全女でも呼べるんなら呼びたいでしょ。ただ外人選手を呼ぶには、お金が余計に掛かるからね（笑）。でも逆にUFCでエリカvs辻結花っていう可能性はあると思うよ。

S　エッ!?　辻ちゃんがUFC？

M　この間の高田本部長や藤田がUFCを視察したでしょ。その大会のスペイン語版の中継でエリカがゲスト解説をしてたんだけど、近々UFCでエリカの試合が組まれる予定があるみたいなんだ。

S　その対戦相手が辻ちゃんなの？

M　いや、まだ全然正式な話じゃないんだけど、階級的にもアメリカでエリカの対戦相手を探すのは難しいらしくて、それにエリカ自身も辻ちゃんと闘いたいみたいで。辻ちゃんとエリカは体重的にも、そんなに違わないし、辻ちゃんも前からエリカとはやってみたいって言ってたから、まるっきりない話じゃないと思うよ。

S　それが決まったら凄いよなぁ。

M　あとは、その辻ちゃんも出場した『DEEP』の1月大会に、しなしさとこの出場が決まってる。しかも12月の『佐伯祭り』にも出るんだって。

S　『紙プロHand』のコラムで読んだけど、いま、しなしのマネージメントは佐伯さんがやってるんでしょ。

M　そうそう。しなし自身はU-STYLEも出たいって言ってるし、これまでスマックのイメージが強かったけど、来年は佐伯さん関連の大会を中心にやっていくことになると思うよ。

S　去年のスマックのミドル＆ライト級の王者の辻ちゃんと、しなしがスマック以外で闘う可能性が高いとなると心配なのは、やっぱりスマックだよなぁ。

M　ちょっと前までスマックは分裂の噂も出てたんだけど、篠さんいわく「どうってことねえんです！」って相変わらず猪木イズムを爆発させてたし、大丈夫なんじゃない？（笑）。

S　それが一番不安なんだよ！（笑）。

M　そっか（笑）。そういえば、篠さんは『猪木祭り』にも関わってるみたいで、その流れなのか「近々、女子格絡みで面白いことをやれそうなんで期待してて」って言ってたよ。ひょっとして『猪木祭り』で女子総合の試合が組まれる可能性もあるんじゃないかな。

S　あぁ、『猪木祭』は神戸開催だから地元の大阪から近い辻ちゃんの出場とか？　何年か前にやった『SHINOKI祭り』の間違いじゃないの？（笑）。

M　まあ女子格の選手層はドンドン厚くなってるのは事実だし、あとは、その中から第二のマァ☆ティンみたいなスター選手が現れることを期待したいね。

あのテリー伊藤が女子格闘技界に本格参入!!

「将来的には女子格闘技で世界進出ですよ!」

テリー伊藤×島田裕二 With 宮内美穂

10月3日（金）の深夜2時40分からテレビ東京でスタートした『肉力強女』。テリー伊藤がゼネラルプロデューサーを務めるこの番組は格闘家志望の挑戦者が、番組が選んだ四天王に闘いを挑み、勝ったら1000万円相当の賞金が貰えるという企画が中心の地上波初・女子格闘技専門番組だ。今回は番組収録後、テリー伊藤&アドバイザーの島田裕二、さらにアシスタントの宮内美穂に集まってもらい、女子格闘技について、たっぷりと話を聞いてきました。

聞き手／松澤チョロ　撮影／丸山剛史

――テリーさん！ 収録も順調に進んでるみたいですが、『肉力強女』の手応えはどんな感じでしょうか？

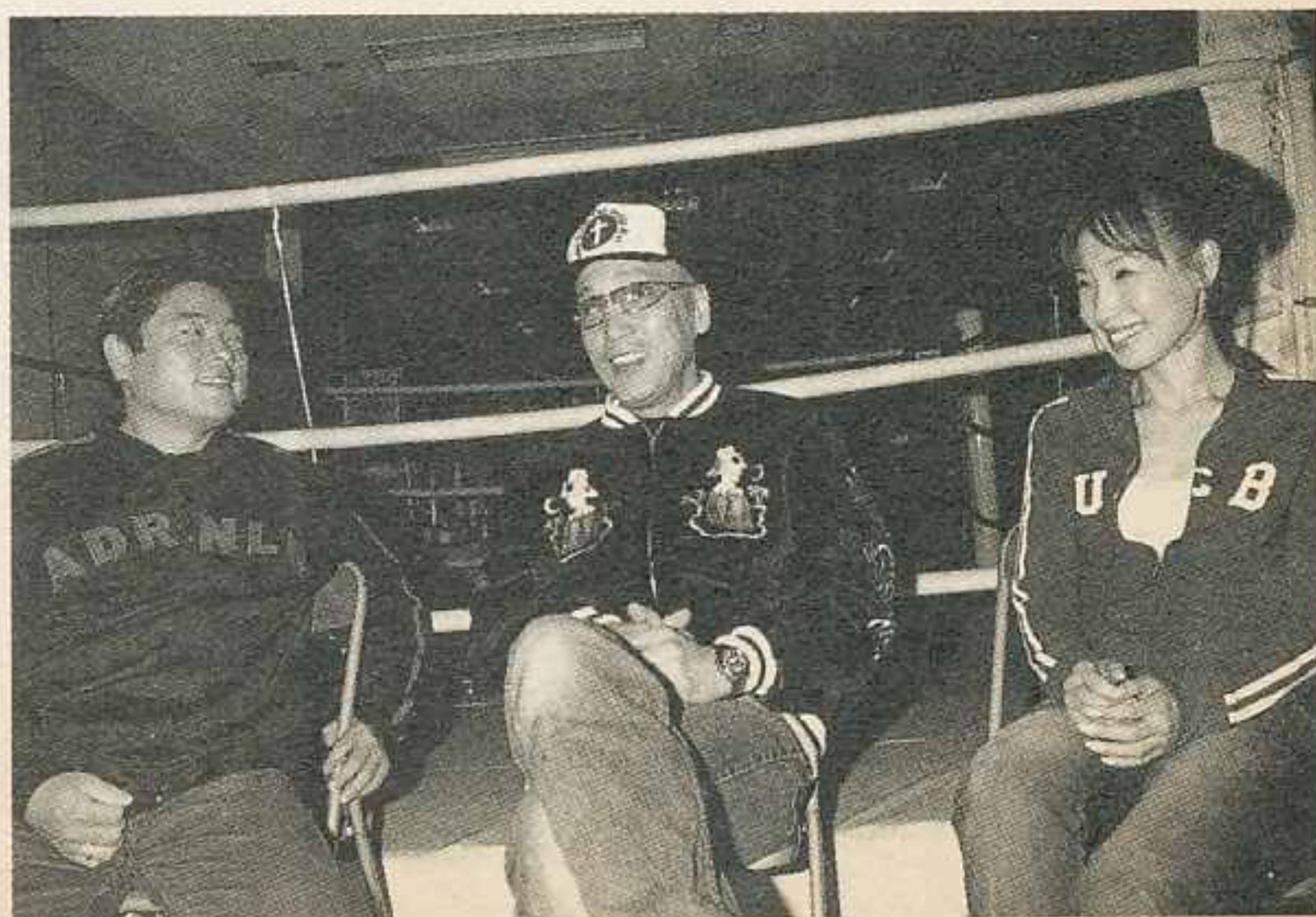
テリー いい感じですよ。レーティングもいいですしね。それにボクは、この番組はマジメにやってますからねぇ。

島田 ワハハハハ！ マジメに（笑）。

テリー ホント、いい形でやれてますね。まあライカや、石原（美和子）さんもそうなんですけども、基本的に女子格闘家って、みんな口下手ですよ。

――まあそうでしょうね。まだテレビとかに慣れてないっていうのも大きいんでしょうけど。

テリー ということは、女子格闘家っていうのは、まだまだ口下手な人達ばっかりなわけですよ。それこそボブ・サップみたいな人ばかりなわけじゃなくて、口下手だけども格闘技を志す人ってたくさんいるから、そういう人達にチャンスを与えられるような番組が出来ればいいなと思ってますよね。

――いまはなき『SRS・DX』でのターザンさんとの対談で、K-1とか『P

RIDE』が出てきて逆にプロレスが好きになったと言っていたテリーさんですが、番組を通じて女子格闘技に接してみて可能性は感じてます？

テリー やっぱりねぇ、女子格闘技は正直言って脚光浴びてないですよ。

―まだまだ、脚光は浴びてないですね。

テリー だからボクは逆にね、だからこそ、いまは女子格闘技なんじゃないかなって思ってるんですよ。あと、やっぱ女の子って根性ありますよ！

島田 ありますよねぇ。

テリー どうこう言っても全女の時代から続くんだけど、ある意味、女子の世界って男子以上の縦社会でしょ？

―そうですね。

テリー そういう縦社会で、なかなか逃げ場がないという中で、それこそプロレスラーも格闘技やってる人達も、みんなそこで一生懸命やってるんですよ。そういうね、実力はあるんだけど、世の中でまだ認知されてないっていうパワーというかマグマみたいなものを女子格闘技に感じるんですよねぇ。

―WJだけじゃなく女子格闘技にもマグマを感じると（笑）。で、会見の時にも言ってましたけど、プロとしてファイトマネーだけで食えてる人は現時点ではゼロに等しいっていうのが、いまの女子格闘技の現状なんですが。

まだ脚光を浴びていないからこそ、逆に女子格闘技は可能性があるんじゃないかなって（テリー）

テリー そうですよね。だから、この番組では四天王に勝ったら一千万円をポンッとあげると。いまは賞品としてTVRっていう車を用意してるんだけど、それに乗って試合会場に乗り込むっていうこともひとつのステータスですし、この番組の中から新たなスターが現れるといいなあって思ってます。

―まだ、いまのところ一千万を獲得した挑戦者はいないんですよね。

島田 まだ出てないね。惜しいとこまでいった選手はいるんだけどね。

テリー もう何回か収録してるんだけど、凄くいい試合も多いし、そういう試合があれば、お客さんも見てくれるんじゃないかなって。まあ『紙のプロレス』はね、そういう意味では大きなメディアなんで読んでもらって、ゼヒ応募して欲しいと思ってます。

―テリーさんは会見の時に「援助交際してるような女の子もゼヒ！」って言ってましたけど（笑）。

テリー なんでもいいんですよ！ たとえば、それがロックミュージシャンだってさぁ、X-JAPANだって、やっぱ女の子にモテたくてミュージシャンになって、それが最後には天皇陛下の前で演奏するわけじゃないですか？ 最初の志はそんなもんでいいんじゃないかなって。野球選手だってサッカー選手だって最初はみんな女にモテたくてやってるわけだから。

―そんなもんですよね（笑）。

テリー あしたのジョーだってそうでしょ？ だから、女版のあしたのジョーみたいな選手が現れればいいよね。

島田 ホント、目立ちたい人とか、ただ単にお金が欲しいって人もドンドン応募してもらってね、施設はウチのBCGがあるし。ウチのジムに来ればオレの人脈で高瀬（大樹）はいるし、前田の憲（作）ちゃんもいるし、教える人はいっぱいいるんで。そういった一流の人から指導を受けて一千万を狙うと。そうやって夢を追い求めて欲しいですよね。

上の試合は、10月の『肉力強女』で放送済みの四天王・早千予vsチャレンジャーの一戦。上州からやってきた、この挑戦者はキック王者の早千予相手にダウン気味のスリップを奪うなど大善戦。しかし、いまだ四天王を倒し1000万を奪った者はいない

―ちなみに、島田さんは女子格闘技にはどういった印象を持ってるんですか？ 今回の『肉力強女』だけじゃなく、これまでもTBSの『サイボーグ魂』に関わったり、スマックとかも何度か見てると思うんですけど。

島田 そうだね、テリーさんも言うように可能性は凄くあると思うんだけど、単純に怖いなっていうのがあって。やっぱりケガの面とかでも女の子は我慢強かったりするからね。

―明らかに極まってても、なかなかタップしない選手も多いですからね。

島田 でしょ。でもそれが逆に言うと、いまの男性にないパワーの部分でもあるんで、やっぱり最終的には、いまの日本と一緒で女性が男性を上回るっていう意味では女子格はチャンスがあると思います。そのうちね、『PRIDE』やK-1みたいに女子だけの大きな大会をやってみたいですね。

―テリーさん的にはいかがですか？ 将来的に女子格闘技が『PRIDE』のような華々しい世界でやれるところまで行けるっていう予感はしてます？

テリー まあ、そんなことよりね、世界進出ですよ！（キッパリ）。

島田 ほぉ！ そっちですか（笑）。

宮内 凄い！（笑）。

テリー 狙いたいよね。あのさ、特にアメリカなんかはマーケットが大きいでしょ？ 女子サッカーとかもアメリカで凄いことになってるし、そういう意味で言うと、ホントに強い、それこそ早千予とかライカの試合なんていうのは凄く魅力的だから、そういう試合があればボクはアメリカでも十分に通用すると思うし、世界進出っていうのも夢じゃないと思うんですよね。

―プロレスや格闘技は言葉がわからなくても通用しますからね。

テリー そうだよね。やっぱ、わかりやすいじゃないですか。

―元バトラーツ・リングガールの美穂さん的には女子格はどうですか？

宮内 私は今回の番組に関わるまで女子の格闘技をナマで見たことなかったんですよ。それで、実際見たらホンットにね、ショックを受けてるんです！

―どういったところにショックを受けた

んですか？

宮内 こんなに凄いもんだと思わなくって（笑）。それにこんなにみんな根性あるとは思わなかったし。だから、まだまだいろんな女性が眠ってるんじゃないかなって思うとワクワクしますよね。そういう意味で可能性を凄く感じるんですよ。夢が凄いあると思うし。

——私も一千万狙いに行こうかなっていうのはないですか？（笑）。

宮内 ハハハハハ。でもそうですよね、私は男子の闘いとかはたくさん見てたので、やっぱり見てる人っていうのは、できるできないは別として、やりたくなる気持ちっていうのは起きると思うんですよ。私もそういう気持ちはあるし、実際、一千万円に惹かれるところは凄くありますね（笑）。

——それは当然ありますよね（笑）。

宮内 私も身体鍛えてやってみたいなって気持ちは、ちょっとあります（笑）。

——期待してます！（笑）。

島田 先ほどテリーさんが世界進出って言ってましたよね。ボクは最近、仕事でラスベガスに行くことが多いんですけど、向こうのプレイメイトとかが試合をやってて、それがＰＰＶで結構いい数字を出してるんですよ。

——プレイメイト同士の試合をやってたら男なら見ちゃいますよね（笑）。

島田 でしょ。そういう意味ではね、日本でもプレイガールじゃないですけど、タレントさんやモデルさんとかでも、一千万欲しいっていう人達にドンドン挑戦してもらいたいですよね。

——タレント次第では視聴率もグンと上がるでしょうしね。実際に桜庭あつこさんとか格闘技にチャレンジしたタレントもいるわけですからね。

島田 元チェキッ娘とかそういうのもゼヒ！

——元チェキッ娘だったら実現の可能性も高いかもしれませんね（笑）。

テリー ホント、そういう女の子たちにも来て欲しいですよ。

——テリーさんの目から見て、「コイツなら一千万の可能性がある！」って思うタレントとかいませんか？ 個人的にはソニンさんとか、いい身体してるんで出て欲しいんですけど（笑）。

テリー ソニンはいいよねぇ。

島田 ワハハハハハッ！

テリー この前、一軒家プロレスの撮影でソニンと会って、ツーショットの写真撮ったんだけど、上半身とかの筋肉の張り具合はスッゴイですよね。

——かなりマッチョですよね（笑）。

テリー ソニンなんかも挑戦して欲しいよね。でもやっぱり、男性だとさぁ、坂口さんの息子さんとか長島一茂さんもそうだけど、格闘技に対して意識高い人も多いじゃないですか？

——一茂さんの目線は、ほとんど選手と一緒ですからね（笑）。

テリー でも日本の女性は、まだ藤原紀香さんみたいにドレスを着て格闘技を見に行くっていう方が多いでしょ。

——そうですね。ドレスは着ないとは思うんですけど（笑）。

テリー あっ、そっか（笑）。でも、やっぱり見に行くのと実際に格闘するのは全然違うじゃない？

——違いますよね。

テリー だから、見に行くという意識の人はたくさんいるけども、実際にやってくれるっていう人は、まだまだ桜庭さんぐらいですよねぇ。もっともっと増えてくれるといいですよね。

——今日の収録では、挑戦者が負けたら乳首を見せるってことになって、実際、試合後に脱ごうとしたらテリーさんが止めたじゃないですか。見てる方としては残念だったんですけど（笑）、やっぱりそっちの方向には行きたくないなっていうのはあるわけですか。

テリー そうだね。そうすると色モノになっちゃうからねぇ。やっぱり強さを見せていかないと長続きしないでしょ。最初はいいかもしれないけど、キャットファイトとか、そういうのは他にあるから、将来的にはわかんないけども、いまはとりあえずそっちには行かない方がいいんじゃないかって思ってますね。

——女子格闘家としては、もちろん強さは必要でしょうけど、テレビ的にはビジュアル面も重要だと思うんですが、その辺はどう考えてますか？

テリー それもあるとは思うんですけど、でもね、ビジュアルを求めて女子プロはダメになったっていうとこはあると思うんですよ。

——中途半端に求めて失敗したってところはありますよね（笑）。

テリー 昔からそれは言われるんですけども、たとえばいまはいろんな女子プロの選手がおっぱい出して写真集出してますよね。

——バンバン出してますねぇ（笑）。

テリー じゃあ、それで盛り上がってるかって言ったら盛り上がってないですよ！

——盛り上がってはいませんね。

テリー そうでしょ。でね、じゃあ「ボブ・サップの顔ってビジュアル的にどう？」って言ったら、トム・クルーズじゃないじゃない？

——サップの顔はどう見てもトム・クルーズではないですね（笑）。

テリー ということはね、「強いとキレイ」なんですよ。だから、格闘家にとっては「強いとキレイ」っていうことが実は正義なんですよ！

——今日の収録に参加していた久保田選手も「闘うことのセクシーさを見てもらいたい」って言ってましたね。

テリー そうでしょ。ライカだってそうですよ。ライカがたとえばミスコンテストに受かるかっていったら受かりませんよ！

——アハハハ！ まず確実にミスには選ばれないでしょうね（笑）。

テリー でも試合中のライカはカッコイイよ！ で、ライカは女性に好かれるでしょ。これってもの凄く大切なことなんだけどね。

島田 それは重要ですよね。

——クラッシュギャルズの全盛期とか女性ファンは凄かったですからね。

テリー そういう意味では早千予も女性に好かれるでしょ。

——そんな感じですよね。

テリー 今日の試合が終わったあと、早千予は「私には何にもないけど、前に出るファイティングスピリットは誰よりも持ってる」って言ってたけど、あれがカッコイイじゃない。そういうところの本

格闘家にとって「強いとキレイ」ってことが正義なんですよ

元チェキッ娘とかにもぜひ挑戦してもらいたいね

私も身体鍛えて挑戦してみたいって、ちょっと思ってます

物の価値観みたいのを忘れて、それをなんかモーニング娘。みたいなものを作っていくというのは違うんじゃないかなぁ。

—本物のモー娘。がやるんだったらいいんですけど、モー娘。路線っていうのは正直難しいでしょうね。

テリー たしかに渋谷系の女子プロもありますよ。それはそれでいいんだけども、それがまだ圧倒的に人気があるかっていったらそうじゃないじゃないですか?

—そうですね。

テリー やっぱり、「強い」というものをもう少し見せていく必要がまだまだ女子格闘技の世界はあるんじゃないかと思いますね。

島田 ボクもそう思いますね。やっぱり、テレビだから可愛い子がいればパッと目に付くこともあるんでしょうけど、強くないと説得力がないですからね。それは、この番組の四天王もそうだけど「強さ」っていうのが彼女達の武器だろうし、それを追求してるわけでしょ。その中で、人前に出てくることによって、だんだんキレイになっていくじゃない? そういうのを身に付けていったら、色気になるんじゃないかと思うんだよね。だから、格闘家としての色気っていうのがあると思うし、それが出てくれば面白いなって。

宮内 私もそうだったんですけど、ホントに心をまっさらにして観て「凄い!」って思うのは男も女も全然関係なくて、私は、この番組で初めて女性の闘いを間近で見て、思わず立ち上がりそうなくらい「うわっ!」って思ったんですよ。そういうのって男女共通じゃないですか。

—性別は関係ないですからね。

宮内 スポーツは全部そうだと思うんですけど、その気持ちを感じさせられるものっていうのは凄くみんな感動するし、共感するし、カッコイイなって思うし。もっともっとカッコイイ女性をいっぱい観たいし、いっぱい出てきて欲しいですよね。自分もそうなりたいし。

—同時期の深夜にフジテレビで『ダリアンガールズ』というプロレスを題材にした中国の女の子の番組が始まりましたけど、それは意識します? ホリプロの会長がかなり力を入れてるみたいですが。

テリー リングで中国の方々が闘うっていうのは、あれはあれでいいと思うんですよ。逆に相乗効果でウチも観てもらえれば一番いいと思うんでね。どっちがいい悪いじゃなくて、中華街と一緒で一軒だけじゃダメなんですよ。

—一軒じゃ寂しいですよね(笑)。

1千万ほしい人、この指止まれ!

強い女、全員集合!

『肉力強女』では四天王を倒す自信のある強い女を、まだまだ募集しています。単純に「一千万がほしい!」とか「テレビに出て目立ちたい」といった動機でもノー問題。四天王を倒しさえすれば一千万はキミのものだ! 詳細は島田裕二主宰『BCG』(東京都港区東麻布3-3-1 アイザック東麻布B1F TEL.03-3560-7911)まで。なお『BCG』ではフィジカルリラクゼーションルーム「REBORN」を開設。ここでしか味わえない究極の「REBORN」マッサージを受けに足を運ぶのもよし!! 急げ!!

テリー 何店も中華屋があった方がお客さん来てくれるでしょ。だから、女子の格闘技を取り上げる番組なりができてホリプロに感謝してますよ。

—ただ、深夜番組となると予算も限られてるでしょうし、一千万がバンバン流失してしまったら番組存続の危機になってしまうわけですよね(笑)。

テリー そうですねぇ。まあでも、ウチの四天王は強いんで大丈夫ですよ。

—信頼してると(笑)。

テリー そうですね。でもねぇ、この番組は、きっと十万円ぐらいしか儲かってないですよぉ、ホントに。

—十万円ですか(笑)。

テリー そんなもんですよ。十万円ぐらいしか儲からない中で、たぶんボクのギャラなんか出てないですよ。

—エッ!? ノーギャラなんですか?

テリー ほとんど出てないですよ。出たって1万とか2万ですよ。

島田 ワハハハハハ!

—1万とか2万って、逆にリアリティーがありますね(笑)。

テリー いや、ホントですよ! よそ行ったらもうちょいギャラ貰いますけど(笑)、でもこういう番組は、やってる楽しさだけですからね。

—お金じゃないわけですね。

テリー そう。出る側も観る側も夢を見る番組だと思うし、記者会見でも言ったけど、お金が全部じゃないけども、ある程度、女子格闘家とかも、それこそ六本木ヒルズに住むぐらいになってほしいしね。

—六本木ヒルズですか(笑)。

島田 それぐらいになってほしいですよね。六本木歩いてたらなんとかっていう女子格闘家を見かけたとか。それがやっぱり錦糸町で見たとかいうとイメージ違いますからね(笑)。

テリー やっぱりね、叶姉妹と同じマンションとかに住ませたいよね(笑)。

島田 いいですねぇ(笑)。

テリー たとえばね、叶姉妹と同じマンションに住んでさぁ、駐車場からリムジンが二台出てきて、どっちが出てきたと思ったら、女子格闘家だったって言わせたいじゃないですか?

—アハハハハ! 石原さんが男性タレントと『フライデー』されたり(笑)。

島田 そうそうそう(笑)。いつも吉野屋とか松屋じゃなくて、イタリアンレストランで食事してるとか、そういうふうにさせたいですよね。まあでも、今後、選手が揃ってきたら大会もやろうって話もしてますからね。

テリー やりたいですよね。近いうちにやりましょうよ!

島田 そうですね。そのためには挑戦者がもっともっと来てくれないと。その辺は『紙プロ』に任せるんで、ドンドン名乗りを上げてほしいですね。『肉力強女』の四天王は、いつ何時、誰の挑戦でも受けますよぉ!

テリー よろしくお願いします!

—大会も含めて今後の『肉力強女』に期待してます!!

【10月14日/「BCG」にて収録】

破壊王主演
『あゝ! 一軒家プロレス』
撮影快調!!

破壊王・橋本真也主演で話題となっている『あゝ!一軒家プロレス』の総合演出も行っているテリーさん。11月2日に新宿ミラノ座で開催された東京ファンタスティック映画祭でのトークショーに、ソフト・オン・デマンドの高橋がなり社長と共に登場したテリーさんは、「公開は未定だけど、5月にはカンヌ映画祭に参加します。100人ぐらいで"一軒家"のねぶたを担いで『日本は元気だぞ!!』ってアピールしてきます」と大炎上! 公開日決定まで首を長くして待て!

11.30 両国へ向け 完全無欠の

久々のスマックでミドル&ライト級王者が決定!

ライト級決勝は8月大会の再戦となる吉住vs大門。前回の勝者、大門はパンチに剃り込みを入れ、気合い十分で臨んだものの僅差の判定で敗れ涙を飲んだ。一方、吉住は控え目に勝利をアピール

菊川と15の間で争われたミドル級決勝戦。互いにアグレッシブに攻め合ったものの最後は菊川が腕十字を極め勝利。昨年の覇者・辻結花の練習相手の菊川がミドル級を制し、怪しい動きで喜びを表現した

10月大会の延期もあり、何度目かの崩壊騒動も飛び交っていたスマックガールが11月10日、六本木ヴェルファーレで『JAPAN CUP2003』を開催。ミドル級&ライト級の王座を決める今大会は昨年より規模を縮小し各階級4名参加の1DAYトーナメントで行われ、ライト級では一回戦で坂本奈緒子を下し決勝へコマを進めた吉住絹代が、8月大会で僅差の判定で敗れた大門まい子にリベンジを果たし、見事優勝!

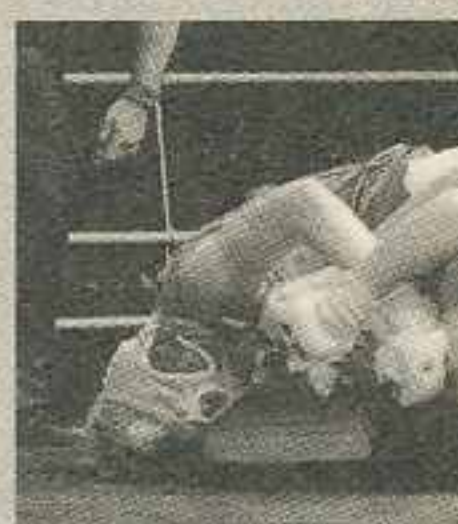
ミドル級では一回戦で優勝候補のジェット・イズミがアクシデントながら15に敗れるという大波乱がボッ発!決勝で昨年の覇者・辻結花と練習を共にする菊川夏子と対戦した15は素早い仕掛けで三角や腕十字を極めるなど、これまでのキャラ先行のイメージを覆す動きで観客から感嘆の声をあげさせるも、最後は菊川が腕十字を取り返し王者の座をゲット。マイクを持った菊川は「道頓堀に飛び込みたい気分ですわ」と喜びを爆発させた。

試合後の表彰式では女の子ということでチャンピオンベルトならぬチャンピオンティアラが贈られ、それを頭に乗せた2人はニッコリ笑顔。

観戦に訪れていた昨年のライト級王者のしなしは「チャンピオンは1人でいい」とHP上の日記で告白。吉住としなしは、これまで2度対戦し、しなしの1勝1分け。来年早々にも王者同士の対決を期待したい!

進化した15が、なんと決勝進出!!

一回戦でミドル級の大本命ジェット・イズミと対戦した15。キックの強豪でもあるジェットにハイキックなどで積極的に攻め込んでいった15。もちろん、パンツは丸見えだ!

試合はジェットがタックルでテイクダウンした際に左ヒジを打ち付け負傷し無念のドクターストップ。スマック史上最大級のアップセット、スマック未勝利の15が決勝へ!

これまでキャラ先行で実力が伴わなかった15が特訓の成果を発揮。敗れはしたが腕十字や三角絞めであわやのシーンも

川江のおばちゃんの額にゴルフボール出現!!

ミドル級トーナメント1回戦で菊川と対戦した唐手家の川江は、開始早々から菊川の嵐のようなハイキックラッシュを受け、気がつくと額にゴルフボール大のたんこぶが出現! わずか1分11秒、無念のドクターストップ負け

スマック写真展開催

スマックガールで闘う格闘家を同じ女性の視点から撮り続けた中原千晴の個展が11月30日、正午から六本木BODY PLANTで開催されます。入場は無料!【問い合わせ】TEL.03-5572-2791

渡邊久江、全日本キック移籍初戦を飾れず!!

11・11北沢タウンホールで開催された『Girls SHOCK Ⅲ』で全日本キック入団後、初の試合をメインで行った渡邊。対戦相手は、これまで負けなしで勢いに乗るグレイシャアAki。コスチュームを一新し心機一転の渡邊はグレイシャアと激しい打ち合いを見せるも判定2-1で敗れ、試合後、涙をこぼした。セミでは総合でも活躍するWINDY智美がイタリアのシルヴィア・バリシェリを判定で下した。渡邊とWINDYは12・26バンコクで開催される女子ムエタイ対抗戦に出陣!

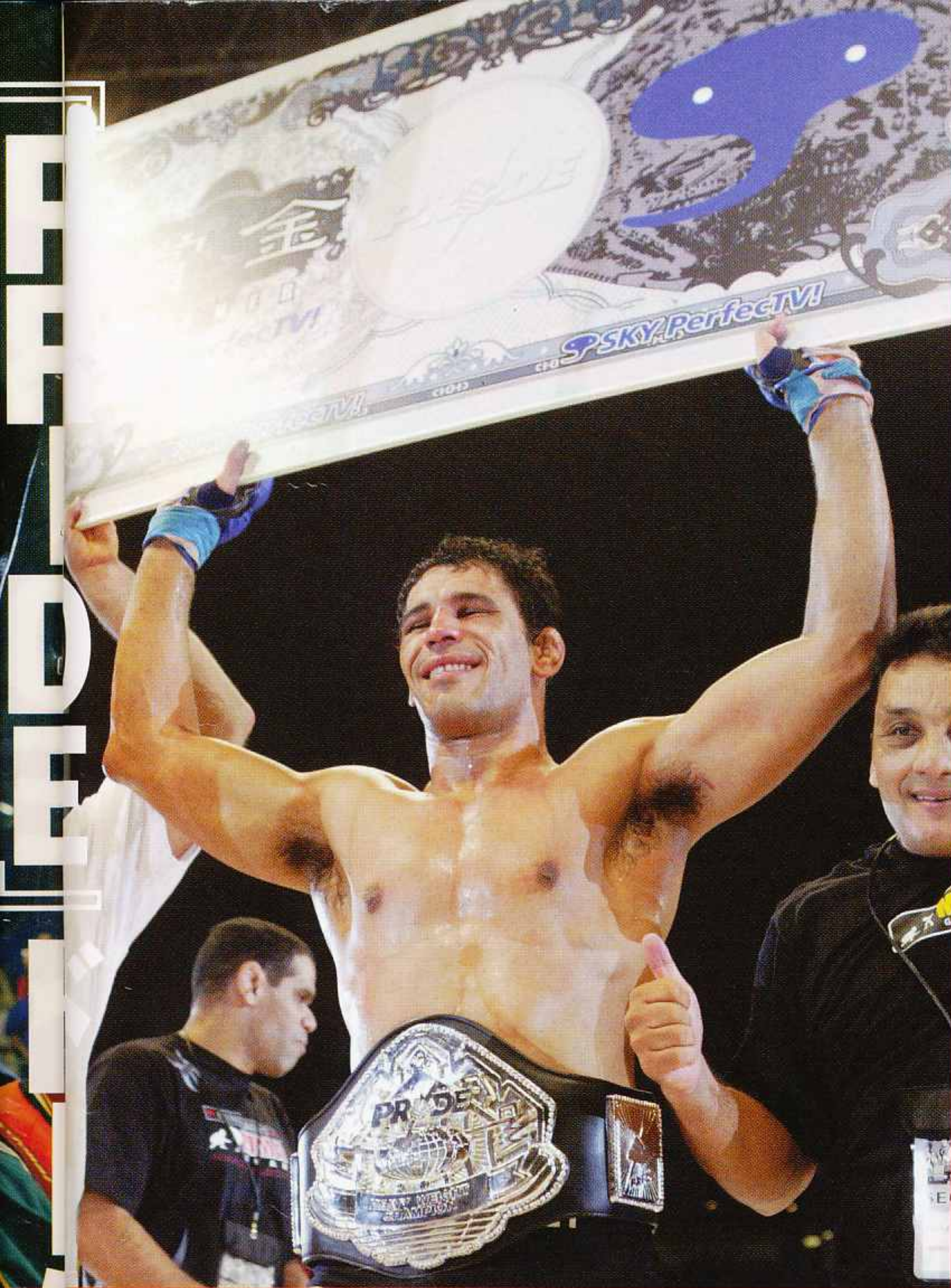
藪下めぐみも参戦!アイドルファイトはいかがでしょう?

「強くても可愛くなけりゃ萌えてこない」「ウエスト60cm以上徹底排除」がウリの、アイドル、レースクイーン、モデルによる超ビジュアル系“水着”女子プロレス『女闘美X(メトミックス)』12・14バトルスフィア東京大会に、なんと藪下めぐみの参戦が決定。藪下は島田レフェリーの秘蔵ッ子でスマックガールや『サイボーグ魂』にも出場経験のある羽柴まゆみとプロレスルールで激突。詳細は【女闘美X公式ホームページ】http://metomix.jp/ まで

「時代が動いた」11・9『PRIDE』ドームを徹底分析！

“マス・リング”から“マス・道場”へ――
11・9ドームの闘いこそが
真の『PRIDE武士道』である！

おなじみ
青春の
大発見
シリーズ

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

『PRIDE』ドームを徹底分析！

──先生！　11・9『PRIDE』東京ドームは凄かったですね！

堀辺　凄かった！　この前も私が寿司屋に行ったら隣のお客が吉田vsシウバの話をしていましたから、そのぐらい巷でも興奮冷めやらずといった感じですね。

──では、今日はその「凄い」と感じた要因と、あの闘いから見えてきたものは何か、ということを伺いたいと思います。

堀辺　わかりました！　あの大会から見えてきたものはたくさんあるんですけど、それを話す前に、これまでの『PRIDE』の特色というものを話しておいて、そのあと今回の『PRIDE』で何が変化したかと話したほうが、読者にわかりやすいんじゃないかと思います。

──まずは復習からということですね（笑）。

堀辺　はい。まず『PRIDE』には3つの大きな特色があるんですよ。

──復習からもう3つありますか（笑）。

堀辺　1つはマス・リングであるということ。2つ目は格闘技の実験室になってるということ。最後に「実戦」「最強」を徹底追及しているという、この3つが『PRIDE』の大きな特色なんです。

──「マスリング」で「実験室」で「最強を追求してる」と。

堀辺　思い出しましたか？

──……………もう一度、詳しくご教授願います（笑）。

堀辺　わかりました（笑）。まず、1つ目のマスリングというのは、今回のように、6万7千人という巨大な観客数を集めて、巨大なファイトマネーが支払われる。すべてのスケールが巨大なんですよ。

──まさに〝マス〟なわけですね。

堀辺　しかも、映像、活字、インターネット等で世界中に情報が多量に発信される、だからミルコなんかは母国で国民的英雄になっているわけですよね。つまり選手側にすると巨大なマネーと巨大な名誉が一挙に獲得できる。これがマス・リングということなんです。次に2つ目の「格闘技の実験室」ということですけど、『PRIDE』のソフトとしての魅力というのは、実はこなんですよ！

──『PRIDE』の魅力は実験室であることですか。

堀辺　そうです。例えば、プロボクシングの世界なんかは巨大なお金が生まれる場ではあるけれど、すべてのことをもうやり尽くしちゃっていて、よく言えば完成、悪く言えば終着駅についてしまっている。だからもう道というものがないんですよ。

──すべての実験が終了してると。

堀辺　そう。それに対して『PRIDE』の歴史というのは、常に実験に次ぐ実験だったんですよ。例えばノールールが初めて出てきたとき、それまで「地上最強のカラテ」と言っていた打撃系や、これまた「最強」と言っていたプロレスラーが、グレイシー柔術にみんなやられちゃって、ガックリきたわけですよ。

──相当ガックリ来ましたよね（笑）。

堀辺　ところが『PRIDE』が回数を重ねるうちにグレイシーが勝てなくなり、レスリング出身の選手が活躍した時代を経て、最近は再び打撃全盛の時代と呼ばれるようになった。つまりこれまで信じられてきた技術やセオリーが次々と塗り替えられてきたんです。

──定説が常に覆されていった歴史だと。

堀辺　そうです！　その次から次へと定説が覆されることこそが『PRIDE』の魅力で、これを一言で言うと「格闘技の実験室」なんです。そして、その実験はまだ終わってない！（ドンッ！）。

──まだまだ、新しい発見がありますか。

堀辺　ある！　この次から次へと回を重ねる度に「えっ！」って言うことが起きる所が、『PRIDE』のソフトとしての魅力なんですよ。

──では、『PRIDE』の興奮というのは、新しいものを発見した興奮というのが大きいわけですか。

堀辺　そうなんです。意外とみんな『PRIDE』は過激なことをやるから人気があるって思ってるでしょ？　でも、実はそういった知的な興奮でもあるんですよ。

──なるほど。だから『PRIDE』はいつまで経っても飽きないわけですね？

堀辺　そういうことです。そして、格闘技の実験室であり続けているということは、実際にリングに上がっている選手からすると、まだまだ研究する余地があるということですよね。だから、相手が他の格闘技のチャンピオンだったとか、金メダリストだったとか言っても、そんなものはクソ喰らえと。オレが研究して、そういった技術を打ち破ることができるんだよという研究欲と向上心がノールールであることで生まれるんですよ。

──それはモチベーションが高まりますね。

堀辺　そして、そういった研究欲や向上心を喚起させると同時に、勝てば巨大な金銭と名誉が手に入るからこそ、「最強」というものを追求する選手が自然と出てくる。しかもノールールというのは「実戦」とい

『PRIDE』ドームを徹底分析！

ノゲイラやシウバは〝修行〟をやり抜いた男の清々しさが顔に出てる！

うものを必ず踏まえますから、これが3つ目の特徴である、実戦と最強の追求になるんです。

——なるほど。この3つの要素は深く絡み合ってるんですね。

堀辺 強く関係してますね。なぜなら、マス・リングでトップに立った選手というのは、多くの人から「最強だ」と認められるんですよ。格闘家にとってこんな名誉はないわけです。「この地球上で一番強い男はお前だ！」って言われるんだから！

——単位が「地球上」ですからね（笑）。

堀辺 いままで『PRIDE』は、そういうところが特色だったんですよ。そして今回、また新たな1ページめくられたんです。

——何か大きな1ページそうですね（笑）。

堀辺 DSEの榊原代表が試合後「歴史が動いた」っていう言葉を吐いたそうなんだけど、まさしく『PRIDE』がもう1ページ新たな段階に進んだってことですよオォォ！

——また『PRIDE』が新章に突入したわけですね。

堀辺 そう、今日はそこがテーマですよ！

——あ、こっからが本題でしたか！（笑）。

堀辺 今まではおさらい（笑）。それを踏まえた上で、「歴史が動いた」と言うけれど、じゃあどういうふうに動いたかっていうのが、今日のテーマになりますね。

——ゼヒ、そこは伺いたいですね（笑）。

堀辺 わかりました。じゃあ、いきなり答えを言ってしまいますけど、今回の『PRIDE』を見て感じたのは、「マス・リング」から「マス・道場」なりつつある、ということなんですよ。

——えっ!?　「マス・リング」が「マス道場」……でっかい道場？？……失礼ですが、サッパリわかりません（笑）。

堀辺 これから説明しますけど、これが「歴史が動いた」っていうことの意味なんですよ。みんな気付いてないけど。

——まさか『PRIDE』が「マス・道場」に変わりつつあると思う人はいないでしょうね（笑）。

堀辺 いないでしょ？　でも、間違いなく『PRIDE』のリングに「道場」って要素が加わったんですよ。じゃあ、道場って何かって言うと、道場の本来の意味は仏教用語なんですよ。悟りをひらくために修行する場。特に肉体を使って座禅を組んだりする禅宗の言葉なんですよね。

——ほうほう。

堀辺 だから道場っていうのは人間が求める求道とか、あるいは人間そのものを向上させるための修行の場で、日本の侍たちはそういったものと同じ考えで、剣術や柔術を修行する場を「道場」と呼んだわけですよね。つまり道場とは人間をトータルに変革していく場だったんですよ。

——技術だけを向上させる場ではないと。

堀辺 人格そのもの、人間性そのものを変革向上させるものが「道場」だったんです。だから英語の「ジム」とは全然意味が違うんですよね。

——「道場＝人間を変革向上させる場」なわけですね。

堀辺 はい。そして「リング」っていうのは和訳すると「試合場」なんですけれど、『PRIDE』はいま、そのリングが単に試合を行う場ではなく、人間を向上させる場になりつつあるわけなんですよォ！

——なるほど！　「リング＝人間を変革向上させる場」。つまり、「リング」が「道場」になったということですね！

堀辺 大正解です！

——ありがとうございます（笑）。

堀辺 いま言ったように、リング上の闘いが、そのまま「道場」になってきちゃっているんですよォォォ！（机をバンバン叩く）。そういう変化が今回の中で読みとることができるんです！

——それはどの辺から読みとったわけですか？

堀辺 試合内容やムードなどからもわかりますけど、例えば、ノゲイラなんかもう日本に着いたときの顔からして違った！　これはある程度、年のいった人間が見ればみんなわかったはずですよ。自信に満ちた顔、清々しい顔、何かをやり抜いた男の自信、もう10個ぐらいそういった形容詞をつけてもいいぐらい顔の中に変化を読み取ることができるんですよォォォ！

——そんなに劇的な変化がありましたか！（笑）。

堀辺 これは『PRIDE』が、自分の才能をとことんにまで磨いて臨まない限り

ミルコを破りヘビー級暫定王座に輝いたノゲイラと、『ミドル級GP』を制したシウバ。2人共実に晴れ晴れとした表情をしている。

『PRIDE』ズ　ムを徹底分析

は、勝利は手にすることができないリングだからこそ、選手がそこまで変化する。それがノゲイラの顔に見事に現れていたんですよ。

――修行の成果が顔に出たと。

堀辺 そういうことですね。ノゲイラは今回ミルコという強敵が相手ということで、「あいつに勝つにはどうしたらいいんだろう」ということを想定しながら最大限の修行をしてきたはずです。これは訓練とか技を磨く、あるいは強化合宿なんていうスポーツ的な発想を超えて、人間の能力を向上させるぐらいにまさに修行を積んで来たんですよ。「THE・修行」ですよ！

――「THE・修行」！（笑）。

堀辺 シウバもそうですよ。あれは蛇みたいな顔してるでしょ？

――爬虫類系ではありますよね（笑）。

堀辺 でもね、別に雑作が変わったわけではないんだけども彼の顔が非常に知性的になったんですよね。ノゲイラと一緒でやり抜いて来た男の清々しさ、清潔感、知性、自信、勇気、そういったものが滲み出てるんですよ。つまり「勝つ」ということに徹して修行してきたことによって、単なる技術が向上するとか肉体が向上するとかじゃなくて、トータルに人間が向上してるってということが今回の大会でハッキリした。『PRIDE』には人間変革があるんですよォォォ！

――人間変革！（笑）。

堀辺 そう！　みんな人間変革をしてこのリングに上がって来てるんです。そしてその成果をリングで実証してみせている。だからリングそのものが「道場」になってるんですよ。それはもう「競技」っていう枠を越え出してますよ！　例えば、日本にもいろんな宗派の仏教があるし、道場っていうものが今でも残ってますよ。比叡山に行ったって道場はありますよ。でもあそこで修行してる生臭坊主どもよりも『PRIDE』に参戦してる選手のほうが遥かに修行を積んでるんです！

――『PRIDE』の選手に生臭坊主はいませんか！（笑）。

堀辺 いない！　だから坊主の説法を聞くよりも『PRIDE』のリングで彼らがどう闘ってきて、そしてその次にどうなるかっていう変化を見ていった方が人間教育にもなる！　そういう意味で競技と言う枠を超えた人間性の向上というものが、今回の興行には見て取れるんです。

――『PRIDE』は、もう単なる“闘い”を見せてるだけじゃないんですね。

堀辺 だから髙田本部長が「男の中の男」って言うでしょ？　これはまさにPRIDEファイターそのものを表した言葉なんですよ。なぜなら、闘いの中で自己向上をするのが真の男だからです！　闘いを放棄したら男じゃない。闘いを継続し闘いの真っただ中で自己向上を図る、自分の才能を開花させる、これが髙田延彦の言う「男の中の男」なんですよォォォ！　だからPRIDEファイターは女にモテるわけです！

――闘いの中に「真の男」を感じるわけですね（笑）。

堀辺 そう、無意識のうちに感じてるんです。だから、『PRIDE』はこれで広い層の人に共感を呼ぶ第一歩を作ったと思いますよ。今回の試合なんか、本当に人間の鍛錬の場というか、道場になっていた。その代表がノゲイラであり、シウバだと言いましたけど、ここでもう一人、一番わかりやすい例を出しましょうか？

――あ、まだいるんですか。ゼヒ、お願いします！

堀辺 （神妙な顔で）あの、ヤマヨシが変わった！

――ガハハハハハ！　ヤマヨシにも人間変革がありましたか！（笑）。

堀辺 いままでヤマヨシを見てきた人が、この間の試合を見たらわかるでしょ？　結果的に負けましたけど、ヒース・ヒーリングを相手にあの試合内容。彼がね、どれほどの修行を積んだかということが、リングの中で証明されましたよ。

――確かにここ数年のヤマヨシの中では飛び抜けて良かったですよね。

堀辺 つまり『PRIDE』のリングというのは、もういい加減なことをやってる奴は上がることすらできない時代になったということですよ。現代社会というのは、絶えざる自己変革や能力の向上、トータルで自分を変えていく修行というものが欠如しているわけです。ところが最強を目指す男達、格闘技をやる人間がそういうレベルに到達した。これは日本の武道という価値観に触れてきたということですよ。

――『PRIDE』のリング上が武道の価値観と合致してきたわけですか。

堀辺 合致して来たね。だから俺は主催者にひとこと言いたい。「こっちが『PRIDE武士道』だよ」って！

――ガハハハ！　あっちの『PRIDE武士道』は名称に偽りありですか（笑）。

堀辺 あれはニセモノ武士道です！（キッパリ）。だって10月のさいまますーパーアリーナのどこに武士道を感じました？

――まったく感じませんでした（笑）。

堀辺 でしょ？　だから私は、11・9東京ドームのような闘いこそ、『PRIDE武士道』ここにあり！と言いたいんです。

――じゃあ、あっちの『PRIDE武士道』は、今すぐ名前をはく奪しないといけませんね（笑）。

堀辺 そうですよ。「付け間違えました！」ってことで、今からでも付け直すべきです。じゃないと世界が納得しない！

――世界中の非難を浴びますか（笑）。確かに10・5さいたまは「あれのどこが武士道なんだ？」ってみんな思ってましたからね。

堀辺 その通りです。でも、そう言ってる矢先に『PRIDE』本体が武士道に突入したね。だからこれは、素晴らしい日本の伝統文化というものが、『PRIDE』というものを通して、国境、人種を超えて世界にアピールしているということですよ。だから『PRIDE』は日本発であることに意味がある。

下馬評では圧倒的不利と言われたヤマヨシであるが、ヒース相手に大善戦。この一戦を機にイッキシンテン再浮上となるか？

『PR DE』ビ ムを徹底分析！

——日本という土壌が、今日の『PRIDE』を作り出したということですか？

堀辺　そういうことです。やはり日本の観客に取り囲まれながら闘っていると、選手がそういうふうになっていくということなんですね。だからUFCと『PRIDE』はまったく違うんですよ。これは風土の持っている力なんです。

——技術的な進化は同じようにしてますけど、それだけ違うんですね。

堀辺　違いが出て来てますね。「心技体」っていう言葉があるけども、まさに心技体をトータルに伸ばさない限り『PRIDE』では通用しなくなったんですよ。そして負けた人はなおさら次の試合までに「どうしたらいいか」ってことを徹底的に研究、工夫してあらゆるところから修行し直すと。だから今回ノゲイラにやられたミルコもね、次に『PRIDE』に上がるときは、さらに彼の持ってるものに磨きをかけてくると思いますよ。これは間違いない！

——修行とは出直しの連続なり、ということですね（笑）。

「吉田敗戦」は便宜上仮の勝敗であって真の勝負はついていない！

堀辺　そういうことです。

——じゃあ、吉田秀彦も負けてさらに強くなりますね。

堀辺　いや、吉田に関しては、もちろんこれからどんどん強くなっていくんだけども、そもそも今回のシウバ戦は負けてもいないんですよ！　これだけは言っておきたい。

——あ、先生の見解では、吉田はシウバに負けてないと。

文字通りの激闘となったシウバvs吉田。１Ｒは吉田が寝技でシウバを追い込むシーンを見せたが２Ｒシウバが打撃で反撃。僅差の判定でシウバが勝ったが、あと１Ｒあればわからなかった。吉田、もう一丁！

堀辺　負けてない！　ジャッジがどういう基準でつけたかわからないけど、ハッキリ言って吉田は負けてなかった！　もうシウバ自身が勝ったと思ってないでしょ。本心を聞いたらね。

——では、先生の採点では吉田の勝ちということですか？

堀辺　いや、ホントの採点だったら引き分けです。トーナメントなんで、どちらかにポイントを付けなきゃならないんだろうけど、それでも3-0というのはおかしい！　3-1とかならわかりますけどね。

——先生、ジャッジが一人増えてます（笑）。

堀辺　あ、そう。とにかく3-0ということはないですよ。

——そんな圧倒的な差ではなかったと。

堀辺　だからスポーツ紙には「吉田惨敗」ってでっかく書いてるけども、何を言ってるんだってことですよ！

——どこを見てんだと（笑）。

堀辺　だから、私は今日一番初めに「寿司屋で吉田vsシウバの話をしていた客」って話をしましたけど、その客が「吉田負けちゃったなぁ」って言ってるのを聞いて、「いや、吉田は負けてないよ！」って口出ししましたからね。

——ガハハハ！　隣の会話に口出ししましたか（笑）。

堀辺　なんだか友達同士で吉田vsシウバの予想で賭けをしてるとか言ってたんで、「吉田は負けてないんだから、金払う必要ない！」って言ってやりましたよ（笑）。

——人の話に口出すくらい、納得してないと（笑）。じゃあ、あの二人の対決は実はまだ終わってないんですね。

堀辺　そういう意味で終わってない。あれは便宜上の仮の勝敗であって、真の意味の勝負はついてないんですよ。だからいいところですぐ再戦するべきです。またそういう姿勢を打ち出すのが『PRIDE』じゃないかと思います。

——なるほど。じゃあ、最後に今日のテーマと関係ないことを聞かせてください。

堀辺　はい、どうぞ。

——先生は大晦日の格闘技イベント戦争、どのような結末を迎えると思いますか？

堀辺　うん。これはね、次の機会にゆっくり話そうと思ってたんで触りだけにしておきますけど、サダハルンバには悪いけど、ハッキリ言って『PRIDE』が圧勝します！（キッパリ）。

——『PRIDE』の圧勝ですか！

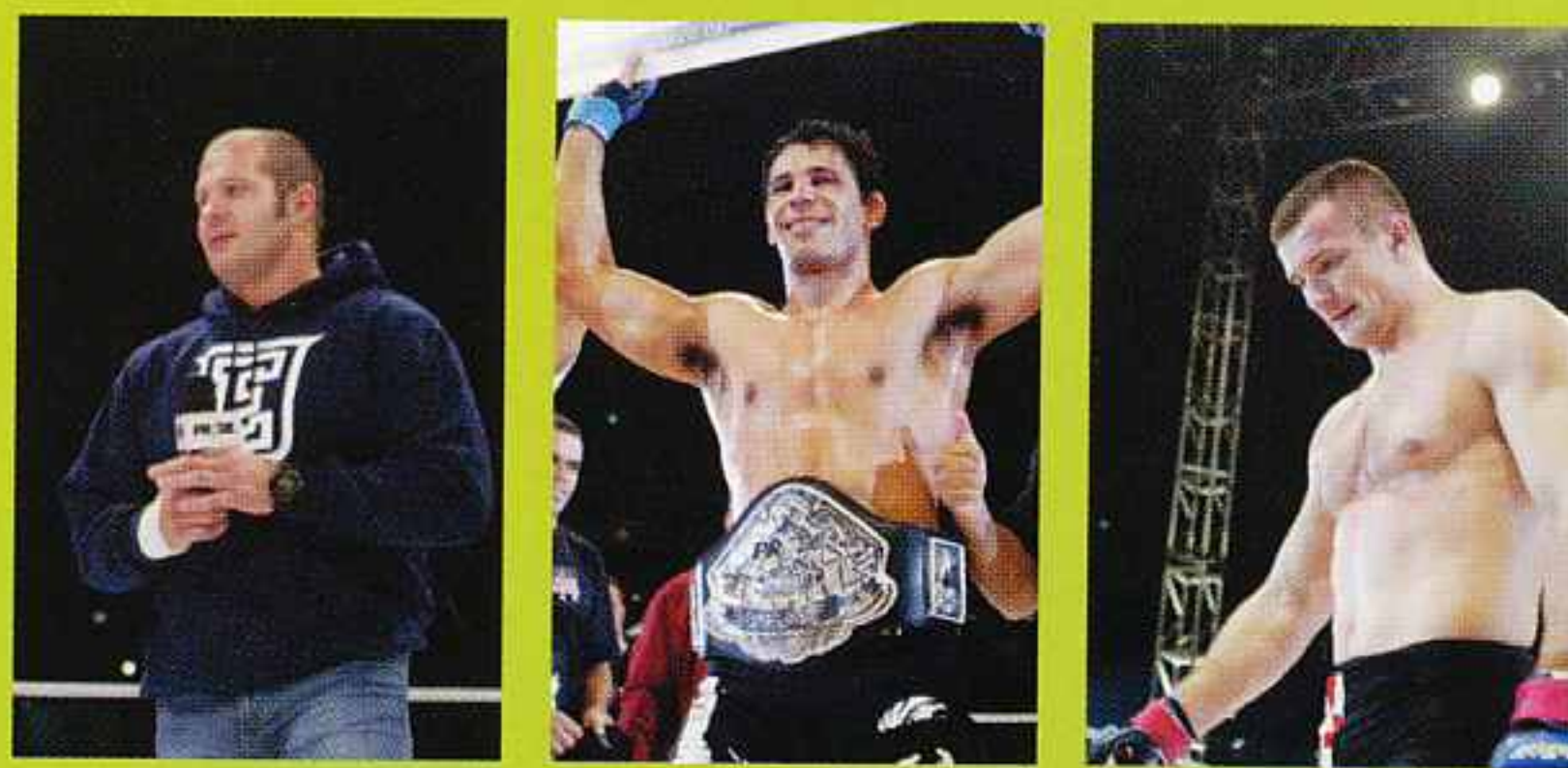
堀辺　もちろん視聴率を一番獲得するのは曙vsボブ・サップですよ。でも、真の勝者は『PRIDE』になると予想します。なぜなら、視聴率で負けても、感動率で勝つから。

——「感動率」ですか。

堀辺　そうです。この感動率の差によって、来年以降『PRIDE』はさらに発展し、K-1には残念ながら逆のことが起こると（笑）。なぜそうなるかということは、大晦日の試合が終わったあと、ゆっくりお話しましょう。

——いやぁ、いまから次が楽しみですね（笑）。今日はあ[illegible]がとうございました！

【03年11月12日／東中野・『骨法武術館』にて収録】

妖刀ヘシ折られる! “3強”の頂上戦争混沌!!

PRIDEヘビー級暫定王者

アントニオ・ホドリゴ ノゲイラ

Antonio Rodrigo Nogueira

リオの太陽再臨! 日はまた昇る!

11・9「PRIDE GP 2003」東京ドーム ノゲイラの魔術がミルコを制す!

聞き手/堀江ガンツ
撮影/松本崇
試合写真/乾晋也
designed by hisa (Two Three)

「ベルトを獲っても
ヒョードルを倒すまで
ボクはまだチャレンジャーだ」

――まずはPRIDEヘビー級暫定王座奪取おめでとうございます！　昨晩はやっぱり盛大な祝勝会だったんですか？

ノゲイラ　いや、チームのみんなは盛り上がっていたけど、ボクは体を痛めていたので少し顔を出して帰ったよ。

――そうなんですか。やっぱり試合のダメージが相当あったんですか？

ノゲイラ　試合のダメージもそうだけど、試合前に股関節と腰を痛めて遊べるような状態じゃなかったんだ。

――じゃあ腰を使うような遊びはもってのほかだと（笑）。

ノゲイラ　そうだね。それが心残りかなぁ（笑）。

――試合を見る限り、股関節を痛めていることは全く感じさせない闘いぶりでしたけど、いつ痛めたんですか？

ノゲイラ　最初に痛めたのは日本に来る前日。それでもなんとか大丈夫だと思っていたんだけど、試合の2日前にまたケガをしてしまったんだ。だから当日は階段を上り下りするだけで痛かった。今でも痛くて歩きづらいからちょっと心配だよ。

――それじゃあ当然、試合にも影響したんじゃないですか？

ノゲイラ　1R前半、体が完全に暖まるまでは、痛くてタックルに上手く入れなかったよ。でも、体が暖まってからは試合に集中していたし、痛みも感じなくなった。それと試合前には言えなかったんだけど、試合の6日前、ヒカルド・アローナと寝技の練習中、彼のヒジで目の上をカットしてしまって、9針も縫ったんだ。だから、試合中に傷口が開いてドクターストップにならないか心配だったよ。

――そうだったんですか。よくそんな状態で無敵のミルコに勝ちましたね。

ノゲイラ　今回の試合がどれだけ重要なのか自分でもわかっていたから、やっぱりどんな体調でも勝たないとね。

――試合中もケガのことを頭に入れて闘っていたんですか？

ノゲイラ　股関節の痛みはちょっと気になったけど、傷のことはあまり考えなかったよ。ただ、できるだけガードを高くして、彼のハイキックをもらわないよう左へ左へ回るという作戦は忠実に実行したけどね。それでも彼は危険な相手で、一瞬も気が抜けない、大変な集中力が必要な試合だったよ。

――特に1Rはキックやパンチをかなりもらっていましたけど、ミルコの打撃は予想以上でしたか？

Antonio Rodrigo Nogueira

ミルコのキックをガードした右腕が腫れ上がった。これが頭だと思うとゾッとするよ

ノゲイラ　いや、ミルコはバーリトゥード界では間違いなくトップのストライカーだから、あの打撃は想定していたよ。それでもミルコの打撃をすべて封じ込めるのは困難だから、とにかくハイキックだけはまともに喰らわないように、特に注意して闘った。あのキックはK—1の選手でも、ミドルが来るのかハイが来るのか読めないんじゃないかな。

――たとえボディにキックを貰っても、頭だけは守ろうと。

ノゲイラ　そうだね。これはヴァンダレイ・シウバのアドバイスでもあるんだ。

――え!?　シウバにアドバイスを受けたんですか？

ノゲイラ　うん。大会前にブラジルの番組で一緒になったとき「ミルコのキックはもの凄く強い。あれを頭に喰らったらひとたまりもないから、ボディがガラ空きになっても、頭だけは絶対にガードしておいた方がいい」と言われたんだ。実際、ミドルキックを受けてみて、もの凄い痛みだったけど、なんとか我慢できると思った。でも、頭をガードしていて、手にキックが当たった瞬間「これは危ないな」と思ったよ。ちょっと右腕を触ってみてくれよ。

――うわっ！　すごい腫れてますね！

ノゲイラ　ミルコのキックをガードしたら、こんなに腫れ上がってしまった。これを頭に喰らうと思うとゾッとするね。彼はホントに危険なファイターだったし、真のウォリアーだったよ。ボクがこれまで闘った中でもトップの選手だと思う。でも、ボクはそのミルコと試合の90%は彼の得意なスタンドで闘い、その上で最後の1分間で自分の得意な寝技で仕留めることができたのだから、試合には満足しているよ。

11.9 PRIDE GP 2003 東京ドーム

ノゲイラの魔術が"妖刀"をヘシ折った!

○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
ブラジリアン・トップチーム
▶[2R1分45秒、腕ひしぎ十字固め]
●ミルコ・クロコップ
クロコップ・スクワッド

開始早々、ノゲイラが引き込みに成功！得意のガードポジションを取るが、スイープを仕掛けた瞬間、すぐさまミルコは脱出！

ついに始まったこの一戦。ガードをガッチリ固めるノゲイラに対し、ミルコはいつものように自信満々でリングの中央を支配する。

――でも、1Rはなかなか寝技に持ち込めませんでしたよね。途中で「このままテイクダウンできないんじゃないか」という焦りは感じませんでしたか？

ノゲイラ　確かに1Rは、ミルコのラウンドだったと思う。パンチもキックも出したし、タックルの対処も完璧だったからね。でもボクは、彼がいずれ疲れることと、タックルがいつか成功することを信じて闘っていた。そして1Rの彼の攻撃をすべて耐えて生き残ることができたから、2R「今度は自分の番だ」と思ったんだ。

――あの劣勢の中でも気持ちは折れてなかったわけですね。

ノゲイラ　うん。ボクはピンチに立たされても、KOされない限り諦めないからね。それにミルコの1Rの攻めは確かに素晴らしかったけど、それによって彼は1Rですべての技を出し切ってしまったんじゃないかと感じたんだ。それも「2Rはボクが攻める番だ」と思った要因かな。

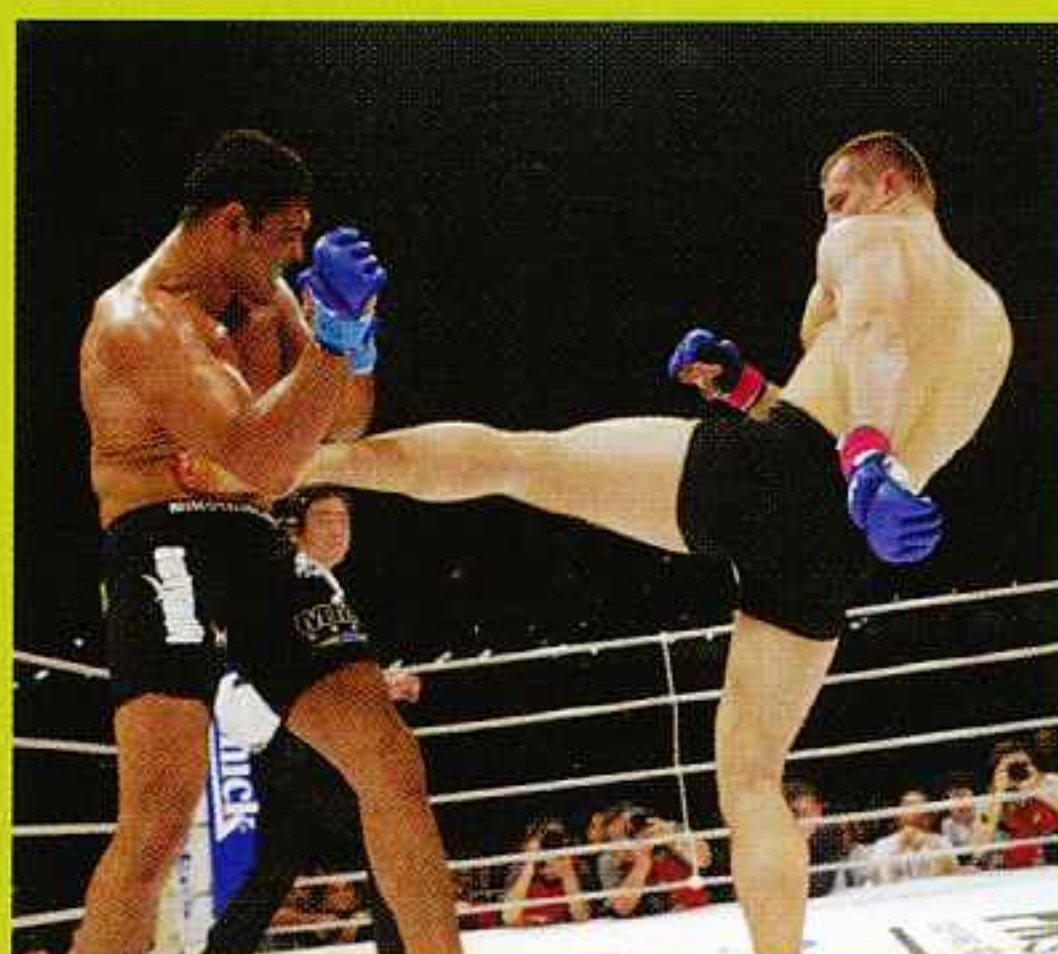
――そして、その通り2R開始早々にテイクダウンに成功して、腕十字で一本勝ちを奪ったわけですけど、自分で勝利を確信したのは、どの段階ですか？

ノゲイラ　2Rが始まってすぐ「勝った」と思ったよ。

――テイクダウンする前にもう「勝った」と思ったんですか？

ノゲイラ　うん。1Rミルコのペースになってしまったのは、彼がリングの中心に立ち、ボクがその周りを回る展開になってしまったからだと思った。だから2Rはボクが真っ先にリングの中央を制し、それによってミルコをコーナーに追い込むことに成功した。この瞬間、ボクは自分の勝利を確信したよ。

ミルコはパンチも強烈。左の蹴りに神経が集中しているノゲイラに対し、パンチでラッシュをかける面も。

ミルコはタックルを切るだけでなく、相撲のぶつかり稽古のようにブン投げていく。そして倒れた所に顔面キック！

スタンドでガードを固めるノゲイラをあざ笑うかのように、ミルコは強烈なミドルを連発。ノゲイラの顔が苦痛に歪む。

スタンドになれば立場は逆転。「立ってこい」とアピール。

Antonio Rodrigo Nogueira

ミルコ戦は一瞬も気が抜けない 先に集中力が途切れた方が負け という精神力の闘いだった

——なるほど。実際、その直後にテイクダウンに成功したわけですからね。

ノゲイラ　それと、1Rはずっと片足タックルを狙っていたが、2Rになってセコンドの指示もあって両足タックルに切り替えたんだ。その作戦がズバリ成功したね。

——では、今回のミルコ戦は、2Rにリングの中央を制したことと、両足タックルに切り替えたことが勝因となったわけですね。

ノゲイラ　そうだね。ただ、それは大きな理由のひとつではあるけど、ボクがミルコに勝てた最大の要因は、ボクの精神力が彼のハートを上回ったからだと思う。

——具体的にはどういうことですか？

ノゲイラ　結局、ボクとミルコの試合は、どちらの集中力が先に途切れるかの勝負だったんだ。ボクの集中力が先に途切れたら、彼のハイキックの餌食になり、ミルコの集中力が先に途切れたら、ボクにテイクダウンを奪われる。一瞬も気が抜けない、先に隙を見せた方が負け、という闘いだったんだよ。

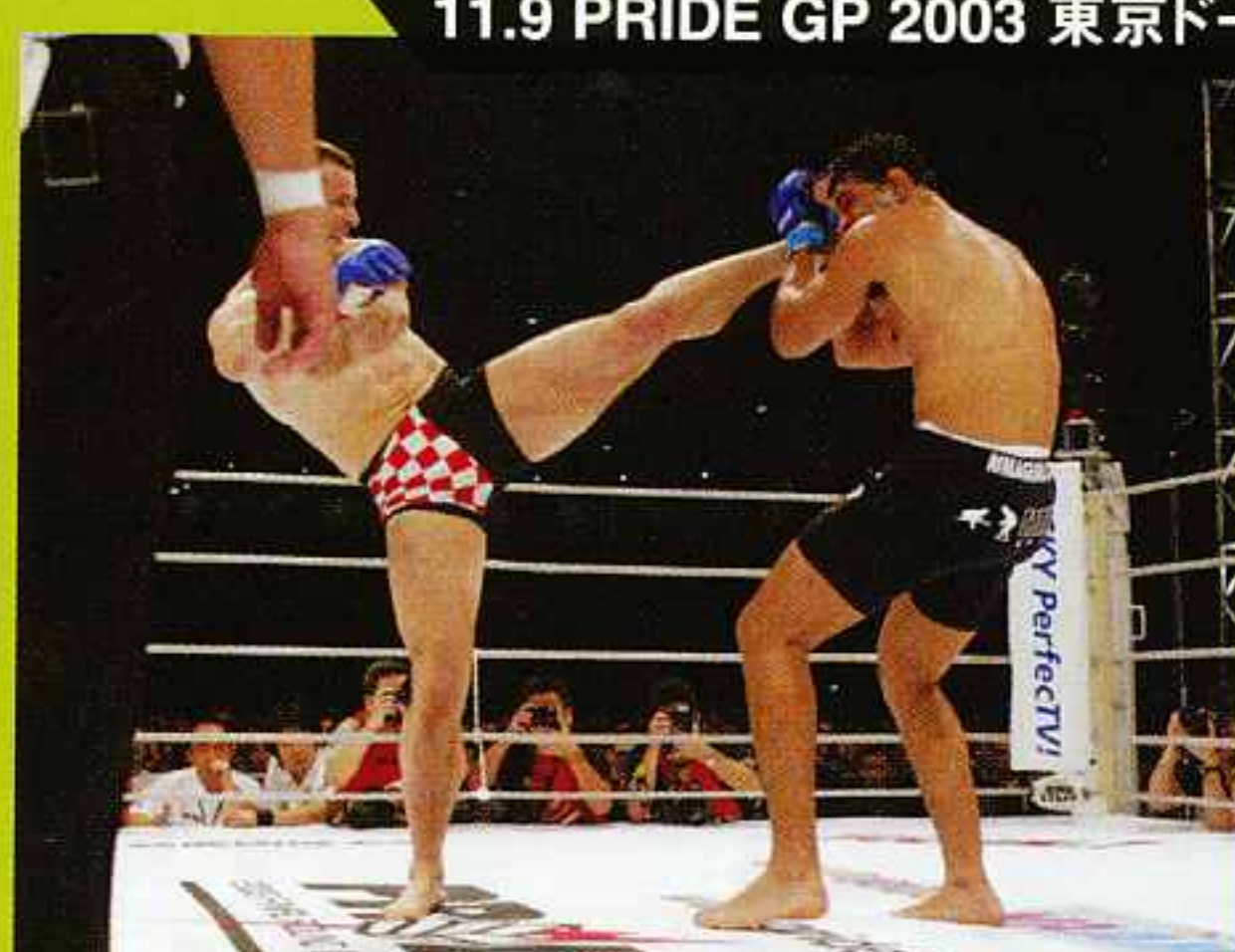
——はっは〜、では昨日の試合は寝技が勝つか、立ち技が勝つかと言われていましたけど、その勝敗を分けたのは、精神力の差だったわけですか。

ノゲイラ　ボクはそう思うよ。やはり技術が高まれば高まるほど、拮抗すれば拮抗するほど、最後は精神的な勝負になる。だから、こういう厳しい闘いに勝ったことは大変な価値があると思うし、ファイターにとって最高の喜びなんだ。

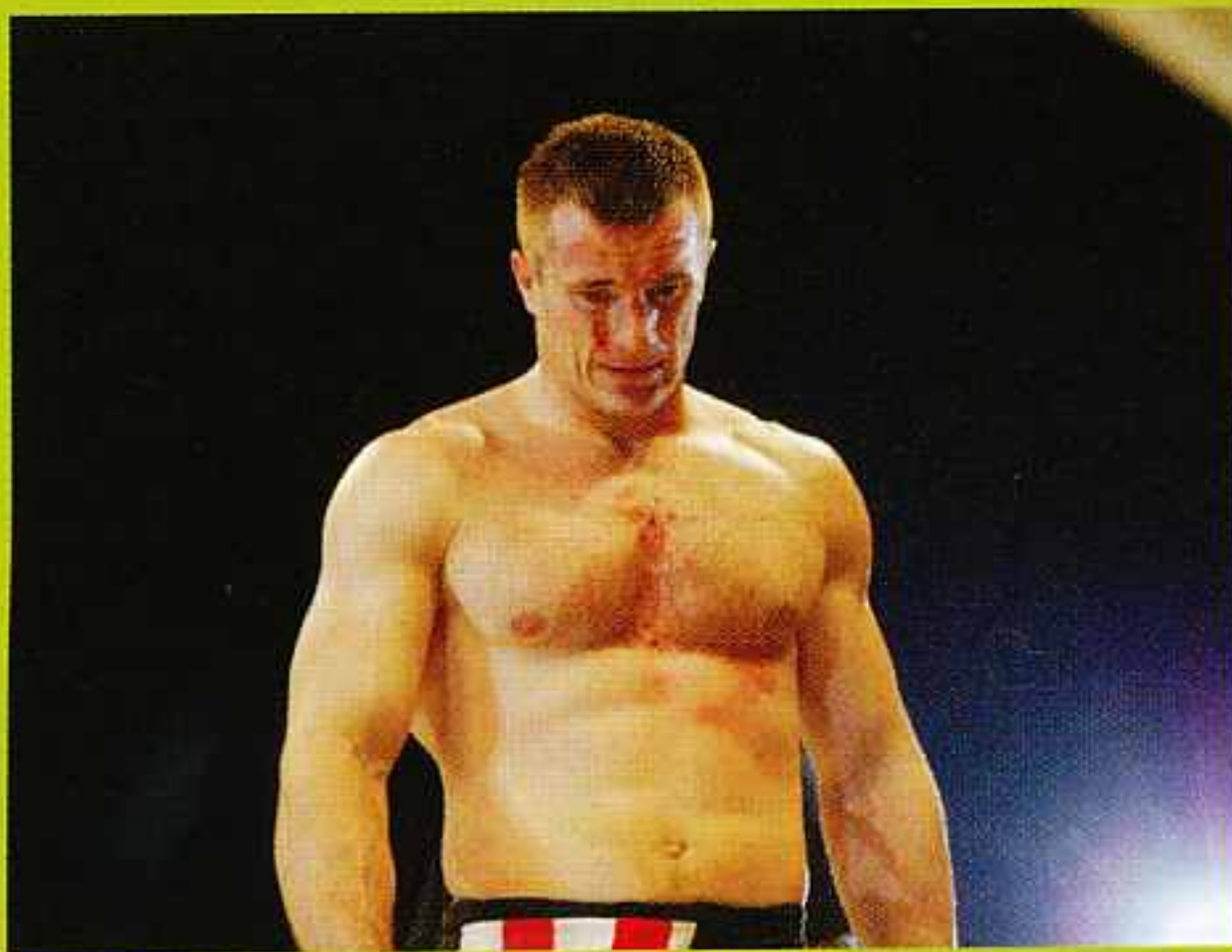
——でも、今回は勝ったから良かったものの、もしここで負けたら、完全にミルコやヒョードルより"下"というイメージがついてしまうという、非常にリスクが高い試合だったわけですよね。試合前、そういっ

11.9 PRIDE GP 2003 東京ドーム

しかし、2Rに入ると形成逆転。テイクダウンを奪ったノゲイラは、パスガードからサイド、そしてマウントポジションを奪う！

倒れたノゲイラに向かって、ミルコがパンチで追い打ちをかけたところでゴング！　あと10秒あったら、結果は逆になっていたかも……。

1R終盤、すでにボロボロになりつつあるノゲイラに対し、ミルコの左ハイキックがついにヒット！　当たりは浅いがダウンを奪う。

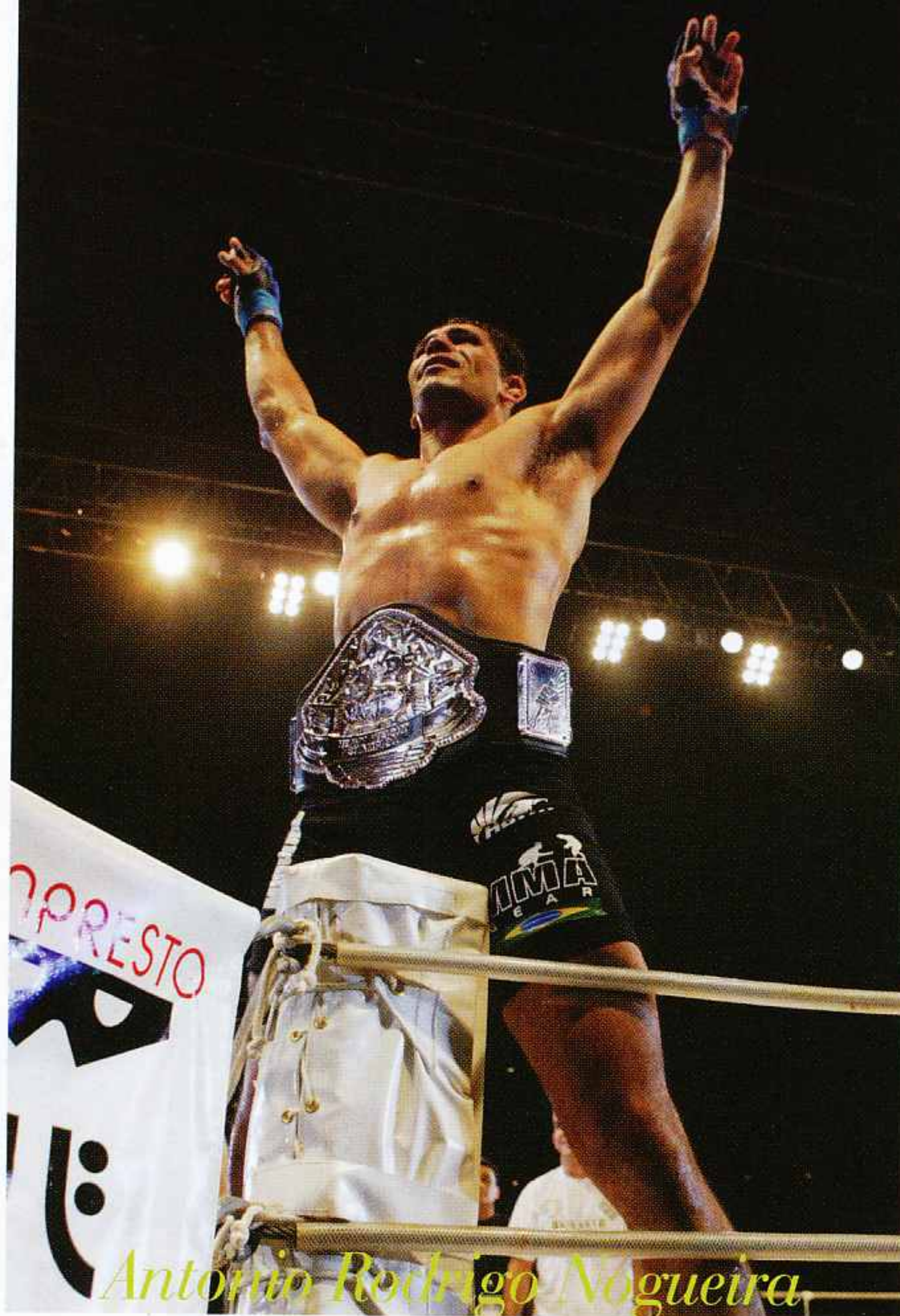
たことは考えませんでしたか？
ノゲイラ　ちょっとは考えたけど、勝つことに集中して、負けたときのことはなるべく考えないようにした。やはり、こういった闘いはリスクが付き物だからね。負けを恐れていては闘えない。精一杯勝つために努力して、自分を信じるしかないよ。
――ノゲイラ選手は今回のミルコ戦を二つ返事で承諾したそうですけど、このハイリスクな一戦を受けたのは、やはりその先にヒョードルがいたからですか？
ノゲイラ　もちろんそうだね。どうしてもヒョードルにリベンジしたかったし、その機会を得るためにはミルコを倒すしかないと思った。だから今回、ボクはベルトを巻くことができたけど、まだ自分をチャンピオンだとは思ってない。ヒョードルを倒すまで、ボクはチャレンジャーだよ。
――以前、「ヒョードルに負けて、ハングリーな自分に戻った」と言ってましたけど、やはり今年の3月ヒョードルに負けるまでは、「自分が一番強い」という慢心が少なからずあったわけですか？
ノゲイラ　うん、少しあったね。それから、あの時期は連続で試合をしていたから、ストレスも溜まってたし、凄く疲れていたんだ。それでも試合には勝ち続けていたから、「勝ちたい」という欲が少し薄れていたし、それが練習にも影響していたんだと思う。
――やっぱり最強に地位を保つのには大変なエネルギーが必要ですか？
ノゲイラ　凄く大変なことだよ。トップファイターとして生きるのは凄く厳しい。対戦相手もトップ中のトップだから、常に身体を限界まで追い込まなければならないんだ。選手によっては格下の相手と闘って勝ち続けている人もいるけどね。
――チャンピオンになってからのヒョードルの試合はどのように評価してますか？
ノゲイラ　彼がチャンピオンになってから闘った相手は、フジタ（藤田和之）とゲーリー・グッドリッジか……たぶん、ボクがチャンピオンだった頃に闘っていた相手の方がキツイように感じるね（笑）。
――菊田早苗、ボブ・サップ、セーム・シュルト、ダン・ヘンダーソンらと毎月のように闘って、そのあとヒョードルですから、そうかもしれませんね（笑）。
ノゲイラ　だからヒョードルは、この次にボクの挑戦を受けるときが、王者として最大の試練になるだろうね。彼にとってはハードな試合になるよ。
――もちろんトップチーム総出でヒョードル選手の研究をするわけですか？
ノゲイラ　これから集中的に対策を立てたいと思う。ただ、彼の弱点はもう見つけたよ（ニヤリ）。
――もう見つけてますか！　それはここで言うわけには……？（笑）。
ノゲイラ　もちろん内緒だよ（笑）。でも、試合当日になればわかると思う。ヒョードルは立ち技でも寝技でも、すべての体勢から対応することができる完璧に近い選手だけど、決してボクが勝てない相手じゃない。
――ミルコ戦とヒョードル戦は、どちらがより難しい試合になりそうですか？
ノゲイラ　ミルコとヒョードルではまったくタイプが違うから、どちらとも言えないけど、ミルコ戦とはまた違う試合になると思うよ。ミルコとの試合で難しかったのは、ミルコが寝技に付き合わないから、自分が立ち技に付き合わなきゃいけなかったことだったんだ。ミルコのパンチとキックに耐えることのできる選手はそんなにいないだろう？　ボブ・サップもそんなに我慢できなかったし（笑）。
――サップは、左ストレート一発でしたからね（笑）。
ノゲイラ　しかもミルコのグローブはボクと闘ったときの方が小さいしね。だから、立って闘うならミルコは最も難しい相手だけど、ヒョードルは寝てからも強い。そうなると当然、練習も変わってくるよね。
――ヒョードル戦までに、どんなトレーニングを積む予定なんですか？
ノゲイラ　ミルコに勝った勢いのままヒョードルと闘いたいから、ブラジルに帰ったあとの休息は最小限にとどめて、1日2回、毎日ハードトレーニングを積むつもりだよ。そして、今回のミルコ戦の前にもやったんだけど、トップチームのメンバー全

劇的な大逆転勝利にノゲイラ陣営は歓喜の大爆発！　そしてその勝利を感謝し神に祈りを捧げるノゲイラ。柔術超獣復活！

人生初のタップアウト負けを喫したミルコは呆然、そして一目はばからず悔し涙を流した。ミルコのこんな姿を見るなんて……。

そしてついにその時は訪れた！　マウントから強引に逃れようとしたミルコ右腕に狙いすました腕十字！　ミルコはたまらずタップ!!

員と連続でスパーリングをやろうと思う。
――極真空手の百人組み手みたいなことをやるんですか？
ノゲイラ　極真のことはよくわからないけど、とにかく全員とスパーリングして、全員から一本奪うつもり。そうすれば、自信にもなるし、試合中パニックになることもないだろう。

――ヒョードルに勝つために、そこまで自分を追い込むわけですか。
ノゲイラ　前回は中途半端なモチベーションで闘って負けてしまったからね。同じ過ちは犯さない。今度こそ必ず彼から一本勝ちを奪うよ！
――期待してます！　そのヒョードル戦も楽しみなんですが、その前に日本では大晦日に3つのビッグマッチがおるんですけど、ノゲイラ選手はどこかの大会に出場する予定はあるんでしょうか？
ノゲイラ　今年は多分、もう試合はしないと思うよ。多くの人が注目するイベントだから出場してみたいけど、股関節と腰を痛めているから、ヒョードル戦に万全の体勢で挑むためにも、今回はオファーが来ても辞退させてもらうつもりだ。
――今年は『イノキ・ボンバイエ』と『PRIDE』が別々に行うこととなり、その影響もあって、猪木さんが『PRIDE』を離れることになりましたけど、こういった事態はノゲイラ選手にとって心苦しいんじゃないですか？
ノゲイラ　とても残念だね。2つの力が合わさった方が強いに決まっているからね。

Antonio Rodrigo Nogueira

ヒョードル戦に万全を期すためにも、大晦日はオファーがあっても辞退させてもらうよ

――猪木さんとの結びつきも強いノゲイラ選手ですけど、来年以降も主戦場は『PRIDE』と考えていいんでしょうか？
ノゲイラ　ボクは暫定とは言えPRIDEヘビー級王者だし、『PRIDE』と契約もしているから、来年もボクは『PRIDE』に上がるよ。ただ、猪木さんのことは尊敬しているし、よき友人だから、いつでも応援している。そしていつかは猪木さんのイベントに選手として出てみたいね。
――こういう状態になると選手が大変ですよね。ノゲイラ選手は去年も『LEGEND』と『Dynamite！』の両方に出場することになったりしたし（笑）。
ノゲイラ　複雑だよ（笑）。ボクはいろんなイベントに友達がいるんだけど「あっち行っちゃダメ」「こっち行っちゃダメ」って、政治的なことは難しいからね。（苦笑）。
――そんな中でも一番いい友達は小池栄子さんですか？
ノゲイラ　ハハハハハ。別に、エイコがいるから『PRIDE』に出続けるわけじゃないよ（笑）。
――ミルコ戦のあと、ガウンをプレゼントするのは、前から決めていたんですか？
ノゲイラ　ガウンをプレゼントするのは、去年から約束していたんだよ。エイコはいつもボクを応援してくれているし、テレビの解説でもいいコメントをしてくれてるから、感謝の気持ちでね。でも、「敗者のガウン」はあげたくなかった。「チャンピオンのガウン」をプレゼントしたかったから、昨日渡したんだよ（笑）。
――いやぁ、あの激戦の直後になかなかできることじゃないですよ。やっぱり、そういった心配りがモテる秘訣ですか？
ノゲイラ　やっぱり女の人はプレゼントが好きだからね（笑）。
――さすがです（笑）。では、今回は暫定王座奪取記念として、小池栄子さんだけじゃなく、『紙プロ』読者にも何かプレゼントいただけませんか？
ノゲイラ　いいよ！　じゃあ、ボクが昨日試合で使ったスパッツをプレゼントするよ。
――ホントですか！　もう録音しましたから、撤回できませんよ（笑）。
ノゲイラ　ホントはホームページでプレゼントしようと思ったんだけど、そっちにはグローブを出すことにして、スパッツはカミプロの読者にプレゼントするよ。いつも応援してもらっているお礼にね。
――ありがとうございます！

【03年11月10日／都内・某ホテルにて収録】

というわけで、PRIDEヘビー級暫定王者、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラのミルコ戦で使用したスパッツを『紙プロ』読者1名様にプレゼントします！
いますぐ159ページへ急げ！

ノゲイラはミルコとの激戦を終えた後、リングサイドの放送席まで歩みより、なんと小池栄子ちゃんに入場ガウンをプレゼント。ノゲイラ、お前こそ男の中の男だ！

静かなる王者がいよいよ復活へ動き出した!

エメリヤーエンコ ヒョードル

Emelianenko Fedor

医師からは「余命いくばくもない」と言われましたが、2月に生きていればノゲイラと闘います(笑)

真の王者を決める
世紀のリマッチ、2月実現へ!

RTT離脱の噂にも言及、そしてUFC出陣宣言!!

右手拳の骨折で欠場したヒョードルが、11・9ドームでの挨拶のため来日。リングサイド最前列でノゲイラがミルコを破り暫定王者となる瞬間を見届けた。これによって"真王者決定戦"は世紀のリマッチとなることが決定。11・9ドーム翌日、皇帝を直撃した。

聞き手/堀江ガンツ　撮影/松本崇
designed by hisa(Two Three)

――今日はパコージンさん（ロシアン・トップチーム総監督）もインタビューに参加してくれるんですね。ちょうど良かった、前回やらせていただいたパコージンさんインタビューが掲載された雑誌を持ってきたんですよ。（と、前号の『紙プロ』を渡す）

パコージン　ふむ、どれどれ。おぉ、ちゃんとロシアン・マフィアらしく写ってるじゃないか（ニヤリ）。

――いきなりロシアン・ブラックジョークですね（笑）。

パコージン　で、アレキサンダー（ヒョードル弟）やセルゲイ（ハリトーノフ）も載っているのに、たった一冊しかないのかい？

――今日持ってきたのはそれ一冊ですね……。

パコージン　そうかそうか。リングス時代から長い付き合いであるキミも、我々がケガもしてないのにヒョードルを休ませたんじゃないかと疑っているんだな。だからこんな仕打ちをするんだ。ああ、悲しいことだ（ニヤニヤ）。

――何を言うんですか！（笑）。

パコージン　ククク。そうじゃないと言うのなら、態度を改め、我々が帰国するまでにあと数冊持って来るように。それを約束してくれるなら、ヒョードル君にインタビューを受けさせよう（笑）。

――わかりました（笑）。では、早速ですけどヒョードルさん。ケガの具合はいかがですか？

UFCはよく知りませんがオファーがあれば王者同士の試合も問題ありません

ヒョードル　ギブスは5日前にようやく取れたんですけど、まだ自分の思うようには治っていませんね。

――いま、痛みはあるんですか？

ヒョードル　痛みもまだ残っていますが、それより不具合を感じるという感じです。

――今回はその拳のケガによって、ミルコ戦という大事な一戦が流れてしまったわけですけど、試合に出場できないと判明したとき、どんな気持ちになりましたか？

ヒョードル　すでにミルコ戦に向けてトレーニングを開始していたので非常にガッカリしましたし、納得がいかない気持ちになりました。それから、せっかくこれまで鍛錬を積み重ねてきたのに、ケガによって数ヶ月を無駄に過ごさなくてはいけないことに、凄くやるせない気持ちになりましたね。

――そのケガのおかげで、今回は試合ではなく挨拶のための来日になってしまったわけですけど、そういった状態でリングを上がるのはどんな気持ちでしたか？

ヒョードル　もちろん自分のケガに関して、説明や弁明をしなければいけないという状況に対して、幾ばくか抵抗を感じるものもありましたが、ファンの暖かい反応が嬉しかったですね。それから、『PRIDE』から私のフィギュアをもらえたことも嬉しかったです（微笑）。

――あ、今回のドームから新発売になったヒョードルフィギュアですね（笑）。どうですか、自分がフィギュア化された気持ちは？

ヒョードル　非常に気に入っています。でも、『PRIDE』も私のことを疑っているのか、ひとつしかもらえなかったのが残念ですけど（笑）。

――ヒョードルさんまで何を言うんですか！（笑）。自分でネタ振りしてくれたから聞きますけど、実際いまだに「ヒョードルはミルコ戦を避けた」といった声も一部であるんですが、そのことについてはどう思いますか？

ヒョードル　私は『PRIDE』サイドとの契約書に反することは何もしていませんし、ちゃんと医師のカルテやレントゲン写真を提出しています。ですから、どのような憶測をされようと、それは私の問題ではないという感じですね。

パコージン　（興奮気味に）ヒョードルはそう言っているが、何も悪いことはしていない我々が、そのように思われることに私は憤りを感じるよ！　ヒョードルの両手を比べて見てほしい。腫れているのが一目瞭然じゃないか！

ヒョードル　（無言で微笑む）

――まぁ、それだけ注目されていた一戦だったということですから、気にしない方がいいと思いますけどね。で、昨日はヒョードル選手のライバルである、ミルコとノゲイラが暫定王座を争ったわけですけど、リングサイドでその試合を見た感想を聞かせてください。

ヒョードル　非常にハイレベルな技術を持った者同士の素晴らしい試合でしたね。近い将来、昨日の勝者と対戦できることを期待しています。

――見る前はノゲイラとミルコのどちらが勝つと思っていましたか？

ヒョードル　あまりそういう予想は立てないので、その質問は答えにくいですね。それにこういったハイレベルな試合は、勝負がどちらに転ぶか、その日によって違うと思います。ですから、昨日はノゲイラがうまく自分のテクニックを活かせる機会を得たから、あの結果になったんでしょう。

ミルコvsノゲイラのＰＲＩＤＥヘビー級暫定王者決定戦の試合前、両者に花束を渡すヒョードル。何にも悪びれず笑顔なのが彼らしい。

移籍の噂は全くのデマです。私はこれからもロシアン・トップチームの一員です。

――ノゲイラは寝技、ミルコは打撃のスペシャリストですけど、ヒョードル選手が闘う場合、どちらのタイプが闘いやすいですか？

ヒョードル　ミルコは闘ったことがないので何とも言えませんが、ノゲイラも前回、私に敗れた経験を踏まえてさらに成長していると思いますし、私に対する新しい攻略法も考えてくると思いますから、一概に今まで見てきた彼らのスタイルが、自分に合う合わないということは言えないと思います。私は対戦が決まったら、その相手に勝つための作戦を考えてトレーニングをするだけですね。

――では、早ければ2月1日に、ヒョードルvsノゲイラの真の王者を決める闘いを組みたいという意向がDSE側にあるようですけど、2月1日には間に合いそうですか？

ヒョードル　医師と相談しなくてはならないですけど、自分自身では2月に闘えることを期待してます。

――ドクターの方からは、いつ頃から復帰できそうだと言われているんですか？

ヒョードル　そうですね……あまりいいことは言いませんね。この間は「余命いくばくもないだろう」と言われましたから（笑）。

――なんで拳のケガで命に関わってるんですか！（笑）。

ヒョードル　2月まで私が生きていたら、ノゲイラとゼヒ闘いたいと思います（微笑）。

パコージン　私も希望としては2月にやらせたい。しかし、マネージャーとしては100%しっかりと治してから出場させたいという気持ちもあるんだ。無理をしてまたケガが再発してもいけないからね。だから、2月に行えるかどうかの判断は、もう少し待ってほしい。

——わかりました。で、ちょっと話は違うんですけれども、来年『PRIDE』はUFCと交流を深めていく予定なんですが、『PRIDE』の代表としてUFCに出てほしいというオファーがあったらヒョードルさんは受けますか？

ヒョードル　（即座に）もちろん出場します。

——おぉ！　じゃあ、チャンピオン同士の統一戦なども異存はない？

ヒョードル　問題ありません。ただ、UFCのチャンピオンが誰だかは知りませんが（微笑）。

——あ、知らない（笑）。まぁ、この間剥奪されていまは空位なんですけどね。UFCのビデオとかは、あまり見ないんですか？

ヒョードル　ほとんど見たことないです（微笑）。

パコージン　ロシアではUFCなどの海外大会のビデオを入手することが非常の難しいんだ。なぜかと言えば、まだロシアの状況として、プロの商業的なスポーツというよりアマチュアスポーツの方が人気があるので、なかなかそういった試合を見るようなチャンスがないんだよ。

——では、アマール・スロエフやアンドレイ・シモノフといったUFCに出場したロシア人ファイターのことはご存じないですか？

ヒョードル　彼らのことは知っています。非常にいいファイターです。

——変な話なんですけど、今回ヒョードル選手が欠場したことで、彼らが所属する『レッドデビル・チーム』にヒョードル選手が移籍するんじゃないかという噂が一部で流れたんですけど、その真偽はどうなんですか？

ヒョードル　インターネット上などで、そのような噂が出ていることは私も耳にしました。しかし、残念ながら、それはまったくのデマです。これからも私は今まで通りロシアン・トップチームの一員です。

——移籍とは行かなくても、技術向上のため、レッドデビルの人たちと交流していきたいとか、そういった希望はありませんか？

ヒョードル　彼らとは悪い関係じゃありませんし、すでに一部で交流はあるんですけど、いま現在において共同で練習したりする必然性があまりないので、そういう必要性が生まれたらやりたいと思います。

パコージン　こういった情報が流れるということは、たぶんヒョードルのトレーニング状態などを少し神経質に考えすぎている人間がいて、そういった連中がデマを流したんだろう。インターネットというのは、非常に便利なツールではあるが、こうした確証もない情報が流れやすいのは問題だな。

——では、しっかりと紙面で「誤報」だということを伝えておきます。

パコージン　そんなことよりゼヒ日本のみなさんにお伝えしたいことがあるんだよ！

——なんですか？

パコージン　これは今日、初めてお伝えする第一報なんだが、先日フランスで行われたコマンド・サンボの世界大会で、ヒョードルの弟アレキサンダーがチャンピオンになったんだ。レッドデビルなんかのことより、こっちを大きく載せてほしい！

——あ、そうなんですか。おめでとうございます（笑）。その大会はいつ行われたんですか？

パコージン　『PRIDE武士道』が終わってすぐ、10月15日に開催されたよ。

——『PRIDE』デビューの10日後ですか！　しかも、あんな消耗戦をやった後なのに、タフですねぇ。

パコージン　その大会の前年度優勝者がここにいるヒョードルだから、兄弟で連続優勝ということになる。これは大変名誉なことなんだ。これはゼヒ伝えてほしい！

——わかりました（笑）。では、そろそろ時間もないようなので、ヒョードルさん、2月のノゲイラ戦に間に合うように、一日も早いケガの回復を願ってます。

ヒョードル　ありがとう。試合が正式に決定したら、いつものようにベストを尽くします。

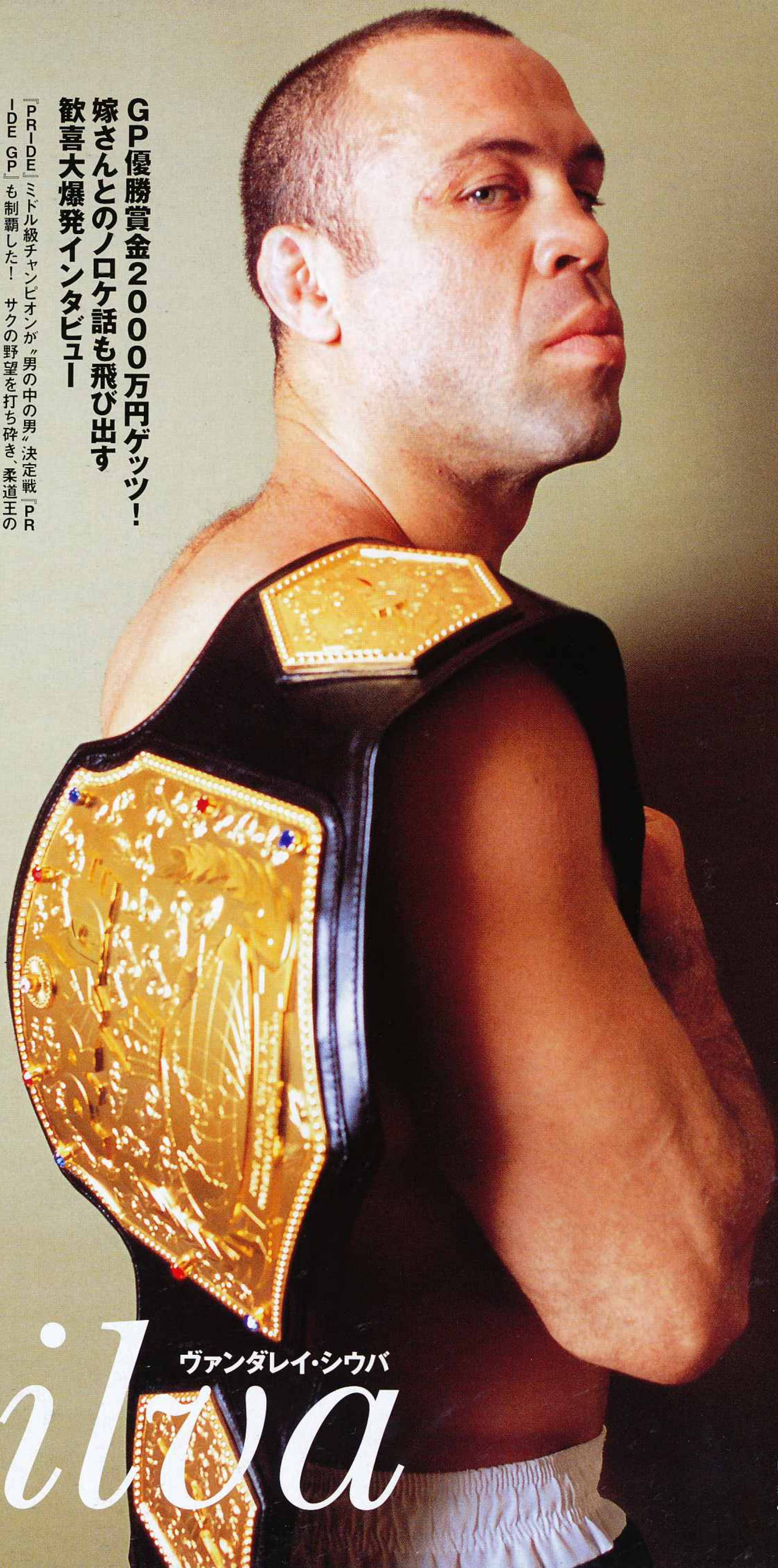
——パコージンさんも、またよろしくお願いします（笑）。

パコージン　うむ、ちゃんと雑誌はたくさん持ってきてくれよ。それが取材の条件だからな。ワハハハハ！

——了解です（笑）。

［03年11月10日／都内・某ホテルにて収録］

GP優勝賞金2000万円ゲッツ！
嫁さんとのノロケ話も飛び出す歓喜大爆発インタビュー

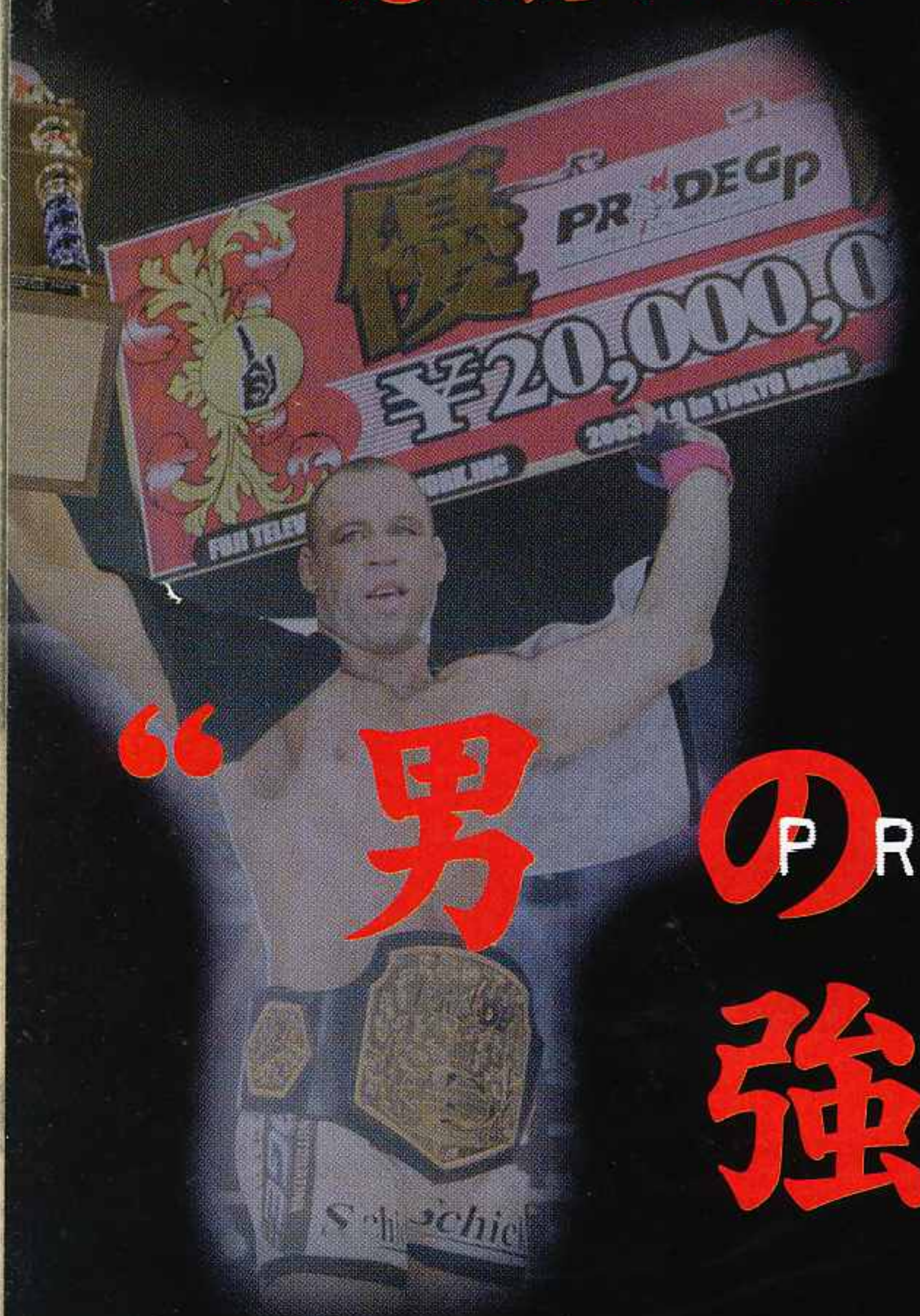
『PRIDE』ミドル級チャンピオンが〝男の中の男〟決定戦『PRIDE GP』も制覇した！　サクの野望を打ち砕き、柔道王の衣を赤く染め、決勝ではランペイジに圧勝したシウバ！　優勝後の第一声は「ゲンキデスカーッ！」とファンに挨拶、喜び大爆発！　優勝記念インタビューにもノリノリで登場した！

Silva
ヴァンダレイ・シウバ

聞き手／ジャン斉藤
撮影／丸山剛史
designed by matsu（Two Three）

衣を赤く染め、

vs Hidehiko Yoshida

怨敵にはヒザ蹴り22連打！

vs Rampage Jackson

PRIDE GP

“男の中の男”強奪!!

除夜のヒザ蹴り炸裂？　12・31『PRIDE』SP（仮）出陣OK!!

PRIDE Middle Weight Champion

Wanderlei

——『PRIDE GP』優勝、おめでとうございます！

シウバ　ありがとう！『PRIDE』ミドル級チャンピオンとして、優勝できたことは大変光栄だよ。一日2試合のトーナメントは本当に過酷だったから、なおさら嬉しいしね。

——シウバさんが首相撲からヒザ蹴りを22発も炸裂させた、ジャクソンとの決勝戦もすごい試合でしたけど、吉田（秀彦）さんとの試合は本当にエキサイティングでしたよ！

シウバ　ヨシダは素晴らしいファイターだったよ。自分が思った以上にタフでストロングだった。彼は誇るべきサムライだね。

——因縁深いジャクソンとの対戦はどうでしたか？

シウバ　タフだったよ。……アイツのことはそれだけだね。

——仲はいまだに修復してなさそうですね（笑）。吉田さんは果敢に打ち合ってきましたけど、まさか打撃で攻め返してくると思いました？

シウバ　いや、パンチを打ってきたときは本当にビックリしたよ！　ヨシダは投げ技、そして寝技で攻めてくると思ってたからね。ちょっと予想外の展開だったよ。

——予想外といえば、ひさしぶりにシウバさんが下になるケースが見られましたけど、吉田さんの寝技はやっぱり脅威でしたか？

シウバ　それは十分に感じたけど、下になってもヨシダの動きはすべて把握できていたからね。致命的なミスをせずに、冷静な対処ができたと思う。スタンドでは自分が優勢だったし、逆にテイクダウンで攻め返したことがポイントになって勝つことができたんじゃないかな。

——本当に素晴らしい試合だったので、さ

Wanderlei Silva

吉田との再戦は構わない　クートゥアーとの対戦も問題ない

ドーム沸きっぱなしの緊迫攻防!!　柔道王、金星ゲッツならず!!

『PRIDE GP』準決勝　○W・シウバ（2R 判定3-0）吉田秀彦●

先に仕掛けたのはシウバだが、吉田は組み付きテイクダウンに成功！　その瞬間ドームは蜂の巣を突ついたような騒ぎに！　吉田はサイドポジションも奪うもシウバは必死に脱出した

あのシウバに打撃で立ち向かう、まさかの展開！吉田はシウバの凶撃をかわしながらロボコンフックで1歩も退かず！　鼻や口から出血するも負けん気の強さを大観衆に見せつけた

豪快な払い腰でシウバをズバリ投げ飛ばした吉田は、袈裟固めに持ち込むが極めきれず。最大の好機を失った。シウバは下からの三角絞めで吉田を苦しめるなど、グラウンドの巧さも光った

シウバは打撃で吉田を追いつめ、遂に上のポジションを奪取！　鉄槌を打ち落とした吉田はスイープに成功！　柔道王は最後の最後までド底力を発揮した

っそく再戦を望む声が挙がってるんですよ。シウバさんは構わないですか？

シウバ　ヨシダ本人、そして日本のファンが希望するなら自分は問題ないよ。今度はキッチリKOするだけさ（ニヤリ）。

——UFCライトヘビー級王者のランディ・クゥートアーとの対戦機運も高まってますけど、こちらも問題ないわけですか？

シウバ　ああ、まったく構わないよ。『PRIDE』の代表としてUFC王者をぜひ倒したいね。

——来年にはヘビー級グランプリが開催されますけど、出場する意志はありますか？

シウバ　チャンスがあればぜひ闘ってみたいね。詳しいことをフジマール（シュートボクセ）会長と話し合ってから決めたいと思ってるよ。

——大晦日には『PRIDE』スペシャルも行われますけど、シウバさんの出場もありえます？

シウバ　自分はシジマール会長の指示に従って、用意された相手と闘うだけだよ。フジマール会長が問題なければ喜んで出場したいね。今回の優勝は、フジマール会長やコーチたち、そして一緒に練習しくれた選手たちのおかげだから。練習だけじゃなく一番重要なフィジカルの面でも、いろいろ相談に乗ってくれた。シュートボクセのみんなには、本当に感謝してるんだよ。

——ブラジルにいる奥さんには、グランプリ優勝を報告したんでしょうか？

シウバ　もちろん！　今回は強豪揃いのグランプリだったからね。彼女は緊張のあまり夜も眠れないくらい心配していたんだ。電話で「優勝した！」と伝えたら、とても喜んでくれたよ。フフフ。

——奥さんはなんて言ってくれました？

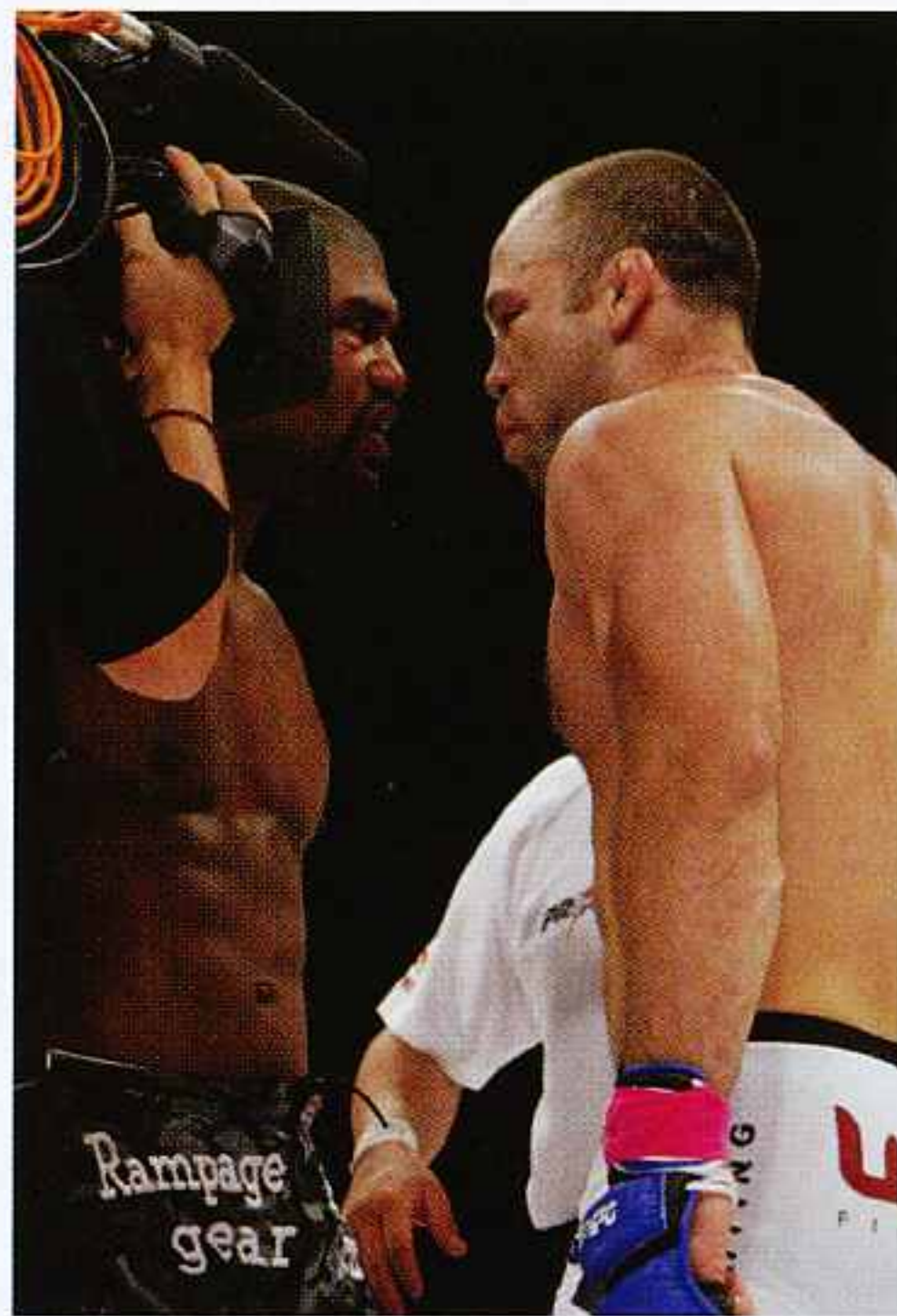
シウバ　何度も「ケガはしてない？」って聞かれたよ。「何の問題もない！」って答えたけどね。

——シウバさんの奥さんはかなり美人だって聞いてますけど。

シウバ　いやあ、美人だなんてとんでもない（ニヤニヤ）。

——いいんですか、そんなこと言って（笑）。

シウバ　いや、とっても美人です！　謙遜しただけだよ。アハハハ！

——謙遜するぐらい美人なんですね（笑）。奥さんとはどんなきっかけで知り合ったんでしょうか？

シウバ　彼女とは、シュートボクセのジムで知り合ったんだよ。

——シュートボクセのジムで！

シウバ　そうさ。自分は家かジムのどちらかにしかいないから、知り合う場所は2つしかない（笑）。

——いや、シュートボクセは怖いイメージがあるから、女の子がいるなんて想像できなかったんですけど（笑）。

シウバ　キミはものすごい誤解をしてるねえ（笑）。シュートボクセはフィットネスとかもやってるからね。彼女もそのレッスンに通っていたんだよ。

——シウバさんから声をかけたんですか？

シウバ　いや、顔を見ればわかるけど、自分はとってもハンサムだろ。なあ？

——そ、そうですねえ。

シウバ　だから、自分を見ると女性はすぐ掛け寄ってくるんだ。彼女も「ハ〜イ、ヴァンダレイ♥　お茶でもどう？」って声をかけてきたんだよな！

——彼女からアタックしてきたんですか（笑）。ニクイね、こんちくしょう！

シウバ　……というのは、ジョークだよ、ジョ〜クッ！　じつは自分から声を掛けたんだよ。アハハハハ！

——いやあ、ゴキゲンですねえ、シウバさん（笑）。

シウバ　彼女と親しくなるのは時間がかかったんだよ。近づくのにもかなり時間がかかったなあ……。

——試合のようにアグレッシブにはいきませんでしたか（笑）。

シウバ　自分は当時まだ若かったから、どう声を掛ければいいかわからなかったんだよ（遠い目で）。

——シウバさんの想いはなかなか実らなかったわけですね（笑）。ちなみにプロポーズの言葉は？

シウバ　プロポーズの言葉？　いや、自然な流れだよ。自然な流れで付き合って、そして結婚したのさ。自分はなにしろハンサムだからな！（笑）

——お、おめでとうございます（笑）。

シウバ　フフフ。彼女はドクターだったし、かなり頭もいいからね。自分の大きな支えになってるんだよ。ジムの仲間に並んで、とても信用ができる大切な人さ。

——シュートボクセの仲間、奥さん以外に信用できる人って誰かいますか？

シウバ（即座に）いない！　シュートボク

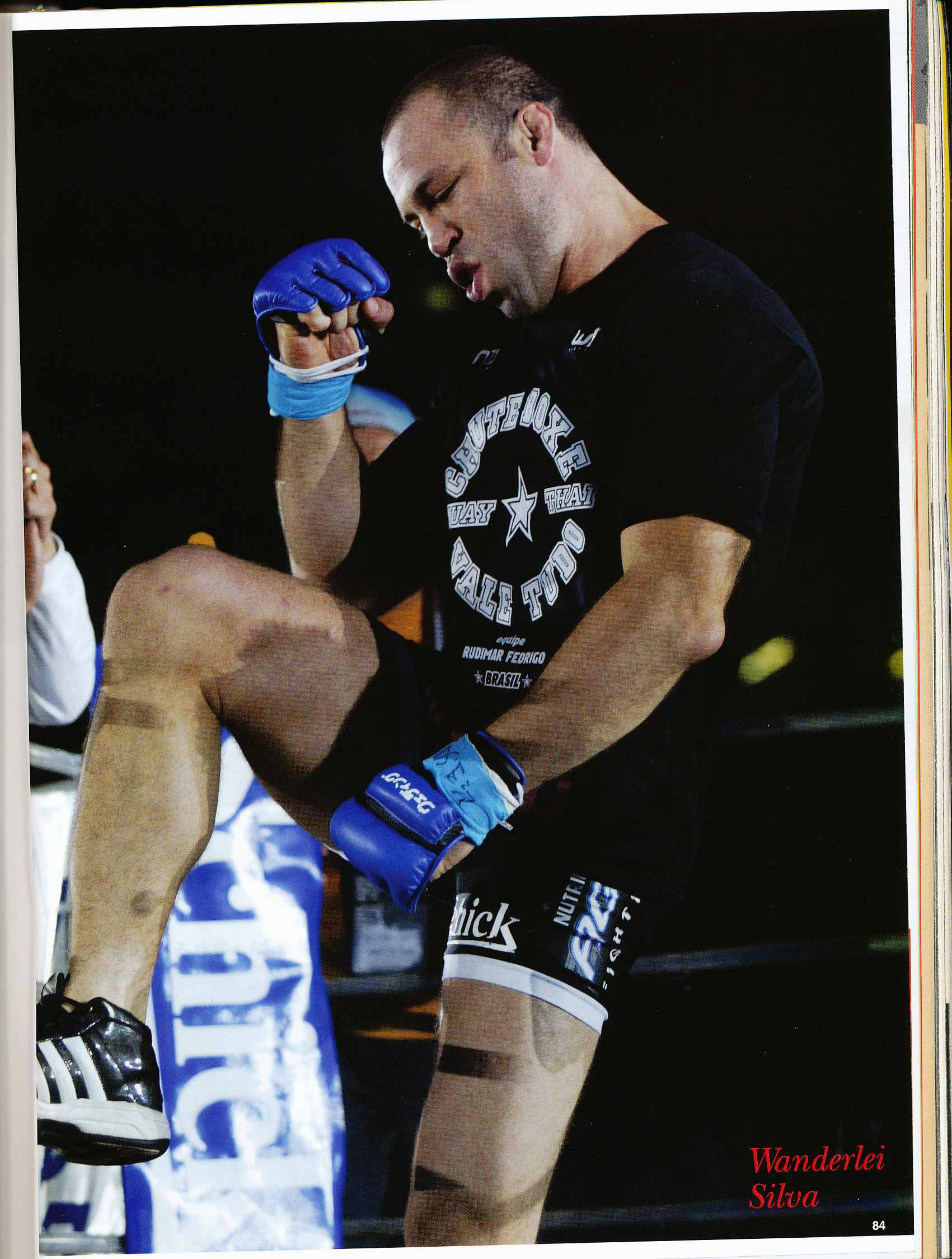
『PRIDE GP』決勝　○W・シウバ（1R KO）ランペイジ・ジャクソン

ランペイジ、お前も男だよ！　敗れるも心は屈せず！

因縁深い両者の決勝戦。試合前には場内がドヨめくにらみ合い！　開始早々ジャクソンがシウバを担ぎ上げたが、シウバはフロントチョークで対抗!!

極まりかけたフロントチョークは、ジャクソンがシウバをマットに落として脱出成功。そしてサイドを奪いヒザ蹴りをシウバにブチ込む！　シウバはガードポジションの体勢に戻して難を逃れた

膠着ブレイクでイエローカードを受けたシウバは、スタンド再開後に大反撃!!　首相撲からのヒザを連発でジャクソンに叩き込む!!　崩れ落ちるジャクソンにレフェリーが試合を止めた

無念にも"宿敵"に敗れたジャクソンだが、あれだけ打撃を喰らい続けても決して前進を止まない戦闘モチベーション&タフネスぶりは見事だった。もう一丁だ!

Wanderlei Silva

セ以外の奴らは信用できないね。アハハハハハハハ！（なぜかバカウケ）。

—何がおかしいんですか（笑）。シウバさんは以前、百瀬（博教）さんを「親友です！」って言ってたと思うんですけど。

シウバ ああ、質問を誤解していたよ！ 選手以外だったら、信用できる人間はたくさんいるよ。カワサキ（川崎浩市＝ブッカーK）さんはナイスガイだし、モモセさんとは、自分のことを「ファイターとして尊敬する」って言ってくれたのが親友関係の始まりで、いまではお互いを尊敬し合う仲なんだよ。一度、モモセさんの家にも招待してもらったことがあるよ。

—自宅にも行かれてるんですか（笑）。そういえば、シウバさんは決勝が終わったあと、リング上で「ゲンキデスカ！」ってマイクアピールしましたよね。あれって猪木さんの影響なんですか？

シウバ YES！ イノキさんが「ゲンキデスカ！」っていうたびに観客は大盛り上がりだから、「これは面白い！ 俺もやろう！」って思ってたんだよ。

—大晦日に猪木さんは『PRIDE』とは別のイベントをやるんですけど、それは御存知ですか？

シウバ え？ それは初耳だね。そういえば、イノキさんは『PRIDE GP』に来てなかったなあ。

—〝去る者は追わず〟な騒動になってるんですよ（笑）。大晦日も猪木さんは『猪木祭り』に行っちゃうから、大晦日の『PRIDE』ではシウバさんが「ゲンキデスカ！」って言ってくださいよ！

シウバ ああ、まったく問題ないよ！ ゲンキデスカ!! ゲンキデスカーッ！

—ついでに「1、2、3、ダーッ！」もお願いします（笑）。

シウバ イ、イチ、サン、ニ……？ ん〜、これはちょっと練習しないとできないな。アハハハ！

—しっかり練習をお願いしますよ（笑）。話は思い切り変わりますけど、シウバさんがホストクラブの店長さんと、ホストクラブ系の雑誌で対談を行ったという仰天情報を小耳に挟んだんですよ。

シウバ おお、よく知ってるねえ。ちょっと前にやったんだよね。ブラジルにはホストクラブなんかないから、いろいろ興味深い話をたくさん聞けたよ。とてもいい人だったしね。

—ホストだけに接待には長けてますからね（笑）。そもそも、どんな繋がりから、そんな異色対談が実現したんですか？

シウバ 彼が自分の大ファンだったんだよ。それで「ぜひ会いたい」ってことでオファーがきたんだよ。

ホストクラブの店長との対談で興味深い話をたくさん聞けたよ

—なぜかシウバさんがホストクラブに通ってて、そこで知り合ったわけではないんですね（笑）。

シウバ なんで自分が通うんだよ！ それはないよ（笑）。

—その店長さんの協力もあって、シュートボクセがジム・道場の激戦区である中野にジムを出すとも聞いてるんですけど。

シウバ そう！ シュートボクセが日本にジムを出す。もうジムは完成してるんだよ。

—10月頃から「中野にシュートボクセのジムが完成した！」って噂を聞いてたんですけど、それにしても早業ですねえ。

シウバ もともとジムを出したいと思ってたからね。自分が日本に来たときはちゃんと指導するし、もっと強くなりたい人、格闘技を学びたい初心者、ダイエットしたい人、理由はなんでもいいからみんな待ってるよ！ キミのマガジンでぜひ宣伝してほしいね。ヨロシクオネガイシマース！

—しっかり宣伝しときます！ 話は戻りますけど、シウバさんはターザン山本さんとも対談してますよね。ターザンのこと、覚えてます？

シウバ ああ、覚えているよ。ロングヘアーのターザン・ヤマモトだろ？

—はい（笑）。ロングヘアー以外に際立った印象ってありますか？

シウバ ターザンのことでとくに印象に残ってるのは、「対談してからシウバがもっと好きになった！」って言っていたことかなあ。あと、やけにハイテンションでエキセントリックだよね、ターザンは。

—まったくそのとおりです（笑）。最後の質問もまったく格闘技とは関係ないですけど、吉田さんが試合後に決める「ゲッツ！」ポーズって知ってます？

シウバ （即座に）当然知ってるよ！ これのことだろ。ゲッツ！（とびっきりの笑顔でゲッツポーズ）。

—ワハハハ！ それですそれです（笑）。

シウバ ゲッツは日本で流行ってるんだろ？ ヨシダの必殺技なのかい？

—吉田さんは無意識に繰り出したらしいんですけど、世間ではとっくに廃れてますね（笑）。ブラジルにそんなジェスチャーパフォーマンスってあります？

シウバ う〜ん……ブラジルにはないなあ。

—じゃあ、今後は「ゲンキデスカ！」だけじゃなくて、ゲッツポーズもブラジルで流行らせてくださいよ（笑）。

シウバ OK！ ゲッツ！ ゲッツ！ アハハハ！

【03年11月11日／都内・某ホテルにてゲッツ】

なんと！　シュートボクセが東京・中野にジム設立！

強くなりたきゃ行くしかない！

“日本のシウバ” になるのはキミだ！　ジムのインストラクターは、ヴァンダレイ・シウバ、ニルソン・デ・カストロの最初の師範を務めたセルジオ・クーニョ。シュートボクセで16年間ムエタイとVTを学び、コーチとして10年以上の経験を持ち、ブラジルにも道場を構える名伯楽だ。プロ志望、とにかく強くなりたい君をシュートボクセが待っている！（手をクネクネしながら）。

【場　所】東京都中野区中野1-46-11共和ビル1階
【TEL】03-3227-3877（17：00〜22：00）
【入会金】一般￥10000　女性￥8000
【月　謝】￥10000　女性￥8000
【プライベートレッスン】お問い合わせください

余裕か負け惜しみか、チャック・リデル敗れて
UFC陣営高笑い!

『ズッファLLC』共同オーナー
ロレンゾ・ペティータ

『ズッファLLC』社長
ダナ・ホワイト

UFCライトヘビー級王者
ランディ・クートゥアー

『PRIDEミドル級GP』は"2番目に強い男"を決めたにすぎない!」

自信を持って『PRIDEミドル級GP』に送り込んだチャック・リデルが、ランペイジにまさかの完敗。視察に訪れたUFCの代表&オーナーはさぞかし落胆しているかと思いきや、翌日取材に伺うと未だ余裕の笑みを浮かべていた。これは強がりなのか、それとも……。UFCライトヘビー級王者クートゥアーを交えて、UFC首脳を直撃した。

"UFCナンバー1ストライカー"チャック・リデルKO負!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/松本崇　試合写真/乾晋也
designed by hisa (Two Three)

――昨日はUFC代表のチャック・リデルがクイントン〝ランペイジ〟ジャクソンに敗れてしまったわけですけど、まずはその感想を聞かせてください。

ダナ・ホワイト　昨日のチャックの試合については非常に悲しく思っている。いつもはあんな風にスタミナが切れてしまう選手じゃないんだが……コンディションも良かったはずなのに、なぜか疲れてしまったようだ。正直言って、この結果には失望している。

――ランディ選手はどうですか?

ランディ・クートゥアー　俺が見る限り昨日のチャックは、どうもいつもと違って、パワーや気迫が盛り上がってこない感じがした。これはもしかしたら、無理なトレーニングをしすぎた、そういった結果なのではないかと思う。だから、きっと彼は今ごろ「どうしてあんな試合になってしまったんだろう」といろんなポイントを反省しているころだろう。ただ、彼はここで終わるような選手じゃない。きっとこの敗戦がいい経験となって、また一段と強くなってリングに帰ってくると思う。

――ランディ選手と闘ったときのチャックと昨日のチャックは違ってましたか?

ランディ　というより、自分と闘ったときと同じような問題が起きてしまったのだろう(リデルは今年6月マウントパンチでランディに敗れている)。その原因はなんなのかは、彼自身が見つけなければいけないことだ。

ダナ　昨日、チャックは「今回のクイントン戦は、ランディ戦ほどモチベーションが高まらなかった」と言っていたんだ。もしかしたら、それが敗因かもしれない。

――みなさんからしても、対戦相手である

——みなさんからしても、対戦相手である

ランペイジのことを若干甘く見ていた部分はありましたか？

ダナ　甘く見ていたわけじゃないが、持っているポテンシャルを比べたら、チャックは決してランペイジに負けるような選手じゃない。ヴァンダレイ・シウバがいつも短時間で相手をKOして試合をフィニッシュするように、ランペイジをあっという間にKOできるはずだった。しかし、そうならなかったのは、昨日が「チャックの日」じゃなかったとしか言いようがないな。

——でも、チャックが完敗を喫したのは事実です。8月にダナさんをインタビューしたとき、「UFCはメジャーリーグ、『PRIDE』はマイナーリーグ」と盛んに言っていましたが、その発言は撤回しますか？

ダナ　いや、ボクはあのときの発言をそのまま撤回しないよ。なぜなら、そもそも昨日はミドルウエイトの世界チャンピオンを決めたわけじゃない。「誰が2番目に強いか」を決めた日なんだよ。そしてもちろん、一番強い男というのは、ここにいるランディ・クートゥアーだ。

ランディ　ハッハッハッハ。それは間違いない（笑）。205ポンドクラスのファイターでは、自分がベストであると自負しているから、近い将来、必ずその〝2番目に強い〟ファイターと闘うことを約束するよ。チャンピオンというのは辛い立場であるが、いつでも挑戦を受ける準備ができていなくてはならないからね。昨日のチャックの試合を見て、あれがUFCの能力なんだと日本のファンに思われたらたまらないので、ゼヒとも自分がUFCの真の力を見せてリベンジしたいと思う。

——では、『PRIDE』に出場する準備もすでにできていますか？

ランディ　もちろん、いつでもOKだ。ただ、次は1月31日にラスベガスのマンダレイベイでビクトー・ベウフォートの挑戦を受けることが決定しているから、その後だったら、誰も挑戦でも受けるよ。

——ランディ選手はUFCのオクタゴンでは素晴らしい闘いを見せていますが、それがリングに変わっても同じようなパフォーマンスを見せる自信はありますか？

ランディ　オクタゴンであってもリングであっても場所はまったく関係ない。大事なことは、トレーニングをして、技術ときちんと磨いているかどうかのみだ。そしてその部分に関して、自分は絶対の自信を持っている。

——でも、かつて日本のリングでエンセン井上、ヴァレンタイン・オーフレイム、イリューヒン・ミーシャといった中堅クラスの選手に一本負けを喫していますよね。それはオクタゴンでないことが影響したのではないですか？

ランディ　彼らに負けたのはリングが影響したのではなく、あのころはまだ経験がなく未熟だったんだと思う。例えばエンセン井上との試合は、自分にとってデビュー5戦目だった。だからあんなミスを冒してしまったんだ。いまでもミスをすることはあるが、そういったいくつかの経験から学んだからこそ、いまの自分があると思う。あの頃のランディ・クートゥアーはもういないんだよ。

サクvsランデルマンの試合前、両選手への花束贈呈のためにリングに上がったランディ。その勇姿が『PRIDE』で見られる日も近いか。

自分がUFCの真の実力を見せてチャックのリベンジをはたしたいと思う［ランディ］

——ランディ選手はいま40歳とファイターとしては高齢ですが、なぜ多くのファイターは30代になるとだんだん力が衰えていくのに、ランディ選手だけはいまだに成長し続けているのでしょうか？

ランディ　ハハハハ、それについての説明というのは難しいのだが。私は小さなころからずっとアマチュア・レスラーとしてハードなトレーニングを続けてきたし、それと同時に常に自分が健康でいられるように体調に気を遣ってきた。そういった長い時間をかけた鍛錬とケアがいま実を結んでいるんじゃないかと思う。あとは、時代が変わったこともその要因のひとつだろう。いまは科学トレーニングを取り入れて、栄養面にも気を配っている。だから、まだまだ老け込むつもりはないよ。40歳でも成長できることを日本のファンにも見せたいね。エンセンやオーフレイムに負けたイメージが残っているなら、なおさらだ。

——ところで、ランディ選手とは逆に、日本の藤田和之選手が来年1月のUFCに出場表明をしていますが、UFCとしては、彼の挑戦を受けるつもりはありますか？　また彼を評価していますか？

ダナ　フジタのことはちゃんとファイターとして評価しているよ。ただ、1月の大会に関してはもうカードが出来てしまっているので、彼の参戦はありえない。その次の大会あたりで、11月に行うキャベツ（ウェズリー・コレイラ）vsタンク（アボット）の勝者とフジタを闘わせたいと思っている。

——キャベツかタンクですか……。ちょっと〝イロモノ〟な感じがしますけど、その試合に勝てば、藤田選手が望んでいるUFCヘビー級タイトル戦も見えてきますか？

ダナ　いや、タイトルに挑戦するには、その前にUFCのトップ5の誰かともっとシリアスな闘いをやってもらわなければならない。それに勝てば可能性はあるだろう。

——はぁ、可能性はあるが平坦な道ではないわけですね。では、『PRIDE』との今後のビジネス的な展開は、どのようなプランを考えていますか？

ダナ　現時点での具体的な計画というのは何とも言えないが、こちらとしては、その時その時で状況に応じて対処していこうと思う。ずっと前の記者会見で言ったとおり、我々が『PRIDE』からの挑戦を受けて立ったんだ。だから今後の展開も『PRIDE』の方からボールを投げてきてほしい。

——来年3月に『PRIDE』がラスベガスに進出する予定ですが、その大会に協力するつもりはありますか？

『ヘビー級GP』に選手を送り込む準備はある
しかし、サクラバがUFCに上がるのが先だ［ダナ］

ダナ　もちろん協力するつもりはある。まぁ、初めてラスベガスでやるのだから、お手並み拝見といったところだがね。

――もう一つ、ビジネス的なライバルとして立ち技のK-1も何度かラスベガスに進出していますが、K-1についてはどう思いますか?

ダナ　K-1についてはまったくもってライバルだとは思っていない。K-1はキックボクシングの大会であって総合格闘技ではないし、ラスベガスの大会にしても興行としては、あまり成功していないからね。K-1ではせいぜい2～3千人規模でしかできないが、『PRIDE』だったら、もっと多くの観客を動員できるだろう。

――K-1にはUFCファイターのキモ選手なども出場していますが、それでも気になりませんか?

ダナ　UFCのファイターがK-1で闘うことに対しては彼らの自由だし、別に目障りだとも思わない。ただ、自分がちょっと納得いかないのは、あの大会で「キモがボブ・サップに負けた」と言われることだ。あれはゴングが鳴っているのにボブがキモを殴り、それによってキモが負けたことになっているが、ホントはキモが勝っていたんだ。だからキモが負けたと言われることに関してだけは納得いってない。

――あの試合は日本でもいろいろ物議を醸しましたが、大多数のアメリカ人視聴者も概ねダナさんと同じような意見ですか?

ダナ　間違いなくアメリカ人はボクと同じような見方をしているが、逆にあなたはどう思う?

――ボクもあのインターバルの長さとかは、ちょっと……って思います（笑）。

ダナ　そうだろう?（笑）。

――ちなみにマイク・タイソンがああいう感じで出てきたことに対してはアメリカ人はどう思っているんでしょうか?

ダナ　プロレスと同じようなアトラクションだと思っているよ。真剣に見てるやつはいない。そういった意味でもK-1とは目指している方向がまったく違うね。我々はシリアスなイベントを提供したいんだ。

――では最後に、来年の春から『PRIDE』はヘビー級グランプリを開催する予定ですが、そこにもUFCから選手を送り込む予定はありますか?

ダナ　可能性はあるが、いまの段階では確証はできない。それに今回チャックを『PRIDE』に出場させたのだから、今度はPRIDEファイターがUFCに上がるべきだろう。こちらとしては、ずっと以前からリクエストし続けているサクラバのUFC参戦を決めることが先決。選手派遣はその後だ。

Randy Couture
1963年6月5日、アメリカ・ワシントン州エバレット出身。"ザ・ナチュラル"の異名を持つ、UFCの鉄人。９７年12月、モーリス・スミスの破り、キャリア４戦目でUFCヘビー級王座に君臨。一度、王座を返上するも00年に返り咲く。しかし02年にリコ・ロドリゲスに敗れ陥落。すると39歳にして減量しライトヘビー級に転向。チャック・リデルを倒し暫定王者となると、さらにティト・オーティズをも下し、40歳で統一王座に輝いたスーパー中年。来年、シウバとの頂上対決が期待される。

11.9 PRIDE GP 2003 東京ドーム

ランペイジ強し!　UFCの打撃王をKO!!

最後は虫の息のチャック・リデルからマウントまで奪い、そこからパンチの雨を降らせると、セコンドがたまらずタオル投入！　リデル完敗！

中盤からはパンチだけでなく、テイクダウン、さらにヒザ蹴りをぶち込むなど、ランペイジはやりたい放題。この男の成長ぶりは凄い！

強打のリデル相手にランペイジは、得意の左ロングフックを連発。正確さと破壊力が共に増したこのパンチで一気に試合の主導権を握った。

良メジャーを代表するストライカー同士とあって、序盤から激しい打撃戦となったこの一戦。戦前はリデル有利と言われたが……。

クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン○［2R3分10秒 TKO］●チャック・リデル

みんながうれしい、サク一年ぶりの大勝利!

この笑顔『PRIDE・スペシャル(仮)』でも見たい!

桜庭和志

Kazushi Sakuraba

「大晦日はテレ朝かテレ東に出たいです(ニコニコ)」

スーパーマリオ、ドンキーコングに一本勝ち!

サク、1年ぶりの一本勝ち! サクにとっては宿敵シウバとの3度目の決戦に敗れてから、最初の試合であった今回。再起戦の相手としては、厳しすぎるという下馬評の中、見事に強豪ランデルマンから初の一本勝ちを奪った。その瞬間、超満員の東京ドームは歓喜の大爆発! やっぱりサクが勝つと、みんながうれしい。みなさん、このハッピーな気持ち、大晦日にも浸りたくありませんか?

聞き手/山口日昇
撮影/森"モーリー"鷹博
designed by hisa (Two Three)

クボクシングの大会であって総合格闘技で
ことに対しては彼らの自由だし、別に目障
はその後だ。

――昨日寝てないんで、今日はたぶん、脈略なくいろんなことを聞くと思いますが、よろしくお願いします。

桜庭　あ、寝てないんですか？

――そういう桜庭さんは、試合後はゆっくり寝れましたか？

桜庭　寝れましたよ。

――熟睡できた？（笑）。

桜庭　はい（ニコニコ）。

――勝利の美酒には酔いましたか？

桜庭　はい。でも、朝まで飲んでたのは試合の日だけですけどね。試合終わってからだから、スタートが遅いじゃないですか。11時スタートぐらいなんで。それでも6時か7時くらいまで飲んでたんで、ちょっと辛かったです（笑）。

――その日は、高田統括本部長の酔い方が一番激しかったっていう噂を聞きましたよ（笑）。

桜庭　時間的に焼肉屋さんぐらいしかやってないじゃないですか。麻布十番の焼肉屋さんだったんですけど、高田さんは一番始めにお店に着いていて、もうビール飲んでましたから。いつもだったら他の人が来るまで待ってるんですけど、飲んでましたね（笑）。

――ランデルマンの左フックが入って一瞬ダウン気味に倒れましたけど、そんな場面があった後にお酒なんか飲んで大丈夫なんですか？

桜庭　ん～、頭が痛くなかったらいいんじゃないですか？

――いいのかなぁ（笑）。

桜庭　一発だけじゃないですか、入ったの！

――いや、一発とはいえいいのももらったから（笑）。

桜庭　でも、ボクも一瞬記憶飛びましたね。すぐ戻りましたけど。一瞬だけ飛んで、自分が倒れてるっていうかバランスが崩れてるので〝ヤバイ！〟と思いながらムカムカッてきたんですよ。「この野郎！」って思ってブン殴りに行こうと思ったら、セコンドのシモさん（下柳剛＝阪神から絶賛FA宣言中のプロ野球投手）の「サク、落ち着け！落ち着け！」って言う声が聞こえて「あ、落ち着かないと」と思って……あのシモさんのひと言でKO負けしなくて済みました。あのままムカついて行ってたらKOされてましたね。

――立ち上がったときにランデルマンの右のパンチも入ってるんですよね。

桜庭　ああ、あれは全然効かなかったですよ。

――3月のニーノ戦や8月のシウバ戦でのフィニッシュシーンがトラウマ気味に脳裏に焼き付いてるからか、桜庭さんが打撃をもらうと、もうヒヤヒヤしてしょうがないんですよ（笑）。

桜庭　まあ、シウバのときも、やられてるほうは痛くも痒くもないんですけどね（ニコニコ）。

――ダハハハ。それ聞いたらシウバもムカつくだろうなぁ（笑）。

桜庭　でも全然、ホンット痛くも痒くもないですよ。だって、シウバ戦のときも試合が終わって一時間半ぐらい記憶がないですもん！ 試合後にシウバと話をしたのも覚えてないですし、控室に帰って、（豊永）稔に何回も「今日は何月何日？」って聞いて。「8月10日です」って言うから、ボクは7月が誕生日なので「え！ 俺、34歳になったの？」って。「いいから横になっててください！」って言われて横になるじゃないですか。しばらくしたらまたムクっと起きて「今日何月何日？」って。その繰り返しですよ。4～5回ぐらい言ってたらしいです（笑）。

――そういうときは、徐々に記憶を取り戻していく感じなんですか？

桜庭　まわりの人と話をしてだんだんと思い出す感じですね。試合自体は覚えてるんですけど、勝った負けたとかは全然記憶にないですね。ローキックをやってその後の記憶がないから何かやられたんだろうなって感じですね。人から聞いて、そういえば、ローキックに行ったときに、セコンドから「ロー、ロー！」っていう声が聞こえたなあっていうのはだんだん思い出してきましたね。あとから見たら、ローに行った瞬間にワン、ツーでやられてますから。

――そのときのセコンドは、言わずと知れた稔君ですよね。

桜庭　そうです（ニコニコ）。

――またこれ見たら怒るだろうけど、稔君の「ローロー話」は格好のネタですよね（笑）。

桜庭　ウヒャヒャヒャ。

――というわけで、順番は逆になりましたが、ランデルマン戦での勝利、おめでとうございます！

桜庭　（照れながら頭をペコリと下げる）

――去年11月のジル・アーセン戦以来、約1年ぶりの勝利ですね。

桜庭　本気で喜びましたよ、本気で！ 気分が違います。

――勝った後、バンバン手を叩いて、自分自身に拍手してる感じでしたね。

桜庭　練習のときに一本取ると「ヨッシャー！」ってバンバン手を叩くんですよ。試合のときは人が見てるんで、そういうのは見せないで普通に手を挙げたりするんですよ。でもあのときは、練習で一本取れたときと同じ感覚でバンバン手を叩いちゃいましたね。

――自然に出ましたか（笑）。

桜庭　自分に拍手してるとかそういう意味じゃなくて「やったー！」っていう感じです。

――全然次元は違いますけど、ゲームでなかなか勝てなくて、最後に見事に勝ったときとか嬉しいですよね（笑）。

桜庭　あ、でもそういう感じですよ。昔、大学のときに寮でゲームやってて、お昼ご飯を買ってきて温かいうちに食えばいいんですけ

Kazushi Sakuraba

「ヨッシャー!」って練習で一本取れた時みたいにバンバン手ぇ叩いちゃいました（笑）

サクのニューTシャツ「WATER」（ちっちゃくNECESSARY）。これはサクが水なしではご飯が食べられないという意味だという。

ドンキーコングが相手ということで、「ヒゲダンス」用のヒゲを付けて、サクマリオで登場！ 実に似合いすぎで、とぼけた感じが最高！

桜庭　一発だけじゃないですか、入れてるほうは痛くも痒くもないんです」って言うから、ボクは7月が

——去年11月のジル・アーセン戦

温かいうちに食えばいいんですけ

ど、強いキャラに何回やっても勝てなくて、〝絶対コイツを倒さないとメシ食わない！〟って思って、1時間ぐらいやってやっと倒せたんですよ。そのとき部屋で「ヤッター!!!!!」って叫んで、それからメシを食いましたけど完全に冷えきってましたね。

——ダハハハ！　そりゃそうだ(笑)。

桜庭　今回の試合は、1R・2Rは、このまま行ったらどうしようって思いましたね。力が強くて何もできないんですよ。いや、ホントにハンパじゃないですよ！　向こうがカチカチだったっていうのもありますけどね。

——攻めてこなかったですからね。でも、真近で見ても遠目で見ても、あの筋肉はハンパじゃない(笑)。

桜庭　何もかからないですよ。腕を取ろうと思ったけど、なかなか取れないし。

——ランデルマンは、ひと言で言うと強いですか？

桜庭　強いっていうか、怖いです。

——怖い(笑)。シウバとは全然違うタイプですよね。

桜庭　全然違いますね。一発当たったら記憶が飛ぶんだろうなって感じですね。タックルも早いし。

——しかし、あのランデルマンの反応の素早さっていったらないですよね。マットに膝をついて立ち上がるときの早さは、ホントにドンキーコングみたいですよ(笑)。ゲームじゃなきゃありえないような。

桜庭　あの反応はミルコよりも凄かったですよ！　ミルコも反応はいいかもしれないですけど、レスリングの技術とかわかんないから、入ってしまえばタックル取れるだろうなっていうのがあったんですよ。でもランデルマンはアマレスの全米チャンピオンでしたっけ？　レスリングの技術を知ってて、あの反応をされたらタックル取れないですよね。

——逆に向こうのタックルも切れない？

桜庭　早くて切れないです。

——持ち上げられて叩きつけられましたしね。

桜庭　逆に持ち上げてもらったほうがいいんですよ。あれがコンクリートの上だったらキツイですけど、リングの上だったら、そこからゴロゴロっていけるんで。

——1R、2Rは〝ヤバイな〟っていう感じはありました？

桜庭　いや、ボコボコにされるとか、関節取られるっていう意味では全然ヤバいとは思わなかったですよ。判定になったら、下になってるんでヤバイかなぁとは思いましたけど。

——でも、これは関節は取れないな、と思いつつも、最後に一本キッチリ極めるところが桜庭和志の凄みですね。ボクも2Rが終わった時点で、正直ダメかなと思いましたよ。

桜庭　厳しいなっていうのはあったんですけど、インターバルのときに戻るたびに、汗を拭きながら「あぁ、一本取りてぇ！　一本取りてぇ」って独り言のように言ってたのは覚えてますね。

——最後、得意の体勢からアームロックに行くときは、わざとバックを取らせたんですか？

桜庭　バックを取らせたっていうのもありますけど、バックを取られましたね(笑)。

——どっちなんですか！(笑)。

桜庭　取られて取らせたって感じですね。最後は残り時間が聞こえてきたんで、もうここで外したら負けてもいいやって思うぐらい全力で行きました。

——ものの見事に逆十字に移行しましたよね。

桜庭　いや〜、あのときはランデルマンと目が合いましたよ！

——ガハハハ！　ドンキーコングと目が合いましたか！

桜庭　ボクが十字を取ろうとして、うつ伏せになって頭のところに足を入れようとしてるときに、ランデルマンも取られてる腕の方向を見てるし、ボクも体勢的にランデルマンの頭のほうを向いてるから目が合ったんですよ。〝こいついま何考えてるんだろうなぁ〟って思って。

——ランデルマンは右腕を筋断裂したらしいですよ。

桜庭　なんで断裂したんですか？

——どうやら自分のパンチを振り抜き過ぎたみたいですね。2Rめが終了した後のインターバル中にも腕を気にしてて、セコンドのコールマンと話してましたからね。

桜庭　じゃあ、パンチをスカったってことですか？　恐ろしいなぁ……。

——サクちゃんがどう出てくるかわかんないから怖かったんじゃないですか。だから、力いっぱいブン回して、一発でノシてやろうって思ってたのかもしれない(笑)。

桜庭　グラウンドではガッチガチに

Kazushi Sakuraba

ランデルマンが試合後「マリオの勝ちだ」って言ってるのを聞いてプロだと思いました

守って動かなかったですからね。そういう意味では展開が苦しかったっていうか……。

――今回の試合は快諾したんですよね。

桜庭　やったことなかったから興味はありましたよ。1回はやっとこうかなあと。ただ噛み合うかなあ？って思って……まあ、噛み合わなかったですけどね（ニコニコ）。

――ボクは今回は、その噛み合ないところが面白かったなぁ。いつものウキウキするような桜庭ワールドじゃなくて、最後にキッチリ一本取るっていう意味での真の桜庭ワールドが見れて面白かったですよ。

桜庭　ヘンゾとの試合みたいだったって誰かに言われましたよ。

――残り時間が少なくて、強引に一気に極めたところは似てるかもしれない（笑）。ところでまた、今回はなんで下柳さんがセコンドに付いたんですか？

桜庭　え？　シモさんが近くで見たいからじゃないですか！（笑）。

――あ、そういう理由！（笑）。

桜庭　家に電話がかかってきたんで、「シモさん、スーパー特別リングサイドで見ませんか？」って言ったら、「時間計るぐらいだったらできるかな」とか言ってたんで。

――言うほうも言うほうだけど、引き受けるほうも引き受けるほうだよなぁ（笑）。

桜庭　でも、シモさんのひと言がなければKO負けになってたかもしれないですからね。

――下柳さんには「こういうときはこういうふうにして」って言うんですか？

桜庭　いや、時間を計るって言ってたんで「じゃあ、5分からお願いします」っていうくらいですね。

――そ、それだけ！（笑）。

桜庭　「5分、6分、7分、8分」って言ってくださいって。

――インターバルのとき、下柳さんのセコンド姿が板についてたんで、さすがプロスポーツ選手だなぁと思ってたんだけど、何も教えてないんですか？

桜庭　いや、別に何も。やり方がわかんなくても、あとふたり付いてるんで。

――見様見真似でやった？（笑）。でも、どうなんですかね？

桜庭　「どうなんですかね？」って自分が頼んだんじゃないですか！（笑）。

桜庭　頼んだっていうか「試合を観に来る」って言ってたんで「どうせだったらボクの試合だけですけど、近くで観ますか？」って言っただけですよ。やっぱり離れたところで観るのと、リングサイドで観るのとは全然違いますからね。

――サービスとしてセコンドに付けた（笑）。（突然）いま着てる「WATER」Tシャツは、ドームで着てきたTシャツですけど、これはどういう意味なんですか？

桜庭　これですか？　ボクは、水がないとご飯が食べれないんですよ。

――ああ、それは前から言ってましたね。

桜庭　だから！

――いや、「だから」って言われても困るんですけど。

桜庭　その下に小さく書いてある「ｎｅｃｅｓｓａｒｙ」って「必需品」っていう意味らしいですよ。

――なんて読むんですか？

桜庭　わからないですけど。

――わからない！（笑）。

桜庭　「ネセサリー」だったかな。

――水が必需品！（笑）。

桜庭　はい（ニコニコ）。

――サクTシャツの中では新機軸ですね。

桜庭　こういうデザインのTシャツをつくりたかったんですよね。ひと言ドーンとあるデザインで、普段着ても全然格闘技っぽくないやつ。

――確かにサクちゃんのTシャツって感じはしないもんなぁ。「ＳＡＫＵ」って申し訳程度に付いてるけど。

桜庭　小さく（笑）。あからさまに「桜庭！」っていうデザインより、知らない人から見たら「何？　この『水』って？」っていう感じがいいかなぁと思って。

――「何？　この『水』って？」（笑）。

桜庭　英語がわかる人が近くで見たらわかるんじゃないですか？　でも水がなんの必需品なのかはわからないと思いますけどね。

――誰も、サクちゃんがメシ食うときには水が必需品だとは思わないですね（笑）。

桜庭　逆に「人間の体には水が必要だ」とか、そういう意味なのか

これがフィニッシュ。サクの十八番である相手にバックを取らせてのアームロックから、さらに腕十字へ繋ぐ、流れるような連携技。ファンタジスタ復活！

なって思うかもしれないですね。

――「人間の体は70％は水でできている」とかよく言いますけどね。あれ？ 60％だったかな？

桜庭 どっちにしても、そんなに深い意味はありません（笑）。

――あ、深い意味がないといえば、試合前日の公開計量。あのとき、ドラえもんのパンツで登場しましたよね。もしよかったら意味を説明していただけると実にありがたいです（笑）。

桜庭 え～っとですね、あれはGPの決勝用の計量ですよね。準決勝が二組で、あとリザーブマッチ。で、ボクの試合も93キロ契約だったので行ったんですけど、オマケみたいなものだから。でも、オマケとして行ってもつまんないから、なにか目立ってやろうと思って。みんな最初からコスチュームみたいなのを着て来てたんで、ボクはドラえもんのパンツを持ってたんで、これで行ってやれ！ と思ったんですよ。

――で、ドラえもんの意味は？

桜庭 ……意味もなく。

――ズコッ！ やっぱり（笑）。あれは当日用意したんですか？

桜庭 あれは昔から持ってるパンツですね。

――履きっぱのパンツ！（笑）。

桜庭 普段も履いてるヤツです。意味はありません！ やってみたかったから!!

――秤に乗るときも、ちゃんとドラえもんの顔がデカデカと描いてあるお尻側から乗ってましたよね（笑）。

桜庭 1回、ドラえもんを見せた方がいいかなと思って。

――四次元ポケットもお腹につけてましたけど、あれは当日仕込み？

桜庭 あれは紙を切ってセロハンテープで貼っただけです。

――ガハハハ！ ドンキーコング対策でスーパーマリオになって樽を転がすっていうのはちゃんと伏線が利いてたのに、なんで前日にドラえもんになってるんだろうなって思いましたよ。あれは意味がわかんなかったなぁ。笑ったけど（笑）。

桜庭 意味はないです。ランデルマンが怒るかなってドキドキしながらやってました（笑）。

――新聞には「桜庭、スーパーマリオからドラえもんに変身。ドラえもん殺法がどうのこうの」って書いてあったから当日はドラえもんをなんかフューチャーするのかな、と思ったら、やっぱりスーパーマリオで出てくるし（笑）。

桜庭 ヒャハハハ。でも試合が終わった後の新聞を読んだら、ランデルマンが「今回はマリオがドンキーコングに勝った」みたいなことを言ってたんですよね。プロだなぁと思って。

――ランデルマンもそうですけど、ファンが見てる公開計量でケツを向けて秤に乗ったり、桜庭さんもプロとしてのサービス精神はやっぱり旺盛ですよ。いかに人と違うことをやるかっていう発想は、試合でも上手に活かせば活きるでしょうしね。

桜庭 あ、そういえばあの入場のときに付けてきたヒゲは、マリオのヒゲじゃなくてヒゲダンス用のヒゲなんですよね。

――ガハハハ。あのヒゲは加藤茶と志村けん御用達のヒゲでしたか（笑）。

桜庭 稔に頼んだら、それ買ってきたんですよ。

――やるなぁ（笑）。ところでノゲイラvsミルコは見ましたか？

桜庭 見ました。あれはやっぱり寝たらミルコだし……あ、逆か！

――真逆ですね（笑）。

桜庭 寝たらノゲイラだし、立ったらミルコっていうのがモロに見えた試合じゃないですかね。

――今、立っても寝ても打撃全盛の時代ですよね。寝てもヒョードルみたいな打撃があるし。そういう流れの中で中でサクちゃんとノゲイラが見事に一本取ったっていうのは素敵ですよ。

桜庭 やっぱり極めたいですよね。極めたら相手は文句が言えないですからね。自分がこうやって「マイった！」ってやってますから。

――ミルコもタップしたのは相当悔しかったでしょうね。涙を見せてましたから。

桜庭 なぜかわかんないけど、ノゲイラが一本取ったら、高田道場の控室はみんなガッツポーズしてましたよ。ノゲイラが取った瞬間、拍手しながら20人ぐらいで「ヨッシャーッ！」って。

――あれだけ見事に一本取ったら湧きますよ。他にも理由はあったのかもしれないけど（笑）。

桜庭 部屋の中の20人ぐらいがあの騒ぎなんだから、会場のお客さんなんかもっと盛り上がってたんだろうなって思って。

――最近のUFCだと、ああいう見事な一本って少ないですよね。みんなテイクダウンしてパウンドだから。あ、そのUFCからも熱烈なオファーがあるらしいじゃないですか（笑）。

桜庭 直接は聞いてないです。

――来年3月に『PRIDE』のラスベガス大会もあるらしいですよ。

元ＵＦＣヘビー級王者でもある強豪ランデルマンから見事一本勝ちを奪い、ゲームをクリアした子供のように大喜びしたサク。この笑顔、大晦日にも見たい！

桜庭　…………。

――ガハハハ！　なぜ黙る！（笑）。

桜庭　これ東スポの人に言ったんですけど、『『PRIDE』らしい試合を見せたいという意味でマッチメイクするんなら、『じゃあ、シウバと試合させてくれ』』って。

――それで「ラスベガスでもいいからシウバとやりたい」っていう記事が載ってたんだ（笑）。それは確かに『PRIDE』らしいですね。向こうに寝技の楽しさとか教えたいじゃないですか。

桜庭　でも難しいんじゃないですかね。

――じゃあサクちゃんがサブミッションの伝導師になればいいじゃないですか（笑）。

桜庭　……。

――また黙った（笑）。じゃあ、UFC、『PRIDE』ラスベガスと話は流れましたが、目の前に大晦日の『PRIDEスペシャル』っていうのがあるんですよね。「カッコ仮称カッコ閉じ」ですけど（笑）。

桜庭　大晦日はやっぱり、お年玉をもらいに実家に帰らないといけないし、孫も見せないといけないので（笑）。実際まだケガも治ってないし。

――どこをケガしてるんですか？

桜庭　左足首。打撃の練習はあんまりしないのに試合になると蹴っちゃうんですよ。それでいっつも足首を痛めるんですよ。だから無理です！

――でも、日テレが『猪木祭り』、TBSが『K―1・Dynamite!』、フジが『PRIDEスペシャル』と3局戦争ですよ。

桜庭　4、6、8……。じゃあ、ボクはテレ東の旅番組とかに出ます。

――なぜだ（笑）。あ、テレ朝はドラえもんだから、吹き替えかなんかに出たらどうですか。ドラえもんのパンツも持ってることだし（笑）。

桜庭　じゃあ、ボクは10チャンか12チャンで（ニコニコ）。

――いや〜、でも大晦日決戦に桜庭さんは欠かせないでしょう。

桜庭　でも当分、練習できないですよ。足引きずってますから！　難しいですよ。

――相手によってとかじゃなくて？

桜庭　そういうんじゃなくて、ケガでですね。

――全治どれくらいなんですか？

桜庭　う〜ん、2〜3ヶ月ぐらい（笑）。

――また、"ぐらい"って（笑）。

桜庭　でもホント今度、足首のMRI撮りに行きますよ。あとは試合した後、3ヶ月後ぐらいならまだできるんですけど、2ヶ月後はキツイですね。いまから焦って練習したらまたどこかケガしちゃいますよ。

Kazushi Sakuraba

何とかプロデューサーって肩書きがある人が来ないのは、ちょっと問題あると思います

――ちょっと話題を変えて（笑）、曙のK―1参戦には驚きましたか？

桜庭　いや、別に。

――1年くらい前、髙田道場に練習に来るっていう話があったらしいですね。

桜庭　無理ですよ、あんな大きい人！

――大きい人（笑）。でも曙vsサップはみんな見ますよ。

桜庭　見るんじゃないですかね。

――ですよね。その強烈なタマに対抗するには、『PRIDE』側からしたら、桜庭さんは絶対に必需品じゃないですか。それこそ「necessary」でしょ（笑）。

桜庭　もう今年はおしまいです！

――わかりました（笑）。ところで吉田vsシウバ戦はどうでしたか？

桜庭　あ、面白かったですね。あの試合で会場の雰囲気がよくなったって聞きました。ボクは会場のモニターで始めだけ見てたんですよ。2R途中ぐらいから寝てました。

――寝てた！（笑）。

桜庭　いや、寝てウォーミングアップの疲れを取らないと。寝るっていっても5分とか10分ですよ。

――休息を取ってたと。吉田選手の底力も凄いですけど、やっぱりシウバも凄玉ですね。

桜庭　だってあんな試合をして、決勝でまたジャクソンに勝って。凄いですよね……コレじゃないですか!?（指三本使ったポーズ）

――ダハハハ！　GPの決勝や準決勝、リザーブマッチなどを見てて、「ちくしょー、やっぱり1回戦は勝ちたかったなあ！」というふうには思わなかった？

桜庭　いや、ないですね。

――またぁ？（笑）。

桜庭　ホントに。ボクはもうランデルマンの試合でいっぱいいっぱいでしたよ。

――8月のシウバ戦が終わった後、次の試合の目標が定まらなくてモチベーションが下がってたって聞いてましたけど、そうだったんですか？

桜庭　そうですね。8月、11月ってGPだからセットじゃないですか。セットなのに8月に負けちゃったらもう出れないですよね。11月は試合がないんだなって思うと、そういう意味でテンションが下がってましたね。

――シウバ戦前は自分から「1回戦を勝って棄権して決勝には出ません」とか言ってたじゃないですか（笑）。

桜庭　でもやっぱり終わってみたらテンションが下がって、やる気が

11.9 PRIDE GP 2003 東京ドーム

復活ダンヘン"匠"対決制す!

両者レスリングと柔術という組技の達人ながら、そのパンチ技術にも定評があるだけに、スタンドで向かい合っただけで緊張感が漂う。

ダン・ヘンダーソン○［1R 0分53秒 KO］●ムリーロ・ブスタマンチ

秒殺KO勝ちにダンヘン歓喜の咆吼。クールな男がここまで感情を爆発させるのも珍しい。

勝負はあっけなかった。ファーストコンタクトでムリーロは突如崩れ落ち、そのままパンチのラッシュの餌食に。どうやらパンチの前にバッティングが入ったようだ。

起きないんですよね。
——練習してても目標が見えない。
桜庭　朝起きて、ただ道場に来て、ただ練習して帰るっていうことの繰り返しでしたね……あ、わかった！　テストがないのにテスト勉強してるみたいな感じでしたね。
——ストレートに聞きますけど、シウバに3回も負けた悔しさっていうのはもう払拭できたんですか？
桜庭　それは負けたっていうのが記憶にないから悔しくないですね。そこでギブアップ取られてたとか、記憶にあるところでKOされたとかだったら違うかもしれないですけど。1回めにやられたときはシッカリ記憶にあるので、ああいう止められ方とかだったら悔しいかもしれないですね。
——でも、やっぱり行けるものなら4回目も行きたいですよね？
桜庭　まあ、行ければ（笑）。
——もしホントにラスベガスでシウバと組まれたらどうします？
桜庭　組まれれば。それはないと思いますけどね（笑）。
——自分から組んでくれっていう思いはないですか。
桜庭　別にないです。時間が経てば言うかもしれないですけど。
——でも、GPの決勝・準決勝を見ても、シウバの穴はなさそうですよ。
桜庭　穴はいっぱいありますよ！　やってて思いましたよ。
——シウバの穴を見たい！　一本極めてほしい（笑）。
桜庭　2回目やったときに首がすっぽりハマったじゃないですか。
——見事にハマってましたね。
桜庭　だからハメようと思えばハマるんですよ。ハメようと思えばっていうか、狙ってというか。そういう機会は絶対出てきますからね。あれで首が入ったときに飛びついて胴に足を回してたら極まってたんじゃないですか。
——桜庭さんはクイントンとランデルマンを極めてるんだから、やっぱりシウバを極めるところも見たいですよ。
桜庭　ランデルマンやジャクソンに比べると、シウバってそんなに力はないですよ。2回目にやったときは体重差があったじゃないですか。この間やったときは体重差はなかったんで、それを考えるとそんなに力ないですよ。
——グラウンドの技術はジャクソンとかより知ってるし、体も柔らかいから極めづらいというのはあるかもしれないですけどね。
桜庭　まあ、それはありますけどね……取れるけどなぁ。
——逆に言うとサクちゃんしかシウバからは取れないと思いますよ。となると、「特にない」と言われるのはわかってるんですけど、一応聞くと来年の目標は（笑）。
桜庭　…………勝てればいいですね（ニコニコ）。
——ちなみにどんな相手とやりたいですか。
桜庭　そういうのはないですね。
——アマレス系がいいとか柔術系がいいとか。
桜庭　特にないですね。
——打撃系がいいとか。
桜庭　別にないです。
——ありがとうございました（笑）。この1年は長かったですか、短かったですか？
桜庭　いや、短いですよ。歳を食ってきたらだんだん短くなってきましたよ。
——去年の11月にアーセンとやって、その後今年3月のニーノ戦があって、その後シウバで、今回のランデルマン。なんだかんだで1年に4試合やってるんですね。
桜庭　3×4でやっぱり3ヶ月に一回ですね。2ヶ月後はキツイです！（笑）。
——それはいったい誰に対しての牽制なんですか（笑）。
桜庭　榊原さんに（笑）。
——榊原代表に向けての牽制だそうです（笑）。
桜庭　榊原さんが今回の試合後、控室に「やったね、おめでとう！」って来たんですよ。「ありがとうございます。年末は出ないですよ」って言っときました（笑）。
——早くも釘を刺しましたか（笑）。
桜庭　そしたら困った顔してましたよ（笑）。
——素直に「おめでとう」って言いに来ただけかもしれないのに（笑）。
桜庭　ウヒャヒャヒャ。
——いや、でも今回は周りのスタッフもみんな我を忘れて喜んでたんじゃないですか？
桜庭　自分が一番嬉しかったです

11.9 PRIDE GP 2003 東京ドーム

ヤマヨシ大善戦 されど無念のタップ

1R開始早々、胴タックルに来たヒースの首を捉え締め上げるヤマヨシ。あのヒクソン戦を思いおこさせるシーンだ。チ●ポ出せ、チ●ポ！

しかし、最終3Rに失速。そこをヒースは見逃さずにパウンドからチョーク。ヤマヨシはラストまであのヒクソン戦のようだった。

2Rまではポジショニングでもヒースを上回っていたヤマヨシ。上からヒザを落とし、さらに腕十字を取りかけるシーンをみせる。

ヒース・ヒーリング○［3R 2分29秒 チョークスリーパー］●山本宜久

ね（笑）。

——あ、そうか（笑）。特に演出の加藤ちゃんなんてもう、職場放棄ですよ、マジで（笑）。

桜庭　ウヒャヒャヒャ。

——そんな俺もマスコミという立場を忘れて両手を挙げて喜んじゃいましたけど（笑）。

桜庭　でも、こないだの大会は全体的に試合が面白かったから大当たりですよね。

——いや、熱がありましたね。

桜庭　判定決着でも面白い試合だったし、基本的にKOとか一本で決まってたじゃないですか。

——3、6、8、11月と今年の『PRIDE』は面白いんですね。1回終わるたびに〝これ以上はもうないだろ〟って思うんだけど、次にまたクリアしてますからね。

桜庭　年末はハズすかもしれないですよ～。

——確かに年末は怖いですよ（笑）。サイクル的に、ズッと大当たりが続くことはないんじゃないかっていう恐怖感はないことはないですね（笑）。でもそんなこと言ってると、「ハズさないためにも出てください」って言われますよ（笑）。

桜庭　……ボクも最近ハズしたのが多いからなぁ。

——昔から桜庭さんは「40歳まで現役でやりたい」って言ってたけど、当然、引退とか考えてないですよね。

桜庭　全然考えてないですよ！　だって（ランディ・）クートゥアーが40歳じゃないですか。あの人も凄いですよね。

——あの人も異常ですよ（笑）。桜庭さんとクートゥアーは同じ階級ですよ。

桜庭　グエッ！　大きいですよ、あの人。この間、誰に勝ったんでしたっけ？

——ティト・オーティズですね。でも今日、間近で見たら、桜庭さんもデカイですよ。

桜庭　あ、そうですか？　去年、ジル・アーセンとやったときは90キロありましたよ。その前にケガをして、その前の試合ってなんでしたっけ？

——ジル・アーセンの前は……。

桜庭　（シャノン・〝ザ・キャノン〟）リッチ？

——それはえらい前ですよ！（笑）。

桜庭　アーセンと同じキャラじゃないですか（笑）。

——同じキャラというか役どころというか（笑）。アーセン戦の前はミルコですよ！

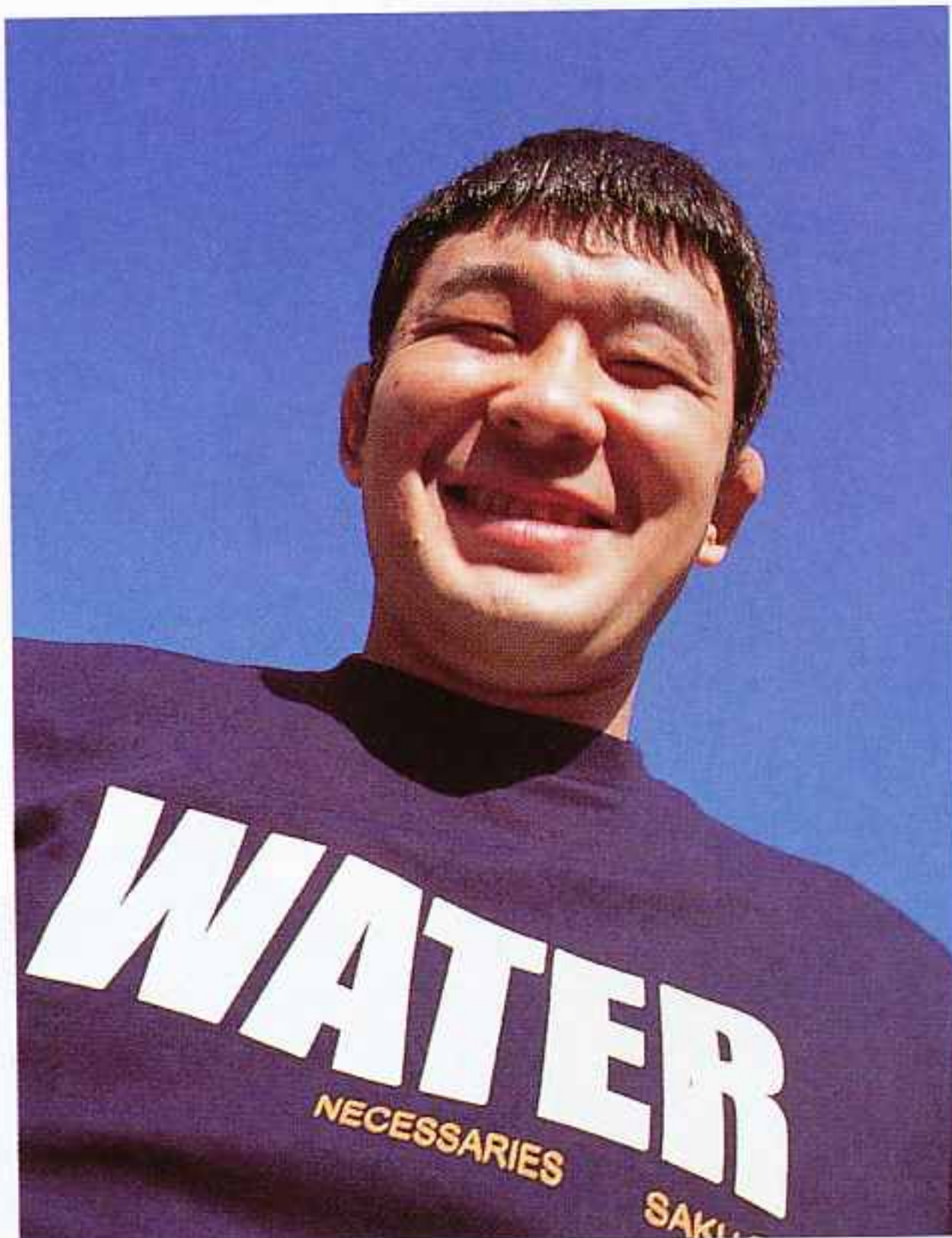
桜庭　あ、そうだ（笑）。ミルコのときに目をケガして体重が増えたんですよ。

——でもいまと全然違いますよ。

桜庭　あ、そう言えばここだけの話、ノゲイラがこっそり聞いて来たんですよ。「ミルコってどうなの？」って、入場の前に（笑）。

——へぇ～～～（テーブルを叩きながら）。

桜庭　で、ボクとノゲイラが話してるのをミルコがジーッと見てるんですよ。

——ガハハハハ！　バツグンの構図ですね！　でもノゲイラは今回、シウバにも対策を聞いたらしいですね。

Kazushi Sakuraba

榊原さんが「おめでとう」って言いに来たので「大晦日は出ませんよ」って言いました（ニコニコ）

桜庭　あ、そうなんですか。ボクは「抱きついたらガッツリ離さないから、体重がボクのほうが軽かったんで、もう動けなかった」って言ったんですよ。

——面白いなぁ。そういえば、髙田統括本部長が、先日のドームに来なかった猪木さんに対して「去る者は追わず！」とリング上から言いましたけど、どう感じました？

桜庭　う～ん、自称・統括副部長としては、自分の試合の後に「この後、ノゲイラvsミルコ、決勝戦があるんで楽しんでいってください」って言いましたけど……。

——いよっ、さすが統括副部長！

桜庭　そういう深いのはわかんないんですね。猪木さんはなんとかプロデューサーって、何か肩書きが付いてるんでしたっけ？

——エグゼクティブ・プロデューサーですね。

桜庭　それで来ないのはちょっと…………問題があると思います。それでいて給料なんかも出てるわけですよね？

——いや、給料が出てるかどうかは知りませんよ（笑）。

桜庭　そういう意味では、来ないのはちょっと問題があると思いますよ。あんまり深く関わったことがないんでわからないですけど。なにかいろいろあったんですかね？

——あるんでしょうね（笑）。

桜庭　イジメとか？　登校拒否とか？

——は？　トウコン拒否⁉

桜庭　トウコンじゃなくて登校ですよ！

——闘魂拒否！　その言葉いいなぁ、表紙に打とうかな（笑）。

桜庭　それはボクが言ったって書かないでくださいよ！　でも、ホントに深いところはわかんないです。

——統括副部長としては大晦日に自分が出る出ないに関わらず、他二局というか、他二つのイベントには負けられないですよね？

桜庭　まあ、そうですよね。7～8試合ぐらい組むんですかね？

——9～10試合の可能性もあるんじゃないですか？

桜庭　じゃあ全部判定になりそうな試合ばっかりにしちゃえばいいじゃないですか。大みそかスペシャルで（ニコニコ）。

——どんな統括副部長だ！（笑）。『PRIDE』サイドとしては、やっぱり統括副部長出陣が切なる願いですよ、きっと（笑）。

桜庭　……足が痛いです。

——早く治してください。これからの桜庭和志にいろんな意味で期待してます。

桜庭　今年は終了！

【11月16日／髙田道場ちゃんこ部屋にて収録】

だって（ランディ・）クートゥアー
――それはえらい前ですよ！（笑）。
ですね！　でもノゲイラは今回、シ
桜庭　そういう意味では、来ない

【11月16日／高田道場ちゃんこ部屋にて収録】

"野良犬"が語るプロレス、そしてターザン山本！

藤原敏夫の弟子にしてキック界の大物

小林聡［キックボクサー］

「猪木調でコメントしても誰も拾ってくれないんですよ（笑）」

何かが起こる!?
12・7『藤原祭り』開催！

キックファンから圧倒的な支持を受け、キックボクシング界ではカリスマ的存在、"野良犬"の異名を持つ男、小林聡。師匠である藤原敏夫先生の繋がりもあってかU系選手との親交も深く、ターザン山本とはなぜか"親友"であり、バトラーツ石川派を自認したり、ヤマヨシとはバットなシチュエーションで焼き肉を食ったりする。そんなミステリーなプロレス界との接点を探ってみた

聞き手／吉田豪　構成／ジャン斉藤　designed by Bun-chan（Two three）

ね（笑）。
—あ、そ
加藤ちゃん
ですよ、マジ
桜庭　ウヒ
—そんな
場を忘れて
いましたけど
桜庭　でも、
体的に試合
たりですよね
—いや、執
桜庭　判定
ったし、基本
決まってただ
—3、6
『PRIDE
1回終わる
うないだろ〃
にまたクリア
桜庭　年末
ですよ〜。
—確かに年
サイクル的に
続くことはな
う恐怖感は
（笑）。でもそ
「ハズさない
って言われま
桜庭　……
が多いからな
—昔から
現役でやり
ど、当然、
すよね。
桜庭　全然
だって（ラン

—ここの焼き肉屋って、小林さんの行きつけなんですか？

小林　いや、二回目……かな。ジム周辺の飲み屋とかは、藤原（敏男）先生と遭遇しかねないんであんまり来ないんですよ（笑）。

—ダハハハ！　今日の小林さんの取材には藤原先生が「俺が行かなくていいのか？」って来たがってたみたいですけどね（笑）。

小林　あ、そうなんですか。でも先生が一緒だと喋りづらいから、つまんなくなりますね。

—前に『紙プロ』で先生の取材をしたときは、取材後に韓国パブになだれ込んで大変な騒ぎになったって聞きましたよ（笑）。

小林　ああ、先生は好きですからね、韓国パブ（笑）。『紙プロ』には藤原先生も出て、宮田（全日本キックのリングアナ）さんも出たから、次は俺の番かなって思ってたんですけど。オファーがないから「俺が出ても『紙プロ』向きのネタねえだろうな」と思って諦めかけてたんですよ。

—いや、小林さんには前から興味があったから機会を伺ってたんですよ。

小林　吉田（豪）さんって、キック（ボクシング）とか見てるんですか？

—いや、10年前に1回見ただけです（笑）。K-1すらも会場には2回ぐらいしか行ってないし、プロレスにしてもあんまり会場には行かないんですよ。

小林　じゃあ、なんでそんなに詳しいんですか？

—活字&ネット&噂で情報はカバーしてるんです。初期極真の話も大好きなんですけど、空手の大会は全然見てないし、それより梶原一騎を通した空手やキックやプロレスが大好きなんですよ。藤原先生もゴルフ場勤務時代に一度、取材してるんですけど。

小林　だったら黒崎道場の小比類巻（貴之）の練習とか、興味本位で見に行きたくなる派じゃないですか？

—無茶苦茶興味ありますけど、いかんせん小比類巻さんに興味がないんです（笑）。

小林　ああ、なるほど（笑）。

—「お前は絶対ストイックじゃない」っていう思いが、すごくあって（笑）。小林さんは黒崎健時先生の孫弟子になるわけですけど、何か接点ってあるんですか？

小林　前に一度、道場に行ったことあるんですけど。あそこって練習のインターバルがないんですよね。

—休憩なしですか（笑）。

小林　「やれ！」って言われたら「やめ！」って言われるまでやらされるんですよ。ジム生も目が血走ってくるから、2時間ぐらいですごいくたびれちゃって。その後にメシ喰うんですけど、飲み物が一切出ないんですよ（笑）。

—昔ながらの練習ですねえ（笑）。

小林　「水分はいかん！」って飲ましてくれなくて、唯一出てきたのが味噌汁で（笑）。

—ボクも実録格闘技マンガの原作の手伝いみたいなことをやってたときに藤原先生の回があって、黒崎先生を登場させないわけにいかないから許可を取るために電話したら「ならん！」「俺は出すな！」みたいな感じで

「君って誰?」「キックボクシングって何なの?」なポエムだけではなく、ターザンは何度か小林の試合をレポートしている。なんと、全日本キックの大会パンフレットにも寄稿しており、「私の“親友”である!」と、その関係をしっかり強調!

ターザン山本のファンというよりはビートたかしのファンなんです

ホント怖かったですよ。そのとき自己紹介したら「なに、ライター？　ナイターじゃないのか」って駄洒落を言われたけど、怖くて笑えませんでしたね（笑）。

小林　ただ、いまの黒崎先生は「オラ！　この野郎！」っていうシゴキはないですよ。「蹴ってる音でわかる」とかって世界ですからね。

—小比類巻さんも「とにかく蹴ってろ！」ってほとんど放置されてましたもんね。

小林　その代わり、ウチの先生は竹刀でバンバンやってますけど（笑）。

—黒崎流を取り入れてるわけですね（笑）そんな小林さんといえば、ターザン山本の親友としても有名なわけですけど。

小林　ハハハハハハ！　親友の割には携帯の番号すら知らないですけどね（笑）。

—ターザンは携帯の登録の仕方もわかってないんですよ。だから、ボクも一応親友らしいんですけど携帯にかかってきたこともないし。

小林　じゃあ、誰の携帯も登録してないんですか？　よくそんなんで仕事してますねえ（笑）。

—だから、電話しても必ず「誰？」って聞かれますよ（笑）。小林さんは、もともとターザンのファンだったんですか？

小林　いや、僕はビートたけしのファンで『ビートニックラジオ』を聞いてたんですよ。そこで浅草キッドにいじられてる山本さんを面白いなと思って。だからターザン山本のファンというよりは、ビートたかしのファンなんですね。

—ああ、忙しくて番組にあまり出られないたけしさんの代役を決める「21世紀のビートたけしを探せ！」オーディションで選ばれたビートたかしの方だったんですね（笑）。

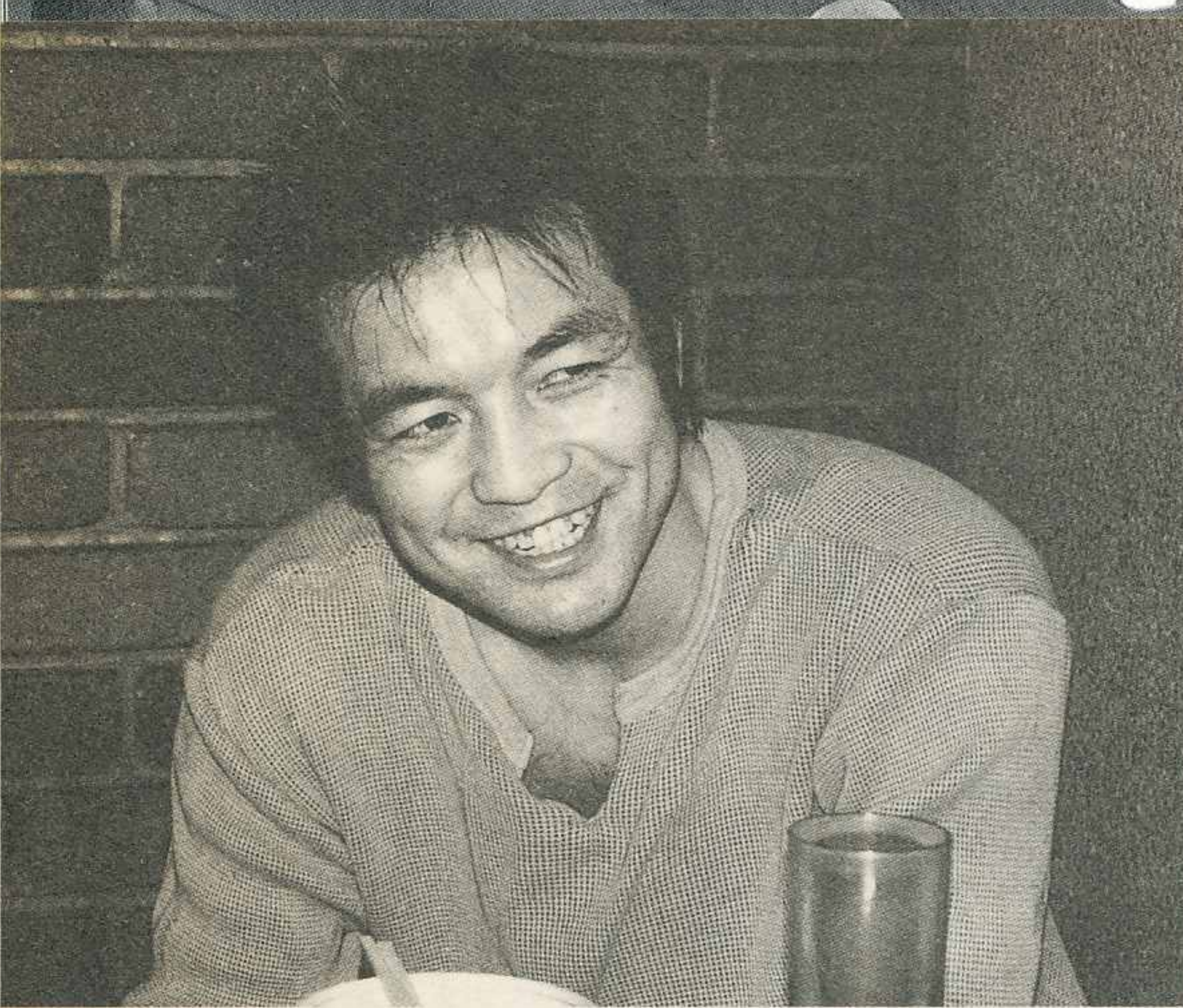
小林　そうです。それから注目して山本さんの記事を読むようになったんで、別に『週刊プロレス』のファンってわけじゃないんです。山本さんは勝手に「小林選手は『週刊プロレス』時代の私のファンである」って書いてますけど（笑）。

—とんでもない誤解があったわけですね（笑）。それで、小林さんは「山本さんに試合レポートを書いてほしい」とかって、ずっと言ってましたよね。

小林　そうそう。俺のこと、どういうふうに書くのかと思ってね。

—それなのに、山本さんは『SRS・DX』で小林さんの試合見てポエムを書いただけだった、と（笑）。

小林　あ、つまんない試合したときに「君って誰？」「キックボクシングってなんなの？」とかって書いてましたね（笑）。あれ、「あんなこと書かれていいんですか!?」って本気で怒ってる人も

立ち読みする奴は路上制裁！　11月18日発売の「週刊ヤングジャンプ増刊　漫革」に、小林をモデルとした主人公が本場タイのリングで大暴れする痛快読み切り劇画が掲載される。劇中には藤原先生をモデルした人物も登場するから、もう買うしなかいだろう！

いれば「面白い」って言う人もいたりして反応はいろいろでしたけど、俺的には面白かったですよ。だって、普通は試合レポートにポエムは書かないから（笑）。

—それで『週プロ』は読んでなかったとはいえ、昔から小林さんはプロレスは見られてたんですよね？

小林　子供の頃から見てましたよ。金曜夜8時のタイガーマスクが好きでしたね。

—新日本プロレス派だったんですね。プロレスラーになろうとは思わなかったんですか？

小林　なきにしもあらずでしたけど、強くは思わなかったですね。

—小学生のときにはプロレスマンガも描いてたって話ですけど。

小林　そうです。小学校5～6年のときにマンガ家目指してマンガクラブに入ってたし。

—それって肥満児時代ですよね。揉まれすぎて痛いぐらいに胸があったという（笑）。

小林　はい（笑）。当時『キン肉マン』が流行ってたから、ああいうマンガ描きたいなと思って。

—梶原劇画とかにはハマらなかったんですか？

小林　読んでましたよ。最初に『四角いジャングル』読んだとき、ベニー・ユキーデは実在してないと思ってたんですよ。マーシャル・アーツなんかもないって。

—いちいち胡散臭かったですからね（笑）。

小林　胡散臭かった！　で、そのあとに『四角いジャングル』をビデオで見て「あれ？　実在するんだ」と思って。ベニー・ユキーデはマンガのように超美男子じゃなくて、宜保愛子みたいな顔でしたけど（笑）。

—同じ奥目で（笑）。そこで藤原先生の存在を知ったわけですね。

小林　そうです。藤原先生や黒崎先生もそうですけど、生涯会うことはないだろうと思ってましたけどね。

—それが師弟になっちゃった、と。もともと格闘技を始めたのはジャッキー・チェンの影響なんですよね。

小林　そうです。ある日ケンカして、自分が強いっていうことに目覚めてから自信が出てきて。その頃ジャッキー・チェンが流行ってたから華麗に相手を倒してみたいなってことで、少林寺拳法をやりだしたんですけどね。

—でも、いざやったら映画とは全然違いますよね。

小林　全然違うんですよ！　しかもそこは極真空手系の道場なんで、組手も極真の組手なんですよ。

—普通のフルコンタクト空手でしたか（笑）。

小林　型はいろいろやるんですけど、いざ組手になると、もう極真みたいなもんで。それに強くなればパタパタッて倒せると思ってたんですけど、そうじゃないっていうこともわかって。でも、だんだんにのめりこんできてたんで極真やりたいなって思ったんだけど、同級生で極真やってるヤツがいて、そいつの下にはなりたくねえなって。

—後輩になるのがイヤだったわけですね。

小林　その頃って、ちょうどキック（ボクシング）も流行りだしたんですけど。竹山（晴友）さんとかが出てきたりして。

Satoru Kobayashi

—極真出身で大沢昇さんの愛弟子だった方ですよね。

小林　だから、そこの道場もキックみたいなことやり始めたんですよ。どこの道場もそうだと思うんですけど、すぐ流行に流されるから。骨法なんかもそうじゃないですか。

—まあ、流行に敏感というか（笑）。

小林　UWFが流行ってた頃はレガース付けて、バーリ・トゥード流行ったら今度はそういうふうになって、今度はジャパボクとか始めたでしょ（笑）。ウチの道場も同じで、正道空手が流行ってた頃は正道空手、キックが流行ったら今度はグローブつけてキックやり始めちゃったんです。それでグローブつけたらやったらポンポーンッて簡単にKOされちゃって。かなり自信あったからあまりにも悔しくて。

—それまでの自信が崩れたわけですか。

小林　ケンカとかでもKOされたことないですからね。悔しくて悔しくて、涙出てきちゃって。泣いてるとこも見られたくないから、道場の更衣室の隅で悔し涙流してましたね。その次の週ぐらいから、誰もいない昼間に勝手に後輩連れてきて、グローブつけた練習ずっとやってましたよ。それからですね、キックの方に気持ちが傾いたのは。いまみたいにK-1や総合（格闘技）もなかったし、強くなるにはキックしかないと思ってたんで。で、キックのビデオかなんかも見たんですけど、ケンカにしか見えないブッサイクな試合しかやってなくて、「これだったら俺すぐチャンピオンになれる」って思ったんですよ。

—ケンカだったら負けるわけがない、と。

小林　はい。技術がなくてヘタクソに見えたんですよ。そうこうしてるうちにキックのジムが長野にあるってことがわかって。そのジムに行ったんですけど、いっつも人はいないし、待てど暮らせど会長はいないんですけど。じつはそのジムの裏にある居酒屋で受付をやってたんですよ。

—キック界らしい話ですよねえ（笑）。

小林　会長の後輩みたいな人が居酒屋を経営してて。そこで話を聞いたら「ちょっと待ってろ」って言われて、しばらくしたらパジャマ姿のヤクザっぽい親父が出てきて（笑）。

—それもキック界らしいですねえ（笑）。

小林　そのオヤジにいきなり「ちょっとサンドバッグ蹴ってみろ」って言われてバンバン蹴ったんですけど。そしたら今度は「じゃあグローブ着けろ。ちょっとボクシングやろうか」って言われて。腹が出たオヤジだったから蹴りで倒してやろうかと思ったら、スパーンッて一発でKOされちゃって。そのときは悔しいっていうより、感動したんですよ。

—「オヤジ凄え！」って（笑）。

小林　そうそう。サムゴー（・ギャットモンテープ）にやられたときも悔しいっていうよりも感動したというか、この牙城まで行きたいなと思ったんですけど。そんな感じでしたね。

—それでジムに入門したわけですね。

小林　はい。その会長も毎日来ていろいろ教えてくれて「おめえ、素質あるからデビューしろよ」とか言われて。プロデビューの規定は17歳以上なんですけど、15歳でデビューしたんです。

—逆サバですね（笑）。

小林　会長から「大丈夫だよ、おめえだったら平気だよ」って言われて。でも、「プロになる」って言ったら、ウチの母ちゃんが心配になって会長に会いに行ったんですよ。

——会ったら余計心配になりますよ（笑）。

小林　ハハハハ！　そしたら会長が「あいつはキックをやるために生まれてきた男だから」って言うから、親も「それじゃあ」って納得して。そのときは高校もほとんど行ってないというか、面白いから行くは行くんですけど授業には出てなかったんですね。

——授業に出ないで何してたんですか？

小林　学校の裏行って友だちとたむろしてたり、体育館で遊んでたり、そんな感じで。そしたら出席日数が足んなくなっちゃって、「あと1回休んだら退学だ」とか言われたんですけど、デビューするとなれば試合の日には学校は休まないといけないし、「チャンピオンになる」って決めてたから、思い切って辞めて。それで3ヶ月後にデビューしてKO勝ちしたんですよ。スパーリングもしてないような男が酸欠になりながら（笑）。

——さすがはキックをやるために生まれてきた男（笑）。

小林　「俺は将来を約束された男だ」って気を良くしましたね（笑）。でも、それから3連敗。全部KO負けです。デビュー戦に勝ったら会長もジムに来なくなって、練習もまともにしてなかったし（笑）。

——そりゃ負けますよ（笑）。

小林　それで「これじゃダメだ」って思って東京に出たんですけど、会長に「東京行くなら、俺がいた日本キック連盟の渡辺ジムに行け」って言われて、働きながらキックをやったんです。でも、試合の結果もついてこないし、練習はシンドイし、仕事やって練習するっていう生活がもうつらくて。みんな高校生活を楽しんでるのに。

——15、6歳でその環境はキツいですよね。

小林　キックの平均年齢も高かったんですよ。だからスパーリングやっても敵わないし、体力もついてかないし、結果は出ないし。それで仕事も休みがちで家賃3ヶ月ぐらい滞納して、親から「いい加減にしろ」って怒られて（笑）。それで帰ってきたんです。

——そのとき、草キックの興行やられてたんですよね？

小林　そうです。長野のジムは会長こそ来ないけどいつも開いてるから、みんな集めて練習してたんですよね。そうしたら、会長がジムの家賃払ってないから「もう出てってくれ」って話になって（笑）。「じゃあ最後に思い出に試合やろう」ってことで、チケットを自分たちで作ったんです。

——パー券みたいなノリですね（笑）。

小林　そう。ハンコ押して1000円で売りましたよ。試合は4試合ぐらい組んだんですけど、ジムに来だして3日ぐらいの奴も「もう、なんでもいいからやっちゃえ」って試合に出して（笑）。

——有刺鉄線デスマッチとかもやってたんですよね（笑）。

小林　そうそう。長野って花見の時期に花見小屋を作るんですけど。ジムがなくなってもみんな「練習したい」って言ってたから、先輩の駐車場の花見小屋にジムのリングを持ち込んで練習してたんですよ（笑）。それで「また みんなで試合しようぜ」って話になって。そのときちょうど大仁田厚が流行り出した頃だから、有刺鉄線異種格闘技マッチをやったりして（笑）。

——ダハハハハ！　リアルFMWって感じですよね（笑）。

小林　有刺鉄線を全面に巻くのは面倒臭いから2面ぐらいに巻いてたんですけど、有刺鉄線は本当に痛かったですよ（笑）。

——小林さんも有刺鉄線キックとかやってたんですか？

小林　僕はやってないんです。そういう痛そうなことは人にやらすんですよ、後輩とかに（笑）。

——しかし、柔軟というか適当というか、普通はプロレスを取り込まないですよ（笑）。

小林　ですよね（笑）。先輩が「ちょっと俺にプロレスやらしてくれよ」ってことでやらしてみたら、一番ウケたのが始まりですね。それでだんだんエスカレートして有刺鉄線になって、最終的にはファイヤーデスマッチまでやろうと思いましたけど、「それはちょっと……」って（笑）。

——さすがに危険すぎますからね（笑）。

小林　そうこうしてるうちに、やっぱりホントのキックの試合したくなっちゃって。雑誌とか見てたら、GOLDが『ディスコでムエタイ』とかやってたんです。「ある程度、実績ないといけない」みたいなこと言われたんですけど、戦績言ったらカッコ悪いから「俺、長野で一番強いキックボクサーなんですよ。自信あるんでタイ人とぜひ」ってお願いして。それでタイ人と闘ったんです。

——初の国際戦はディスコでしたか（笑）。

小林　コテンパンにやられましたけどね（笑）。タイ人もショー的要素で遊びで闘うんですけど、こっちはマジでやるからバチバチやり返してきて。でも、当時はバブルの時期だったからファイトマネー3万円プラス、長野行き来する交通費ももらえる。チップも結構くれるんで、結構いい小遣い稼ぎになるから毎週行ってたんですよ。

——GOLD専属キックボクサー（笑）。

小林　そうそう。でも、やっぱりプロでやりたくなって、金貯めてまた上京することになったんです。

——再び上京しても、いろいろ苦労はされたんですよね。

小林　僕、キックの分裂のときは人間不信になりましたよ。

——『紙プロ』読者的には複雑過ぎてわからないゴタゴタがあったみたいですね（笑）。

小林　日本にいるとどうしても雑音が多いから、オランダでフリー宣言したりしてね。ストロング小林の真似だったけど、どこにもわかってもらえなくて（笑）。

——誰もわかんないですよ、それ（笑）。

小林　全然拾ってもらえなかったんですよね。

——こないだの記者会見でも、猪木さんのモノマネしたけど誰にも拾われなかったみたいですけど（笑）。

小林　ああ、俺が「休んでたときの全日本キックはどうでした？」って聞かれたから「そんなの面白くねえよ！」って猪木風に言ったんですけどね（笑）。

——最近の新日本に対する猪木さん的な発言ですね（笑）。で、そのフリー宣言から藤原道場入りに繋がっていくわけですか？

小林　はい。日本に帰ってきたときに宮田さんと飯食ってたん

『紙プロ』39号に収録されている藤原先生のインタビューは男なら必読！　佐山聡、小川直也、前田日明とのエピソードは、藤原先生だからこそ語れる内容となっている。そんな藤原先生のもとで鍛錬に励む小林も相当の男なのだ

佐山さんいわく「掣圏道のモデルは藤原敏男」先生は引退したあとに暴れるようになった

ですけど、「藤原さんがキック界に戻ってきてもさ、いまの若いヤツは誰も行かねえんだよな、ビビッちゃって」とか言うから、「これは俺に行けって言ってるのか?」と思って。それからですよ、藤原ジムは。

——ようやく藤原先生に辿り着いたんですね（笑）。

小林　それまでも、団体やジム間のゴタゴタはあったんですけど（笑）。俺、15歳でデビューしてるから17年もキックやってるんですよ。藤原先生と出会ったのが6年前ですから、たしかに長い道のりでしたね（笑）。

——いざ接してみて、藤原先生はどんな人でしたか?

小林　……いまだに慣れないですよね。一番長く接してる師匠になるんですけど。でも一番俺の性格をわかってるっていうか、「この野郎!」って奮起させるのもうまいし、感動させるツボも知ってるし。

——感動させられたんですね。

小林　あるときなんか、朝から俺のために料理作ってくれたりして。そんなの、いままでなかったですからね。

——アメとムチの使い方がうまいというか。

小林　そうそうそう。あと先生も身体を使ってくれますからね。先生も身体にガタきてるから日曜日の朝7時の練習なんてつらいはずなのに、ミット持ってくれるし。そんな情熱はいままで会った人の中で一番ありますね。

——藤原先生はいまでもヤンチャですよね。

小林　そうですねえ。引退したあとに暴れるようになったみたいですよ。引退してもう闘う場がないから、闘いたくてしょうがないみたいな（笑）。

——闘争心の持って行き場がなくなってるわけですね（笑）。あの佐山さんが「トシちゃんは危ない」って言ってるぐらいだし。

小林　佐山さんは「掣圏道のモデルは藤原敏男だ」って言ってましたね。

——「路上のケンカといえば藤原敏男」とも言ってましたよ（笑）。

小林　でも、佐山さんも相当凄いですよ！　ジムにU系の選手が結構来てましたけど、佐山さんが一番別格でしたからね。佐山さんはキックボクサーになっても間違いなく伝説作ってますよ。

——マーク・コステロ戦にしても、言われている以上に健闘してましたからね。

小林　佐山さん、この前の復帰戦に備えて2ヶ月前からジムで練習したんです。最初は「やっぱり動き遅くなったな」と思ったけど、3週間ぐらいしたら昔の動きに戻ってたから「やっぱり天才だな、この人」って。

——あの身体であれだけ動けるだけでもすごいですよね。

小林　復帰戦も見に行きましたけど、結構長いこと試合してましたもんね。しかも肉離れしてもあれだけ試合するんですから。佐山さんは肉離れをしょっちゅうするんですけど、練習では普通に動いてますからね。

——その佐山さんが藤原先生とバリバリ練習した後に、アイスを食べてたって話を聞いたんですけど（笑）。

小林　ああ、アイスとかジュースはいっつもですね。インターバルにジュース飲んだり。

——あ、いっつもですか（笑）。

小林　昔の道場は目の前に自動販売機があったんですよ。だから、小銭と携帯電話をいっつもリングサイドに置いといて、終わるたんびに小銭出して買ってましたね（笑）。

——だったら痩せるわけがないですよね（笑）。

小林　そういえば、最近よく前田（日明）さんと会うんですよ。前田（秀夫）先生の関係で。

——小林さんが腕を治療しに行ったら前田さんが「ちょっと待っててくれ」って言って、激励しに来たらしいですね。前田さんは好きだったんですか?

小林　好きですね。ＵＷＦ好きでしたから。あとU系だと藤原善明さんも応援してましたね。藤原組はリングで結婚式とかやってましたけど、そのイベントで僕もキックボクシングショーとかやったりしてたし。

——あれは小林さんだったんですか（笑）。

小林　そう（笑）。北星ジムにいたころはジムにリングがなかったんで、よく試合前は藤原組の道場に行ってスパーリングをしてたんですよ。

——藤原組の選手とも肌を合わせたりしたんですか?

小林　いや、それはなかったですけど、逆に船木（誠勝）さんや冨宅（飛駈）とかが練習来てましたよ。藤原組は鈴木みのる以外はみんな来てたんじゃないですかね。いまのジムには山本宣久さんや田村潔司さんとかも来てましたし、U系とは接点がかなりあるんですよ。

——ヤマヨシは藤原ジムでずっと鉄柱蹴ってたっていう伝説がありますよね。

小林　どうなんスかね?　血尿出したって話ですよね。

——「血尿、血便は当たり前の世界！」って言ってましたけど（笑）。

小林　ホントに出たのかな?　でも、彼は頑張ってましたし、キックのセンスはある方だと思いますよ。

Satoru Kobayashi

——あと、小林さんはバトラーツとの繋がりも深いんですよね。

小林　いまバトで『ビールでムエタイ』とかやってるんですけど、あそこに出てるタイ人、みんな僕が紹介してるんですよ。『ビールでムエタイ』って、ムエタイは1試合しかないんですけど（笑）。

——スマックガールの提供試合とかがあるみたいですね（笑）。昔、バトでキック教室をやってましたけど、あそこにウチの編集者も通ってたんですよ。

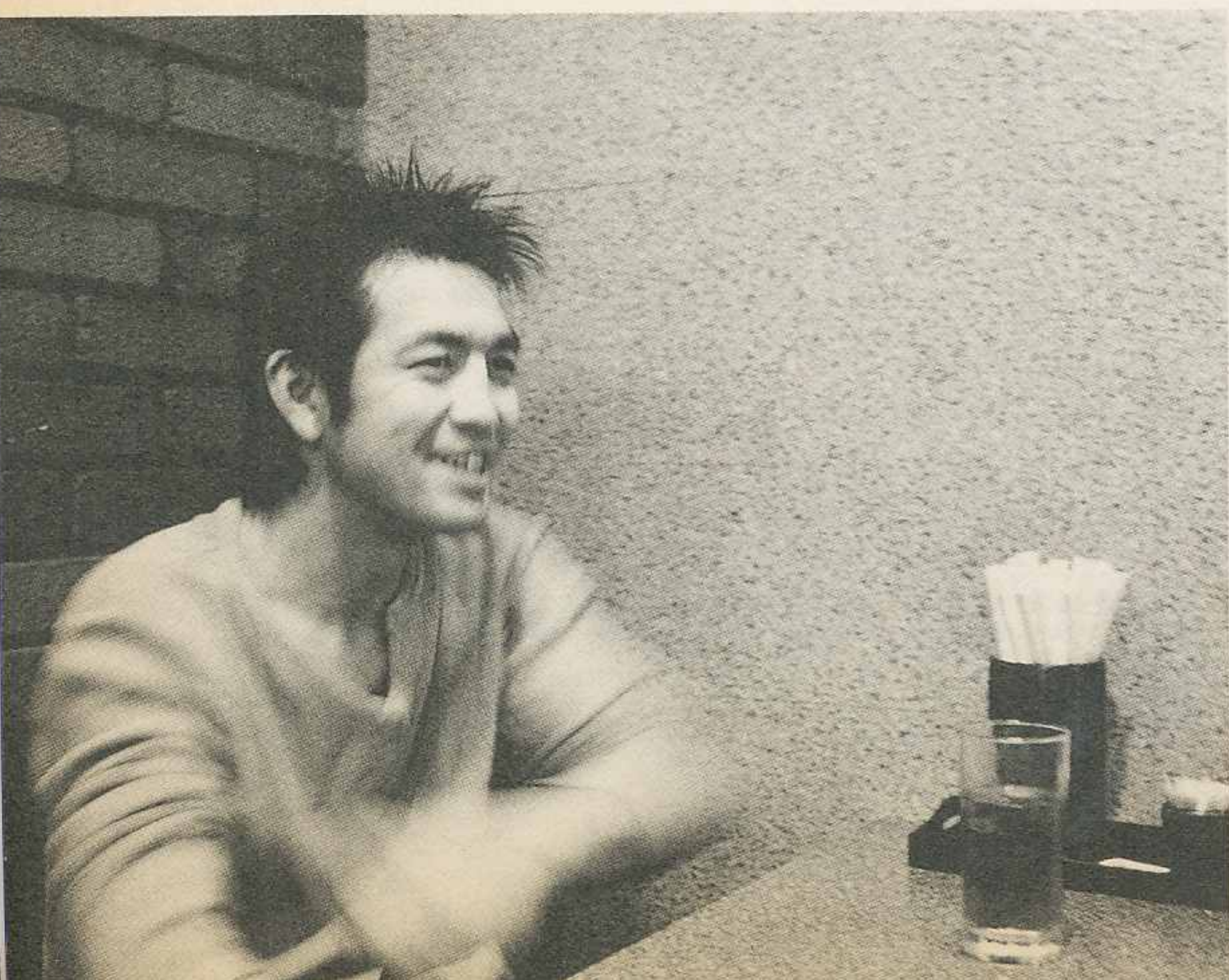
小林　あ、ささきぃですよね。1回だけ教えたことありますよ。いまでも『紙プロ』にいるんですか?

——はい（笑）。

小林　あとバトといえば、長野の興行でウチの先輩がチケット売りとか手伝ってて、「小林をエキジビションで出してくれたらチケット売れる」みたいなこと言ったら、島田さんが「ぜひお願いします」って頼んできて。それで僕が出てたんですけどね。

——長野の興行って、温泉宿をやってる弥次郎って人がやってたやつですよね。

小林　はいはい。なんか、ネットでバトラーツの興行の内側を全部バラして揉めたみたいですね。

——島田さんの悪口を散々書いてたんですけど（笑）。小林さんから見て島田さんはどんな人で

ね（笑）。
―あ、そ
加藤ちゃん
ですよ、マジ
桜庭　ウヒ
―そんな
場を忘れて
いましたけど
桜庭　でも、
体的に試合
たりですよね
―いや、執
桜庭　判定
ったし、基本
決まってたけ
―3、6
『PRIDE
1回終わる
うないだろ"
にまたクリア
桜庭　年末
ですよ～。
―確かに年
サイクル的に
続くことはな
う恐怖感は
（笑）。でもそ
「ハズさない
って言われ
桜庭　……
が多いから
―昔から
現役でやり
ど、当然、
すよね。
桜庭　全然
だって（ラン

すか？

小林　島田さん……何を考えてるのかわかんない（笑）。

―ダハハハ！　だけど、会えば「いつも試合見てるよ！」「小林さんは最高だよ！」ぐらいのことは言いますよね（笑）。

小林　そうそうそう！　っていうか、ホントはどう思ってんのかなってね（笑）。

―そんな島田さんは、いまや石川社長とはシュートな関係みたいですけど。

小林　噂によるとそうらしいですね。バトって島田さん派以外、辞めた選手の仲いいんですよ。石川屋には臼田（勝美）さんや日高（郁人）さんとか、みんな来てますし。

―小林さんは石川派なわけですか？

小林　まあ、どっちかっていったら石川派ですねえ（笑）。島田さんにイヤなことされたとか、嫌いになったとかじゃないですけど。ただ、石川さんはいま焼き鳥屋に一生懸命になっちゃってるからなあ。自分のスタイル崩さないのはいいんですけど、西村（修）選手みたいにプロレス界で生き残る方法を見つけてほしいですね。

―いまのバト勢は、みんなろくに光れてないですしね。

小林　面白かったんですけどね、バトラーツ。村上和成選手と抗争してたときとかもAV女優を連れてきて（笑）。

―村上さんが交際していたといわれる青山ちはるですね（笑）。アレクも『PRIDE』ではいい試合をしてた時期もあったけど、いまはホントにダメですからね。

小林　そうですねえ。アレクさんとは年賀状やりあってる仲なんですけど……。

―こないだのZERO-ONEでは、不甲斐ない試合をして泣いちゃったらしいですからね。

小林　え!?　……泣くなよ。

―ホントそうなんですよ！　ナチュラルヒールではあるんだけど、ヒールをやるほどの技量はないですからね。小野武志さんは総合格闘家になっちゃいましたけど、いまでも交流はあるんですか？

小林　もうバトにも顔出さないし、交流ないですね。よくキックのスパーリングしましたし、センスあったんですけど、試合に出てるんですか？

―こないだ『格闘技の祭典』に出てましたね。RJWの星野選手とやったんですけど。

小林　勝ちました？

―残念ながら負けました。一時は「バトの道場王」と呼ばれてて、ちゃんとやれば強くなれるはずだったのに、どうやら夜遊びの方が好きだったみたいで（笑）。

小林　……なんだか暗い話になりましたねえ。

―唯一の成功者だったような田中（稔）さんもヒートになってから光が消えたし。成功してるのは島田さんとショー・フナキぐらいですよね。日高さんもZERO-ONEなんかで持ち味を発揮してますけど。

小林　一番仲いいのは日高さんなんですよ。よくお互いの試合行き来してますし、伊藤崇文とVTやったときも、ずっとマンツーマンで練習してたんですよ。でも、試合が始まったら全然キックの展開になんなくて（笑）。

―小林さんはセコンドにも付いてたんですよね。

小林　緒方健一君（シュートボクシング）がリングスに上がったときもセコンド付いたんですけど、打撃の展開に一切なんなくてね。「二度と総合のセコンドは付かねえ！」と思って（笑）。

―全然アドバイスできませんでしたか（笑）。

小林　佐藤ルミナさんが言ってんのをリピートしてるだけですよ。日高さんのときも平（直行）さんのリピートしてて（笑）。

―一体、何しに来たんだって（笑）。

小林　あと、山本宜久さんが『PRIDE』でアスエリオ・シウバとやったときもセコンドで大阪まで行ったんですけど、11秒で終了したからビックリしましたよ！

―そのときは言葉すら発してないわけですか（笑）。

小林　こっちは気合入れて行ったのに「え？　もう終わり？　嘘！」って。成瀬さんとかも来てたんですけど、試合が終わったらみんなすぐ帰っちゃうし。山本さん、ひとりぼっちで可哀相だから僕が残ったんですけどね。

―残っても気まずいですよねえ……。

小林　とりあえず「飯喰いに行こうよ」って、暗い雰囲気で焼肉食って。ホントに……何を喋ってていいかわかんなかったですね。

―面識のある人がシュートで負けてく様っていうのは、見てて切なくないですか？　臼田さんの『DEEP』にしても。

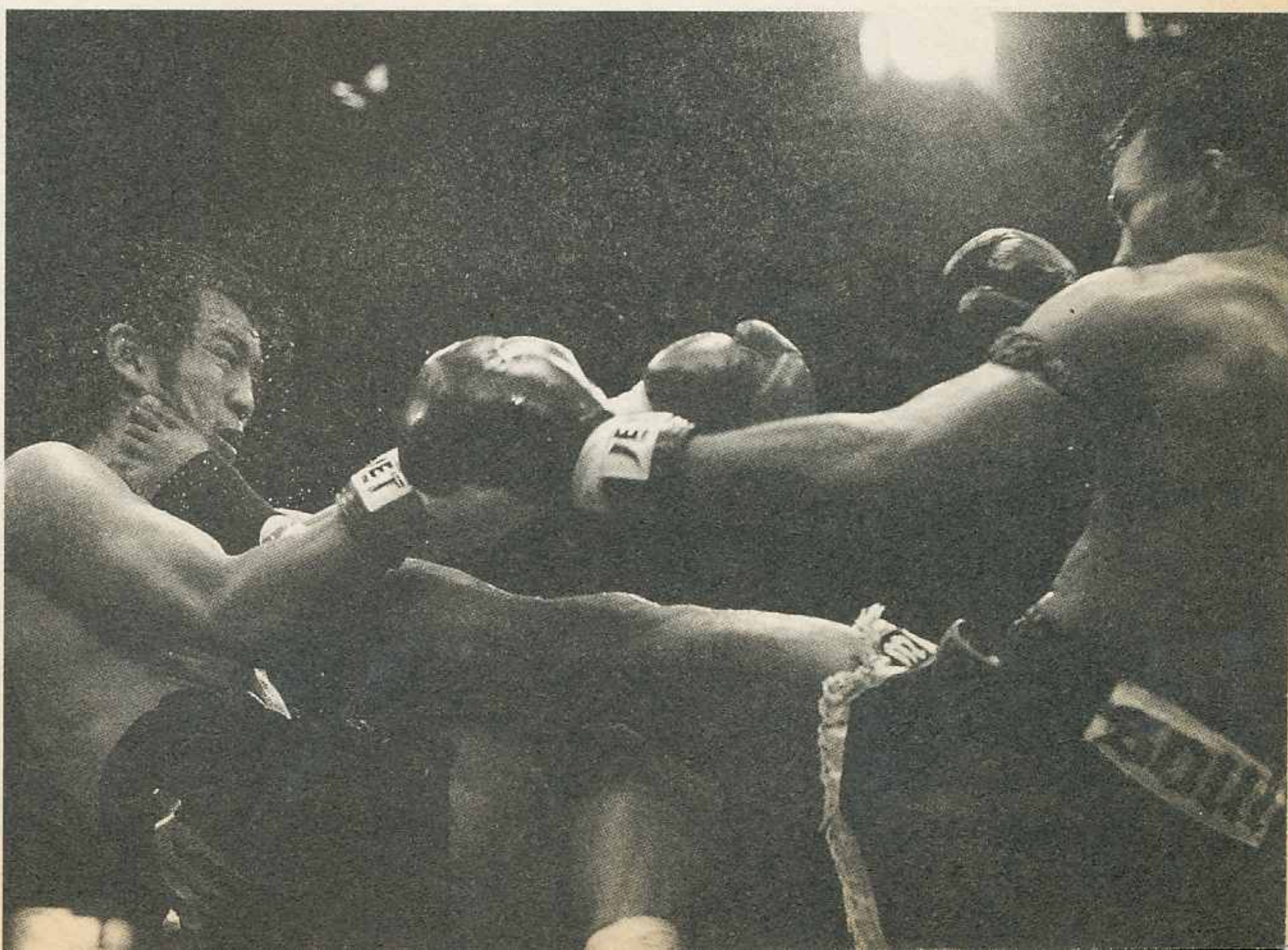
小林　ああ、長南（亮）にやられたときは、ちょっと切なかったですねえ……。

―しかも秒殺のうえにアゴの骨を折る重傷ですからね。

小林　俺、その前日にサムゴーにKOされてるし、余計に見て悲しくなりましたね。

―ちなみに格闘家って「プロレスは絶対ダメだ」みたいなアレルギーのある人も多いわけですけど。

小林　僕はプロレスだと思って

サムゴーにやられたときは悔しいというよりも感動したというか、この牙城まで行きたいなと

02年9月6日後楽園ホール。キック通ですら凍りつく強さを誇る現役ルンピニー王者、サムゴーにKO負けした小林。当面の目標はサムゴーとなる。なお、サムゴー"伝家の宝刀"左ミドルは、「サムゴー・スペシャル　左ミドル50連発」ミット蹴りデモンストレーションが行われるほど看板になっている

見るから全然問題ないですよ。マスコミにもやけにアレルギーある人もいますけど（笑）。

―小林さんは割り切って見てるわけですか？

小林　ですね。DDTにKUDOっているじゃないですか。キックの試合を2、3戦していてボクが教えてたりしてたんですよ。

―そんな繋がりもあるんですか。

小林　こないだDDTを観に行ったら、男色ディーノから逃げ回ってましたけどね（笑）。『紙プロ』読者の皆さんもKUDOを応援してください！

―他に見に行く団体ってあります？

小林　こないだ日高さんの招待でZERO-ONEも観に行ったけど、ホント楽しかったですよ。いまは大谷晋二郎が好きですね。喋りもいいし、試合も面白いし。「プロレスの教科書」とか、よく考えついて言いますよね。

―すべてが過剰なんですよね、

ホント（笑）。さっきジムの本棚見てたら普通にミスター高橋さんの本が並んでましたけど、あの暴露本は読まれたんですか？

小林　読みました。別になんとも思わなかったですよ。

――大体想像した通りの内容、と。

小林　そうですね。あれは入院中に鈴木健さんの本と一緒に読みました。

――あ、『Uインターの真実』と合わせて読みましたか（笑）。

小林　それには野呂田先生が出てきたから「先生、出てましたよ」とか言ったら、「いろいろあんだよ」って含みを持たせてましたけど（笑）。

――あと、本棚に力道山の本があったのは、小林さんが会いたい人に「力道山」と挙げていたことと関係があるんですか？

小林　ああ、あれは気持ちはこもってないですね。面白いかなって思ってボケただけなんですけど（笑）。

――狙いがボンヤリし過ぎてますよ（笑）。

小林　いや、猪木さんって力道山が師匠だったじゃないですか？　僕も偉大な師匠がいるんで、そういう意味……って、全然わけわかんないな（笑）。

――ちなみにレスラーではいま誰が好きなんですか？

小林　高山選手と桜庭選手。桜庭選手は試合が面白いし、高山さんとはタイの大使館で会ったことあるんですけど、大使館のお祭りで僕がエキジビションやったんですよ。そのときになぜか高山さんとスティーブン・セガールが来てて。

――不思議な組み合わせですね（笑）。

小林　そう（笑）。高山さんってあんなに毒舌吐いてるけど、あの人を悪く言う人いないですよね。普段も悪かったらただの根性汚い人なんですけど（笑）。

――高山さんの、そういうプロレスラー的な面が好きなんですか？

小林　総合も含めて両方かな。総合は1回も勝ってないけど、試合は面白いから（笑）。普通の純格闘家はあんまり好きじゃないですよ。

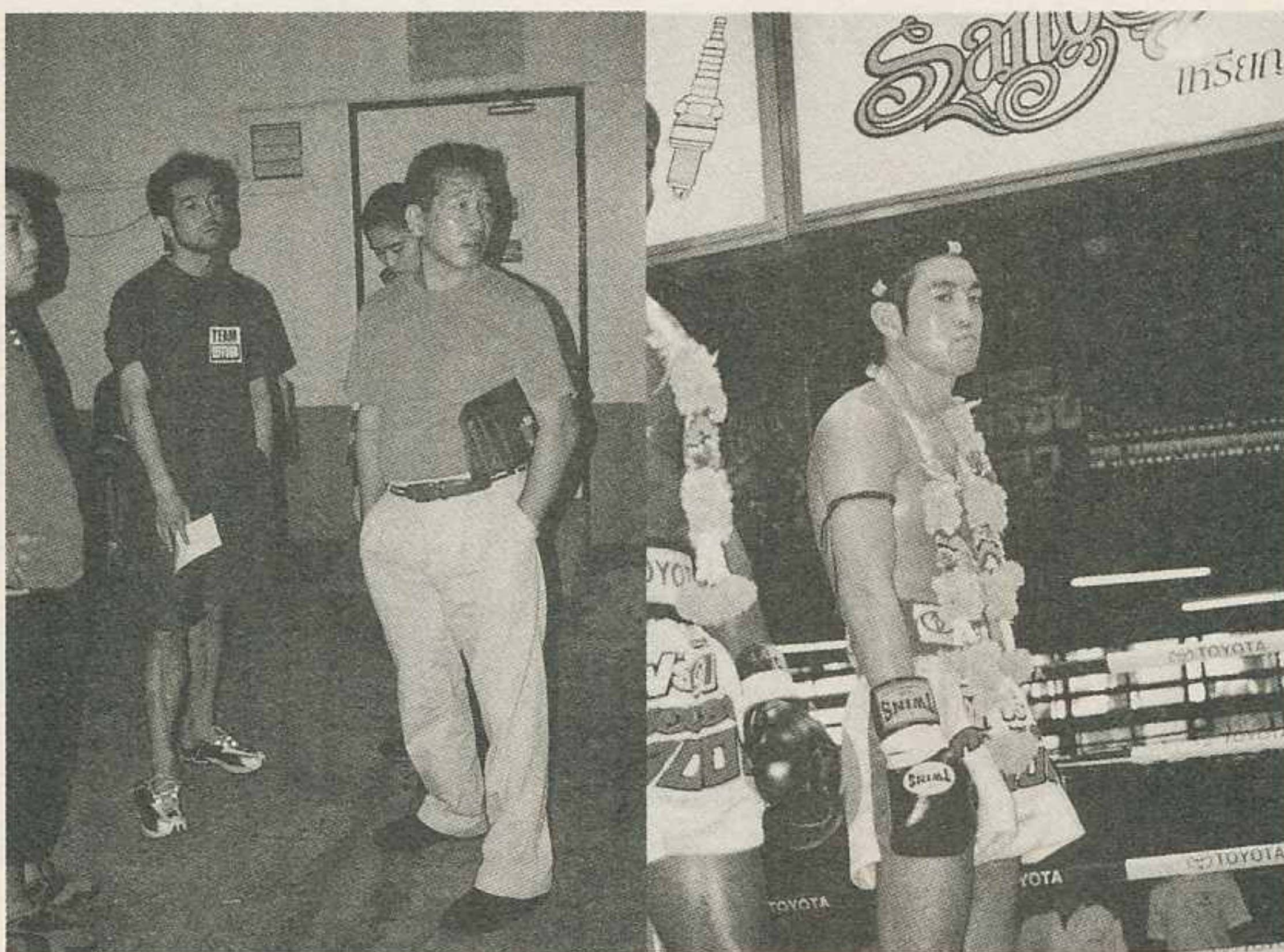
――「プロ意識あるのか？」って感じですか（笑）。

小林　（唐突に）桜庭選手、吉田選手相手に恥ずかし固めやってほしいなあ。

――ダハハハハ！　まあ、吉田さんへの反発は多いですよね。ベビーフェイスで売ろうとしてるのに、ファンがまったくついてきてないし。

小林　田村さんとやったときも声援が全然なかったからなあ。

――ちなみにプロレスラーのシュートファイトで一番見たいカードってなんですか？

小林　みんなにやってほしいですよ！　前に『Dynamite!』で天龍（源一郎）がヴァンダレイ・シウバとやるって噂があったときは、ホントにウキウキしてたんですけど（笑）。

休憩や特別試合を挟まずに、1回戦から決勝戦までを一気に消化するムエタイ地獄変！　昨年、12月にタイにて行われた8選手参加の1DAYトーナメント『ムエマラソン』。小林は惜しくも準優勝に終った。もちろん藤原先生も同行している

Satoru Kobayashi

――完全にファンの視点ですね（笑）。小林さんが総合をやる気はないんですか？

小林　いまはないですね。見てるだけですよ。

――総合のスパーリングとかもしてないんですか？

小林　レスリングのスパーリングはしょっちゅう。藤原先生はタイ人を抱えてダダダダッてロープ際まで走るのをやってたけど、先生はずっとレスリングをやってたからできるんですよね。俺もそれをやりたいから。

――藤原先生はキックの試合で投げもやってましたからね（笑）。

小林　それで藤原先生に拓大のレスリング部を紹介してもらったんですけど、みんな俺の練習付き合ってるどころじゃないんですよ。そしたら自衛隊学校のコーチが来てて、「ウチ来たらいいよ」って誘われたら杉浦（貴）さんがいて。ノアに入る前ですけど、結構格闘技詳しいんですよね。

――杉浦さんも普通のファンですからね。

小林　僕のことも詳しくて、よく話しかけてくれたんですよ。そうこうしてるうちに自衛隊学校に行かなくなったら、急にプロレス入っててビックリですよ。結構いい歳だったんですけどね。

――転向といえば、ちょうど今日発表された曙のK-1参戦話を聞きたかったんですけど。同じ立ち技の人間としてどう思いますか？

小林　曙？　他人事だから面白いですよ！

――まあ、闘うことはまずないし（笑）。

小林　でも、なんで彼はK-1なんですか？　相撲協会にいれば普通に給料もらえるんじゃないんですか。

――それ以上のお金が積まれたってことなんでしょうね。

小林　ああ、そうか。しかし、曙なんて誰も思ってなかったですよね。よく目をつけましたよね。

――完全に盲点ですよね。最強幻想はないけど、とりあえず知名度はありますし。小林さんは『K-1MAX』（以下『MAX』）に興味ないんですか？

小林　やってれば見ますけど。やるとなると、70キロはちょっとつらいな（笑）。

――体重的な問題が大きいんですね。

小林　俺、62キロですから。プロは見てもらってナンボですから、そういう機会は欲しいですけどね。

――須藤元気さんと話したときも「世間の反響が全然違う。いままでの自分のキャリアは何なのかと思った」って言ってましたし、魔裟斗さんの知名度の上がり方とかも尋常じゃないですからね。いまや「私、プロレス好きなの。魔裟斗とか」ってボンヤリしたことを口にする女の子もけっこういるし。

小林　マジですか！　プロレスの魔裟斗か……（笑）。もはや競技じゃないんでしょうね。職業・魔裟斗って感じで。ボブ・サップもそうですけど。

――「K-1の」じゃないですもんね。そもそも猪木さんだって新日本を旗揚げしたときは会場もガラガラだったのが、テレビ放送が付いたことで逆転したわけですからね。

小林　だから小川直也選手も一生懸命、ドラマや『夜もヒッパレ』出たりするんですよね。

――だから、小林さんも何かしら利用すべきですよ！

小林　その方法が見つからないんですよ、いま。吉田さん、ス

トーリー作ってくださいよ！
――なんでボクがやるんですか（笑）。小林さんは基本的には金では動かないタイプなんですよね。
小林　いや、全然そんなことないですよ！　一億円積まれたら動きます（笑）。
――大金を積まれて「総合格闘技に出ないか？」っていう話があったらどうですか？
小林　一億円積まれたら出ますけど、『ＰＲＩＤＥ』って百瀬（博教）さんがマッチメイクをやってるんですよね？
――いや、百瀬さんは選手の名前すらよく知らないからマッチメイクなんかできないですよ。
小林　あ、そうなんですか？　だけど、試合が終わると、みんな百瀬さんのところに挨拶に行くじゃないですか。
――あれも、お小遣いを10万円単位で渡してくれるタニマチにお礼をしてるだけなんだと思いますよ。
小林　10万円単位のお小遣いって何ですか、それ！　ボクにもお金くれる人いたら紹介してほしいですよ、ホント（笑）。
――ダハハハ！　目立つ方法とスポンサーを募集ですか（笑）。
小林　そうですねえ。ウチの興行にも百瀬さん、来ないかなあ……。
――ダハハハハ！　ぜひとも、今度の『藤原祭』に来てほしいですね（笑）。藤原先生が言うとおり、前田さんと佐山さんが同席するのであればかなり刺激的な興行になると思うんですけど。
小林　あと11月23日の大会には前田さんが花束持って来るんですけど、リングサイドにはパンクラスの尾崎社長が来ると思うんですよねえ（苦笑）。
――それ、本格的にヤバいじゃないですか！
小林　それと『藤原祭り』では僕、総合のタッグマッチやりますからね。宇野（薫）君と組んで、藤原敏男＆ミスターＸ（後日、国奥麒樹真に決定）とやるんですよ。最初は、僕と武田幸三のエキジビションをやろうと思ったんですけど新日本キックが「ダメ」ってことで、村浜武洋にオファーしたら同日にデルフィンアリーナでプロレスの試合があるらしくて。
――結局、タッグマッチに落ち着いたわけですね。しかし、このタッグマッチは楽しみですよ！
小林　エキジビションっていってもマジに近いような緊張感ですからね。前に宇野君とエキシビジョンやったときも「こいつ、なんか仕掛けてくるのかな？」って思いながらやりましたから（笑）。
――あの宇野君に、いつ裏切られるかわからないような緊張感ですか（笑）。
小林　まさかと思うけどリングに上がれば……ねえ。
――まあ、やったもん勝ちの世界ですからね。
小林　そうそうそう。で、そういう空気じゃないと面白くないしね、やる方としても。そんな面白いと思えるタッグマッチだったら、見に来てくださいよ（笑）。ミスターＸは……まだどうなるかわからないけど。誰かいませんかね？
チョロ　（突然割って入り）Ｗ　Ｊの中嶋君なんかどうですか？　小林さんと同じ15歳でデビューしたって繋がりで（笑）。
小林　15歳繋がりって、そんなんでいいんですか？（笑）。
――小林さんは中嶋君が生まれたときにすでに試合してたわけだから、ドラマとしても面白いですよ。
小林　そうかあ……できればやりたいですねえ。あと僕と闘って面白い選手いません？　その試合が地上波で流れるような選手。

【こばやし・さとし】1972年3月16日、長野県出身。170センチ、63キロ。全日本キックのライト級のエースとして活躍。ラジャダムナン現役王者を壮絶な打ち合いの末、KOした勲章を持つ。6月に右ヒジを手術、11・23後楽園大会で5・23花戸忍戦以来の再起戦に臨む。WKA世界ムエタイ・ライト級王者、WPKC世界ムエタイ・ライト級王者。藤原ジム所属。入場テーマは「キッズ・リターン」。

海外でのフリー宣言はストロング小林のマネだったけど、気づいてもらえなかった（笑）

――やっぱり『ＭＡＸ』が一番手っ取り早いと思いますけど、小林さん的に「こいつに仕掛けたら面白くなる」みたいな相手はいないんですか？
小林　昔だったら畑山（隆則）とかですね。昔は挑戦したかったんですけど、たぶん3年前の俺だったら……まあ、いまでもそうですけど、まず相手にしてくれないでしょ？　あと徳山（昌守）が「Ｋ-1でやりたい」とか言ってますけど、あれホントなんですか？
――いまのＫ-１の流れだったら、条件次第でありえるとは思いますよ。
小林　徳山だったら、僕ぐらいの体重でもやれると思いますね。
――大晦日の興行戦争でカード不足になってるから、それが組めれば地上派ゴールデンも全然ありですよ！
小林　頼みますよ、吉田さん！
――ダハハハ！　だから、なんでボクがやるんですか（笑）。
小林　『紙プロ』でいろいろ仕掛けてくださいよ（笑）。
――個人的には「打倒ムエタイ」よりも、青柳館長みたいに「打倒プロレス」の方がキャッチーな感じがしますけどね。
小林　「打倒プロレス」って、ボク62キロですよ（笑）。「お前、何言ってんだ」って言われちゃいますよ。
――ジュニアヘビーでも軽すぎますね（笑）。
小林　（急に思いついたように）中嶋君、何キロぐらいですか？　中嶋君とやりたい！
――ダハハハハ！　今度は対戦表明ですか（笑）。
小林　中嶋君に「仕事がなかったら俺がやってやる」って言っておいてくださいよ。「とりあえずエキジビションでやりましょう」って（笑）。
――そのカードが実現した暁には、『紙プロ』でターザンに試合レポートを書いてもらいますよ（笑）。

【03年11月6日／藤原ジム近くの焼き肉屋にて収録】

「ゲストとして前田日明、佐山聡、藤原組長も呼ぶ」（藤原先生）
12・7『藤原祭り』
～藤原敏男・キック35周年記念大会～

【日時】　12月7日　5:10～
【会場】　後楽園ホール
【お問い合わせ】　藤原ジム　TEL.03-3805-1457
全日本キック　TEL.03-3805-1457

●総合エキシビジョン●
藤原敏夫＆国奥麒樹真 vs 小林聡＆宇野薫

●キックエキシビジョン●
小林聡 vs 宇野薫

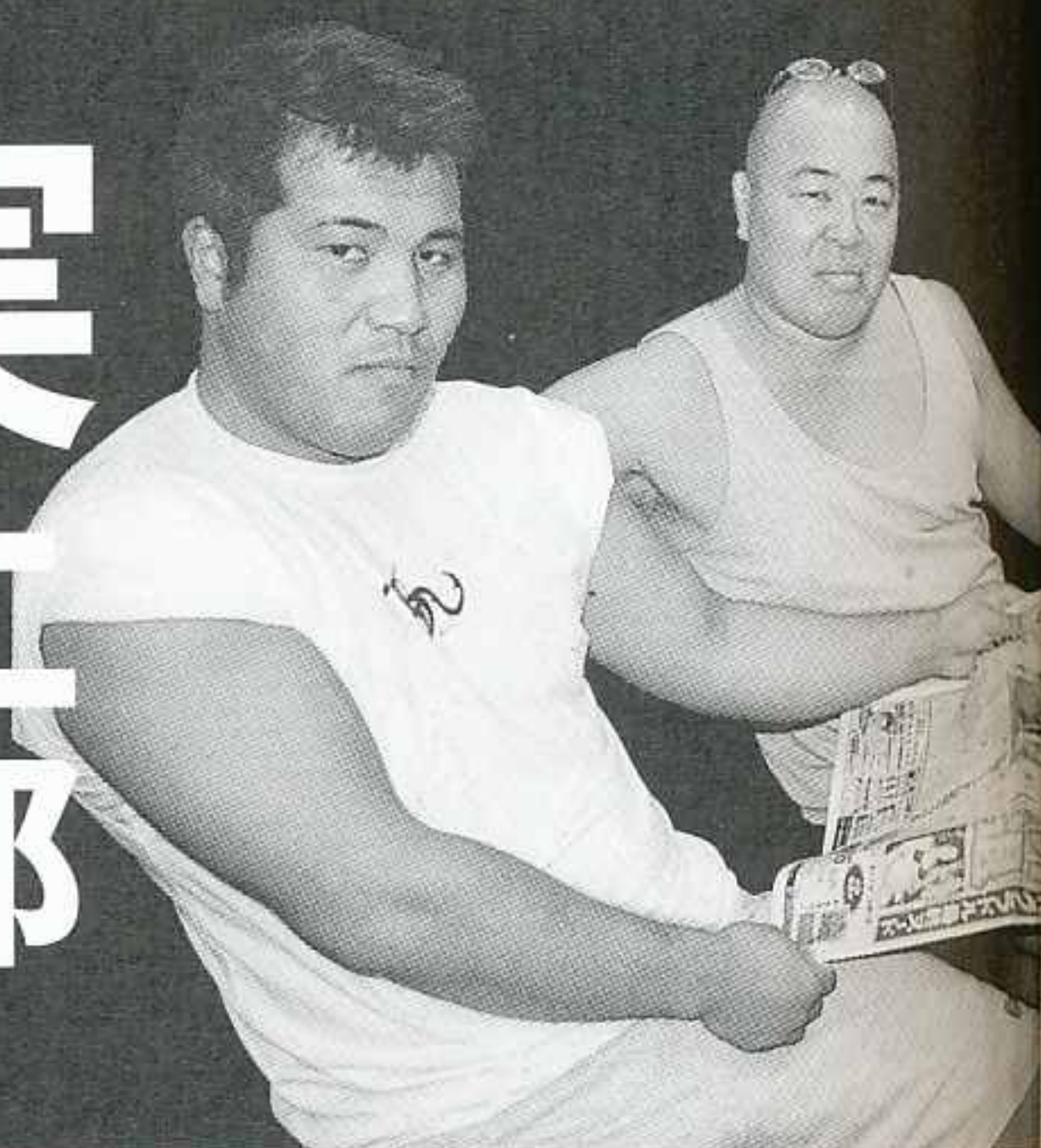
◎その他、掣圏戦士、シュートボクシング、リトアニア、極真、格闘結社田中塾より、男たちが続々参戦!!

労働組合軍

LABOR UNIONのガチンココンビが語る

“ド真ん中”の真実

いま、一番先の動向が読めない団体と言えば、WJである。今回のド真ん中特集に登場するのは、WJマットで反選手会同盟改めLOBOR UNION（労働組合）として好き勝手に暴れている安生洋二と木村浩一郎。キャリアも豊富で、これまで様々な団体で試合をしてきた2人だが、意外や意外、WJで初遭遇。総合格闘家としても活躍する2人のガチンコトークを堪能あれ！

安生　洋二
木村浩一郎

聞き手＆構成／松澤チョロ　designed by Tani-Yan (Two three)

――様々な噂が飛び交っているWJで、いま一番イキイキと闘っているように見える反選手会同盟改めLABOR UNIONの安生さんと木村さんにお話を聞かせてもらおうと思っています。

安生　は⁉（木村に向かって）何なのLABOR UNIONって？

木村　いや、オレも知りません。

――一応、労働組合の英語訳がLABOR UNIONってことみたいなんですが、ご存知ないですか？（笑）。

安生　そんなの聞いてないよぉ！

木村　越中（詩郎）さんも大森（隆男）も知らないと思うよ（笑）。たぶん、『東スポ』とかが付けたんじゃないの。

――それはありえますね（笑）。で、ぶっちゃけいかがですか、最近のWJは？

安生　全然イキイキしてねえよ！　こっちはヤケになってるだけだよ。

――アハハハ！　それが本音ですか（笑）。

安生　オレらは常に本音……だよな？

木村　そうッスね。

――静岡大会でのWJ本隊との4vs4マッチでも、試合をしなかった永島さんに試合後、土下座を要求してましたけど、あれなんかも本音ですよね。

安生　オレは土下座させたいなんて言ってないよ。……あれ、言ったっけ？（笑）。

木村　「客に頭下げろ！」って言ってましたよ（笑）。でも当然だと思うよ。それを期待して来た人も何人かいたわけでしょ。

安生　そういう当たり前のことができないから、こういう現状になるんだよ。それに、いまみたいになってから慌てたってしょうがないっつーの。もっと早めに慌てろっていうか、団体作る前に気づけってことだよ。

――気付くのが遅かったと（笑）。安生さんから見るともう手遅れなんですか？

安生　（素になって）手遅れなんじゃないの？　わかんないけど（笑）。ただね、やっぱりオレら4人がまとまったっていうことで発言権が強まったっていう部分はあるからね。ギャラの遅配がなんやかんやと言われてたけど、そ

小林　10万円単位のお小遣いっ
日、国奥麒樹真に決定）とやる
しね、やる方としても。そんな面
小林　頼みますよ、吉
「ゲ
～

ボクらはド真ん中言われても何のことやらさっぱりわかんない

の辺は組合は一致団結してちゃんと貰えるようになったっつうのは4対4も無駄ではなかったかな、と。もう、このリングはね、ドンドン発言して力でぶん取るしかなくなってるからね。

──『力しか信じない』っていう本を昔、長州さんが出してましたけど、本のタイトル通りなんですね（笑）。

安生　その通りだよ。結局、早いもん勝ちだからね。ギャラの取り合いですよ、いま。

──そうなんですか（笑）。ということは、安生さんと木村さんに関してはギャラの遅配はないってことですね。

安生　そういうこ……。

木村　（遮って）いや、まだ遅れてますよ。

安生　お前も堅い男だねぇ（笑）。そこで堅くなんなくてもいいだろ？

木村　アッハッハッハッハッ！

安生　オレらが力でぶん取ったっていうことでいいじゃねえかよ！（笑）。

木村　はい。力でぶん取りました（苦笑）。

安生　そう！　リング上で4人も集まれば発言権も強まる、と。そういうふうに言っておけばいいのに、そこでガチンコになることねえんだよ！（笑）。

木村　（感心して）うまいよなぁ（笑）。

安生　うまいとかじゃなくて、ホント頼むよぉ！（笑）。なんか、お前とは、いいコンビ組めそうにねえなぁ（苦笑）。

木村　っていうか、事前の打ち合わせと全然違うじゃないですか！（笑）。

安生　アッハッハッハッハッ！　お前ねぇ、プロレスは臨機応変だろうが。それに付いていけない、お前も古いよ！（笑）。

──木村さんはアドリブが効かないと？

安生　まだまだダメだね（笑）。

──強引にまとめると、まだ出てない人もいる中で、労働組合軍は力で奪い取ったってことでいいんですかね？（笑）。

安生　そう。そういうことだよ！

木村　まあ、ぶっちゃけ、いまはもう4vs4をストレートで勝っちゃったから、もう目標がないって言うのもあるんですよね。

安生　もう試合するのもなんかバカらしいから、こうなりゃメチャメチャに引っかき回してやろうかなぐらいですよ。もう結果出ちゃってるから、もう新たなね……例えばグッズ売り上げのパーセンテージをもらえるとかさ、そういう何らかがあれば、ちょっとはやる気にもなるけどね。

──ただグッズ売り上げも、あまり芳しくないみたいですけどね（笑）。

安生　いや、芳しくない中でもね、ぶん取っていかなきゃしょうがないんだよ、ここは（笑）。まあ、ひとつ言えるのはオレらは金のある側に付く！　これだけだよね。

──となると、ＷＪでは福田社長になりますよね。

安生　そうだね。現時点では最有力ですよ。それか、大森君あたりに現場の責任者の権限を福田社長が与えて「永島・長州はもういらねえ！」と。そうするしかないでしょ。

──マッチメークから何から、労働組合軍に任せろ、と。

木村　でも大森には無理でしょ？（笑）。

安生　出たよ、ガチトーク（笑）。そう思ってても、そういうこと言わないの！

木村　だって無理ですよ、大森には（笑）。

安生　（無視して）まあでも、やっぱり長州力の知名度っていうのは、まだまだあるんでね。コツコツと第一試合とかで若手相手に「ド真ん中とは何か？」というのを叩き込んでもらえりゃいいんじゃないの。まあ、ボクらはド真ん中言われても何のことやらさっぱりわかんないけど（苦笑）。

──ド真ん中の意味は、いまだにわからないですか？（笑）。

安生　さっぱりわかんないよ。でもホント、そのコンセプトがダメだとかじゃなくてね、ダメだと思ったら修正しながらやっていくとか、こうなった場合はどうするとかいうのを、ある程度ちゃんと絵を描いた上での旗揚げだと思ってたんだけどね。

──旗揚げ前は景気のいい話がバンバン出てましたからね（笑）。

安生　そうそう。金集まってるから何年間は大丈夫だろぐらいの話ばっかり聞こえてきたからねぇ（しみじみと）。事務所の規模やら、移動バスやら、「おぉ、大手だな、ここは」って思って入ってきたボクらは見事にダマされちゃったわけですよ（苦笑）。

──アハハハ！　安生さんは、夢と希望を持って主戦場を全日本からＷＪへと変えたんでしょうからね（笑）。

安生　そうだったんだけどねぇ（しみじみと）。まあリング内でもＮＯＡＨから大森も来るとか、このリングでは新鮮な闘いが見れるんではないかとか思ってたしね。

木村　でも結局、みんな金ですよね（笑）。

安生　そう！（笑）。でも、それで「ド真ん中ド真ん中」言われても、じゃあ誰がド真ん中の気持ちで付いてきてるんだってなっちゃうじゃない？　結局、金が出なくなったら外出ちゃったりするわけでしょ。まだ金が貰えなくなってもやってるオレらの方がね、まあ文句はブーたれてますけど（笑）、ましかなと思うわけですよ。

──矢口さんから聞いたんですけど、フリーの3人で「オレらは疫病神か」って話も出たみたいですね（笑）。

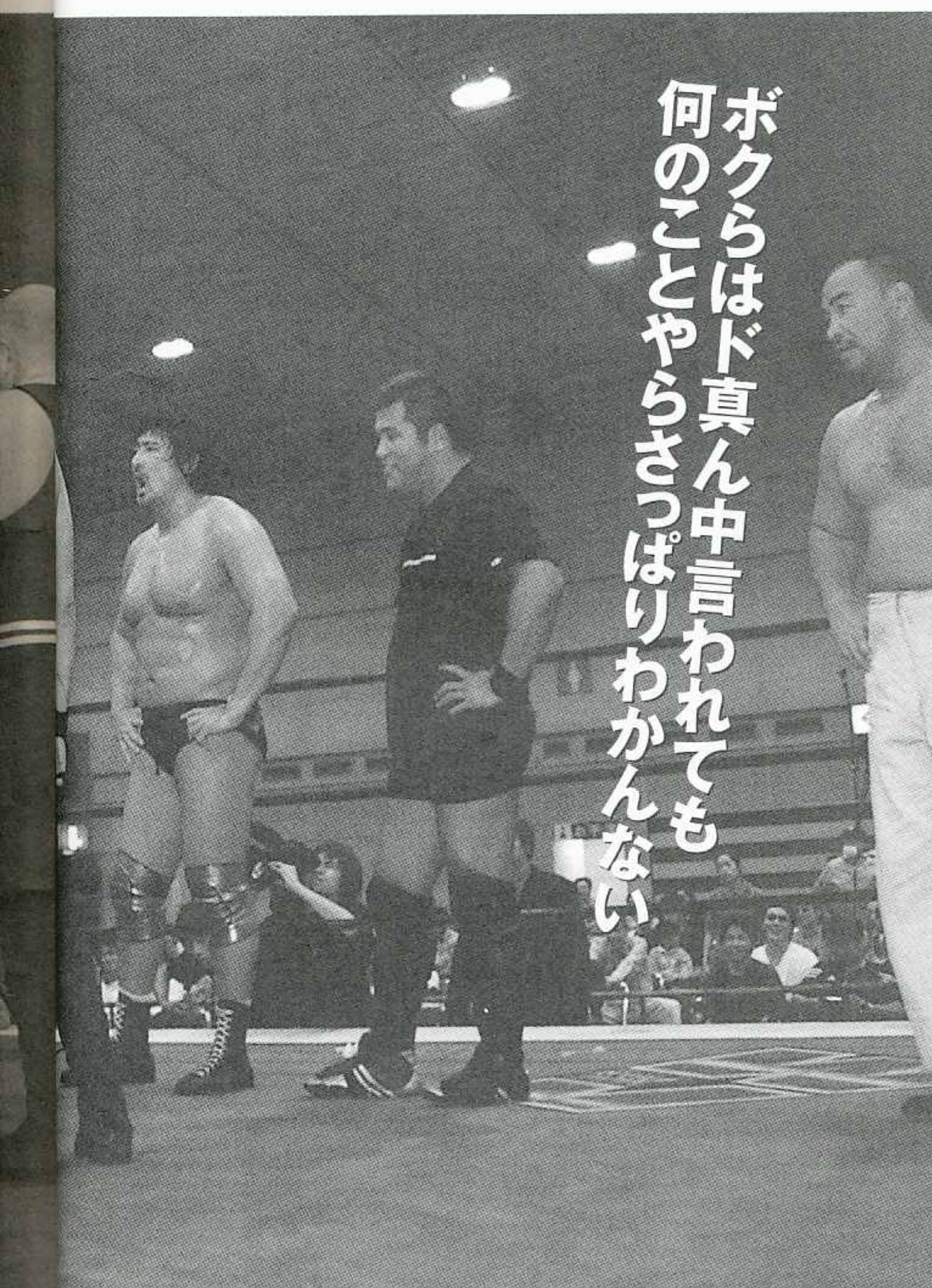
安生　知らねえよ！　そんな話してねえよ！　作ってんじゃねえの？（笑）。

──でも実際、2人とも団体崩壊の危機には何度か直面してるじゃないですか？　特に安生さんは（笑）。これまで、Ｕインター、キングダム、東京プロレス……。

安生　（遮って）お前は何が言いたいんだよ！（笑）。オレが疫病神だと思ってるのか、コノヤロー!!

──いやいや、そんなことはないです（笑）。でも、これまでのレスラー人生の中で、そういうこともありましたよね。

安生　でも、こんな短期間でここまで落ちたとこは見たことないよ。

木村　オレもないッスよ（笑）。でもね、やっぱり金がなくなってみんなバイバイしちゃった中でね、大森とか安生さんもそうだけど、残ったっていうのは凄いと思うよね。やっぱ

りWJへの愛着がどっかに残ってるのかもしれない。

安生　そんなもん、オレにはないよ！（笑）。

――アハハハ！　でも、この間の静岡大会でも安生さんのマイクアピールには大歓声が飛んでたし、最近ファンの支持は凄いじゃないですか？

安生　あれはファンの支持っていうより、喋ってるオレの顔が面白くて騒いでたんじゃないの（笑）。

木村　そうかもしれないッスね（笑）。

安生　だからオレの表現力の賜物なんだよ！　喋ってる内容じゃなくてね。

――安生さんのマイクアピールにはファンだけでなく、タッグを組んでいる木村さんも笑ってることが多いですからね（笑）。

木村　だってホンット面白いもん！（笑）。何言い出すかわかんないし、毎回役者だなぁって思いながら見てるからね（笑）。

――労働組合の同志の越中さん、大森さんについて聞きたいんですけど、4人はガッチリ意志の疎通はできてるんですよね。

安生　そんなことないよ。だって越中さん、NOAH行っちゃったじゃん！（笑）。

――そうですよね（笑）。

安生　そんなもん、オレ知らなかったよ。

木村　ホント知らなかったみたいで、次の日その話を聞いて安生さんは「エッ～!?」ってビックリしてましたからね（笑）。

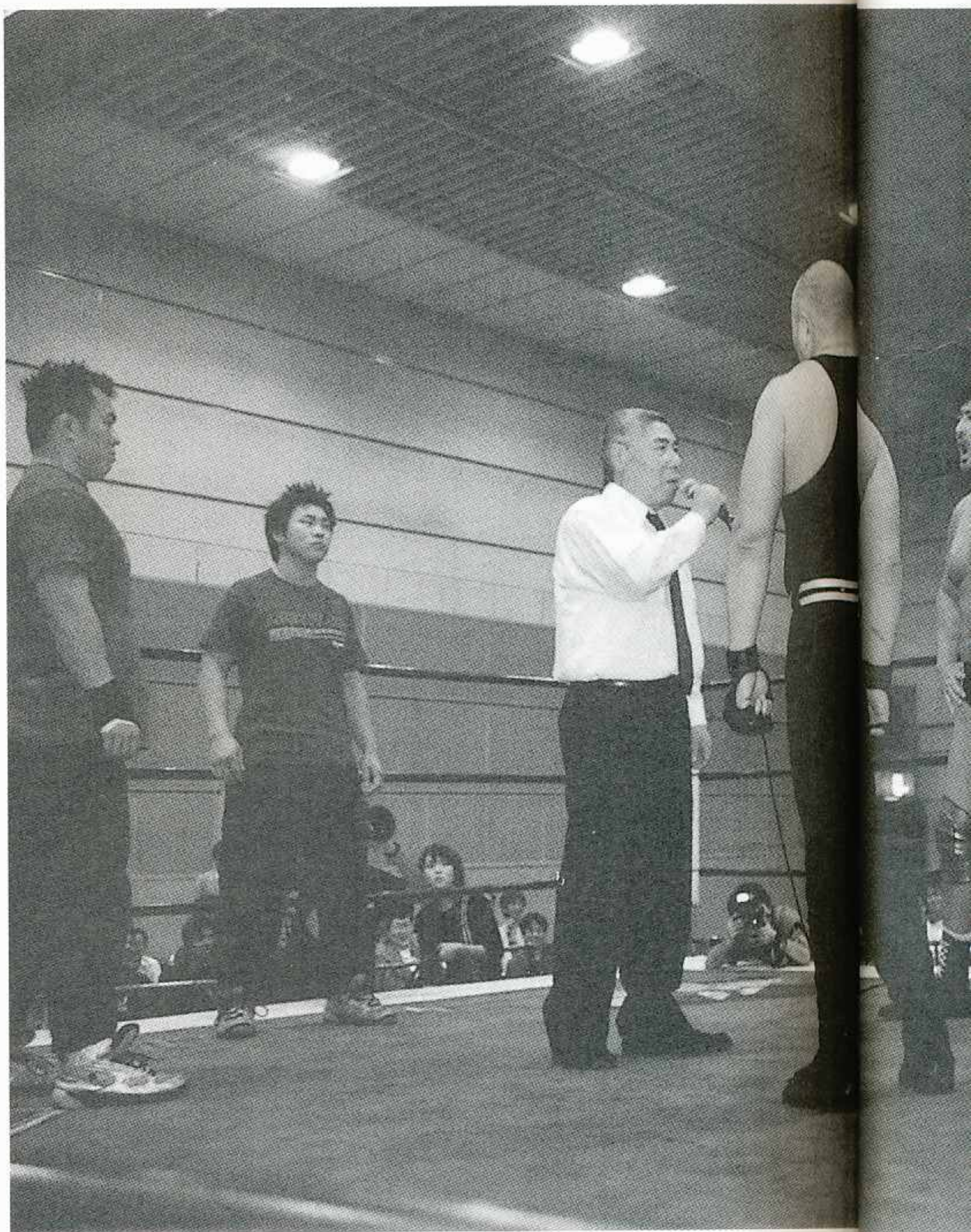
安生　全然ガッチリじゃないよ（笑）。

――大森さんもZERO-ONEに上がるって噂も出てますしね（この取材の2日後、ZERO-ONEの後楽園大会に出場）。

木村　そうでしょ。そういう状況の中で好き勝手やってるだけですよ。

安生　そういう中で大森だけは「WJを潰してなるか」みたいな気持ちを本隊以上に持ってるって感じるんだよね。それにオレらは乗ったっていうんじゃないけど、その気持ちは素敵だなって思って（笑）。

木村　乗ったでいいじゃないですか（笑）。

安生　そっか（笑）。まあどっちかって言ったら、そういう気持ちを持ってる人間の方がエネルギーを感じるしね。逆に長州にしても、自分の団体なんだかわかんないぐらいの気持ちでリングに上がってるから。

――まあ、長州さんいわく「WJ＝長州力だと思ってる」ってことみたいですけどね。

安生　そんなこと言うんだったら、それをリングで見せてよ！って思うよね。「WJをいつまでもやってくぞ」みたいなそういう力なりアピールなりが、いまは全然見えない。そんなに新聞とかもオレは見てないけどさ、その気持ちを一番持ってるのは大森じゃないかなって思うよ。

――それは木村さんも一緒ですか？

木村　そうですね。大森は一生懸命やってますよ。彼が一番やってると思う。

――安生さんは、さっぱりわからないってことですけど、木村さんにとってド真ん中とは何なんですか？

木村　知らないよ！（笑）。「ド真ん中の定義って何？」ってこっちが聞きたいよ。

安生　「お前にとってド真ん中はなんだ？」って振られても、みんな困ると思うよ（笑）。それが何なのか長州力が見せてくれるんだったら客も納得するだろうけど、見せられない自分がいるわけだから、それはしょうがないじゃんねぇ。「ド真ん中ド真ん中」言うけどね、世間とのギャップがありすぎるから、こうなっちゃうわけでしょ。

――一方のWJのシングル王者の健介さんに対してはどう思ってます？　いまはホーク・ウォリアーさんのお葬式に行ったっきり帰ってきてないみたいですけど（笑）。

安生　その行ったっきりっていうのが気になるんだけどね（笑）。まあ、健介も団体のエースなんだから、こういう時は自分が何をするべきかっていうのをもうちょっと考えた方がいいんじゃないのかなぁ。そこはプロレスラーとしての資質を問われてると思うよ。それは佐々木健介だけじゃなく長州力にも言えてると思うけどね。その点、大森隆男はエライよ！

――一応、フリーという形とはいえWJのために頑張ってると？

安生　そうそう。フリーとはいえ、一応団体の顔でもあるんだから。自分が何をすべきかっていうのを、ちゃんとわかって行動してるのは、いまは彼ぐらいじゃないかなぁ？……とか言って次のシリーズからいなかったらどうしよう（笑）。

――その可能性も高いでしょうね（笑）。

安生　そういうのもあるし、どう発言したらいいのかホント難しいよな（苦笑）。

――で、WJの崩壊騒動の発端と言えば谷津さんの『東スポ』発言だと思うんですけど、大森さんとかは「谷津嘉章が言ったことは全部事実だ」って言ってましたよね。

木村　事実だよ（アッサリと）。まあ、いまは不景気で一般の会社とかも潰れてるじゃん。どこも、みんなダメになってから経費削減とか縮小とかするけど遅いんだよね。ハッキリ言ってバカの集まりだね。

――バカの集まり（笑）。

木村　ホントだよ。だって、こんだけ会社が潰れててさ、不景気だとか言われてるのに、もっと早く気づけよって。

安生　大体ね、金じゃなければ選手を集められなかった団体っていう時点で本来終わってますよ。だってプロレスの団体っていうのは気持ちで周りをまとめるしかないんだから。それを、はじめっから金で動かしてたんだから、まあこうなるのは目に見えてた部分でね……本音トークだなぁ（笑）。

木村　いまの発言はガチでしたね（笑）。

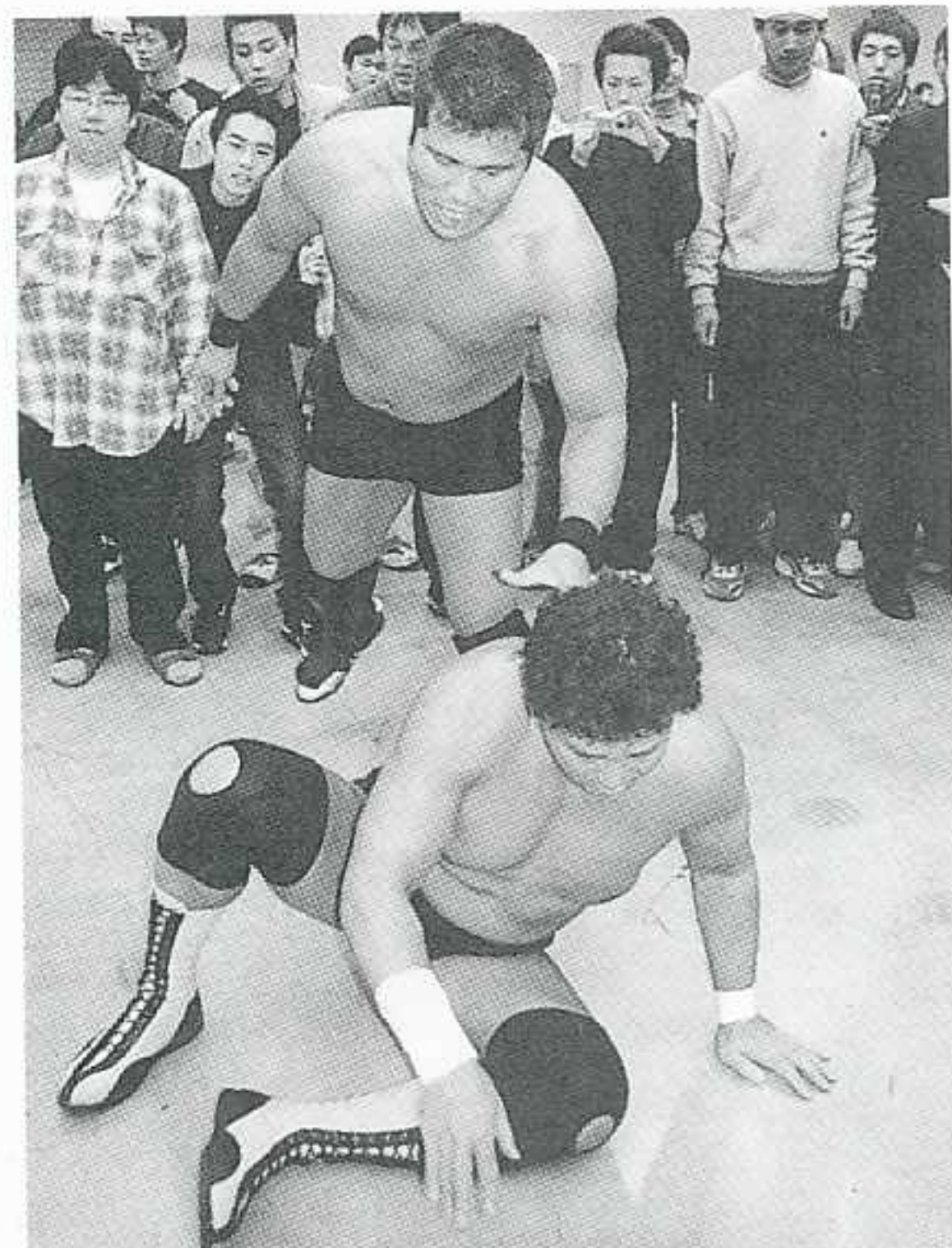
安生　ちょっとガチ過ぎたかなぁ（苦笑）。

――木村さんは、これまでインディー中心に活躍されてきてわけですけど、メジャー出身選手が多いWJのリングっていうのは何かしら感じるところはありました？

木村　試合に関しては別に何とも思わない。メジャーと言われる選手とやったからって「スゲー！」っていうのはないね。

――それは長州さんに対しても？

木村　はじめは憧れの人だったけど、やっちゃえば「へ？」って感じ（笑）。「やる気ねぇの？」って感じ。興味ないし。

――そこまで言いますか（笑）。

木村 何回も言うけど、いまはホントにＷＪのリングでは何も目標もないんで。

安生 なんかつまんねえ発言ばっかしてないで、お前、もうちょっと毒吐けよ！

――まだ毒が足りないですか（笑）。

安生 足りないよ！ お前、飲んでる席では最強なのに、なんで、こういうインタビューとかになると弱気になっちゃうの？

――飲みの席での木村さんは、そんなに凄いんですか？

安生 もう言いたい放題で、オレも脅されてますから（笑）。「まあまあ木村、そこまで言うなよ」って感じですよ。

木村 そんなことないッスよ！（笑）。でもね、なんでもそうだけど、憧れは憧れのままの方が良かったかなって。あと、余談になっちゃうけど、安生さんとは出会えて良かったなっていうのはありますね。

安生 オイ、オレは余談かよ！（笑）。

――おまけみたいな扱いですね（笑）。

木村 余談っていうかね（笑）、ＷＪに出なかったら安生さんともこんなに仲良くなれなかったんで。まあ勝手にボクが仲がいいって思ってるだけで、安生さんはオレのこと嫌いだと思うけど（笑）。

安生 ないない。

――これまで接点はなかったんですか？

――木村さんのプロデビューはリングスですけど、その後は様々なリングに上がってるし、接点あってもおかしくないですよね。

木村 だから、ボクがはじめに会った時に「前田派の人間だろ、お前は？」って言われて凄い嫌われてましたから（笑）。

安生 ウッハッハッハッハッ！

木村 「お前、こっち来んな！」って感じで（笑）。でも、そのあと飲む機会があって結構酔っ払って毒吐いて打ち解けたんですけどね（笑）。正直、ボクは大森、安生がいなかったらＷＪに残ってないと思う。

――ほぉ。そこまで思ってますか。

木村 ２人がいるから頑張れる部分はありますからね。大森は年が一緒だし、安生さんはスパーリングとかやっても全然歯が立たなくて「なんだ、コノヤロー！」っていうのもあるんで（笑）。

――格闘家としても尊敬してると？

木村 格闘家としても尊敬してるし、プロレスラーとしてもそうだし、あといろんな部分でスッゴイ考えてる人なんで。

――スパーリングでは木村さんは安生さんに歯が立たないんですか？

木村 はい。全然立ちません！（キッパリ）。

――いまでもですか？

安生 「いまでも」って、なんだよ！（笑）。お前、オレのこと嫌いだろ!?

木村 「いまでも」はないッスよね（笑）。

安生 絶対嫌いだよ、オレのこと（笑）。

――いやいや、だって安生さんは総合からちょっと離れちゃってるじゃないですか？

木村 全然強いよ。正直、ちょっとナメてた部分もあったの。雑誌とかで読んで喋りとかも「たいしたことねえな」って（笑）。

――かなり毒舌になってきましたね（笑）。

木村 それは本人にも言ってるから（笑）。

安生 いや、初耳だよ、それ！

木村 言ったじゃないですか!?（笑）。

安生 そうだっけ？

木村 ホント、ズルイよなぁ（笑）。

安生 ここで「初耳だよ」って言った方が盛り上がるだろ、お前！（笑）。

――喋りだけじゃなくて、格闘家としてもナメていた部分があったわけですか？

木村 そう。いろんな意味で「別にたいしたことねえだろ！」って思ってて、「お願いします！」って軽い気持ちでスパーリングしたら全然歯が立たなかったから。もう勝てる要素がない。だから、全てにおいて尊敬できるんだよね。観客と会話しながらのプロレスもできるし、いろんな顔ができるのも尊敬できるし、ガチンコはもちろん、エンタメとしても凄い魅せられる人だし。

――ある意味、理想のプロレスラー像なわけですね。

木村 そう。ＤＤＴ向きかなって（笑）。

安生 あ、ありがとうございます！（笑）。

木村 ホントにボクは安生さんと出会えて凄い良かったです。あと、大森も同級生として出会えて良かったかなと。

――ちょっと意外だったのは、大森さんが「木村さん」って、さん付けで呼んでたことなんですよ。

安生 そりゃそうだよ。だって大森はガッチリ言わされてるもん。

――そうなんですか（笑）。

安生 だって木村は飲みの席ではホント最強だから。もう誰も逆らえなくなるから。その毒をもっと出した方がキャラクター確立されていいんだけどなぁ（しみじみと）。

――大森さんはリングを降りて着替ると、もの凄くいい人ですからね（笑）。

安生 いやいや、でもね、木村と絡むと大森

余談になっちゃうけど、安生さんとは出会えて良かった（浩一郎）

怒っているときも、やられているときも、もちろん攻撃しているときも実にいい表情の安生。浩一郎は客席から試合をながめ「やっぱ、安生さんは役者だよなぁ」と感心していた。

ＷＪの目標はと聞くと、「何にもないよ」と答えた浩一郎だが「ただ、天龍源一郎を振り向かせたい。あのジジイのコンディション作りは凄いなって尊敬してるんで」とのこと

ド真ん中アラカルト

「ＷＪの12月シリーズは一切白紙だって！ やってられるかって！」と11月シリーズ最終戦の控室で語っていた越中。隣の大森も「俺もだよ！」

ＷＪになってからは誰よりも長いコメントを出してくれる長州。それも時折見せる笑顔は実に爽やか。でも破壊王への「コラァ」節の方が素敵！

３日の静岡大会の休憩中、会場近くの売店でクラッシャーズを発見。休憩明けには、気軽にファンとの記念撮影に応じていた。また来てくれよ！

第一試合目には中嶋くんと和田の２人がサインボール投げを行った。できれば、中嶋くんにはＺＳＴグランプリか藤原祭りに出て欲しかったなぁ

静岡大会でプロレスデビューも期待されていた背広レスラー・永島勝司。５日の金沢大会の試合前リングに上がると、健介の欠場を頭を下げ詫びた

ＷＪのグッズ売場には、これまでのパンフレットが、どれを買っても５００円という、お買得価格で売られていた。変なこと想像しちゃダメ!!

も相当毒持ってんなぁって思うよ。このコンビのやり取りははた目から見てても楽しいからね。ホントに「クッソー！　オレも食われてんなぁ」って思うし（笑）。オレが入っていけないぐらいだからね。

―それは凄いじゃないですか（笑）。

安生　だから、大森・木村対談をやったら確実に面白くなると思うよ。大森隆男の違った魅力をこの男は引き出せるから。

―それはゼヒお願いしたいですね。いまのところ越中さんも交えた飲みの席っていうのは、それほどないんですか？

安生　いまのところ控室で話すぐらいですね。やっぱりひとつ上の世代ですから。

木村　子供の頃から見てた人ですからね。安生さんもそうなんですけど、それを言うと「お前！」って怒られるんで（笑）。

―アハハハ！　ちなみに年はいくつ離れてるんでしたっけ？

安生　3つしか変わらないんだけど（笑）。

木村　ホントねぇ、コイツは「安生さん、子供の頃から見てました」とか言うから、「年は？」って聞いたら「31です」って言うから「たいして変わんねえじゃねえかよ、お前！」って（笑）。たしかに、この業界で長くやってますけどね、ボクは。

木村　やっぱりファンだったんで、UWFは学生の頃の憧れだったんで。

安生　UWF受けたんだよね？

木村　書類審査で落とされました。

安生　書類で落とされたんだ（笑）。宮戸さんに追い返されたって言ってたよね？

木村　大学一年の頃、直接行ったら宮戸さんに「帰れ！　見てんじゃねえ、オラッ！」って怒られて帰りましたからね（苦笑）。

安生　たぶんね、それはUWFがヤバくて新弟子取ってない時だよ。

木村　そうだったかもしれないですね。

安生　じゃなかったら入ってるよ。だから、お前はタイミングが悪いんだよ！（笑）。もっと状況を読めよ、雑誌とかで！

木村　読んではいたんですけど、そん時は自分の中でUしかなかったんで。

安生　でも、もしその時入ってたら今頃U系の人たちの先輩じゃん。

木村　いや、もし入れても安生さんにボコボコにされてやめてますよ（笑）。

安生　何言ってんだよ！　オレほど優しい先輩はいないぞ、お前！　自分で言うのも何だけど（笑）。

―ちょっと脱線してしまいましたが、再びWJの話題に戻しましょう。

木村　でもねぇ、ホントいまのWJでは何にも目標ないですよ。

安生　なんか作れよ、お前！（笑）。

木村　まあ個人的には天龍源一郎を振り向かせたいです。何回かシングルやってるんだけど、あのジジイを振り向かせたいなと。

―本気で怒らせてやりたいと？

安生　天龍さん、本気で怒らせたら大変だぞ！　わかってんのか、お前！（笑）。

―安生さんは昨日シングルで負けてますからね（笑）。

木村　わかってますけど、やっぱ、あのジジイは凄いんで本気にさせたいですね。

安生　しかし、「昨日負けてますからね」って、お前ホントにヒドイよなぁ（笑）。いま読んでる読者には言わなきゃわかんないのにさ、要らない情報まで入れやがって。

―し、失礼しました。で、天龍さんは対しては、どう思ってるんですか？

安生　どう思ってるも何も、天龍さんに対しては尊敬の気持ちしかないですよ！

木村　急に優等生トークになってるよ（笑）。

安生　ワッハッハッハッハッ！　だから、天龍さんの話は振らないでよ、喋りにくい人のことは！

―喋りにくそうだったんで、あえて聞いてみました（笑）。

安生　だから、天龍さんっていうのは全日本時代も凄いお世話になったし、WAR時代もお世話になってるし、ボクは「プロレスとは？」って振られたら「それは天龍さんだろう」って答えますからね。そういう存在ですよ。

木村　（小声で）ヨイショしてるよ（笑）。

安生　いや、だから、それ以上の広がりがないんだよ。だってミスタープロレスなんだから。それを倒す云々言われても「ミスタープロレスだぞ！」って話で（苦笑）。

天龍さんの話は振らないでよ、喋りにくい人のことは！（安生）

木村　でもオレは倒したいッスよ。

安生　だからね、トンパチな木村君はそういうこと言うけど、天龍さんはミスタープロレスなんだから。

木村　でも、あのジジイのコンディション作りは凄いなってホント尊敬してますよ。

安生　だろ？　オレはどっちかって言ったら組みたいよね。

―労働組合軍に引き込みたいと？

安生　いや、ここ離れても組みたいよ。

―アハハハハ！

安生　ところで、これ何ページになるの？

―いまのところ、話の内容的に6ページぐらいですかね。

安生　内容が面白かったらドンドン増えていくんだ（笑）。

―もちろんそうですよ。

安生　じゃあ、木村、もうちょい頑張れ！

木村　頑張ってるじゃないですか！（笑）。

安生　そうかぁ。なんか、イマイチお前の魅力が出てないのが悔しいよなぁ。

木村　酒入んないと言えないですよ（笑）。

安生　よし、この対談やり直そう！　大森も入れて3人対談にしようよ。前に『紙プロ』でやったじゃない。高山と金原と。

木村　あれは面白かったですね。

―あの対談は面白かったですけど、鈴木健さんと宮戸さんとの対談では、ちょっと大人しかったですよね

安生　その3人だとちょっとね（苦笑）。向こうは喋るのが専門だから。

―やるんだったらノビノビ話せる高山さんや金原さんがベストなんですね（笑）。

安生　その辺だとガチッとハマるでしょ（笑）。オレの良さが出るでしょ？

―そうですね（笑）。大森さんと木村さんだったら内容的にも間違いないと？

安生　間違いないね。それは盛り上がるよ。

木村　いや、ホント凄い盛り上がるよ（笑）。

―じゃあ、近々ゼヒお願いしますよ。

木村　安生さんは尊敬してるけど、大森は別に尊敬してないから。その差だよね。

安生　その差なのかぁ。お前の味が出ないのはそれが原因なのか？

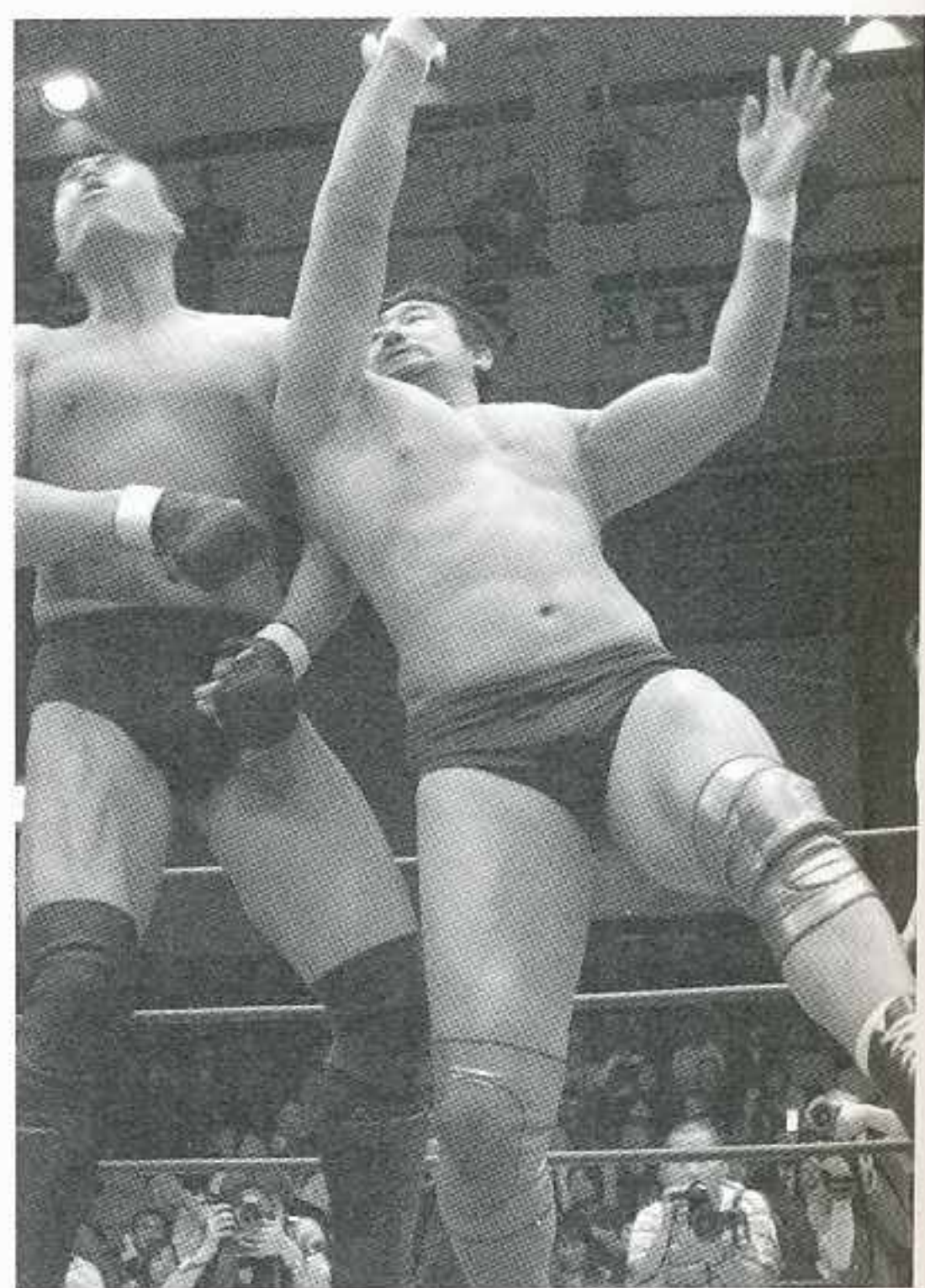
木村　そうッスよ！

安生　いつものオラオラトークが出ないのは相手がオレだからだったんだ？（笑）。

木村　当たり前じゃないですか！（笑）。安生さんにオラオラ言ったら殺されるじゃないですか？

―大森さんに対してはオラオラトークになるわけですね？

木村　そう。でも一回酔っ払ってシャレのつもりで「うるせえよ、洋二！」って言ったら「テメェ、オレはなぁ、オフクロにも言われた

反選手会同盟と言えば越中詩郎。しかしメンバーの知らないところでLABOR UNIONに変更。さらにはメンバー（というか安生）の知らないうちに越中はNOAHマットに登場！

「尊敬してないから何でも言える」と浩一郎のオラオラトークの被害（?）に遭っている大森隆男。こちらも浩一郎の知らないところで白覆面のミスターXに変身しZERO-ONEに登場！

ことねえんだよ！」ってガチで怒られたからね（笑）。あの時は凍ったよ。

——アハハハハ！

安生 だって、仲良くなればオレのこと「安ちゃん」って呼ばれたりするけど、「洋二」って下の名前で言われたのはなかったから嫌なんだよ！（笑）。

木村 大森には尊敬はないから何でも言えるからね。別にケンカしてもいいし。

——別にケンカしなくてもいいですよ（笑）。

木村 だってケンカしても勝てる相手にはガンガン言えるでしょ。でも安生さんには勝てないから、その差だよね（笑）。

安生 そういう問題じゃねえだろ（笑）。

木村 だって怖くなければいくらでも言えるじゃないですか？ 当然でしょ。そういう意味では天龍さんも怖くて言えないけど、他の人だったら誰にでも言えるからね。

——ＷＪであればですか？

木村 言える言える。現に酔っ払って言ってるし（笑）。

——そうですか。でもＷＪがこういう状況になってるんで、水面下ではいろんな動きがあるみたいですけど、２人は何か考えてることはあるんですか？

安生 あっ、そうなんだ。やっぱり、そろそろ動いた方がいいってことですか？

——それは何とも言えませんけど（笑）。

安生 やっぱり、よそへ上がった方がいいんですかねぇ？ まあでもオレらはサイドビジネスに走るからいいか（笑）。

木村 そうッスね（笑）。

——何か企んでるんですか？（笑）。

安生 それは内緒だよ！（笑）。

——頑張ってください（笑）。では、安生さんも木村さんも、レスラーとしてはＷＪに骨を埋める覚悟があるわけですね？

安生 骨なんか埋めたくないよ！（笑）。まあ本来ならオレらまとめてどっかに上がって、「ＷＪは面白くねえからこっち来たよ！」ってやりたいところだけど、それほどのまとまりもまだないからね（笑）。

——そんな感じですよね（笑）。

この対談にはＷＪの日程とか情報とか付きます？

大森には尊敬はないから何でも言えるからね

安生 だからといって、オレが音頭を取る立場でもないしさ。

——じゃあ、飲みの席でもっと交流を深めていくしかないんじゃないですか（笑）。

木村 でも越中さんはＮＯＡＨに行くんでしょ？ やっぱり頭の人が決めちゃったら、どうなるんだろうなぁって感じだよね。

安生 またガチトークだよ！（笑）。お前の発言がガチガチだから、もう返す言葉がなくなっちゃうよ（笑）。

——越中さんも当然食っていかなきゃいけないでしょうし、それに三沢さんとは18年来の約束だったみたいですからね。

木村 でも約束って言ってもＷＪがしっかりやれてれば行かないわけでしょ。いまみたいに興行が減ったりとか、あとギャラも貰えるかわかんないしね。

安生 ホンット、ガチガチだよなぁ（笑）。お前、プロレスわかってないよ。プロレスってのは狭間だよ！ 狭間で生きるの！

木村 さっきまで控室であれだけ言っといてこれだからなぁ（笑）。

安生 お前、ホンットにオレのことわかってないよな。だから、読者がわかるかわからないぐらい「どっちなんだろう？」って思わせるぐらいの程度で留めておくのがプロレスなんだよ！

木村 だって、さっきギャラは出たって言ったじゃないですか？

安生 でも、ホントかどうか読者はわかんないじゃない？

——でも、ファンもＷＪの状況は、なんとなく把握してると思いますよ。

安生 そうなの？（笑）。じゃあ、木村さん、ぶっちゃけトークで頼みますわ。

木村 こういう状態だから選手もいろいろ考えてるわけでしょ。だから、いろんな噂も飛ぶしさ。実際、他の選手も噂の段階かもしれないし、ホントに水面下で動いてるのかわかんないからね。安生さんだって、水面下で動いてるのかもしれないし（笑）。

安生 さあ、それはどうかな（笑）。

——大晦日は猪木祭りに出てるかもしれないですしね（笑）。

安生 篠（泰樹）と会ってたから？（笑）。

——篠さんは猪木祭りにかかわってるみたいですからね（笑）。

安生 でも、この対談にはＷＪの日程とか情報とか、そういうの付きます？

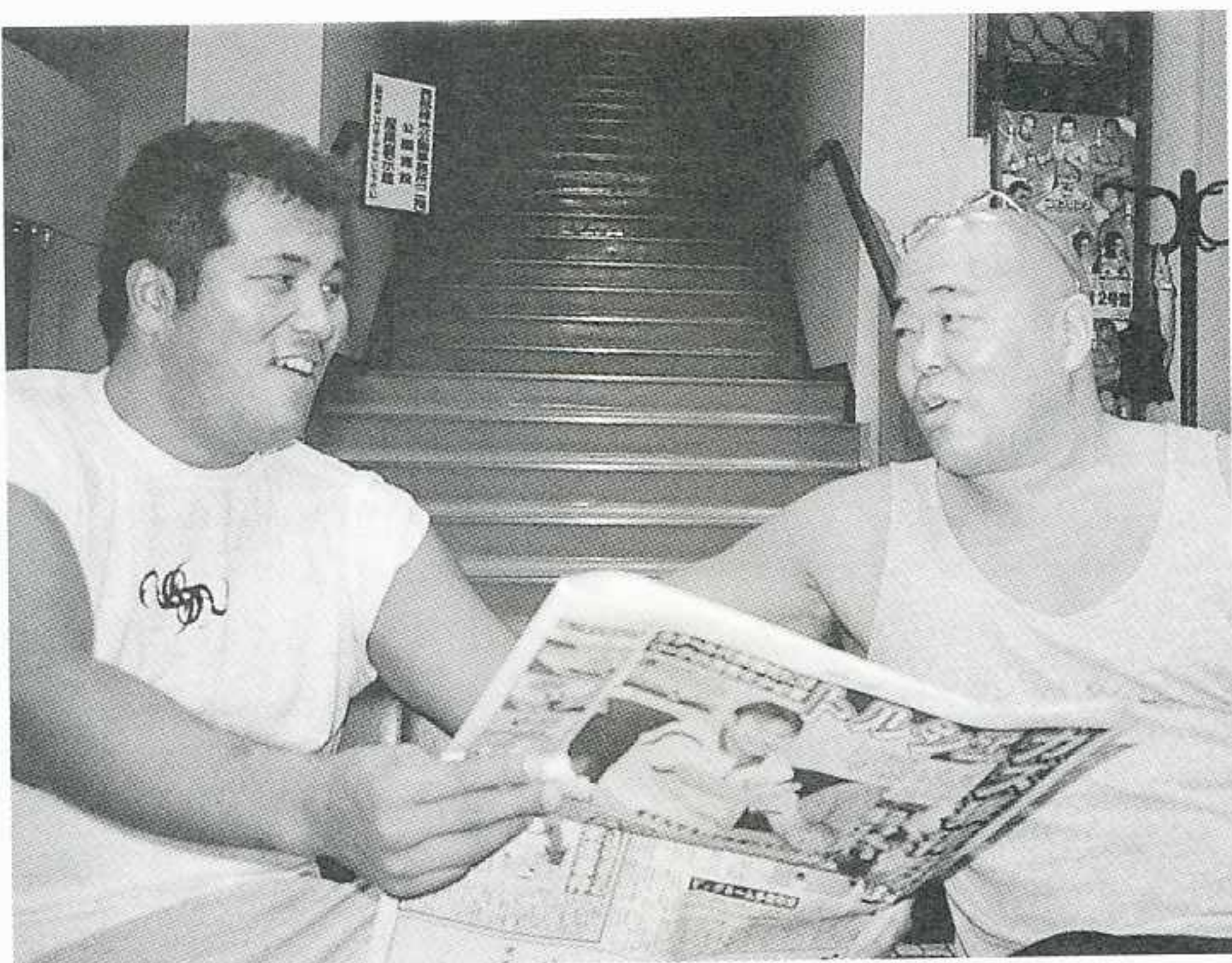
——もちろん付けますよ。と言っても12月シリーズは４戦しかないんですけど（笑）。

安生 そのスペースを大きめにしてくれたら、こんだけ言ってもチャラになるでしょ。

木村 ウチらＷＪに貢献してますよね。

安生 だって、広告として買ったらそれなりの料金しちゃうワケでしょ？

——そうですね。安生さん、ＷＪのこといろいろ考えてるじゃないですか？（笑）。

木村 一番考えてるかもね（笑）。

安生 いや、悪く言った分だけでもチャラにしておかないとね。バランス感覚だよ！

木村 いやぁ、勉強になるなぁ（笑）。

安生 だろ？ それにしても、今日はマスコミ多いよね。

——今日で11月シリーズが終わりなんで「もしかして」ということで来てる人が多いんだと思いますよ（笑）。

安生 （驚いて）えっ⁉ 今日で終わりかもしれないのぉ？

木村 いや、ありえますよ。

安生 そうなのぉ？ 聞いてないよぉ！

——アハハハハ！ でも発表してる12月シリーズはやると思いますよ。

木村 まあ、売り興行だからね。

安生 またガチトークだよ！（笑）。

福田社長 （突然入ってきて）安生、ちょっといい？

安生 あっ、はい。

福田社長 あれ、取材中なの？

——はい。でも全然大丈夫です。

福田社長 ちょっとだけ借りてくよ（と言って安生を連れていく福田社長）

安生 （しばらくして戻ってきて）どうも、お待たせしました。

——何か大事な話でもされてきたんですか。

安生 まあ、いろいろとね。あと、余計なこと喋るなって言われたよ（笑）。

——アハハハハ！

安生 なんか余計なことばっかり喋ったような気もするけど……ま、いっか（笑）。

木村 大丈夫でしょ（笑）。でもこれ、まとめるの大変じゃない？

——そうですね（笑）。とりあえず、締めはどうしましょうかね？

安生 いや、「『越中さんと大森はどうするんだろう？』『オレたちはどうなるんだろう？』ってブツブツ言いながら控室に消えていった」とかでいいんじゃないの？（笑）。

——採用させていただきます（笑）。これからもＷＪでの活躍を期待してます！

安生 いいよ！ 期待しなくて（笑）。

【11月5日／金沢大会前の会場で収録】

12 December 5 金 Yamaguchi

山口・周南市総合スポーツセンター

start 00:00

WJスペシャルシート: **8000円**
特別リングサイド: **6000円**
2階自由席: **4000円**
1階自由席: **4000円**
大森隆男応援シート: **8000円**
(非売品大森Tシャツ付き!→会場渡し)

http://www.wj-pro.com/
FIGHTING OF WORLD JAPAN PRO-WRESTLING INFORMATION

11/2(日)午後3:00〜
静岡●ツインメッセ静岡
WJスペシャルシート:7000円
特別リングサイド:5000円

11/4(火)午後6:30〜
岐阜●古川町農業者トレーニングセンター
特別リングサイド:6000円
リングサイド:4000円
※問い合わせ・チケット電話予約
WJ飛騨後援会U★N★T:090-9179-4941

11/5(水)午後6:30〜
石川●石川県産業展示館2号館
WJスペシャルシート:7000円
特別リングサイド:5000円

MAGMA 03
BATTLE SPARK

11/8(土)午後6:00〜
鹿児島●串良平和アリーナ
WJスペシャルシート:8000円
特別リングサイド:7000円
延期
一般立見:2000円
小中学生立見:1000円
※問い合わせ・チケット電話予約
ワールド興行企画:0994-41-0900

11/9(日)午後3:00〜
中止

すべての大会に関するお問い合わせ・電話予約は、WJプロレスまで→TEL.03-5428-5915

12 December 3 水 Okayama

岡山・岡山卸センターオレンジホール

start 19:00

WJスペシャルシート: **7000円**
特別リングサイド: **5000円**
一般立見: **3000円**
小中高学生立見: **1500円**

WJ12月シリーズ日程　今年最後の闘いを見よ!

WJはどうなるの?

12 December 7 日 Kagoshima

鹿児島・串良平和アリーナ

start 15:00

WJスペシャルシート: **8000円**
特別リングサイド: **7000円**
1階アリーナA: **5000円**
1階アリーナB: **4000円**
2階自由席: **3000円**
一般立見: **2000円**
小中学生立見: **1000円**

※問い合わせ・チケット電話予約
ワールド興行企画: 0994-41-0900

橋本
長州力は死んだ
4対4マッチ出場せず!!
永島専務公約破る

12 December 4 木 Hiroshima

広島・呉市体育館

start 18:30

特別リングサイド: **10000円**
リングサイド: **7000円**
2階特別席: **6000円**
一般席: **3000円**
小中学生席: **2000円**

【すべてのお問い合せ】WJプロレス 03-5458-5915

本誌 Back Number

no.08 '94.01
特集 **さらば新日本プロレス**
仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！
700yen⇒350yen 50%OFF

no.16 '96.06
特集 **新日本凸凹大学校**
『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！
780yen⇒390yen 50%OFF

'00.04
情念～夢一途なり～石川雄規
『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。
2100yen（送料込み）

no.13 '95.03
特集 **道場破りとは何か？**
安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦
780yen⇒390yen 50%OFF

no.17 '95.07
特集 **実況パワフル北朝鮮**
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」
780yen⇒390yen 50%OFF

極真魂溢れる16人を直撃！ 完売間近
極真とは何か？
松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏
1530yen⇒800yen 50%OFF

no.14 '95.04
特集 **神秘とは何か？**
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

no.19 '95.09
特集 **さようなら紙のプロレス**
『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会
780yen⇒390yen 50%OFF

みんなで遊べる付録付き!! '01.04
さくぼん
サクのすべてがよくわかる桜庭和志発のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやサクマシン立体紙お面など付録がこれでもか！ とばかりに付いています！
総238ページ
1500yen（送料込み）

no.15 '95.05
特集 **インディペンデントの逆襲**
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

パンクラス公式読本 完売間近
［矛］・［盾］
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよぉぉ!!
各1260yen⇒630yen 50%OFF

インタビューという名の鉄拳史 完売間近
紙の前田日明
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！
2000yen（税金・送料込み）

---

no.51 表紙 橋本真也 '02.06／880yen
ZERO-ONEに願いを！
●両国国技館だよ、全員集合！
橋本真也
●『PRIDE』の魅力をマン開！
小池栄子
●天才が悩みに答える！
武藤敬司人生相談
●新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 小川直也 '02.07／880yen
見えない鎖を引きちぎれ！ 小川直也リング外での暗闘!!
●全身プロレスラー・高山善廣
●USAの渡世人ドン・フライ
●『PRIDE』侵攻開始!!
ロシアン・トップチーム
●戦慄の『LEGEND』前夜！

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08／880yen
世紀のビッグイベント『Dynamite!』直前大解剖!!
●ノーフィアー×無謀美・対談!!
高山善廣×美濃輪育久
●独占肉弾スクープ！
マット・ガファリ
●爆裂！ 川村社長ガチンコ語録！
●偽道王の知られざる半生！ 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08／880yen
不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
●"首の皮一枚"ホイス＆エリオグレイシー
●"青い目のケンシロウ"
ジョシュ・バーネット
●純プロ頂上対談！
武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
●猪木とは何か？ アントン実兄・猪木快守

no.56 表紙 Uインター '02.10／840yen
愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
●田村戦直前!!
高田の覚悟を読み解け！ 高田延彦
●蘇れ！ Uインター伝説!! 安生＆金原＆高山
●高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
●『紙プロ』に風がふくぜぇ～！
鈴木みのる

no.57 表紙 高山善廣 '02.11／840yen
一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
●サップと地球規模のタイマン勝負!!
高山善廣
●新たなる"U"が始動!! 田村潔司
●悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
●"北尾戦・セメントマッチの真実"
ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤＆船木 '03.01／880yen
新春特大号!!「明日、また生きるぞ！」な対談の大連発!!
●夢幻のファンタジー対談
武藤敬司×船木誠勝
●Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
●Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
●カルガリー師弟対談
ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02／880yen
吹けよ！呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
●いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
●アメリカン・ドリーム
ダスティ・ローデス
●爆発!! WJマグマ語録
●吉田道場の秘密兵器 中村和裕

no.60 表紙 ヒョードル '03.03／880yen
英雄、変貌好む!! 『PRIDE』RE・BORN!!
●ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
●驚愕の格闘芸術対談!!
武藤敬司×須藤元気
●あのマーシーがすべてを告白!!
田代まさし
●全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04／880yen
5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!
●裏番組をブッ飛ばせ！
橋本真也×小川直也
●1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
●プロレス・格闘技クロスオーバー対談
エンセン井上×金原弘光
●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05／880yen
誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
●ヴァーと笑顔で初登場!!
佐々木健介
●現役復帰間近!? 船木誠勝
●ホントに大爆発!! 橋本真也
●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06／880yen
吉田秀彦が大英断! ミドル級GP出陣!
●「お前は男だ」劇場炸裂！
高田延彦
●『PRIDE』REBORNを大総括!!
●憂国の虎
ザ・マスク・オブ・タイガー
●芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭＆田村 '03.07／900yen
灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!
●"異次元格闘技戦戦"
田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
●『PRIDEミドル級GP』
出場全選手インタビュー
●ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
●スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08／880yen
ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!
●"最後の皇帝"燃え上がる！
ヒョードル
●"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ
●吉田秀彦戦の"謎"に迫る！
田村潔司
●闘魂ストーカーを捕獲！ イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09／880yen
ミルコ、『武士道』電撃出陣！ もはや誰にも止められない!!
●緊急独占インタビュー！ ミルコ
●マッハの野望を砕いた
"赤い暗殺者"登場!! 長南亮
●"天才空手少年"VT秒殺デビュー!!
中嶋勝彦
●『東スポ』とは何か？ 柴田惣一

no.67 表紙 シウバ＆吉田 '03.10／880yen
吉田とシウバ、いざ激突!! 衣（キ）は赤く染まるか!?
●ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー！ ミルコ
●"柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
●『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場
全選手インタビュー
●アントン"疑惑の時代"を知る男
加治将一

通販申し込み方法
▼バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません。
★電話注文 03-3403-5142
★メール注文（代引きになります）
kapra@kamipro.com
★郵便振替
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
★現金書留 〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
（株）ダブルクロス
▼郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
▼送料 1冊＝310円、2冊＝380円、3冊～4冊＝450円
5冊＝520円、6冊以上＝700円

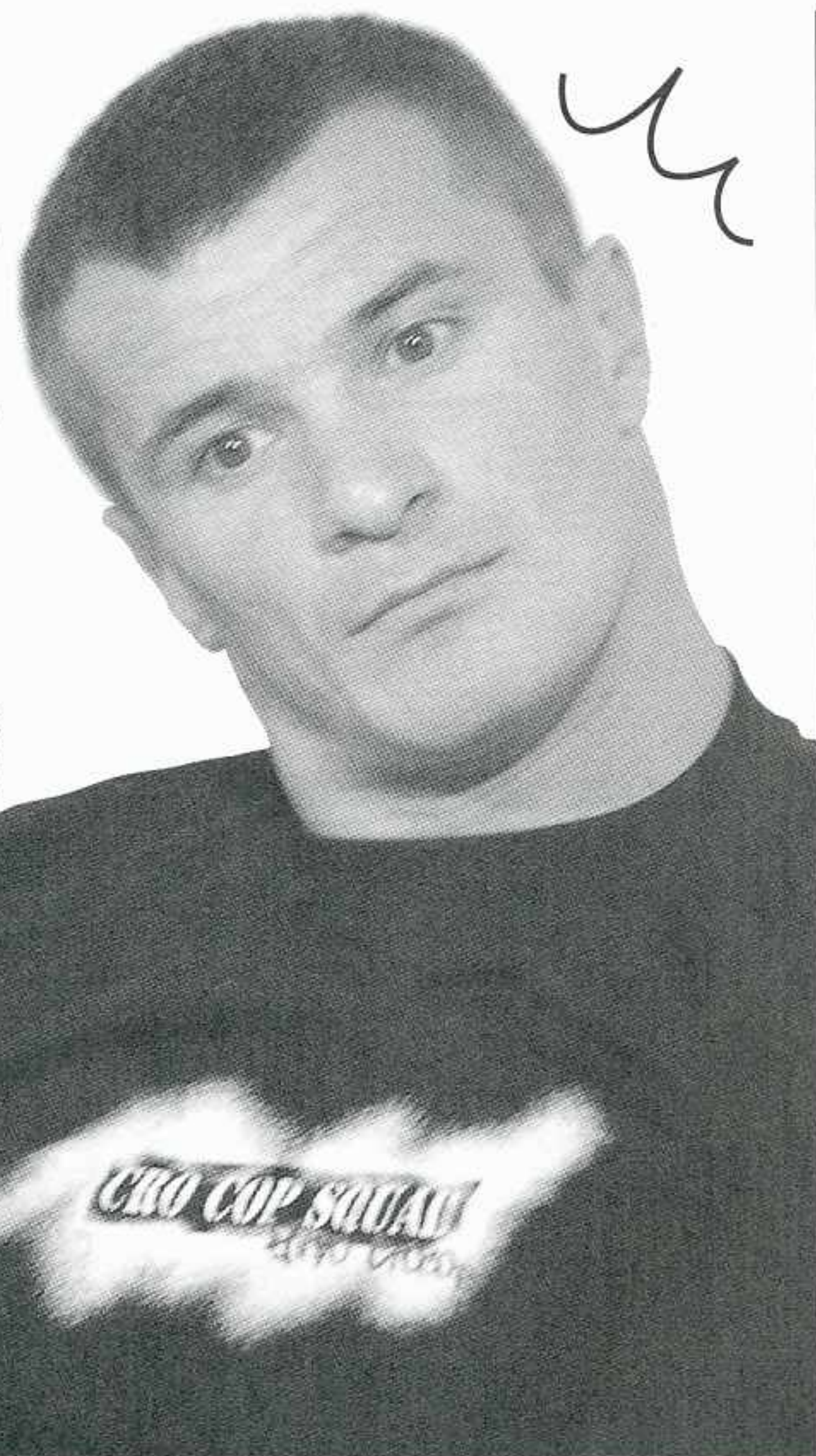
※代引きについてはP160を参照してください。

紙のプロレスRadical常備店
■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン ■リングスパレス
■バディスラム ■タコシェ
■レッスル渋谷
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■グレートアントニオ
■東京イサミ
■ワールドスポーツプラザKINGS
渋谷WEST／池袋／新宿
大阪／名古屋／札幌／福岡

Radical Back Number

売り切れ御免の完売間近特集!!

まさか……
買わないんじゃないだろうな？

CRO COP SQUAD

売り切れ寸前のバックナンバーはこちら!!

no.05 すべてはここから始まった!! 高田、ヒクソン戦へ……
- ●ドン荒川vs藤原喜明"昭和新日対談"
- ●前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』
- ●世界格闘技連盟とは何か!?　佐山聡
- ●長与千種&ライオネス飛鳥

'97.08 / 680yen

no.24 ノゲイラ、ダンヘン、田村、コピィロフが登場!! 伝説のKOK決勝トーナメント直前号!!
- ●リングスロシア幻想を掘り起こせ!!
- ●『紙プロ』的視点から送る「語ろう船木vsヒクソン!」
- ●驚ガクのUFO対談／サスケ×矢追純一
- ●ターザンが有刺鉄線デスマッチを敢行!?

'00.02 / 840yen

no.30 燃えよ！ 闘魂の火種!!
- ●平成のテロリスト　村上一成
- ●ケンドー・カシン暴言ファイル
- ●プロレススーパースター列伝　永源遙【前編】
- ●長州力座談会

'00.08 / 840yen

no.55 高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
- ●「真剣勝負」発言から7年!!　田村潔司
- ●メガトン級の強さと面白さ!!　ボブ・サップ
- ●靖国神社で興行開催!!　佐山聡
- ●コピィロフおじさん、『PRIDE』デビュー!!

'02.09 / 880yen

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-3403-5142

【平日15:00～22:00 (株)ダブルクロス】

no.15 表紙 小川直也　'99.02 / 840yen

リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本"1・4事変"勃発!!
- ●あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- ●"前田日明・最後の相手" アレキサンダー・カレリン
- ●引退記念雑談会 「語ろうマサ・サイトー!」
- ●『S多重アリバイ』／佐野雄飛・編

no.16 表紙 エンセン井上　'99.03 / 780yen

格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!
- ●環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- ●完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- ●相撲多重アリバイ　石川孝志
- ●マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準　'00.07 / 840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!
- ●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- ●プロレススーパースター列伝 仲野信市
- ●本誌独占ジャンボ鶴田夫人 真実を語る!!
- ●TKおかん

no.31 表紙 アントン総帥　'00.09 / 840yen

真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!!
- ●桜庭和志×高阪剛 レフェリーは浅草キッドだ!!
- ●ボヤキ漫談　川田利明語録
- ●プロレスという物語について ダン・スバーン
- ●プロレススーパースター列伝　永源遥【後編】

no.32 表紙 小川直也　'00.10 / 840yen

針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!
- ●田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ●ドラゴンの大爆笑10　藤波語録
- ●プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- ●"和製カレリン"本田多聞

no.34 表紙 小川直也　'01.01 / 840yen

『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!
- ●UFCミドル級王者　ティト・オーティズ
- ●プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- ●修斗から『猪木祭り』へ!　宇野薫
- ●ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン(イラスト)　'01.02 / 840yen

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施!　徹底検証号
- ●ZERO-ONE本格始動　橋本真也
- ●プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- ●"ノアの怪物"杉浦貴
- ●UFCの巨人　ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト)　'01.02 / 840yen

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ●ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ●ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言
- ●W☆ING　史上最凶の歴史を紐解く
- ●吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト)　'01.04 / 840yen

小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
- ●安田忠夫が借金から 自殺未遂まですべてを語る!
- ●アブダビコンバット2001一大探検記!
- ●シュート活字×ファンタジー活字
- ●他に比類なきプロレスが WWFにはある!

no.38 表紙 高田(イラスト)　'01.05 / 840yen

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
- ●忘れ物の正体は――。高田延彦
- ●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- ●プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- ●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明　'01.06 / 840yen

どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?
- ●前田道場新エース・金原弘光
- ●怪物か!?　それとも…… 藤田和之座談会
- ●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- ●プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥　'01.07 / 880yen

猪木軍vsK-1に見たいものは"地上最強のプロレス"
- ●蘇れ!Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光
- ●熱いこの叫びを聞け!　大谷晋二郎
- ●プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- ●グラバカの核弾頭　郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン　'01.08 / 880yen

Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来!
- ●リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- ●真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!
- ●W☆INGの真実・茨城清志
- ●毒舌知能犯　秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥　'01.09 / 880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?
- ●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- ●"ヒャッホーの真実"辻よしなり
- ●蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- ●誇り高きルチャ戦士 ルチャカト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭　'01.10 / 880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!
- ●ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- ●大谷普二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- ●金原弘光×サスケの 新日本プロレス学校同窓会
- ●野武士が語るんだよな　中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ　'01.11 / 880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
- ●その修羅場の数々! シーザー武志
- ●怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ●ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- ●闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥　'01.12 / 880yen

「K-1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!
- ●悪魔の書、現る!　ミスター高橋
- ●ジェラルド・ゴルドー人生相談
- ●プロレススパースター列伝 グレート小鹿
- ●語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン　'02.02 / 880yen

WWE日本侵攻5秒前!
- ●"天才"武藤敬司が 『紙プロ』驚愕の初登場!
- ●噂の馳浩が新日分裂から ミスター高橋本までを語る!
- ●第一次リングス閉幕特集
- ●プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志　'02.03 / 880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- ●奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- ●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- ●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- ●WWEを知る男　ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭　'02.04 / 880yen

究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
- ●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- ●アレクに怒りの火を付けた 菊田早苗とは何者か!?
- ●破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ●ビッシビシいくわよ!!　小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志　'02.05 / 880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!
- ●「地方初世界」開始! 小川直也&橋本真也
- ●リングスロシア軍団の軌跡
- ●パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!
- ●ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

注目は大晦日だけじゃない!!　RADICAL情報局は『SAEKI祭り』を応援します!!

リニューアル第2弾、4ページでお送りする『RADICAL情報局』。担当は電気部のささきぃです。読者ページも担当しています。『紙プロ』の情報ページは、見かけはすっきり、内容濃厚を心がけてます。ではでは、すみずみまでお見逃しないよう、よろしくです。

Fight & Ticket　試合・大会情報

「年末はうちがもらいます」!!　"大晦日・三つ巴格闘技戦"に『SAEKI祭り』参戦!!

『SAEKI祭り』で、年末興行戦争に参戦ッ!?　11月11日、水道橋のファイティングカフェ『コロッセオ』で記者会見が行われ、12月28日に開催される『SAEKI祭り』の詳細と一部対戦カードが発表された。会見に出席した『DEEP』佐伯代表は「本当は、ボクの体重にちなんだ『百獣（110kg）の王祭り』にしようと思ったんですが、最近糖尿でやせて100kgくらいになったんでやめました」とコメント。噂されていた自身の参戦については「医者に相談して決める」と保留。"尿以外は甘くない男"佐伯繁、プロレスデビューなるか!?

『SAEKI祭り』には、しなしさとこが若林次郎とエキシビジョンを行うことも決定。しなしは「出られることになってすごく嬉しい。女子の試合を知ってもらういいきっかけになればいいと思う」と意欲を見せた。

来年の『DEEP』は後楽園規模の大会を基本に、年4回の大会を行う予定。アマチュア育成・新たなスター発掘を目的とした『Club DEEP』も、年3～4回行っていく予定だという。

SAEKI祭り　～DEEPファン感謝イベント

■日時　12月28日（日）　試合開始18:00（17：00開場）
■場所　東京・ディファ有明
■決定カード　石川雄規&冨宅飛駈 vs 滑川康仁&伊藤博之
三島☆ド根性ノ&須田匡昇 vs スペル・デルフィン&えべっさん
【エキシビジョンマッチ】若林次郎 vs しなしさとこ
■チケット料金　全席指定4000円（当日500円UP）　※一般発売は11月29日（土）
■問　DEEP事務局 TEL.052-339-0303
■オフィシャルHP　http://www.deep2001.com/

Club DEEP

"ミニ版DEEP"とは思えない豪華カードが実現!!　エキシビジョンで三島☆ド根性ノ助と対戦することが決定している辻ちゃんは「必ず面白い試合にします。三島さんの得意技、コブラ固めを逆に極めてやります!!」と意気込んだ。はたして結果は!?

club DEEP 5th 大阪

■日時　12月7日（日）試合開始17:00　■場所　大阪・デルフィンアリーナ
■大阪 vs 名古屋全面対抗戦
池本誠知（ライルーツコナン）vs 木村仁要（総合格闘技誠GYM）
深見智之（CMA京都）vs 坪井淳浩（アライブ・アカデミー）
■スーパーエキシビジョンマッチ
三島☆ド根性ノ助（総合格闘技道場コブラ会）vs 辻結花（総合格闘技 闇愚羅）
■チケット料金　オールスタンディング3000円（当日500円up）
■問　DEEP事務局 TEL.052-339-0303

DEEP

1月のDEEP本戦は、桜井"マッハ"速人の『武士道』参戦を止めた男・長南亮の登場が決定ーッ!!　そして今年7月の辻結花参戦に続いて、2人目の女子選手・しなしさとこ参戦、滑川康仁の10ヶ月ぶり『DEEP』参戦が決定ッ!!　はたして長南、しなし、滑川の対戦相手は誰になるのか!?

DEEP 13th IMPACT in KORAKUEN HALL

■日時　1月22日（木）　試合開始 18:30
■場所　東京・後楽園ホール
■出場予定選手
滑川康仁（フリー）、長南亮（U-FILE CAMP.com）、しなしさとこ（フリー）、他
■チケット料金　全席指定・SRS席　8000円／指定A席　6000円／指定B席　5000円（当日500円up）
※一般発売は11月29日（土）
■問　DEEP事務局 TEL.052-339-0303

Fight&Ticket

闘龍門、年内最後のビッグマッチ!! 12・16代々木第2大会決定!!

大好評・超満員に終わった9・26東京武道館大会に続き、闘龍門が年内最後のビッグマッチをブッ放す!!

予想されるカードは、ズバリマグナムTOKYO vsミラノコレクションA.T.のUDG王座戦。写真は9・26で突如タッグを組むことになった2人。現在、王者であるマグナムが「俺の調整がついたら受けてやる」と、ミラノの挑戦をかわしている状態だが……!? まずは11月28日、後楽園大会に要注目だ!! 後楽園では闘龍門初のグローブマッチで、CIMAが高木省吾（元ベルリネッタ・ボクサー）と対戦する!!

闘龍門「LA ULTIMA CAIDA」

■日時　12月16日（火）　試合開始 18:30（17:30開場）

■場所　東京・国立代々木競技場第2体育館

■チケット料金
特別リングサイド　10000円／リングサイド　7000円／アリーナ指定席　6000円／スタンドA席　8000円／スタンドB席　6000円／スタンドC席　5000円／一般自由　4000円（当日券は各1000円UP）
※チケットぴあ（TEL.0570-02-9999）で好評発売中!!

■問　闘龍門JAPAN　TEL:078-333-9797

■オフィシャルHP
http://www.gaora.co.jp/dragon/index.html

TOURYUMON・X、逆上陸第2戦決定!!

闘龍門JAPAN、闘龍門2000プロジェクト（T2P）に続く第3の闘龍門、『TOURYUMON・X』。大成功に終わった8月の逆上陸第1戦に続き、第2戦の開催が決定!!　要チェック!!

■日時　1月25日（日）試合開始 16:00　■場所　東京・ディファ有明
■チケット料金　特別リングサイド 6000円／リングサイド 5000円／指定A席 4000円／指定B席 3000円
■問　TOURYUMON.S.A.de C.V.　TEL.078-747-3410

Fight&Ticket

最強の再戦決定! パンクラス10周年記念両国大会開催!!

今度こそ完全決着なるか!? パンクラス両国大会メインで、菊田早苗の持つライトヘビー級ベルトに近藤有己が再挑戦することが決定！　両者は5月18日に横浜文化体育館で対戦し、一進一退の攻防の末1-1のドロー判定に。パンクラス史上に残る名勝負となった。尾崎社長は「今回はドローも判定もない。1Rで完全決着するでしょう」と断言。菊田と近藤も「早く決める」と口を揃えた。王者とエース、パンクラス最高峰の闘いを制するのはどっちだ!?

3大タイトルマッチに加え、ロン・ウォーターマン、三崎和雄の参戦も決定。更には新日本プロレスの送り込む刺客・ジミー・アンブリッツ参戦も決定と盛り沢山！　そして、“マッドネス”船木誠勝は解説に登場するのか!?　船木のキラー発言にも要注目だ！

パンクラス旗揚げ10周年記念興行第2弾　Sammy Presents PANCRASE 2003 HYBRID TOUR

■日時　11月30日（日）　試合開始16:00（15:00開場）　■場所　東京・両国国技館

■全対戦カード
【ライトヘビー級タイトルマッチ】⑦（王者）菊田早苗vs近藤有己（挑戦者）
【ミドル級タイトルマッチ】⑥（王者）ネイサン・マーコートvsヒカルド・アルメイダ（挑戦者）
【ウェルター級タイトルマッチ】⑤（王者）國奥麒樹真vs芹澤健市（挑戦者）　④郷野聡寛vsニルソン・デ・カストロ　③ロン・ウォーターマンvsジミー・アンブリッツ　②三崎和雄vsジェイク・シールズ　①前田吉朗vsバレット・ヨシダ

■チケット料金　VIP（最前列のみ、パンフレット付）30000円／SS　12000円／A　8000円／B　5000円／2F・A　7500円／2F・B　5500円（当日はすべて500円UP）

■問（株）ワールド・パンクラスクリエイト 03-5792-0815　■オフィシャルHP　http://www.pancrase.co.jp/

Fight&Ticket

コンテンダーズで宇野&五味が実現!!

CONTENDERSの華、ダブルスの8チームによるトーナメント決定！　各団体の注目選手がズラリと勢揃い。CONTENDERSならではの顔合わせに注目だ！

GCM　The　CONTENDERS-Q

■日時　12月5日（金）試合開始　19:00（18:00開場）

■場所　神奈川・横浜赤レンガ倉庫1号館3Fホール

■出場予定全8チーム――145kg契約
宇野薫（和術慧舟會　東京本部）&五味隆典（木口道場レスリング教室）
和田拓也（SKアブソリュート）&今泉堅太郎（SKアブソリュート）
小谷ヒロキ（ロデオスタイル）&村山英慈（ロデオスタイル）
中原太陽（和術慧舟會　GODS）&岡見勇信（和術慧舟會　東京本部）
朝日昇（東京イエローマンズ）&加藤鉄史（PUREBRED大宮）
石田光洋（Team-TOPS）&岩瀬茂俊（Team-TOPS）
鶴屋浩（パレストラ松戸）&杉江“アマゾン”大輔（ALIVE）
アライケンジ（パンクラスism）&志田幹（P'sLAB東京）
※トーナメントの組み合わせは当日18:00より、会場にて行われる。
【ワンマッチ】門馬秀貴（A-3）&弘中邦佳（アーザ柔術アカデミー）vs竹内出（SKアブソリュート）&松本天心（SKアブソリュート）

■問　GCMコミュニケーション　03-3538-5801

Fight&Ticket

AAAが日本再上陸!!

メキシコ最大のエンターテインメント・ルチャリブレ団体AAAが再上陸！『紙プロ』次号でも再度詳細をお伝えする他、携帯サイト『紙プロHand』では選手待画の配信も行います!!　12月1日アップ、要チェック!!

SOLLUNA&PAP PRESENTS『AAA INVADING JAPAN』

■1月23日（金）東京・後楽園ホール

■1月24日（土）大阪・IMPホール
※ともに試合開始18：30（17：00開場）

■参戦エストレージャ
グロンダ、ラ・パルカ、アレブリヘ&クイヘ、シベルネティコ、アビスモ・ネグロ、チェスマン、フベントゥ・ゲレーラ、チャーリー・マンソン、エル・ソロ、マスカリータ・サグラーダ他、総勢20名以上が来日!!

■主催　SOLLUNA・PAP

■チケット料金　~~リングサイドSP　15000円（SOLD OUT）~~／リングサイド　10000円／アレナ・セントラル　7000円／アレナ・ラテラル　5000円／グラダス5000円
※チケットぴあ、SOLLUNAなどで絶賛発売中!!

■問　AAA JAPAN事務局 TEL.06-6282-0919

Fight&Ticket

怨霊が新団体設立!!

日本が誇る極悪CDレーベル・殺害塩化ビニールのバカ社長ことクレイジーSKBと、プロレス界初の耽美ゴシックレスラー・怨霊が、プロレス新団体を設立。その名も『666（トリプルシックス）』！　旗揚げ戦が12月13日、バトルスフィア東京に決定！　詳細はHPで確認ダーッ!

■日時　12月13日（土）

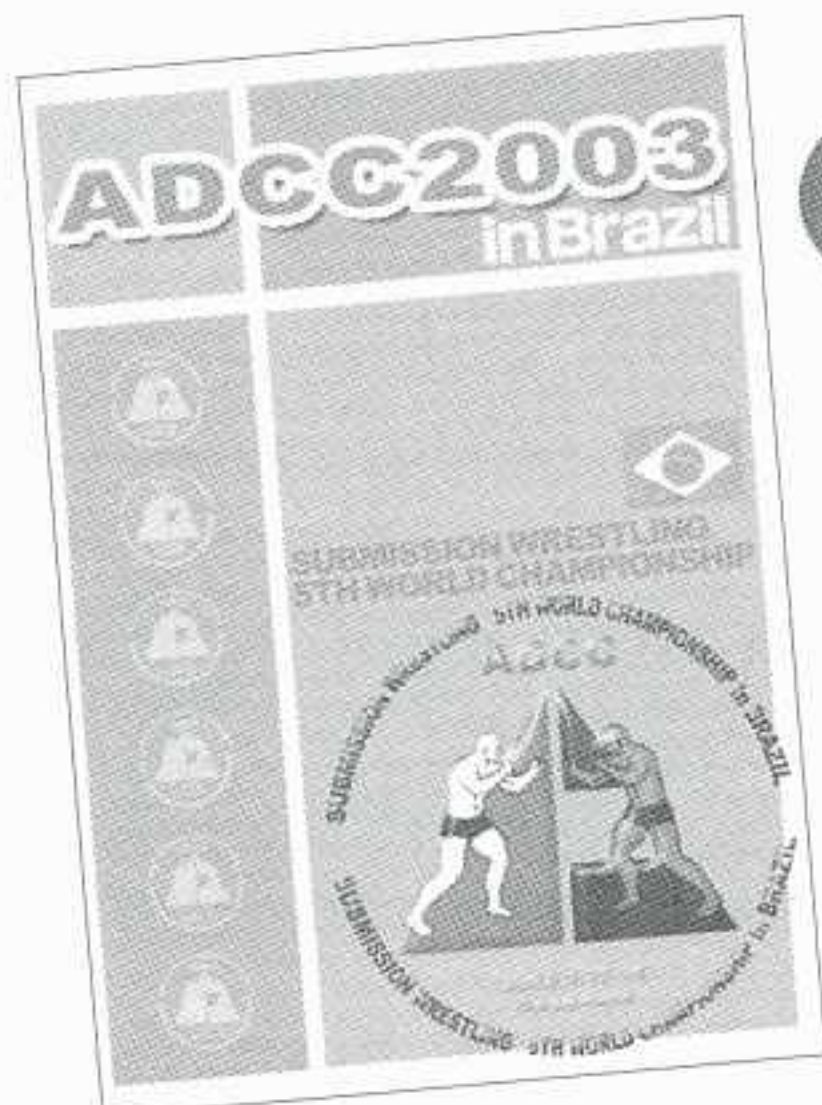
■場所　東京・バトルスフィア東京（東京都足立区保木間1-23-22）

■オフィシャルHP
WWW.MURDER666.COM
（↑こう打ち込めばOK! iモード版も同じアドレスで!!）

DVD & VIDEO

話題&最新作情報

アブダビ・コンバット2003

DVD・本体価格 10000円／クエスト
カラー 400分／発売中

Recommend

2003年5月17、18日ブラジル・サンパウロで2年ぶりの開催となった第5回アブダビ・コンバット。世界一の格闘王国であるブラジルを代表する選手たちと、熾烈な予選を勝ち抜いてきた世界中の強豪たちがサブミッション・レスリングの神髄を見せる！ 日本からも小路晃、國奥麒樹真、佐々木有生、岡見勇信らが参戦。日本でもお馴染みのホイラー＆ハイアン・グレイシー、ネイサン・マーコート、ヒカルド・アルメイダ、バレット・ヨシダらも大活躍。連続出場のベテラン勢に加え、多数の新生も台頭し、より進化した闘いが繰り広げられた。5階級+アブソリュート級のトーナメントから名勝負を多数収録。組技世界一の栄冠は、果たして誰の手に!?

THE LEGEND OF KINGDOM

DVD・本体価格 10,000円／クエスト
カラー 440分／発売中

It's HOT!!

IQレスラー・桜庭和志、KOKトーナメントベスト4・金原弘光、NWF王者・高山善廣、元IWGPジュニア王者・垣原賢人、ミスター200%で一世を風靡した安生洋二、元UFC－J王者・山本健一、PRIDEの切り込み隊長・松井駿介。格闘技界、プロレス界に大きく飛躍し、現在の日本マットを席巻する彼らにも雌伏の時代があった。プロフェッショナル・レスリングを標榜しながら、オープンフィンガーグローブで相手の顔面を殴るという物騒極まりないルール! それでいてパウンドに頼らない関節技の攻防！ 最強の男達を培養した伝説の団体、それがキングダムだ！ サク vs 金原、安生 vs ポール・バレランスなど、色褪せない名勝負の数々がDVDで蘇る!!

Music

注目作品・新作紹介

THE GREAT POGO HITS／ANTiSEEN

2003.11.18
CD・本体価格 2200円/DIWPHALANX

デスマッチファン必聴の問答無用アウトロー・スカム・パンクバンド、ANTiSEENが悲願の日本デビューアルバムをリリース！ 過去のCDでカクタス・ジャック、テリー・ファンク、サブゥなどの賛歌も制作するほどのハードコアマニアのANTiSEEN。ライブではマイクやガラスで頭を叩き割り、机を叩き壊しガソリンをぶっかけ大炎上! ジャケットのモデルは、彼らが神と崇拝する伊勢崎暗黒街の帝王ミスター・ポーゴ様!!

YELLOW TRASH SPLIT'S CD STUPID BABIES GO MAD&ANTiSEEN

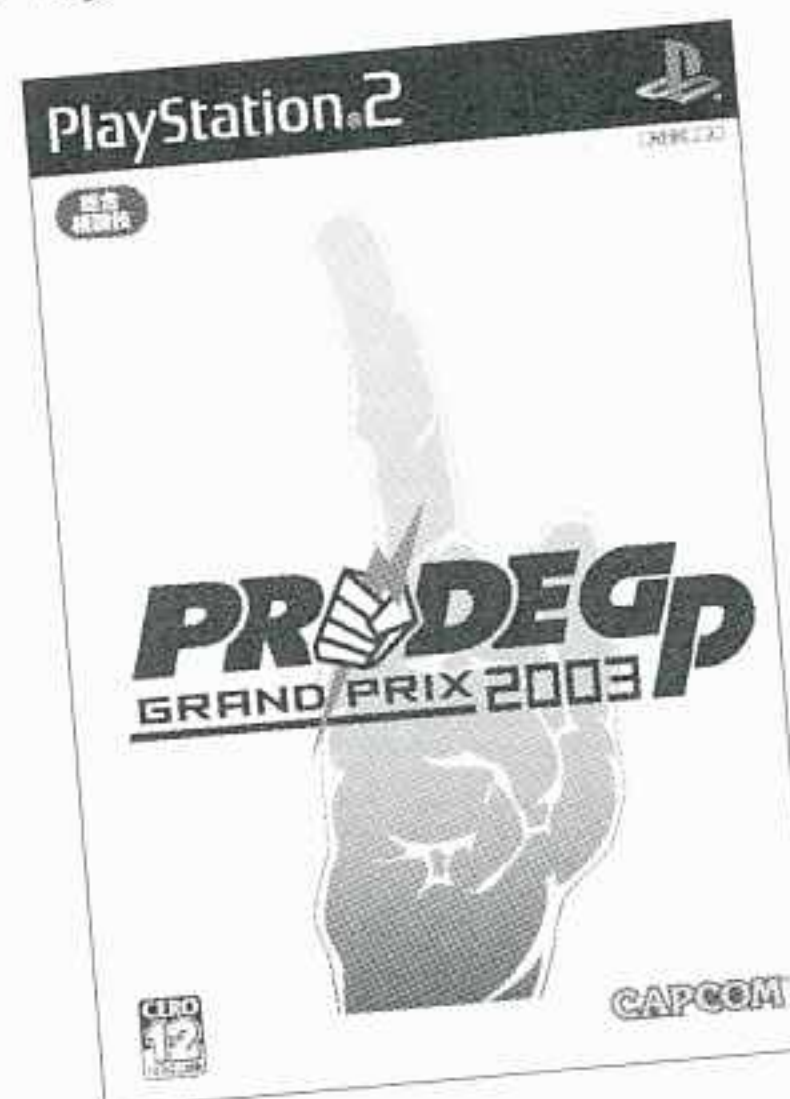
2003.11.18
CD・本体価格 1500円/DIWPHALANX

海外でも話題を博し数多くのリリースを展開する静岡スカム・パンクロックバンド、STUPID BABIES GO MAD。彼らに多大な影響を与え続けるアメリカのアウトロー・スカム・バンドの帝王ANTiSEEN。日米スカム・ヴァイオレンス2大バンドの夢の狂宴作品が実現した！ そして彼らがリスペクトする伝説の狂人パンクロッカー・GG アリンのカバーを当然の如く収録！ こちらのジャケットのモデルももちろんミスター・ポーゴ様だ!!

Game

エキサイト&バトル！

プレイステーション2『PRIDE GP 2003』

ゲーム・本体価格 6800円
カプコン

Recommend

前作を大幅に上回る29名以上の選手が登場！ ミルコ、ヒョードル、吉田、ランペイジなどトップ選手を始め、アンデウソン・シウバからホドリゴ・グレイシーなどシブめの選手も新たにラインナップ。本物さながらの入場シーンも、巻き舌でお馴染みのレニー・ハート氏とケイ・グラント氏で完全再現。試合には4点ポジジョンとサイドポジションを新たに加え、よりリアルに。

今回からTVさながらの実況システムも搭載し、更なる臨場感で手に汗握る白熱した闘いになること間違いなし！ 実況には三宅正治アナウンサー、解説はもちろん我らが高田統括本部長！ 男の中の男たちよ、出て来いや!!

■TEL ユーザーサポートセンター
06-6946-3099（9:00～12:00／13:00～17:30 土・日・祝日は除く）

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
http://www.njpw.co.jp/

■拳圏道 042-544-6979
〒196-0013 東京都昭島市大神町1-2-22
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区六本木7-3-2
http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂 03-5464-2806
〒150-0011 東京都渋谷区東2-21-9-803号 ジェイパーク渋谷イーストスクエア
http://www.Takayama-do.com

■闘龍門JAPAN
078-333-9797
〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18 メープル中山手201
http://www.gaora.co.jp/dragon/index.html

■ドリームステージエンターテイメント（PRIDE）
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048 神奈川県横浜市中区蓬莱町2－247 SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■A to Z 03-3678-7777
〒132-0013 東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT 03-3868-9181
〒112-0002 東京都文京区小石川2-9-7 MORIMOTO FLATS 4F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICAION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www01.vaio.ne.jp/IWAJP/

■JDスター 03-5561-0522
〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F
http://www.jdstar.co.jp/jd_star/index_j.html

■JWP 03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW 03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

■NEO 044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■SMACK GIRL実行委員会
03-554-4766
〒106-0044 東京都港区東麻布1-10-11東麻布アベビル3F 株式会社エキサイティング・トリガー内
http://www.smackgirl.com/

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO 03-5447-2121
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F

■UNW 03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WJプロレス
03-5458-5915
〒153-0043 東京都目黒区青葉台1-10-9 東信青葉台ビル4F
http://www.wj-pro.com/

■WMF 049-239-3520
〒350-0812 埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS 0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO-ONE
03-5730-3401
〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 寿ビル601
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST 03-5321-9595
〒106-0023 東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

Shop 一度は行きたいこのお店

なにわ新名物、サウンドキャノン・キングコブラがオープン!!

2004年1月10日、大阪・三角公園の向かいに、ライブハウス・キングコブラがオープンする！　オーナーはミュージシャン・KEIGO氏と三島☆ド根性ノ助！
オープニングライブはコブラ、ベースは元ミッシェルガンエレファントのウエノ!!　ベランダからは、公園にむかってライブやトークショーも可能な、なにわの新名物だ。紙プロも上陸予定あり!?　オープンと同時に駆け込め!!

▼Place
大阪市中央区西心斎橋2-18-7-3F
TEL：06-6211-2875

▼ホームページもオープン!!
http://king-cobra.net

Event 各地で行われるイベント情報

ターザン山本が『K-1 GP』を斬る!!

12・6、東京ドームで行われる『K-1 GP』。前号でK-1とは絶縁したはずのターザンが、大会直後にK-1を語る!!　いったい何を語ってくれるのか!?　今号でも炎上しまくりのターザンを体験しに、大会終了後は『闘道館』に直行ダーッ!!

■日時　12月6日（土）『K-1 GP』大会終了30分後よりスタート
■チケット料金　1人2000円
※予約の必要はなし。
席は早い者順となるため、後から入った人は立ち見の可能性あり。
■会場　格闘技プロレス図書館　闘道館
（JR水道橋駅西口を出て左手に進み、マクドナルドを左折。
まっすぐ150mほど直進し突き当たり、居酒屋どんたくがあるビルの5F）
■問　闘道館　TEL：03-3512-2080
■闘道館HP　http://toudoukan.infoseek.livedoor.net

And Others その他各種情報

アントン総帥、TVCMに登場!!

パチンコ機の開発・製造・販売を手がける（株）平和の初テレビCMに、アントン総帥が登場する。今回のテレビCMは、パチスロ機械のキャラクターとしても登場し、何より政治家として平和問題についての活動を積極的に行ってきたアントンを起用することによって、同社の企業理念「パチンコができる平和な世の中」を伝えるというもの。10月1日から「すぼると！」の提供他でオンエアー中！　ンムフフフ！

バトラーツが新人を募集!!

本当の意味でのバトラーツ再生に向け、新人選手を育成する場“BLOOD PIT”が始動する。テーマは「生き残り」。常人を越えた“根性”“情熱”“夢”“覚悟”を持った若者よ、BLOOD PITへ集合せよ！

■入学試験
スクワット200回、ジャンピングスクワット30回、ライオン式腕立て伏せ50回ほか。
■練習日
月～金曜日の午前9時30分～午後12時30分、石川雄規、原学との合同練習とマンツーマン指導。

問：バトラーツジムB-CLUB　048-963-7515

紙プロHand 更新・最新情報のお知らせ

携帯サイト『紙のプロレスHand』に、ショッピングコーナーがオープン!!　ロシアン・トップチームTシャツ、ヒョードルパーカーなどが携帯で購入できるほか、大晦日の『PRIDE・SP』チケットの予約も受付!!　12月1日更新の着メロは武藤敬司のテーマ『Trans magic』、WCW時代のゴールドバーグのテーマ『Invation』、そしてヴァンダレイ・シウバのテーマ＆大鷲透のテーマ『SANDSTORM』の3曲だ。
また、待画では中川画伯特製の「イラストカレンダー」が大好評!!　写真は11月のノゲイラカレンダー。はたして、12月カレンダーに登場する選手は誰か!?　レッツアクセス!!

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2003 11

Docomo ▶ i Menu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲
au / TU-KA ▶ トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技
vodafone ▶ ボーダフォンメニュー ▶ ボーダフォン・ライブ ▶ スポーツ・レジャー ▶ その他スポーツ
▶ 紙プロHand

今年も大晦日までお仕事です！ 元気が一番な読者ページ

紙プロ元気大学

元気ですかーッ！ 読者ページ担当・本業は電気部のささきぃです。先日、会見の時にスカートをはいていたら、下から携帯のカメラで激写されそうになりました。相手はあえて言いませんが、某アジアタッグのベルトをなくした方です。びっくりしてうまいリアクションが出来なかったので、次は他の女性記者に出番を譲ろうと思います。みなさんよろしくお願いします。それでは、はじまりはじまり。

（石川県・シーザータカシ）⇨今月もでかく載せてしまいました。村浜・K-1 ver.です。グローブしてるってことでしょうか。16日の公開記者会見では、観客の女の子から「かわいい」という声があがってました。村浜お兄ちゃんも頑張ってください。

校内巡回

『紙プロ』67号 面白かった記事

【加治将一インタビュー】
★いやぁとにかくアントニオ猪木の正体？ がよくわかるサイコー！ のインタビューでした!!
（福島県・長谷川隆・39歳・自営業）
⬇この他「猪木のウサンくささを再認識できてよかった。でもウさんくさくても俺はイノキが大好きだ（神奈川県・中原圭介）」、「『紙プロ』ならではの人選、内容（兵庫県・水口勝）」などの意見が多数届いた、作家・加治将一氏インタビューが第一位でした。「元気ですかーッ！」の謎がわかる上、なぜか藤波社長幻想も高まる（？）という、お得感満載インタビューでしたね。面白いと思った人は、ぜひ加治氏の本も購入しましょう。

【Y2談】
★毎号面白いのに、いっつも2位か3位だから、今回は特別功労賞で1位。2位には「まったく谷川にはやられたよな」、3位は「加治将一」。
（新潟県・齋藤貴樹・29歳・フィッシングフィールドテスター）
⬇お気遣いいただいたんですが、今月も2位でした。齋藤さん内の1位、ありがとうございます。
★山口編集長が久々に出たから。出てない時いつも気になるのですが、失踪してどこにいってるのですか？
（大分県・清水和寿・29歳・公務員）
⬇はて、何してるんでしょう。それは私も知りたいです。

【吉田秀彦インタビュー】
★吉田秀彦さんの大ファンだから、吉田さんの記事は収集してます。
（愛知県・吉武妙織・31歳・OL）
⬇2枚も応募券つきお葉書をいただいたということは、2冊購入していただいたのでしょうか。ありがとうございます。ミドル級に絞ったシャープな顔つきを見ていたら、吉武さんの気持ちもわかるなぁと思いました。かっこよかったですね。

【ターザン山本の絶縁状】
★初めてターザンを好きになりそうになったから。
（東京都・赤津千恵・34歳・会社員）
⬇好きになりそうですか。ほほう。こういう方もいれば「今月はターザンが出てないかと安心してたら、本の最後のページに出てきたから、余計ムカツク（広島県・広川徹）」という意見も。見事ワーストナンバーワンに輝かれました。

【コラム『金ちゃんのなんでそーなるの!?』】
★結構共感する所があり、笑ってしまいます。
（群馬県・福田邦宏・35歳・団体職員）
⬇私も天山の「シュ～」は不思議でした。福田さんも、6ヶ月定期を買った翌日にリストラされたりしましたか？ ボヤキマニアの方は、11・23に開催された『ZST・GP』パンフレットも要チェック。ナイスボヤキが掲載されてます。

（山梨県・貝戸夏也）「『PRIDE』をTVで観るたびに、ブラウン管に目をこらしてイズマイウを探すクセがついてしまったのは、ボクだけでしょうか？（見つけるとちょっとウレシイ）」⇨同じような人は結構いるだろうけど、見つけるとウレシイってのは病気だな（断言）。今月のナイス人選イラスト・その1、ロシアン・トップチーム代表のウラジミール・パコージン氏です。ただ、パコージン氏はもうちょっと髪が少ないと思います。あわわ。

【脳みそが腐った新日本】
★私も脳みそが腐っているので。
（宮城県・山口雅弘・37歳・無職）
⬇そうですか、大変ですね。お大事に。

『紙プロ』67号 つまらなかった記事

【コラム『大阪プロレスファン通信』】
★大阪プロレスには興味がないので。
（神奈川県・岩橋努・37歳・会社員）
⬇たしかに誤解されるようなタイトルかもしれませんが、一度読んでみてください。いや、本当に。

【U-STYLEの記事】
★私も後楽園へ観に行って本当に熱くなりましたし、おもしろかったです。Y2談でもほめてるのに、なんでこんなに扱いがちいさいのでしょうか……。確かに若手ばかりの大会で、会場もガラガラでしたが、せめてもう少し大きい記事にしてほしかったです。
（東京都・パパイヤ♥・22歳・大学生）
⬇ごめんなさい。石川屋会見に行った時、原学選手に「ボクの試合は載ってますか」と聞かれ、あいまいにごまかしてしまいました。原選手、そのせつはどうもスイマセンでした。私は原選手とU-FILE陣のせめぎあいが観たいです。

その他のおたより

★格闘技番組を見ていると、ポジショニングの概念すら知らない、酔っ払った父親の解説がものすごくうっとおしいです。だから、大晦日の興行はどれも見ません。
（『紙プロHand』投稿・猫川コウ）
⬇もったいない。こんなこと（大晦日、3局で放送）はたぶん2度とないですよ。会場に行ってはどうでしょうか。というか、今年7月から親子関係は変わっていないようですね、猫川さん。（※『紙プロ』64号参照）

（大阪府・英加直純）⇨ドームの天井ですね。下にいる5人、左から藤田、ノゲイラ、ヒョードル、ミルコでしょーか？ 右端はX？ 『PRIDE』ロゴが微妙にかわいい。いつもながら切り絵おつかれさまです!!

（山梨県・貝戸夏也）「美濃輪に早く帰国してほしい今日この頃……」⬇早く帰ってこないかなぁ、と海外修行中のレスラーを待つ気持ちってなんかいい、と私は思う。無敗街道まっしぐらのシウバ。次の相手は誰だ。

今月の『紙プロ元気大学』&『紙プロHand』調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

1位 田村潔司
2位 桜庭和志
3位 橋本真也
4位 ミルコ・クロコップ
5位 CIMA

今月も、携帯サイト『紙プロHand』からの投票と、本誌アンケート票を総合してお届けします。登場している選手名は前号・前々号とあまり変わっていないんですが、1位がサクから田村に変わり、破壊王がベスト3入りしました。今こそ頑張れ、CIMAファン！『紙プロHand』アンケートの票数が大きく影響しているので、こういう結果になっているんですが、読者ハガキだけだと小川直也票がかなり多いです。そしてなぜか西村修と書いてくる人が激増中。無我パワー？ 嫌いな選手アンケートでは、三銃士なみの強さを誇っていた某団体選手2人&某議員の天下がひっくり返るという大事件（?）が起きました。一体なぜこの時期？ ……敬礼ッ!!
（10/14～11/15アクセス分&ハガキは66号アンケート・11/15到着分調べ）

紙プロ67号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 加治将一インタビュー・猪木とは何か？
2位 Y2談
3位 ミルコ・クロコップインタビュー
4位 吉田秀彦インタビュー
5位 脳みそが腐った新日本

1位はアントン幻想大爆発！ の加治将一氏インタビュー。続いて山口日昇がちゃんと登場したY2談、3位は僅差で「逃げたんじゃないだろうな?」……の、ミルコ・クロコップインタビュー。4位は、勝利の“ゲッツ!”は見られなかった吉田秀彦インタビュー。5位はど真ん中ページで登場の新日本特集。みんな新日本が大好きッ！ 6位以降はドスカラスJr.インタビュー、ノゲイラインタビュー、チャック・リデル、“ランペイジ”ジャクソンのインタビューが続きました。4位以降は全部超僅差です。「GP特集全部」というおハガキが多かったですね。

今月のタレコミ部

（京都府・雪崩式袈裟切りチョップ）「駅弁界の四番バッターばかりを集めた『全国駅弁祭り』が近所の有名デパートで開催された際に購入した、奥羽本線米沢駅のエース駅弁『牛肉どまん中』です。折り込みチラシによると『自家製ダレで味付けした米沢牛の薄切りロースとそぼろを、山形県産米“どまんなか”にたっぷりと盛りつけました』とのこと。味の方は、まさしくワールドマグマ級にアレな感じで、とっても美味しかったです」➡まだまだ報告がつきないど真ん中製品。お米「どまんなか」っていうのがあるんですね。勉強になりました。普通においしそうです。タレコミ部始まって以来、はじめて静岡県以外から届いたお手紙でした。その他の県からもお待ちしています。ちなみにフィギュアは付属品じゃないですよね。税込み1000円だそうです。

（静岡県・目ガ覚メタロウ）「『悪徳商法にご注意!!』という小冊子にて。あら、こんなところにもボブ・サップ」⬇だます方はプロです！　となパンチの早い人なら勝てるんじゃないかと思わないでもないですが……いや、素人じゃ無理ですね。でも、こうやって比喩表現にも使われるようになったのは凄い。『PRIDE』のエメリヤーエンコ・ヒョードルに……って言っても、まだ通じないでしょうかね。

相手はプロ!!

いろいろなだましの方法（テクニック）がありますが、だます方はプロです！　だまされる私たちは素人です。かなうはずはありません。プロにかかったら素人は負けます（だまされます）。例えば、K－1のボブサップに一般の素人の人間が戦って勝てるはずがありません、これと同じことです。

（神奈川県・葉チャン）「私はキングアダモさんみたいな人にずっと頑張ってもらいたいです（ちゃんと見た事ないけど）」➡いや、私もそう思いますよ。かわいいし。はじめて試合見たときはどうしたものかと思いましたけど、いまじゃ立派なレスラーで嬉しくなります。

（石川県・シーザータカシ）➡前号に続いて長南亮。本人より顔が怖い。手に持っている殺人兵器風の物は墨つぼですね。私の知り合いの職人さんはパッチンと呼んでいました。職人さん以外にはどうでもいい話です。長南は佐伯祭りではなく、1月の『DEEP』でメインが決定しましたよ。

（神奈川県・稲葉聡）➡美濃輪＆ヒョードル弟、ともに稲葉さんの作品です。少し顔が怖い美濃輪。ブラジルからはキン肉星が見えるんでしょうか。アレキサンダーは81年生まれ。ていうかヒョードルも76年生まれ。若い!!　シウバもあんな顔で76年生まれですよ。うーむ。

中川画伯

（埼玉県・中川雅博）「鈴木みのる選手は、お気に入りの服を着倒しますよね！　週刊ゴング№981&993にインタビューが載っているんですが全く同じ服です！　チョコレート・ケーキ食べたいなぁ」⬇今の鈴木みのるはどうにも見ずにいられないほど表情が光りまくっていますよね。いやがおうにも引きつけられてしまいます。まるで恋のようですね。この服、どこに売っているんでしょう？　トップス？（そのまま）

（埼玉県・宮田浩司）⬇今月のナイス人選イラスト・その2です。キラー・シクマ。……なぜウチに。でも、載ってるってことは正しかったってこと？　あれ？　私だまされてる？　急な連載終了だったように思いましたが、気のせいでしょうか。

（東京都・相澤寛子）⬇おしり。……越中詩郎さんです。おしりが本人の代名詞ってすごい話ですね。そのことを考えるたびに掟ポルシェさんがバックナンバー59号で唱えていた「越中＝保田圭」説を思い出してしまいます。今月のインタビューはいかがでしょうか。感想おまちしております。

Tシャツ自慢コーナー

（静岡県・目ガ覚メタロウ）
「倍賞鉄夫もビックリのカシンTシャツ（バッチつき！）。中川画伯、誠に有難う御座います。あまりの感激に、私の血糖値も400を越えそうですよ、青木さん！」➡400越えるのって尋常じゃない数値だということを最近知りました。大丈夫でしょうか。だいぶ素顔に近い目ガ覚メタロウ氏です。中川画伯には私も新作のサクマリオバッチをもらいました。缶バッチは『ほんとにジョーク』応募者の中から抽選で5名にプレゼントされます。みんなで投稿しましょう。

表　裏

（埼玉県・宮田浩司）➡イラストより、表書きをわざわざ書き直しているところに驚いてしまいました。ていうかこの宛先はロコツに某誌ですね。渡辺大介の似顔絵送付先を、なぜアッチからウチに変えようと思ったんだろう。まぁいいや、選んでくれてありがと。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

イラストがたくさん届いてうれしいです。でも届くのは格闘家のものが8割以上で、こういう面でもプロレスが押されてるのかなぁ、なんて思ったりしました。愛がないとイラスト描く気にならないもんね。年末格闘技三つ巴戦も決まったことですし、日本人プロレスラーの似顔絵を募集します（?）。あと、呼び出しのようで申し訳ないですが、たっつぁんさん、青木雄大さん、ご無事でしたらハガキ送ってきて下さい。お待ちしています。もちろん初投稿の方も遠慮せずに送ってこいや！　『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
（株）ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「柔道着からワイルドハート」係まで。
★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます！★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第29回

え〜!! 本当〜?

ドラゴン

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

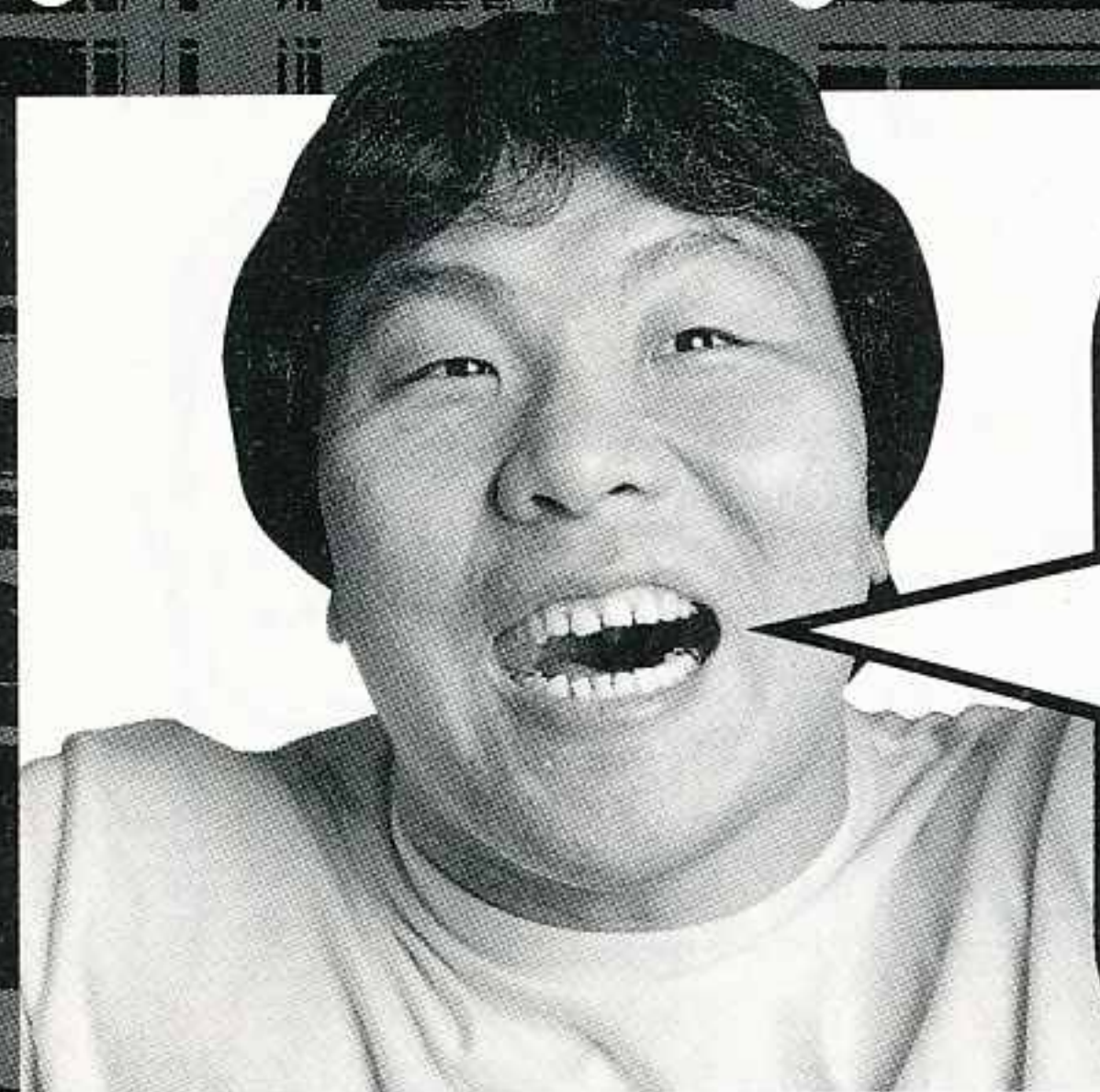
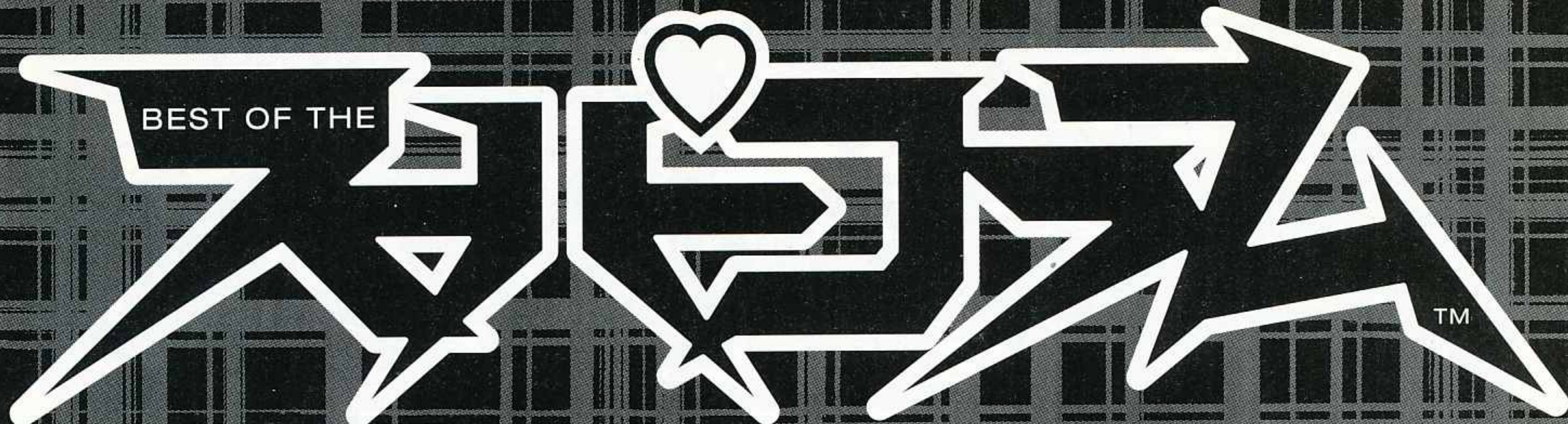
静岡県磐田郡　**目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、採用おめでとうございま〜す!!　「ケンドー・コバヤシ」Tシャツ（M）、お楽しみに!!
★桜庭和志選手、素晴らしい試合をアリガトーッ!!　吉住絹代選手、ライト級優勝オメデトーッ!!　大晦日に3局で格闘技を放送するなんて面白いね!　『猪木祭』が視聴率良かったからウチもやろう!　みたいなノリでしょ?
★ドラゴンは本当に引退してしまうのか?　ドラゴン同様、犬大好き!!　中川画伯の『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!!　抽選で5名様に「手づくり缶バッヂ」、採用された方には「手づくりTシャツ」をプレゼント!!　希望Tシャツはプロレスラーじゃなくてもノー問題です。いつ何時、誰のTシャツでもつくる!　皆さん、ハガキをビッシビシ送ってください。
★IT革命です。毎日更新。ヒマ人丸出し。『中吉』http://chu-kichi.jp/

➡前号のTシャツ　山本小鉄

応募方法　プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S･M･L･XL）をハガキに書いて下さい。　〈例〉桜庭和志のL

なぜだ! 新●本が中村カタブツ君を理由なき取材拒否!

BEST OF THE スパコラム™

金ちゃんの MONTHLY BOYA-KING COLUMN

なんでそ~なるの!?

第4回

大晦日は小橋さんの水平チョップを胸張って耐えるミルコが見たい!

ヒザの手術してから、ずっとリングが恋しくて仕方がなかったんだけど、11月9日『PRIDE』の東京ドームで、山本(宜久)さんのセコンドとして、久々に花道を歩いてきたよ。

今回は、ドーム大会の3日前ぐらいに急に山本さんから電話掛かってきて「今回、セコンドついてよ」って言われて着くことなったんだけど、そのとき「じゃあ、セコンドパスと駐車券、それからいろんな券も送って」って言ったんだよ。そしたら「〝いろんな券〟ってなんですか?」って聞いてくるから、「そんなのわかるでしょ。商品券とか、ビール券とか、お米券とか」って答えたんだけど、パスと駐車券しか送ってこなかったね(笑)。試合当日に「商品券ちょうだいよ!」って文句言うのもなんだから黙っていたけど、無職には〝いろんな券〟がありがたいんだから、いまからでも送ってほしいよ(笑)。

それにしても山本さんの試合は惜しかったよね。1R、2Rは勝ってたからさ、判定になれば勝ちだと思ったのに、3Rに入って急に失速しちゃったからね。セコンドで見ていて2Rでもう疲れてるのがわかったから、インターバルでもあえて「勝ってるよ」とは言わずに「次のラウンド取らなきゃ!」って檄飛ばしたんだけど、スタミナ切れで、集中力が途切れちゃったんだろうね。試合はほとんど支配してたのに、ホントもったいないことしたよ。

それで試合後、俺が「もったいない、もったいない」って言ってたら、「え!? 俺、途中まで勝ってたの?」って本人は全然気付いてなかったんだけどね(笑)。でも、桜庭もランデルマンに勝ったし、いい大会だったよね。

そういえば、今回セコンドに着くに当たって、やっぱり高田道場のTシャツ着ていかなきゃな、と思ってたんだよ。でも、高田道場Tシャツがみつからなくてね、代わりになぜか松井(大二郎)Tシャツがあったから、それ着て入場したんだよ。そしたら試合後、高山(善廣)君に「あの赤いTシャツ誰だろう? と思ったら金原さんで、しかも着てるTシャツが松井Tシャツなんで、ひとりで大笑いしましたよ」って言われてね。6万人の中で彼だけが、このネタを気付いてくれたんじゃないかな(笑)。

松井とは高田道場の控え室で、「俺も試合出たいなぁ。なぁ松井、お前もそう思うだろ」とか同意求めたりして、妙な連帯感ができてたからね(笑)。俺もケガで試合できなくて辛いけど、松井は健康なのに試合してないから、あいつも別の意味で辛いだろうね。ああ、早く試合に出たいなぁ。大晦日なんか、大きな大会が3つもあって凄いじゃない。選手もたくさん必要で、イベントやる側は大変だろうけど、こういう売り手市場のいい時期に出られないのがホントに辛いよ~。3つのイベントで争奪戦してもらいたかったけどね。俺が大晦日にできることと言えば、せいぜい「スネ相撲」ぐらいだから(笑)。いち視聴者として見させてもらいますよ。

でも、視聴者としたら、どれを見るか迷うところだよね。この間もボクシングの練習に行ったとき、大橋さん(大橋秀行=大橋ボクシングジム会長、元世界王者)と喋ってたら、「金原君、年末どれ見る?」って聞かれたらね、大橋さんも総合大好きだから(笑)。それで二人して「やっぱ曙だよな~、曙を見て裏でどっちをビデオ撮ろうかな」とか話してたよ。やっぱり横綱がK-1やるんだから気になるよね。でも、ヒザは大丈夫なのかな。ローキックやられたら一発なんじゃないかって心配だけどね。

あと日本テレビの方はミルコが出るんだってね。誰とやるのかなぁ。俺個人の希望で言えば、東スポで出てたミルコvs小橋さんが見たいけどね。お祭りなんだから、これぐらい意外なカードでもいいんじゃない? 小橋さんの水平チョップ連打をミルコが胸張って耐えるところが見たいよ。ミルコもそれぐらい受けてもいいよね? 散々受けてから、ハイキックを返す、と。ミルコにもそれぐらいのかわいらしさがあったら、もっと人気出ると思うんだけどな~(笑)。

見にくいが、ヤマヨシの後ろから入場する金ちゃん。ドームの花道はちょうど1年前のシウバ戦以来。祈・早期復帰!

Kanehara Hiromitsu
オフィシャルHPで「本音炸裂コラム」毎日更新してます!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

小ノゲイラvs山本KID中止!!
小ノゲvsルミナか植松にならないかなあ〜。

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

www.HANAKUMA.com

ビビアーノ

11月は、いいもんばっかでお腹いっぱい。まずは1日、六本木にブラジルトップ柔術家がやってきたプロ柔術。試合前流してたビデオ（ブラジルでの柔術の試合）で、ビビアーノ・フェルナンデスの動きに目が釘付け。実際この日の試合でも一番インパクト残してました。今後もっとビビアーノの試合を見たい！　各プロモーションの方、よろしくお願いしますね。

メインのジャカレイ対柔道家も注目でした。昔のこととはいえ柔道でトップまで行った人と柔術家の対決となれば、そりゃ興味津々でしょ。柔道トップでバリバリやってた人は、柔術家や総合の人より、中学高校大学と肉体を鍛えてた量が段違いだと思います。そんな、肉体を鍛えてきた量が違う者が闘って、鍛えてないほうの人が関節取ったりしちゃうとこが面白いし、鍛えてた人が圧倒的に勝つとこもそれはそれで敬服する。だから見たいのは、現役トップ柔道家と柔術家の闘い。今後の実現をひっそり期待したい。

ミルコ

3日の修斗では、大注目の植松対戸井田戦。これも凄くて、植松の恐ろしいアキレス炸裂！　もうほとんどこれで、お腹いっぱいなのに、だめ押しで9日のプライドです。

大ノゲイラ対ミルコが決まってから、この大会は自分にとって大事なものとなり、会場で見ることにした。そして、当日ドームへ行くと、アリーナ席はモデルとかモデル風とかモデルくずれなど、とにかくキレイな人がいっぱい。住む世界が違う人たちだ。目の前をキレイな人が通るたんびに目移りし、どうしたら、あっちの世界の人とつきあえる人生になれたのかしらとしんみり考えてると、目の前に斉藤清六出現。そういえば、20数年前の10月8日の後楽園ホール。長州力がかませ犬発言したあの夜のホールで、中3の私は斉藤清六にサインもらったんだよなあと思い出しながら、「あの頃とマット界はこんなに変わってしまいましたね」とテレパシーを清六に送ってみたりして（たぶん、受信してない）、大一番を待つ。

そしていざ試合。我らが大ノゲイラ入場、なんだか目がうつろで、髪型はどことなくエガちゃん。対するミルコは、入場時から鋭い眼光で気合い十分で自信満々。あまりに好対照なため、少し不安になるもノゲイラ勝利を信じ（ノゲイラはヒョードルに勝つのは難しいが、ミルコなら勝つ可能性大だと）、ゴングを待つ。

開始早々、ノゲイラの引き込みが成功すると、早くも心の中は狂喜乱舞。よしそれでいい！　じっくり攻めて極めちまいましょうと心はノリノリ。しかし、レフェリーの「アクション！アクション！」が耳障りだ。「アタックしてんだろ！」「黙って見てろ！」「ブレイクすんじゃねーぞ！」など心の中でつぶやくつもりが、自然と声に出して荒げてしまう。もう、自分で自分を止められません。そんなうち、猫のような早さでミルコがガードから逃げて立つ。そこからは、スタンドで痛ぶられるノゲイラ。なんとかゴングになるも、会場はミルコ勝利ムード。しかし、サップ戦だってここから逆転したんだと、期待を込めて2Rへ。すると早くもタックル成功。難なくパスし、サイドとってマウントへ！　「十字十字十字」と呪文のように唱える私。ミルコは胴にしがみついてきたから、なおさら好都合だ。「顔押して十字十字」と念仏となえる。

坊主のがいいと思うよ

エイネモ

そして、ミルコが無理矢理返して起きようとしたので、ノゲイラが十字の体勢へ移行した瞬間、勝利を確信した私は笑顔で無邪気にピョンピョン飛び跳ねて喜ぶ。その姿はおそらく、ボクシング世界戦でパンフ片手に立ち上がる有名なあの人と同じだっただろう。

ミルコがタップすると、もう放心。そして涙腺がゆるみウルウルしてきた。マッハ対トリッグ、ノゲイラ対サップ戦以来の涙腺爆発感動試合。ありがとうノゲイラ、サップ戦につづいて2度もこんなことするなんて、あなた最高！　がんばれば、人生何度かいいことは実現すると、この日ドームでキレイな人見てああいう住む世界の違う人とはつきあえないんだな〜と痛感してた私達に希望を与えてくれました。がんばるよ、無理だけど。

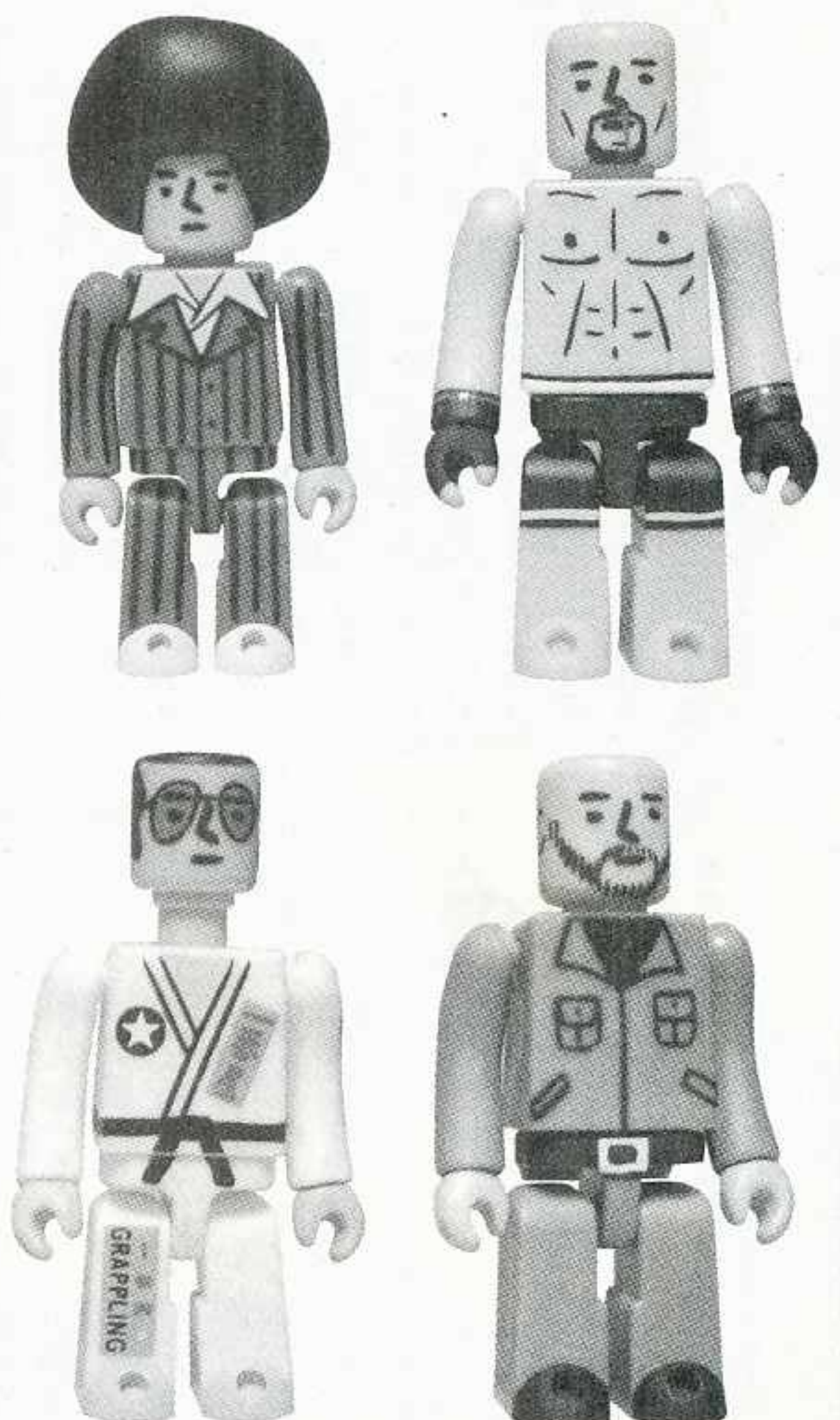
俺の頭はどこにいった!?

ドスJr

それは私のセリフよ

キル・ビルのオーレン・イシイ

Hanakuma Yuusaku

キル・ビル面白いじゃん。そうカリカリするなよ井筒監督。

タダシ☆タナカの『シュート活字劇場』

"歌うシュート活字王"狂気の連載!!

マット界舞台裏の裏（ウラ）

第4回

大英帝国プロレスよ、永遠なれ！

かつて前田日明、佐山サトルがそれぞれクイック・キク・リー、サミー・リーとして武者修行を行い、爆弾小僧ダイナマイト・キッドを輩出した栄光の英国マット。私自身、79年に現地に赴き、まだ来日してなかったローラーボール・マーク・ロコ（のちの初代ブラック・タイガー）などの活躍をいち早く『週刊ファイト』に書いたこともあり、人一倍思い入れも深い。その伝統の英国マットはいまどうなっているのだろうか？　今回のコラムは、11月4日ロンドン郊外クロイドンでの月一回定期戦の模様を中心に、現地のありのままの真実を伝えようと思う。

日本の専門誌は現地の留学生が写真を送ることもあって、英国プロレスの存在自体は現地の一般認識よりも日本のファンのほうがよく知っている。なにしろビッグ・ダディーという巨体のスーパースター全盛時代は、ロイヤル・アルバートホールのような名門会場も超満員で、サッカーの会場ではダディーのテーマ曲が盛んに使われていた。しかし86年にテレビ放送から撤退されてしまい、現地の一般認識では「ローカル・レスリングはもう終わってしまった。とっくにもうないよ」とホテルの案内係に聞いても返事されるのがオチだからだ。

実際、衛星放送でのSKYチャンネルでWWE放送があり、定期的に遠征してきているから、タクシーの運転手に聞いても「WWEのことか？」と聞かれてしまう散々たる認知度になってしまった。ところがどっこい、現地プロレスはしぶとく生き残っていた。しかも、興行数だけに関しては、むしろ数年前より増えていたのだからうれしい。

興行しているのは老舗中の老舗になるリバプールが本拠地のオールスター・プロである。代表はブライアン・ディクソンで、最近結婚したばかりの娘がリングアナウンサー（兼舞台裏監督）をやっている。場所はコンサートにも使われるフェアフィールド・ホール。ディファ有明のようにカーテンを開けて全部の席を使えば1800名収容可能で、実際満員だった時代からのプロレス会場だ。自分が数えた当日の入場者は親に連れられた子供も含めて約200名だった。

エースは現在ノアでの活動を始めたダグ・ウィリアムスだ。ボクのような昭和のプロレスファン世代が英国選手に求めるすべての要素を備えている本格派。柔道道場で学ぶことをやめない求道者タイプでもある。紹介されて奥さんと一緒に試合を見れたし、終わってからも丁寧に雑談に付き合ってくれた。ようやく未知の強豪が日本にも行けるようになったことを祝福できたわけだ。

英国情報を気にしていたマニアは、どれほどノア参戦を喜んだことだろうか？　米国ではフィラデルフィアのROHでオタク層に絶賛され、サンフランシスコ郊外でマイク・モデストらがやっているプロレスリング・アイアンのリングで三沢光晴と対戦したことで、ノアへの切符をつかんでくれた。なにしろ彼は日本のプロレス・ビデオの膨大なコレクションが自慢で、ノアの最新の武道館の結果までスラスラしゃべりだす。時代が違っていたら、大英帝国の誇る英雄になっている肉体と技術と、そしてすばらしい人間性の持ち主である。そんなエースですら英国内でプロレスでは食っていけるはずもなく、あくまで昼間の仕事が安定しているから参加しているのだという。

ロビー・ブルックサイドは来日回数ではベテランになってしまった。天山の欧州遠征時に発見されて新日本でも活躍したし、現在は全日本に来ている。WWEが横浜アリーナで興行した日に、奥村選手の地元での自主興行が満員だったことが特に自慢で、英国紳士のダグとは対照的に、下品な日本の話を延々としゃべりだしたらとまらない。この日も札幌の巡業ネタでロッカールームが笑い転げることになる。

ディクソンの右腕で、ほとんど全員の日本人選手を自宅に泊めてきた印刷会社経営のマル・メイソンは、33年もこのビジネスを無償で側面からサポートしてきた本当の功労者だ。当日のカードではTシャツにジーンズ姿で試合する若手もいたが、「こんなのはプロレスじゃない。恥ずかしい試合を見せて申し訳ない」と横に座って解説してくれた。

これが当日の大会パンフレット。中には対戦カードを印刷した紙が封入されていたが、当然のように、その通りには行われなかった。

そんな彼が「ヤマダ（獣神サンダー・ライガー）に会ったら次に日本に呼ぶのはコイツだと伝えてくれ」と紹介されたのはフィル・パワーズだ。すでに十年選手で、なるほど悪役マイクも板についているし、試合運びが堂に入っている。

実は試合前に一番気軽にバカ話で盛り上がったのも彼で、子分の前座選手が訳もわからずに「小沢昭一」とプリントされたTシャツを着ていたのが発端で、英国事情についてもじっくり話を聞くことができた。なにしろ、俳優としても欧州では有名なパット・ローチも顔を見せるドイツでの西村修の試合のレフェリー役まで含めれば、夏場の一週間には12回も出ているというのだから、そりゃ悪役稼業がうまくなるはずなのであった。

もはや老舗のオールスターを最大のプロモーションとは呼ばなくなっていて、膨大な数のインディーが乱立していることもギグの回数が多い理由だという。たとえば映画『ビヨンド・ザ・マット』の本当の主役でもあった"蛇男"ジェイク・ロバーツ。新しいガールフレンドが英国人なことから現在こちらに移り住んでおり、道場で生徒を教えるかたわら、すでに何度もショーを開いているという。1月2日からの10日間のツアーだと、米国人脈からホンキートンクマン、ジミー・スヌーカ、ハクソー・ジム・ドゥガンなどが来襲予定。ポスターにはLODも入っているが、これはホークの悲報前の最後のブッキング予定になってしまった。ちなみに女の理由で欧州に住んでいる選手は大勢いる。典型的なアメリカ人のスコーピオだって、オーストリアから日本に遠征してきているのであった。

こういう常連客に支えられたローカル・プロレスというのは、オールドファンを喜ばせる工夫に余念がない。英国では伝説の強豪ケンドー・ナガサキ（桜田ではなく五輪出場の英国紳士）が、この日は英国プロレスの発展に貢献したとの賞状を受けるセレモニーへの出演で、全盛期と同じ剣道着姿で登場してくれたことが、このたまたまボクの英国滞在スケジュールと重なった定期戦に登場してくれるなんて、なんとラッキーなことだろうか？　実はもうよぼよぼのおじいさんなのだが、決して控え室でも素顔を見せないままスグに帰ってしまったことが、この晩のハイライトであった。ちなみに12月2日の定期戦には、なつかしのマーティン・ジョーンズも顔を見せてくれるという。

ダグ・ウィリアムスの実力に、ノアのファンが気づいてくれる日が来ることを信じてやまない。どっこい、大英帝国プロレスは死んでいなかった。

Special Thanks to Tetsuro, Brian Dixon and Mal Mason

男道コーチ屋稼業
掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

スペシャル

★業☆勝ちます

【『紙プロ』初のハロプロ取材】の巻

いつものように尿道にコヨリを通し、ラー油をじわじわ染み込ませた上で高速回転させて性病予防に勤しんでいたところ、『紙プロ』編集部のチョロから電話が。

「あのー、掟さん今日これからヒマですか？」

う～ん、悪いけどちょっと今、手が放せないなぁ。一度フタを開けたラー油、使い切っちゃわないと風味が逃げるから。ヒマじゃないでーす。

「そうですか、急遽『紙プロ』でミキティとあややのインタビューをやることになったんで、ここはゼヒ、掟さんにと思ったんですけど、お取り込み中なら、いいです」

なななななにぃぃい～～～っっ!! 今なんつった、オイ！ 『ミキティ』と『あやや』に会わせてやるだとぉぉおおお!!!! そそそそういう重要なことは先に言ってチョーダイよ！ ヒマヒマヒマです大ヒマぶっこいてまーす！

残ったラー油を固めるテンプルしてゴミ箱直行（排水溝は海の入り口だから）、局部をラー油で真っ赤に腫れさせながら事の重大さを噛みしめてみた。万年『BUBKA』仕事満載の鼻つまみハローキッズなこの俺が、ついに本丸・ハロープロジェクトの巨星と新星にインタビューするという暴挙がまかり通ろうとは……！ これは事件だ。NEWSだ。森＆森夫婦の長男がジュニアのコンサートで人気爆発みたいな、どう考えてもありえない事態。だがしかし、ありえないことが平気で起こるのが21世紀のすごいとこ！ 21世紀バンザ～イ！

さて、この喜びを一体誰に伝えれば良いのだろう。そうだ、こんな時は真っ先に実家のかあちゃんに知らせなくては（以下、コレクトコール）。

俺「かあちゃん！ やったよ！ 俺、ミキティとあややに会えるんだよ！」

母「ああ、そうかい。よかったね。ところでミキティって誰だい？ 桂三木助さんのことかい？」

俺「その人は会いたくても会えないよ、かあちゃん！ ミキティって言ったらモームスの藤本美貴だよ！」

母「え？ アデランスの藤巻潤？ あの人最近見なくなったよねぇ。早坂あきよのアデランスリポートの方が受けが良かったってことなのかねぇ」

俺「藤しか合ってないよ、かあちゃん！ それに早坂あきよとかBーBーとか言われても読者の大半がなんのこっちゃいと思ってるよ！ それに俺、あややにも会えるんだよ！」

母「裸足でマラソンなんかしちゃって大変なことになってるねぇ、あの人。いいかげん誰か靴を買ってあげた方がいいんじゃないかねぇ」

俺「それはアヤヤじゃなくてアベベだよ、かあちゃん！ あややは松浦の方だよ！」

母「え？ おまえ松浦さんに会えるのかい？ わたしはどちらかといえばラファエル派なんだけど、それはそれでうらやましいねぇ。ラファエルは顔がワキガっぽいけど本当にいい男だよねぇ」

俺「UFOの松浦俊夫の話じゃないよ、かあちゃん！ それからラテン系の男は全員ワキガという認識は誤ってるよ、かあちゃん！」

かあちゃんは今ひとつハロプロというものがよくわかっていないようだったが、そんなことはこの際問題ではない。まずは事前自慢完了！

というわけでタキシードに着替えシルクハットを小粋に被り、どっからみてもジョニー・ウォーカーもしくは子役時代の笠置シヅ子風に正装し、お口の臭いで失礼のないようにリステリンの2リッターお徳用ボトルをガブ飲みして気合いを入れ、やってきたのは何故か一橋大学の学園祭……。あれれ？ ハロプロコンサート、今じゃ学祭プログラムの一部なわけ？ チョロ、なんか変じゃねえ？

「掟さんは間に合いませんでしたが、さっきまでここでミキティとあややが試合してたんですよ」

へ？ 試合？？ ああ～、フットサルね！ ハロプロ運動会でもやってたし、あややのドラマでもおなじみのサッカーみたいなアレのことね！ 学園祭でアヤミキ直接対決なんて、つんく♂さんもいろんなこと考えるもんだよね～。天才！ この野郎！

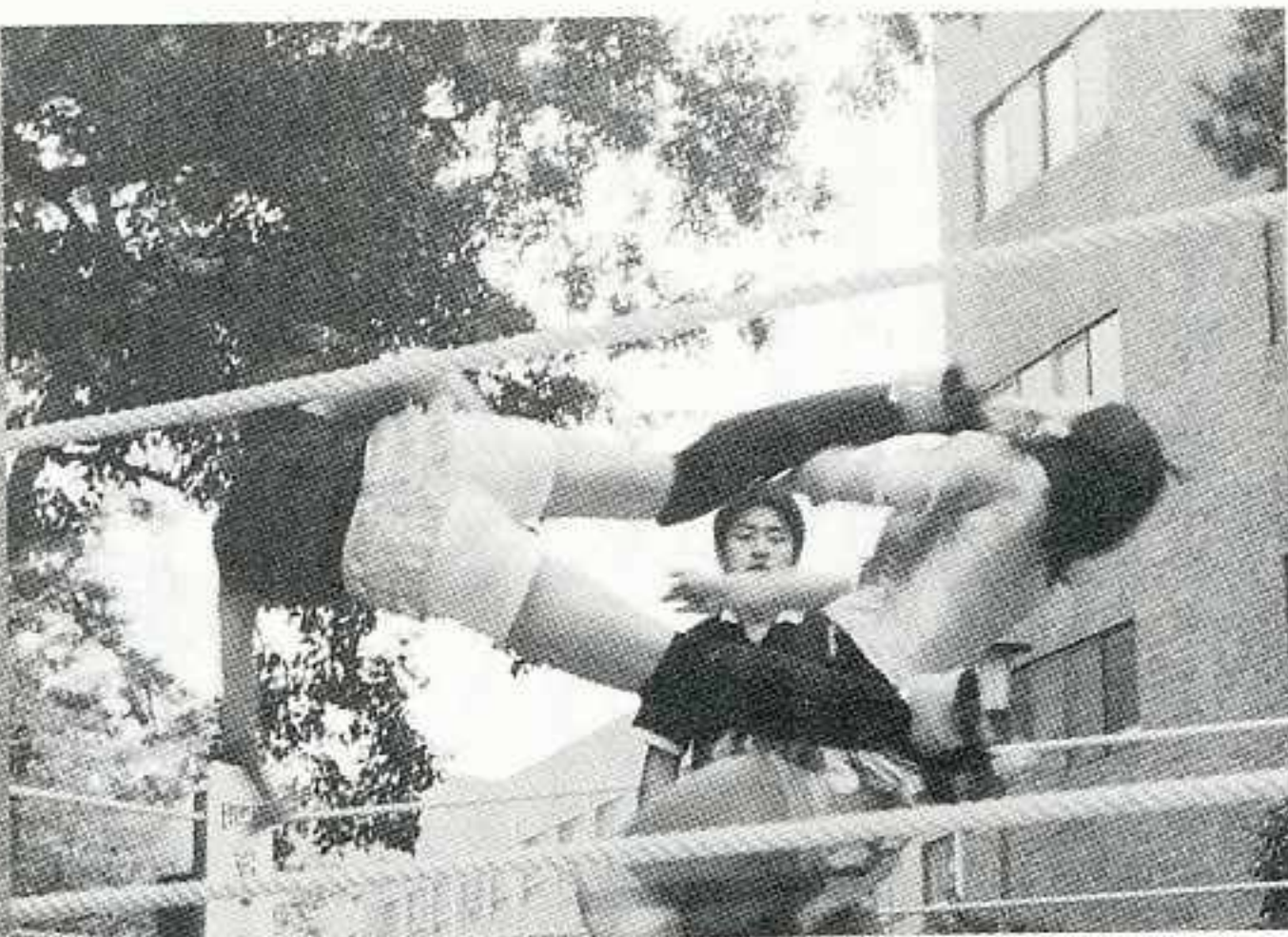
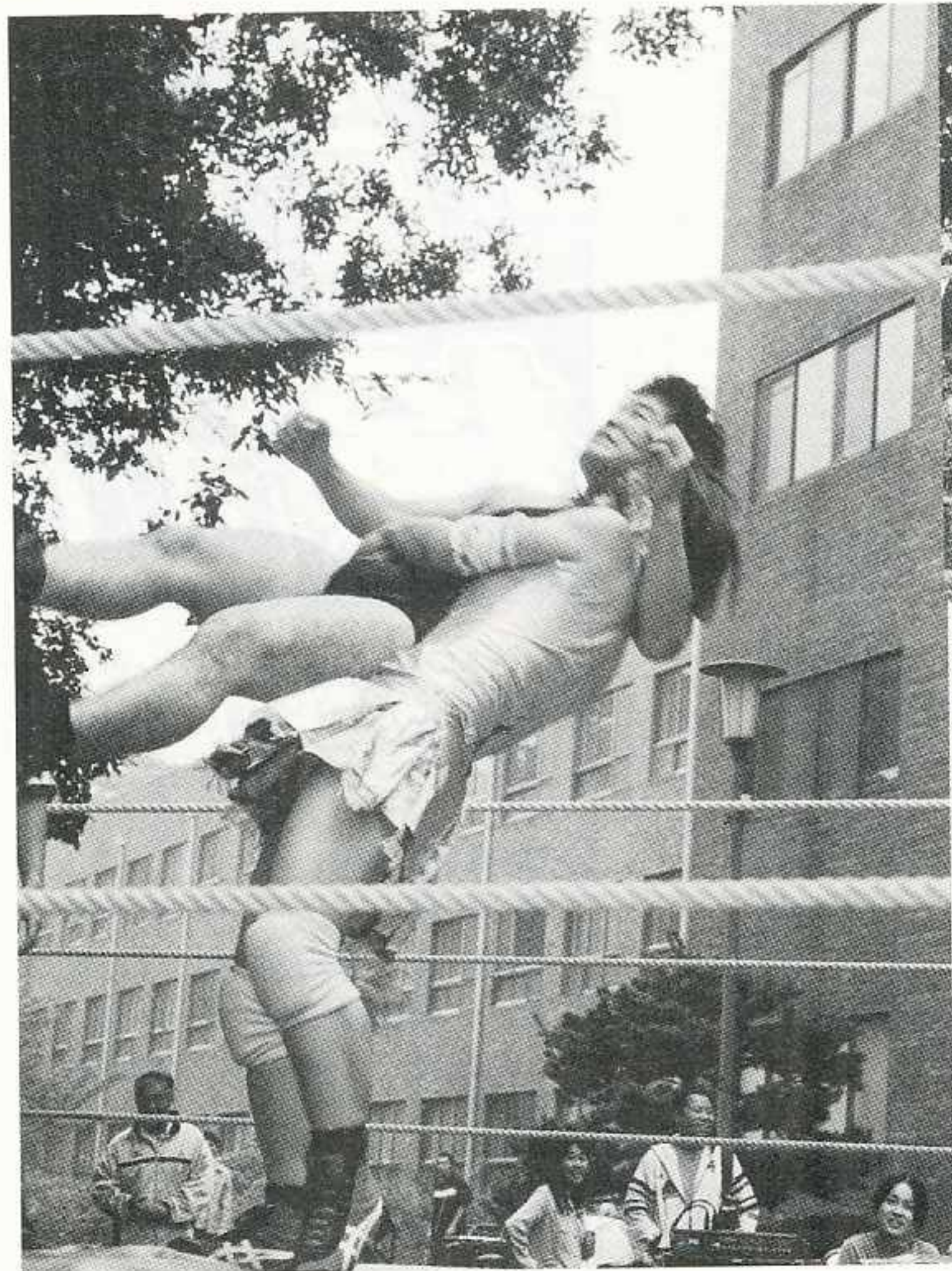
「じゃあ、部室に移動しましょうか。ミキティとあややが待ってますよ」

ついにアヤミキと御対面か……。せっかくの初ハロプロインタビューの場所がどこぞの学校の部室っていうのがなんかセコくてイヤだけど、それでもミキティとあややに会えるなら問題なし！

……で、連れて行かれたのが何故か『プロレス研究会』という、どん兵衛とかの汁が腐ったようなオイニーが充満する中、木戸修のポスターばかりが集中的にベタベタ貼られたキ●ガイ部室。こ、こんな5秒息をするだけで肺病にかかりそうな胞子長屋にミキティ＆あややが……？ ゲホゲホッ！ は、はじめまして！ 掟ポルシェ、ハロープロジェクト大好きッコ35歳！ 決して怪しい者ではありません（体中に塗りたくったミンチ肉をコンドルについばまれながら元気に挨拶）！

長州ミキティ＆松浦あじゃ「よろしくおねがいしま～す！」

掟「んっ!? なんかお二人ともTV

で見るのとは大分印象が違うというか……まぁいいや。今日の試合、遅刻しちゃって見れなかったんですけど、スゴイ白熱したらしいですね！」

11・3、一橋大学学園祭で初の直接対決を行ったミキティとあじゃ。あじゃが打点の高いドロップキックを繰り出せば、ミキティがヒネリの効いたバックドロップを見せるなどして大盛り上がり。今後の興行日程及び2人の情報は、こちらのアドレスまで http://www.geocities.co.jp/Colosseum/5110/home.htm

長州ミキティ（以下、ミ）「あじゃじゃとは今日が初対決だったんですけど、キキましたねぇ、スピンキックが特に」

掟「うお！ フットサルにスピンキックとは！ さすがは松浦さん、器用ですね！」

松浦あじゃ（以下、あ）「今日の試合、ミキティさんの必殺技ミキ・ラリアットでちょっと記憶が飛んじゃって、あんまり試合のこと覚えてないんですよぉ」

掟「ラリアット？ ……あぁ～んそうか！ ミキティといえばラフプレイ！ 北海道時代に地元でさんざん培った腕っぷしとハートの強さが炸裂したと。喧嘩上等、シビレます！ 今日は敵味方ですが、お二人は普段から仲がいいことでは有名ですよね」

あ「この間もミキティさんの家に泊まりに行ったんですよ」

掟「うおおおぉ！ そ、それで二人で何したんですか!? 誰も見てないところで『夜のことミック』リアルネタあわせとか？ 萌え～」

あ「北斗晶の自叙伝回し読みしたりとか。あと、昔の全女のビデオ一緒に見たりしてますよ。若手の試合とか面白いし参考になりますよね」

掟「ぜ、全女を参考にですか!? そう言われてみれば『Yeah！めっちゃホリデイ』の振り付けとかライオネス飛鳥の掌底にインスパイアされてるっぽいような……なんか知らない間にハロプロもアバンギャルドな方向に向かってるんですねぇ……。そういえばさっきから痛々しくて気になってたんですが、ミキティは全身痣だらけですけど、どうしたんですか？ フットサルの練習に見せかけて5期メン全員にリンチくらったとか？」

ミ「いつも試合は男子レスラーとばっかりなんですけど、こないだ対戦した相手の男子レスラーが学生プロレスの中でも一、二を争うモノホンのキ●ガイの方で、試合で熱くなると弓引きナックルパートとか急所にボコボコブチ込んでくるんですよ。でも女子レスラー相手に手加減しないし、いい先輩です！」

掟「あれ？ な～んか話がおかしいなぁあ？ 大学の構内で男子レスラーと試合って……もしかしてキミたち藤本美貴でも松浦亜弥でもなくて……」

ミ「気づくの遅いですよ！ 私が学生プロレスのど真ん中を行く女革命戦士・長州ミキティでーす」

あ「同じくトロピカ～ルな新人女子レスラー・松浦あじゃでぇすっ！ Yeah！ めっちゃ裏拳！」

掟「ただのハロプロ風リングネームを持つ学プロレスラーかよ！ ……んー、でもどちらにせよキャワユイので文句なし！ 是非ともヒネリを加えたバックドロップで俺を投げ殺して下さいよォォォ！」

というわけで、紙プロ初の『ハロプロ取材』ではなくて『学プロ取材』だったというオチでした。ガック死。

Okite Porushe

ロマンポルシェ。ライブ情報！
12・31（水）新宿ロフトで年越しライブ！
詳細はホムペ参照！
http://www.musicmine.com/roman-p/

■ 松浦あじゃ■
（19歳・160センチ・115パウンド）武蔵野美術大学1年
得意技：スピンキック、ウラカン・ラナ、コルバタ　好きなレスラー：豊田真奈美、シュガー佐藤　好きな食べ物：トロピカ～ルふる～つ　特技：笑顔！　デビュー戦：2003年10月5日、ミルク主催興行
学プロで活躍する長州ミキティの勇姿に触発され入団。長州ミキティとセット売りされる目的だけで松浦あじゃと命名される。学生プロレスをやっていることは父親には内緒なので常に親バレを気にしている。ファイトスタイルに『あじゃ』の部分が微塵もないことに多少の疑問を感じ出してきた女子学プロアイドル期待の新星！　カワイイ！
長州ミキティに対してのコメント：「一生付いてきます！」

■ 長州ミキティ■
（22歳・162センチ・130パウンド）武蔵野美術大学3年
得意技：ブギウギ長州ミキ・ラリアット、ヒネリを加えたバックドロップ、サソリ固め　好きなレスラー：北斗晶、里村明衣子、田村潔司　好きな食べ物：焼き肉じゃなくて豆　特技：洋服作り（試合用コスチュームも自作）
リングネームは「本名が吉田だから」ということだけで先輩学プロレスラーたちからよってたかって命名される。ルックス的には藤本美貴というより藤谷美紀に近い。『FRAU』に載っていたケビン山崎の肉体改造講座でダイエットに成功。長州を名乗るからにはサイパン行って日焼けとかしないとマズイのかと思っているアイドル女子学プロレスラー一番星！　カワイイ！
松浦あじゃに対してのコメント：「私にとっての健介にしてみせます！」

ザ・検証

とうとう長州がゼロワンをまたぎましたが、犬猿の仲同士のオラオラトークはド迫力でした。それにしても、いまの長州の髪型は凄いですね。長髪パーマのツーブロック。さすが革命戦士。注目の12・14ゼロワン両国大会のカードは、これを書いてる時点では決まってないけど、破壊王＆小笠原先生vs長州＆中嶋君とか見たいなぁ。頑張れ、中嶋君！

【今月の検証　椎名基樹】
12・31興行戦争

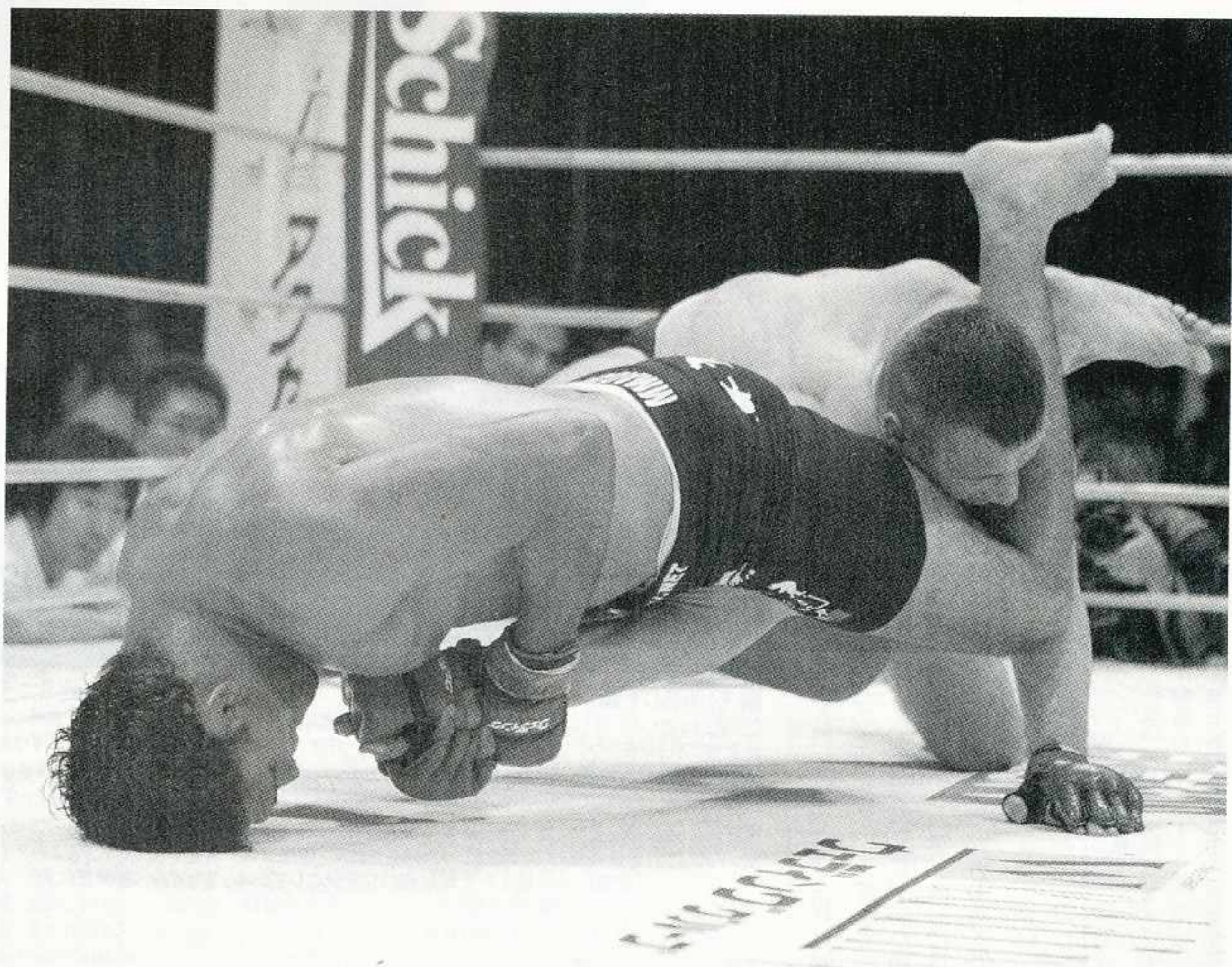
ミルコが負けて、ビックリ。先月のこのページで、ミルコ攻略法などをバカ丸出しで考えたワケであるが、それとは全然違う結末で終わり、カッコ悪い限りであるが、やっぱ勝負ってのはわからないね。なぜ、2Rになっていきなりテイクダウンされ、いきなりパスガード、いきなりマウントになっちゃったんだろう。油断といえばそれまでだが、戦術がひとつしかないってのは、一歩間違えば、ああいう結末になる可能性も充分にあったワケですな。ノゲイラがミルコの戦術をうち破ったってワケじゃないもんね。しかし、作戦というのは時として脆いものなのだなあと、実感。マウントからブリッジで返す時、あれだけ腕を伸ばしたら、十字取られるのも致し方ない。しかし、佐山先生が最初に目指したように、総合格闘家は「打倒極」全てが出来なければ勝てない時代になった。大きな穴があったら勝ち続けられない。まあ、それが競技の確立ってもんでしょうが。けど、ミルコvsノゲイラ、寝技になった途端に負けちゃう試合内容は、いにしえのリングスの、ロシア、ジャパン勢に負ける時のタリエルやオランダ勢を思い出させて懐かしかった。やっぱ異種格闘技戦っぽいのは盛り上がるね。

しかし、正直、ヒョードルvsミルコは無敗同士のまま見たかった。ノゲイラを応援していたものの、今年一番の楽しみだっただけに残念。ミルコを応援しなかったのは、俺はとにかく先に手を出す選手が好きで、それが一番強い姿だと思うってのが最大の理由なのだが、ミルコはなんといっても華があり、どう見てもカッコ良いので、負けたら負けたで、ちょっと残念。しかし、ノゲイラあそこで勝っちゃうのは、スゲーよ！　おめでと〜！

あと、休憩時間の高田劇場、ありゃなんだ？　公共の場でビジネスの生々しい話をするってのも、すごいね。テレビ局の人がマイクアピールするってのも前代未聞ではないか？（ごく一部の人は、ああ、あれが前田を怒らせたK氏か、と思ったでしょう）。そういうところが、『PRIDE』もどこか新日っぽさを受け継いでいるように感じて、おもしろい。

しかし、大晦日に3つも格闘技イベントをテレビで放送するって、この国はどういう国だ？　平和なんだか野蛮なんだか、良く分からないね。けど、どう考えても3つも必要ないワケで、未来のない陣地取りをしているように感じるけどなあ。ミルコは猪木祭りに出るっていうし。冷静に考えて、これから先、毎年毎年大晦日に複数の格闘技イベントが放映されるとなると、なんか悪夢じゃない？もちろん嫌って言ってるワケじゃないけど。毎年毎年繰り返されたら、さすがの俺も国の将来が心配になるね。頭痛てぇ感じ。大晦日に格闘技イベントやる必然性は全然ないわけで、猪木祭りっていうバカっぽさ、おめでたさだけが大晦日って感じなんですが。しかし、後になって「あれは何だったんだ？」っていう馬鹿伝説は見てみたいと思うので、ドーンとやってみよう！　と、言いつつ『PRIDE』くらいは硬派に、格闘技ファンに向けて欲しかったけどなあ。

しかし、格闘技イベントの視聴率って、本当にそんなに実態があるものなのかな？

遠心力って言葉はよくわからねえけど、それが視聴率ってワケじゃないと思うけどなあ。と、よくわからないのに、言ってみましたけど。要するに、俺が言いたいのは、マニアックなものしか世の中には存在しないってことです。浜崎あゆみが100万枚CDを売ろうと、それは100万人のマニアがいたってだけです！　だから格闘技関係の方々、もっと俺の気持ちを大切に！

マニアックといえば、サスケvsデルフィン、見にいけず、残念。思えば、ワルサスケが暴れたあの頃のみちのくプロレスが、俺の最後のプロレス体験だったなあ。あれは、燃えた。サスケは今年も猪木祭りで、ちゃっかり目立つのかな？　どうせなら、マスク剥ぎデスマッチやって、大晦日、大勢の国民の前で素顔晒しちゃって「どうだ！」とやったらカッコ良いのになあ。正に視聴率ではない、話題を独占でしょう。

PS　遅れた話題であるが、ヤンキースのワールドシリーズ、ガッチリ見ました。で、ヤンキースのショートの"ニューヨークの恋人"（by前田）なニックネームのジータって選手が、ヘンゾ似。抑えのエースのリベラってのがホイスに似てない？　これで監督がエリオにソックリだったら最高だったんだけどなあ。

【今月の検証　せき詩郎】越中インタビューで見る船木の言動

電車の網棚に置いてあった『週プロ』をめくっていると、越中のインタビューが載っていた。

越中のインタビューを読むなんていつ以来であろうか？　それさえも思い出せないほど月日が経っているのかもしれない。

その中にこんな一節があった。第一次ＵＦＷが新日本に戻り抗争していた頃、両者の気持ちを確かめ合おうと坂口が飲み会を企画した。その時の話である。

「武藤と前田は殴りあいしてたり、高田がそこに加わったり、船木とかは泣き出したり、トイレは水が噴出してきたり……。藤原さんと高田がモメて、8階だったんですけど、そこから飛び降りろとかお互い言い出して、二人を押さえつけるのも大変だったし。ちゃぶ台投げられたり。後藤（達俊）は暴れて三面鏡を放り投げるし、ドアは押せば開くのに、引いて「開かねえ」ってぶっ壊すし。ガラスは割れるし。武藤は顔がボコボコになって、前田は頭にビールの破片が突き刺さってるし。今度は武藤と高田がフルチンになって殴り合ってたり」

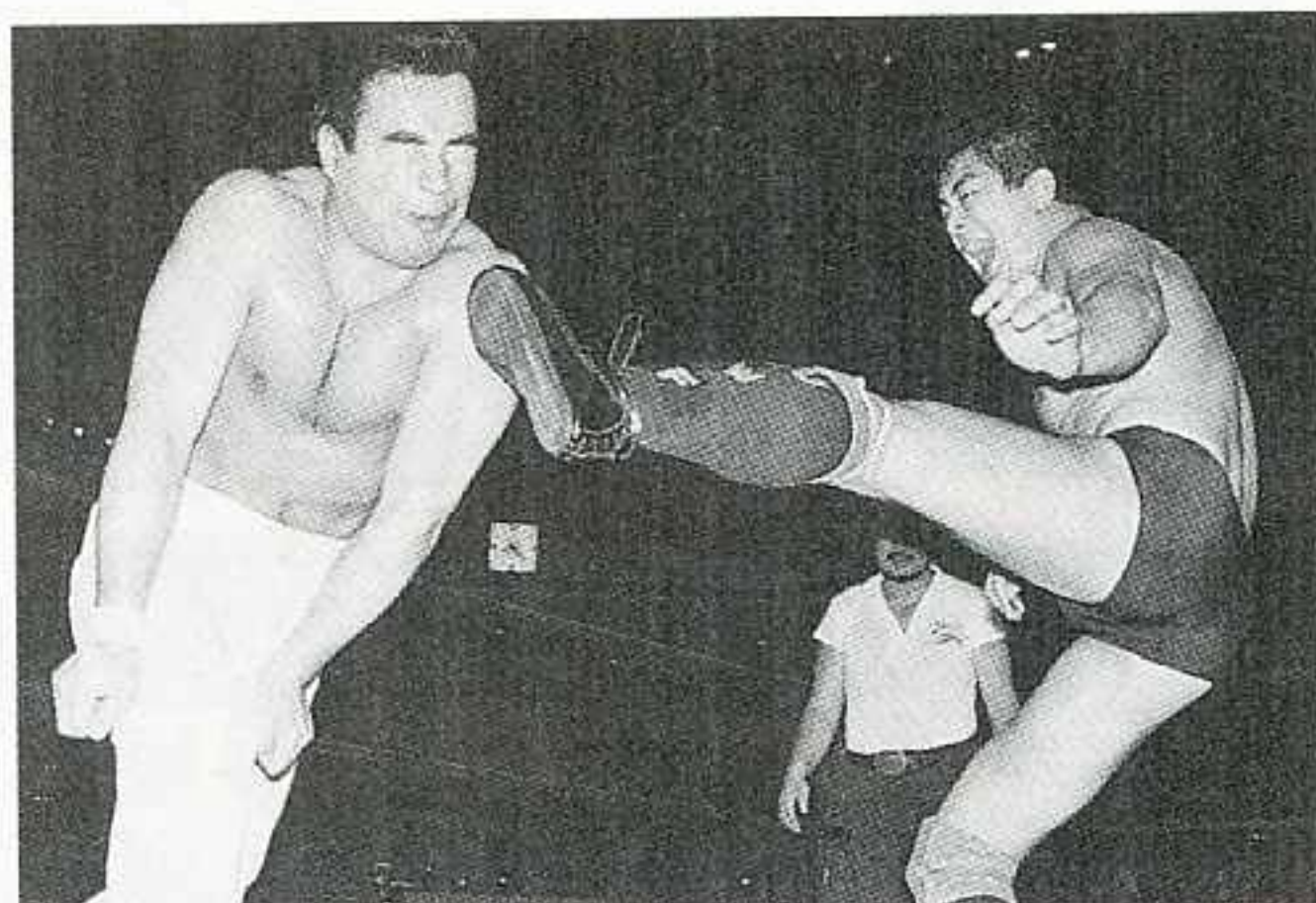
一読しただけではなんのことだかさっぱりわからない。山登りに出かけると思われる老夫婦と寝ている若者しかいない早朝の電車の中で私は二度、三度と読み直す。それでもわからない。乗っているのは各駅だ。自分には不必要な駅ばかりに停まる。目的地にはまだ時間がかかりそうだ。一つずつ区切りながら、人物の位置と状態をイメージしながら私はもう一度読み直してみた。

まず、武藤と前田が殴り合っている。前田の場合、殴り合っている姿が容易に想像できる。相手はスキンヘッドになるかなり前の武藤。武藤の殴りあう姿は想像しづらいが、そこはオタービオ戦を思い出して無理矢理補完するしかない。

そこに高田が加わってくる。なんの脈略もなく加わってくる。なぜ高田が加わってきたのか、越中の口から語られていない以上、「脈略なく」と決め付けてしまった方が楽だろう。別に「面白半分で」「使命感にかられて」「間違って」でも構わない。とにかく高田が加わってくる。

それを見ていた船木が泣き出す。この頃の船木はまだ少年と呼ぶのが相応しい年齢であったはずだ。親が夫婦喧嘩しただけで悲しくなって泣いてしまう年頃だ。親兄弟のように慕っていた人たちが殴り合いをしている。それを見て泣いてしまうのは仕方のないことだったろう。

その時、トイレの水が噴出した！

忍者ハットリ君という漫画がある。ご存知の方も多いことだろう。この漫画の主人公であるハットリ君には弟がいる。シンゾウという名の弟である。シンゾウは兄を追って伊賀から上京してきた。忍者としてはまだまだ半人前。日々修行の毎日である。だがこのシンゾウは兄をも超える忍術をひとつ持っていた。それは『なみだパワー』である。シンゾウが泣くと、その強大な泣き声が周囲の者の脳をしびれさせてしまうのだ。またこのパワーは人間のみならず周囲の環境にも影響を及ぼす。電柱は倒れ、家屋は倒壊する。最近暇があったら打っていた『ＣＲハットリ君』ではシンゾウの涙により雪崩が起き、シンゾウリーチの信頼度がアップするほどであった。

船木の涙もシンゾウと同じだったのかもしれない。船木の涙パワーがトイレのパイプを破壊し、水が噴出したのであろう。

一方、今度は藤原と高田がモメだす。先ほど武藤と前田の殴り合いに加わっていたはずの高田がなぜかそこにいる。噴出したトイレの水に流され、藤原のところにたどり着いたのだろう。クジラが噴出した潮の上に高田がのっかっているようなファンシーなシーンが目に浮かぶ。

その頃、今までの一連の動きとは別に、まったく無関係に後藤が暴れていた。後藤の相手は三面鏡だ。鏡に映った自分の姿にビックリしたのだろうか。それを敵だと勘違いしたのか。しかも三面鏡。後藤の目に映った敵は何十人といたに違いない。後藤は防衛本能から三面鏡を放り投げる。

三面鏡を倒した後藤。次の相手はドアだ。

押せば開くドア。だが後藤は押さずに「引く」ことを選択する。当然ドアは開かない。これが後藤の闘争心に火をつけた。開かないのなら壊すのみ。後藤独特のどこか面倒くさそうなラリアットの体勢のままで力任せにドアに突進する。まるでディズニー映画のように、ドアには後藤の体の形に穴が開く。またしても後藤の勝ちだ。

後藤が無機物相手に孤独な闘いをしている頃、殴り合いをしていた武藤と前田の容姿に変化がでていた。武藤の顔は前田にボコボコにされ、その見返りか、前田の頭にはビール瓶の破片が刺さっていた。

そこにまたしても高田が加わる。トイレの水に流され、8階から飛ぼうとしていた高田がまたしても戻ってきた。数年後開花することになる「もう一丁」精神はこの頃培われたのかもしれない。

先ほどと同じように殴りあいに加わる。ビデオテープを巻き戻したかのような光景だ。だが変化が一つだけあった。

高田はフルチンだったのである……。

武藤というレスラーはアメリカンスタイルの闘いを得意とする。常に客を意識した動きで、楽しませることに重点を置いたレスリングをする。それは同時に武藤の引き出しの多さを示している。相手の良さを引き出し、それに合わせるには臨機応変な対応が必要となるからだ。相手が典型的なプロレスラータイプであっても格闘タイプであっても武藤は難なく相手をこなせるのだ。

なので武藤もフルチンになった。相手の高田がフルチンならそれに合わせてフルチンになる。それが武藤であるし、そうでもこじつけないとフルチンで殴り合う意味がわからない。

高田のミドルキック！（フルチンで）

その足をとって武藤がドラゴンスクリュー（フルチンで）

回転して倒れる高田（フルチンで）

すかさず武藤が足四の字（フルチンで）

いつまでも二人の勝負は続くのであった……（フルチンで）

目的地のひとつ前の駅に電車が停まった時、一通り整理し終わり、やっと越中の発言が理解できた。要するに当人達以外には迷惑この上ない飲み会だったということだと。

ところでこの発言のあと、飲み会の様子が越中からまだ語られるのだが、その中にこんな発言があった。

「前田と高田と武藤と船木とかがフルチンになって殴り合いしてる」

私は驚いた。そこに船木がいたからだ。さっきまで泣いていた船木が乱闘に加わっているではないか！

ここでひとつの検証結果が導かれる。それは「船木は泣くと強くなる」と言うことだ。殴り合いを見ながら泣いていたはずが、いつしか殴り合っているのだから。昔、泣きながら手を振り回して向かってくるクラスメイトにてこずった記憶がある人もいるのではないだろうか？　泣くと物凄い勢いで向かってくる、まさに船木はそのタイプなのかもしれない。

そしてもう一つのキーワード、フルチン。泣くことにフルチンが加わると、相手が先輩だろうがなんだろうが船木は向かっていくのである。

船木対ヒクソン戦。あの時もしも船木が泣きながらフルチンで闘っていたら……!?　船木の涙パワーにヒクソンは脳をしびれさせられ、気づくと泣きながらフルチンの船木が手をブンブン振り回しながら向かってきている……。歴史は変わっていたかもしれない。

RADICAL CALENDAR

11 November

26 WED.
新日本■茨城・水戸市民体育館(18:30)
NOAH■秋田・大館市民体育館(18:30)
IWA■青森・むつ市民体育館(18:30)
AtoZ■千葉・流山市民総合体育館(18:30)

27 THU.
新日本■福島・白河市中央体育館(18:30)
全日本■京都・KBSホール(18:30)
IWA■青森・青森産業会館(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)

28 FRI.
新日本■山形・山形市総合スポーツセンター サブアリーナ(18:30)
闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)

29 SAT.
新日本■宮城・宮城県スポーツセンター(18:30)
全日本■岐阜・多治見美濃焼卸センター(18:00)
闘龍門■静岡・焼津市民体育館(18:30)
NOAH■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
JD■宮城・石巻市体育館(18:00)

30 SUN.
新日本■神奈川・藤沢市秋葉台文化体育館(18:30)
全日本■石川・石川県産業展示館3号館(16:00)
ZERO-ONE■群馬・ぐんまアリーナ(13:00)
闘龍門■三重・伊勢サンアリーナ(18:00)
PANCRASE■東京・両国国技館(16:00)
NOAH■北海道・北海道立総合体育センター きたえーる(15:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
IWA■東京・後楽園ホール(12:30)
DDT■大阪・IMPホール(16:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
AtoZ■東京・バトルスフィア東京(13:00)

12 Decembre

1 MON.
全日本■福島・福島市国体記念体育館(18:30)

2 TUE.
NOAH■山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)
全日本■宮城・宮城県スポーツセンター(18:30)
闘龍門■長野・飯田勤労者体育センター(18:30)
WMF■東京・渋谷club ATOM (19:00)
AtoZ■長野・長野市運動公園総合体育館サブアリーナ (18:30)

3 WED.
新日本■長野・松本市総合体育館(18:30)
全日本■秋田・秋田市立体育館(18:30)
闘龍門■岐阜・多治見セラミックパークMINO(18:30)
WJ■岡山・岡山卸センターオレンジホール(19:00)
NOAH■山形・米沢市営体育館(18:30)
LLPW■東京・駒沢オリンピック公園体育館(18:30)

4 THU.
ZERO-ONE■大阪・大阪府立体育会館　第2競技場(18:30)
闘龍門■滋賀・野洲町立総合体育館(18:30)
WJ■広島・呉市体育館(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

5 FRI.
新日本■岡山・岡山県体育館(18:30)
全日本■東京・日本武道館(18:00)
闘龍門■愛知・常滑市民アリーナ(18:30)
WJ■山口・周南市総合スポーツセンター サブアリーナ(18:30)
冬木軍■東京・後楽園ホール (19:00)
AtoZ■千葉・千葉ポートアリーナ サブアリーナ(18:30)

6 SAT.
『K-1 WORLD GP 2003 決勝戦』■東京・東京ドーム(17:00)
新日本■愛媛・テクスポート今治(18:30)
ZERO-ONE■石川・石川県産業展示館3号館(18:30)
NOAH■神奈川・横浜文化体育館(18:00)
闘龍門■愛知・刈谷あいおいホール(18:30)
WMF■大阪・大阪ドームスカイホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

7 SUN.
新日本■徳島・徳島市立体育館(15:00)
闘龍門■石川・金沢流通会館(17:00)
WJ■鹿児島・串良平和アリーナ(15:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
華☆激■愛知・名古屋市西区ワンダーシティHDPイベントホール(15:00)
SPWF■千葉・SPWF道場(14:00)
Club DEEP■大阪・デルフィンアリーナ(17:00)
全日本キック■東京・後楽園ホール(18:30)
メガ・ファイト5■東京・Z-ZONE永山(14:00)
シュートボクシング■大阪・梅田ステラホール(14:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
GAEA■大阪・大阪ドームスカイホール(15:00)
JWP■東京キネマ倶楽部(12:30)
NEO■東京キネマ倶楽部(16:30)

8 MON.
新日本■広島・広島グリーンアリーナ 小ホール(18:30)

9 TUE.
新日本■大阪・大阪府立体育館(18:00)
闘龍門■富山・高岡テクノドーム(18:30)
U-STYLE■東京・後楽園ホール(19:00)

10 WED.
DDT■東京・渋谷Club ATOM(19:00)

11 THU.
新日本■　福井・福井市体育館(18:30)
ZERO-ONE■群馬・館林市民体育館(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

12 FRI.
新日本■岐阜・飛騨高山ビッグアリーナ(18:30)
ZERO-ONE■愛知・東海市民体育館(18:30)
AtoZ■千葉・市川市塩浜体育館(18:30)

13 SAT.
闘龍門■広島・福山ビッグローズ(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
キングダムエルガイツ■東京・Z-Zone永山(18:00)

14 SUN.
新日本■愛知・名古屋レインボーホール(16:00)
ZERO-ONE■東京・両国国技館(16:00)
みちのく■静岡・清水マリンビル(15:00)
闘龍門■山口・下関海峡メッセ(17:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
イーグル■栃木・小山市文化センター小ホール(13:00)
修斗■千葉・東京ベイNKホール(16:00)
NEO■東京・赤塚公会堂(14:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)
AtoZ■宮城・三本木町町民体育館(18:30)

16 THU.
みちのく■岡山オレンジホール(18:30)
闘龍門■東京・国立代々木競技場第二体育館(18:30)

17 WED.
みちのく■愛知・豊橋市総合体育館第二競技場(18:30)
DDT■東京・渋谷Club ATOM(19:00)

18 THU.
みちのく■三重・四日市オーストラリア記念館(18:30)
大日本■静岡・キラメッセぬまづ(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

19 FRI.
闘龍門■愛知・岡崎市竜美ヶ丘会館(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
全女■東京・駒沢公園屋内競技場(18:00)

20 SAT.
みちのく■富山・イベントプラザ富山(18:30)
闘龍門■静岡・アクトシティ浜松(18:30)

21 SUN.
みちのく■石川・金沢流通会館(15:00)
闘龍門■京都・KBSホール(16:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
SPWF■千葉・SPWF道場(14:00)
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場(13:15)
全女■神奈川・川崎市体育館(15:00)
AtoZ■東京・後楽園ホール(12:00)
PANCRASE■東京・ディファ有明(16:00)

22 MON
大仁田厚興行■東京・後楽園ホール(19:00)
闘龍門■大阪・大阪府立体育会館第二競技場(18:00)

23 TUE.
みちのく■京都・KBSホール(14:00)
闘龍門■愛知・名古屋国際会議場(18:00)
大日本■愛知・ポートメッセなごや(15:00)
K-DOJO■京都・KBSホール(18:00)

24 WED.
大日本■神奈川・横浜文化体育館(18:30)

25 THU.
闘龍門■神奈川・小田原アリーナ(18:30)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)

26 FRI.
K-DOJO■大阪・デルフィンアリーナ(19:00)

27 SAT.
闘龍門■埼玉・川越ペペホールアトラス(18:00)
WMF■東京・後楽園ホール(19:00)
K-DOJO■愛知・名古屋中スポーツ第2体育館(19:00)
DEMOLITION■東京・東京FMホール(18:00)

28 SUN.
『SAEKI祭り』■東京・ディファ有明(18:00)
闘龍門■埼玉・川越ペペホールアトラス(15:00)
K-DOJO■東京・後楽園ホール(19:00)
JD■東京・後楽園ホール(12:00)

29 MON.
DDT■東京・後楽園ホール(18:30)

31 WED.
『K-1 Dynamite!!』■愛知・名古屋ドーム(16:00)
『イノキ・ボンバイエ』■神戸ウィングスタジアム(17:00)
『PRIDE(仮)』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(時間未定)

1・4戦争の意義を問う

ターザン山本 公開質問状

『W-O』よ、お前らの真の目的は何だ!

① 新日本プロレスを潰したい

② プロレスそのものを潰したい

③ プロレスに代わる新しいジャンルを作りたい

答えてみろ!!

息の根を止めてみろ
と変革をもたらすのだ!!

『紙プロ』はムチャだよ。1・4戦争について書けと言われても、11月19日、この原稿を書いている時点で、新日本プロレスの東京ドームと、DSEがやる『WｰO』は、何も発表されていないのだ。

それで一体、私に何を書けというのか？ そんなもん、この2、3日、私は少し風邪気味なので原稿など書かずに、寝ていた方がよっぽど体にいいのだ。

さすがの私もギブアップである。だって、だって今、世の中で話題なのは大晦日の興行3大戦争のことだよ。1・4なんか、何の話題にもなっていないんだから。

この企画はボツだ。ボツにするしかない。いや、ホント、恐ろしい世の中になったものである。1・4戦争はハッキリ言って、まるでもう〝蚊帳の外〟なんだよ。有名無実の名前ばかりの戦争というわけだ。

新日本とDSEは〝なすすべなし〟のお手上げ状態だと思うよ。そんなさぁ、4日前の大晦日にあんな派手な興行戦争をやれたら、誰でも戦意喪失になる。

ギブアップだよ、ギブアップ。特にDSEは12・31大晦日のカードを何にするのか、頭が痛いはずだよ。どうみたって『Dynamite!!』がやる曙vsサップの超ド級の試合には勝てないもん。

勝負あっただもん。それも完全に勝負あったと言ってもいい。つまりさぁ、DSEには1・4『WｰO』について考える余裕はまったくないということだ。

あるはずがないと思うよ。12・31大晦日をどうするかで、頭の中はいっぱいなんだから……。威勢よく大晦日戦争に打って出たものの「あれ、こんなはずじゃなかったのに……」と気付いたはずだよ。

世間ってそんなに甘くはないのだ。ということはDSEは12・31と1・4をわずか中3日で二つのビッグマッチをやらなければならないんだよ。これってさぁ、諺にあるじゃない。「二兎を追う者は一兎を得ず」と。

そうだよ、今からでも遅くない。DSEは1・4『WｰO』の開催から〝勇気ある撤退〟を表明すべきだ。それが最善の方法である。それしか方法はない。

ちょっと考えたらわかったはずだよ。年内いっぱいの12月31日までは、ずっと大晦日決戦のことで話題が独占される。しかも曙ひとりを軸にね。マスコミだって1・4のことを取り上げるのは、社会的影響力の少ないプロレス専門誌だけだろう。

それじゃあ、もう意味はないよ。DSEに告ぐ。逃げるが勝ちなんだよ。もしさぁ、DSEが新日本プロレスを潰すために1・4でケンカを売ったのなら、そんなこと今回は全然気にする必要がなかった。

大晦日の3大興行戦争で1・4新日本のドーム大会は完全にマイナー化、風化現象にさらされているからだ。新日本は1・4ドームで貧乏くじを引いているんだよ。

それなのになぜDSEもいっしょになって貧乏くじを引きに行くんだよ。それって愚の骨頂というんだよ。自分から落とし穴に落ちに行くようなもの。自殺行為だよ。

そしてさぁ『WｰO』って結局、あの大失敗した『Wｰ1』の焼き直しだろう？ ファンの中にネガティブなイメージしか残ってない『Wｰ1』は捨て去るべきだったのに、いまさらなぜ、またやろうとするのだ。

その発想が私にはまったく信じられない。ZEROｰONEと合体してやるから『WｰO』。ああ、ギャグにもならないよ。マンガと同じだ。発想がイージーだよな。

ネーミングが悪すぎる。それならいっそのこと『WｰO』は、反新日本決起大会、反新日本連合軍の大会にすればいいんだよ。

2004年1月4日は新日本か反新日本か、その激突でいいじゃないか？ そういう泥臭い闘いでいいんだよ。それってファンにもわかりやすいしさぁ、新日本vs『WｰO』では対立構造が見えてこないよ。

これは決定的にダメだよ。話にならないよ。12月31日が終わるとまさしく〝祭りのあと〟の気分になるんだよ、みんな。一夜明けて正月になっても、そんなにファンの気持ちはすぐにはリセットされない。

その余韻は絶対に引きずっている。そうしたらなおのこと、1・4のテーマは新日本と反新日本の闘いにしぼるんだよ。露骨にそれを全面に打ち出すん

ーザン山本
1.4戦争を斬る!

やるなら 新日本の息

マット界に新しい秩序と

だよ。

私が思うに、新日本はなんでも1・4ドームで、20試合のカードを組むというようなことを言ったそうである。20試合？ それって理解に苦しむなぁ。20試合と聞いただけでもうファンは行く気にならないかも。

そんな気がするんだよなぁ。しかし、それがもし、所属する全レスラーを出場しようとしているなら、これは話は別である。納得できるのだ。

これはあくまで私の個人的な予想だよ。ひょっとして新日本は今度の1・4ドームが最後のドーム大会になるかもしれない。

そういう考えを持っているとしたら、全レスラーをドームの試合に出場させてやりたいという気持ちになるよな。

どうも私はそういう匂いを感じてしまうのだ。どうかこの私の予想がハズれていることを神にも願いたいものだ。まさかさぁ、縁起でもないが、1・4ドーム大会が〝バンザイ興行〟になるんじゃないだろうなぁ。

私は正直言ってそこまで不安になってきた。あの20試合、全レスラー出場という新日本関係者の発想が、気になって気になって仕方がないのだ。それならDSEは新日本の息の根を止める形に持っていけばいい。

この30年以上、プロレス界を牛耳ってきた新日本体制を崩壊させて、マット界に新しい秩序と変革をもたらすのだと言いきるのだ。

自民党にとってかわろうとした民主党の主張と同じである。新日本は自民党で『W－0』が反新日本の連合軍によるマット界の民主党という構図である。

新日本は今、そこまで追いつめられているのだ。DSEはそんな新日本を「ほっといても潰れていく」と考えて静観するのか、それとも1・4で真っ向勝負にて、さらに追い打ちをかけるのか、どっちなのだ。

そこのところをハッキリさせるべきだ。要するに『W－0』を立ち上げてDSEは次の三つのうち何をやりたいんだよ。何が本当の目的なんだよ。公開質問したい。

①単に新日本プロレスを潰したい。
②プロレスそのものを潰したい。
③プロレスに代わる新しいジャンルを作りたい。

①の場合、その動機（モチベーション）が見えてこない。別にDSEに新日本への恨みがあるとは思えないし……。

②だとしたらDSEがZERO－ONEと組むのは、おかしいことになってくる。それなら③しかない。『W－1』で目指したようにプロレスに取って代わるエンターテインメントをやろうとしているのか？ それには取りあえずプロレスの代表でもある新日本を潰してしまえというのか？

その辺のことが『W－0』には全然、何も見えてこないのだ。やるならやれ、潰すなら潰せ。私の前に堂々と姿を見せてみろだ。

私がここで言いたいことは、「プロレスはプロレスなのだ」ということである。ここ1、2年、私は何回も「プロレスは死んだ」とか「プロレスは終わった」と言ってきたが、それはクオリティの高いプロレスを、もう団体もレスラーもできなくなったことを指しているのだ。

本当のところは終わってはいないのだ。私の中にあった失望感と絶望感が、そう言わせてきただけである。私がこれまで学びそして見てきたプロレスを、具現化できる団体とレスラーがいないだけなのだ。

マット界には〝プロレス〟と〝格闘技〟の二つの概念しかない。この二つをいかにして混血させブレンドさせ、化学反応させていくかが、今の『W－0』のテーマなのだ。

格闘技が興行として成功するためには、絶対にポジティブな形で、プロレスのDNAを内に取り込んでいく必要がある。そういう形でプロレス的なるものは、永遠に生きていく。

ジャンルとしてのプロレスは現実的に衰退していっても、プロレス的なるもののDNAさえ生き残ればどうってことないのだ。

それはさておき1・4戦争は、新日本vs反新日本の〝ど真ん中〟の闘いにしろ。そうでなければ、俺を『W－0』のプロデューサーにしろ。そもそも新日本プロレスを介錯するのは俺の役目なのだ。それしかセールスポイントにならない。押忍！

ター

ターザン山本 反ゴングの主義! anti GONG ism

新日本が喧嘩を売られた1・4戦争 さあ、どっちに付くかハッキリしろ

ターザン三日会わざれば刮目して見よ！

これだけ違う日々の主張

この原稿では、“1・4戦争”について、ネガティブなことばかりを書いているターザン。しかし、『週刊ゴング』（NO.995）では、「（『W－0』1・4開催）この仕掛けは見事なクリーンヒットである」、「DSEお前は男だ！」とDSEを絶賛しているのだ。それどころか「私は両陣営を煽りまくって最高のカードを出させるように持っていく」と高らかに宣言していながら、本稿では「DSEに告ぐ、逃げるが勝ちだよ」と撤退を進言するのだから、さすがはターザン。まぁ、この原稿と一緒に「私は時と場所と人（相手）と食事によって、言うことが全部変わるから、一切の発言に関して責任を持てません」というFAXを送ってくるのだから、それも納得なのであった。

“1・4”松の内興行戦争『W-O』VS新日本の裏側

プロレスの明日を懸けようや!!
『WRESTLE-O』(仮称)開催決定

フジテレビが『W-O』の放映を前向きに検討

大 前号のこの座談会でスッパ抜いた〝『W―0』1・4開催の噂〟は、マット界に大きな反響を呼んだみたいだね。

中 反響どころの騒ぎじゃないよ。新日本の幹部からは、俺のところに「ホントにやるの?」って探りの電話が入るし。新日本サイドはかなりナーバス&ヒートしてるよ。

小 毎年、1・4は新日本の東京ドーム大会が恒例になってるから、そこに敢えて『W―0』をぶつけるのは「仁義を欠いている」っていうことで怒ってる新日関係者が相当いるみたいですしね。

大 新日本も一気に火がついたね。選手のモチベーションも上がってるみたいだし。上井氏と蝶野の仲が一時期しっくりいってなかったり、新日本は内部は相当ゴタゴタしてたみたいだけど、『W―0』1・4開催が浮上したことで仮想敵を見つけたのか、とりあえずは一致団結したみたいだ。

小 でも、締切ギリギリの(11月)20日深夜の現時点になっても、待てど暮らせど『W―0』サイドからは何の発表もないですよね。1・4はホントにどうなるんですか?

大 この号が発売される頃には記者会見、もしくは何かしらのアナウンスがDSEからなされると聞いてる。

小 もしかして、またまた延期とか?(笑)。

大 いや、1・4は決定だろう。DSEはフジテレビに、『W―0』のTV放映についての企画書をずい分前に提出したらしいんだ。その企画書には「1月4日開催」とハッキリ記されていたっていうからね。

小 うわ〜っ! TV放映の話まですでに進んでるんですか!

大 それが単発特番になるのか、今後も含めてレギュラー放映に発展していくのかは確実な情報は入ってきてないけども、フジは前向きに検討してるらしい。CSでもPPV中継は決定的だって聞いたし。会場はプロレスでは初使用となる、さいたまスーパーアリーナで決定。しかも、たまアリ最大のスタジアム・バージョンでやるっていう話だ。

小 たまアリってイベント規模に合わせて、収容人数を変えることが可能な会場ですけど、スタジアム・バージョンっていったら、8月の『PRIDE・GP開幕戦』と同じ規模で、3万7千人収容可能ですよ!!

大 DSEサイドとしては、最初からそれを全部ファンで埋められるとは思ってない。大がかりな演出や舞台装置を含め、ファンが能動的に参加できるイベントにするために敢えてスタジアム・バージョンで勝負するらしい。

小 『W―0』という名称や、「能動的」っていうのといい、『W―0』は『W―1』のコンセプトと重なる部分もありそうですね。

中 ところが、これは前号でもちょっと触れたけど、肝心の『W―0』っていうイベント名称は変わる可能性も大きくあるんだ。ここでは便宜上『W―0』で通すけど、海外に向けて通りのいい名称に変更する可能性は残されてる。それと、ファン参加型のイベントっていう意味の根っこには、いかに会場に熱を

健介は新日本ドームへ 武藤の動向は……

生めるかっていうことがあるって聞いたね。サップvsホーストなんていう誰も望んでないマッチメイクを組まないことも含めてね（笑）。『W―1』は入場や演出はド派手だったけど、試合になったらファンは入っていけなかった。K―1ファイターにお手軽にプロレスをやらせたりして試合内容で酷評されたのを見てもわかる通りね。

大　『W―0』は、いまプロレス界の中では一番熱のあるZERO―ONEが土台になるから、ファンが期待する試合やクオリティはクリアできるだろうし、ツボははずさないと思うけどね。で、メンバーにはZERO―ONEでは呼んでない、大物のミック・フォーリーや、スコット・ホール、ケビン・ナッシュ、それからあのジョー・サンもラインナップされてるって聞いた（笑）。

中　他にはマスカラス一族、なんと懐かしのダスティ・ローデスも来るんじゃないかって聞いてるな。

小　新日本出場も取りざたされた小川直也はもっとも動向が注目される存在だけど、高山、健介、それから武藤を始めとした全日本勢も出場するって噂になってますよ……。

中　武藤は石井元館長との個人的な繋がりから『W―0』参戦を見送ったって聞いたけど、小島やカシンなどの他の全日本勢は『W―0』出場濃厚みたいだね。新日本は中邑（真輔）戦を武藤にオファーしたそうだよ。新日本を飛び出た因縁の全日本勢にオファーをかけるということは、新日本も相当、必死だよ。

大　その前には、武藤&蝶野vs小川&ホーガンのドリームタッグマッチ案を全日本にオファーしてたらしいな。三沢他のノア勢にも協力を要請してるっていうし。

中　ノア勢の動向はわからないけど、そのドリームタッグは案の定、暗礁に乗り上げたらしい（笑）。元・新日本だった全日本勢の中には「そんな話を聞くこと自体間違ってる」って、新日本からオファーを受けたフロントに憤慨してたという話もある（笑）。新日本アレルギーが元・新日本勢には根強く残ってるから、武藤が『W―0』に出ないからといって、新日本に即、上がるとは限らないね。

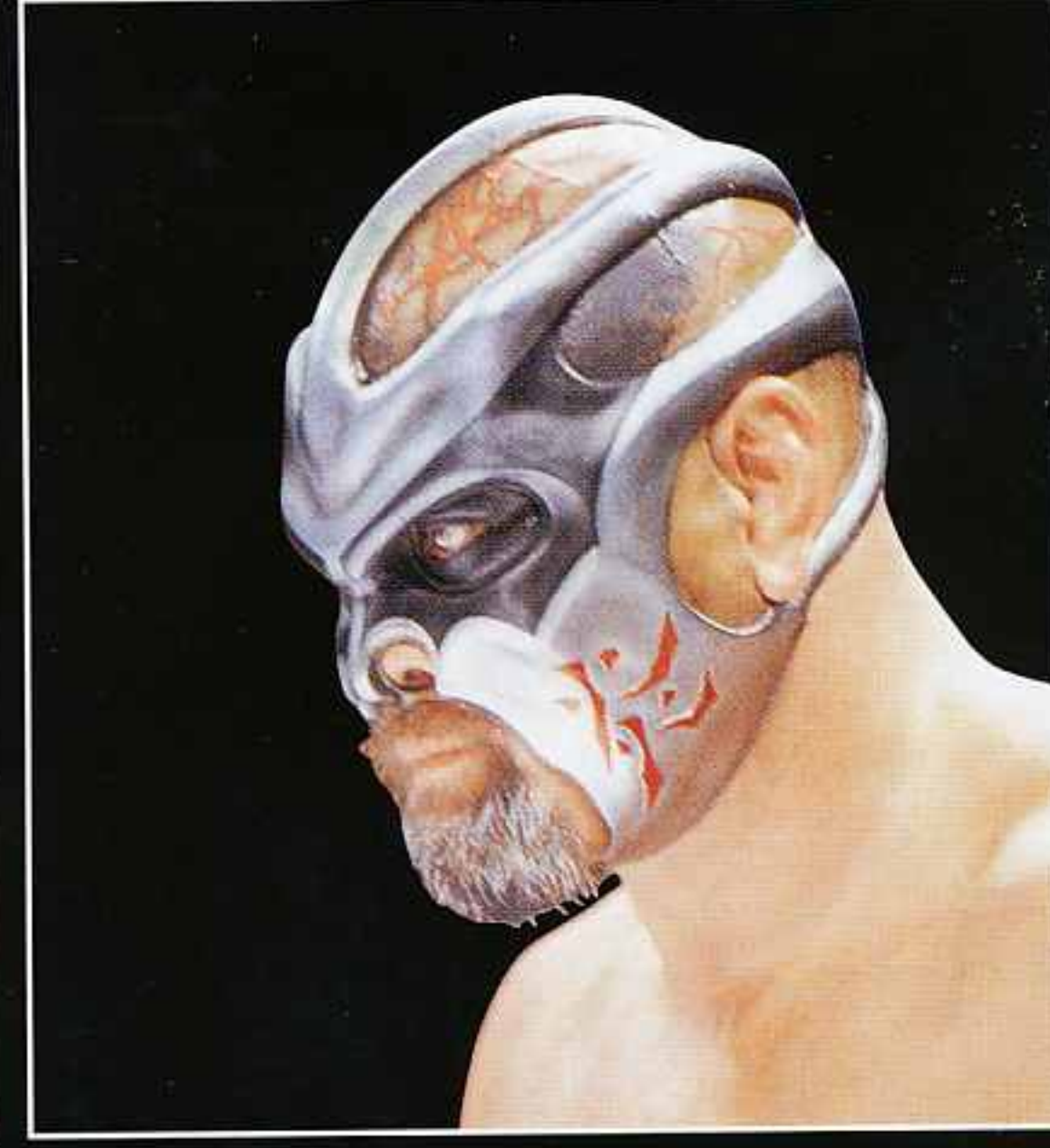
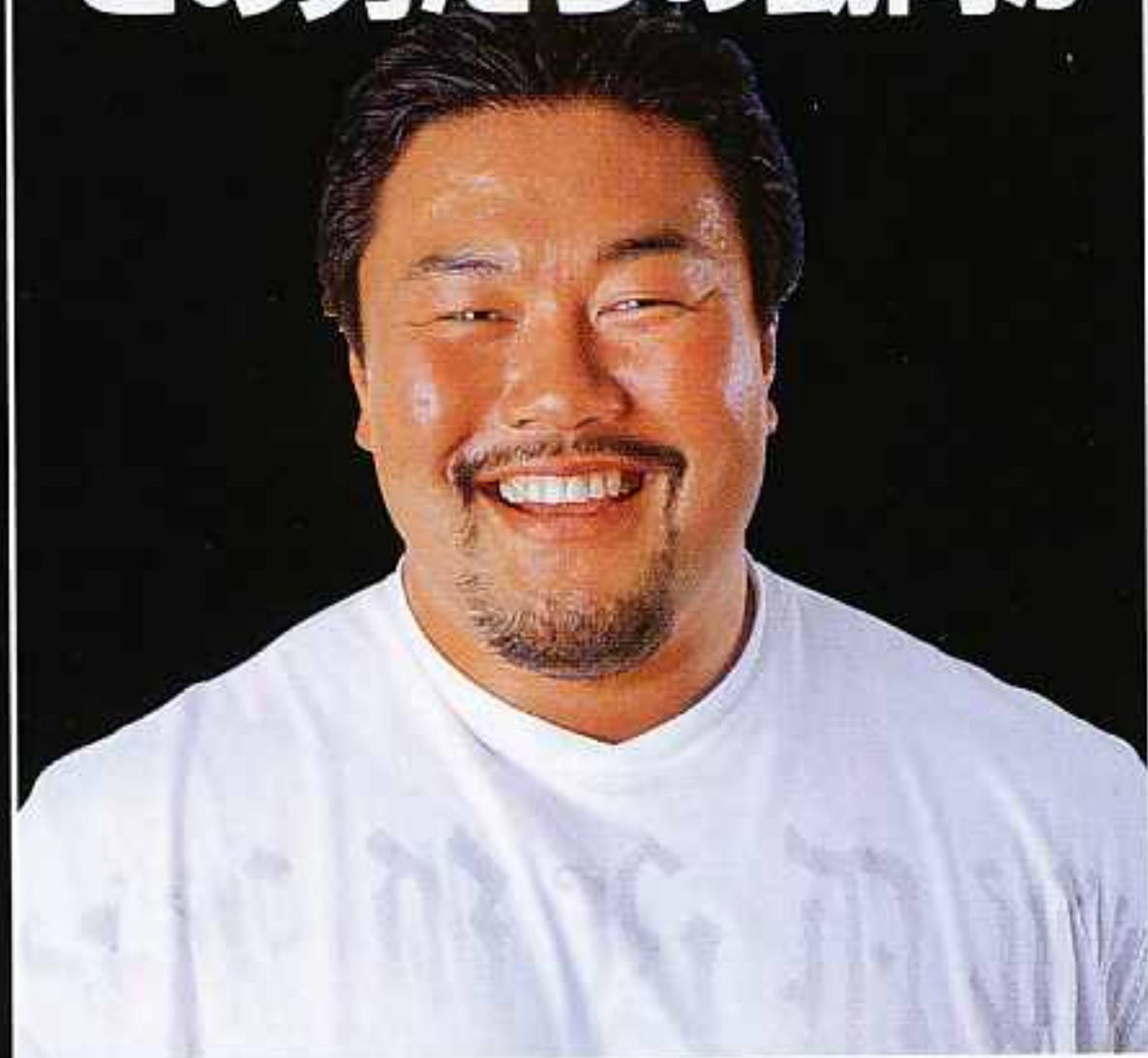
小　新日本は、ホーク・ウォリアーの葬儀のためアメリカに飛んだまま行方不明になった健介にも声をかけてるって聞いてますよ。

大　うん。健介はWJとのほとぼりが冷めるまでハワイに雲隠れしているらしいんだ。新日本登場は確定だって聞いた。

大　肝心の小川は、「これがプロレス界にとって最後のチャンスかもしれない」と、『W―0』で新しいプロレスを構築することに燃えているらしい。高山は大みそかの格闘技戦争の結果や負傷具合にもよるだろうけど、1・4ドームのポスターにデカデカと出てるから、新日本出場の線だろうな。一方、『W―0』は、いままで名前が挙がった選手、そして極端な話、破壊王が出れなくなったとしても、開催を強行するみたいだよ。

小　引っ込みつかなくなって、ヤケクソになってるんですか、『W―0』は？

『W-0』vs新日本の裏側

この男たちの動向が"松の内決戦"の運命を握る!?

新日本、高田に激怒 安田が対戦表明も

中　いや、タレントの名前やイタズラなマッチメイク案に頼らずに、新しいプロレスの定義、大会のコンセプトを表現することに重点を置くらしい。まずは、プロレスそのものの底上げが最大の目的だと聞いた。

大　いい意味でタレントやマッチメイクに頼らず、その舞台が持つ力で勝負するってことだね。つまり、『W―0』は、プロレスの〝場力〟を取り戻すための実験場なんだよ。

中　いまはタレントを引っ張ってきたり、誰vs誰ってことだけではチケットは売れないからな。それは思った以上に客を呼べず熱も生まれなかった10・13のホーガンがいい例だよ。何を見せたいのか、どんなことをやるのかが一番重要ってことだよね。

中　あと気になるのは、12・14両国でZERO―ONEマットに上がることが確実な長州力の動向だね。

大　ZERO―ONEマットに乗り込むということで、『W―0』出陣も噂されてる。

中　武藤の動向はわからないけど、新日本から飛び出た大物たちが一同に会して、旧態依然とした新日本、いや日本のプロレス界に楔を打ち込む運動体になろうとしてるのが『W―0』ということか。

小　でもですよ、『W―0』は、それ以前に厄介な問題が出てきたじゃないですか？『W―0』を主宰するDSEは『PRIDE』も主宰しているわけですけど、そのPRIDE統括本部長の高田延彦が出した本が、発売前から火種となって大騒ぎになってますよ。

中　いま発売されている、高田の自叙伝的書の『泣き虫』のことだろ？

小　噂によると、ミスター高橋本を超える衝撃的な内容ってもっぱらの評判ですよ！

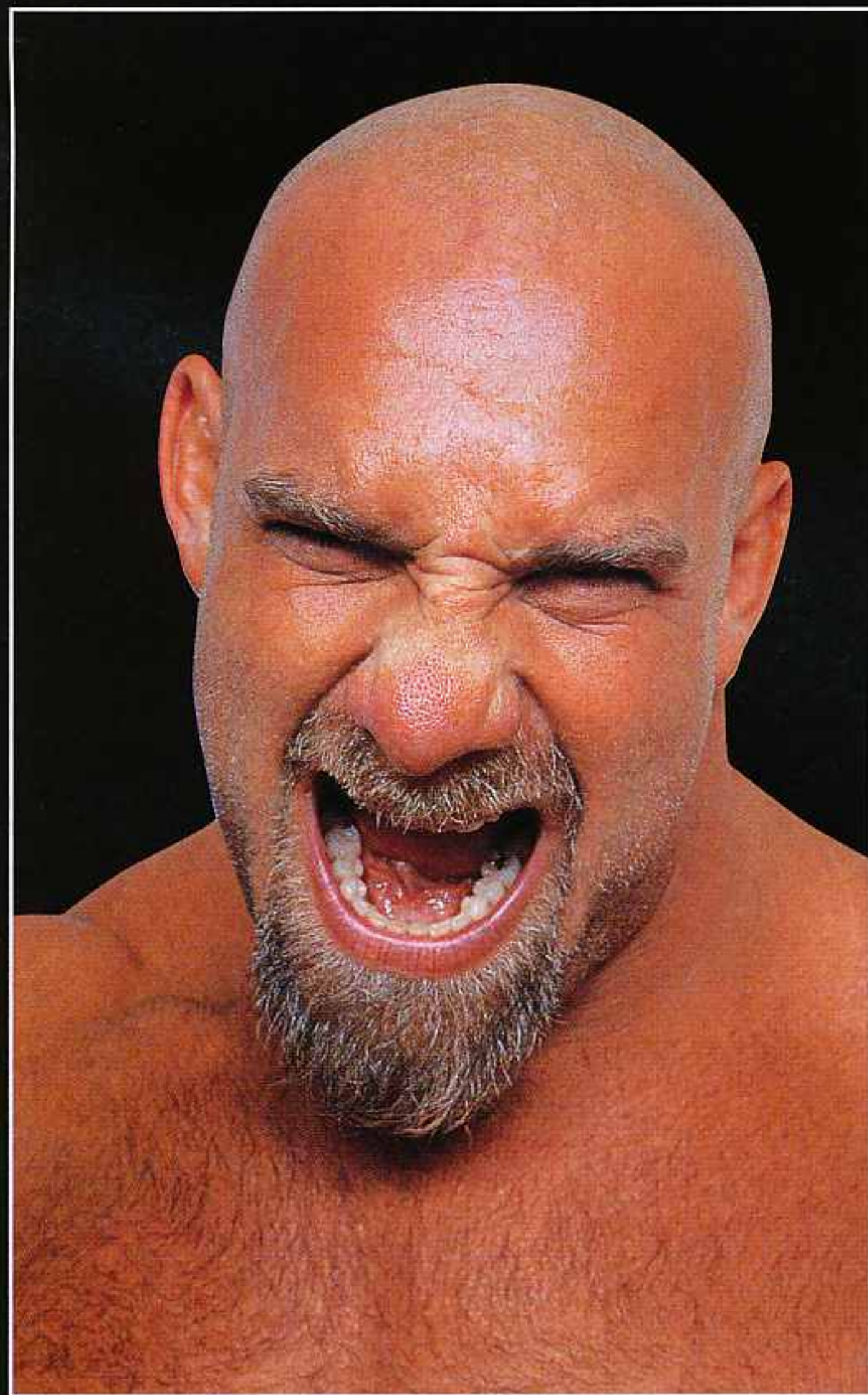
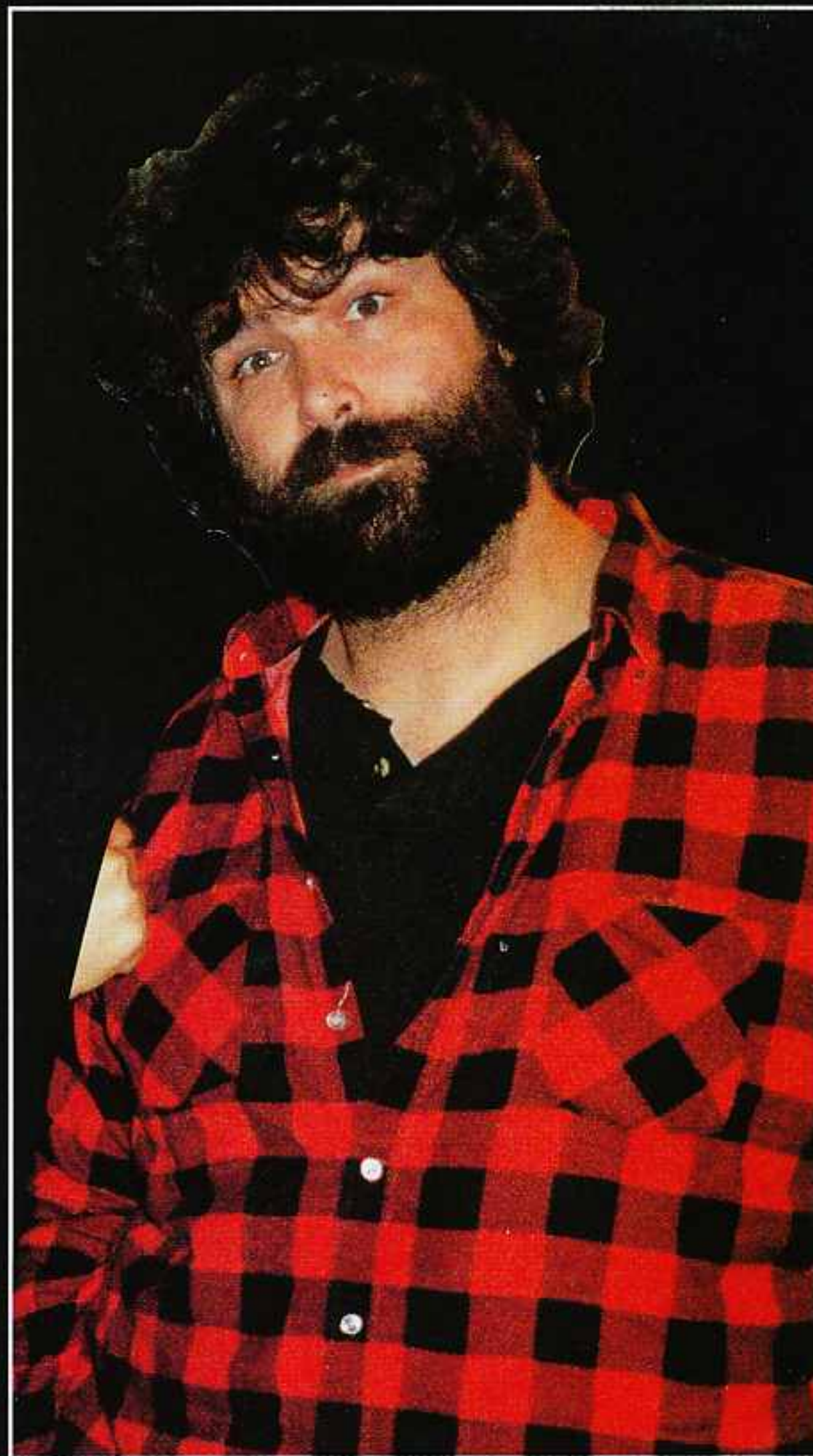
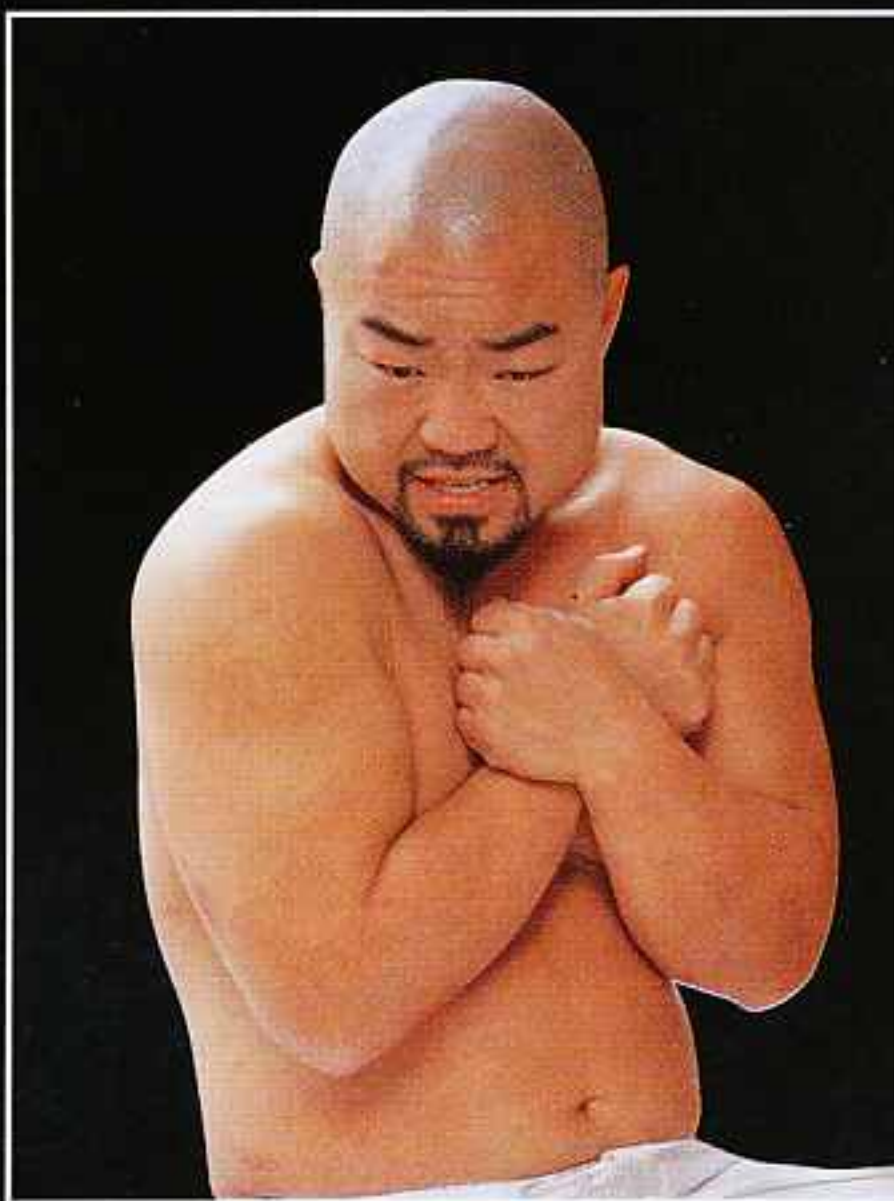
大　噂って、キミはあの本を読んだの？

小　いや、まだ読んでないですけど（笑）。業界関係者の中には「大変なことになる！商売上がったりだ」と戦々恐々、あるいは「言わなくていいことを言う必要はない」と激怒している人間はたくさんいますね。

中　宣伝チラシに「勝敗は決まっていたのか」というコピーがあったけど、そのコピーへの高田による回答は出てくる。でも『泣き虫』は暴露本ではないよ。まだ本ができてない時点から噂が一人歩きして、業界では大騒ぎになってたけどさ。読んでもないのに決めつける奴が多いんだよ、この業界（笑）。そういう出来事があってキタを向いちゃったり無視したんじゃ始まらない。どんな出来事があったとしても、それを飲み込むエネルギーや、いい意味でのハレンチさがプロレスには必要でしょう。そういうエネルギーがないからプロレス界は衰退していったんだから。

小　破壊王が11・7の後楽園大会で「つまんなかったら見に来なくていい。面白かったら、また見に来てください！」って客席に向かって叫んだけど、ガチンコだとかガチンコじゃないとか、そんなことよりも、文句なく面白ければそれでいいんですよ！

小　プロレス村の〝不文律〟に背いたことに新日本関係者は激怒してるみたいですよ。新

『W-0』VS新日本の裏側

現在WWEで大暴れ中のゴールドバーグ、『W―1』で笑撃のインパクトを残したジョー・サンらの、ほぼ1年振りの来日が濃厚となっている。『W―1』に参戦した格闘家の中では、抜群のプロレスセンスを披露したケビン・ランデルマンも、『OH祭り』で藤原組長に弟子入りして、超パワーUP!!　正月決戦に名乗り挙げている

『W―0』に華を添えるガイジンたちが続々来襲!!　スコット・ホール＆ケビン・ナッシュや御大ダスティ・ローデスに加えて、文筆活動中のミック・フォーリーの『W―0』参戦も噂にのぼっている。ガファリ・ブラザーズを筆頭に、ZERO-ONEガイジンの大挙派遣も検討されているなど、華やかなの顔ぶれが揃うことは必至だ

新しいプロレスの定義が必要。『W―0』は試金石

間さんは、高田とその本の著者である金子（達仁）氏のサイン会に安田忠夫を連れて乗り込み、対戦表明を迫ることまで考えているらしい。

大　でも、そろそろ新しいプロレスの定義をする時代だとは思うんだよ。

小　ボ、ボクもプロレスファンじゃない友達に興奮気味に話したら、狐に包まれたような顔されましたよ！「映画のメイキングビデオには制作現場の裏側も出てくるでしょ。例えば作品に出てくる宇宙人は作り物だったってバラされたとして、その作品性が損なわれるような作品なら最初からダメなんじゃない？」と言われてしまいました。

中　ただ、そんな本を出した高田に橋本や小川が大激怒してるっていう話もあるから、『W―0』が、この本によって空中分解すると言っている関係者もいる。「あんな本を出した高田が統括本部長を務めるDSEに協力してプロレスをやるのか？」って、半分脅しのようなプレッシャーがZERO―ONEにあったとも聞いているな。

大　その高田は、もうプロレスとは何なの？という定義づけをしないと、メジャー・エンターテインメントとして甦ることはないと主張してるんだ。さっきのテレビ局に提出された『W―0』の企画書には「ファイティング・イリュージョン」「スポーツ・オペラ」というキーワードがあったらしいけど、新しいプロレスの定義を提示する場、プロレスの持つ魅力・凄みを世間に問う場に、図らずも『W―0』がなっていく可能性も大きいよ。

中　『PRIDE』やK―1の台頭という大きなうねりから始まって、細かいことでいえば、『W―1』の失敗、ゴーバーとの契約問題、そして今回の高田本と、様々な要因や偶然が重なって、いよいよ時代が新しいプロレスの定義に踏み込むわけってことだね。

小　ここまでくると自然な流れだとは思いますけどね。だってカミングアウトっていえば、一昨年は高橋本の第1弾『流血の魔術最強の演技』、昨年は『W―1』発足と高橋本第2弾『マッチメイカー』。毎年暮れには『猪木祭り』とカミングアウトがやってきて、マット界は大混乱しますね（笑）。

中　時代性の中では必然的な流れではあるんだけど、今回の高田の本に、マスコミやファンがどう反応するかは楽しみであるよね。

小　ボクの中では、語るアホウに無視するアホウ、同じアホなら語らなにゃソンソンって感じですね。

中　お前は本当に呑気でいいよな（笑）。

大　プロレスそのものの魅力や可能性を世間に訴えるためには、これまでの構造をガラッと変えなきゃならないんだけど、『W―0』がその試金石になったら面白いね。

中　大局的に考えれば、この松の内決戦が、プロレス界の活性化に繋がると思うよ。

大　プロレス界では久しぶりにテーマのある、ワクワクする大きな興行戦争だし、昔の新日本vs全日本みたいな構図になっていけば活性化していくはずだよ。

『W-0』VS新日本の裏側

名称変更後に超パワーUP!!計画『WRESTLE-0』（仮称）よりカッコイイ名称を決めようや!!

『W―1』と勘違いされる、“れっする・ぜろ”“だぶりゅー・ぜろ”は発音しにくい、総画数が不吉だ、とにかくイヤだ！……などなど、そんな様々な理由により、『WRESTLE-0』に代わる新名称を『紙プロ』誌上で勝手に大募集。「お見事！」な名称には、『W―0』主催者及び協力団体に検討してもらおう、などと勝手に思ってます。『ハッスル・ゼロ』や『レッスル・コラ！』など、呼びやすく覚えやすい、そしてプロレス史に残るセンス溢れるネーミングを待ってます!!

【応募先】 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
ダブルクロス編集部「ネバーランドを家宅捜索」係まで

『W-0』情報？ あと少しの我慢や!! それまで『紙のプロレスHand』で憶測でもしとけ!!

DoCoMo　iMenu→メニューリスト→格闘技／大相撲→『紙のプロレスHand』！

au/TU-KA　トップメニュー→遊ぶ・楽しむ or インターネット→スポーツ→格闘技→『紙のプロレスHand』！

vodafone　ボーダフォンメニュー→ボーダフォン・ライブ→スポーツ・レジャー→その他スポーツ→『紙のプロレスHand』

マスクマンもたくさん来ます！　マスカラスが「スカイハイ」のテーマとともに一族を率いて飛来すれば、今号の本誌にて、破壊王とのヒーロー対談が実現した京川翔の主演100本記念作品『ゼブラーマン』の、その正義のヒーローがリングに舞い降りる!?　松の内戦争、キッチリ白黒つけるぜ！（写真は映画の最終形態ではありません）

引退会見開催するも撤回濃厚！（11月19日現在）今回の言い訳はいったいなんだ？

我らがドラゴン、遂に現役を引退!!!…

…本当にするのか？

来年1月4日の東京ドーム大会にて、31年間のレスラー人生にピリオドを打つことを発表した新日本プロレスの藤波社長。しかし、かつては「あれは口が滑っただけ！」と、言い訳にもほどがあり過ぎる厚顔無恥なコメントで現役を続行！

「電機が完成しました！」と並んで、残念ながらマット界では信用度ゼロのフレーズとなっているドラゴンの引退発言だけに、まだまだ予断は許さない。本誌が発売されているころには撤回していても何ら不思議ではないのだが、とりあえず、引退会見まで行った今回の騒動を簡単に振り返ってみよう。

1.4 東京ドームが花道

藤波が選ぶ思い出のベストバウト3

引退決意をあらわにした『東スポ』にて、パラオ行きのチャーター機のコックピットでパイロットコスプレに走る我らがドラゴン。引退の重みゼロ、呑気さ満点、新日本社員はそんな姿とともに社長の一大決断を知ったわけだから、新日本が墜落寸前なのもやむなしだ

初めに引退の決意をあきらかにしたのは、『東スポ』（11月6日付）でのインタビュー。「ケジメをつける」「区切りを打たないといけない」と述べたドラゴン。「生涯、引退宣言はしません」とも言ってるだけに、言い訳の逃げ道を残している感は拭えないのだが、じつはその数日前にも引退をほのめかす発言をしていたのだ。

それは、ドラゴンがゲスト出演した『KinKi Kidsのオールナイトニッポン』（10月30日深夜放送）。KinKi Kidsがプロレスファンという理由に加えて、絶賛発売中のニューアルバム『Galbum24/7』に「どらごん・ろ～ど」なる曲が収録されており、ドラゴンはそんな名前繋がりでお呼びがかかった。

番組では、「高2の娘がいますからKinKiはよく聴いてます！」と、ヤング・ドラゴン振りをアピールすれば、調子に乗って「ウチの創設者のアントニオ猪木さんが、また横槍を入れてね。『このカードが面白くない』とか言って、こっちが決めたカードを壊すんです」と、まったく余計な陰口まで叩く始末。ジャニーズファンが大半を占めるリスナーが、理解不能な恨み節を轟かせていたのだ！

「でもファンはこの言葉（＝『脳みそが腐ってるんじゃねえか』『新日本なんか一発で叩き潰してやる』『テレ朝死んじまえ』など、その他多数）を楽しみにしてるんです。より過激な、よりいいカードを狙ってるんでね」なんて一応フォローもするはしたが、印象に残ったのはグチっぽさだけなのであった。

話は大幅に脱線したが、「まだ現役なんで、もう1回リングに上がらなきゃ本格的に社長業に専念できません」と口にし、引退間近のシグナルをジャニーズファンに送っていたのだ！（もちろんノーリアクション）。

1月4日東京ドーム ドラゴンは今度こそ本当に引退するのか？

藤波、やめるな！（福島県・鈴木茂平さん・72歳＝他、同様のおハガキ2通）

そして、11・3横アリ大会の翌日、ドラゴンは師である「猪木さんに自分のいまの考えを伝える」ために、1泊3日の強行日程でアントン総帥が滞在するパラオに飛んだ。

アントン総帥といえば、11・3横アリの成否に内閣総辞職を突きつけたのに来場しないという、新日本へイトな猛毒をまき散らしている真っ最中。しかし、『東スポ』によれば、アントン総帥は最後の試合を控える愛弟子に、自然を通して〝闘魂〟を伝授したというのだ。

その〝闘魂伝授〟とは、イノキアイランドの砂浜にて、流木を手にして〝伝説の槍特訓〟を再現！……したのはいいが、アントン総帥は小屋にあった鉄棒にわざわざ持ち替えるや、いきなりドラゴンに襲いかかった！　そして、不意を突かれたドラゴンの右手に鉄棒が見事にストライ～ク！　「痛ッ！」と悲鳴を挙げるドラゴンに、なおも本気で突きまくるアントン総帥！（笑顔ではないのは確実だろう）。もはやイジメとしか思えないアクションは、可愛い（かどうかは知らないが）我が子を千尋の谷に突き落とすという、力道山から授かった闘魂の原点を伝えていたのに違いない！

アントン総帥は「藤波の引退試合に客はいらない。東京ドームはノーピープルマッチだ」と、仰天プランもブチあげた。栄えあるラストマッチを誰にも見届けさせないなんて単なる嫌がらせ、もしくは悪質なジョークとしか思えないアントン案！　いや、社長一本に専念するドラゴンに、「アッと驚くことやれ！」なメッセージに違いない！　そんなアントンのダーク・アイデアに、ドラゴンはビックマッチが不入り続きの「新日本の台所事情を考えるとできない」との理由で断ったというが、「支えられた感謝の意味でも全国のファンに見てもらいたい」と、ドームの無料開放を促した……って、無料だったら収益はゼロ。結局は同じだよ、ドラゴン！

そして、アントン総帥の「スポンサーをつければいい」との言葉を受けて、「ドームの使用料がもろもろで1億5千万（！）ぐらいだから、5社ぐらいついてくれればメドがつく。本当にできれば冗談抜きで無料します」などと、バブルもとっくの昔に弾けたこの御時世に、獲らぬタヌキの皮算用に走る夢想家振りも健在だ。日本を発つ前に「現場には何も話してなかった」らしく、冗談抜きでやってもらいたい現実的な手順を一切踏んでいないのも、十分に頷ける話なのだ。

そんなドラゴンに対して、会見に同席した上井執行役員は「昨日、コンビニでスポーツ新聞を見て驚いた」と、戸惑いを隠せない心情を告白。かつて「プロレス界の動きをすべて『東スポ』で知る社長」と揶揄されたのはドラゴンだが、その『東スポ』にて社員報告とは、ある意味、ささやかなドラゴン・リベンジともいえるかもしれない。

そんな仕打ちにされたのにも関わらず、上井氏は「出来る範囲で最高の相手を探したい」と、引退相手について思案中。かつてアントン総帥の引退相手に勢いよく名乗り挙げたがアッサリ却下された恥ずかしい過去を持ち、自らはキムケン最後のリクエストをむげに断ったりと、「引退相手」の秀逸エピソードには事欠かないドラゴン。周辺を含めて何が起こるかまったく興味深い！　さっそく引退反対の永田と棚橋が「ノアで小橋からベルトを取るから現役を続けてほしい」と、引退をだしに使って無茶苦茶なことを言い出せば、ケロちゃんも「中途半端な形で社長が引退を迎えたとしても、自分は断固コールはしたくありません」と、リングアナ拒否宣言するなど（これは大歓迎！　できればこのまま営業に引っ込んでほしい）、ミスリードを誘っている。この原稿を書いてる最中にも、「引退を撤回したらしい！」との怪情報が流れてくるなど、本当に踊らされっぱなしだ！　時同じくして、新日HPのメインページにUPされていたはずの「藤波引退会見」の記事がヒッソリと消えている……（記者会見・インタビュー　INDEXのコンテンツには残っている。）何かが起こっている。1・4全選手参戦騒動のドサクサに紛れて、現役続行宣言をする可能性は十分にありえるのだ！

引退会見まで開いといて撤回するのは非常識にもほどがあるが、引退の先延ばし＆撤回を散々繰り返しているだけに、いまさら引退のモラルをドラゴンに求める人間こそ非常識。そもそもプロレスに限らずボクシングやテニスなど、他ジャンルのトップ連中にしても引退＆復帰は日常茶飯事。ただし巨大なマネーを生む引退興行、そして復帰興行の旨味を知っているからこその二枚舌であり、ドラゴンの場合はまったくビジネスに直結しそうにないから意味不明ではある。引退会見の模様は新聞ではベタ記事扱い。キッスの「ファイナル・ツアー」並に狼少年呼ばわりされ、経済効果はそれ以下だから悲しすぎるのもほどがある。こんなドラゴンの引退は見たくない！　全国にドラゴンブームを巻き起こし、長州との名勝負数え唄、前田日明とは『武士道』あたりのVTよりもよっぽどハラハラドキドキする試合をしたドラゴンには、華々しく花道を飾ってもらいたい。とりあえず、今回はキッチリ引退してもらうとして、5月のドームでカムバック、再来年1月4日の再引退試合でフィーバーだ、ドラゴン！

「藤波さんから帝王学を学びたい」などと、どうにも馬鹿にしてるとしか思えないコメントが目立っていた棚橋だが、引退阻止の「逆ドラゴンストップ発言」で、ますますその可能性が濃厚となったきた。棚橋のドラゴン絡みの動向には注目しよう

藤波社長を追いかけ続けた本誌が送るフォーエバー企画

最後のドラゴン
～引退遊戯～（仮）

次号徹底特集予定！
乞うご期待！

万が一、引退撤回した場合は
特集しません。
あしからず御了承ください。

WJマグマ、突如、大噴火!!
ド真ん中ロード最終章!?

長州力がZERO-ONEをまたいだ!!

電撃決定!!

12・14両国で破壊王vs長州 激突!!

『東スポ

東京スポーツ

一騎打ち

長州
橋本
12・14
討ち入り
ZERO-ONE
実現

『東スポ』紙上で罵倒合戦を繰り広げてきた長州力と橋本真也がついに接近遭遇！ 11月18日、ZERO—ONE道場で会見を行っていた橋本の前に突如、長州が現れ、両者は空前絶後のコラコラバトルを繰り広げた。そのド迫力を誌面でなんとか伝えきるべく、今回は長州力のZERO—ONE道場乱入会見の模様を（ほぼ）完全誌上再録。みんなも、長州役と橋本役に分かれ、声に出して舌戦を繰り広げよう！

会見当日の『東スポ』は「橋本vs長州決定」が一面となっており、この日の会見には、何かを期待して大勢の記者陣が集まっていた。会見が一段落すると、急に周りがザワザワしだし、記者陣の間から突如、長州力が登場！ カメラのフラッシュが光りまくる中、長州が破壊王に詰め寄った。

長州 （道場に響き渡るほどの大声で）なぁ〜にが、やりたいんだ、コラッ！ 紙面飾ってコラァッ!! 何がやりたいのか？ 何が言いたいんだ、コラァ！ 噛み付きたいのか噛み付きたくないのかどっちなんだぁ!? どっちなんだ、コラァッ!!

橋本 コラァとは、なんだぁ、コラッ!!

長州 なにぃ、このぉ、立てコラァ！

橋本 なんや、コラッ！

長州 紙面を飾るなって言ってんだ、コラァ！

橋本 お前が言ったんだろ、コノヤローッ！

長州 なにィ、コラァ!!

橋本 いつでもやるぞ、コラァ！ オメエ、死にてぇのか、コノヤローッ！

長州 オマエいま言ったな、コラッ！

橋本 おぉ、言ったぞぉ！

長州 吐いた言葉飲み込むなよぉ、オマエ！

橋本 そのまんまじゃ、コラッ！ ナメてんのか、コノヤローッ！

長州 オマエ、いま言った言葉、オマエ、飲み込むなよぉ！ なあ、吐いて。わかったか？ ホントだぞ、ホントだぞ。なあ？ 噛み付くんなら、しっかり噛み付いて来いよ、コラァ！ なあ？

オマエに、わかったな言われる筋合いねえんだ、コラァ！

言った言わないじゃねえぞ、オマエ！ わかったな、コラァ！

中途半端で、言った言わないじゃねえぞ、オマエ！ わかったな、コラァ！ わかったなぁ!? 噛み……

橋本 （遮って）オマエに、わかったな言われる筋合いねえんだ、コラァ！

長州 噛み付くんだろ、コラッ！

橋本 オッサン、ナメんなよ、コノヤローッ!!

長州は橋本の意思を確認すると、足早に道場を後にし、外に待たせてあった車で走り去っていった。

顔を合わせるやいなや、長州は「噛み付きたいのか噛み付きたくないのかどっちなんだぁ、コラァァッ!!」と破壊王に詰め寄ると「コラァとはなんだ、コラァ！」と破壊王は二倍返し！

橋本 （5分ぐらいイスに座ったまま無言の破壊王）……1人で来るとは、大した根性だ、長州。いままで軍団引き連れなきゃ動けなかった人間じゃねえか。（突然大声で）追い詰められたか、長州、コラァ！ あのオッサン、死にたがってんだよ。俺がブッ殺してやる！ あのモノの言い方。あ、なんも変わっちゃしねえよ。長州に「コラァ、オマエ！」って言われる筋合いはねえんだ、コノヤローッ！ 終わったってことを俺が知らせてやる。1人で来んのかァ、皆で来んのかハッキリしろ、コノヤローッ！ オマエ1人だったら簡単だ、バカヤロウ！ （3分ぐらい間をおき）まあ、あの人が1人で乗り込んだのを初めて見ました、うん。それだけは敵ながら……。それだけ死に場所を求めてるんであれば、命懸けて喧嘩売るんであれば、終わらせます。それから、もうひとつハッキリさせておく。1月4日、数年前（2001年）の、あれだけは御免だから、もう！ 俺たちはプロレスで勝負するんだから。上辺だけの、言葉だけの、闘いとかそういうもの、言葉のものはもいいわ。リングで決着つければいいことで。まあ……出向いて来る気力が残ってるとは思いませんでしたけど、長州力は長州力のまんま葬ってやりますから。ちょっとカードのことですんません。いまはちょっと何も言えないんで。それは、やるということで進めていきますけど、どこでやるかとか、そういうのは、ウチにいる人間に入ってもらって。俺たちは戦場で出会うだけですから。まあただ、さっき言ったようにここ（12月24日からの後楽園3連戦）もありだと思うし、両国もありだと思うし。向こうが用意するならそれでもいいし。……やるからには、こんな時代、こんなプロレスの状況ですから、助け合いっこはないです（キッパリ）。オッサン1人で来たってことは、オッサン1人なのかもしんないし。俺が軽はずみに吐いた言葉が気に入らなかったんでしょうから。それでもその気力が残っているならば、しっかりと（大きな声で）カタを付けなきゃいけないと思います！（さらに大きな声で）しっかりカタ付けます！ よろしくお願いします。すいません。ちょっと抽象的な発表になっちゃいましたけど。（リングアナのオッキーに向かって）まとめろ、オマエ！

オッキー はい！ え〜、どうもありがとうございました。これで記者会見を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

橋本 どうもありがとうございました。（破壊王の後ろにズラリ並んだ若手選手たちに向かって）オマエら、覚悟しとけよなッ！

選手一同 ハイ！

橋本 ひとりじゃない場合は。なっ？

選手一同 ハイ！

橋本 みんなプロレス界、刈り取るぞォ！ ここまで来たら。

選手一同 ハイ！

橋本 よっし！ やるかーッ！

“破壊王”橋本真也vs“ド真ん中”長州力。両者は12・14ZERO—ONE両国で再度、相見える！

前編

なぬ!! 正義のヒーロー『ゼブラーマン』が
12・14ZERO-ONE両国、
1・4『W-O』(仮) たまアリに登場!?

究極のプロレス界&映画界のヒーロー対談

橋本真也 × 哀川翔

公開前から話題沸騰の哀川翔主演100本記念作品『ゼブラーマン』。この『ゼブラーマン』は脚本・宮藤官九郎、監督は三池崇史という日本一忙しい男達が本格合体して作り出したヒーローアクション映画である。そして、プロレス界のヒーロー好きと言えば、やはり我らが破壊王。映画界&プロレス界の両巨頭が語る"ヒーローとは何か?"

聞き手/中村カタブツ君(40歳)
構成/松澤チョロ
撮影/吉場正和
Design/さおとめの事務所

【珍しく時間より30分も早く到着した我らが破壊王。哀川さんを待つ間、東映関係者と挨拶したり、映画『ゼブラーマン』（哀川翔主演100本記念の特撮ヒーロー物。配給・東映。来年2月14日全国ロードショー）の予告編を見ていただいたりしたわけだが、その10分ほどの雑談で早くも暴走！　あまりにも面白いので、まずはそこからご堪能あれ！】

橋本　（予告映像を見ながら）あ！　鈴木京香だ！　ウワァ、翔さん、俺と代わってほしいなぁ。東映さんに言ってよ、『ゼブラーマン2』を作って俺出してって。

――パート1の公開前からパート2に出演要請ですか（笑）。

東映関係者　すいません、今日はよろしくお願いします！（笑）。

橋本　あ、今度、ボクを使ってくださいよ。東映さんには昔から相当金をつぎ込んでるんで元を取らせてください（笑）。

――ワハハハハ！　でもZERO―ONEの社長室には仮面ライダーグッズとかも結構あるんですよね。

橋本　そうや。あとはウルトラマン！　最近はガイア以来出てないしなぁ。

――ウルトラマンは松竹です（笑）。

橋本　ダハハハハ！　ごっちゃになっちゃった（笑）。でも、仮面ライダーは東映でいいよな？

――正解です（笑）。

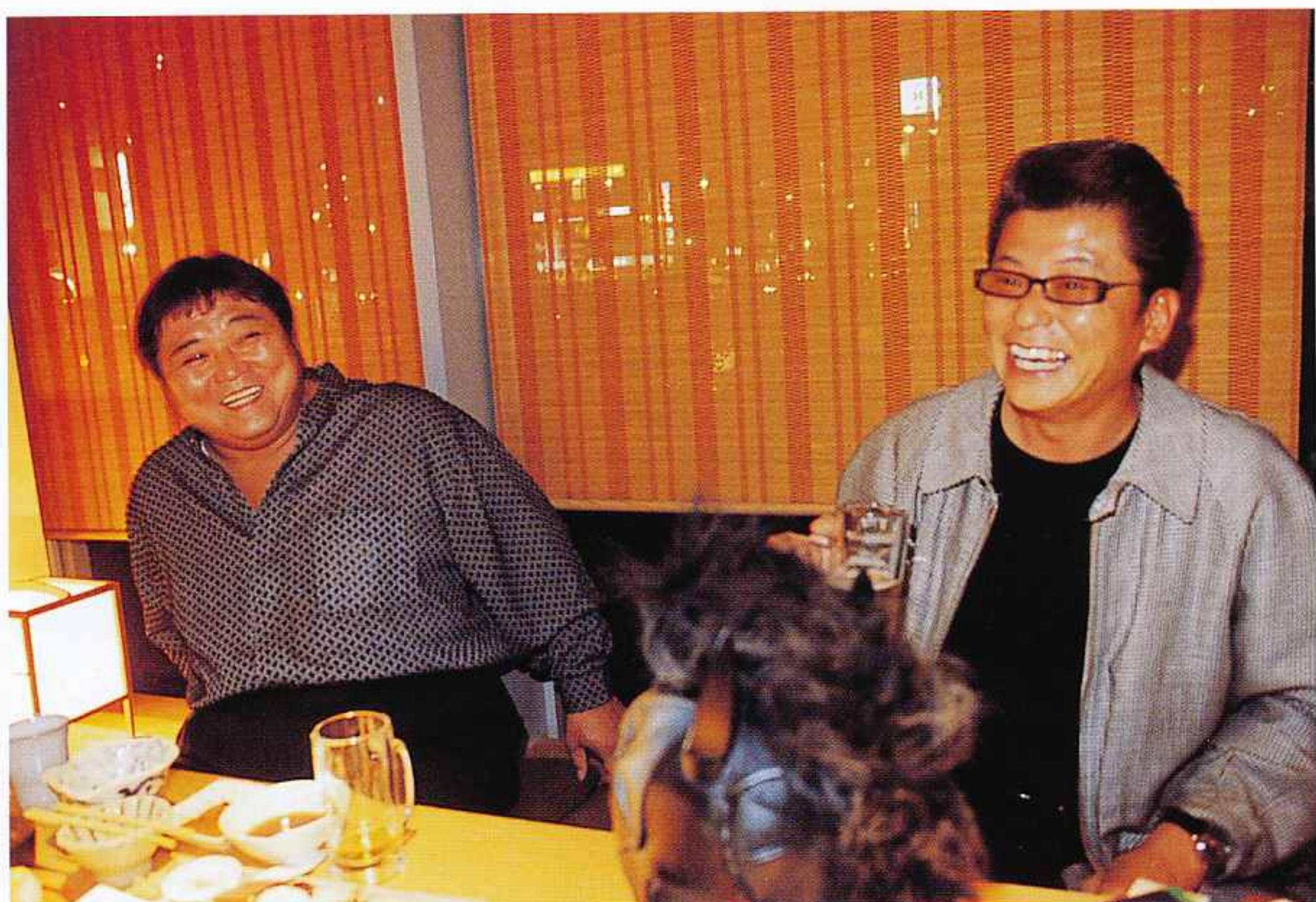
橋本　でも、ちょっと見させてもらったけど、この『ゼブラーマン』っていうのは俺らとカブるな。バカげたことを真剣にやってるよ。

――それは言えますよね。

橋本　一緒なんだよ。結局俺らもプロレスって言うだけで、コンセプトは似たようなもんだから。やっぱりヒーローものなんだよな。

――まさに、今回の翔さんとの対談のテーマも〝ヒーロー〟なんですよ。

橋本　やっぱり、昔のように真っ正直なヒーローが出てこないとダメだよな。

俺にとって嬉しい出会いだね。もともとプロレス大好きだったから

翔さんと初めて飲んだのは三冠戦の夜。血を流しながら行ったんや

【というところで哀川さん到着！　いよいよ究極のプロレス界&映画界のスーパーヒーロー対談スタートです！】

哀川　（無邪気な笑顔で）あ、どうもどうも（笑）。

橋本　お久しぶりです！

哀川　とんでもないとんでもない、なんか、この前の飲み会は盛り上がって最高で（笑）。

橋本　ダハハハ！　いやもう（照）。

哀川　なんか、ベロベロだったみたいで（笑）。（撮影用に用意したタイガーマスクのマスクを見付けて）あれ、どうしちゃったの、これ？

――撮影用に持ってきたんですけど、よろしかったらお持ち帰りになりますか？

哀川　いや、そうでもない。俺が持ってたマスクの方が本物に近かったからね（笑）。

橋本　俺は文句言いたいんですよ。いつまでもタイガーマスクじゃねえよ！って。

哀川　え、誰に？

橋本　世の中にというか。俺は佐山サトルは大嫌いだから！　タイガーマスクは好きだけどね。

哀川　あ、そう。そういうのは分からないからね、ウチらは（笑）。

橋本　まあ、その話は止めとこうか（笑）。

――まあ、前の1・4でいろいろありましたからね（笑）。それで、お二人は以前からお知り合いだったんですよね。

哀川　自分が年に1回ぐらいやるんですよ、六本木でドンチャン騒ぎを。その時に橋本さんが来てくれて（笑）。

橋本　三冠戦のあの夜。あのまま血を流しながら行ったんや（笑）。

――グレート・ムタに勝って三冠王者になった日ですね。

哀川　額に絆創膏貼ってて、「それどうしたの？」って聞いたら「三冠獲ってきた」って。なんか嬉しいよね（笑）。

橋本　いや、最初から行く気でいましたから。貧血になったら、さすがにダメやろと思っていたけど、立っていられたから輸血の代わりに「酒だ」って。でも、飲んだらやっぱり回るんですよ（笑）。

哀川　ちゃんと飲んで、ちゃんとベロベロになるからね、ウチの飲み会は（笑）。

橋本　その晩は細川たかしさんと『北酒場』を一緒に歌ったもんな（笑）。

哀川　ここの店をやってるKONISHIKIさんもいてね。なんか酔いながらもいい話をした記憶はあるね。勝俣（州和）クンが来てグチャグチャになったけど（笑）。

――気持ちのいい飲み会だったんですね。

哀川　俺にとって嬉しい出会いだね。もともと俺、プロレス大好きだったから。初めて見に行ったのは藤波辰爾（当時・辰巳）の新人王決定戦だったね。

橋本　へぇ～、そうなんですか。40年代後半か、50年代前半ってところですかね。

哀川　俺が小学校の頃。それが初めてだね、婆ちゃんに連れていかれて。猪木が大好きで燃える闘魂でしたよ。（笑）

――橋本さんもその頃、アントニオ猪木ファンだったんですよね。

橋本　その頃って、いまは違うみたいじゃないか（笑）。まあ、いろいろあったけど、ハッキリ言って、世界一のアントニオ猪木ファンは俺だよ！

哀川　みんな熱かったよね（笑）。俺はだってタイガー・ジェット・シンにサーベルで殴られそうになったり、マクガイヤーを後ろからこづいて潰されそうになったりさ、いろいろあるよ（笑）。

橋本　ダハハハハ！　随分無茶やってるんですね（笑）。

哀川　アントニオ猪木がハルク・ホーガンに

橋本真也×哀川翔

出たかったなぁ『ゼブラーマン』。翔さん、『ゼブラーマン2』はないんですか?（破壊王）

やられた時も見に行ってたよね、俺（笑）。舌出して失神しちゃったヤツ。

橋本 羨ましいなあ。

哀川 ハンセンも強かったもんなぁ。

橋本 ウチらも当時の挨拶は（ロングホーンを作って）「ウィー！」でしたよ（笑）。

哀川 あっそう（笑）。俺が覚えているのは82年か3年だよね。ハンセンが暴れてさ、三沢とか若手がみんな止めに入ったのをロープに飛ばしてラリアットしたら三沢が一回転して回っちゃってさ。「凄いな！ 三沢が回ってるじゃねえか！」って（笑）。

橋本 ホント、好きだったんですね。

哀川 好きだったね。凄ェ好きだった。大好きだった。

――実際、プロレスラーになりたかった時期があったんですよね。

哀川 いや、もう無理だよ（笑）。もう無理だけど、一世風靡の頃は真剣に入りたいと思って、あと30キロぐらいなら体重つくだろうってやってたよね。70キロぐらいにはなったんだけど、それ以上はね。

橋本 ハッキリ言って俺ら余分な肉ですから！（キッパリ）。

――また、ハッキリ言いますね（笑）。

橋本 筋肉だったとしても余分なんですよ。身体には負担がかかってますからね。

哀川 前に「ベスト体重はどれぐらいなの?」って聞いたら、やっぱり90キロぐらいだって言ってたもんね。

橋本 だけど、俺が90キロになったら糖尿だと思われるから（笑）。

哀川 ただ、普通に考えれば鎧を着てるようなもんでしょ、闘うためのね。だから、いま冷静に考えるとさ、身体の基本が違うっていうかね。

――つまり、20代の頃は冷静じゃなかったんですね（笑）。

哀川 冷静じゃないよね（笑）。

橋本 でも、柔道部で喧嘩も強かったんですよね?

哀川 だけど、身体がさ（笑）。

――体操部でもあったし。

哀川 体操部だったんだけど。だから俺が真剣に190センチくらいあって110キログらいあったら確実になってるよね。

――それぐらいあったら新日本に入ってたかもしれないと?（笑）。

哀川 つう気持ちはあったよね（笑）。

橋本 いやぁ、入ってほしかった！ そういえば、松平健さんも来たらしいんですよ、入門テストに。稲川淳二さんと一緒に（笑）。

哀川 へぇ〜、そうなんだ（笑）。

橋本 千代の富士も来たらしいですね。横綱はホント、入らなくて良かったな！

――なんで、そういうことを自分で言うんですかねぇ（笑）。

橋本 だってホントじゃない?（笑）。

哀川 千代の富士で思い出したけど、俺の友達が千代の富士に喧嘩売ったんだよね。

橋本 えっ!?

哀川 いやぁ、なんか態度が横柄だったからって言ってたね（笑）。

橋本 それって横綱時代ですか?

哀川 そうそう、横綱時代（笑）。

――横綱なら横柄でも当然のような気もしますけど（笑）。

哀川 なんか、取り巻きが悪かったみたいで、「ちょっと注意しにいくわ」って行ったらやっぱりボコボコにされて（笑）。

橋本 だってさ、横綱がいたってことは他にも付き人とかデカイのが一杯いたってことになるんだから、そこに行くっていうのは普通の神経じゃないですよ。もしかして、あっちの側の人ですか?（笑）。

哀川 いや、全然全然（笑）。普通にカタギだったから。

橋本 ダハハ！ でも、それで行くっていうのが凄いですね（笑）。

哀川 相撲取りは半端じゃなく強かったって言ってたよ。だけど、何発殴られたかは数えたって（笑）。

――ともかく横綱に注意しにいく友達がいると。無鉄砲な集団ですね（笑）。

哀川 ねぇ（笑）。俺は注意しに行かないと思うよ（笑）。

――とはいえ、翔さんは新宿で暴走族をタクシー代わりに使ったっていう有名な話がありますよね（笑）。

哀川 名古屋でもあったね（笑）。一世風靡のライブが終わって打ち上げに行こうってなって、その場所がちょっと距離があると。その時、暴走族がガーッと来たから止めてさ。「乗っけてって」って（笑）。

――よくそんなことできますよね（笑）。

哀川 でも向こうは「あ、いいですよ」って言ってくれたよ、いいヤツらだった（笑）。

――それにしても（笑）。

哀川 まあ、俺のこと知ってたっていうのもあるかもしれないけどさ、変なヤツだと思ったかもしれないね。要は「危ねえから逆らわないでおこう」って（笑）。

来年の2月14日のバレンタインデーに全国ロードショーとなる『ゼブラーマン』。主演の哀川翔の他にも、鈴木京香、渡部篤郎、内村光良、市川由衣、大杉漣といった大物がズラリ勢揃い。これだけでも大ヒットの予感がヒシヒシと感じられる。ちなみに今号の表紙ではないが、『ゼブラーマン』の決めゼリフは、ゼブラだけに「白黒つけるぜ！」

だよ。六本木でもグラスで額を5、6発食ら

橋本 ダハハハハ！ 凄い奥さんですねぇ

ったんだけど、本番やってると血が垂れてく

ないでおこう」って（笑）。

橋本　凄いッスね（笑）。

哀川　九州にいた頃は暴走族に一人で突っ込んでいったりとかもあったけどさ、結局、一緒に朝まで走って遊んだからね（笑）。

――でも、なんか無茶しますよね（笑）。

哀川　俺さぁ、顔には20針ぐらい傷があるんだよ。六本木でもグラスで額を5、6発食らってさ、バックリ切れちゃって血が出てるんだよ。でも、こっちも飲んでるから、痛くもなんともないんだけどね。

橋本　それは喧嘩ですか？

哀川　いや、内輪揉めみたいなもんだよね、カミさんにやられたんだから（笑）。

橋本　ダハハハハ！　凄い奥さんですねぇ（笑）。

哀川　内戦みたいなもんだから（笑）。ビアグラスで5、6発くらって5センチぐらい切れたんだよ。いまでも跡があるからね。で、俺は、その時撮影の最中でさ、しょうがないからワセリンをバッと塗って次の日現場に行ったんだけど、本番やってると血が垂れてくるんだよね。「どうしたんですか？」って周りに聞かれても、「いや、昨日さぁ」って言えないよね（笑）。

橋本　俺もカミさんとはいろいろ大変だったんですよ。

哀川　何かあったの？

橋本　いや、もう、夫婦で揉める原因は一つしかないじゃないですか（笑）。

――ワハハハハ！

橋本　笑いごとやないぞ（笑）。でも翔さん、この雑誌は余計なことまでみんな書きやがるから注意した方がいいですよ（笑）。

哀川　あ、そうなんだ（笑）。

――いやいや、そんなことはないんですけど（笑）。で、そろそろ本題に入りますが、翔さん主演の特撮ヒーロー映画『ゼブラーマン』公開に先駆けて、映画界のヒーローの翔さんと、プロレス界のヒーローの橋本さんのお二人に「ヒーローとは何か？」について語っていただきたいなと。

橋本　だから、こういう話はもっと早く持ってきてくれないとさ。出たかったよなぁ『ゼブラーマン』。翔さん、『ゼブラーマン2』はないんですか？

哀川　それはまだ分かんない（笑）。

橋本　出たかったよなぁ（しみじみと）。

――橋本さんも『一軒家プロレス』で主役張ってるじゃないですか（笑）。

哀川　撮影中なの？

橋本　一丁前に。

――共演は佐野史郎さん、ソニンさんという豪華キャストで（笑）。

橋本　豪華じゃないよ。話が全然違うのよ、最初と。だって、俺の奥さん役は水野真紀とかいろんな名前出てたんだよ、始めの頃は。

橋本真也×哀川翔

それが、だんだんだん知らない人ばっかになってきちゃって。それで奥さん役、見た時にまったく知らない子でさぁ。

哀川 誰？　誰？

橋本 栗田麗っていう、凄くいい子だったんですけど、俺が一番不満なのはカラミがないの。デマンド製作なのに！（キッパリ）。

――ワハハハハ！　何の話をしてるんですか（笑）。翔さん、まずは『ゼブラーマン』の話をしてください。

橋本 これ、中身は翔さんですか？

哀川 そうそう。俺、中身も入ったのよ。アクションも全てやったんだよ、今回は。

橋本 正体が分かんないって言っても目立つ格好ですね（笑）。

哀川 そうだよね（笑）。映画の中では完全に家族から見放されたうだつの上がらない男なんだよね。でも、息子だけは俺がゼブラーマンだって知ってるわけよ。

橋本 カッコいいじゃないですか（笑）。

哀川 それで、いまからデカい敵と闘わなきゃならないって時にお父さんは家から金を持ってこうとするんだよね。

橋本 ダハハハ！　手癖が悪い（笑）。

哀川 しかも、それを子供に見られちゃうんだよね（笑）。でも、それにはちゃんと理由があって「やっぱりヒーローにはバイクだろ？」っていうさ（笑）。

橋本 バイク代や！　そりゃ買ったほうがいいですよ！

哀川 ねえ。やっぱ、バイクでしょ？（笑）。そういう流れの中で初めて、「お父さん、頑張って」って言われて闘いに向かうわけ。でも、負けちゃうんだよね。（苦笑）。

橋本 えっ！　なんでや!?

哀川 いや、勝てないんだよね。で、なぜ負けたのかってことを分析するとゼブラーマンは空を飛べないからだ、と（笑）。で、空を飛ぶ訓練をひたすらするわけですよ、山に籠もってね。でも、その訓練の最中に転校生の子がいなくなってお母さんが「助けてくれ」って頼みに来る。なんで、山にいるのを知ってるんだって話なんだけど（笑）、それで買ったバイクで再び行くわけ。

橋本 それは本当にいいストーリーですよ！

哀川 なかなかグッと来る物語なんだよね。脚本が宮藤官九郎で、監督が三池（崇史）さんで。

――最高のスタッフですよね。つくづく特訓シーンとかで絡んで欲しかったですね。

橋本 だから、『ゼブラーマン2』があるじゃん（笑）。でも、いまはヒーローものが正直じゃなくなってるんですよ。ちょっとひねくれ過ぎちゃってる。

哀川 要はヒーローじゃない者がヒーローになるっていうのがいいんだよね。

――ゼブラーマンも最初は決して強い男じゃないんですよね。

哀川 そうだね。勝てるか負けるかじゃなくて、行けば絶対に負ける。でも、俺は行くんだってところにヒーロー像が生まれるのよ。見るからに負ける。でも、お前しかいないんだって時に何かが奮い立たせて、その場に立

12・14 ZERO-ONE両国にゼブラーマン登場か!?

取材協力

今回の対談の記事が『紙プロ』発売を前にスポニチ（11・15付）に掲載された。記事によるとゼブラーマンは12・14両国大会でその雄姿を披露、1・4にデビュー戦の予定だという

たせるっていうのがヒーローなんだよね。要するにみんなの気持ちを引きずってるヤツがなるんだよね。

橋本　やっぱり無償の愛情がなきゃダメ！　利益目的のヒーローじゃダメなんですよ！　これはさっきも話したんですけど、真っ直ぐなヒーローがいまいないんですよね。バカげたことを真剣にやる。結局、俺らがやってるプロレスの世界っていうのもヒーローものなんですよ。

哀川　あぁ、そうだよね。

――だから、そんなヒーローが実際にリングに登場したら面白いですよね。

橋本　いや、俺はそれより『ゼブラーマン2』に出たい！（キッパリ）。

――じゃあ、橋本さんがリング上でゼブラーマンやればいいじゃないですか（笑）。

橋本　アホか！　俺がやったら、〝デブ〟ラーマンやろ！（笑）。

――ワハハハハハハハ！

橋本　オイ、笑い過ぎや！（笑）。でも、そのレスラー化の話も面白いよなぁ。そうや！　今度ウチで両国大会があるんで、そこでゼヒお願いします!!（笑）。

哀川　お～、それ面白いッスね。

★

※ということで、多少強引ではありますが、ゼブラーマンレスラー化の話を振ってみた今回、破壊王も次第に乗り気になってきた様子。果たしてゼブラーマンのリング登場は実現するのか。その舞台は12・14両国に決定!?　怒濤の後編を待っていただきたい！

一足早く『ゼブラーマン』を感じろ!!

来年2月14日の公開に先駆け、1月21日に『メイキング　ゼブラーマン（仮）』が発売！　異様な熱気を孕んだ『ゼブラーマン』の製作現場の徹底密着ドキュメントだ。『ゼブラーマン』をはじめ東映ビデオの最新情報は、こちらをチェック！　http://www.toei-video.co.jp/

12・14両国、1・4『W-0』(仮)はZERO-ONEグッズでGO!!

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈イエロー〉	ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉	ハシフ・カーンパーカー『破不可』
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~	¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~	¥6,000　~~M~~ or ~~L~~ or XL　残りわずか
ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉	**マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉**	**Mr.フレッド『TWOOO』パーカー**
¥3,000　XS or S or M or L or XL	¥3,500　S or M or L or ~~XL~~	¥6,000　M or L or ~~XL~~　残りわずか
Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈カーキ〉	**Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ベージュ〉**	**Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ネイビー〉**
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~	¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~	¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~

破壊王指名試合で

小笠原にグラウンドで攻め込むアレクだが、ジャーマンを受けた小笠原が暴走、レフェリーに正拳突きを放って反則負けに。裁定後もアレクはマットを降りず。小笠原も同調して延長戦を要求。中村部長も登場し“異常事態”という雰囲気が漂う。しかし延長戦も両リンに…。アレクが抵抗するも控室へ引きずられる

アレクサンダー大塚がZERO-ONEマットに参戦（乱入）して、約半年が経とうとしている。両国大会に参戦、『火祭り』にも登場したアレクだが、その『火祭り』でも、最終戦となった後楽園大会の黒田哲広戦で自爆し、右ヒザを負傷。最近は、ブーイングを通り越えて試合中雑談が聞こえてくる有様だった。

と、のっけから厳しいことを書いてしまう私は、たぶんアレクのことを書く資格が日本一ない記者だ。3年前の私はバトラーツファンで、ZERO-ONEファンだった。最初の『火祭り』騒動を、ファンの立場として見ていて、バト勢の参戦に心をときめかせ、その後の裏切りに本気で涙した。ZERO-ONEマットに戻ってこようとするアレクを見て、その時の感情が沸き上がってくるのを、どうしても押さえられなかった。だから、ずっとアレクのことは厳しい目で見ていた。そういう人間の書くことであると念頭に置いて読んでほしい。

5日、ゼロワン沼南町大会に参戦したアレクは、小笠原和彦と対戦。空手狂相手にグラウンドで攻め込んだアレクだったが、怒った小笠原が暴走。結果はアレクの反則勝ちに。が、これに「納得できない」としたアレクは、延長戦を要求。5分間の延長戦が決定するが、わずか2分で両者リングアウトという結末に。延長戦に期待した観客からはブーイングが飛び、「橋本真也指名試合」は、不発に終わった。

試合後の控室には「見ての通りです、言葉いらないです」と嗚咽し、泣くアレクがいた。言葉の意味はよくわからないけど、たぶん「ふがいない試合」をしてしまった自分が悔しく、恥ずかしいのだろう。本来予定されていたジョシー・デンプシーが来日できなくなり、急遽闘いの理由が見えにくい小笠原との対戦になったこともあるし、崖っぷち日本人選手にがっかりさせられるのは、悲しいことに慣れっこなので、消化不良の試合になった責任を、アレクひとりに被せるつもりはない。だけど私は、そうやって自己嫌悪を感じてみせている間は、きっとずっとこの人はこのままなのだろうな、と思った。

自己嫌悪は便利だ。ふがいない試合をした自分を憎み、恥じていれば、恥じているほうの自分は傷つかない。本当の自分はアレじゃありません、と言っている。だらしない自分を見せたのが恥ずかしいです、という主張は、本当の自分はもっとかっこいいです、という、裏返しの意味が透けて見える。それを、言葉にせずとも観客は感じ取っているからこそ、ブーイングを送るのだ。

どんなに消化不良の試合でも、それがアレクにできる精一杯なら、誰も怒りはしない。橋本真也の「男として、最後のチャンスを与えたい」という言葉を受けて、なぜ、せいいっぱいのことが出来ずに終わるのか、私は不思議でならない。まして試合後涙されたら、観客は怒ることも出来ず後味が悪いだけだろう。

これまでZERO-ONEの控室で流された涙の重さを思えば、泣くことさえ信じがたい。破壊王が、上がらぬ右肩を攻められて男泣きしたそれとは比較にならないし、まして大谷晋二郎が実母を亡くした日に見せた涙とは、比較するのも申し訳ない。観客はそれらを知っている。それなのに、どうして同じ控室で泣けるのだろう。

アレクに、いい試合なんてもう求めるつもりもない。もう、いいかげんに本当の自分ってヤツを見せてくれ。リング上で、とっておきの自分を見せてくれ。己を恥じておいおい泣いてるレスラーなんて、かっこ悪すぎてもう二度と見たくない。

（ささきぃ）

ZERO-ONEダイジェスト

ZERO-ONEに真撃ルールが復活!!

後楽園大会では、仲間割れ空手タッグが久々の真撃ルールで激突!!　このために山ごもり特訓まで行った小笠原だったが、小林の投げ技に苦戦。鉄柱に誤爆したキックで骨折というアクシデントもあり、無念の敗北を喫した

アパッチ軍、勝ち抜き戦で敗れ抗争終結!?

沼南町大会メインはZERO-ONEvsアパッチ軍、5vs5のイリミネーションシングルマッチ。チーム構成において一歩上回ったZERO-ONE軍が対抗戦に勝ち越した。一区切りついた感の団体抗争。果たして次はあるのか

獅子王杯開幕! はたして優者は!?

沼南町大会で若手リーグ“獅子王杯”が開幕。入場式でマイクを取った佐々木義人は「このリーグ戦は『火祭り』そしてヤングライオン杯にも負けない熱いリーグ戦にします。そして最後はオレが優勝する!!」と堂々の宣言!!

見た2つの涙

11・7後楽園大会でアジアタッグ王者の金村&黒田組相手に破格のデビュー戦を行った浪口君こと浪口修。スキンヘッドに眉まで剃り落としリングに登場した浪口は開始早々から金村組につかまり防戦一方。しかし、試合中盤チャンスをつかんだ浪口は坂田のアシスト付きながら金村をジャーマンで投げきり、あわや3カウントのシーンも

眉毛も剃って頑張った！　感動したッ!!

これまでプロレスラーのデビュー戦を見て泣いたことなど一度もなかったが、浪口君こと浪口修のデビュー戦は感動で思わずウルッと来てしまった。

だからといって、浪口に特別な思い入れがあったわけでもないのだが、なぜか、その一挙手一投足が涙腺を刺激し、涙がポロリと落ちて来た。

浪口と直接会話をしたのは『紙プロ』前号での渦巻き寮取材の時ぐらいで、デビュー戦について聞いても「まだまだ無理でしょうね」と非常に歯切れが悪く、当分デビューは無理だろうなと思っていた。

そんな浪口のデビューのきっかけを作ったのは、誰あろう破壊王。破壊王の口利きで金村&黒田組とのデビュー戦が決まった浪口のパートナーとして発表されたのが坂田。一連の破壊王劇場と、坂田とのタッグというのが感動させられた要因だと思う。道場で坂田の練習をサポートをする浪口の姿をボクは何度か目撃している。サポートと言っても、リング上と同じく、やはり坂田は怖い。立場を考えれば当たり前の接し方なのかもしれないが、ボクが浪口だったら怖くて逃げていたはずだ。もしかして、浪口は相当根性があるのかも、と思えるようになってきた。

そして迎えたデビュー戦。予想していたとはいえ、金村組から情け容赦ない攻撃を受けボロボロにされていく浪口。一瞬の隙をつき坂田へタッチするチャンスを得るも、坂田の返答は「行け、オラッ!!」&キックという坂田流の愛のムチ。フラフラになりながらも、本能だけで金村&黒田へ立ち向かっていく浪口に場内は大浪口コールで後押し。「気迫はあるんですけど、それが伝わらない」と、前号の取材時に悩んでいた浪口。しかし、デビュー戦を見る限り、ノー問題。何よりも自然発生的に起こった「浪口コール」が客席まで気迫が伝わった証拠と言えるだろう。

最後は金村の爆YAMAスペシャルで撃沈した浪口。控室前で泣き崩れているところに坂田が現れ「涙が出るほど悔しいのかッ？」と声を掛けると、声を振り絞り「は、はいッ！」と答えた浪口。「今日始まったばかり。長い目で見てくれなんて優しいことは言わないけど期待してやってください。オイ！　一生懸命練習して頑張れよ!!」とのエールと共に強烈すぎる張り手を浪口に見舞った坂田。最後の最後まで感動させられました。

（チョロ）

破壊王復活！田中将斗に完全勝利!!

11・7後楽園で1年6ヶ月ぶりに対戦した両者。破壊王は痛めた右肩を攻められると、鬼の表情で袈裟斬りチョップや重爆キックを乱射し、田中に完全勝利！　試合後は解説席の勝俣州和に「勝っちゃん、結婚おめでとう!!」

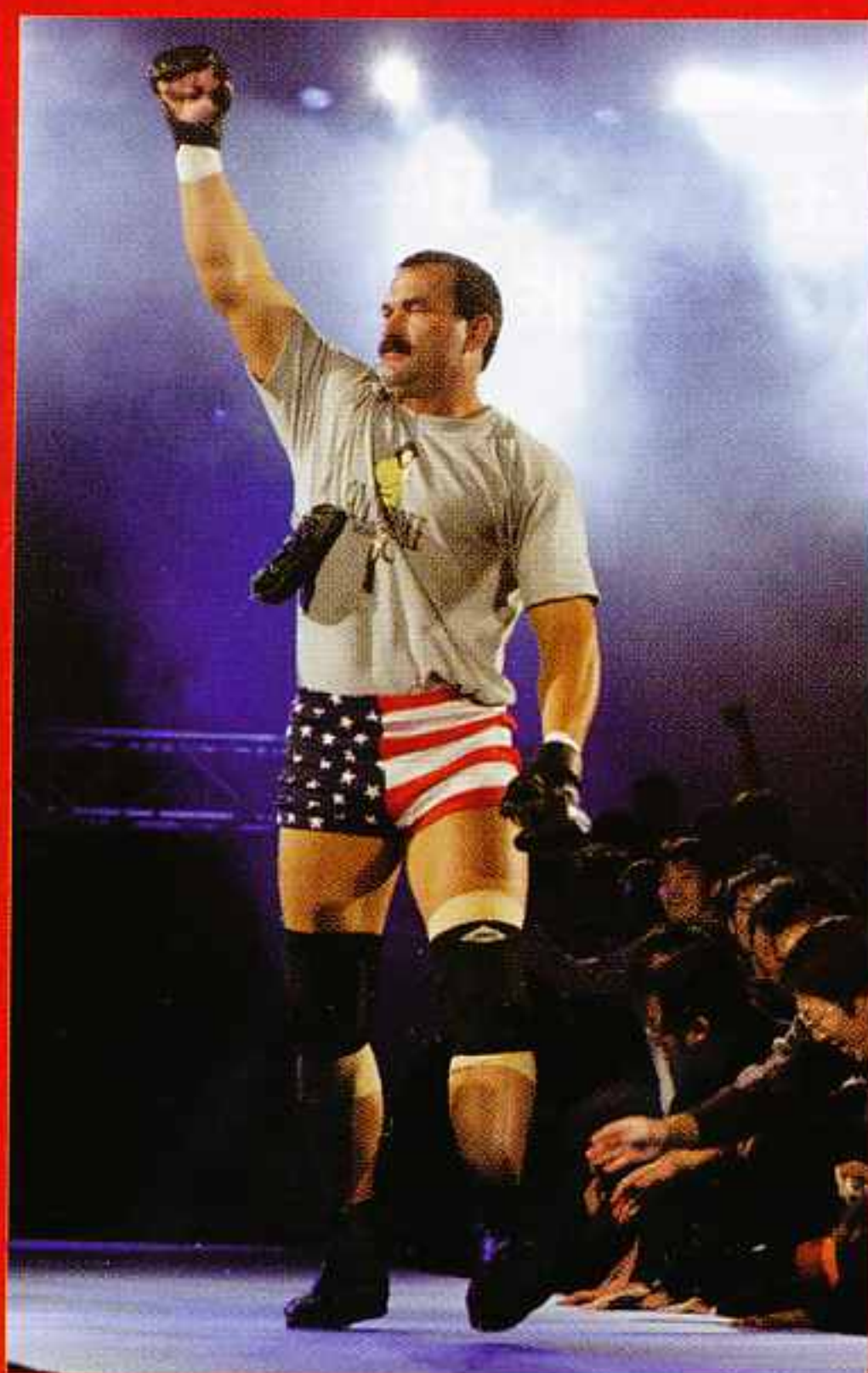
“ミスターX”大森隆男がOH砲に宣戦布告

後楽園大会に謎の白覆面が柔道衣に黒タイツ姿で参戦。自ら仮面を脱いだ、その正体は大森隆男!!　小川と大森の両者はリング外へ雪崩れ込み、場外乱闘へ。試合後は、互いにマイクで挑発三昧！　この続きは両国なのか!?

PRIDE男塾

塾長、男泣き！

ドン・フライ

全日本参戦、
WJとの関係、
大晦日決戦、
UFCへの再登場、そして
親友ホーク・ウォリアーを語る

聞き手／堀江ガンツ
構成＆通訳／黒田史夫
試合写真／平工幸雄
designed by matsu（Two three）

ホークは凄くいいヤツで
いい友達でいいレスラーだった。
俺はホークの分まで闘っていくよ

『PRIDE男塾』塾長、全日本プロレス登場！　UFCを皮切りに、新日本プロレス、『PRIDE』、WJプロレスなど、総合、プロレス問わず、マット界を自らの腕ひとつで渡り歩いてきた修羅場の渡世人の参戦は、まさに「王道」から脱却し、生まれ変わろうとする全日本の意気込みそのものだ。「尊敬するムトーさんとオールジャパンを大きくする」と宣言するフライに、10・26武道館大会の翌日、今後のプランを伺ってみた。

――アントニオ猪木さんの引退試合を努めたフライ選手が、全日本プロレスに上がるというのは、日本のファンにとってちょっとした驚きなんですけど、実際に上がってみた感想はいかがでしたか？

フライ　ベリー・エキサイティング。俺はイノキさんをリスペクトしているけど、ムトーさんのことも凄く尊敬しているんだ。個人的にもグッド・フレンドだしね。そのムトーさんから直接電話がかかってきて、「オールジャパンに出てくれないか？」と誘われたんだから、断る理由はないよ。ムトーさんから誘われたということに対しても光栄に思っているしね。

――川田選手と試合をしてみた感想はいかがでしたか？

フライ　ベリー・グッド。そして非常にタフな男だね。やる前は"三冠王"なんて、ずいぶん大袈裟な肩書きだと思ったが、実際に闘ってみてさすがだと思ったよ。

――昨日は後半、フライ選手が動けないシーンがあり、川田選手は「スタミナがないんじゃないか」と言っていましたが、試合の満足度はいかがですか？

フライ　ちょっと待ってくれ。後半動けなかったのには理由があるんだよ。2週間前に車の事故で頭と首をやっちまって、昨日の試合では開始3分くらいでカワダのキックを首に受けてダウンしてから、記憶がないんだ。本能だけでやってたんだから、満足に動けないのもしょうがねぇよな（笑）。

――じゃあ、あまり納得はいってないわけですか？

フライ　まったく満足してないね。アメリカに帰ってもっとトレーニングを積んで、再戦を要求したいね。俺は負けるのが大嫌いだからさ。

――じゃあ、今後も全日マットに継続参戦していく意思はあるんですね？

フライ　それを望むよ。親友のムトーさんと一緒にやっていくことは、光栄なことだから、これからもオールジャパンの役に立つよう頑張るよ。俺は忠誠心があるから裏切ったりしないし、よくガイジンで大きなこと言ってもダメなヤツもいるけど、俺は言ったことは必ず実行するからね。

――でも、WJプロレスはすぐに離れてしまったようですけど……（笑）。

フライ　WJとは仲違いしたわけじゃないよ。尊敬するマサ・サイトーに頼まれたら、またいつでも上がる準備はある。ただ、WJにはWJの都合があるようだし、しばらくはレギュラーとしてムトーさんと一緒にオールジャパンを大きくしていきたいと思っているよ。

――まぁ、WJはいま大変みたいですからね（笑）。フライ選手に聞くのもなんですが、WJは選手は揃っているのに、なぜプロレスも『X―1』というバーリ・トゥードも成功しないんでしょうか？

テリーとタッグを組んで引退と復帰を繰り返して稼いでやるよ（笑）

フライ　それは俺に聞かれてもよくわからないなぁ（苦笑）。まぁ、宣伝の問題もあるだろうし、『X―1』については資金と準備期間が少なすぎたことも原因だろう。新しいことを始めることはいつも難しいからね。WJにはダン・ボビッシュを始めとして、仲のいい友達も多いから、頑張ってほしいと思っているんだが……。

――いまはWJに限らず、全日本も含めた日本のプロレスビジネス全体が落ちてると言われてますが、そのことについてはどう思いますか？

フライ　それはしょうがないさ。レスリングのビジネスってやつは波があるもんなんだよ。いまは日本だけじゃなくて、アメリカもレスリング・ビジネスがダメな時期なんだ。そんな中でも、やっぱりムトーさんと協力して、なんとか新しいアイデアを出していってお客を入れたいよ。そのために昨日も試合後、ムトーさんと食事に行っていろいろ話をしたんだ。

――フライ選手には何かアイデアがあるんですか？

フライ　ああ、いろいろ考えているよ。そうだなぁ、まずは手始めにニュージャパンにはホーガンがいるから、俺がオールジャパンの代表として、「ヘイ、ハルク。俺とナンバーワンガイジンの座を賭けて闘おうぜ」って挑発してみるか（笑）。

――ドン・フライvsハルク・ホーガンですか（笑）。やっぱり、新日本のことは意識してるんですか？

フライ　もちろん意識しているよ。ニュージャパンには凄く世話になったけど、いまは一番のライバルだからね。あとは「俺とテリー・ファンクがタッグを組むプランはどうだ？」とか提案してみたよ。ハルク・ホーガンなんかより、テリー・ファンクの方がずっとエキサイティングな試合をするし、日本のファンもホーガンよりテリーの方が好きだろう。10年も日本を留守にしていたホーガンのことは忘れていても、テリーのことは決して忘れられないはずさ。

――フライはテリー・ファンクという選手にもともと興味はあったんですか？

フライ　興味あるもなにも、グッド・フレンドだよ。テリーはテキサスのアマリロに住んでいて、俺はテキサスのヒューストン。そしてお互いカウボーイレスラー同士でケンカと酒が大好きだから、そりゃあ気は合うよな（笑）。

――"荒くれカウボーイタッグ"なわけですね（笑）。武藤さんはそのプランについてなんと言ってました？

フライ　う～ん何とも言えない顔してたよ（笑）。まぁ、いろんなプランを試していったらいいんじゃないか。俺はムトーさんの会社を一緒に大きくしていくことについて凄く興味があるし、1年後にはニュージャパンを抜かすぐらいにしたいね。そのための協力は惜しまないよ。

――いまやライバル団体となった新日本プロレスは、バーリ・トゥードとプロレスを一緒の大会の中でやったりしていますけど、それについてどう思いますか？

フライ　俺は実際見てないからね。それについては何も言えないな。

――では、WJでも『X―1』という大会をやっていますけど、プロレスとバーリ・トゥードは、わけてやった方がいいと思い

ますか?

フライ　う〜ん、やっぱり別々にやった方がいいんじゃないか。ベースボールとサッカーぐらい違うんだからなぁ。俺だってオールジャパンでMMAをやるつもりはないし、『PRIDE』でプロレスをやるつもりもないからね。

——フライ選手は今後も全日本と『PRIDE』の両方に出て行くつもりなんですか?

フライ　ニューイヤーイブ（大晦日）のイベントで試合しないかというオファーは受けているよ。興味はあるけど、まだ相手は誰かわからないね。俺のアイデアとしては、やるならフジタ（藤田和之）とゼヒやってみたいね。

——なぜ藤田選手とやりたいんですか?

フライ　オールジャパンvsニュージャパンだよ（笑）。フジタとだったら真っ向からガンガンやり合えるし、最高のカードじゃないか?

——なるほど（笑）。やっぱりどんなカードが日本のファンに求められているか、常に考えているんですね。

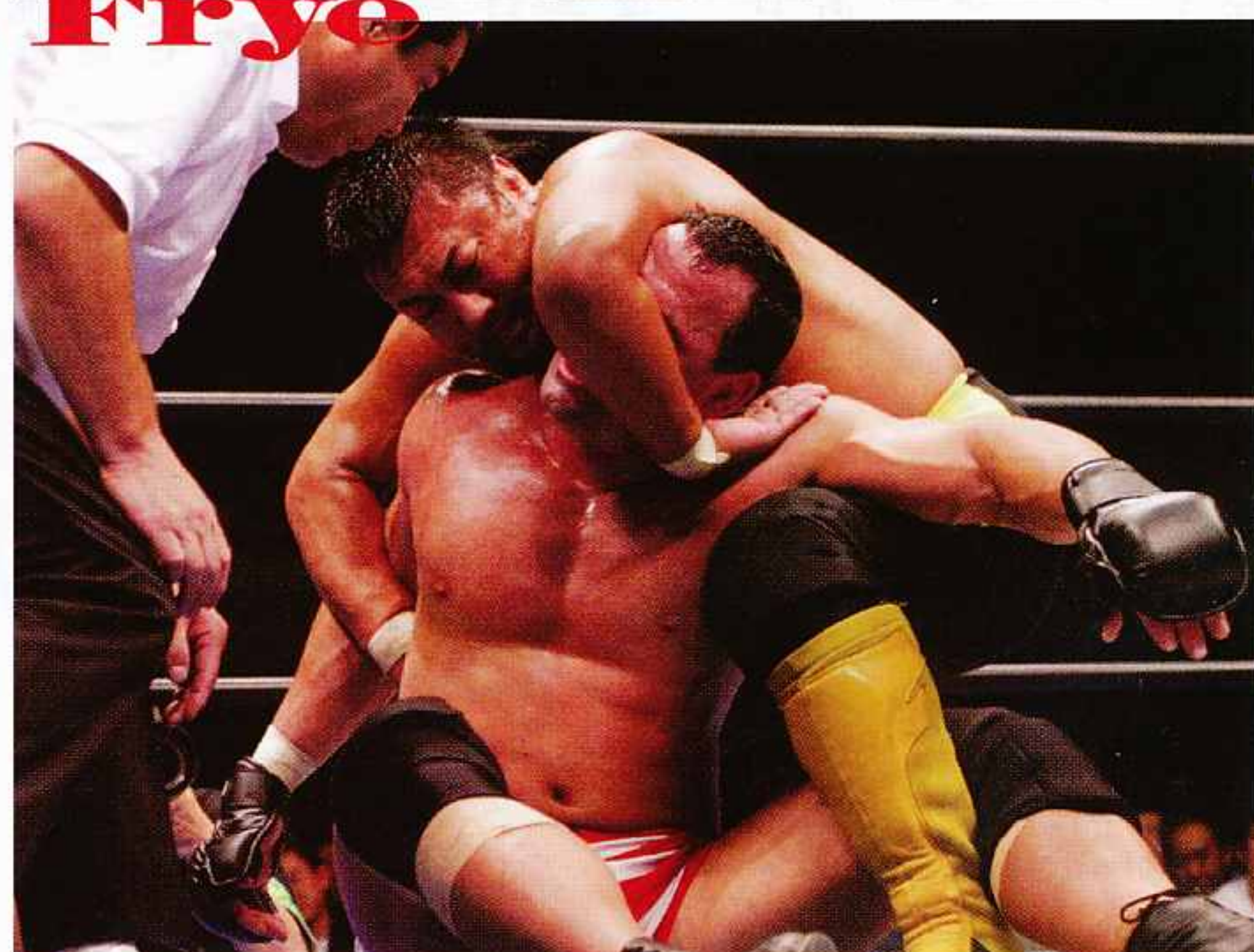
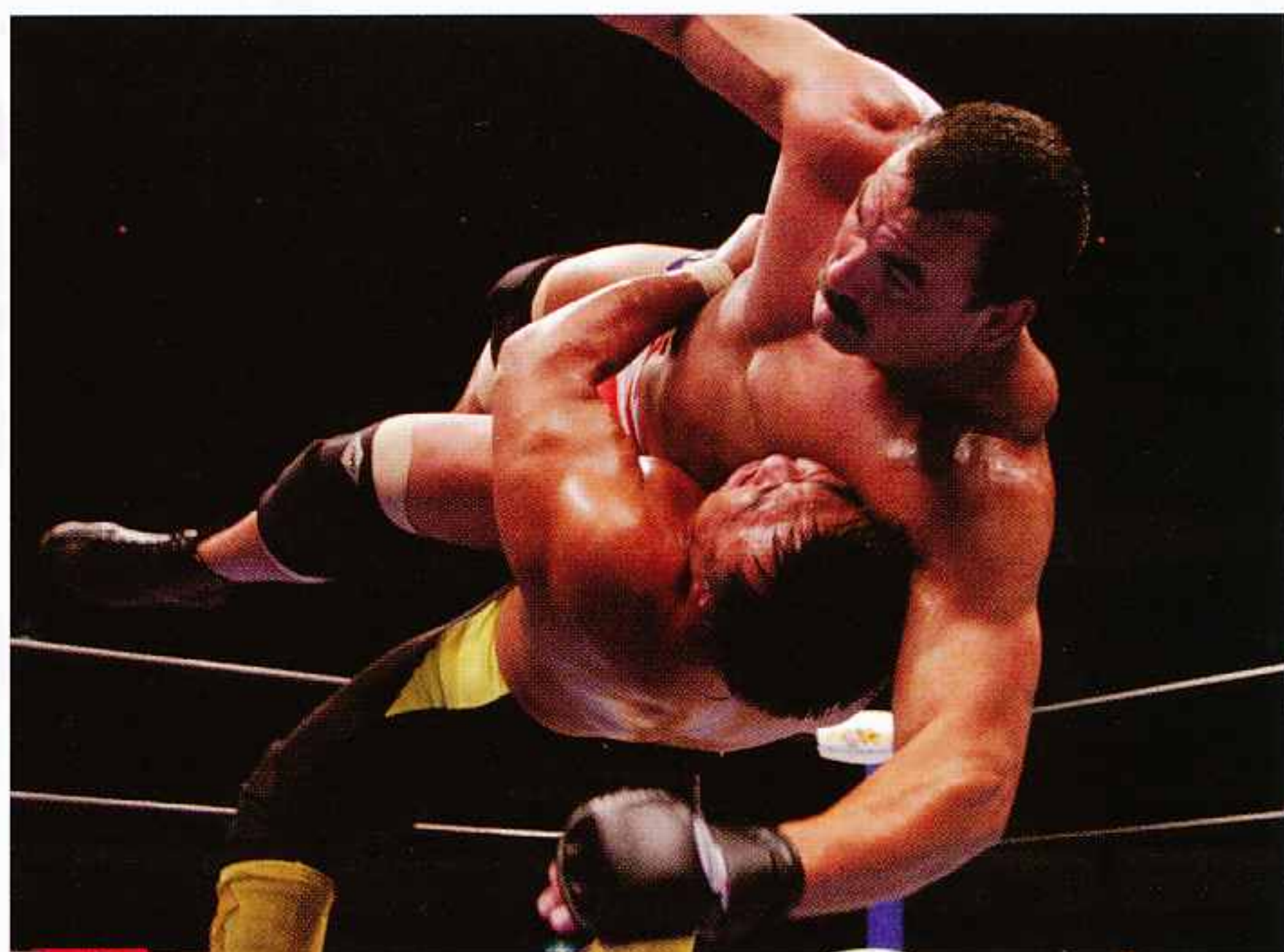
フライ　もちろんそうだよ。俺たちは趣味で闘ってるんじゃない。プロのファイターなんだ。プロのファイターなら、観客が望む闘いを見せるのが当たり前だよな。だから、これからもプロレスでもMMAでもファンが望む闘いをやっていきたいよ。

——去年ぐらいは、バーリ・トゥードは卒業したいようなことを言ってましたが、いまはそういった気持ちはありませんか?

フライ　そんなこと言ったっけか?（笑）。

——覚えてませんか（笑）。

フライ　たまに辞めたくなるし、たまにやりたくなるし、おそらく聞くたびに違うことを言うんじゃねぇか。ワハハハハハ!

Don Frye

10・26日本武道館■史上初のグローブ着用、顔面パンチアリの三冠戦となった川田vsドン・フライの一戦だったが、川田は「三冠戦だから」と拒否。おかげで序盤はフライのパンチに苦しむこととなる。しかし、川田は得意のジャンピング・ハイキックで逆転。モロに頭を蹴られたフライは一発で記憶が飛び、以後ふらふらに。終盤、立ち上がれなくなったフライに川田はストレッチ・プラムを仕掛け、レフェリーストップ。

——ちなみに、いまはやりたい気持ちはありますか?

フライ　いまは頭が痛いからよくわからねぇな（笑）。ま、アメリカに帰ってからゆっくり考えるよ。

——フライ選手って、アメリカではプロレスやりませんよね?

フライ　そうだな。日本で試合するのが好きだし、アメリカに帰ったらかわいい2人の娘がいるから、父親業が忙しいんだよ（笑）。いま2歳と3歳でかわいい盛りだから、アメリカにいるときはずっと一緒にいるんだ。これが娘の写真だよ（と、バッグから写真を取り出す）。

——うわ〜、メチャクチャかわいいですね! じゃあ子供のためにも稼がないといけませんね（笑）。

フライ　そう。だから、『PRIDE』では毎回、引退試合と復帰戦を繰り返して稼ごうと思ってるんだ（笑）。

——じゃあ、テリー・ファンクといいコンビになりそうですね（笑）。

フライ　ガハハハ! これから20年ぐらい俺とテリーで引退ツアーとカムバックツアーを繰り返してぇな（笑）。テリーだったら、それぐらいやりかねないだろう（笑）。

——来年『PRIDE』はUFCと対抗戦をやっていくらしいんですけど、『PRIDE』のドン・フライがUFCに逆上陸というのも面白いと思うんですけど。

フライ　それはいいアイデアだと思うよ。『PRIDE』の代表としてUFCに行けと言われれば行く準備はあるし、俺も興味がある。実はUFCから11月21日に10周

年記念大会『UFC45』に招待されているんだよ。

――あ、そうなんですか。やっぱりフライ選手にとっても、UFCというのは思い入れがありますか？

フライ　俺をスターにしてくれたリングでもあるから、思い入れは人一倍あるよ。UFCは俺をリスペクトしてくれるしね。

――UFCでやるなら、誰とやればいいとかそういったアイデアはありますか？

フライ　そうだなぁ、キモなんかいいんじゃないか？

――キモですか!?　それはなぜ？

フライ　俺と同じ時代にUFCで活躍した同士だし、いまだにオクタゴンに上がり続けているいいファイターだからね。少なくともボブ・サップよりいいファイターだろう。ワハハハハハ！

――サップよりはいいファイターですか（笑）。K―1ラスベガスのキモvsサップはご覧になりましたか？

フライ　ああ、見たよ。ベリー・シェイディ（ニヤリ）。

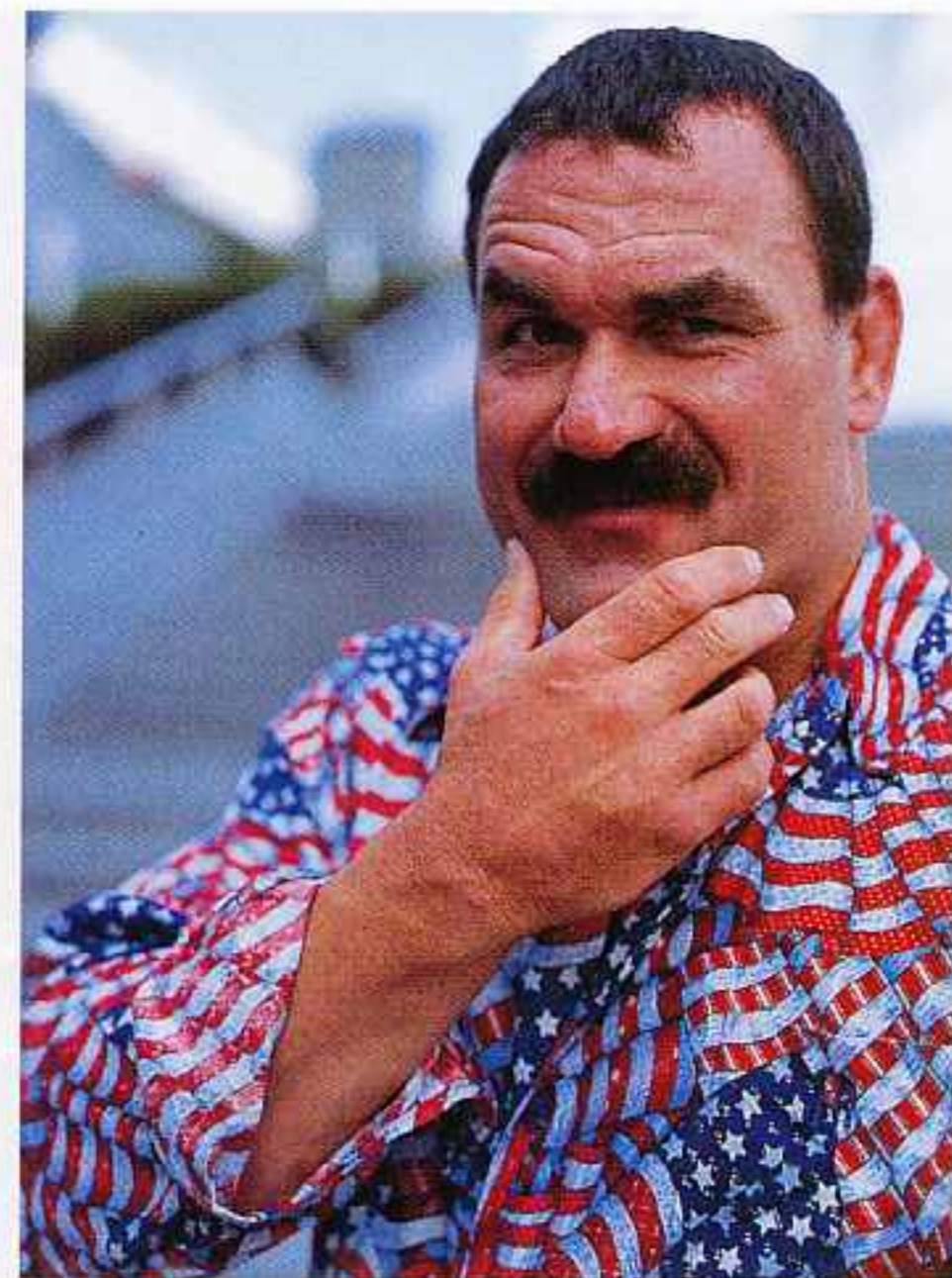
――シェイディ？

フライ　いかがわしくて、うさんくさくて、表に出せない試合ってことだよ（笑）。

――そんなに胡散臭かったですか（笑）。

フライ　だってありえないだろう？　キモがノックアウトしそうになったら、テレビの角に表示されてた時計が突然消えて、まだ残り20秒ぐらいあったのに突然ゴングが鳴るんだからな（笑）。しかも、その後のインターバルもドクターチェックを理由にやたら長く取ってる。あれがボブを休ませる以外に何の理由があるんだい？（笑）。

――まぁ、あの試合はツッコミどころ満載ですからね（笑）。フライ選手とボブ・サップがやるのも面白いんじゃないですか？

“大晦日のイベント”からオファーを受けている。やるならフジタと全日本vs新日本をやりたいね

Don Frye■1965年11月23日、フロリダ州出身。UFCを2度制し、新日本ではアントン総帥の引退試合の相手になぜか大抜擢うけ、『PRIDE』でも高山戦で歴史に残る激闘を展開してしまう男の中の男。

フライ　そりゃあ、いつでもOKだよ。ボブとだったらMMAでもK―1でも、プロレスでもいい。ただ、試合中にルール変更だけは勘弁してもらいたいな。ワハハハハ！

――他にやりたい相手はいますか？

フライ　う～ん、やるなら俺と闘う意味のあるファイターと闘いたいんだよ。そう考えるとUFCではキモぐらいしか思い浮かばないなぁ。とにかくアメリカだけでなく、日本のファンも楽しめる試合をやりたいよ。

――あくまでファンの希望が第一なわけですね。ところで、いまフライ選手が考えるヘビー級のトップファイターというのは誰になりますか？

フライ　やっぱり今なら、ミルコ・クロコップとヒョードルがダントツだろう。あの二人はとにかく凄いよ。

――とにかく、いまのミルコの勢いは凄いですけど、彼はどんな点が一番優れているんでしょう？

フライ　肉体が強くて動きが非常に速いというのはもちろんだけど、彼の強さの秘密は精神的にタフなことだよ。いつも落ち着いているし、まったくひるまない。精神的な強さはピカイチだね。

――やっぱり精神的な部分はファイターとして大事な部分ですか？

フライ　ああ、とても大事だね。ファイティングは90％がメンタルなんだ。どんなに練習で強くても、臆病者じゃ試合には勝てないからな。

――11・9の『PRIDE』では、流れてしまいましたが、ミルコとヒョードルがやったら、どちらが勝つと思いますか？

フライ　これこそ誰にもわからない凄い試合だよ。俺だって見てみたいさ（笑）。

――やっぱりその時はビール飲みながら観戦ですか？（笑）。

フライ　ハッハッハ、ビールがあれば最高だな（笑）。

――じゃあ、最後に来年のプランを教えて下さい。

フライ　オールジャパンに戻ってきて、ムトーさんのために仕事するよ。そして川田さんを倒す。昨日のお返しをしないとね（笑）。ただ、俺ばかり再戦を要求するんじゃなくて、逆にタカヤマさん（高山善廣）やケン（・シャムロック）のリマッチを受けてもいい。ファンが望むリマッチは実現すべきだと思うからね。

――わかりました。今日はありがとうございました！

フライ　ちょっと、最後に一言いいかな？

――はい。どうぞどうぞ。

フライ　日本のファンにひとつお願いしたい。先日、俺の親友であり、世界を代表するトップレスラー、ホーク・ウォリアーが亡くなってしまった。彼は日本のファンが好きだったし、いつもツアーを楽しみにしていた。だから、日本のファンもホークのことを忘れないでほしいんだ……。

――ホークが亡くなったのは、日本のファンもすごく悲しんでますよ。

フライ　彼は凄くいいヤツだったし、いい友達で、いい人間だった。いつもハードな試合をしていて、いいハートの持ち主だった。そして奥さんのことを愛していた。女の子が寄ってきても、「俺はワイフを裏切らない」と言って、断っていたからね。そんな男が家族を残して、こんなに早く逝っちまうなんてな……（涙）。俺はこれからも、ホークのぶんまで闘っていくよ。

【03年10月27日／都内・某ホテルにて収録】

2003世界最強タッグ決定リーグ戦

11月27日（木）18:30　京都・KBSホール
11月29日（土）18:00　岐阜・多治見美濃焼卸センター
11月30日（日）16:00　石川・石川県産業展示館
12月 1日（月）18:30　福島・福島市国体記念体育館
【優勝戦】
12月 2日（火）18:30　宮城・宮城県スポーツセンター
12月 3日（水）18:30　秋田・秋田市立体育館
【最終戦】
12月 5日（金）18:00　東京・日本武道館
【問い合わせ】
全日本プロレス　03-3403-7344

タイガー、憂国タッグ結成！ 12・5日本武道館主要カード

川田利明&ケンドー・カシンvs 橋本真也&坂田亘
ザ・マスク・オブ・タイガー&ミスター日本カミカゼvsパルカ・ゲレーラ&ラ・パルカ オリジナル

小島聡&鷲尾蘭子 結婚披露宴

11月9日　東京ドームホテル「天空」

おめでとう、コジ!!

11月9日、東京ドームが『PRIDE』で燃え上がっていた同時刻、隣の東京ドームホテルでは、小島聡と蘭子さんの結婚披露宴が盛大に行われていた。プロレス界を背負って立つコジの晴れの門出ということで、実に360人もの招待客が祝福に訪れた。その中には団体の垣根を超えたプロレス界の大物がズラリと顔を揃え、披露宴はあたかも“若頭”コジを中心としたマット界決起集会の様相(!?)。この祝いの席に『紙プロ』もご招待いただけたので、読者の皆さんにも、幸せムードのお裾分けいたします。コジよ、良き伴侶を得て、もっともっといっちゃえ、バカヤロー!!　末永くお幸せに!

プロレス誌で書き尽くされた表現ながら、文字通りの“金星”をゲットしたコジ。これからは、真のトップとしてプロレス界を引っ張っていってほしい。

晩酌人を努めたのは武藤夫妻。新郎以上に緊張していた(?)武藤は、汗だくになりながら、新郎新婦を紹介した。

11・9ドームのお隣にプロレスラー大集結!　“プロレス界を背負う男”の晴れの門出を祝福!!

大谷&高岩が、金本、中西らと談笑。いまの全日、新日、ZERO-ONEの中核をなす大半のレスラーは、元新日本の同世代なのだ。

コジとは切っても切れない関係の新IWGP王者・天山。「祝いの言葉を述べた後、西村に「性生活の秘訣」を聞かれ、「自分もうまくいってません!」となぜか断言!!

ごらんのように巨大な披露宴会場。ちなみに招待客の控え室まで通常の披露宴会場規模の豪華なもの。記者は最初、控え室を披露宴会場だと勘違いしてしまった!(実話)

小島の恩師であるアニマル浜口氏は「小島、蘭子さん。もっともっと燃えろ!　気合いだ——ッ!!」と絶叫。まさに熱いメッセージだった。

新日本のビッグ・サカCEOも挨拶に立ち「いま隣のドームでは『PRIDE』が6万人を集めております。プロレス界も一丸となって……」と、全日との共闘をアピール(?)。

乾杯の音頭を取ったのは、馬場元子・前全日本プロレス社長。「家庭は明るく楽しく、リングは激しく新しく」と、「馬場さんが残してくれた言葉」を贈った。

みちのくプロレス
NORTH EASTERN WRESTLING

11月2日 有明コロシアム
みちのくプロレス10周年記念大会最終章「メモリー」

サスケは何に負けたのか!?

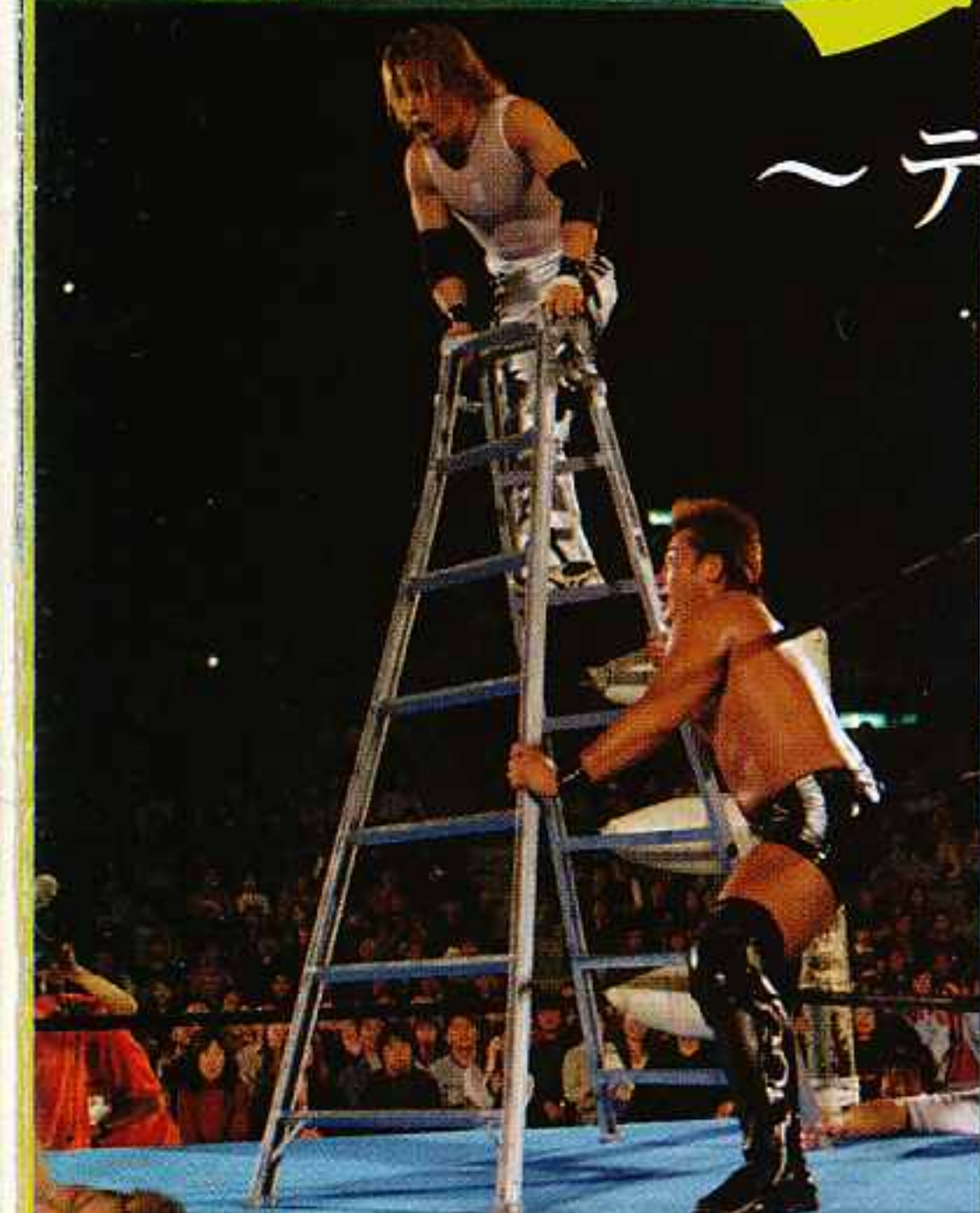
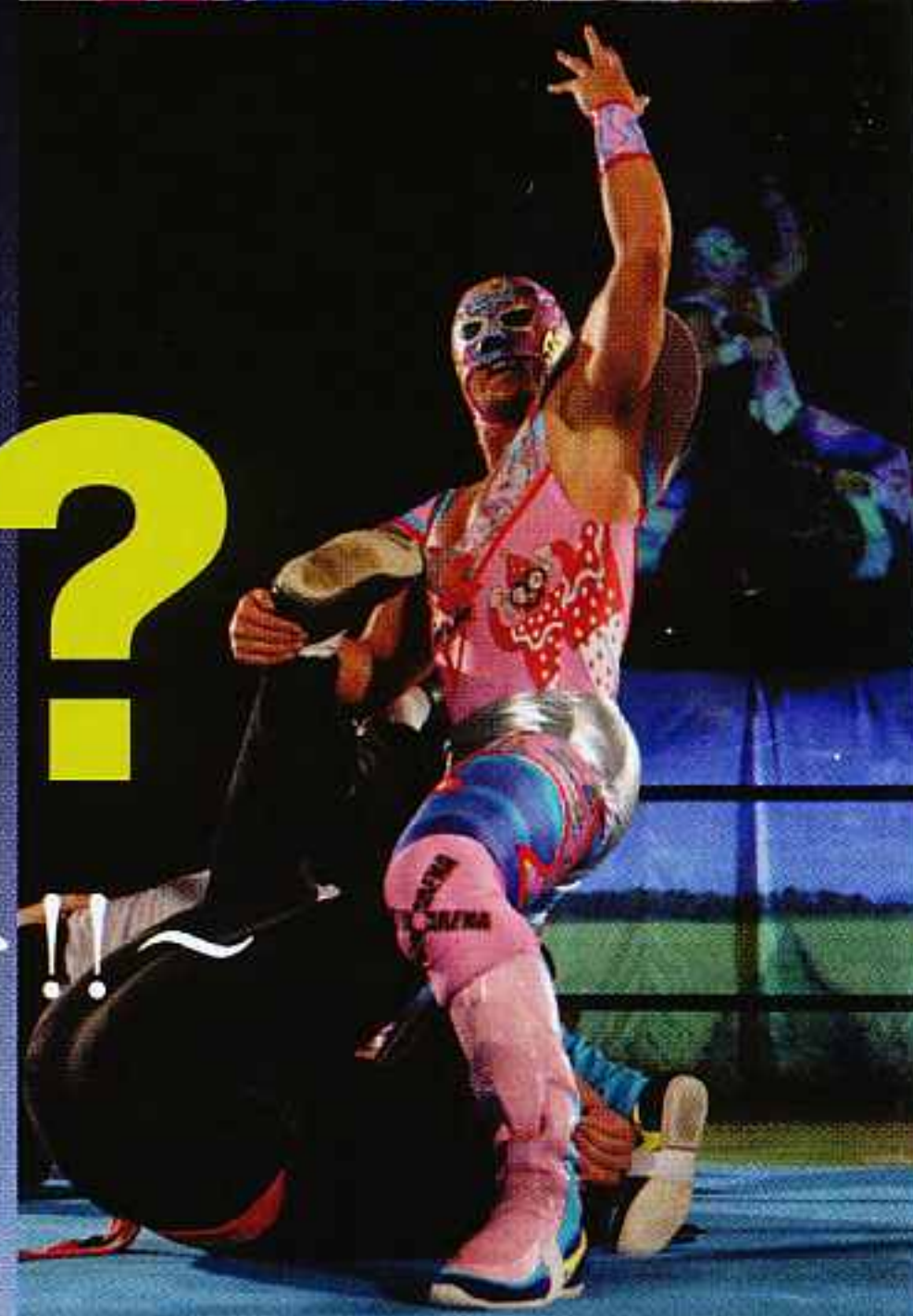
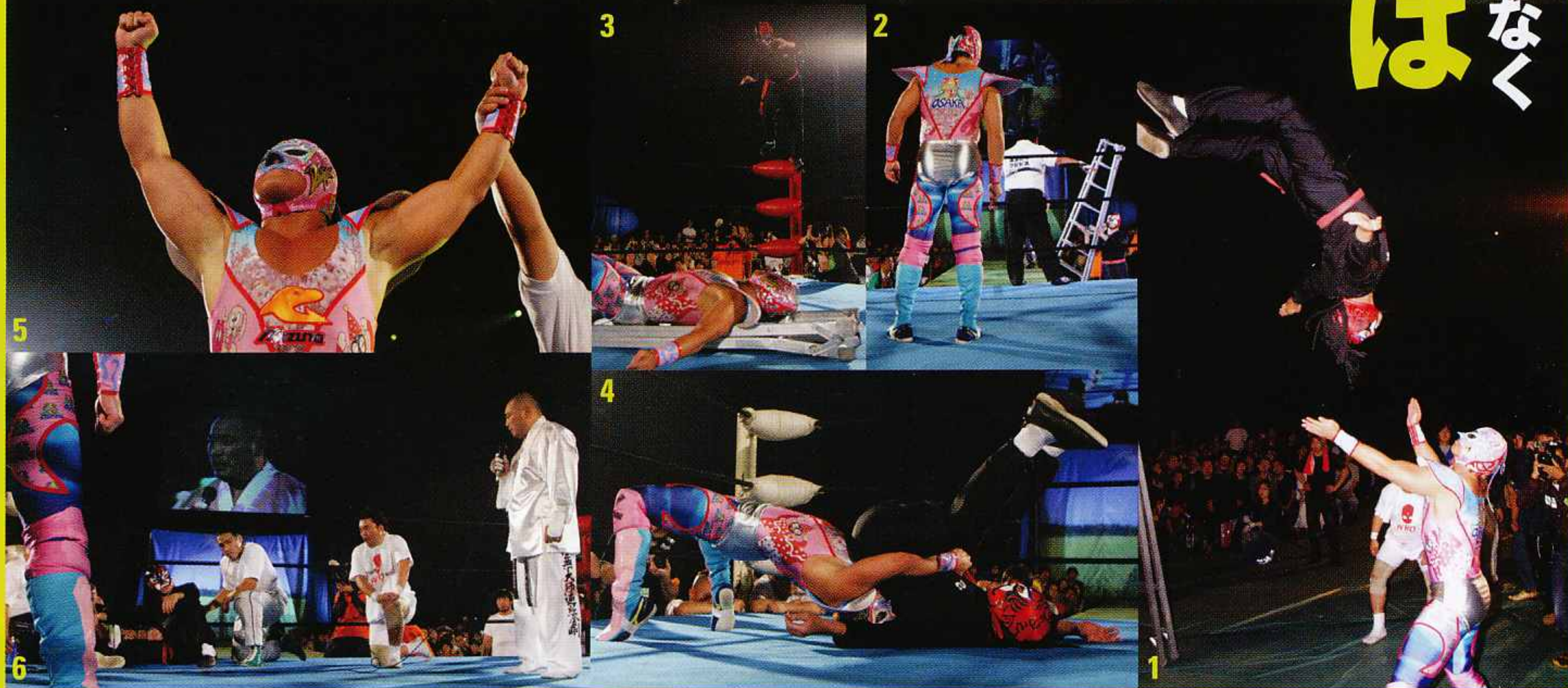
～デルフィン戦は赤と黒のエクスタシー!!～

みちプロ10周年記念大会として行われた有明コロシアム大会で、サスケは怨敵・デルフィンに敗れた。過去と未来が交錯する豪華な大会は“サスケらしさ”が発揮されないまま幕を閉じた。11年目以降の展開を示唆するかのような幕切れにショックを受けた人も少なくないだろう。すでに引退説はサスケ本人が否定しているが、「サスケ不在」という悪夢のシュミレーションを見ているようだった有明大会を本誌なりにレポートしてみたい。

構成／スモーノブ　撮影／平工幸雄　designed by matsu (Two Three)

サスケはサスケではなかった

デルフィンはデルフィン以上でも以下でもなく

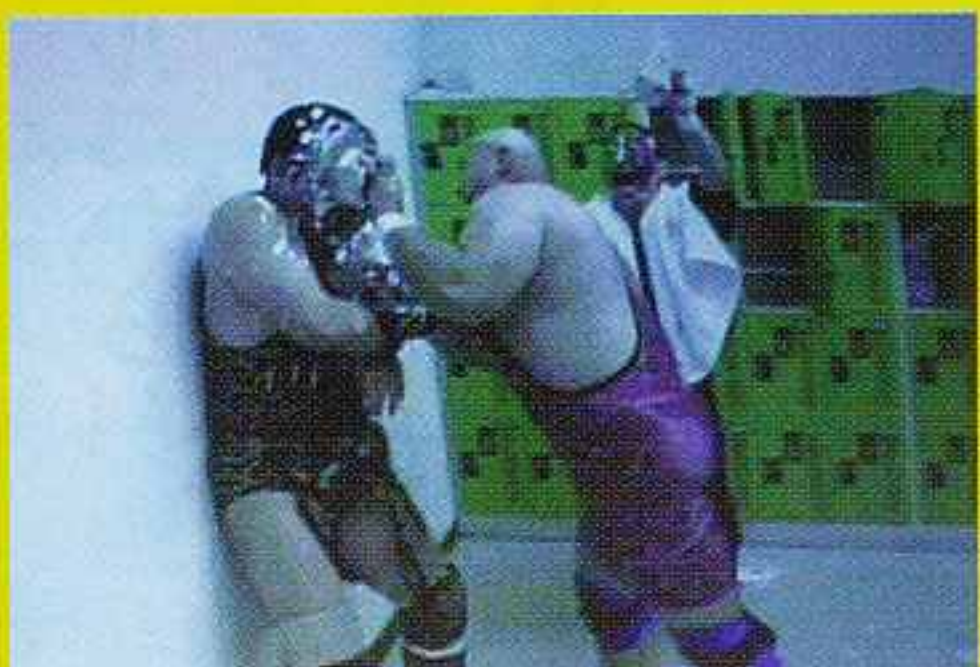
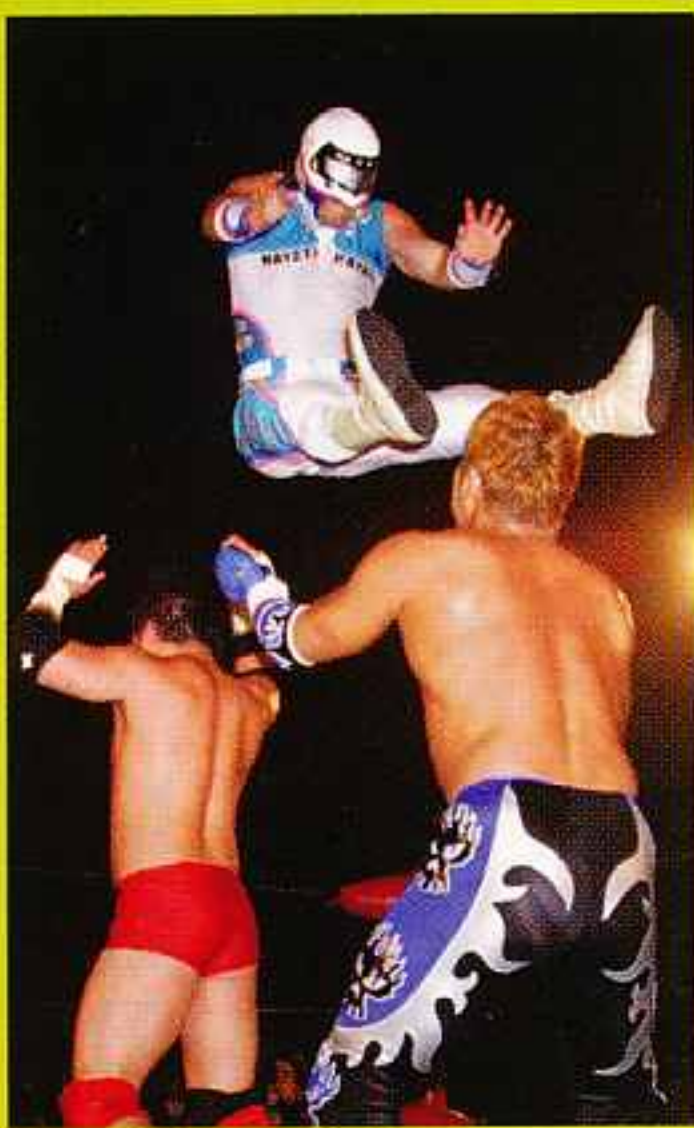
みちのくプロレス
NORTH EASTERN WRESTLING

（写真・上）サスケのマスクはご覧のように赤と黒だった。①相変わらず美しすぎるサスケのラ・ケブラーダ。大仁田との試合で負傷した背中の影響は微塵も感じさせない。②序盤のサスケはグラウンドで勝負。しかし、途中で花道を引き返してラダー持参で再登場。③ラダーにデルフィンを寝かせてセントーン・アトミコを狙うが自爆!! 負傷した背中に大ダメージ。④○スペル・デルフィン［20:51 デルフィン・スペシャル2号］ザ・グレート・サスケ●⑤みちのくのファンはデルフィンを温かく迎えた。⑥２人の試合を実現させた人生はマイクで感謝。デルフィンは控え室で「わだかまりは取れた」と発言している。だが、サスケだけは引退を示唆して、控え室へと消えた。

サスケとデルフィン、決して交わることがないと思われた両者の一騎打ちが11月2日のみちのくプロレス・有明コロシアム大会で実現した。

過去の因縁を思えば、両者の激突はドロドロの遺恨試合になると大半のファンが思っていたはずだ。事実、サスケは秒殺を予告しており、一部のファンはサスケの暴走に期待を寄せていた。

しかし、試合は意外にもヘッドロックで始まり、遺恨を感じさせたのはサスケがラダーを持ち出した時ぐらい（これも結局は自爆に終わる）。これを「夢の対決」と呼ぶならば、文字通り「夢だったんじゃないの?」と思うほどのあっけなさだった。「過去の遺恨を清算する」というテーマに対して、サスケはかろうじて怨念らしきものを表現しようとはしていたが、素のサスケが抱えている怨念の百分の一もリング上に投影させていなかったはず。

「新社長の新崎人生が土下座↓出場決意」という傲慢な流れで、遂にみちのく再登場を果たしたデルフィンに対して、サスケが怒りをあらわにするのは当たり前、というか筋が通っている。ところが、どう考えてもヒールであるべきデルフィンはデルフィン以上でも以下でもなく、みちのくというホームリングであるにも関らずサスケはどこかサスケらしくなかった。試合後のコメントやインタビューを読む限り、サスケは過去を水に流したわけでもな

活き活きサップ大爆発!!
野獣のベストバウト誕生

○はやて&池田誠志［13：23 連結式超特急ラナ］折原昌夫&マッチョ☆パンプ●
これからのみちのくを背負って立つ男たちによるタッグマッチ。はやては新幹線級のスピードを誇る高度な空中殺法で場内を大いに沸かせた。尚、こまちは車両故障により欠場。

△ヨネ原人withミスター・トヨタ［11：43 両者リングアウト］ビーフ・ウェリントン△
みちのくの名勝負数え唄が帰ってきた！　久々に登場したヨネ原人（髪型は気仙沼二郎）が広い有明コロシアムで暴れまくり、最後は女子便所で両者リングアウトのゴング。

○ディック東郷&MEN'Sテイオー&獅龍&TAKAみちのく&中島半蔵［17：29 体固め］新崎人生&はやて&湯浅和也&気仙沼二郎&北海珍念●
海援隊☆DXが帰ってきた！　二度と揃わないと思われた男たちが大暴れ！　彼らを輩出したみちのくは世界に通用する団体だ!!

△藤田ミノル［30：00時間切れ引き分け］日高郁人△
成長株の若手ヒール同士が互いに流血しながらラフ&テクニックで大暴れ。みちのくで意気投合して以来、その絆は別々の道を歩むいまでも続いている。

⑦つぼ原人とのタッグで次から次へと小ネタを繰り出したサップは、タモさんばりに拍手をビシッと仕切る。⑧入場時の表情からしてK-1や『PRIDE』参戦時とは比べ物にならない。⑨北海珍念にバーミヤン・スタンプ炸裂！⑩ミルコ・クロコップに殴られた7ヶ月前には、誰もサップがテッド・タナベにスリッパで殴られるとは想像しなかったはず。⑪リングサイドの女性客とともに人生の両足を引っ張って、コーナーポストで股間を痛めつける。この後、女性へ強引にキスするも「ギャー」と悲鳴をあげて拒否される。○新崎人生&北海珍念［17:36 片エビ固め］ボブ・サップ&つぼ原人● サップのベストバウト、誕生!

さそうだし、デルフィンは「来年2月に大阪プロレスが主催するJ—CUPには、みちのくの選手も出てほしい」とコメント。結局、この2人はどこまでもすれ違い続けるのだろう。

この日、サスケの〝素顔〟であるマスクは、赤と黒の真っ二つに割れていた。「赤と黒のエクスタシー」という、伝説の角川映画『天と地と』のキャッチコピーを連想させる。絵面的はキレイだが内容的にはイマイチという、まるでこの日のサスケvsデルフィンのような映画だったが、あのマスクは試合がこうなることを見越したサスケの〝予言〟だったのか？　映画マニアのサスケらしい謎かけだが、いかんせん弱火過ぎる。試合前になって報道陣を集めて「サップとやらせろ！」と言い出したことからも分かるように、サスケの心は明らかにデルフィン戦にはなかった。専門誌でのサスケ・インタビューを読むと「自分の中でなかったことになっている」らしいが、同じくなかったことになっているAV疑惑には感じられた〝サスケらしさ〟が、試合やマイクから感じられなかったのは寂しい限り。政治家・サスケは世のため人のために闘っているのだから、せめてプロレスラー・サスケには自分のために闘ってほしい。やりたくもないことを嫌々やる姿など見たくない。むしろ、誰も頼んでない余計なことを嬉々としてやるサスケが見たい！

ノゲイラは小池栄子ちゃんだけではなく、
『紙プロ』読者も忘れてなかった……。オブリガード、ノゲイラ!!

RADICAL PRESENT

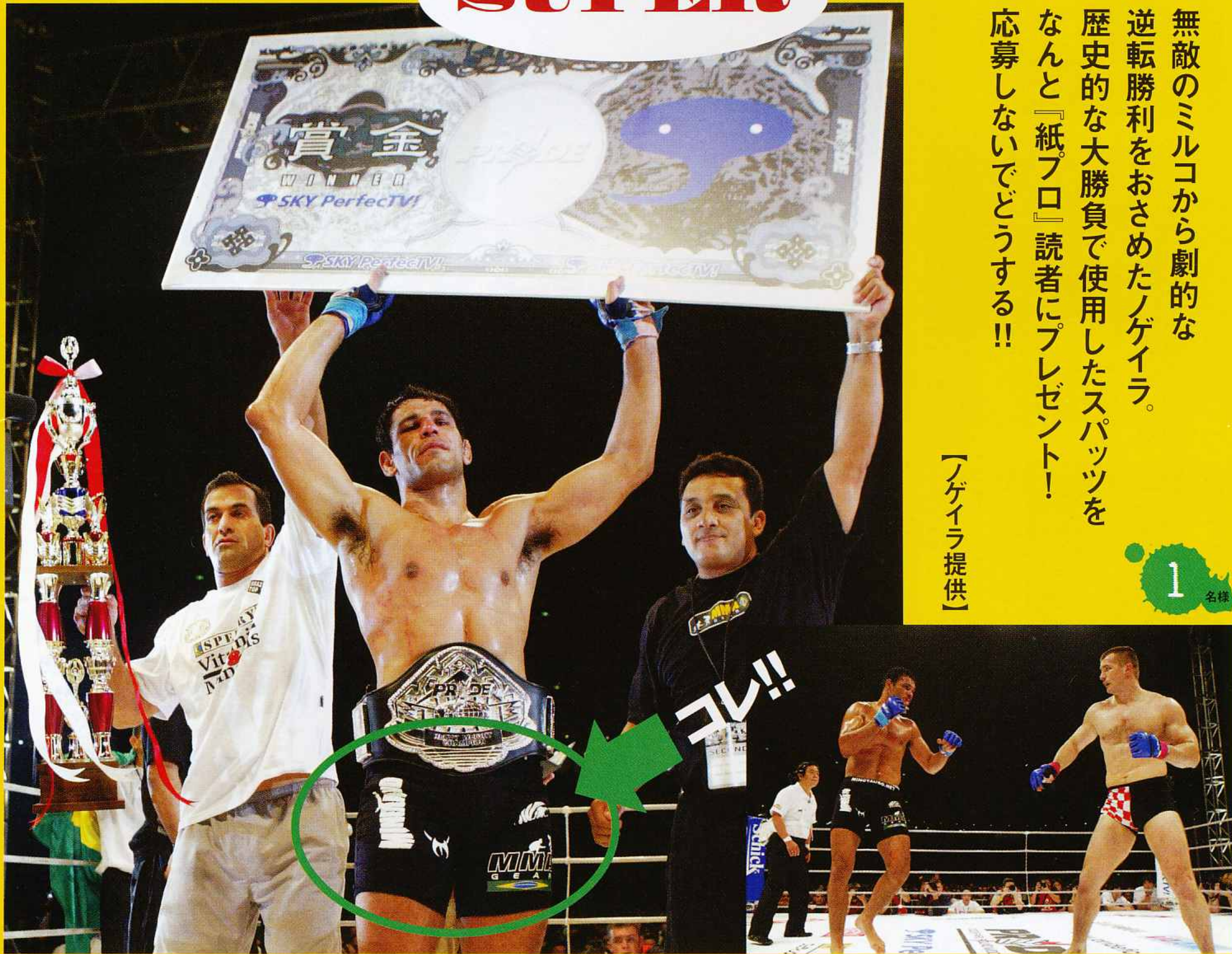
NOGUEIRA

SUPER

無敵のミルコから劇的な
逆転勝利をおさめたノゲイラ。
歴史的な大勝負で使用したスパッツを
なんと『紙プロ』読者にプレゼント!
応募しないでどうする!!

【ノゲイラ提供】

1名様

コレ!!

DVD

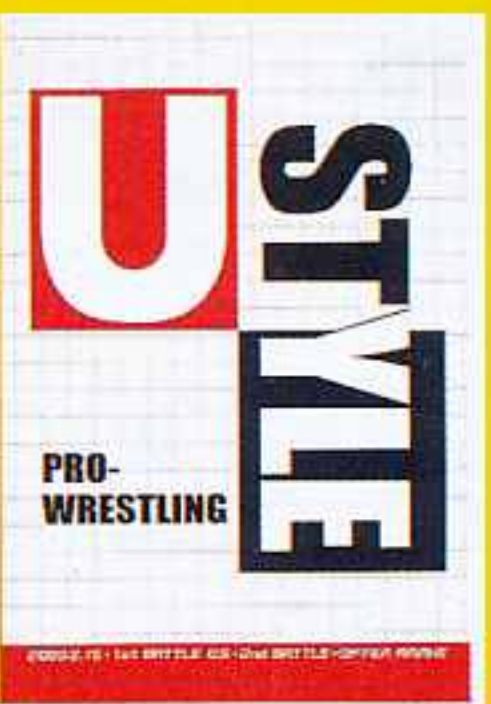
太っ腹なクエストが『紙プロ』読者のためだけに大盤振る舞い!!【クエスト提供】
［TEL］03-3360-3810 ［URL］www.queststation.com

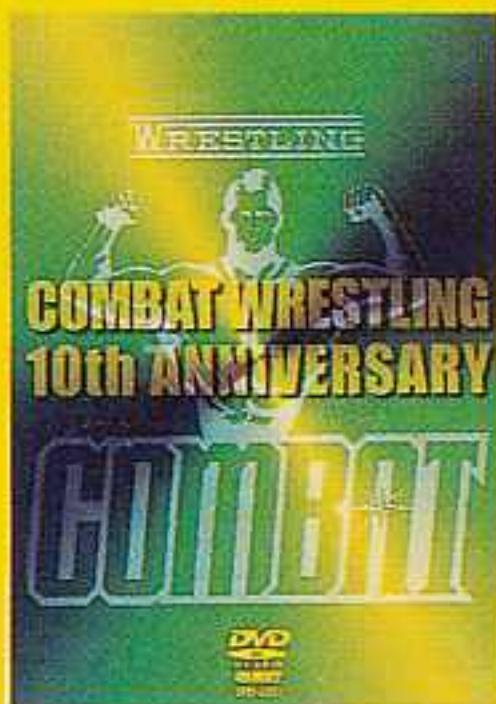
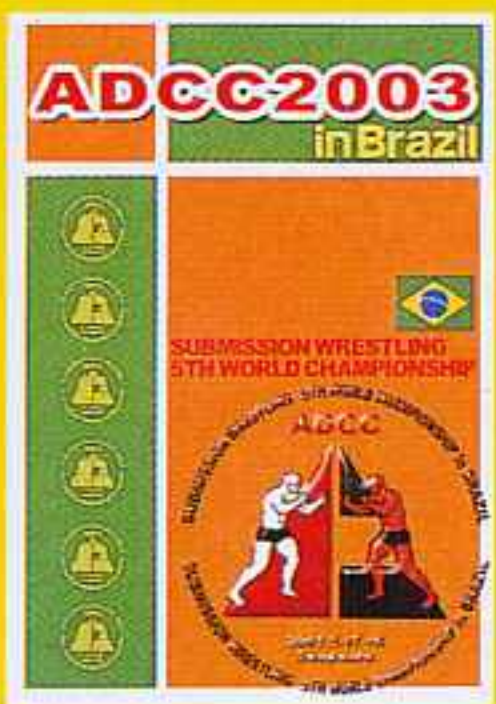
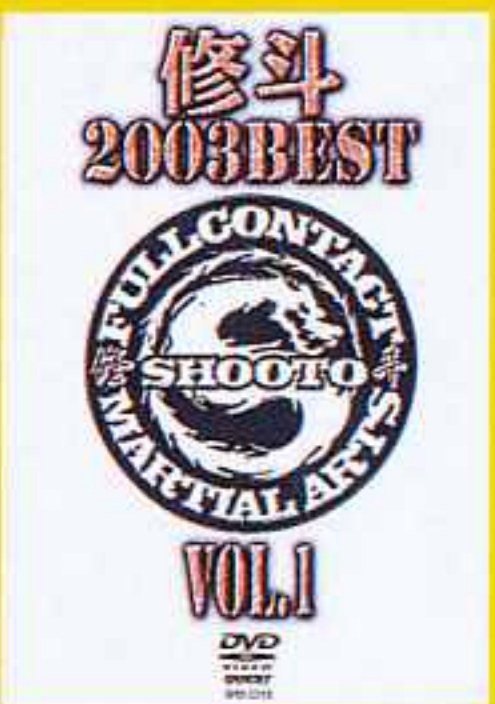
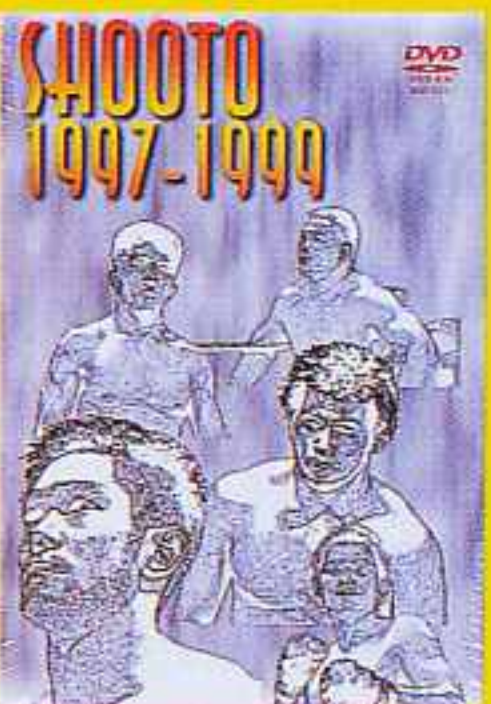
各1名様

★SMACK GIRL 2003 VOL.1
3年目を迎えたスマックガール。2003年上半期4大会の全試合を収録したお得な一本。辻ちゃんvsWINDY智美の頂上対決ももちろん収録!

★SMACK GIRL JAPAN CUP 2002
日本人最強の女はスマックが決める! ライト級、ミドル級共に3ヶ月に渡って争われた女子総合格闘技日本一決定戦!! スマック初代トーナメント王者は誰の手に!?

★SMACK GIRL BEST BOUTS 2002
スマックガール篠泰樹社長が自ら厳選した名勝負10試合を収録。スマックを代表する選手7名のインタビューが付いたスマックファン待望のDVDだ!

★THE LEGEND OF KINGDOM
現在のマット界を席巻するプロレスラーたちが、雌伏の時代を過ごした伝説の団体キングダム。サクvs金原、安生vsパトスミなど、名勝負を多数収録!

★U-STYLE
新世紀の"U"誕生! 2003・2・15旗揚げ戦と4・6第二戦を完全ノーカットで収録。さらに"Uの落とし子"田村潔司のロングインタビューなど特典満載!!

★地獄の風車 ラモン・デッカー
キックボクシング界史上最大のスター、"地獄の風車"ラモン・デッカー。日本、タイ、アメリカの強豪との12試合の他、幻の吉鷹弘との一戦も収録!

★COMBAT WRESTLING 10th ANNIVERSARY
レスリング、柔道、サンボ、修斗など様々な競技の選手達が組技日本一を争うコンバット・レスリング。その10年の歴史を凝縮した永久保存版!

★アブダビコンバット2003
ブラジルで開催された第5回アブダビコンバット。組技世界一を誇るブラジル勢と熾烈な予選を勝ち抜いた世界の強豪が究極の寝技を展開する!

★修斗 2003 BEST VOL.1
修斗の2003年上半期の名勝負を収録したベスト盤。世代交代が進み、トップ選手が他団体に出場する中、一人修斗で闘うルミナに注目だ!

★修斗 1997〜1999
3年間の名勝負を多数収録した決定盤! ルミナ、マッハ、朝日、エンセンの修斗四天王が大活躍! 総合格闘技の歴史は修斗抜きでは語れない!!

SHOJI

2名様

FRONT

★小路晃Tシャツ
11月27日、日本でもお馴染みのゴエスやブラガ、グスタボ・シムなどが出場するブラジルのVT大会に小路晃が出陣! 日本男児を見せつけろ!!
【小路晃提供】
[URL] http://www.akira-shoji.com/

HAOMING

★CMLLパーカー、スウェット
プロレス、格闘技、ルチャリブレをテーマにしたストリートブランド「ハオミン」から新作登場! 膝のマークがたまらない逸品だ!
【HAOMING提供】
[URL] http://www.haoming.jp

各2名様

ISHIKAWA

3名様

FRONT

★石川屋Tシャツ
「串焼き石川屋」Tシャツを、石川社長のデビュー11周年を記念して特別大放出! ナーシャ!
【石川屋提供】
[TEL] 048-967-0948

KOTETSU

BACK

2名様

★"鬼軍曹"山本小鉄Tシャツ(¥4500)
灰皿にも貯金箱にもなる便利なアルミ缶に入ってます。ちなみに小鉄さんが竹刀で突いているのはパワーの塊! そして背中には「もっと練習しなさい」とありがたい訓辞が!! 【スポーツ・アイ提供】
[URL] http://www.shop.sports-i.co.jp [TEL] 03-5474-7188

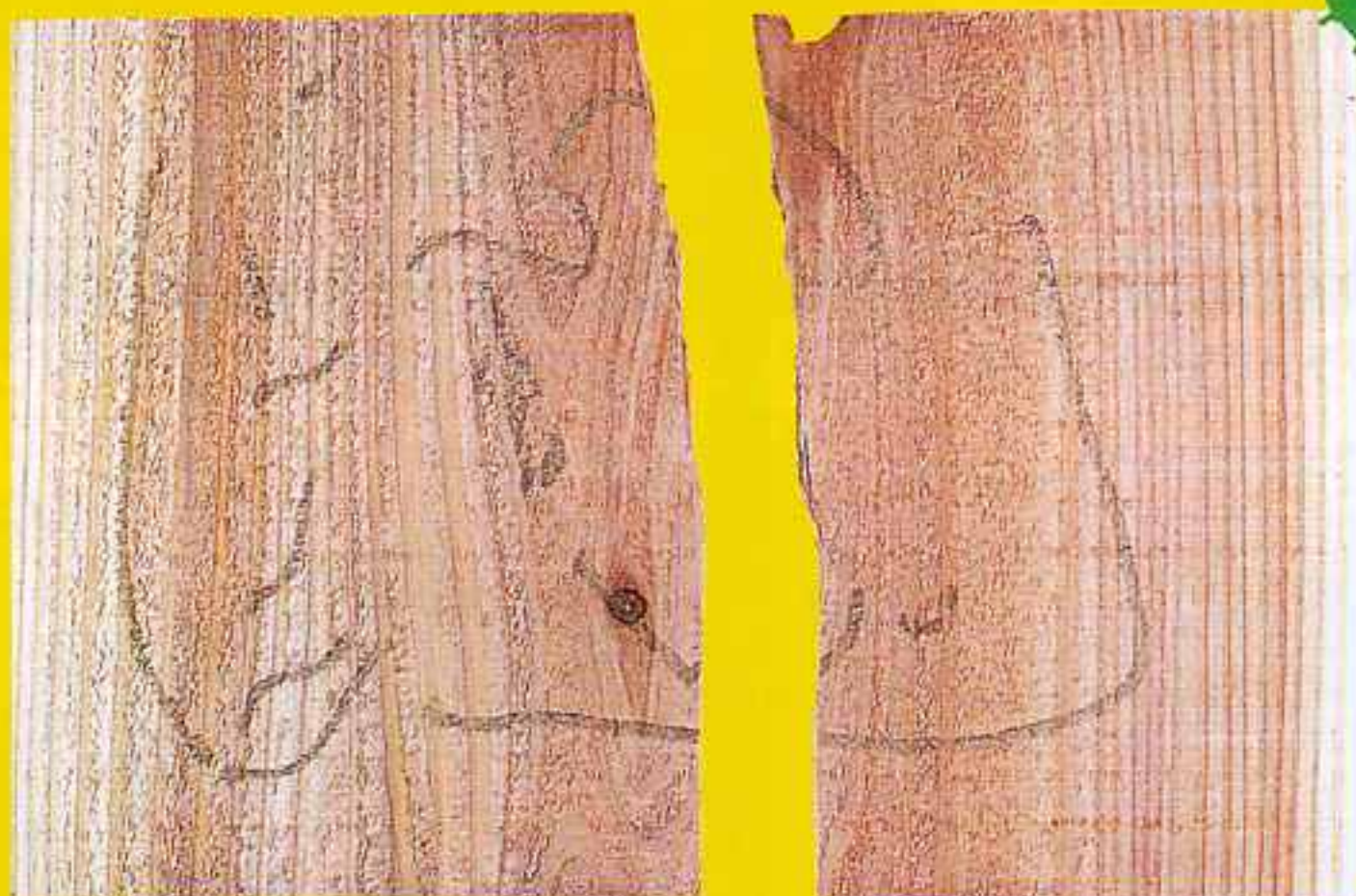
FUGO²YUMEJI

2名様

BACK

★富豪²Tシャツ
「夢をもって生きよう」Tシャツ。ごっつい富豪²がこんなに可愛くなりました。会場でこれを着て富豪2と一緒に踊り狂え! 【富豪²夢路提供】

OGASAWARA

1名様

★小笠原先生が割った板
11月7日の小林戦にに向けて行った公開練習で叩き割った板をゲット! 試合には負けてしまいましたが小林の似顔絵が入った板は真っぷたつ! チェストー!! 【小笠原先生提供】

PRIDE

2名様

BACK

★PRIDE GP Tシャツ
多分国内では入手困難なアイテムをダナ・ホワイトUFC社長が提供。PRIDEファンなら放っておけないレアグッズだ!
【ダナ・ホワイト提供】

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦今年のMVP&ワーストMVP
⑧年間最高試合&ワースト試合

応募券

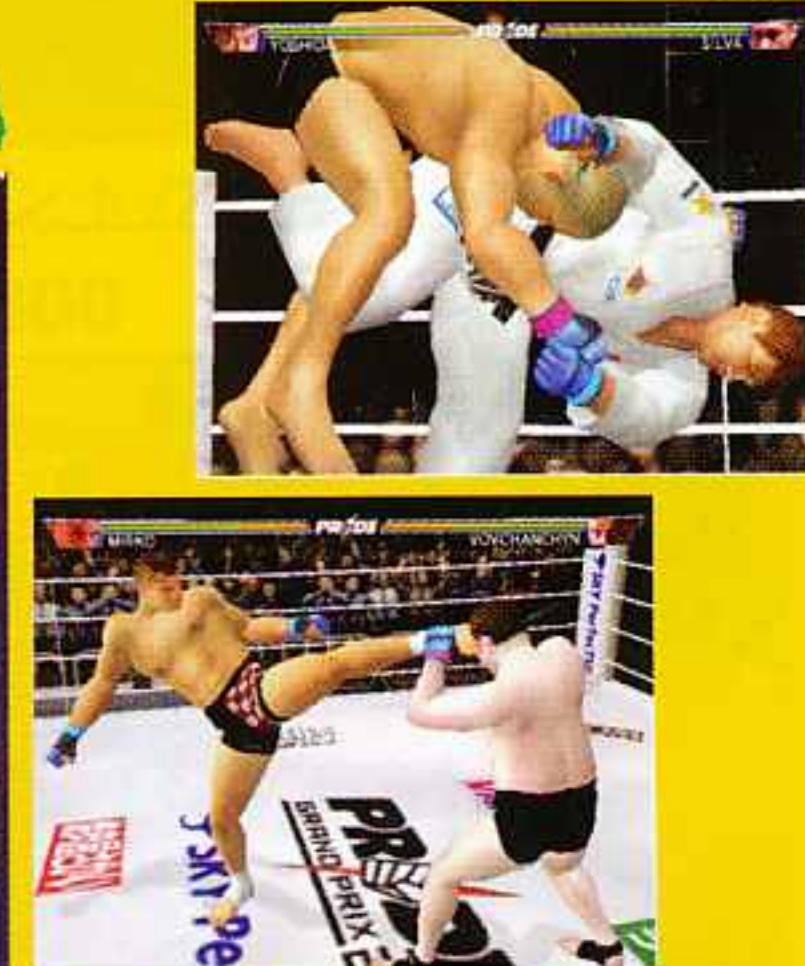
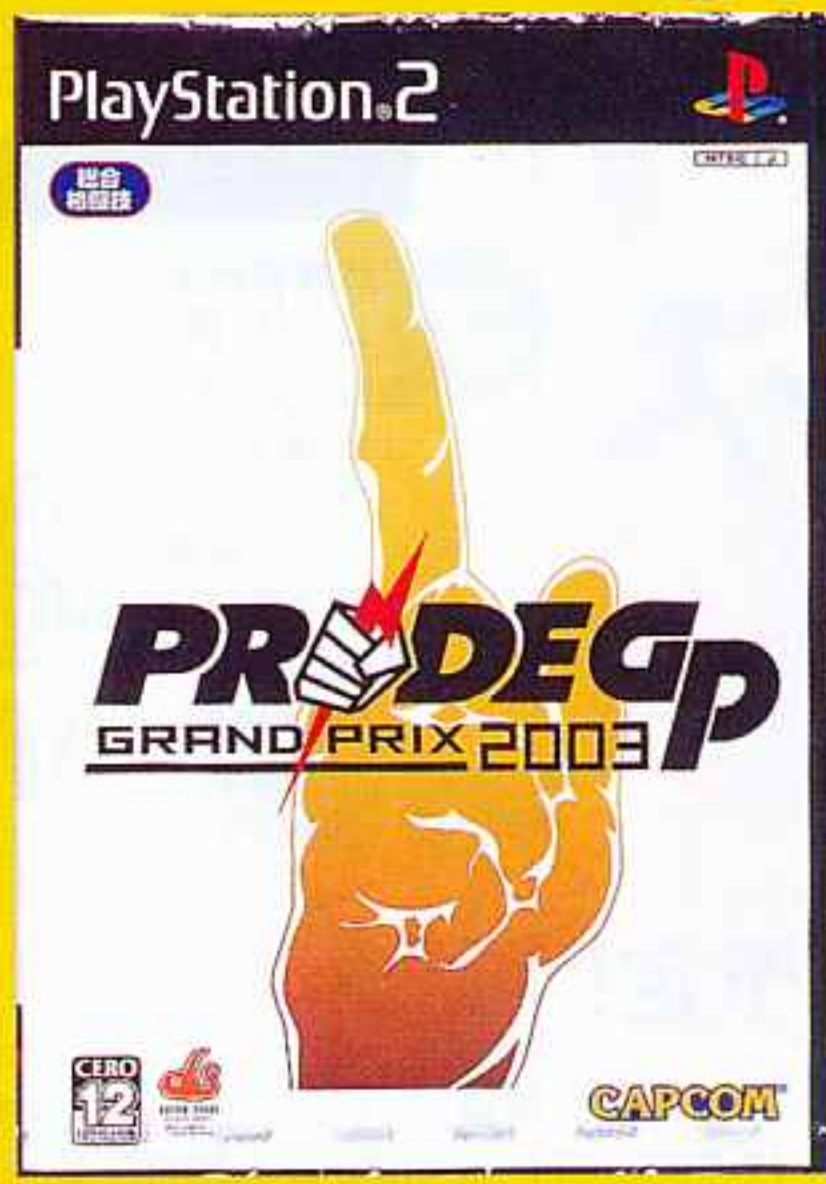
【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「去る者は追わず!!」係まで
※締切は2003年12月22日(月)当日消印有効

BOX?

1名様

★紅白まんじゅうが入っていた箱
11月11日、我らがアントンが打倒紅白を目指し食べた紅白まんじゅうの箱を入手(本物)! 中身のまんじゅうは今回から読プレ担当になりました斎野が美味しく戴きました。 【猪木祭り実行委員会提供】

GAME

3名様

★プレイステーション2
『PRIDE GP 2003』(¥6800・税別)
前作を大幅に上回る29名以上の選手が参戦! 入場シーンも完全再現し、解説はもちろん髙田統括本部長! 男の中の男、決めようや!! 【カプコン提供】
[TEL] 06-6946-3099
(9:00〜12:00/13:00〜17:30 土・日・祝日は除く)

『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★通販は『紙プロHand』でも可能です。

代引 郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを

kapra@kamipro.com

まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）。代引手数料約¥315がかかります（代引金額によって異なります）。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留 希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を現金書留で

〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス

まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替 希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。

郵便振替の宛先は
00130-3-769154
（株）ダブルクロス

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

電話注文もできます!!
平日15:00〜22:00
（株）ダブルクロス 03-3403-5142

厳しい冬はもう目の前!
Kapraパーカーでみんな暖まれ!!

※Kapraとは『紙のプロレス』RADICALの略です

Kapraパーカー〈カーキ〉
¥6,000 M or L

Kapraパーカー〈ネイビー〉
¥6,000 M or L

紙プロネックピース
¥~~1,200~~ ➡ 大特価 ¥600

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL
残りわずか!

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L

赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL

トートバック〈ブラックor ネイビー〉
¥1,500

ニット帽〈ブラックor ネイビー〉
¥1,500

リング・アフロラグラン半袖Tシャツ〈黒×グレー〉
¥~~3,800~~ ➡ ¥1,800 S or (SOLD OUT) or (SOLD OUT)
残りわずか!

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥4,500 S or M or L Lサイズ残りわずか!

紙のプロレス RADICAL
No.68
2003年12月25日発行

No.69は 12月24日（水）発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（「PRODE GP」で感動しすぎたため非番）

見習い
斉野政智

スーパーバイザー
吉田豪

助っ人
片山ボン
ジャイ子

電気部
ささきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん
ブンちゃん（以上TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀

試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝

出前
出前持ち入江（TwoThree）

フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

“皇弟”もやっぱり赤が好き♥

エメリヤーエンコ・アレキサンダー

ロシア『RTT』Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL

ロシア『RTT』Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL

ロシア『RTT』Tシャツ〈グレー〉
¥3,800 S or M or L or XL

ロシアン・トップチームグッズは電話注文できます!!
TEL.03-3403-5142
【平日15:00〜22:00】

ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL

ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,800 S or M or L or XL

エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL

エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL

『ヒョードル』キーホルダー
¥1,200

『ロシアン・トップチーム』キーホルダー
¥1,200

ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL
残りわずか!

ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL
残りわずか!

通販完売商品は直販店にある!?

【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン（TEL.03-3221-6237） ★東京イサミ（TEL.03-3352-4083） ★リングソウルZ神戸（TEL.078-393-3514） ★宮城・スクワット（TEL.022-264-8160） ★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551） ★福岡天神ビブレGROUND COBRA（TEL.092-711-1021） ★三恵格闘技SHOP長崎（TEL.095-824-8658） ★三恵格闘技SHOP諫早（TEL.0957-22-4646） ★浜松市・Buddy（TEL.053-450-7888）

『PRIDE』会場でも大人気!!ヒョードルパーカーあります。

ロシアン・トップチームオフィシャルパーカー

BACK

RUSSIAN TOP TEAM

『RTT』パーカー
Charcoal Gray / ¥6,000 M or L or XL

BACK

ヒョードルパーカー
Navy / ¥6,000 M or L or XL

『PRIDE』HPで絶賛販売中!!
http://www.so-net.ne.jp/pride/
『紙プロHand』でも購入可能!!

【通販方法】世界最強の男のTシャツはもちろん『紙プロ』通販でも買えますよ!!【電話注文もできます】(株)ダブルクロス　TEL.03-3403-5142（平日15:00〜22:00まで）

【代引き】郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールをkapra@kamipro.comまで送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。）御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

【現金書留】希望商品の代金+送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を現金書留で〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロスまで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を必ず表記してください。

【郵便振替】希望商品の代金+送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。郵便振替の宛先は00130-3-769154（株）ダブルクロス、郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を必ず表記してください。

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK239
2003 NO.68
4・6・8! まがいものはどれだ――!!
平成15年12月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税
9784898297193
ISBN4-89829-719-6
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌　69860—39

印刷：図書印刷株式会社